高茶屋大垣内遺跡

(第3・4次)発掘調査報告

津市城山一丁目所在

2000・3

三重県埋蔵文化財センター

序

三重県の中央、津市の南部に広がる高茶屋台地は、東に伊勢湾そして愛知県を望み、西は布引の山並みを望む眺望の良いところです。近畿地方と東海地方を結ぶ地点であることが、その立地からもうかがうことができます。眼下には、中世には日本三津と呼ばれ栄えた安濃津が広がっています。

高茶屋台地は戦前から開発が繰り返されたためか、祖先の残した遺跡などは数少ないところです。大正年間には区画整理が行われ、戦時中には海軍工廠や海軍共済病院が置かれました。海軍共済病院の跡地に県立病院として設置された高茶屋病院は、開院40数年の歴史ある病院です。しかし、建築後長期間が経ち、老朽化が著しくなったことなどから、全面的に建て替えることとなりました。そのため、今回の県立高茶屋病院の建て替えに伴う調査を実施したところ、弥生時代から室町時代に渡る遺跡が広い範囲で確認され、台地上での祖先の暮らしの様子がかなり明らかになりました。数多くの竪穴住居、大規模な掘立柱建物や土師器焼成坑、6世紀代と考えられる土馬、「美濃」刻印須恵器など、畿内と東海を結ぶ地域として高茶屋を考えた場合にも、その重要性を裏付けるような成果が得られたといえます。

今回の事業によって高茶屋大垣内遺跡の一部は消滅し、記録へと姿を変えて保存されました。今後この記録を活用し、未来に向かって役立てていくことが、現代に暮らす私たちに課せられた使命といえましょう。

最後になりましたが、調査にあたってご協力をいただいた津市教育委員会、県病院事業庁県立病院課、県立こころの医療センター、財団法人三重県農業開発公社に感謝を申し上げ、冒頭のご挨拶といたします。

平成１２年３月

三重県埋蔵文化財センター
所長　大　井　與　生

例　言

1　本書は、三重県津市城山１丁目に所在する高茶屋大垣内遺跡の第３・４次発掘調査報告書である。

2　本調査は、三重県教育委員会が三重県健康福祉部より委託を受けて、平成９・10年度に県立高茶屋病院整備事業に伴って実施したものである。

3　調査の体制は以下の通りである。

調査主体　　三重県教育委員会

調査担当　　三重県埋蔵文化財センター

（第３次調査）　主事　田中久生　　北条正則

技師　川畑由紀子　技術補助員　浜辺一機

（第４次調査）　技師　川畑由紀子　主事　城吉基

技術補助員　浜辺一機　豊田祥三　川崎志乃

研修員　松本功　松田久司　柴山圭子

4　当報告書の執筆は田中久生・川畑由紀子で、遺物写真撮影は野原宏司・川畑で行い、全体の編集を野原が行った。各分担については目次に示している。その他の作成業務は三重県埋蔵文化財センター調査第一課及び資料普及グループが行った。

5　挿図の方位は、全て国土座標第Ⅵ系による座標北で示している。なお、真北は座標北に対し西偏０°18′、磁北の方位は真北に対し西偏６°30′（国土地理院、平成２年度）である。

6　本書に記載した遺構・遺物の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帖』（1997年度版）に準拠している。

7　当報告書での用語は以下の通り統一した。

つき…「杯」「坏」があるが、「杯」を用いた。

わん…「碗」「椀」があるが、「椀」を用いた。

8　当報告書で用いた遺構番号は、通番となっている。

ただし、同時並行で数地区を調査していたため混乱を避ける意味で、第３次調査についてはＥ～Ｊ区は第２次調査Ａ～Ｄ区の続き（37番）から、Ｇ区は200番台から始めている。また、第４次調査においても同様の理由で、Ｇ区は300番台から、Ｋ区は500番台から始めている。当報告書においてもその番号を特に明記のない限り踏襲している。

また、番号の頭には、遺構の見た目の性格から以下の略記号を付けた。

ＳＨ：竪穴住居　ＳＢ：掘立柱建物　ＳＤ：溝　ＳＫ：土坑　ＳＦ：焼成土坑　ＳＡ：柵、塀

ＳＥ：井戸　pit：柱穴、小穴

9　挿図と写真図版の遺物番号は、実測図の番号と対応している。

10　当報告書で報告した記録及び出土遺物は、三重県埋蔵文化財センターに保管している。

11　発掘調査においては、津市在住の各位や津市教育委員会及び県立病院課、県立高茶屋病院等にご協力いただいた。また第４次調査においては、宮本長二郎氏（東京国立埋蔵文化財研究所、当時）に現地指導を仰いだ。その他、下記に示す諸氏からは、調査・報告書作成に当たって、様々なご教示・ご助言を頂いた。記して感謝いたします。（50音順、敬称略）

上村安生・榎村寛之（斎宮歴史博物館）、岡田精司（名古屋女子大学）、河端智（財団法人大阪府埋蔵文化財調査研究センター）、桑原尊器（静岡県菊川町教育委員会）、八賀晋（三重大学名誉教授）、広岡公夫（富山大学）、広瀬和雄（奈良女子大学）、村田匡（三雲町教育委員会）、山崎秀二（滋賀県守山市教育委員会）

12.　スキャニングによるデーター取り込みのため、若干のひずみが生じています。各図の縮尺率は、スケールバーを参照ください。

本　文　目　次

Ⅰ　前言……（田中・川畑）……1
Ⅱ　位置と環境……（川畑）……3
Ⅲ　E・H・I・J区の調査成果……（田中）……5
　1　はじめに……5
　2　基本層序……5
　3　遺構と遺物……5
　4　まとめ……22
Ⅳ　F区の調査成果……（田中）……23
　1　はじめに……23
　2　基本層序……23
　3　遺構と遺物……23
　4　まとめ……36
Ⅴ　I・K区の調査成果……（川畑）……81
　1　はじめに……81
　2　基本層序……81
　3　遺構……81
　4　出土遺物……89
　5　まとめ……89
Ⅵ　G区の調査成果……（川畑）……94
　1　はじめに……94
　2　基本層序……94
　3　遺構……94
　4　出土遺物……127
　5　まとめ……140

挿　図　目　次

第1図　遺跡位置図……4
第2図　調査区配置図……4
第3図　E区東半部北壁土層図……6
第4図　Ⅰb区西壁土層図……6
第5図　Ⅰb区南壁土層図……6
第6図　H区南壁土層図……6
第7図　F区西壁土層図……6
第8図　E区遺構平面図……7
第9図　H区遺構平面図……8
第10図　J区遺構平面図……8
第11図　Ⅰc区遺構平面図……9
第12図　Ⅰd区遺構平面図……9
第13図　Ⅰb区遺構平面図……10
第14図　SH1実測図……11
第15図　SH4実測図……12
第16図　SH8実測図……13
第17図　SH41実測図……14
第18図　SH49実測図……14
第19図　SH52実測図……15
第20図　SH53実測図……16
第21図　SH54実測図……17
第22図　SH58実測図……17
第23図　SH152実測図……18
第24図　SH161実測図……18
第25図　SH162・171実測図……19
第26図　SH164・170・SK167実測図……19
第27図　SH168実測図……19
第28図　SB46・131・153・154実測図……20
第29図　SK5実測図……20
第30図　SK141実測図……20
第31図　SD10・37・40・51実測図……21
第32図　SD165・SF166実測図……21
第33図　SD38・44・50実測図……21
第34図　SD48実測図……21
第35図　ガス管トレンチ実測図……23
第36図　下水管トレンチ実測図……23
第37図　SH63・SK70実測図……23
第38図　F区遺構平面図……24
第39図　SH65・127実測図……25
第40図　SH66・SK75・76・82・83実測図……26
第41図　SH90実測図……27
第42図　SH99実測図……28
第43図　SH91実測図……28
第44図　SH123・124実測図……28
第45図　SH103・107・SK88・89・105実測図……29
第46図　SH116実測図……30
第47図　SF92実測図……30
第48図　土師器焼成坑実測図……31
第49図　SB132・133・134・135実測図……33
第50図　SK81・93～98・110実測図……34
第51図　SH71・SK68・72・77・78・79・80・87・128・136実測図……35
第52図　出土遺物実測図E区(1)……37
第53図　出土遺物実測図E区(2)……38
第54図　出土遺物実測図E区(3)……39
第55図　出土遺物実測図E区(4)……40
第56図　出土遺物実測図E区(5)……41
第57図　出土遺物実測図E区(6)……42
第58図　出土遺物実測図E区(7)……43
第59図　出土遺物実測図E区(8)……44
第60図　出土遺物実測図E区(9)……45
第61図　出土遺物実測図E区(10)……46
第62図　出土遺物実測図E区(11)……47
第63図　出土遺物実測図E区(12)……48
第64図　出土遺物実測図E区(13)……49
第65図　出土遺物実測図E区(14)……50
第66図　出土遺物実測図E区(15)……51
第67図　出土遺物実測図E区(16)……52
第68図　出土遺物実測図E区(17)……53
第69図　出土遺物実測図E・F区(18)……54
第70図　出土遺物実測図F区(19)……55
第71図　出土遺物実測図F区(20)……56
第72図　出土遺物実測図F区(21)……57
第73図　出土遺物実測図F区(22)……58
第74図　出土遺物実測図F区(23)……59
第75図　出土遺物実測図F区(24)……60
第76図　出土遺物実測図F区(25)……61
第77図　出土遺物実測図F区(26)……62
第78図　出土遺物実測図F区(27)……63
第79図　出土遺物実測図F区(28)……64
第80図　出土遺物実測図F区(29)……65
第81図　出土遺物実測図F区(30)……66

第 82 図　出土遺物実測図F区(31) …… 67
第 83 図　SH502·503·504·512·SF509·520 実測図……81
第 84 図　SD147·501·SF520·SD149土層断面図…82
第 85 図　I·K区遺構平面図…… 83
第 86 図　出土遺物実測図Ⅰ・K区(1) ……84
第 87 図　出土遺物実測図Ⅰ・K区(2) ……85
第 88 図　出土遺物実測図Ⅰ・K区(3) ……86
第 89 図　出土遺物実測図Ⅰ・K区(4) ……87
第 90 図　出土遺物実測図Ⅰ・K区(5) ……88
第 91 図　出土遺物実測図Ⅰ・K区(6) ……90
第 92 図　SH204 実測図 …… 94
第 93 図　G区遺構平面図……95・96
第 94 図　G区土層断面図……97
第 95 図　SH213 実測図 …… 98
第 96 図　SH214 実測図 …… 98
第 97 図　SH220·233 実測図 ……99
第 98 図　SK212 実測図…… 99
第 99 図　SH228・255 実測図 …… 100
第100図　SH247·248·249·250·317 実測図 ……101
第101図　SB284 実測図……103
第102図　SK246 実測図……103
第103図　SB361·362 実測図……105
第104図　SB363 実測図……106
第105図　SB364 実測図……107
第106図　SH203·256 実測図 …… 109
第107図　SH308 実測図 …… 110
第108図　SH307 実測図 …… 110
第109図　SH306·365·SK332 実測図 …… 111
第110図　SH311·312 実測図 …… 113
第111図　SH316 実測図 …… 113
第112図　SH325·326 実測図 …… 114
第113図　SH333·334 実測図 …… 116
第114図　SH341 実測図 …… 116
第115図　SH342 実測図 …… 117
第116図　SH345·346 実測図 …… 118
第117図　SK252·SH207 実測図 …… 119
第118図　SH209·215 実測図 …… 120
第119図　SH224·230 実測図 …… 121
第120図　SH242·244 実測図 …… 121
第121図　SH241 実測図 …… 122
第122図　SF254·318·320·354·368·370·371 実測図 …… 123
第123図　SE206·SK205·208 実測図 …… 124
第124図　SB275·276 実測図 …… 124
第125図　SB277·278·279·280·281 実測図……125
第126図　SB282·283 実測図 …… 126
第127図　SB284 実測図 …… 126
第128図　出土遺物実測図G区古墳時代前期(1)…129
第129図　出土遺物実測図G区古墳時代前期(2)…130
第130図　出土遺物実測図G区古墳時代前期(3)…131
第131図　出土遺物実測図G区古墳時代後期(1)…133
第132図　出土遺物実測図G区古墳時代後期(2)…134
第133図　出土遺物実測図G区古墳時代後期(3)…135
第134図　出土遺物実測図G区古墳時代後期(4)…136
第135図　出土遺物実測図G区古墳時代後期(5)…137
第136図　出土遺物実測図G区古墳時代後期(6)…138
第137図　出土遺物実測図G区古墳時代後期(7)…139
第138図　出土遺物実測図G区古墳時代後期(8)…140
第139図　出土遺物実測図G区古墳時代後期(9)…141
第140図　出土遺物実測図G区古墳時代後期(10)…142
第141図　出土遺物実測図G区古墳時代後期(11)…143
第142図　出土遺物実測図G区古墳時代後期(12)…144
第143図　出土遺物実測図G区古墳時代後期(13)…145
第144図　出土遺物実測図G区古墳時代後期(14)…146
第145図　出土遺物実測図G区古墳時代後期(15)…147
第146図　出土遺物実測図G区古墳時代後期(16)…148
第147図　出土遺物実測図G区飛鳥·奈良時代(1)…150
第148図　出土遺物実測図G区飛鳥·奈良時代(2)…151
第149図　出土遺物実測図G区飛鳥·奈良時代(3)…152
第150図　出土遺物実測図G区飛鳥·奈良時代(4)…153
第151図　出土遺物実測図G区中世(1) ……154
第152図　出土遺物実測図G区中世(2) ……155
第153図　G区遺構変遷図……156

表　目　次

第 1 表　出土遺物観察表E区(1) ……68
第 2 表　出土遺物観察表E区(2) ……69
第 3 表　出土遺物観察表E区(3) ……70
第 4 表　出土遺物観察表E区(4) ……71
第 5 表　出土遺物観察表E区(5) ……72
第 6 表　出土遺物観察表E区(6) ……73
第 7 表　出土遺物観察表E区(7)F区(1) …… 74
第 8 表　出土遺物観察表F区(2) ……75
第 9 表　出土遺物観察表F区(3) ……76
第 10 表　出土遺物観察表F区(4) ……77
第 11 表　出土遺物観察表F区(5) ……78
第 12 表　出土遺物観察表F区(6) ……79
第 13 表　出土遺物観察表F区(7) ……80
第 14 表　出土遺物観察表Ⅰ・K区(1) …… 91
第 15 表　出土遺物観察表Ⅰ・K区(2) …… 92
第 16 表　出土遺物観察表Ⅰ・K区(3) …… 93
第 17 表　出土遺物観察表G区(1) …… 157
第 18 表　出土遺物観察表G区(2) …… 158
第 19 表　出土遺物観察表G区(3) …… 159
第 20 表　出土遺物観察表G区(4) …… 160
第 21 表　出土遺物観察表G区(5) …… 161
第 22 表　出土遺物観察表G区(6) …… 162
第 23 表　出土遺物観察表G区(7) …… 163
第 24 表　出土遺物観察表G区(8) …… 164
第 25 表　出土遺物観察表G区(9) …… 165
第 26 表　出土遺物観察表G区(10)…… 166
第 27 表　出土遺物観察表G区(11)…… 167
第 28 表　出土遺物観察表G区(12)…… 168

写真図版目次

図版 1　遺構写真E·H·I·J区
図版 2　遺構写真E·H·I·J区
図版 3　遺構写真E·H·I·J区
図版 4　遺構写真F区
図版 5　遺構写真F区
図版 6　遺構写真F区
図版 7　遺構写真F区
図版 8　遺構写真G区
図版 9　遺構写真G区
図版10　遺構写真G区
図版11　遺構写真G区
図版12　遺物写真E·H·I·J·F区
図版13　遺物写真E·H·I·J·F区
図版14　遺物写真E·H·I·J·F区
図版15　遺物写真E·H·I·J·F区
図版16　遺物写真E·H·I·J·F区
図版17　遺物写真I·K·G区

Ⅰ 前 言

1 調査に至る経過

県立高茶屋病院は、開院以来40年余りが過ぎ、老朽化が著しいために、県健康福祉部において新施設の整備計画が策定された。県教育委員会文化芸術課（平成10年度から生涯学習課と改称）及び、埋蔵文化財センターには、平成７年８月にその計画が知らされた。

数回の協議を重ね、試掘調査による遺跡範囲の確認の結果、事業は病院建物全ての建て替えであること、事業範囲は昭和55年に調査された大垣内遺跡隣接地に及ぶこと、平成８年10月からⅠ期工事が始まること、事業範囲内の遺跡面積は12,500㎡であること、平成８年度内に2,100㎡、平成９年度以降に7,850㎡の調査が必要であることが判明した。

このうち、平成８年度は1,600㎡を調査した。続く平成９年度は第３次調査として本館部分4,130㎡、保育所用地1,150㎡、厚生施設用地1,200㎡を合わせて6,480㎡を調査することとなった。続いて平成10年度には第４次調査として、看護婦寮建設地1,600㎡、本館部分440㎡、立会調査150㎡の合計2,190㎡を調査した。

2 調査の経過

平成９年度の調査地はＥ～Ｊの６区に分かれる。Ｅ区は、２次調査のＡ・Ｂ・Ｃ区の間にあった建物の部分である。Ｆ区は第１次調査地の西側で病院の実習農場として使われていた畑地である。耕作中にもよく土器片が見つかったそうである。Ｇ区は当遺跡でも北方、台地東端に近いところである。Ｈ区はＡ区南側、Ｉ区はボイラ棟の周辺、Ｊ区はＥ区の西南側に当たる。総調査面積は5,280㎡である。Ｅ・Ｈ・Ｊ区は病院建設工事が始まっている中での調査となった。また、工事工程との調整から４月10日から調査を開始した。平成９年11月から調査を２班体制とし、Ｇ区の調査を開始した。

平成10年度の調査はＫ、Ｇ区を対象とし、併せて平成11年３月まで断続的に工事立会を行った。Ｋ区はＩ区の東側に位置する。既存建物の取り壊し、工事との兼ね合いから、Ｇ区調査を縮小して実施した。Ｇ区は平成９年度の東側続きである。職員駐車場との折り合いを付けながらの調査となった。

調査にあたっては土工部門を三重県農業開発公社に委託した。

(1) 調査日誌（抄）平成９年度（第３次調査）

４月10日　Ｅ区表土除去開始

４月15日　機材・ベルトコンベア等搬入。

４月21日　Ｅ区東南より人力掘削、遺構検出開始。ＳＨ４を検出。

４月24日　Ｈ区表土除去、検出開始。

５月１日　Ｅ区を西に拡張。遺構掘削終了部分より実測開始。

５月８日　Ｅ区全景・個別遺構写真撮影。Ｈ区SH52出土状況実測。

５月16日　Ｅ区引き渡し

５月21日　SH52出土の土馬について、記者会見（古水）

６月10日　Ｈ区を北に拡張。２地区となる。Ｆ地区北東端より包含層除去開始。遺構密度は高そう。

６月13日　Ｈ区写真撮影。

６月24日　Ｈ区ＳＨ53カマド断ち割り調査。Ｆ区土師器焼成坑SF64埋土除去開始。

６月26日　Ｈ区作業終了。引き渡し。

７月23日　Ｆ区北東3／4遺構掘削終了。遺構埋土が非常に似通っており切り合いの確認は困難であった。遺物は大量に出土。

７月30日　Ｆ区北部中央は遺構埋土が判然とせず検出が困難なため、検出面を少しずつ下げる。

８月29日　Ｆ区写真撮影、引き続き実測。

９月６日　Ｆ区を対象に現地説明会を開催。見学者は突然の降雨にもかかわらず100名。

９月９・10日　Ｆ区熱残留地磁気測定（富山大学広岡教授）

９月11日　Ｊ区表土除去。Ｆ区作業終了、資材搬出

９月24日　Ｊ区写真撮影、実測。

９月25日　Ｊ区作業終了、引き渡し。

10月３日　Ｉ区表土除去開始。Ｉ区は4区に分かれる。最も北の病院本館に近いIa区から開始。

10月14日　Ｉａ区SD149掘削。深さ1.5m程のＶ字状の溝となる。

10月21日　Ｉｂ・ｃ区表土除去。

10月22日　Ｉａ区作業終了。

10月27日　Ｉｂ・ｃ区人力掘削開始。ＳＨ152埋土除去。

11月６日　Ｉｂ・ｃ区写真撮影。実測準備。

11月13日　高茶屋病院文化祭に参加。遺物展示及びスライド上映会。350名参加。

11月20日　Ｉｂ・ｃ区作業終了。埋め戻し。

11月19日　Ｇ区調査区設定。

11月20日　Ｇ区表土除去開始（～27日）。

11月27日　G区作業員作業開始。
11月24日　Ｉｄ区表土除去。撹乱、パイプが多く作業は困難。
12月９日　Ｉｄ区人力掘削開始。ＳＨ数棟を検出。
12月15日　本館敷地から保育所用地（Ｆ区）へのガス管埋設に伴う調査を開始。
12月18日　Ｉｄ区写真撮影。
12月24日　Ｉｄ区実測開始。
１月６日　Ｉｄ区作業終了。
１月27日　G区実測のためのポイント設定(野原・北条)。
１月28日　G区掘削と併行し実測開始。調査第１課大勢の応援を受ける。
２月16日　Ｆ区下水管工事立会。
２月18日　Ｆ区雨水管工事立会。
２月28日　G区現地説明会開催。約80名の参加を受ける。
３月３日　G区空中写真撮影・個別写真撮影。
３月６日　E区擁壁工事立会。
３月10日　出土遺物をセンター及び桜橋倉庫へ搬送。
３月11日　資材搬出。
３月13日　G区作業終了。
３月16日　G区埋め戻し開始、撤収。
３月25日　G区埋め戻しと同時に第4次調査分表土除去。排土は第３次調査地点の駐車場造成土とする。
３月27日　G区第４次調査分表土除去完了。

(2) 調査日誌（抄） 平成10年度（第４次調査）

４月８日　E区隣接地ゲート部分立会（川畑・川崎・浜辺・野原・新名・豊田)。
４月15日　G区作業員作業開始。研修員研修開始。
５月６日　K区表土除去(川畑)。地区杭設定(城・浜辺・川崎・豊田)。
５月７日　K区作業員作業開始。
５月18日　G区東部分表土除去開始（城)。
５月20日　K区北半分写真撮影。
５月21日　K区北半分実測（坂倉・松葉・大川・萩原・松本・松田・柴山)。南半分掘削続行。
５月22日　K区北半分引き渡し。
５月27日　K区南半分写真撮影。午後より作業員G区へ。
５月28日　K区南半分実測（西出・坂倉・松葉・大川・萩原)。夕方引き渡し。
５月29日　G区完全再開。
８月８日　G区現地説明会。約200名の参加を受ける。
８月21日　宮本長二郎氏に現地指導を受ける。
８月28日　引き渡し。
９月８日　G区門柱建設部分立会（川畑・城・松本)。
１月25日　G区排水管埋設部分立会（～28日。川畑・野原)。
３月10日　G区フェンス設置部分立会（～16日。川畑・水谷・城・原田・川崎)。

3　文化財保護法にかかる諸通知

文化財保護法（以下「法」という）等にかかる諸通知は以下により、文化庁長官等に行っている。

・法第57条の３第１項（文化庁長官あて）
平成８年７月26日付け 県病第660号
・法第98条の２第１項（文化庁長官あて）
平成９年４月24日付け 教文第865号
平成10年４月20日付け 教生第85号
・遺失物法にかかる文化財発見・認定通知（津警察署長あて）
平成９年３月30日付け 教文第６－113号
平成10年９月29日付け 教生第８－17号

4　遺跡の名称について

本遺跡は、昭和55年度に大垣内遺跡として調査されている。旧小字名も大垣内であり問題はないのだが、昨今の調査件数増加により「大垣内」と名付けられる遺跡が多く、他の大垣内と区別する意味で「高茶屋」を冠し「高茶屋大垣内」と呼称することとなった。なお、昭和55年度の調査を第１次調査、平成８年度を第２次、９年度を第３次、10年度を第４次調査とした。

5　調査の方法

今回の調査は６地区に分かれる。それぞれの間には建物があり見通しが利かないため、全体を統一して地区設定することは困難である。そのため、各地区ごとに４m四方の升目で区切ることによって小地区を設定した。各地区とも西から数字、北からアルファベットを付け、升目の北西隅の番号をその小地区の符号とした。なお、小地区の軸は国土座標軸に沿っている。

6　遺構図面について

各調査とも座標軸に合わせて、1／20で作成した。個々の遺構のうち、遺物の出土が明瞭なものについては、個別に1／10実測図を作成したものもある。

また、調査区土層図は原則として1／20で作成した。

Ⅱ　位置と環境

遺跡の位置

津市南部から久居市にかけては、標高20m前後のなだらかな起伏を持った洪積台地が広がる。この洪積台地は、布引山地を分水嶺として東になだらかに広がり伊勢湾に臨む丘陵の縁辺部にあたる。

南には、三重県と奈良県の県境、高見山系の三峰山に源を発し、伊勢平野のほぼ中央部を東西に流れる雲出川が下流域に沖積平野を形成している。雲出川左岸に、近年都市化が進みつつあるものの豊かな水田地帯が広がる。しかしながら、近世以前には雲出地区は塩田が広がり、西島八兵衛により雲出井が開かれるまでは、水田とはなっていない。このことから高茶屋台地より東方の平野部は、ある時期までは海水が入り込んでいたものと考えられよう。今回調査対象となった高茶屋大垣内遺跡(1)は、高茶屋台地東縁の、北を相川に、南を天神川に区切られた高台に位置する。

行政上は津市城山１丁目地内に所在する。

歴史的環境

ここでは高茶屋大垣内遺跡を取り巻く歴史を概観してみたい。高茶屋地区は、開発が早くから行われたためか、遺跡の存在は余り知られていなかった。その中にあって昭和61年に銅鐸が発見された、四ツ野Ｂ遺跡(2)が記憶に新しい。銅鐸は、近畿式のもので全高60cm近くになる[①]。台地から南へ目を向けると、雲出川北岸に雲出島貫遺跡(3)が所在する。縄文時代晩期から鎌倉時代にかけての複合遺跡であるが、縄文時代晩期の集落の存在が出土遺物等から想定されている[②]。

古墳時代前期に入ると、四ツ野Ｂ遺跡において古墳時代前期の竪穴住居が90棟検出されている。また、雲出島貫遺跡では竪穴住居群・墳墓群が調査されている。併せて落ち込みを利用した水田も確認されており、この時期の居住域・生産域・墓域が確認される好例である[③]。前期末には高茶屋台地の北、垂水丘陵縁辺部に池の谷古墳(4)が造営される[④]。全長87mの前方後円墳で、伊勢湾を見渡す海上交通を意識した古墳といえるのではないか。

古墳時代後期になるとこの地域の古墳としては、小森山古墳群(5)と四ツ野古墳(6)が知られるのみである。四ツ野古墳は四ツ野Ｂ遺跡の調査区内で発見されたもので、６世紀中頃の木棺直葬墳であることが確認された。生産遺跡として三重県では最古段階（田辺編年ＴＫ23型式併行期）の須恵器窯跡である久居古窯跡(7)や藤谷埴輪窯跡(8)、法ヶ広埴輪窯跡(9)が位置している。藤谷埴輪窯跡・法ヶ広埴輪窯跡は、須恵器兼用窯の可能性が須恵器の出土から推定されている。

飛鳥・奈良時代には、雲出島貫遺跡で大型掘立柱建物が検出され、古代嶋抜郷の一部とされる。

中世には、この地域は安濃城を本拠地とする長野氏の勢力下であった。これに関氏が加わり、北朝方に属した。対して雲出川以南は南朝方であった北畠氏の勢力下であった。このため、高茶屋地域には小森上野城跡(10)、小森城跡(11)、やや離れて垂水城跡(12)、池ノ谷砦跡(13)、木造城跡（14)など、いくつかの城や砦が築かれた。平成10年度には雲出島貫遺跡において城館跡が調査され、多数の貿易陶磁の出土も併せて話題となった。雲出川を利用した、水上交通の出先機関の可能性が指摘されている。

近世には、参宮街道が台地の東縁部をとおり、行き交う人々でにぎわったことであろう。そして、大正期に大規模な区画整理が始まり、昭和に入って海軍工廠が設置され、その整備にともない、小森上野地区には工員住宅及び海軍共済病院が配置された。この海軍共済病院が、現高茶屋病院の前身ともいえるようである。

このような急激な開発の渦中にあっては、知られずに消えていった遺跡も数多いであろう。しかし、既存建物下に残されている場合もあり、今後の調査に期待するものは大きい。

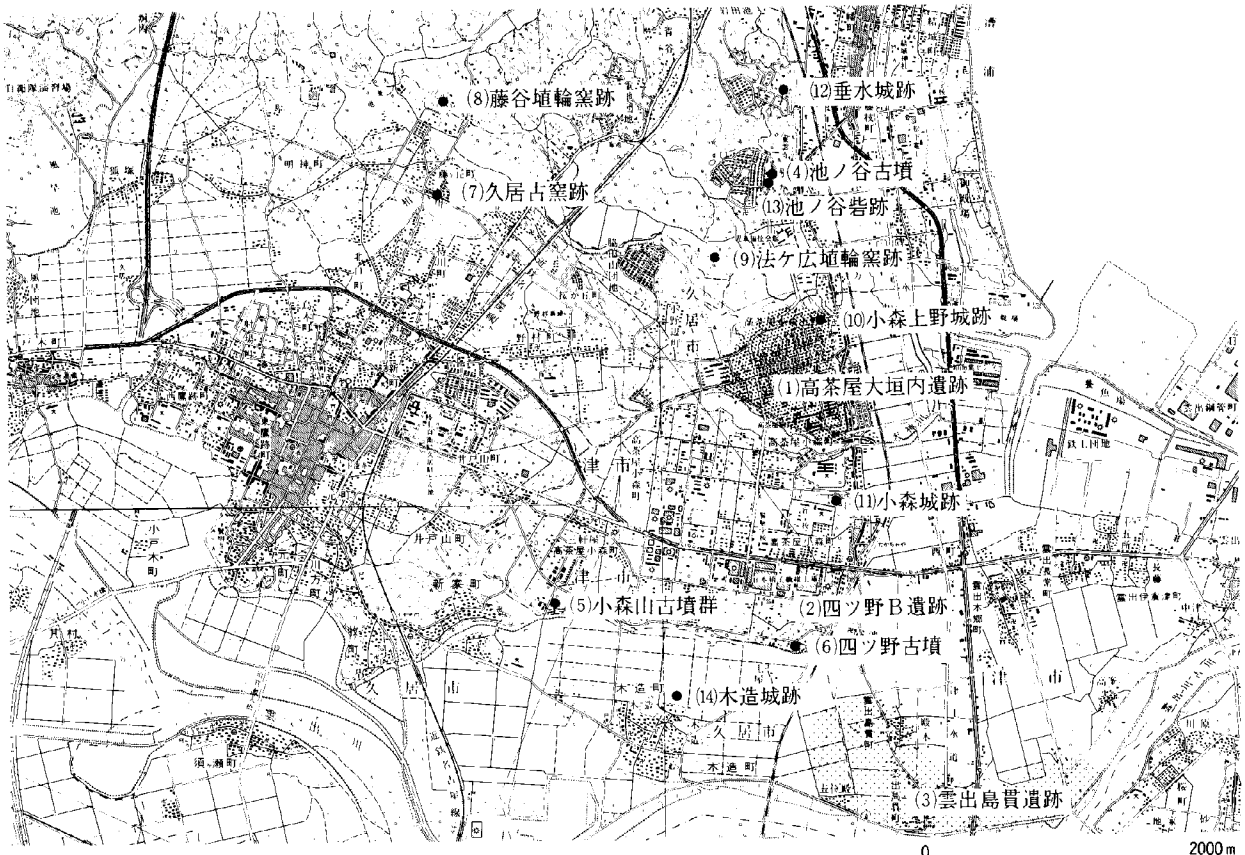
(註)

① 『日本の古代遺跡 三重』(保育社 1996年)

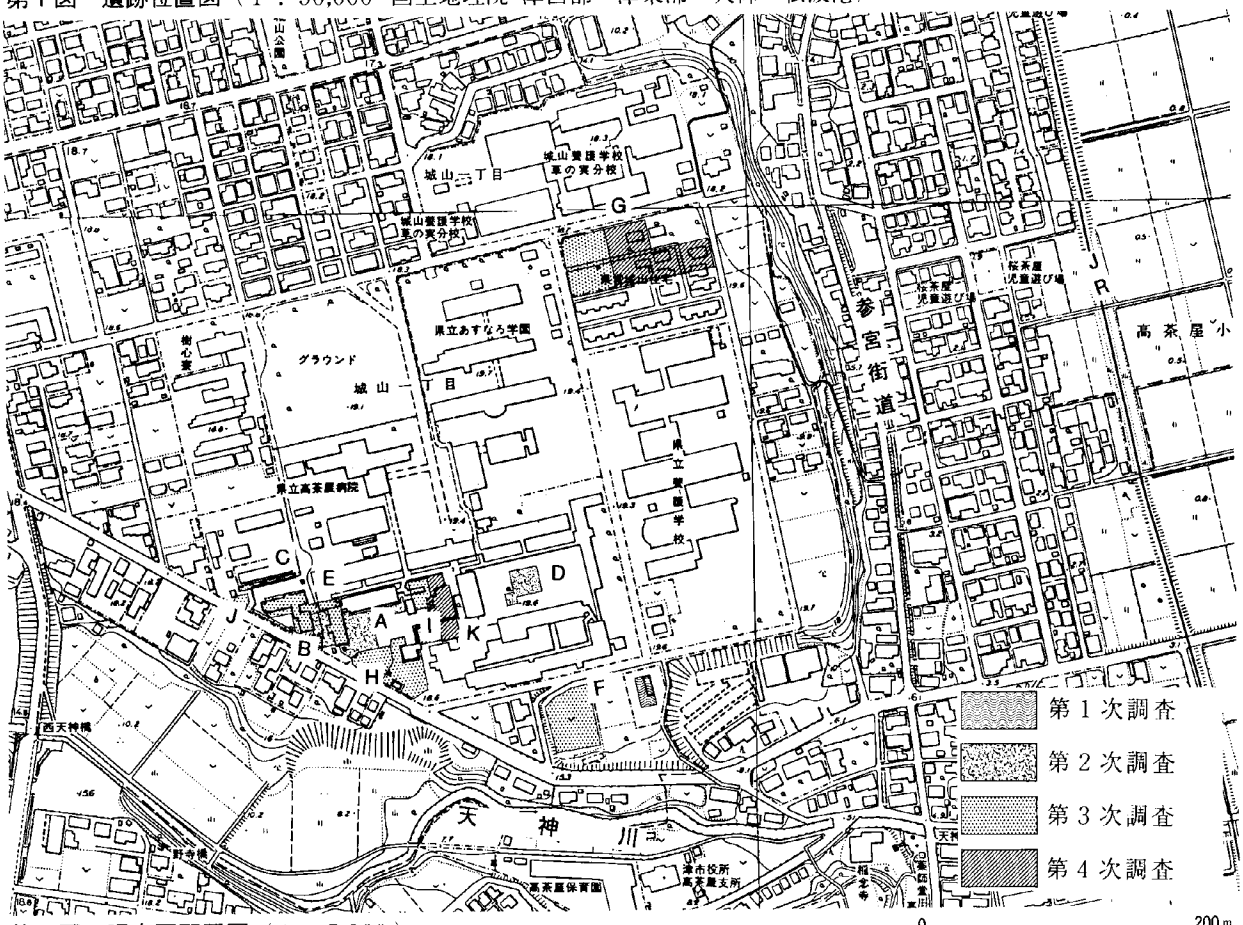
② 伊藤裕偉・川崎志乃『嶋抜 第１次調査』三重県埋蔵文化財センター 1998年

③ 註②、三重県埋蔵文化財センター平成11年度調査

④ 藤田充子「遺跡・遺物紹介⑧ 池の谷古墳出土の円筒埴輪」(『埋文センターニュース第９号』津市埋蔵文化財センター、1999年)



第1図　遺跡位置図（1：50,000　国土地理院 津西部・津東部・大仰・松阪港）



第2図　調査区配置図（1：5,000）

Ⅲ　E・H・I・J区の調査結果

1　はじめに

病院本館周辺の調査区である。平成９年度はＥ・Ｈ・Ｉ・Ｊの４地区を設定し、調査を実施した。Ｅ区は病院旧建物を撤去した地区で大きく東部と西部に分けられる。２次調査のＡ・Ｂ・Ｃ区に挟まれた地区である。Ｈ区は病院敷地南辺中央部の雨水槽周辺でＡ区の南にあたる。Ｉ区はボイラ棟及び上水槽周辺で、細かくａ、ｂ、ｃ、ｄの４地区に分かれる。このうちＩａ区は第４次調査で隣接するＫ区を調査しており、同じ遺構が続くことから別項で報告する。Ｊ区は病院敷地西南端にあたる。

2　基本層序

調査地の基本的な層序は次のとおりである。

Ｅ区の東半部は黒色土の堆積が厚く、鉄筋建物の下になっていたが検出面の遺存状況は比較的良好であった。建物基礎は検出面には到達していない。西半部は黒色土がほとんどなく、地表下20cmほどで基盤層の黄褐土に到達した。木造平屋の建物であったが、基礎工事による影響を相当受けていた。Ｈ・Ｉ・Ｊ区は地表から30～50cmは、病院整備に伴う整地が行われている。特に、Ｉｂ区はテニスコートとして使われた後、駐車場となっていたため、赤土と砕石が敷かれていた。

Ｅ区東部やＨ・Ｉ・Ｊ区では、近現代撹乱層下に黒色土が２層堆積する。上層は約20cm程度でやや褐色を帯びた黒色土である。下層は20～30cm程度で上層に比べ濃い黒色を呈し、小石を含んでいる。この２層は、量は少ないものの遺物を包含する。黒色土層の下に黄褐色の小石を含んだ粘質土があり、この層を基盤層として遺構検出を行った。

3　遺構と遺物

(1) 古墳時代後期

ここでいう古墳時代後期とは５世紀後半から６世紀代（田辺編年[1]でいうＴＫ47型式～ＭＴ15型式併行期）をさす。竪穴住居と土坑、溝を検出した。住居は数ｍの間隔を置いて建てられていたようである。以下、個別に見ていく。

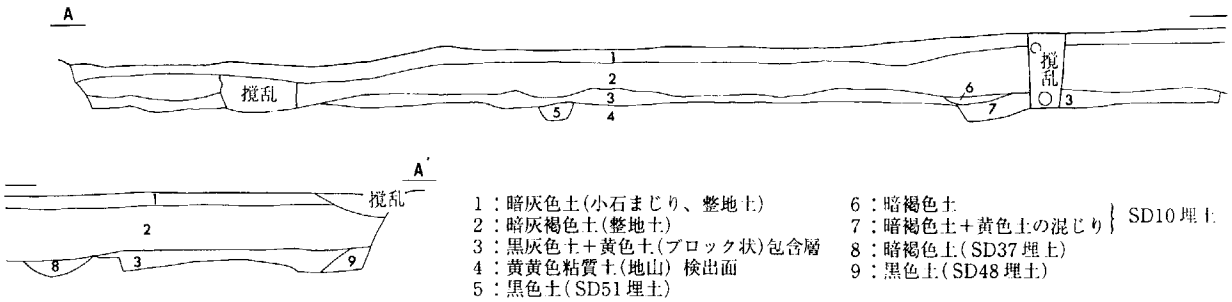
ＳＨ１（第14図）　Ｅ区東端で検出した。２次調査Ａ区ではプランが確認できずＳＫ１としていたが竪穴住居であることを確認した。東西はＡ区へ広がるため3.2ｍ以上は不明であるが、主柱穴柱間と西壁との位置関係から約4.5ｍと推定できる。南北は4.7ｍで、やや東西に長い方形である。検出面からの深さは約15cmと浅い。南北軸方向はＮ17°Ｅである。主柱の柱間は東西2.2ｍ、南北1.9ｍである。主柱穴は直径25～30cmで深さ25～30cmを測る。幅25cm、深さ５cm程度の壁周溝を３辺に巡らすが、隅を欠く。

遺物は比較的多い。須恵器杯蓋（１～３）・高杯蓋(4)・横瓶(5)、土師器椀（6・7）・高杯（8～11）・台付甕(12～22)・鉢(23・24)・甑(25)、土錘(26)、鉄刀(27)が出土した。鉢(23・24)は体部が球形をしており広い口を持つ。体部外面はナナメハケを折り返して調整する。甑(25)はブリッジ部分が十字で、外面にヘラ描きの割付線が残る。

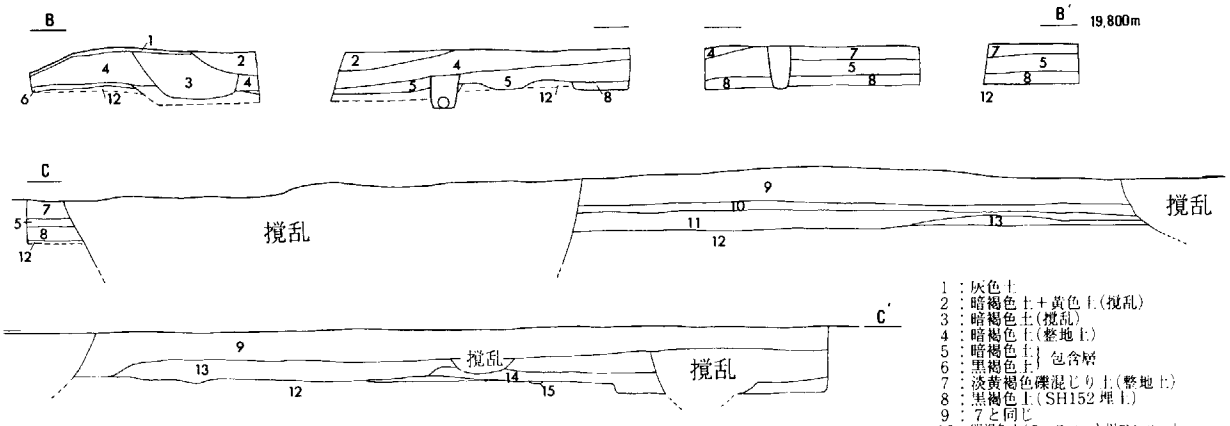
ＳＨ４（第15図）　Ｅ区の東端部やや南寄りで検出した。Ａ区にまたがる竪穴住居である。東西3.7ｍ、南北4.6ｍの長方形で、検出面からの深さは25～30cmを測る。南北軸方向はＮ９°Ｅである。主柱穴は確認できなかった。東辺やや南寄りにカマドがあり、ほぼ中央で長さ20cmほどの支脚石を直立した状態で検出した。遺物は土師器が大半で、椀(28～30)・高杯(31～35)・台付甕(36～52)・壷(53・55)・鉢(54)・甑(56)・ミニチュア土器(57)などがある。

ＳＨ６　ＳＨ４の南方6ｍで検出した。主柱穴、周溝等は確認できなかったが、形状から竪穴住居とした。埋土は黒色土で柔らかい。大半の遺物が床上20数cmの埋土中で出土した。唯一床面で検出した遺物は土師器甕(69)である。埋土中からは土師器台付甕を中心に30数個体を検出した。それらはほぼ接していたとみられる出土状況である。また、埋土中の土師器の内、外面に付煤のあるものは１個体のみである。須恵器は杯蓋片１点(58)が出土したのみで、土師器椀(59)・高杯(60～67)・壷(68～72)・台付甕(73～96)・鉢(97～100)・壷(101～104)・広口壷(105・106)、管玉１点(107)がある。２次調査Ａ区で確認した遺構である。平面図等は２次調査報告を参照されたい。

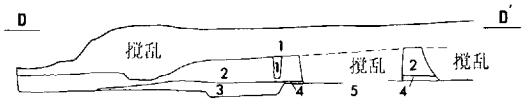
ＳＨ８（第16図）　Ｅ区ほぼ中央で検出した。２次



第3図　E区東半部北壁土層図（1：100、水糸高は19.800m）

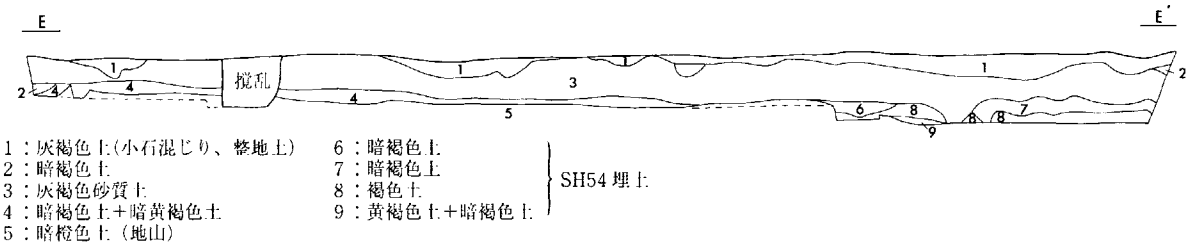


第4図　Ⅰb区西壁土層図（1：100、水糸高は19.800m）

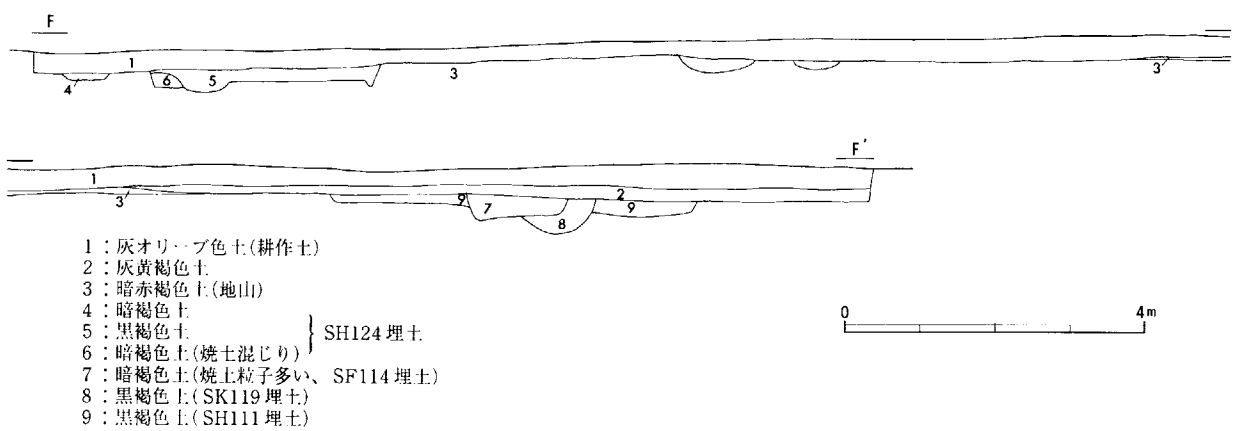


1：灰褐色砂質土　2：黒褐色土（包含層）　3：暗褐色土（SH161埋土）　4：にぶい赤褐色土（焼土）　5：暗橙色土（地山）

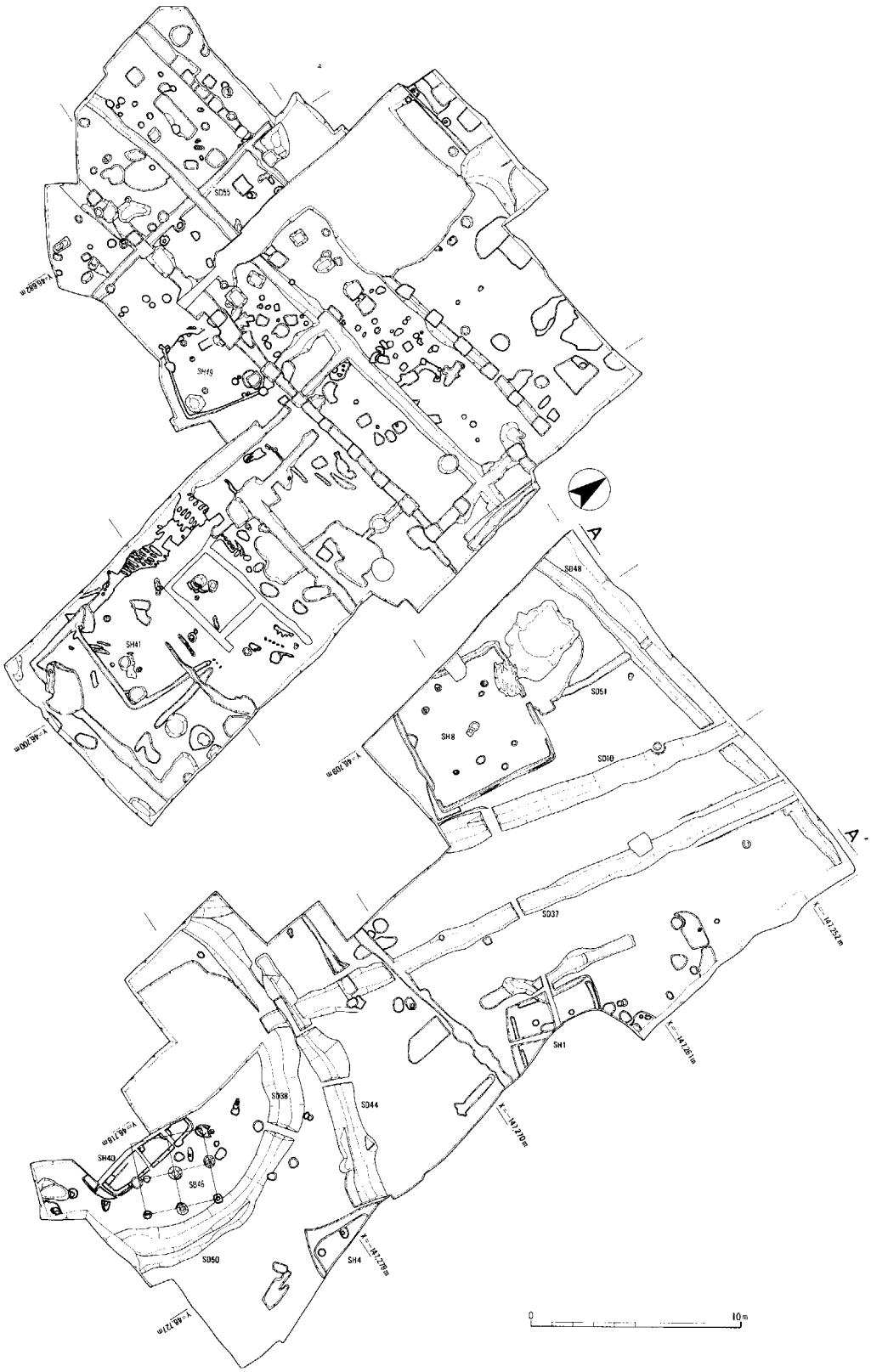
第5図　Ⅰb区南壁土層図（1：100、水糸高は19.800m）



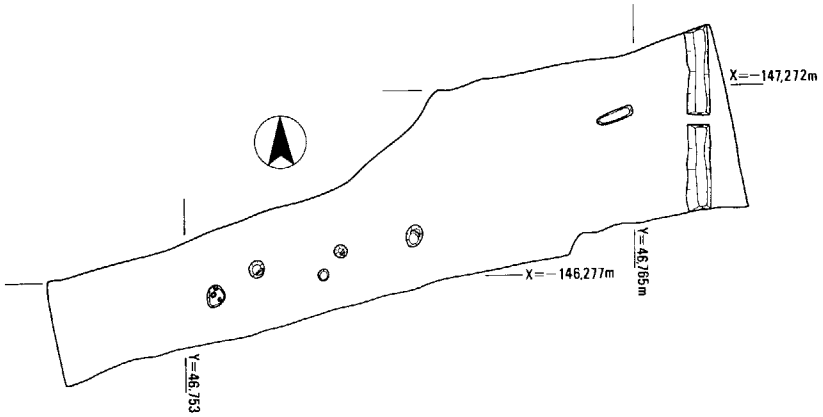
第6図　H区南壁土層図（1：100、水糸高は19.800m）

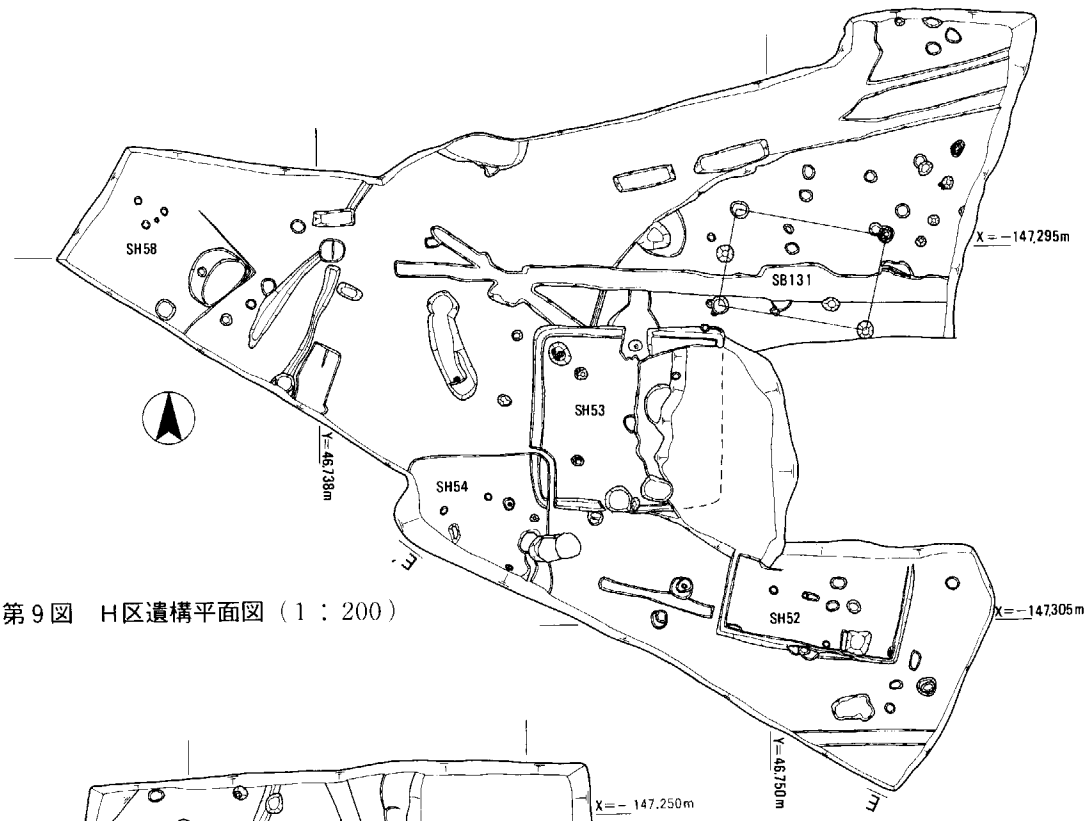


第7図　F区西壁土層図（1：100、水糸高は20.600m）

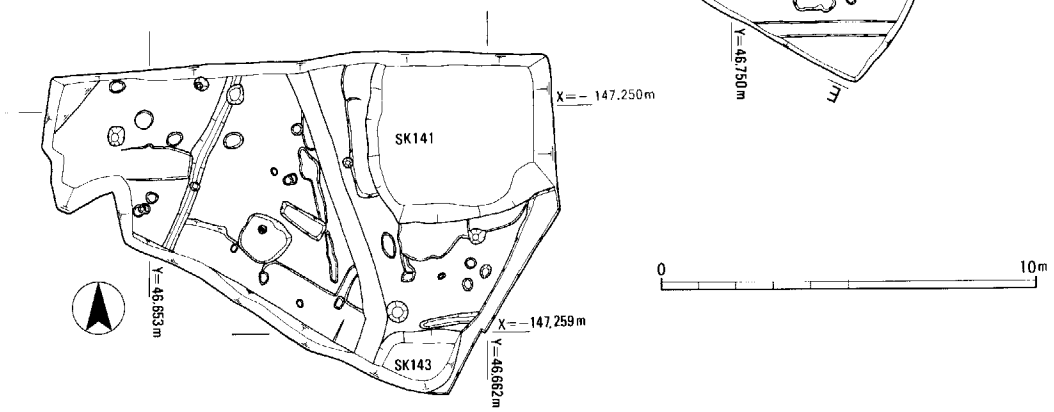


第８図　Ｅ区遺構平面図（１：300）

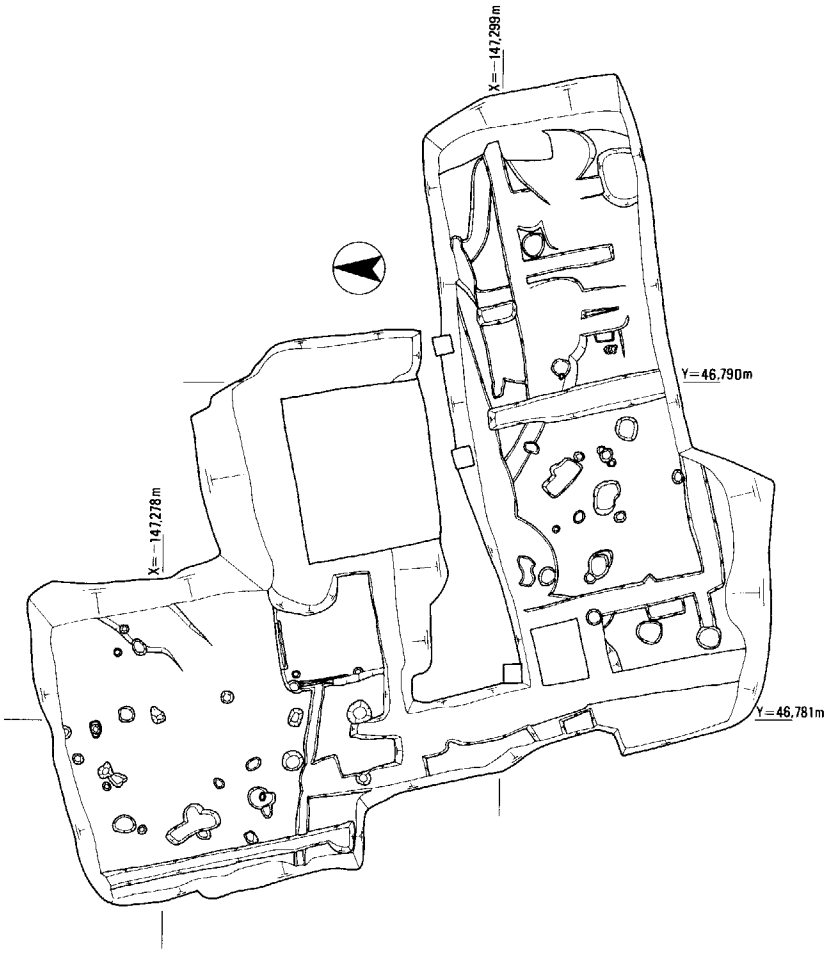




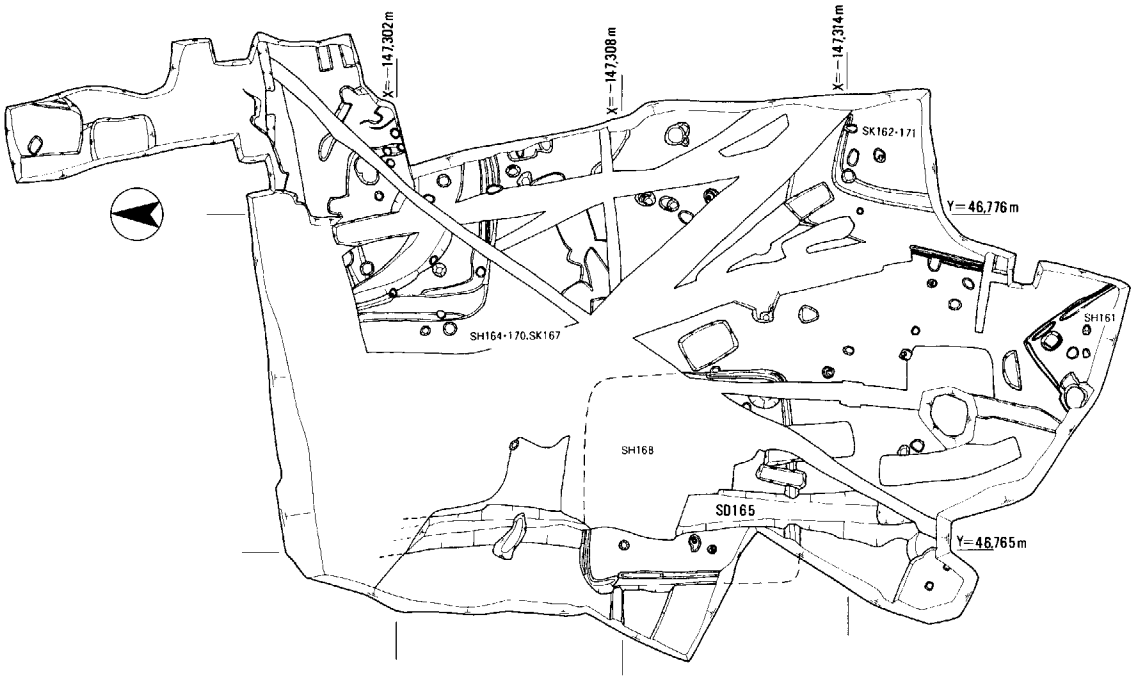
第９図　Ｈ区遺構平面図（１：200）



第10図　Ｊ区遺構平面図（１：200）

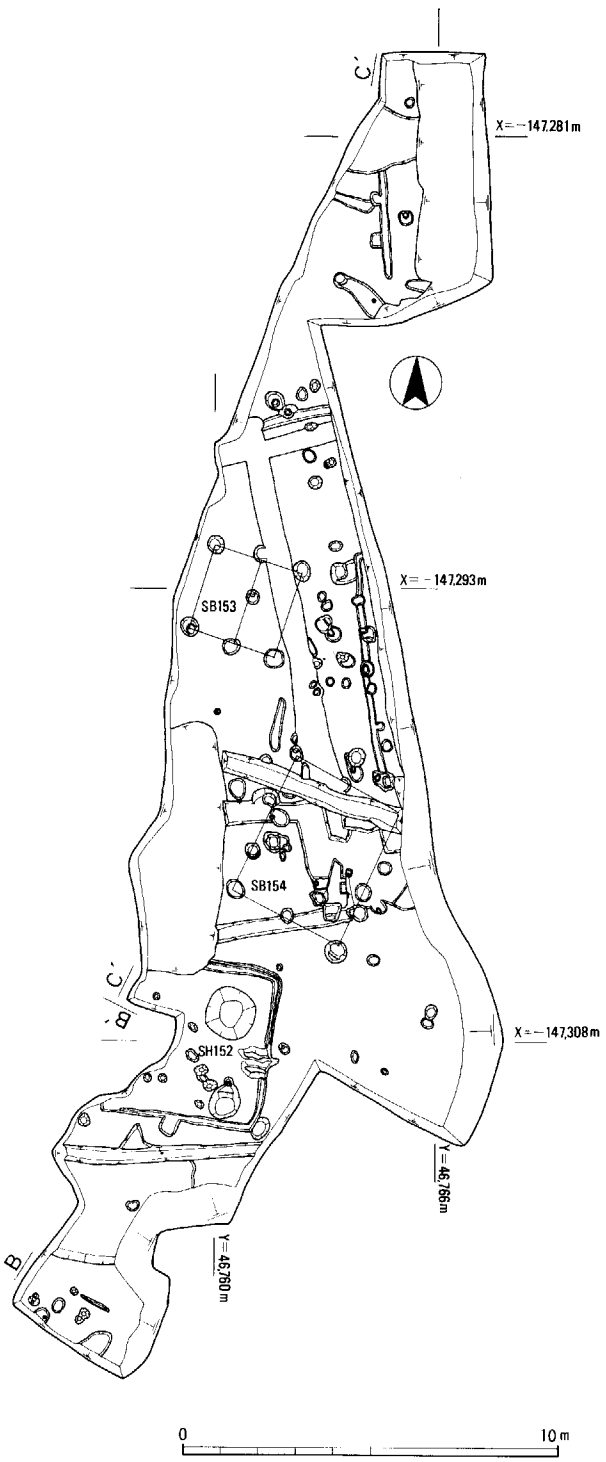


第11図　Ⅰc区遺構平面図（1：100）



第12図　Ⅰd区遺構平面図（1：100）

0　10m



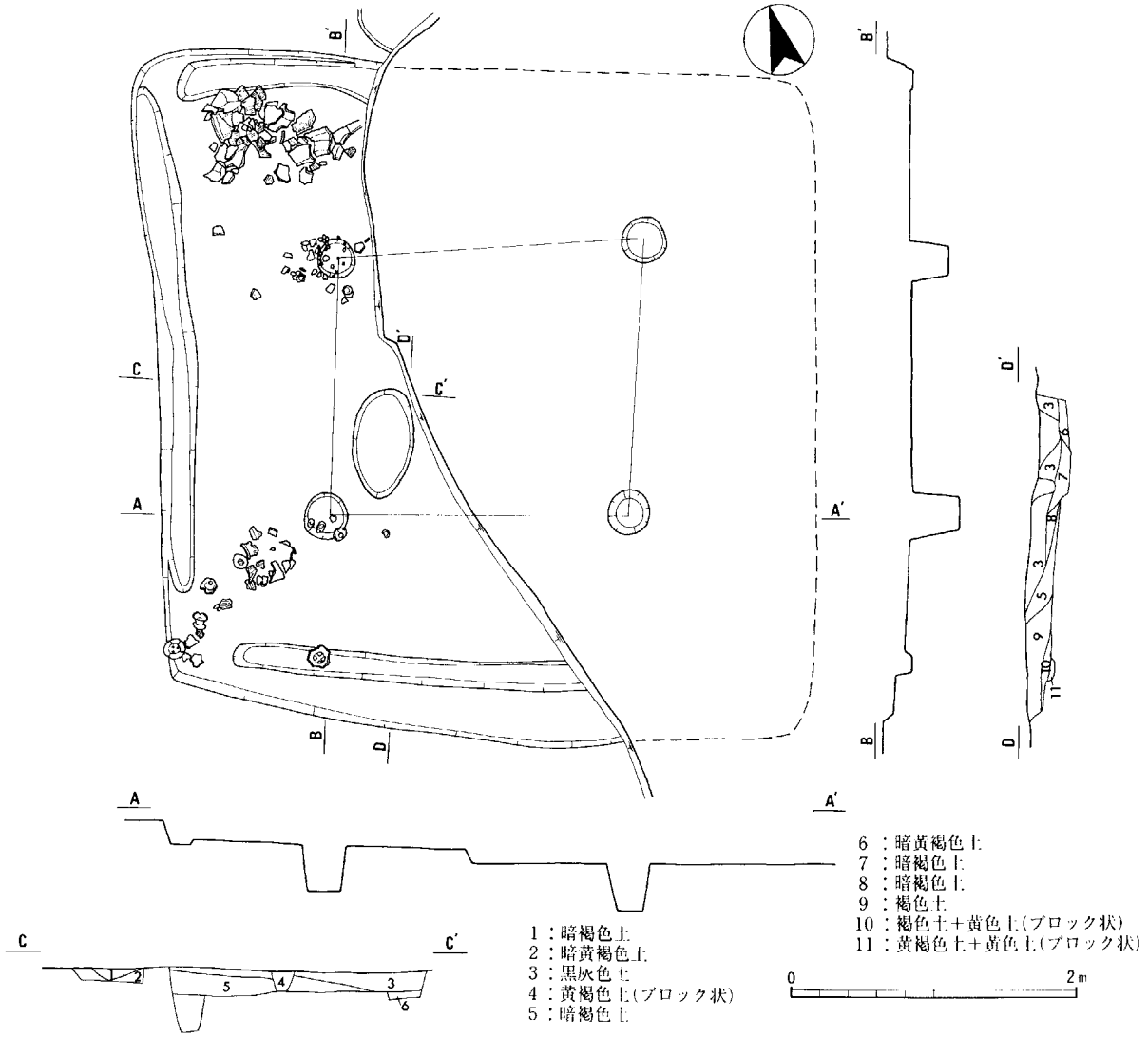
第13図　Ⅰb区遺構平面図（1：200）

調査B区で南側1／4を検出した竪穴住居である。東西6.6m、南北6.2mの、この調査区では大型の住居である。検出面からの深さは約10cmと浅い。南北軸方向はN8°Eである。主柱穴は4カ所確認した。柱間は東西3.2m、南北3.1m、主柱穴の規模は径約30cm、深さ35～45cmと深い。四辺に周溝を巡らすが南辺東部に約45cm程度途切れる部分がある。カマド及びその痕跡の焼土等は認められなかった。床面は踏固められたと考えられる範囲とそうでない範囲が比較的明瞭に区別できた。主柱穴付近や住居中央部は締まっていない。遺物のうち須恵器杯（108）・甕（109）の2点で、土師器が大半である。台付甕（123～130）が多数を占めるが、椀（110・111）・高杯（112～118）・大型高杯（119・122）・壷（121・134）・ミニチュア土器壷（120）などもある。床面精査中に臼玉2点（136・137）が出土した。

SH40　E区西部で検出した。東側1／4が残されているのみで大半は貯水槽により破壊されていた。そのため東西規模は不明、南北は5.2mである。検出面からの深さは約10cm弱である。南北軸方向はN11°Wである。残されていた部分には周溝が巡る。周溝内には約50cm間隔で径数cmの壁柱穴を確認した。土師器椀（138）・大型高杯（139）・台付甕（140～142）が出土した。

SH41（第17図）　E区西部で検出した。かなり削平を受けており、東辺、南辺及び西辺の一部の周溝と4カ所の主柱穴、貯蔵穴を検出したのみで南北規模は不明である。しかし、主柱穴と周溝の間隔から南北6.2m、東西6.0mと推定される。南北軸方向はN1°Eである。主柱柱間は東西2.85m、南北2.85mを測る。主柱穴の規模は検出面で直径25～30cm、柱穴底では直径15～20cm、深さは南西が34cm、他は60cm弱と深い。東南隅で貯蔵穴を検出した。東西74cm、南北85cm、深さ35cmを測る。貯蔵穴内の埋土から土師器高杯（144）・台付甕（145）が出土した。主柱穴からは須恵器高杯（143）が出土している。

SH49（第18図）　調査区西部で検出した。撹乱を相当受けているものの東辺、南辺、西辺の南隅の周溝を検出できた。規模は東西3.8m、南北4.5m、深さ2cmを測る。主柱穴は3カ所確認したが、北西は撹乱されており確認できなかった。南北軸方向はN

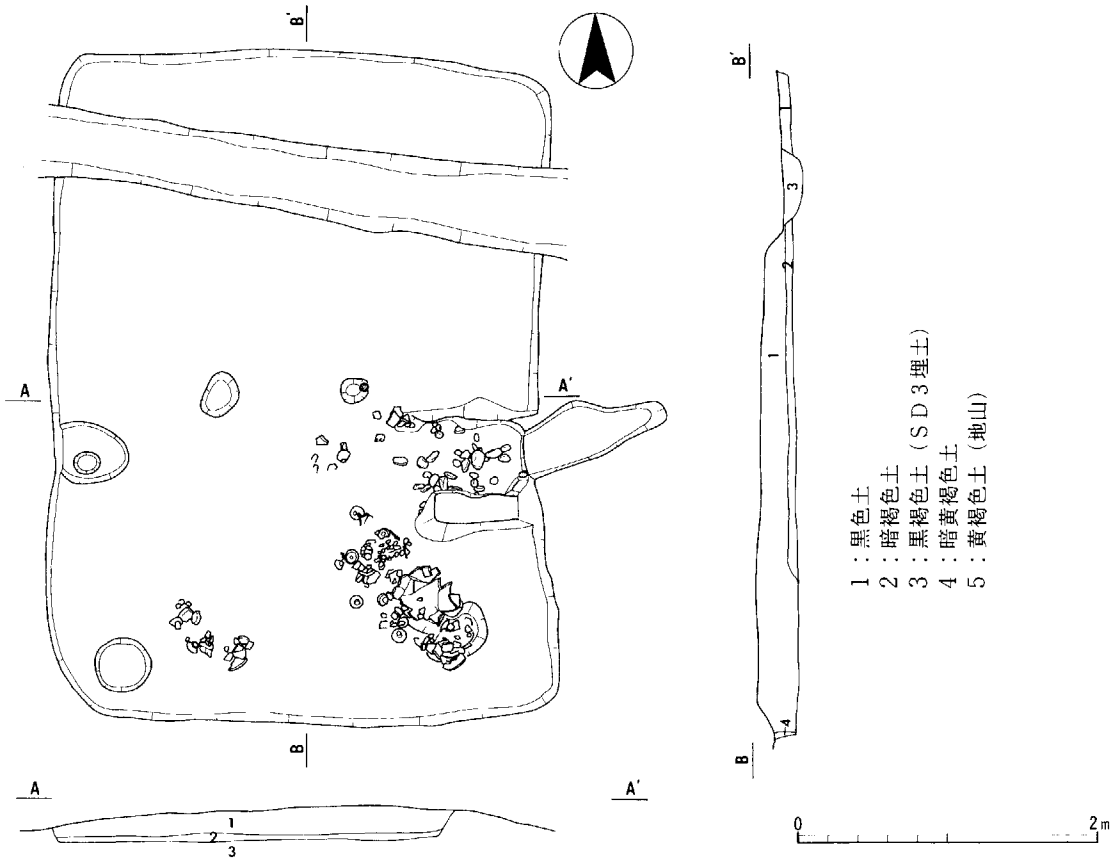


第14図　ＳＨ１実測図（１：50、水糸高は18.600m）

13°Ｅである。柱間は東西1.65m、南北1.75mを測る。東南隅で貯蔵穴を検出した。東西0.8m、南北1m、深さ40cmを測り、平面形は不整円形である。埋土中から、須恵器高杯蓋(148)の他、台付甕（154～156）と径1～2cmの丸い小石が十数個出土した。他に須恵器蓋杯(146･147)･高杯脚部(149･150)、土師器高杯(151)・壷（152・153）がある。

SH52（第19図）　Ｈ区南東部で検出した。東西5m、南北は北半が雨水槽により破壊されているが、主柱穴と南壁の関係から、ほぼ東西と同規模であろうと推定できる。検出面からの深さは35cmと比較的残りがよい。南北軸方向はN12°Ｅである。東西柱間は2.15mで、柱穴は径20～40cm、深さ50cm余を測る。幅10～20cmの周溝を三辺で確認した。南辺の東部で貯蔵穴を検出した。一辺60cmの方形で深さ30cm余を測る。南辺の西部から粘土塊を検出した。1m×0.6m、最も厚い部分で25cmを測る。白色粘土が大半であるが黄色粘土もみられた。粘土は周溝内にも入り込んでおり、竪穴住居存続中にはあったものと考えられる。出土遺物は多く、須恵器(161～165)、土師器(166～169・171～179)の他、土馬の頭部(170)が出土したことが注目されよう。土馬は竪穴住居中央の検出面から約10cm程の地点で検出した。目、鼻、口を工具による切り欠きで、手綱、面繋、胸繋は粘土紐を貼り付けることで表現している。貯蔵穴からは台付甕(175)がほぼ完形で出土した。他にこね石と見られる丸石(180)がある。

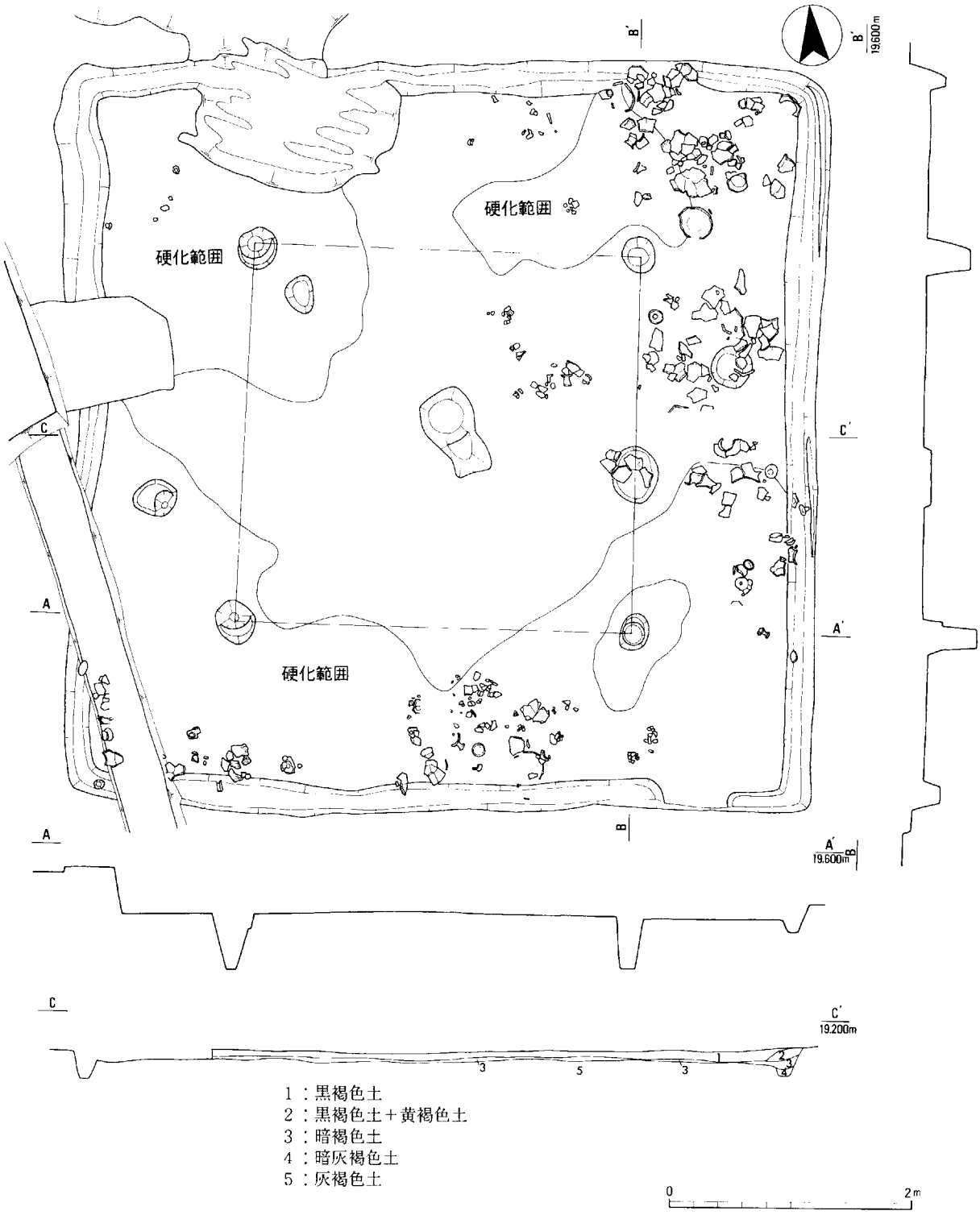
SH53（第20図）　調査区南東部、ＳＨ52の西側



第15図　ＳＨ４実測図（１：50、水糸高は18.600m）

で検出した。南西の隅をＳH54に切られている。また、ほぼ東半分が雨水槽により破壊されているが、かろうじて北東の角を確認した。東西5.1m、南北５mを測る。主柱穴は３カ所確認した。南東は撹乱により不明である。南北軸方向はＮ３°Ｅである。南北柱間は2.36m、東西柱間は2.5mで、柱穴の径は20～30cm、深さ45cm前後である。四辺に幅30cm程度、深13cm程度の周溝を巡らす。北辺中央にはカマドが築かれていた。カマドは奥行1.5m、幅0.9m、高32cm、煙道部の残存長１m、幅30cm、深10cmを測る。煙道の先端は配水管埋設溝により破壊されている。両袖の先端部分は排水管埋設溝により破壊されているが、焚き口に径約30cm、分銅形の燃焼による硬化範囲があり、その平面形から袖の平面形状を推定できる。煙道部の天井は崩落していたが、カマド本体の焚き口部及び住居内の煙道部は天井が残されていた。焚き口は天井の硬化部分が若干崩落していたが、幅約15cm、高約10cmの断面円形のトンネル状部分が残されていた。裾付け部の中央には支脚石が残されていた。支脚石は径10cm、長さ25cmの石をほぼ垂直に立て、根本部分には粘土を巻付けている。据付け部から煙道部へのトンネルも崩れずに残されていた。煙道は崩落しており幅20cmの溝となっている。南辺中央と南東隅には貯蔵穴と考えられる小土坑２基があった。中央のものは径80cm、深さ23cmである。南東隅のものは長軸80cm、短軸60cm、深さ27cmである。この貯蔵穴からは台付甕片が多数出土した。住居埋土中からの土器片は多くはないが、カマドの南側約１m、床から10cm上のところから、鉄製の刀子２点(185・186)が出土している。住居中央では径40cm、厚さ２cmの焼土が検出された。床面が硬化しておりこの場所でも火を使ったものと考えられる。遺物は土師器高杯(181)・台付甕(182～184)、砥石(187)などがある。

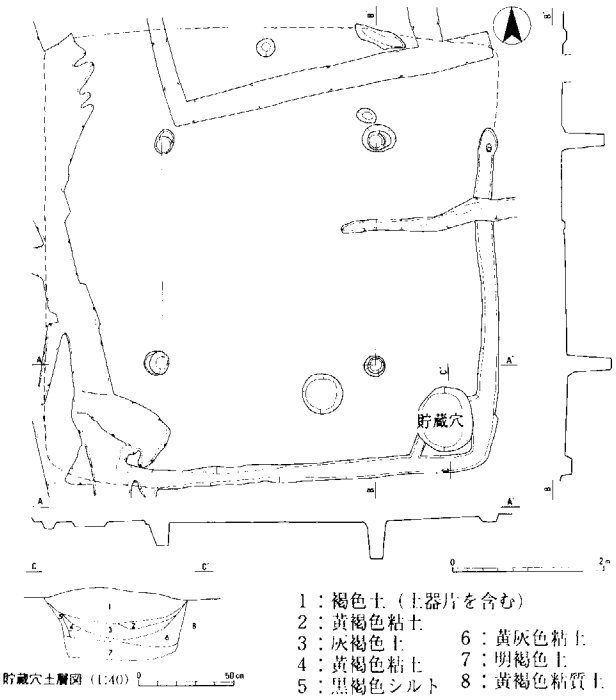
SH54（第21図）　調査区南東部で検出された。ＳH53の南西部を切る。東西3.8m、南北4.3m、深さ15cmを測る。南西の柱穴は調査区外のため未確認であるが、４主柱であると考える。東西柱間は



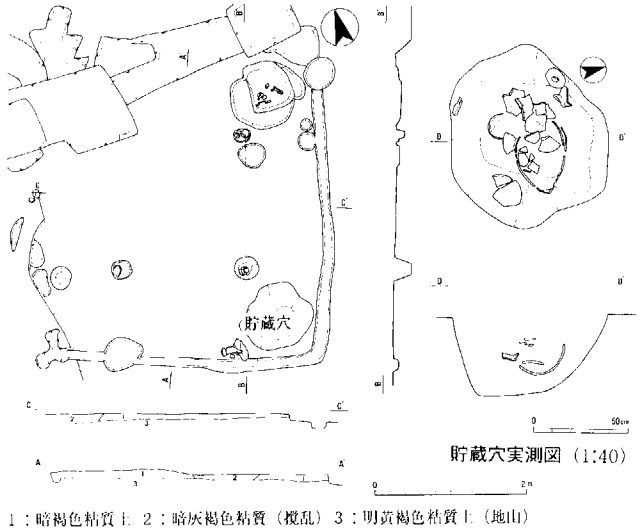
第16図　ＳＨ８実測図（１：50）

1.8ｍ、南北柱間は1.55ｍである。周溝は検出されなかった。東辺中央やや南寄りに焼土及び燃焼による硬化面がありカマドの痕跡と考えられる。北西の柱穴の東南東70cmのところにも焼土がある。埋土中からは台付甕１個体(192)がつぶれた状態で出土している。つぶれた甕の中にソラマメ大の滑らかな小石が確認できた。他に土師質管状土製品(194～196)や、鏡形土製品(197)などが出土した。

SH58（第22図）　調査区の南東で検出した。ＳＨ６の南側に当る。基盤層に礫が多く検出は困難であったが、住居の東隅と主柱穴２個、貯蔵穴と考えられる土坑を確認した。柱穴は柱間2.6ｍ、径20～



第17図　ＳＨ41実測図（１：50、水糸高は19.000ｍ）



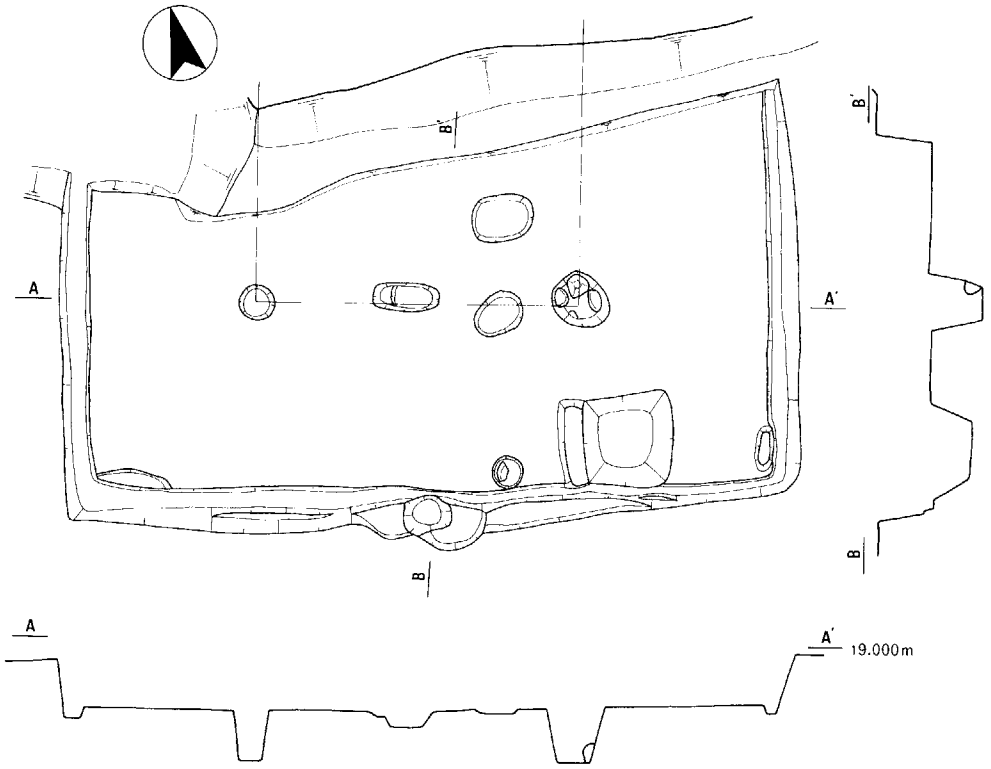
第18図　ＳＨ49実測図（１：100、水糸高は19.400ｍ）

25cm、深さ43cmを測る。柱方向はＮ45°Ｗである。柱穴と東の角から推定される規模、形状は一辺4.6ｍの方形である。貯蔵穴と考えられる土坑は住居東隅で検出した。平面長円形で長軸1.4ｍ、短軸0.9ｍ、深さ13cmを測る。土師器椀(157･158)･台付甕(159･160)が出土した

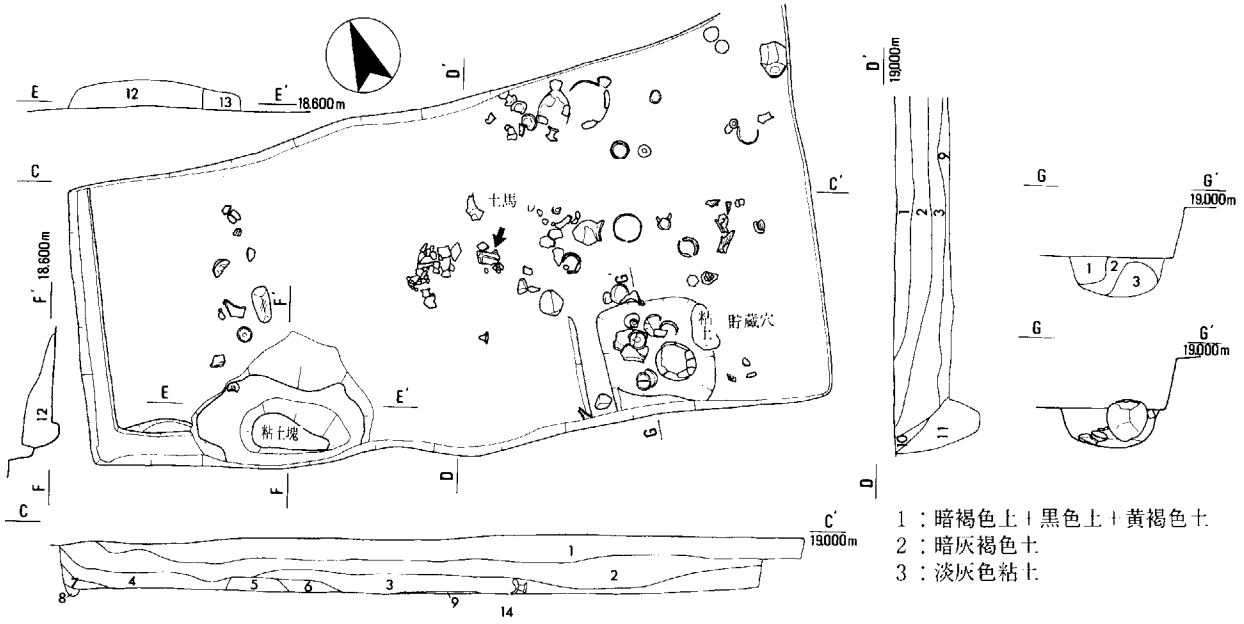
SH152（第23図）　調査区の南東部で検出した。SH52とSH168の中間に当る。西側１／３は電柱保護のため調査不可能だった。東西4.2ｍ、南北4.4ｍ、深16cmを測る。主柱穴は三カ所で確認した。柱間は南北、東西とも2.2ｍである。柱穴は径20～25cm、深45～50cmである。北東には土坑があり柱穴は確認できなかった。周溝は北・東辺を巡り、南辺西端で途切れる。幅20cm、深さ７cm程度である。東辺の中央やや南寄りにカマドがある。北袖は70cm、南袖は55cmを測る。支脚には土師器甕を倒立して置いていた。煙道部は住居から20cmほど東上方に延び途切れる。北東隅の土坑は住居床面で検出した。径1.3ｍ、深さ30cm、底部径60cmで平面円形、断面逆台形をしている浅鉢状の土坑である。本来、主柱穴の位置であるが、柱穴は確認されなかった。土坑埋土は褐色土であるが中に白色粘土が５cmほどの層状にみられた。土坑内からは、須恵器脚付壺(200）の他、土師質管状土製品(208)が出土した。東南隅には径80cm、深さ37cmの土坑があり貯蔵穴と考えられる。他に須恵器蓋杯(198・199)、土師器(201～207)、たたき石（209）がある。

SH161（第24図）　調査区東南隅で検出した。ＳＨ168の南方６ｍに当る。住居の北隅を検出したのみであるため全体の規模は不明である。深さ10cm程残されていた。東辺はＮ51°Ｅである。周溝は北辺と東辺で検出した。東辺では20cmほど２ヶ所で途切れる。北辺にカマドがある。径55cmのほぼ円形で、焚き口部には土師器甕の口頸部をやや斜めに寝かせて据え、焚き口としていた。支脚には土師器高杯(212)を倒立させて据え、さらにその下から一辺25cmほどの平らな石が検出された。石を据え高さを調節していたのであろうか。

SH162・171（第25図）　調査区東南隅で検出した。ＳＨ168の東南東４ｍにあたる。ＳＨ162・171ともに北西隅を検出した。南北方向は5.5ｍ以上あるが、全体の規模は不明である。角は隅丸に近い。西辺はＮ13°Ｅである。西辺中央部で幅10cm、深４cmの周溝を２ｍ検出した。主柱穴は北西で確認した。径40cm、深さ30cmを測る。ＳＨ171はSH162の内側で検出した。両者に切合い関係はなく、ＳＨ162の床面からＳＨ171の周溝と主柱穴を検出した。このことからＳＨ162はＳＨ171を拡張したものではないかと考えられる。ＳＨ171も北西角を検出したにとどまるため、全体の規模は不明である。方位はＳＨ162と同様である。北辺に幅20cm、深さ６cm、西辺に幅40cm、深さ２cmの周溝を巡らす。主柱穴は北西で確認した。径15cm、深さ30cmを測る。埋土中



平面図・断面図

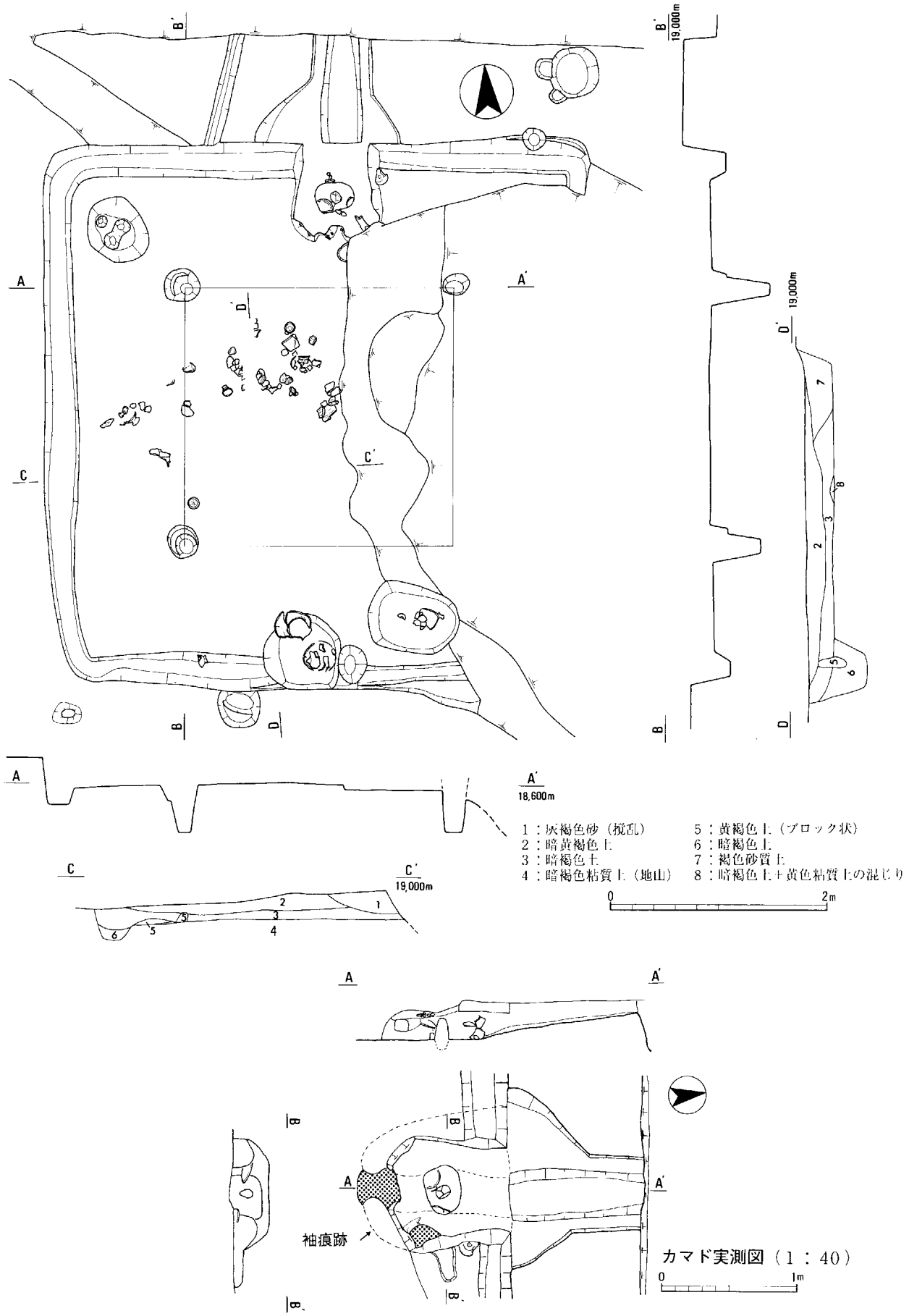


遺物出土状況図・土層断面図

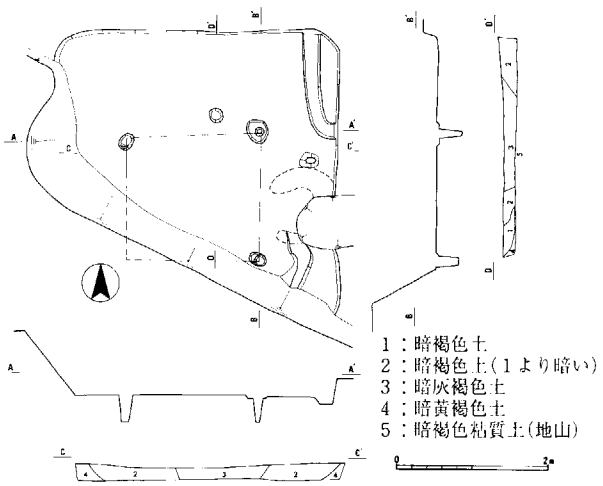
1：暗褐色土
2：黒褐色土
3：暗褐色土
4：暗褐色土＋黄色土(粒状)
5：暗黄褐色土
6：暗褐色土
7：暗褐色土
8：黄褐色土＋黒色土
9：やや黄味の強い暗褐色土
10：黄色土(ブロック)＋暗褐色土
11：暗灰褐色土
12：灰白色粘土
13：黄白色粘土
14：黄褐色土

0　2m

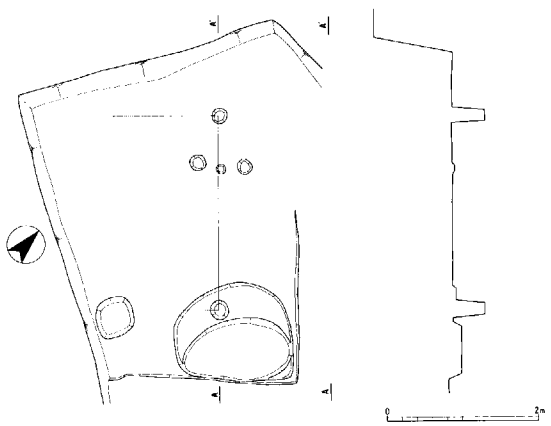
第19図　ＳＨ52実測図（１：50）



第20図　ＳＨ53実測図（1：50、カマド実測図は1：40、水糸高は19.000m）



第21図　ＳＨ54 実測図（１：100、水糸高は18.800ｍ）



第22図　ＳＨ58 実測図（１：100、水糸高は20.000ｍ）

からは土師器の小片が出土したのみである。図示は出来なかったが古墳時代後期と考える。

SH164・170、SK167（第26図）　調査区の東南部、ＳＨ168の北東側４ｍのところで検出した。相当撹乱されており、全体規模は不明であるが、ともに南西部の１／４程度を確認した。方位はＮ２°Ｗで、角は隅丸である。遺構埋土の土層観察から、ＳＨ164はＳＫ167を切っていること、ＳＨ170はＳＨ164を拡張したことが判明した。両住居とも南辺と西辺で周溝を確認した。ＳＨ164からは土師器椀（213）・台付甕(214)・甑(215)が出土した。ＳＨ170からは土師器甑(222)、不明土製品(223)が出土した。また、ＳＫ167からは須恵器蓋(216)が出土している。いずれも６世紀前葉と考える。

SH168（第27図）　調査区東南部、ＳＨ152の東側５ｍで検出した。中央やや西寄りをＳＤ165に切られる。他の部分も相当撹乱されており、東南と北西の一部を確認したにすぎない。確認した部分から復原すると東西5.8ｍ、南北5.7ｍのほぼ正方形で、深さは東南で30cm、北西35cmである。東南と北西の柱穴を確認した。方位は西辺の周溝から判断するとＮ２°Ｗである。検出した部分全てから周溝を確認したため、周溝はほぼ四辺に巡らされていたと考えられる。幅20cm、深さ10cm程である。検出した柱穴は径20cm余り、深さ25cmほどである。東南角に径80cm程の土坑があり、貯蔵穴と考えられる。住居埋土からは須恵器杯身(217)・壷(218)、土師器椀(219)などが出土、貯蔵穴からは土師器甑(221)が出土している。６世紀中頃と考えられる。

SB46（第28図）　東西２間×南北２間の総柱建物で、規模は3.4×3.5ｍである。柱間は東西が東から1.7ｍ、1.7ｍ、南北が北から1.7ｍ、1.8ｍである。棟方向はＮ19°Ｅである。柱穴出土の遺物は細片ばかりであるが古墳時代後期に収まるものである。

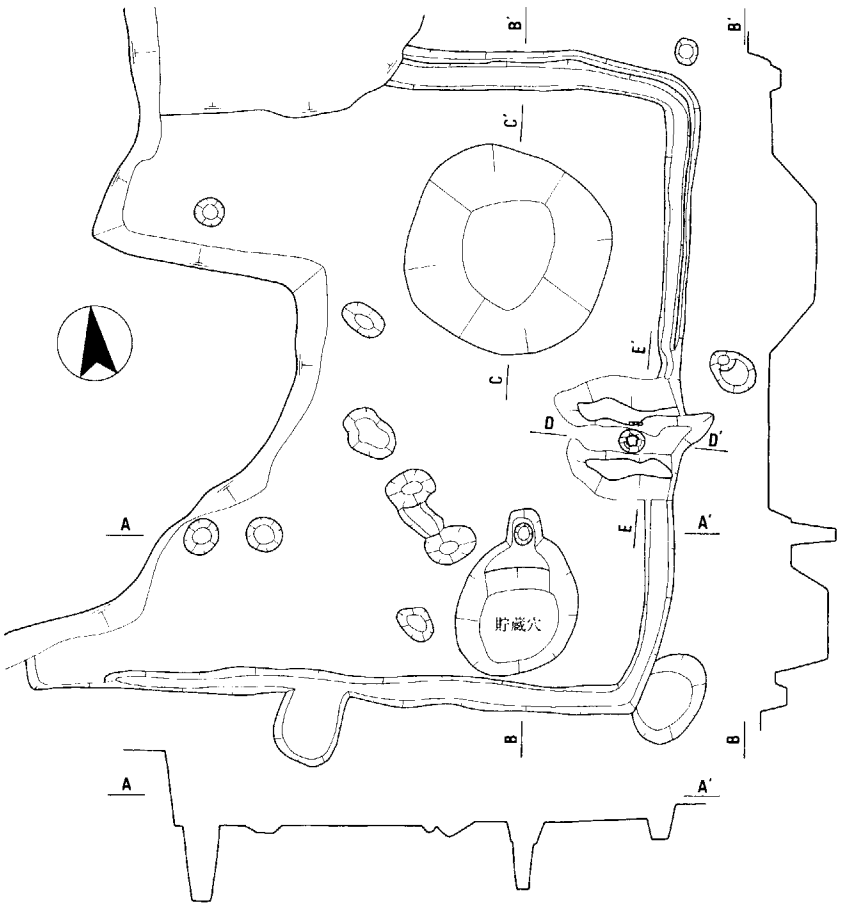
SK5（第29図）　ＳＩＩ４の東方13ｍの地点で検出した。平面長円形の土坑である。長径2ｍ、短径1.6ｍを測る。埋土は粒子の細かい黒色土を主とする。埋土中からほぼ完形に復元できる台付甕(225)、須恵器蓋(224)が出土した。墓である可能性もあろう。２次調査Ａ区で確認した遺構である。

SK7　Ｈ区北部で検出した。南北4.8ｍ、東西3ｍ、深さ20cmの長方形土坑で、２次調査Ａ区で検出したＳＫ７に続く。主柱穴、周溝は確認できなかったが、平面形から竪穴住居の残痕とも考えられよう。２次調査で台付甕脚部(226)と壷底部(227)が出土した。

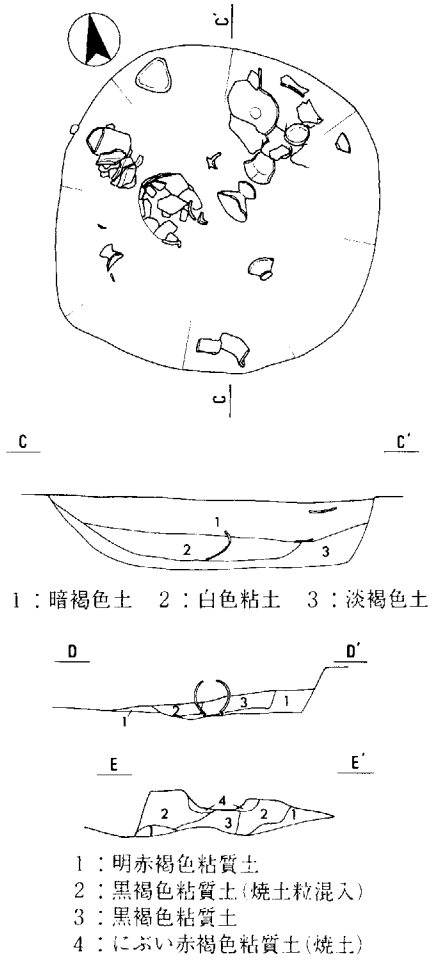
SK141（第30図）　Ｊ区で検出した。北及び東は調査区外に広がる。東西５ｍ以上、南北4.5ｍ以上、深さ80cmを測る。埋土の状況から比較的短時間で埋まったことが窺える。遺物は多く須恵器杯蓋・杯身(228～234)、土師器(235～305)が出土した。移動式カマド(303)・管状土製品(304)が注目される。

SK143　ＳＫ141の南側３ｍで検出した。北西の角を確認したが、他は調査区外に広がるため不明である。遺物は土師器片が多く出土したが、図示できるものは須恵器小形壷(306)、土師器(307～312)であった。

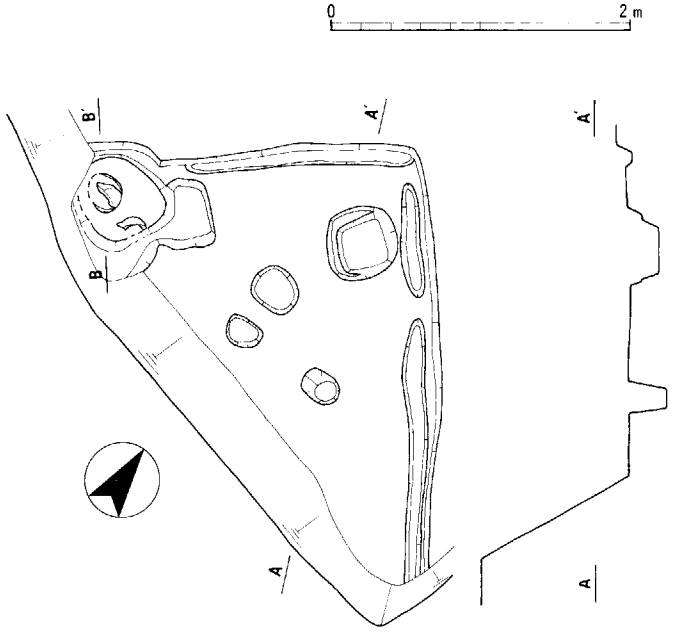
SD51（第31図）　ＳＨ8の北部で検出した。幅40cm、長さ５ｍ、深さ15cmの南北に走る溝である。



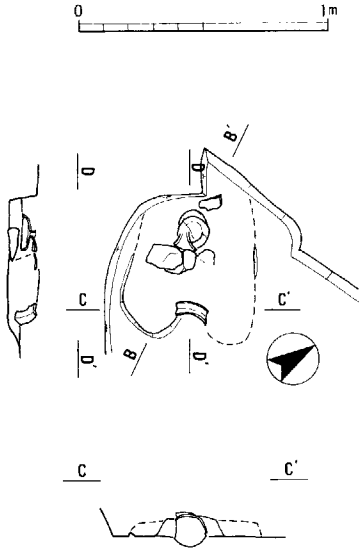
第23図　ＳＨ 152実測図（１：50、水糸高は 19.200m）



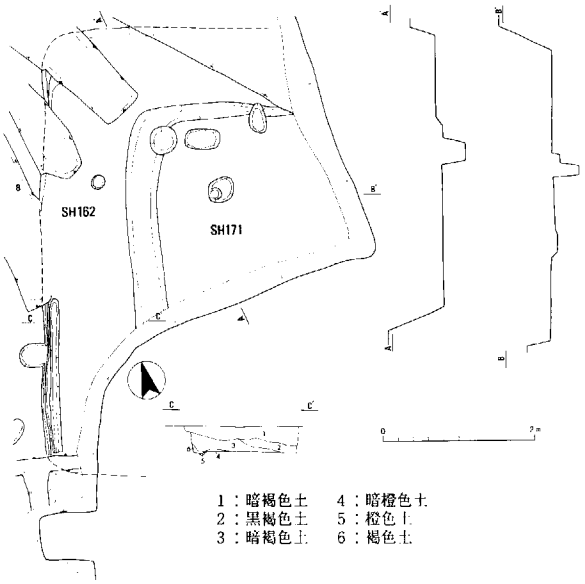
第23図－2　SH152北東SK・カマド実測図(1:30)
（水糸高は 19.200m）



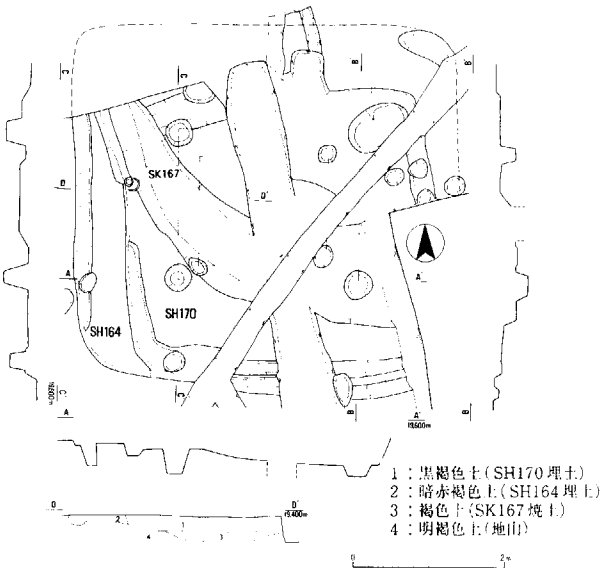
第24図　ＳＨ 161実測図（１：50、水糸高は 19.200m）



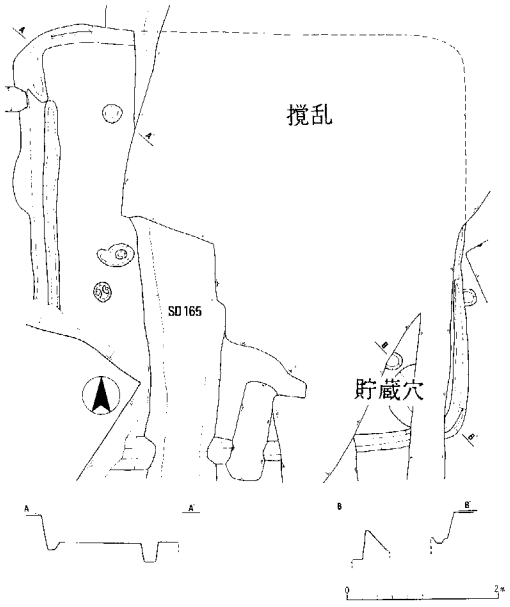
第24図－２　ＳＨ 161カマド実測図（１：30）
（水糸高は19.200m）



第25図　SH162・171 実測図（1:100、水糸高は19.600 m）



第26図　SH164・170・SK167 実測図（1：50）



第27図　SH168 実測図（1：100、水糸高は19.200 m）

埋土は黒色土でＳＨ８の埋土と似ており、関連するものかもしれない。古墳時代の土師器片が出土した。

SD38（第33図）調査区の南部で検出した。直径16mの円形に巡る溝である。

SD165（第32図）　調査区の東南部で検出した南北に走る溝である。延長してみるとSD62、SD2（A区）につながる可能性が高い。SD62は遺物がなく時期は不明である。SD165はSH168、SF166を切っている。この周辺は撹乱が激しいため、残存状況は厳しいものがある。幅1.0～1.5 m、長さ13.5 m、深さ40～45 cmである。遺物は少ないが古墳時代の土師器片や、土馬（322）が出土した。

(2) 平安時代～中世

SD44（第33図）　２次調査Ａ区のSD3に続く溝である。幅2.1～3 m、長さ約40 m、深さ10～50 cmである。E区中央を東西に延びる溝である。西部ではＳD37を切り、緩やかに南に曲がる。西端部ではSD14を切っているが、SD10との切り合いはＳD44が浅くなり途切れることもあり、判明しなかった。出土した灰釉陶器から平安時代後期と推定する。

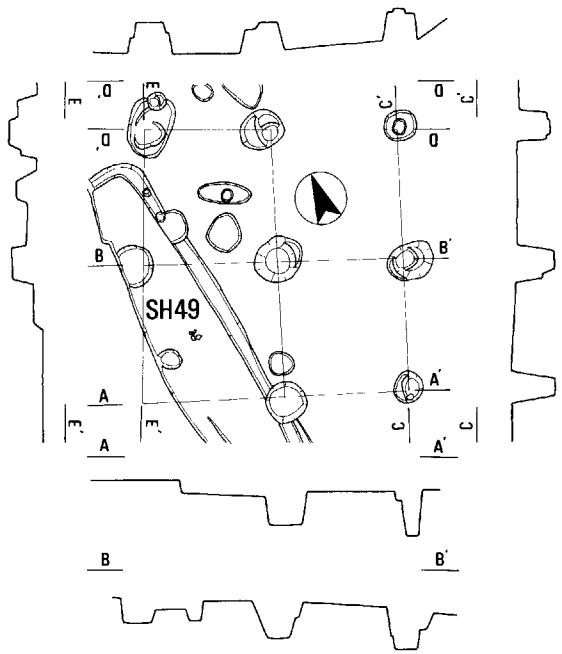
SD10（第31図）　調査区の中央を南北に延びる溝である。幅50～60 cm、長さは２次調査分も含めて約34 m、深さ10～70 cmである。南部１／４では削平が進んでいるため浅くなる。南部でやや西に折れる。断面形は逆台形を呈する。SD44とほぼ直交する。平安時代末期～鎌倉時代と推定する。

SD37（第31図）　SD10の東側を走るが、南に開いていく。SD10との距離は、溝肩内側で、北端では2.7 m、南端では4 mである。幅80 cm、長さ27 m、深さ12～15cmである。断面逆台形をしている。平安時代末期と推定する。

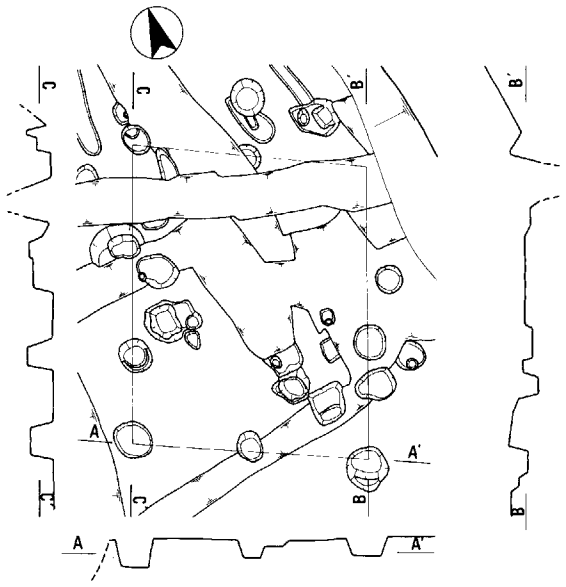
SD50（第33図）　SD38の東部を切る溝である。調査区内からさらに南に延びるものと考えられる。

(3) 時期不明

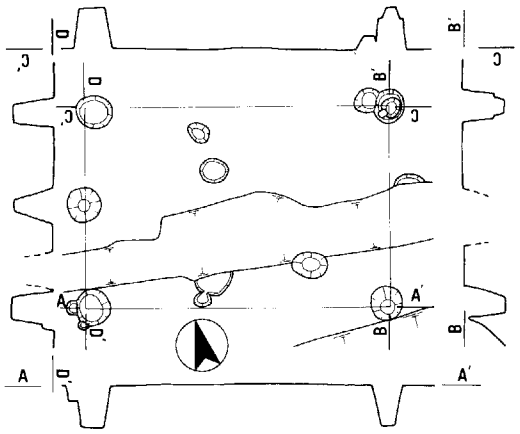
掘立柱建物は柱穴からの出土遺物が少なく、時期が判断できないため不明とした。溝は２条とも戦中から戦後のものであろう。



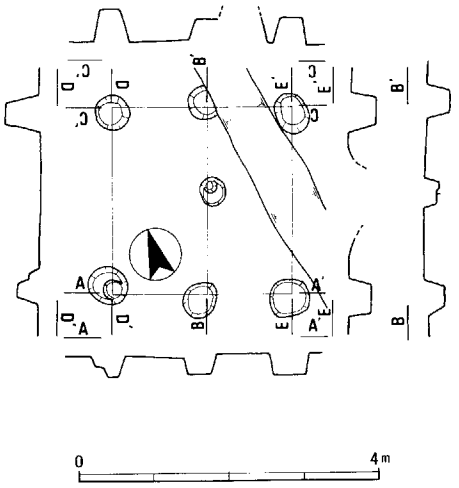
SB46（水糸高は 19.000m）



SB154（水糸高は 19.000m）

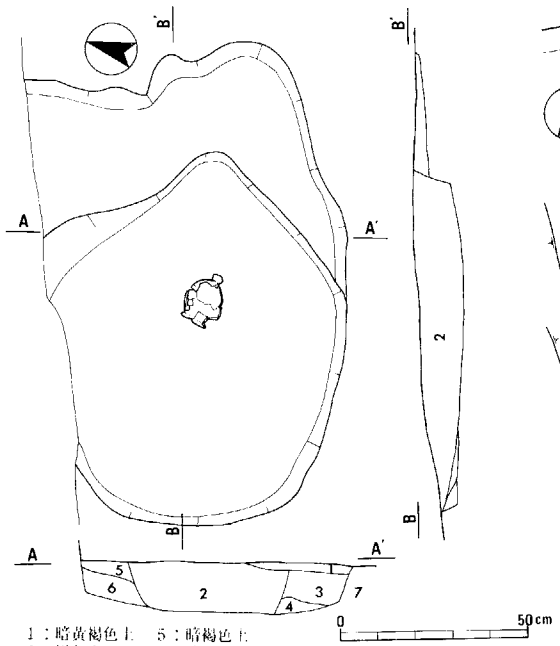


SB131（水糸高は 19.000m）



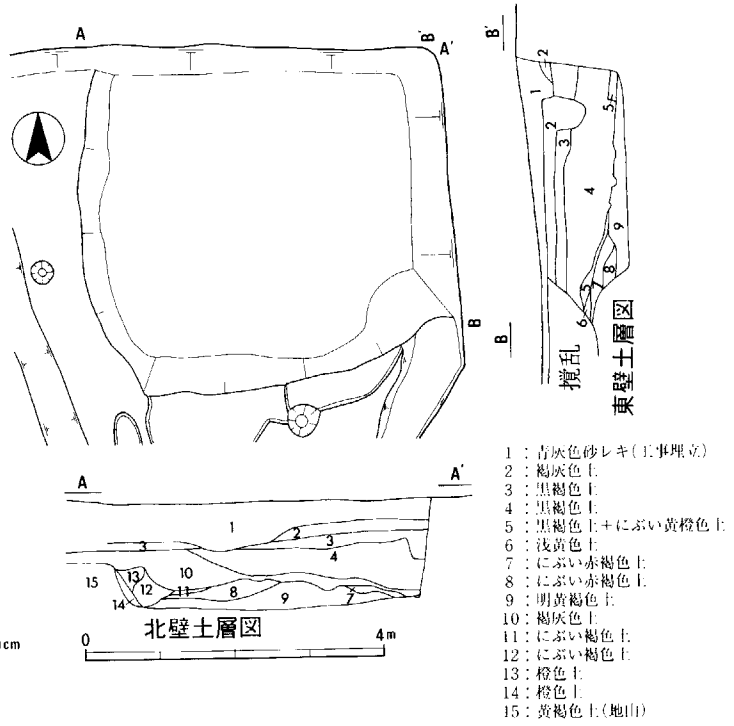
SB153（水糸高は 19.400m）

第28図　ＳＢ 46 ・ 131 ・ 153 ・ 154 実測図（１： 100）



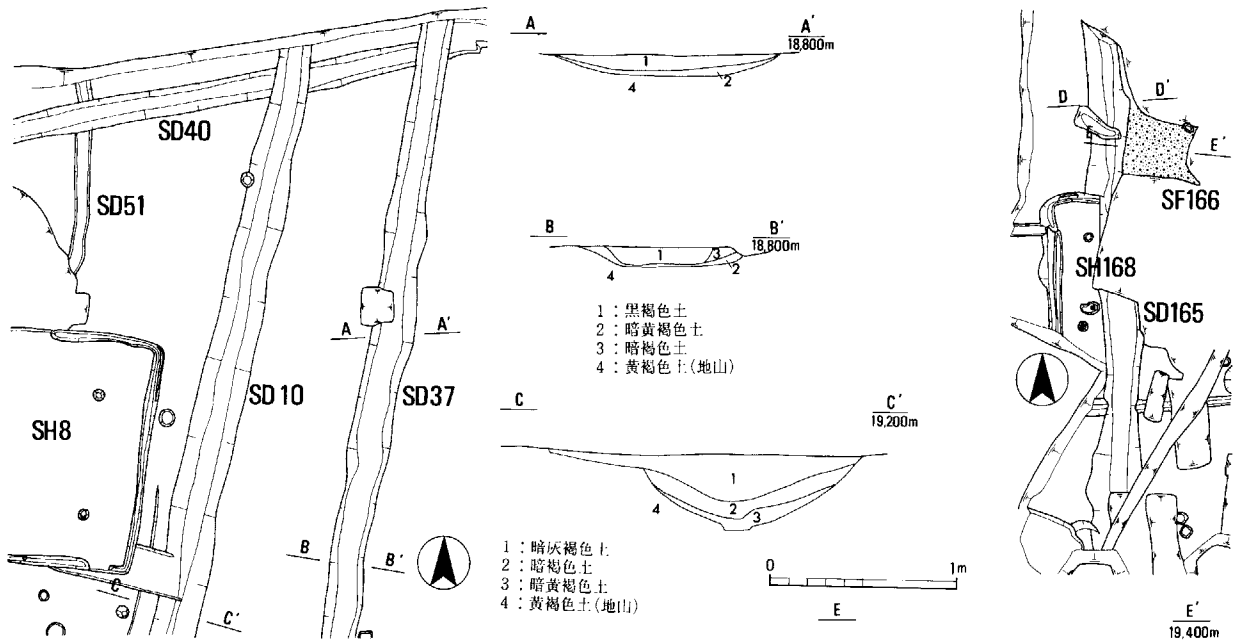
1：暗黄褐色土　5：暗褐色土
2：黒色土　6：暗黄灰色土
3：暗黄灰色土　7：黄褐色土レキ混じり
4：黄褐色土

第29図　ＳＫ５実測図（１： 20、水糸高は 18.800m）

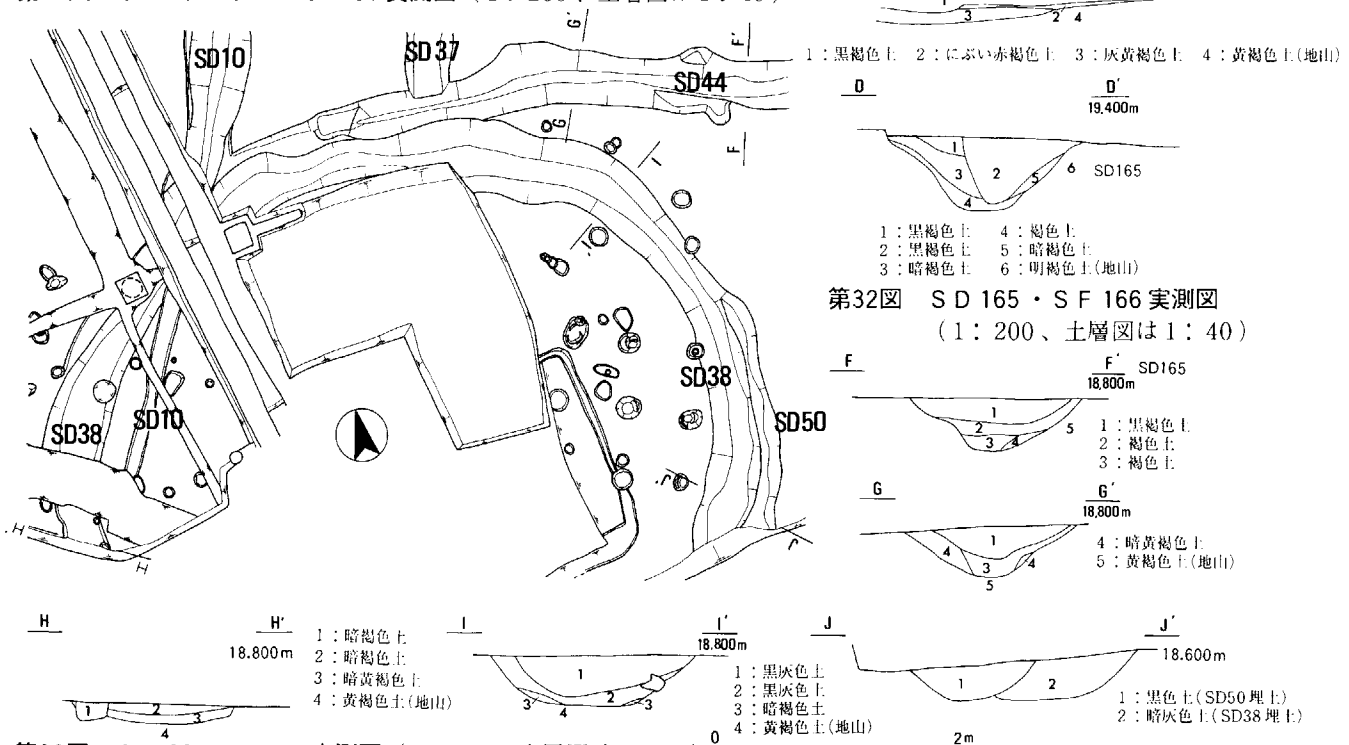


1：青灰色砂レキ（工事埋立）
2：褐灰色土
3：黒褐色土
4：黒褐色土
5：黒褐色土＋にぶい黄橙色土
6：浅黄色土
7：にぶい赤褐色土
8：にぶい赤褐色土
9：明黄褐色土
10：褐灰色土
11：にぶい褐色土
12：にぶい褐色土
13：橙色土
14：橙色土
15：黄褐色土（地山）

第30図　ＳＫ 141 実測図（１： 100、水糸高は 18.200m）

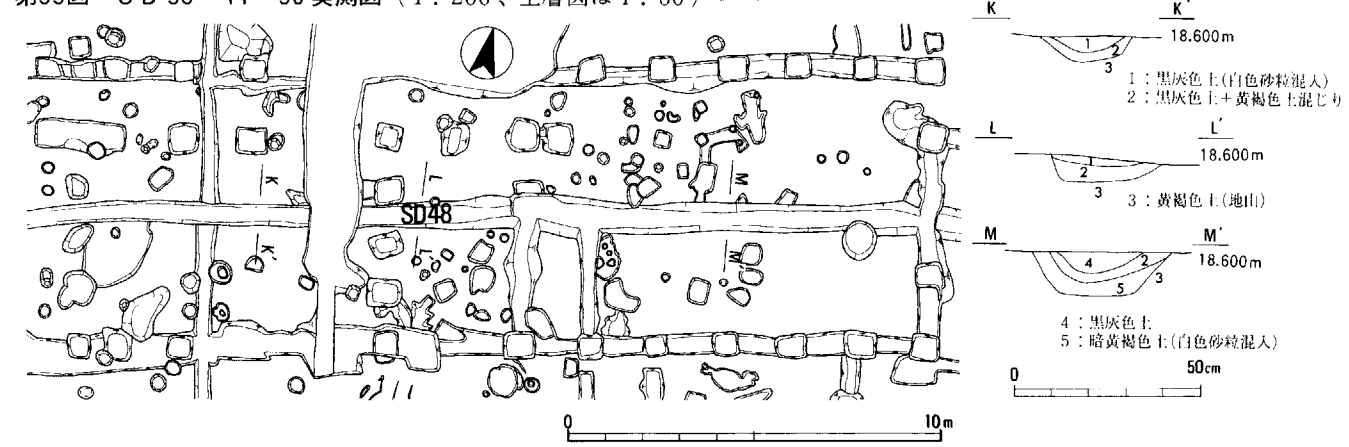


第31図　ＳＤ10・37・40・51実測図（1：200、土層図は1：40）



第32図　ＳＤ165・ＳＦ166実測図
（1：200、土層図は1：40）

第33図　ＳＤ38・44・50実測図（1：200、土層図は1：60）



第34図　ＳＤ48実測図（1：200、土層図は1：20）

SB131（第28図）　東西１間×南北２間の建物で、規模は4.0m×2.7mである。南北柱間は1.35mの等間隔である。棟方向はＮ78°Ｗである。東西柱間が、4.0mと広いが、方形に合うため建物とした。東柱通りの中央の柱穴は、攪乱溝により不明である。

SB154（第28図）　東西２間×南北３間の建物で、規模は 3.1m×4.0mである。柱間は東西が東から1.6m、1.4m、南北が北から1.3m、1.4m、1.1mである。棟方向はN23°Ｅである。

SB153（第28図）　南北１間×東西２間の建物で、規模は2.5m×2.4mである。東西の柱間は1.25mの等間隔。中央の南北柱間にやや小さな柱穴がある。棟方向はＷ17°Ｎである。門の可能性がある。

SD48（第34図）　Ｅ区北部を東西に走る溝である。旧建物と平行であるため、病院関連の施設である可能性が高い。幅50～80㎝、長さ51.3m、深さ15～25㎝。断面は西部では長方形、東部では逆台形となる。埋土は表土及び乱れた粘土である。

SD55　Ｅ区の北西部を南北に走る溝ＳＤ48とほぼ直交する。病院関連施設の可能性が高い。

4　まとめ

古墳時代後期の竪穴住居配置について

この調査区で検出した古墳時代後期の竪穴住居は17棟である。その時期は、古墳時代後期の中でも６世紀第１四半期にほぼ収まるものと見られる。

竪穴住居は調査範囲の南西辺に並んでいるように見られる。特に、Ｉ区南部からＨ区、Ｅ区にかけては住居が数m間隔でほぼ東西方向に並ぶように配置されている。Ａ区で確認したSH１・４・６はいずれもその西辺にあり、今回のＥ区方向に広がっている。また、Ａ区北東部では住居は確認されなかった。竪穴住居は今回の調査区内では南西部に数m程度の間隔を置いて並んでいるように見られる。緩やかな規則的配置が為されているといえよう。

竪穴住居のカマドについて

検出した竪穴住居17棟の内、５棟でカマドを検出した。３基が東辺、１基が北辺、残る１基が北西辺にある。冬の季節風は北西方向から吹くが北西辺にカマドを配置するものがある。

SH53のカマドについて

ＳＨ53のカマドは遺存状況がよく、焚口部、燃焼部、煙道部の様子が確認できた。焚口部は意外に狭く低い。燃焼部の中央には支脚石が立てられている。焚口部から支脚石手前までの床面が最もよく火を受けておりよく焼き締まった状態であった。焚口部から燃焼部にかけての本体上部には、本体補強のための土器片が埋め込まれている。このうち燃焼部内に張り出している破片は熱効率向上のための工夫ではないかと考えられる[2]。

SH52の粘土塊について

ＳＨ52では白色及び黄白色の粘土塊を検出した。住居の床面に置かれており、周溝にも入り込んでいる。このことから、粘土塊は住居の存続中にここに人為的に置かれたことを示しているといえよう。住居廃絶後に溜まったものならば粘土の下にある程度の堆積土が認められる。土坑に納められてはいないが、住居存続中に意図的に置かれたものであろう。土器製作のための原料と考えられる。

SH6の集中土器について

ＳＨ６埋土中から検出した土師器類のうち台付甕は、山城編年[3]にいうＶ式から６世紀第１四半期に収まるものと考えられる。

30数個以上と見られる土器を竪穴住居に集めたのはなにを目的としたのだろうか。

２次調査の報告時には仮定であったが、今回の調査成果のSH52で検出した粘土塊や、時期はやや下るが土師器焼成坑の検出したことを考えると、高茶屋大垣内遺跡では土師器を製作していたと見られる。とすればＳＨ６の土師器群は、土器の保管を目的としたものと考えられないか。当該時期の土師器焼成坑が検出されなかったのは残念であるが、今回の調査区以外のどこかにあるものであろう。土器製作が自家消費のためのものか、他集落等への供給のためのものかは不明である。

SH52出土の土馬(170)について

頭部のみの破片である。タテガミ、目、鼻、口を刻み、手綱、胸繋、面繋を粘土紐を貼り付けることで表現している。馬体にかかわることは刻みで、馬に装着する馬具類は粘土紐貼り付けで、土馬の装飾方法を使い分けていることがわかる。竪穴住居埋土の最上層からの出土であるが、共伴する須恵器から６世紀前半と考える。

Ⅳ　F区の調査成果

1　はじめに

F区は、天神川に解析された谷の北側、台地の東南隅に近い部分にある。調査区は病院の実習農園として利用されていた地区で、現況は畑地である。調査区の東方50mには第1次調査区がある。

院内保育所建設予定であり、駐車場予定地を含む敷地全面を調査対象とした。ガス管、下水管、雨水管の埋設に伴う工事立会も、適時に実施した。

2　基本層序

F区は、従来から土器片がよく見つかっていた。地表面から30～40cm厚の褐色耕作土層直下にある黄褐色土層を基盤層として遺構検出を行った。耕作土（表土）は包含層でもあり遺物を含んでいる。

3　遺構と遺物

古墳時代後期と飛鳥・奈良時代の遺構・遺物が高密度に検出できた。遺構埋土が褐色であるため、細かな遺構の切り合い等の確認は困難を極めた。遺構・遺物の密集は調査区北部3／4程で、南部ほど流失したものか残りが悪く、南部1／4程は遺構・遺物ともにほとんど見られない。下水管工事立会では、調査範囲は狭いがピットから多くの遺物を検出し、遺構が東方向へ広がることを確認した。

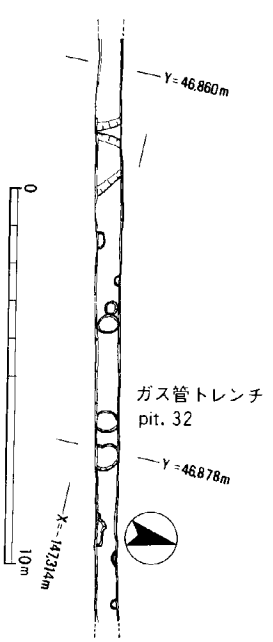
(1) 古墳時代後期

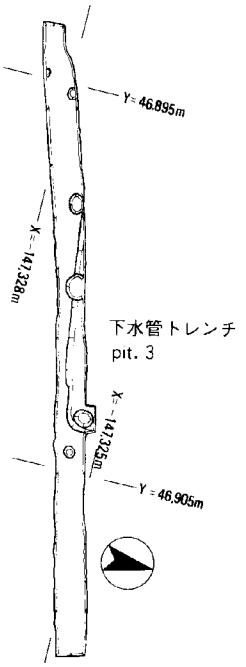
調査区全面から竪穴住居と土坑を検出した。

SH63（第37図）　調査区の北東隅で検出した。北辺は溝状の遺構に切られ、東辺は調査区外に延びる。しかし、主柱穴柱間と壁との関係から南北規模は5.8mと推定できる。また、南辺の中央をSK70に切られる。主柱穴は2カ所で検出した。径30～40cm、深さ20cm程度である。南北軸方向はN5°Eである。西辺には幅60cm、深さ8cmの周溝がある。遺物は須恵器杯蓋・杯身(349～352)、土師器台付椀・高杯・台付甕・壺・鉢・甑・ミニチュア土器壺（353～373)などが出土している。

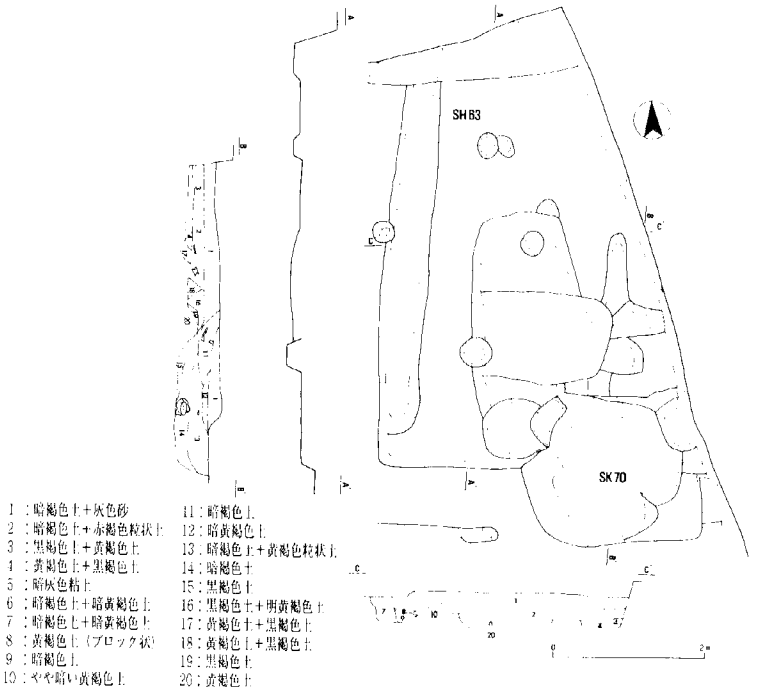
SH65（第39図）　調査区の北東部で検出した。南北7.5mを測る。東西は主柱穴と西壁の関係から7.6mと指定できる。南半部をSH127に切られる。深さは数cmで残りは悪い。南北軸方向はN3°Eである。柱間は南北4.7m、東西4mで、主柱穴は径30cm、深さ30～40cmである。遺物は須恵器杯蓋・杯身・高杯（402～413)、土師器高杯・壺・台付甕（414～419)、土錘・砥石（420～422)などがある。

SH127（第39図）　SH65の南半部を切る。南北6.1m、東西6.5m以上で、主柱穴は3カ所検出した。柱間は南北が3.1m、東西が3.3m、軸方向はN3°



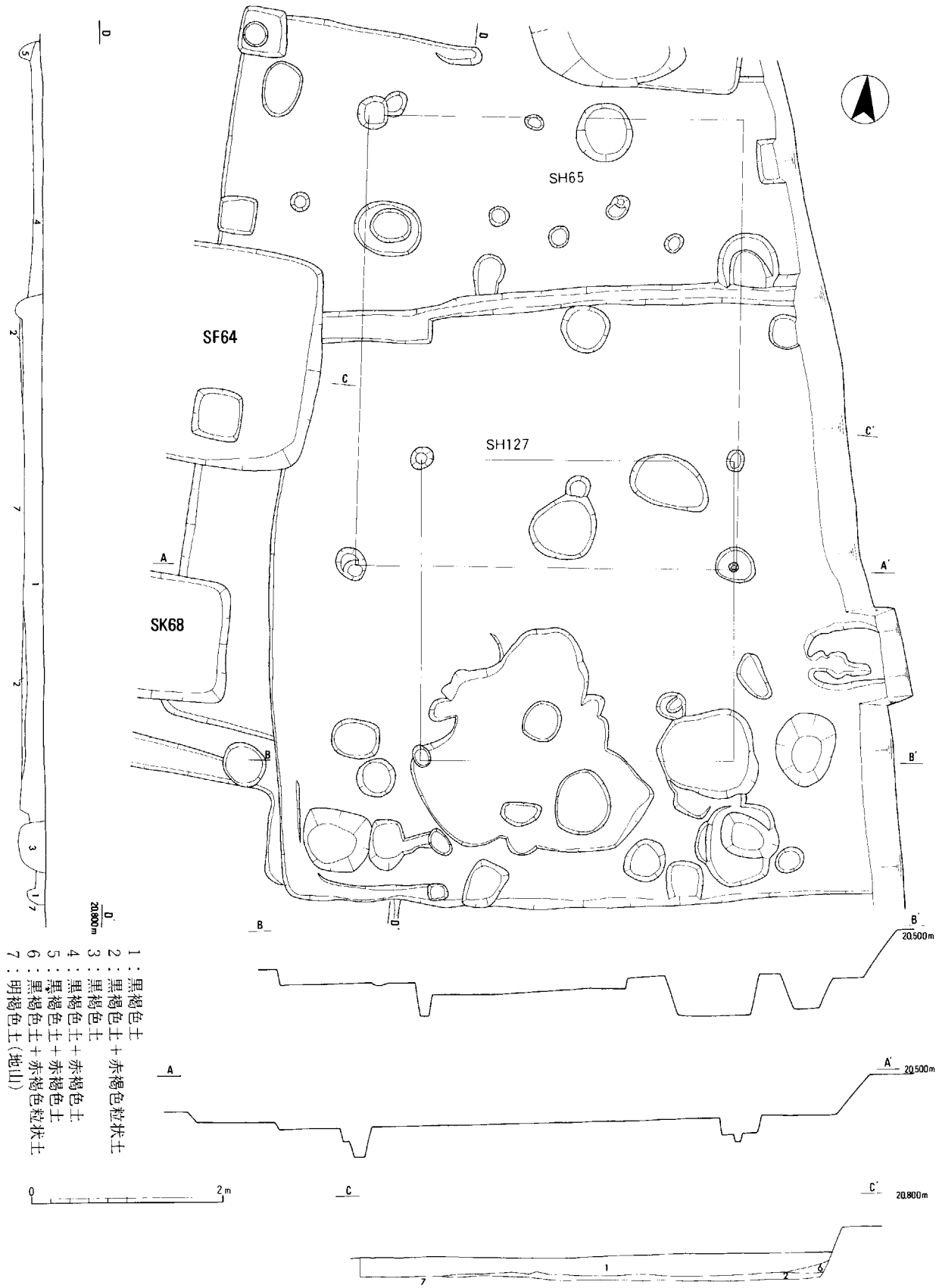


第35図　ガス管トレンチ実測図（1：200）　第36図　下水管トレンチ実測図（1：200）

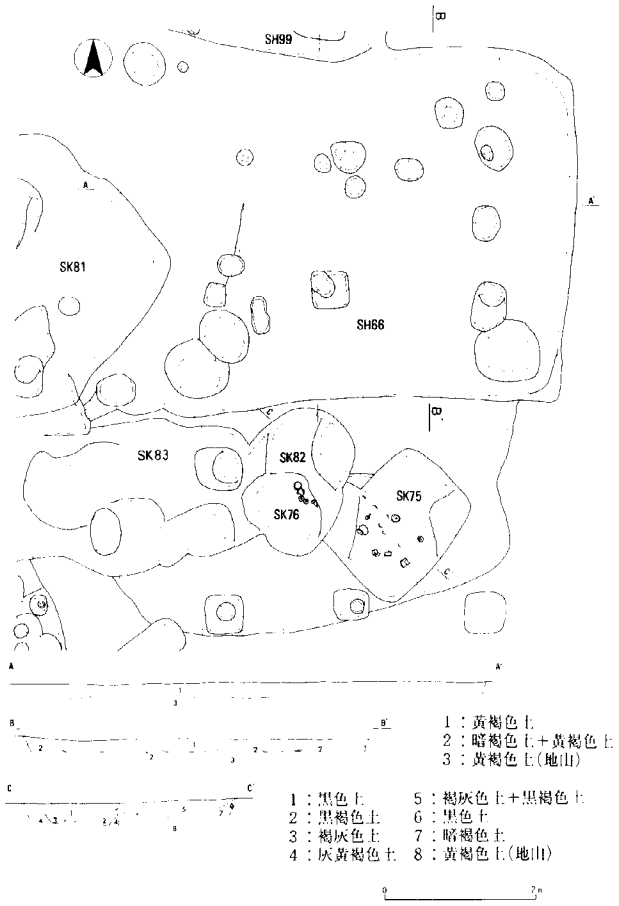


第37図　SH63・SK70実測図（1：100、水糸高は20.400m）

第38図　F区遺構平面図（1：200）



第39図　ＳＨ65・127実測図（1：60）



第40図　SH66・SK75・76・82・83実測図（1：100、水糸高は20.200m）

Eである。南東角の主柱穴はその部分に土坑があり不明である。

主柱穴は径20～25cm、深さ40cm前後である。北辺と南西隅で幅約20cm、深さ5cm程度の周溝を検出した。東辺中央やや南寄りでカマドを検出した。カマドは両袖の基底部が数cm残る。煙道部等は調査区外のため不明である。支脚石を立て、袖部は焼土粒を含む褐色粘質土で造られている。住居埋土中からは、須恵器杯蓋・杯身（430～434）、土師器杯・高杯・鍋・台付甕（435～448）などの土器片が多量に出土した。床面から遊離しているものがほとんどだが、中には床上1cm程度のものもあった。

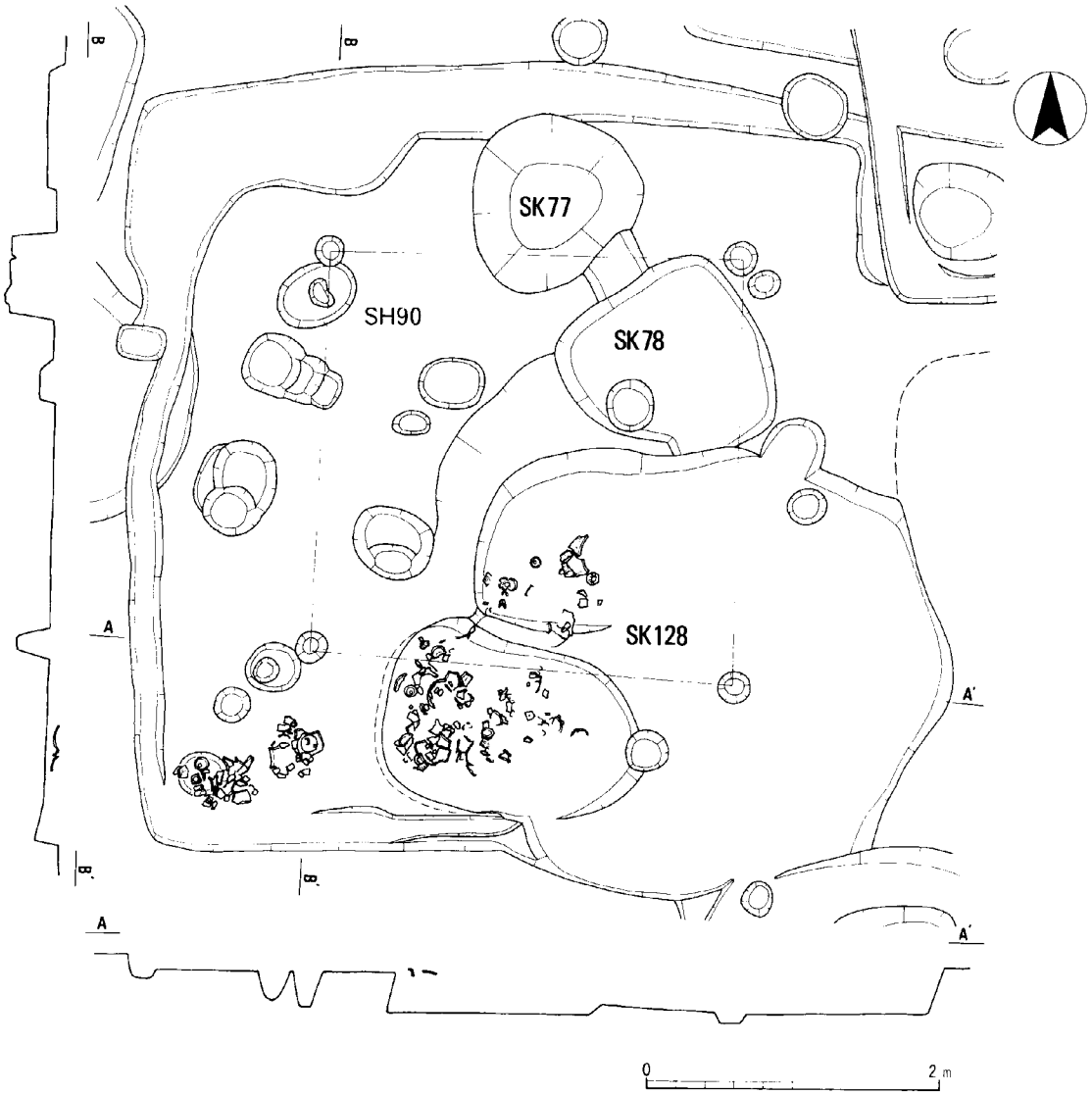
SH66（第40図）　調査区の北部で検出した。南北4.6mで、SH99を切っている。北東角、北西角で主柱穴を確認した。主柱穴は径20cm、深さ25～40cm、柱間は1.8mである。北東角の主柱穴と東壁は1.1mであることから東西規模は4mと推定できる。北辺でカマドの痕跡と思われる焼土を検出したが、袖等のカマド構造は残されていなかった。周溝は見つからなかった。須恵器杯・杯身（374～382）、土師器椀（383・384）・高杯（385～389）・把手付鉢（397）・台付甕（390～396）・甕（398・399）・鉢（400）・壺（401）が出土した。

SH71（第51図）　SH127の南にある。北西の隅と北西角・南西角の主柱穴を検出したにとどまる。南西部をSK79・80・87に、北東部をSK72に切られ、SF73を切る。主柱穴は径30cm、深さ35cm、柱間は3.8mである。調査区外に延びるため全体規模は不明であるが、北西角の主柱穴から出土した北の壁面までは1.6mであることから、全体規模は一辺約7m程度と推定できる。主柱穴から台付甕の脚部片が出土したため古墳時代後期と考える。

SH90（第41図）　北東部をSH127に切られる。平面はSK77・78・128に切られている。相当削平されており周溝及び主柱穴を検出したのみである。規模は東西5.2m、南北4.8mとやや東西に長い。東辺の周溝は削平されていたため、東西規模は主柱穴と西周溝の間隔から推定した。主柱穴は4カ所で、径20cm、深さ20～30cmである。柱間は東西3m、南北2.7mである。北東角では柱穴2基を検出した。周溝は北辺と西辺、南辺の西半で検出した。北辺と西辺の北部1mほどが幅40～60cmと広く、他は幅20cmで、深さ5～8cmである。当初はSD86・SK90としていたが、竪穴住居と判明し、SH90と変更した。須恵器杯蓋（452）、土師器台付甕（453・454）、獣形土製品（455）が出土した。

SH91（第43図）　調査区中央やや東寄りで検出した。東西3.7m、南北3.9m、深さは北辺で10cm、南辺では2cmである。東南部は確認できなかった。主柱穴は3基確認したが、東南角では確認できなかった。須恵器杯身（423）・短頸壺（424）が出土した。

SH99（第42図）　調査区の北部で検出した。南部のみで他は調査区外に拡がるため、平面規模は不明であるが深さは30cmであった。南辺をSH66に切られる。東南角の主柱穴を検出した。径20cm、深さ17cmで、東辺、南辺から1.3m離れている。南西部では周溝を、東南部で貯蔵穴を検出した。貯蔵穴は一辺70cmの隅丸方形で深さ40cmである。埋土中から土師器壺1／2個体分（470）を検出した。この壺を貯蔵穴に据えていたように見られる。須恵器杯蓋・杯身（456～461）・高杯蓋（462）、土師器高杯（463）・



第41図　ＳＨ90実測図（１：50、水糸高は20.400m）

台付甕（464～469）・壺（470）、ミニチュア土器（471）、土錘（472）が出土した。

SH101　調査区北西部で検出した。東半部をＳＦ100・104、ＳＨ105に切られる。規模は東西3.5m、南北4.2mと南北に長い長方形をしている。主柱穴・周溝は検出されなかったが、北辺中央にカマドの痕跡を確認した。土師器壺（425）を倒立させ支脚としている。袖等は確認されなかった。他に土師質管状土製品口縁部の小片（426）が出土した。

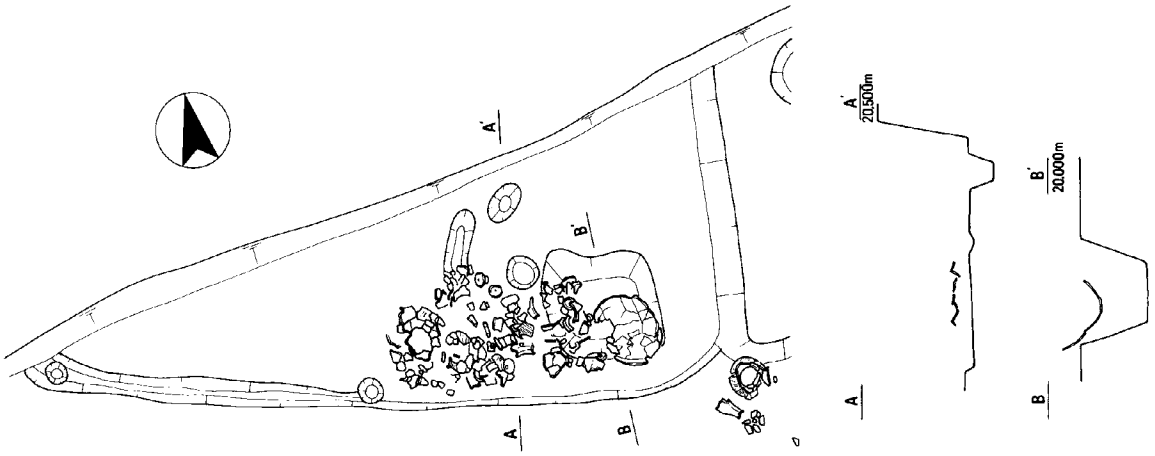
SH103（第45図）　調査区の北部中央で検出した。東西3.6m、南北３mで、検出面から18～20cmの深さがある。南西部は土坑群に切られていて不明である。東辺南寄りに焼土の多い部分がありカマドの痕跡と考えられるが、袖等は確認できなかった。須恵器杯小片（427）・土師器片（428）が出土した。

SH107（第45図）　ＳＨ103の南側で検出した。ＳＢ135、ＳＨ103に切られている。東辺・南辺と東南角を確認したのみである。検出状況から２棟が重なっている可能性が高いが、切り合いは確認できなかった。柱穴、周溝等は検出されなかった。

SH111　調査区の北西部で検出した。東西3.6m以上、南北５mである。柱穴、周溝は検出されなかった。ＳＦ112・114、ＳＫ119に切られる。須恵器杯蓋・杯身（473～475）、土師器椀（476）・高杯（477～480）・甕（481・486）・台付甕（482～484）・鉢（487～489）・獣形土製品（492）・不明土製品（491）などが出土した。

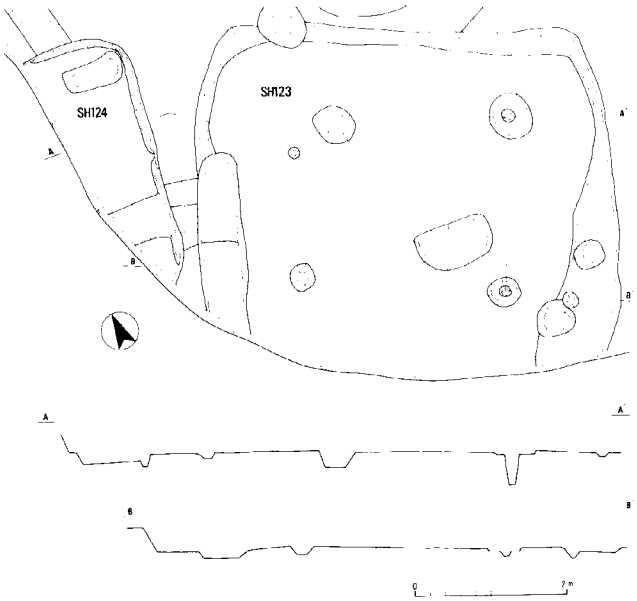
SH115　ＳＨ101を切って検出した。ＳＦ104に切られている。南半部を検出したのみで他は削平されていた。主柱穴は確認できなかった。南辺西半と西辺南半で幅20cm、深さ５cmの周溝を確認した。

SH117　SH115の南側で、南辺の一部を確認した



第42図　SH99 実測図（1：50）

第43図　SH91 実測図（1：100、水糸高は20.200m）



第44図　SH123･124 実測図（1：100、水糸高は20.500m）

のみであるが、形状から竪穴住居と判断した。南辺壁面の2個の柱穴は壁柱穴の可能性も考えられる。

SH123（第44図）　調査区南西隅で検出した。東西5.5m、南北4.8m以上である。相当削平を受けており、主柱穴、周溝を確認したにとどまる。主柱穴は径35～40cm、深さ10cm前後で、柱間は2.3～2.7mとやや不整な方形である。周溝は東、西、北辺で検出した。西と北は幅20cm程であるが、東辺は20～70cmと乱れる。深さは10cm前後である。

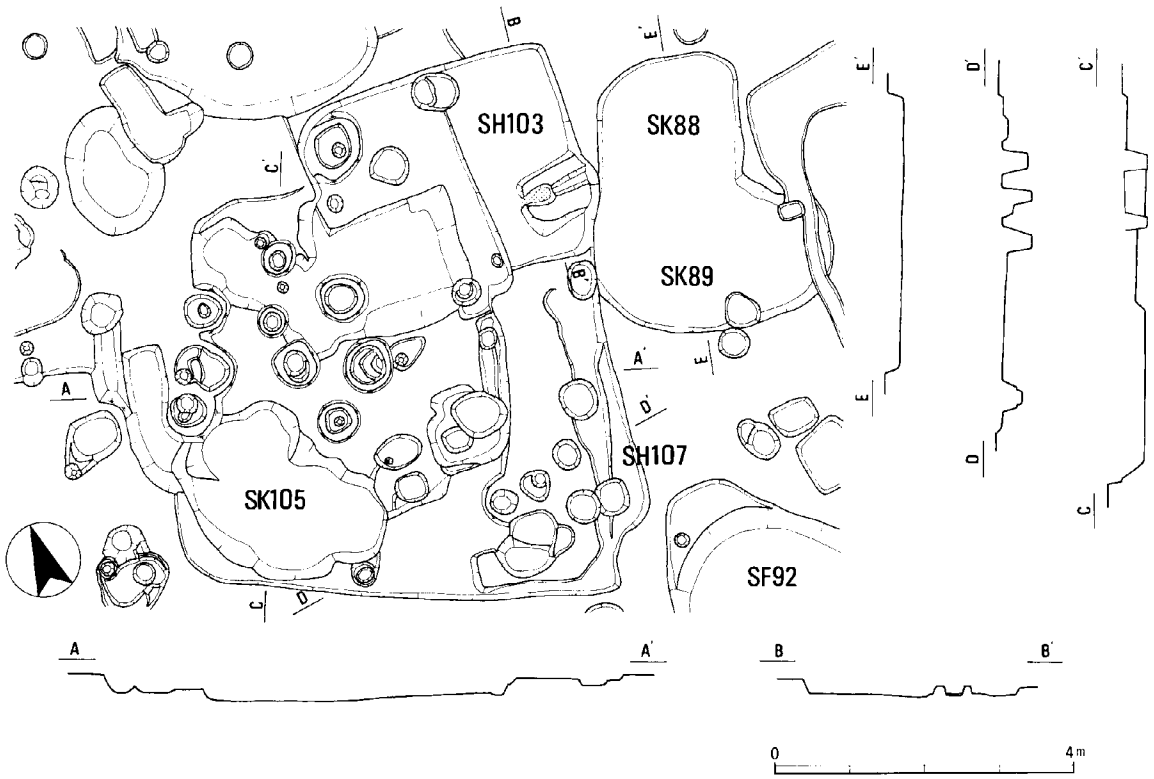
SH124（第44図）　ＳＨ123の西で検出した。住居の北東部をごく一部分検出したにとどまり、他は調査区外に延びる。主柱穴、周溝等は検出しなかったが、形状から竪穴住居と判断した。

SF73（第48-4図）　調査区東部中央付近で検出した。削平を受け、かつＳＨ71・ＳＨ90に切られているため北東の角と床面の一部を検出した。全体の規模等は不明である。検出面からの深さは最も深いところで10cmである。北壁と床面中央部で強く被熱した部分を確認した。出土遺物は少ないが、切り合い関係から古墳時代後期以前と考えられる。土師器鉢小片(651)などがある。

SK70（第37図）　調査区の北東隅で検出した径2mの不整円形土坑である。ＳＫ63に切られる。出土遺物は須恵器杯身（493・494）の他、土師器高杯(495)、台付甕（496～498）、たたき石(499)がある。

SK72（第51図）　ＳＨ71の東側で検出した方形土坑。北西角のみを検出した。深さ10cm程度である。土師器甕(598)などが出土した。

SK75・76・82・83（第40図）　ＳＨ66の南で検出した。ＳＫ75は長さ1.8m×幅1.4mの長方形、深さ30cmである。床面はほぼ平らである。東部に40cm×50cm程の台形のテラスを持つ。ＳＫ76は検出時は4.3m×1.7mであったが、10cmほど掘り下げた段階でＳＫ82、ＳＫ83に分かれたため、その時



第45図　SH103・107・88・89・105 実測図（1：100、水糸高は20.400m）

点で遺物を分けている。SK82は2m×1.4mの楕円形、深さ30cmで、南半はさらに深く、深さ45cmである。SK83は2.9m×1.9m、深さ28cmの不整長方形をしている。出土遺物は須恵器杯身・杯蓋と土師器類である（500～529）。それぞれの出土遺物にはほとんど時期差はないものと考えられる。

SK77（第51図）　SH90の北部中央で検出した。径1m、深さ40cmの断面逆台形をした円形土坑である。埋土は褐色土単層で、一時期に埋まったと見られる。土師器小形壺(530)・台付甕（531・532）・鉢（533）・甑（534・535）が出土した。

SK78（第51図）　SK77の東南側にある径1.2m程の不整円形、深さ20cm余の土坑である。須恵器高杯脚部(529)、土師器(537～547)の他、石製紡錘車(549)、獣形土製品(549）などが出土した。

SK85　SH91の南にある東西5m、南北3m、深さ5cmのごく浅い長方形土坑である。柱穴等は確認できなかったが竪穴住居の残痕とも考えられる。

SK110（第50図）　調査区中央やや西寄りで検出した2m×1.5m、深さ20cmの不整円形土坑である。平面形から2基以上の遺構が重なっていると考えられるが、切り合い等は確認できなかった。土師器甕(600)・壺(601)、たたき石(602)などが出土した。

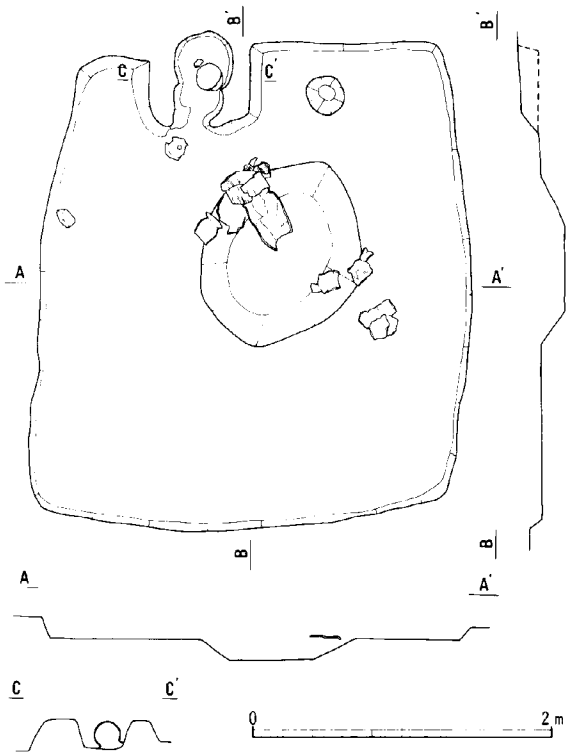
SK113　調査区北辺中央部で検出した。短辺1mの二等辺三角形状、深さ15cmの土坑である。形状から竪穴住居の南東角部分と考えられる。大半が調査区外に広がる。土師器台付甕(599)が出土した。

SK119　調査区の北西部で検出した。SH111、SF114に切られる。SH111を掘り下げて検出した段階では1基と考えていたが、掘削後の形状からは3基の土坑が重なっているものと考えられる。遺物は多く須恵器高杯（550・551)、土師器類（552～577）の他、土錘(578)、獣形(579)、ミニチュア土器(580・581)、石製紡錘車（582）などが出土した。

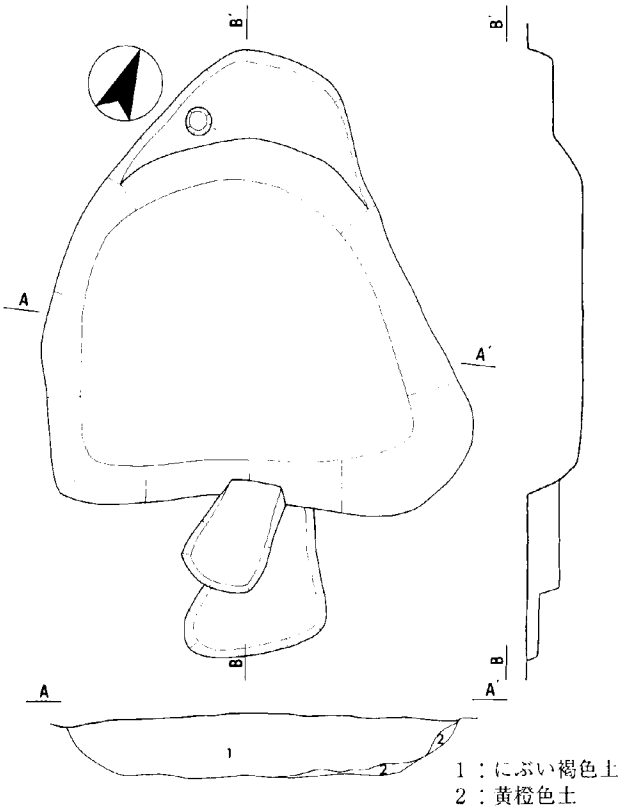
SK125　調査区の南西部で検出した。東西4m×南北3m、深さ10cm前後の、隅丸長方形の浅い土坑である。形状から竪穴住居の残痕の可能性もある。

SK126　SK125の東側で検出した。南北5.3m×東西2.8mで南半部の幅が狭くなる。深さは25cm程である。須恵器壺口頸部(604)などが出土した。

SK128　SK78の南にある径3m、深さ20cmの略円形土坑である。SH90、SF73を切っており、



第46図　SH116 実測図（1：50、水糸高は 20.400 m）



第47図　SF92 実測図（1：50、水糸高は 20.400 m）

S H90の東南部1／4にある。竪穴住居に伴う施設の可能性もある。土師器椀(583)・高杯（584～586)・台付甕(587・588)・鉢(589)・ミニチュア土器（590）などが出土した。

SK129　S K108の北西側で検出した不整形土坑である。土師器椀(606・607)が出土した。

(2) 飛鳥・奈良時代

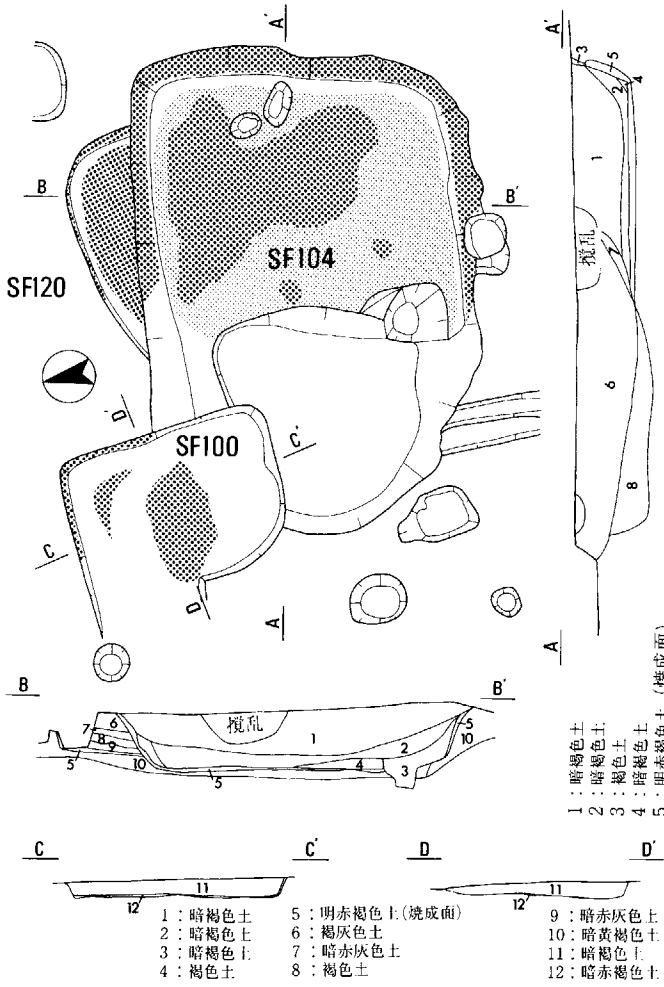
竪穴住居と土師器焼成坑、掘立柱建物がある。ここでいう飛鳥・奈良時代とは、斎宮土器編年[4]による飛鳥時代から奈良時代前半までの時期をいう。

SH116（第46図）調査区の西辺、やや北寄りで検出した。東西3.2m、南北2.9m、深さ10 数cmである。主柱穴、周溝はない。東辺やや北寄りにカマドがある。左袖は50cm、右袖は60cm程残っていた。焚口部分がよく焼けている。土師器壺(607)を倒立して据え、支脚として使用していたものと考えられる。須恵器蓋（612)、土師器杯（613)・長胴甕（615・616）が出土した。

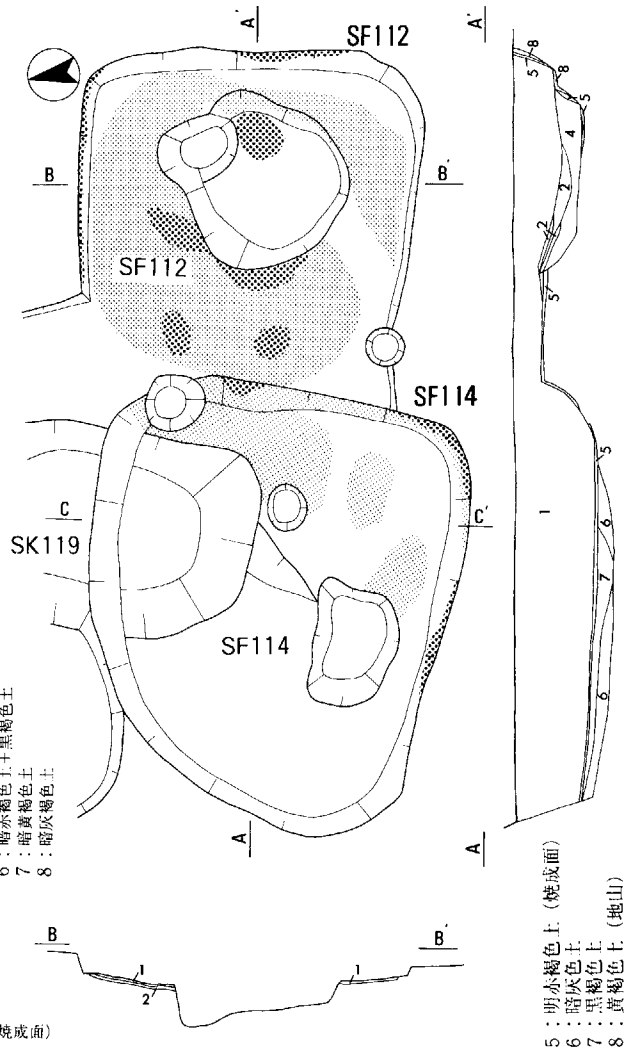
SF64（第48-3図）　調査区の北東部で検出した。東西2.25m、南北2.3m、奥壁部分の深さ26cm。床は奥壁から西方向に向かい直線的に浅くなり、検出面に至る。奥壁の一部と床面の西部中央に強い被熱がみられる。全体に削平を受けているものと思われ、平面形は長軸方向にある程度延びるものと考えられる。S B131に切られている。遺物は少なく図示できるものは須恵器鉢(629)、土師器(630～633)である。

SF104（第48-1図）　調査区北部やや西寄りで検出した。長軸3.2m、短軸2.5mの隅丸三角形で、「U」字状とも言うべき平面形をしている。検出面からの深さは最も深い部分で 50cmである。西半部は土坑が切り込んでおり、先端の形状は乱されている。焼成坑床面で確認し、土層観察用畦で切り合いを確認したものである。分層は不明瞭であったが、焼土面の途切れを決め手として判断した。奥壁と側壁は非常に強く被熱を受けており、表面から厚さ4 cmほど赤変していた。土が脆くなるほどである。壁の基部幅数cmとその周辺の床面は被熱が弱い。床面中央にも強い被熱が認められた。須恵器（636～638)、土師器（639～649）がある。

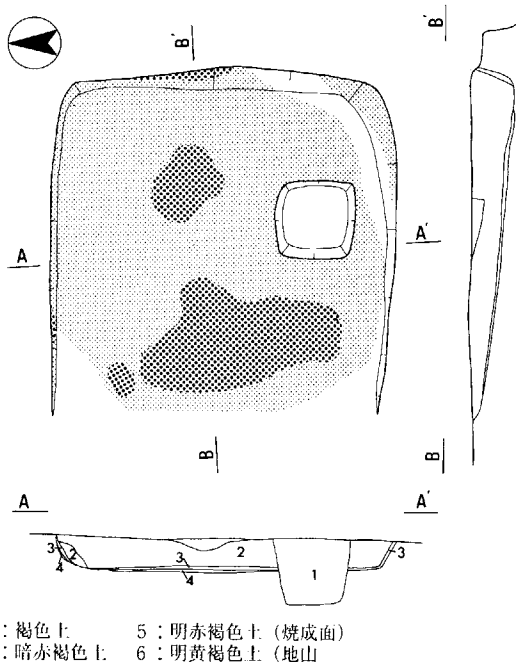
SF100（第48-1図）　SF104の北西端でこれを切る形で検出した。長軸1 m、短軸1.5m、深さ11cmである。奥壁の北半と南の側壁の一部、床面中央にや



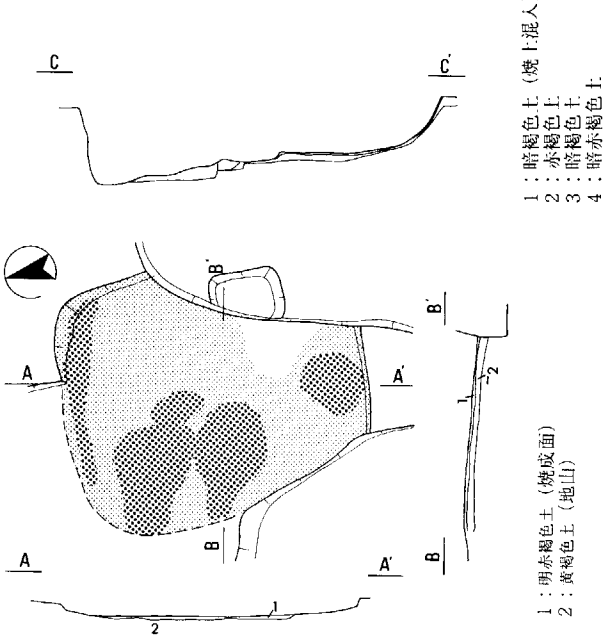
第48-1図　SF100・104・120実測図（水糸高は20.200m）



第48-2図　ＳＦ 112 ・ 114 実測図（水糸高は 20.200m）



第48-3図　ＳＦ 64 実測図（水糸高は 20.400m）



第48-4図　ＳＦ 73 実測図（水糸高は 20.200m）

0　2m

第48図　土師器焼成坑実測図（１：50）

や強い被熱が認められる。土師器杯(635)がある。

SF120（第48-1図）　SF104に切られており、北東の隅を検出したにとどまる。SF104の検出、掘削時に畦を厚く残し、遺構の保護を図った。SF120は畦を除去する段階で検出したものである。壁面及び床面は、その接する部分を除き強く被熱を受けている。ミニチュア土器壺(650)が出土した。

SF112（第48-2図）　調査区の北西部で検出した。SH111を切る。SF114との切り合いは判然としない。長軸2.3m、短軸2.2m、深さ10cm余である。床面中央部で径1.2m、深さ20cmの不整円形の土坑を検出した。この土坑の法面も一部被熱が認められる。須恵器杯(652)、土師器甕(653)がある。

SF114（第48-2図）　SF112に繋がるようにその西側で検出した。SK119を切っている。長軸3m、短軸2.5m、深さ30～40cmである。被熱の強い部分は東半部に集まっている。西半部の床はSK119の埋土に掘り込まれているため不安定であった。遺物は須恵器(654～658)、土師器(659～671)がある。古墳時代後期の遺物が多く出土しているがSK119からの混入と考えたい。

SB132（第49図）　東西3間×南北2間の建物で、規模は 5.3m×3.9mである。柱間は東西が東から1.8m、1.8m、1.7m、南北が北から2.0m、1.9mである。棟方向はW3°Nである。柱穴は一辺0.4～0.5mの方形を呈し、柱痕跡の残るものもある。出土した土師器片から飛鳥・奈良時代と判断した。

SB133（第49図）　東西3間×南北2間の建物で、規模は 北辺が5.2m、南辺が3.9m、南北が4.1mである。柱間は東西が1.5～1.9m、南北が1.9～2.3mである。棟方向はW2°Nである。柱穴は一辺0.4～0.5mの方形を呈し、柱痕跡の残るものもある。出土した土師器片から飛鳥・奈良時代と判断した。

SB134（第49図）　東西3間×南北2間で、柱間が不均等であるが建物とした。規模は5.5m×4.6mである。棟方向はW3°Nである。柱穴から土師器皿（608～611）が出土した。

SB135（第49図）　東西4間×南北3間の建物で、規模は6.5m×4.7mである。東西の柱間は東から1.5m、1.7m、1.8m、1.5m、南北の柱間は1.6m、1.5m、1.6mで、棟方向はW18°Nである。柱穴は円形をしており、深いものは検出面から60cmを測る。出土した土師器片から飛鳥・奈良時代と判断した。

SK68（第51図）　SF64の南で検出した一辺1.5m、深さ30cmのほぼ正方形の土坑である。SH65を切る。土師器杯(618～626)・盤（627)・鉢(628)が出土した。

SK79・80・87（第51図）　SK128の東南にある径1m程の土坑3基である。埋土がよく似ており、切り合い等は判然としなかった。ごく近い時期に埋まったものと考えられよう。SK87から飛鳥・奈良時代の土師器甕(629)が出土している。SK79・SK80からは図示できる遺物は出土しなかった。

SK81（第50図）　調査区北辺中央にある。一辺3.2m、深さ35cmの方形土坑である。埋土中には灰白色粘土が見られる。北東の辺では灰白色粘土粒の集合が見られた。飛鳥・奈良時代の土師器・須恵器などが相当量出土したが、そのうちの須恵器杯身の一点(681)には「美濃」と刻印が施されていた。

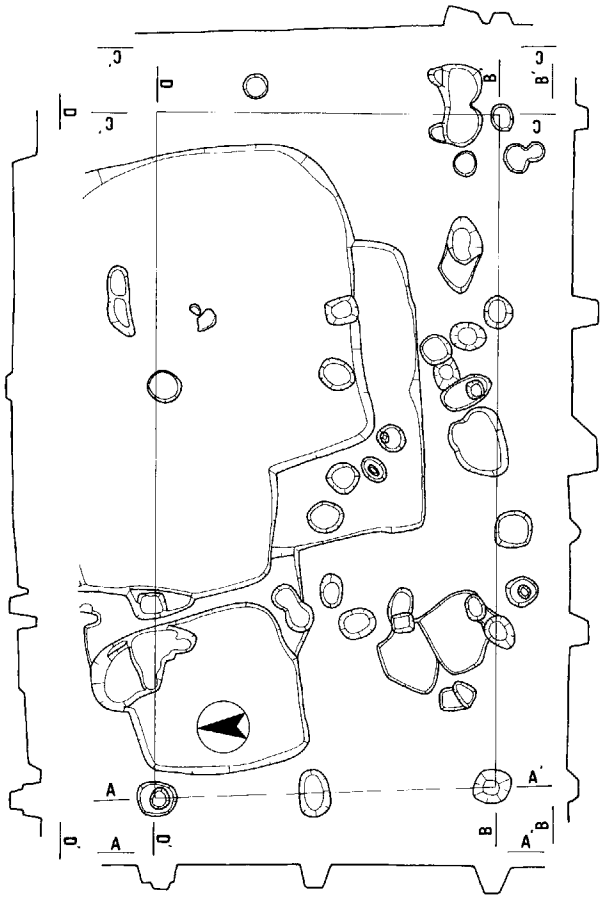
(3) その他

SK88・89（第45図）　調査区中央部で検出した。隅丸方形土坑が2基重なっているものである。切り合いは不鮮明であるがSK88がSK89を切っているものと判断した。遺物はごく少なかった。

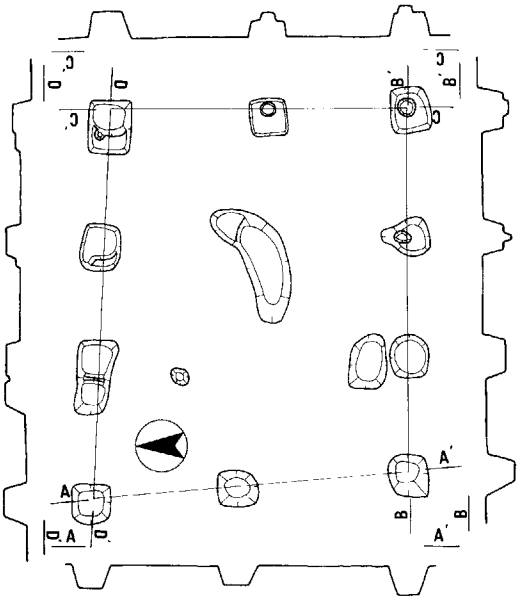
SK93～98（第50図）　調査区中央部で検出した土坑群である。数基の土坑が重なっているものと考えられるが切り合い等は不明瞭であった。遺物は須恵器（693～698)、土師器（699～708）の他、ミニチュア土器(709～711)、土錘（712・713）などがある。

SK105（第45図）　SH107の西で検出した略円形の土坑である。107との切り合いは不明瞭である。竪穴住居の痕跡である可能性もある。

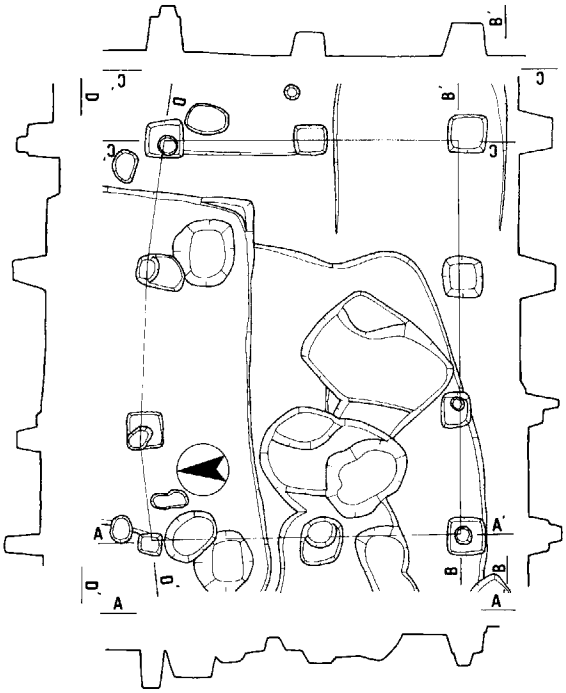
SK108　調査区中央北寄りで検出した。2m×4mの長円形に近い。深さは30cm程である。この周辺は堆積土がかなり乱れており、包含層が20～30cm堆積している。短期間に何度も掘り返されたためと思われる。そのため遺構の判別は非常に困難であり、検出までに相当掘り下げねばならなかった。他にもいくつか土坑があったものと考えられるが認識できたものはSK108である。1m内外の小さな凹みはいくつか重なった土坑の残痕であろう。土師器片などとともに石製紡錘車(603)が出土した。



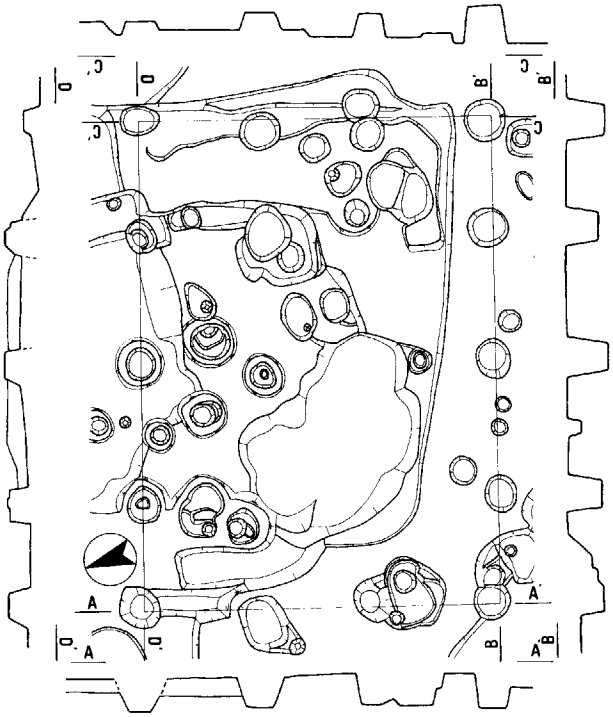
SB134（水糸高は20.200m）



SB133（水糸高は20.400m）



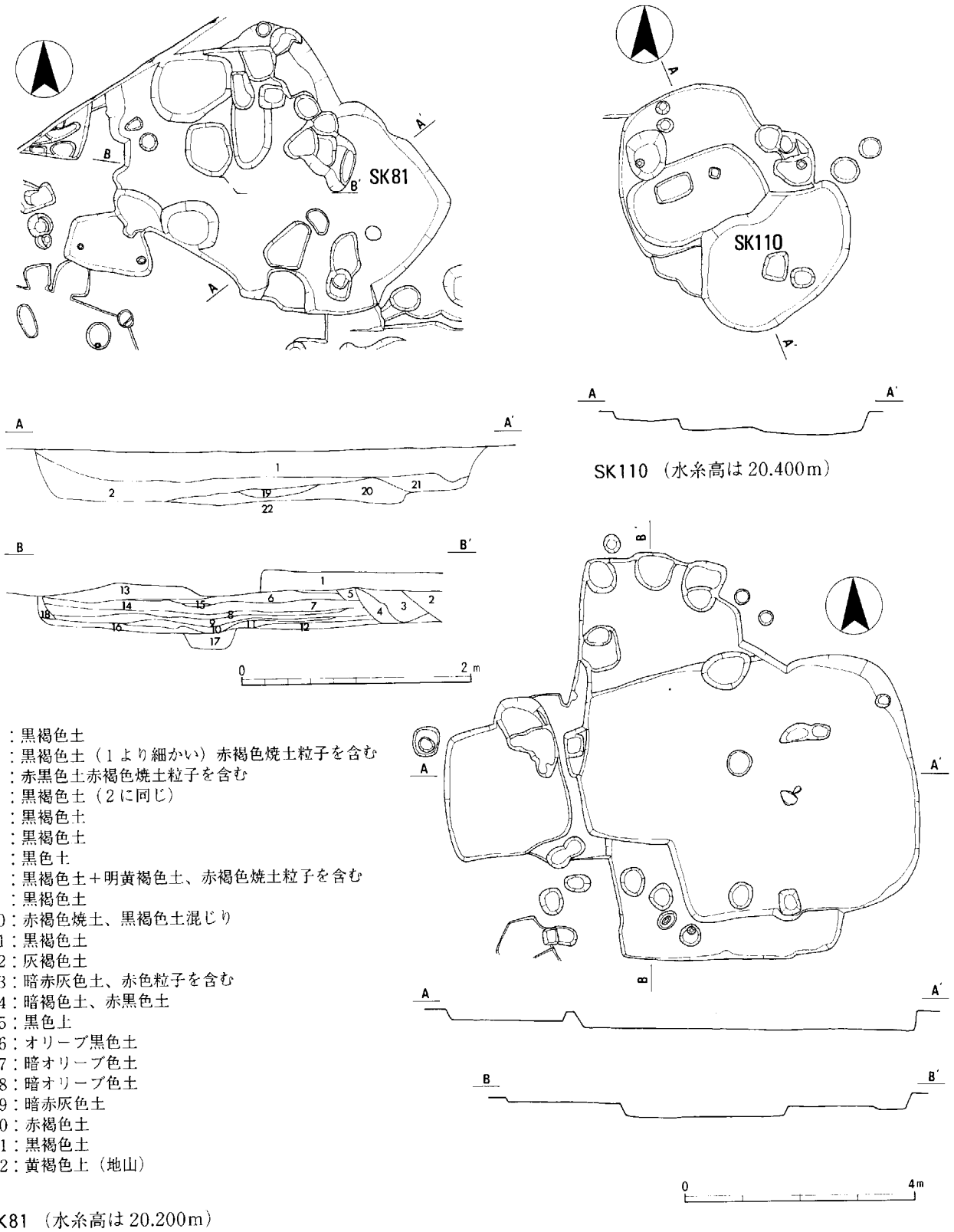
SB132（水糸高は20.400m）



SB135（水糸高は20.400m）

0　4m

第49図　ＳＢ132・133・134・135実測図（1：100）



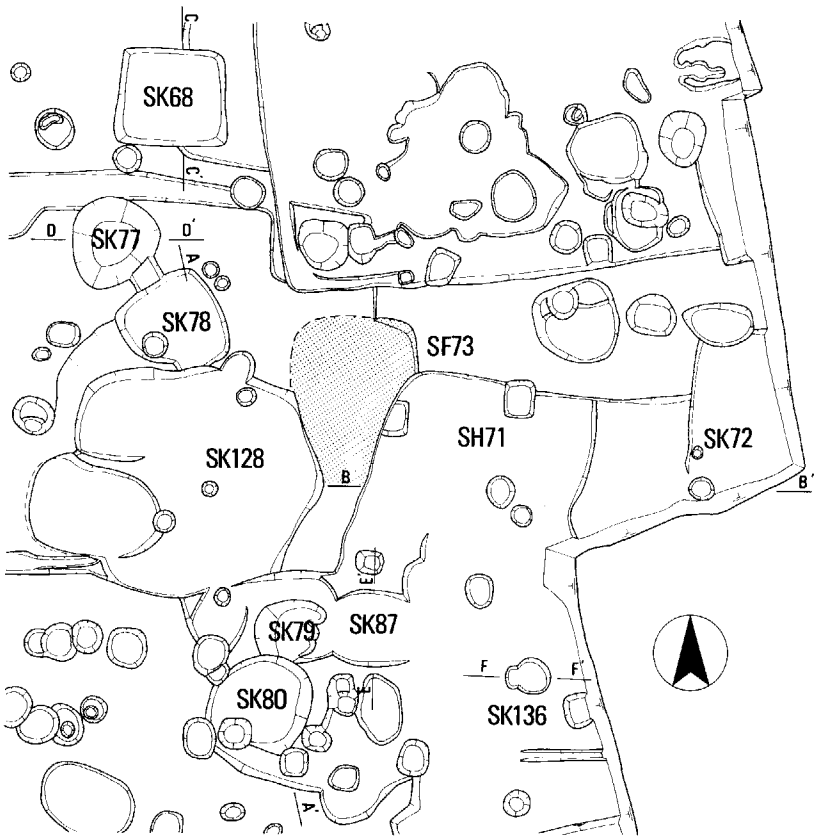
1 ：黒褐色土
2 ：黒褐色土（1より細かい）赤褐色焼土粒子を含む
3 ：赤黒色土赤褐色焼土粒子を含む
4 ：黒褐色土（2に同じ）
5 ：黒褐色土
6 ：黒褐色土
7 ：黒色土
8 ：黒褐色土＋明黄褐色土、赤褐色焼土粒子を含む
9 ：黒褐色土
10：赤褐色焼土、黒褐色土混じり
11：黒褐色土
12：灰褐色土
13：暗赤灰色土、赤色粒子を含む
14：暗褐色土、赤黒色土
15：黒色土
16：オリーブ黒色土
17：暗オリーブ色土
18：暗オリーブ色土
19：暗赤灰色土
20：赤褐色土
21：黒褐色土
22：黄褐色土（地山）

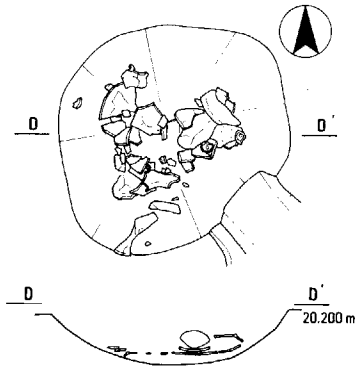
SK81（水糸高は20.200m）

SK110（水糸高は20.400m）

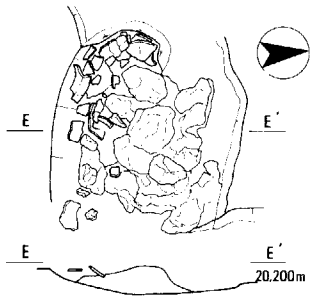
SK93～98（水糸高は20.400m）

第50図　ＳＫ81・93～98・110実測図（1：100、ＳＫ81の上層図は1：50）



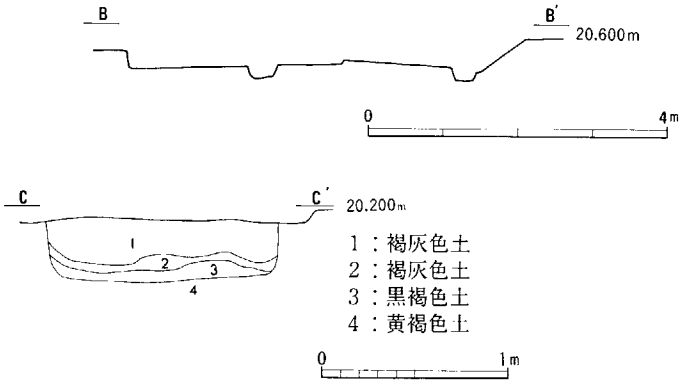


SK77　遺物出土状況（1：40）

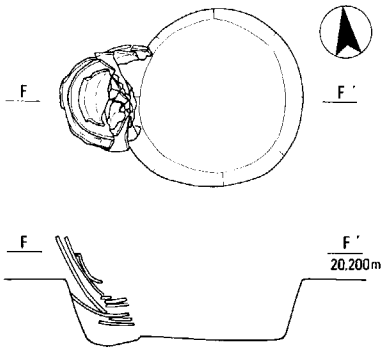


SK87　遺物・粘土出土状況（1：40）

0　1m



SK68　土層図（1：40）



SK136　遺物出土状況（1：20）

0　50m

第51図　ＳＨ71・ＳＫ68・72・77・78・79・80・87・128・136実測図（1：100）

SK94・140　調査区南部中央で検出した。東西3m×南北1.8m、深さ10cm弱の長方形であるが、東辺は円弧状になる。南辺の西端で、東西1m、南北1.3m南に張り出す。張り出した部分の南端にSK140がある。径45cm、深さ30cm程で、若干褐色土が混入しているが、ほぼ白色粘土で満たされていた。

下水管立会（第36図）　F区の北部から東方向に延びるトレンチ調査である。竪穴住居の南辺と東南角にある貯蔵穴を検出したものと推定するが、ここではピットとしておく。遺物は須恵器壺(714)、土師器椀(715)・高杯(716～718)・甕(719)・壺(720)がある。土師器高杯はほぼ完形で出土した。

包含層出土遺物　721は須恵器壺の頸部内面に須恵器杯身が溶着している個体である。723は管状土製品の一部と思われる。726は管玉、727は滑石製有孔円板、728は鉄鎌である。

4　まとめ

F区では遺構が密集しており、また遺物もコンテナ150箱（未洗浄）以上が出土するなど遺構遺物ともに密度の高い地区である。遺構埋土は基本的に暗褐色で、遺構どうしの切り合いは非常に判断しにくい状況であった。遺構の時期は古墳時代後期と飛鳥時代末～奈良時代初に大別できる。ここでは、この調査区での若干のまとめをしておきたい。

古墳時代後期の竪穴住居

病院本館地区に比べ、竪穴住居が集中している。15棟を検出したが、切り合いが複雑で判然としない部分もあり、確認し得なかった竪穴住居もあろう。住居の同時存在の検討は今後の課題としたいが、E・H・I・J区のように一定程度の間隔を空けて建てられているような様子は窺えない。住居が集中しているようにみえる。遺構、包含層からの出土遺物もこの時期のものが大半を占めている。台地の南縁に面しており居住地として適していたと考えられる。

土師器焼成坑

F区では8基、Id区で1基の計9基を確認した。土師器焼成坑内からの出土遺物は少ない。どの焼成坑も原位置をとどめる遺物はなく、また、完形に近い遺物もない。古墳時代後期の遺物を多く出土する焼成坑もあるが、埋土中に混入したものと考える。SF73は新旧関係から古墳時代後期以前と考えられるが、他の土師器焼成坑は、出土遺物は少ないけれども、飛鳥・奈良時代と考えられよう。

8基中6基は、不整な二等辺三角形状で、頂角にあたる部分が丸くなっており、底辺を東方向に向けている。また、2辺も膨らみを持っており舟形ともみえる。SF64は方形であるが、他の焼成坑と比べ残りが浅く、床面は東に傾斜している。そのため、相当削平を受けているものと考えられ、西側にさらに延び幅広い舟形様となろう。

規模は底辺が2m余りのものが5基、1m余りのものが1基である。いずれの土師器焼成坑も底辺を東に置いており、配置に規則性は見いだせないが、方向と規模はほぼ等しいものといえる。

SF92では、焼土・被熱等は検出されなかったがその形状から焼成坑と考える。[5]

被熱はほぼ全面に及んでいるが、その中でも強弱が見られる(第48図)。強く焼けている部分は、底辺及び側壁の基部から数cmより上位の部分に見られる。このことは側壁付近から熱が放出されていたことを示していると考えられる。当センタープロジェクトチームが実施した土師器焼成実験によっても同様の結果が得らた。詳しい焼成方法などについては焼成実験結果を参照された。[6]

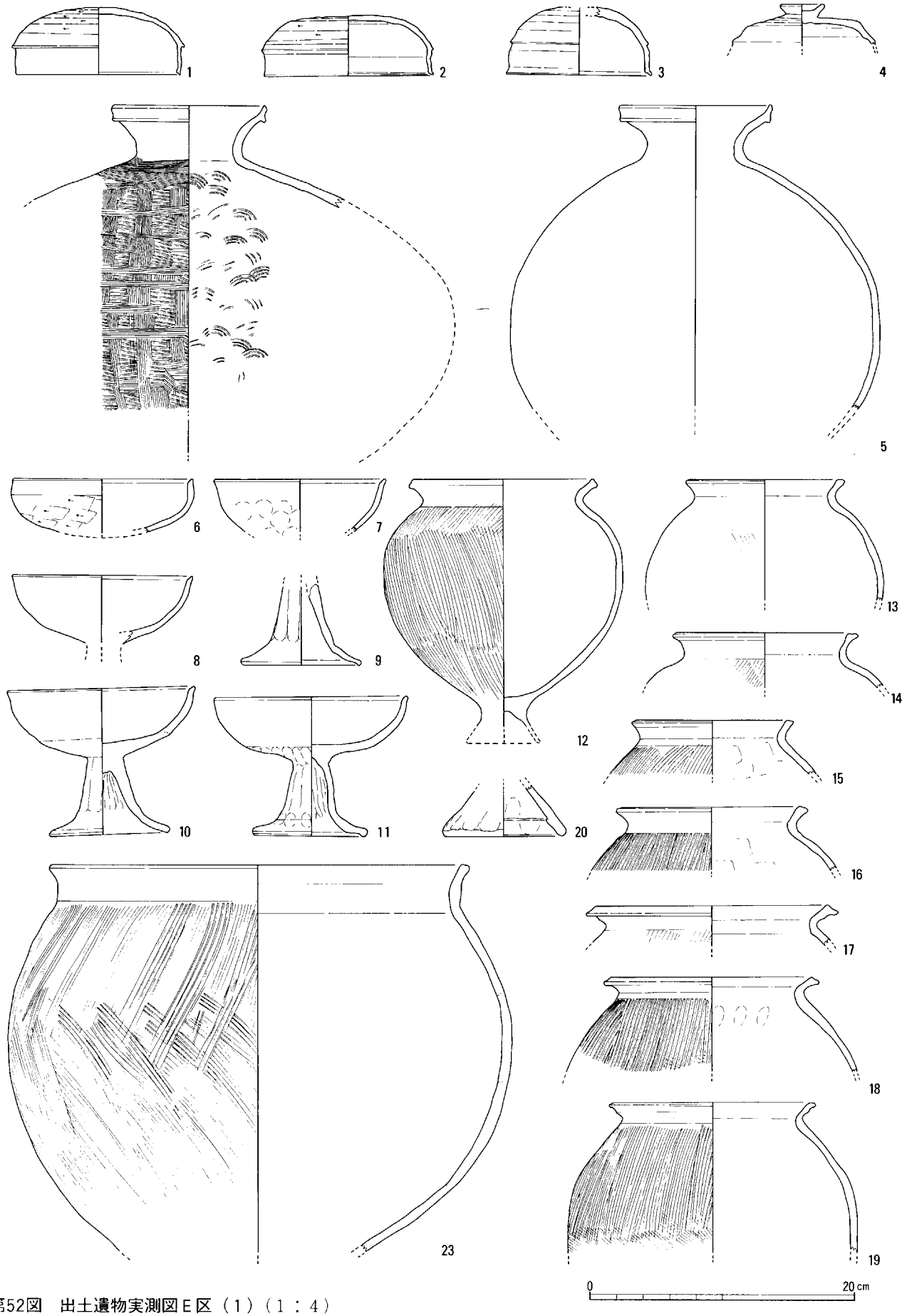
土坑群

SK81やSK93～98の土坑は、いくつかの小規模な土坑が集中したものと考えられる。切り合いが判然としなかったため、検出時の形状からSK81は1基とした。SK93～98は切り合いの確認につとめたが、確認し得なかったため集合体とした。どちらの土坑も埋土に焼土粒子を多く含んでおり、焼成坑の廃棄土砂などを捨てたものと考えたい。

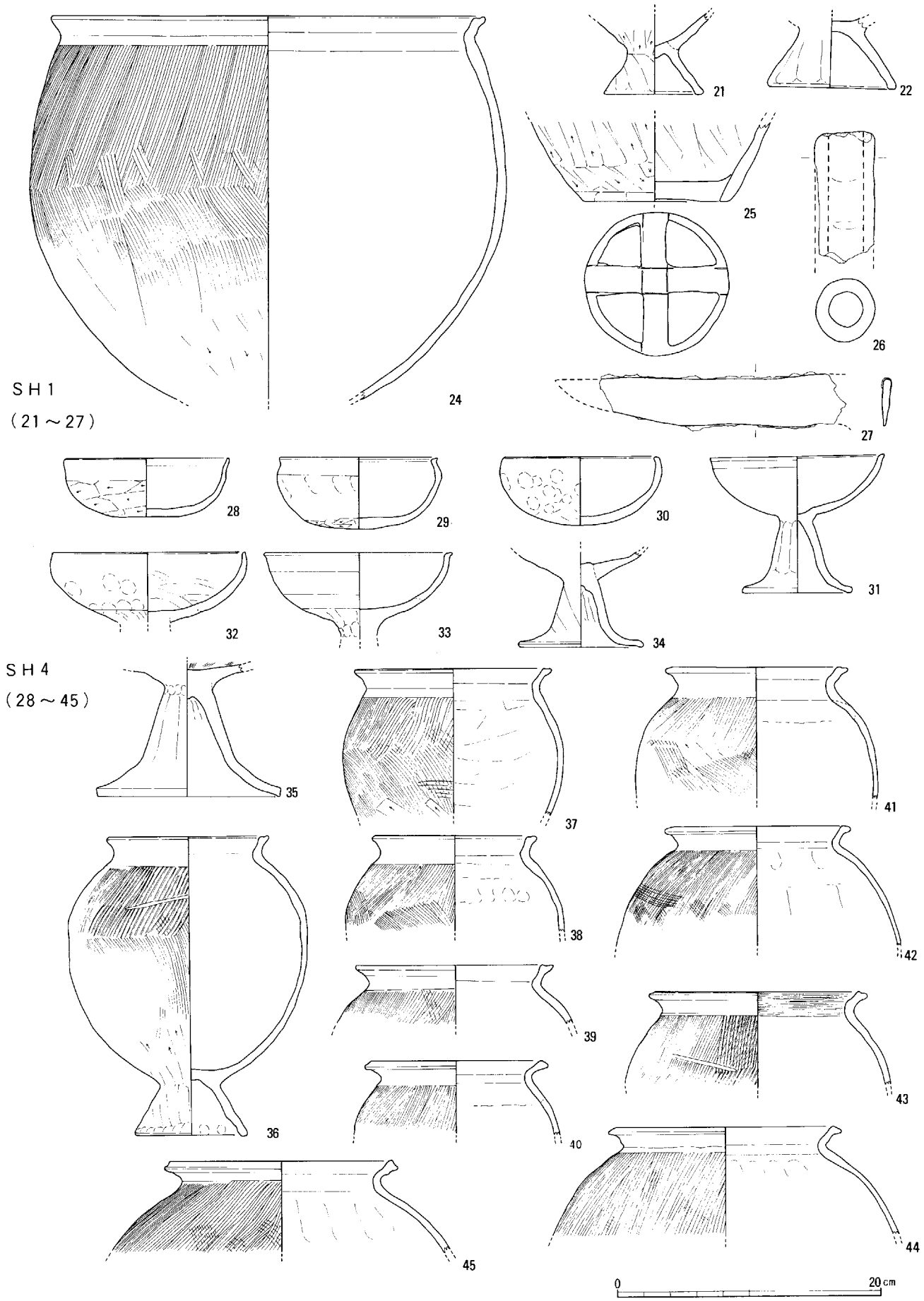
SK81出土の「美濃」刻印須恵器

無台杯身の見込み部分に刻印されていた。凸印を用いており「美濃」の2文字を縦に配置する。濃の「曲」は現代字より横線が一本多く、三水は三画目をはねる。[7] 三重県では斎宮跡の2例[8][9]と鳥羽市贄遺跡[10]の1例に次いで4例目の出土となる。他の3例はいずれも中央または伊勢神宮に関連した遺跡であるが、当遺跡では今のところそのような遺構・遺物はない。時期がややずれるが焼成坑と関連があるのか、未発見の遺構の存在か。今のところ決しがたい。

SH1

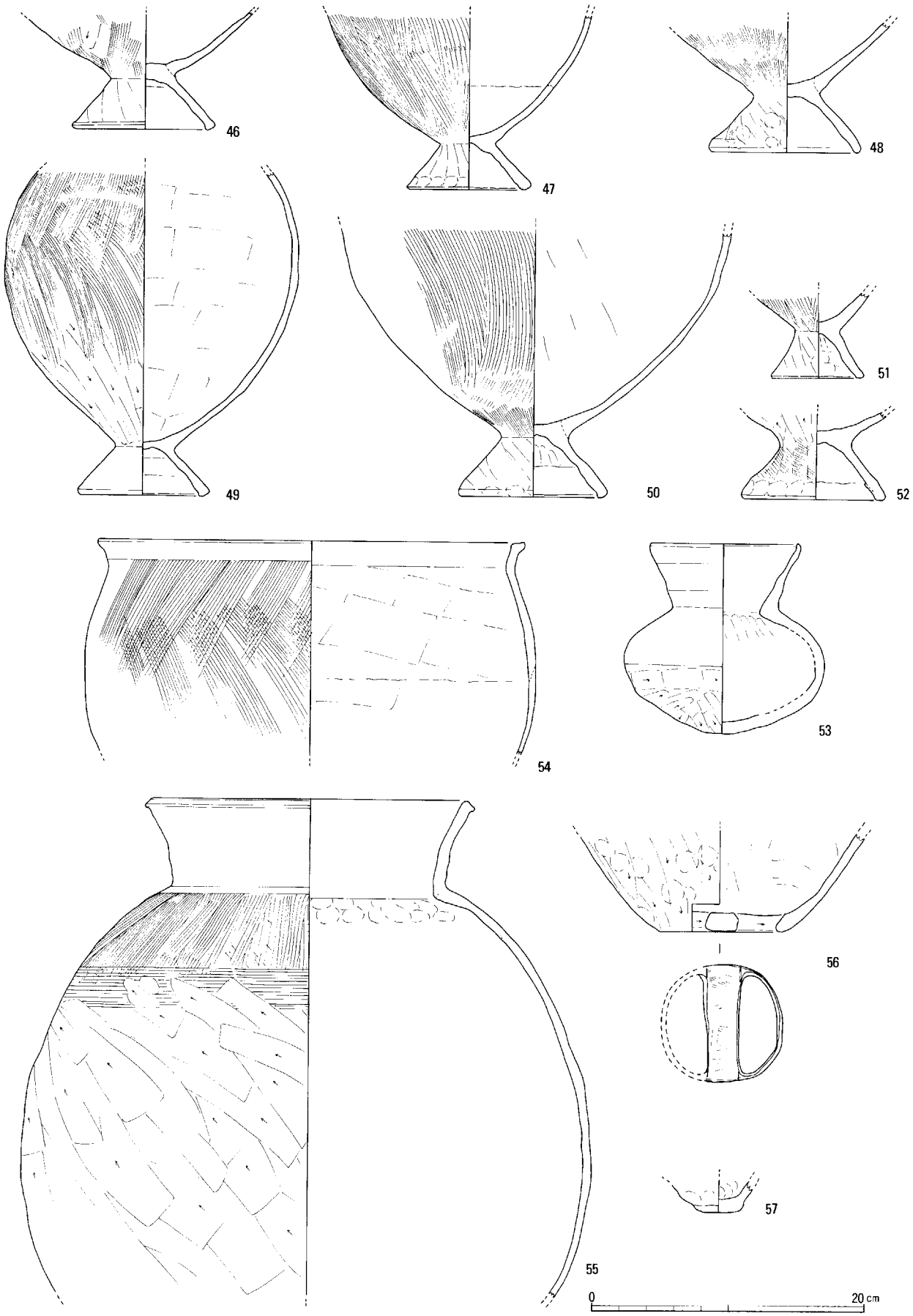


第52図　出土遺物実測図E区（1）（1：4）



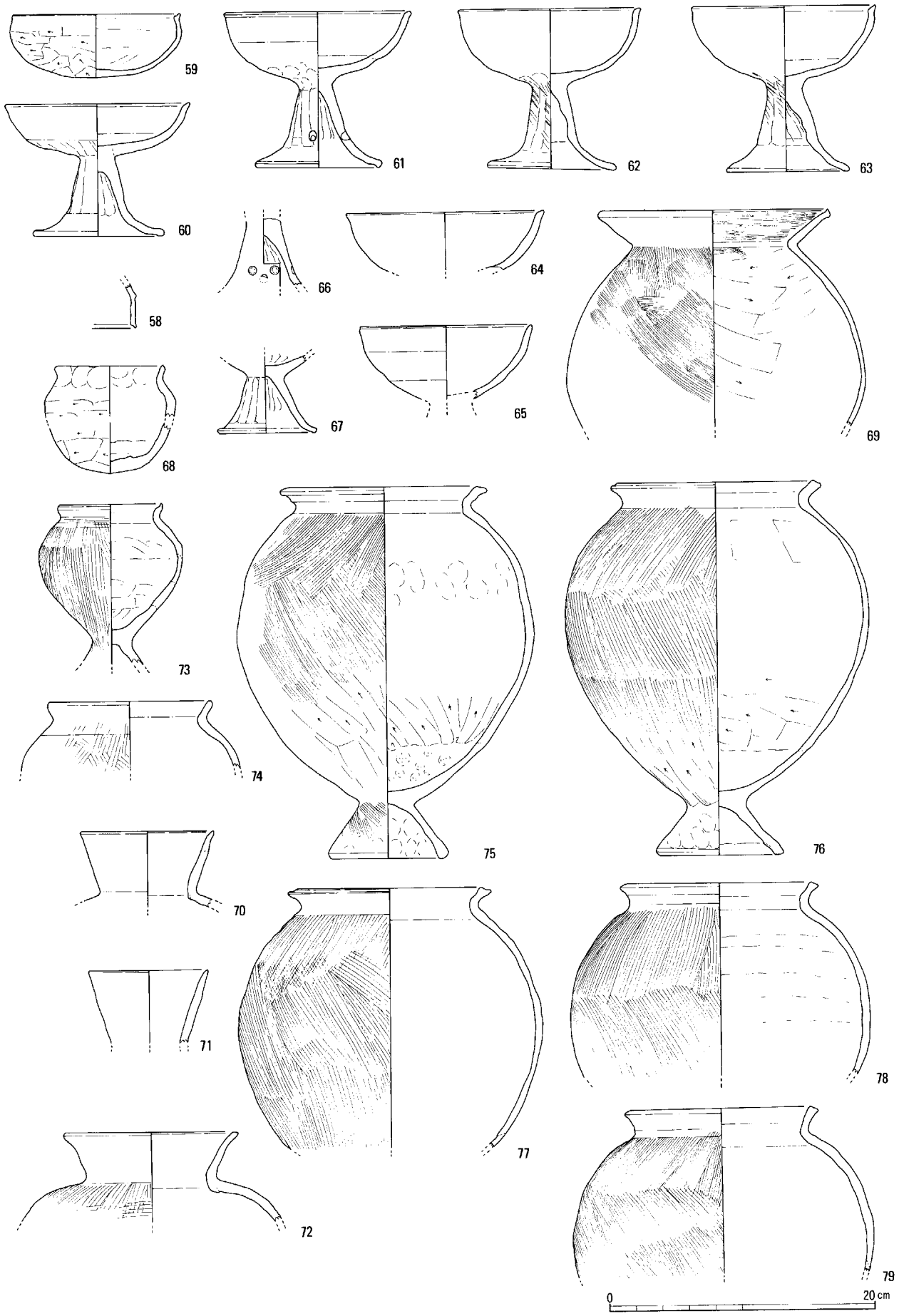
第53図　出土遺物実測図E区（2）（1：4）

ＳＨ４



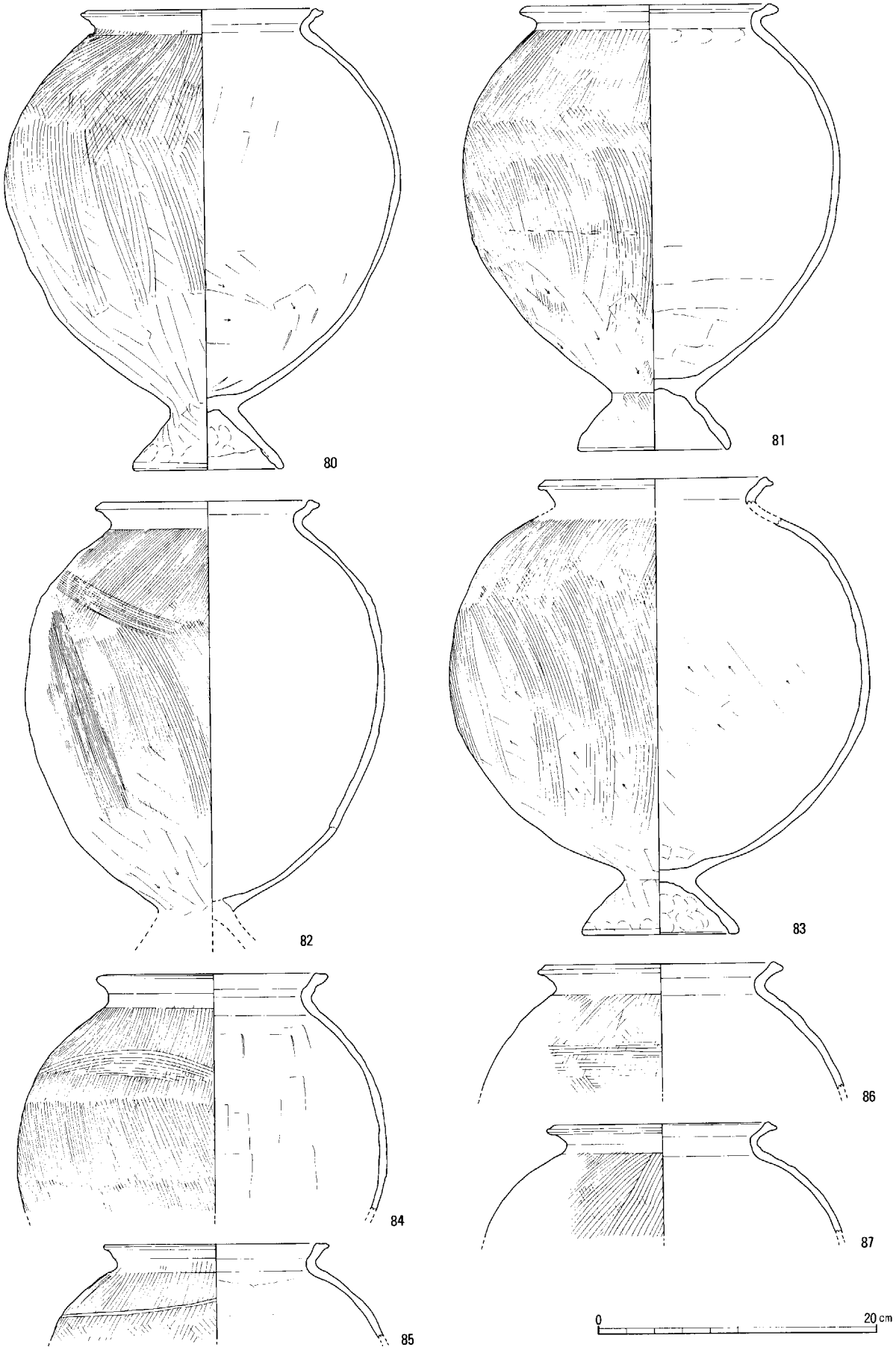
第54図　出土遺物実測図Ｅ区（３）（１：４）

ＳＨ６



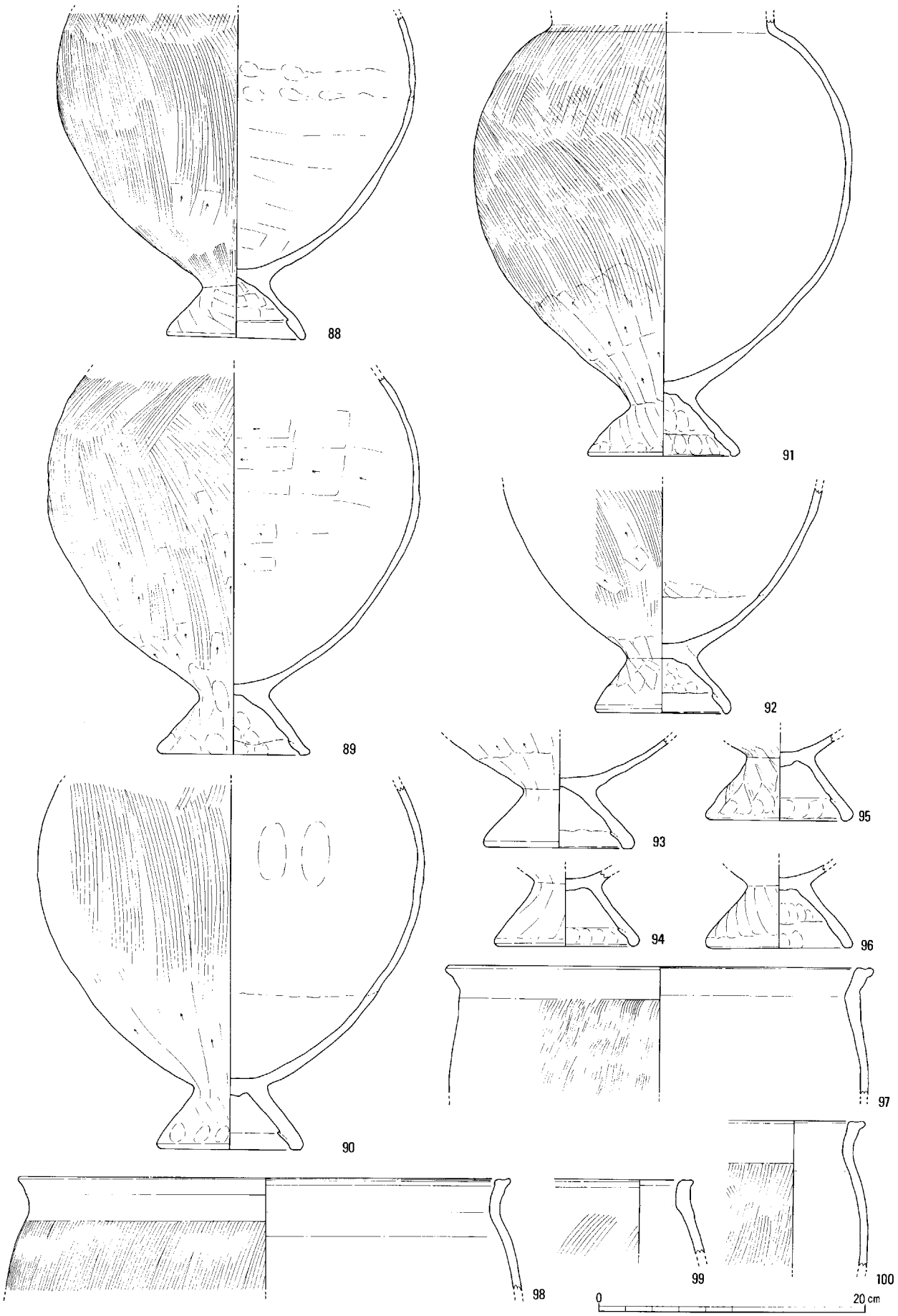
第55図　出土遺物実測図Ｅ区（４）（１：４）

ＳＨ６



第56図　出土遺物実測図Ｅ区（５）（１：４）

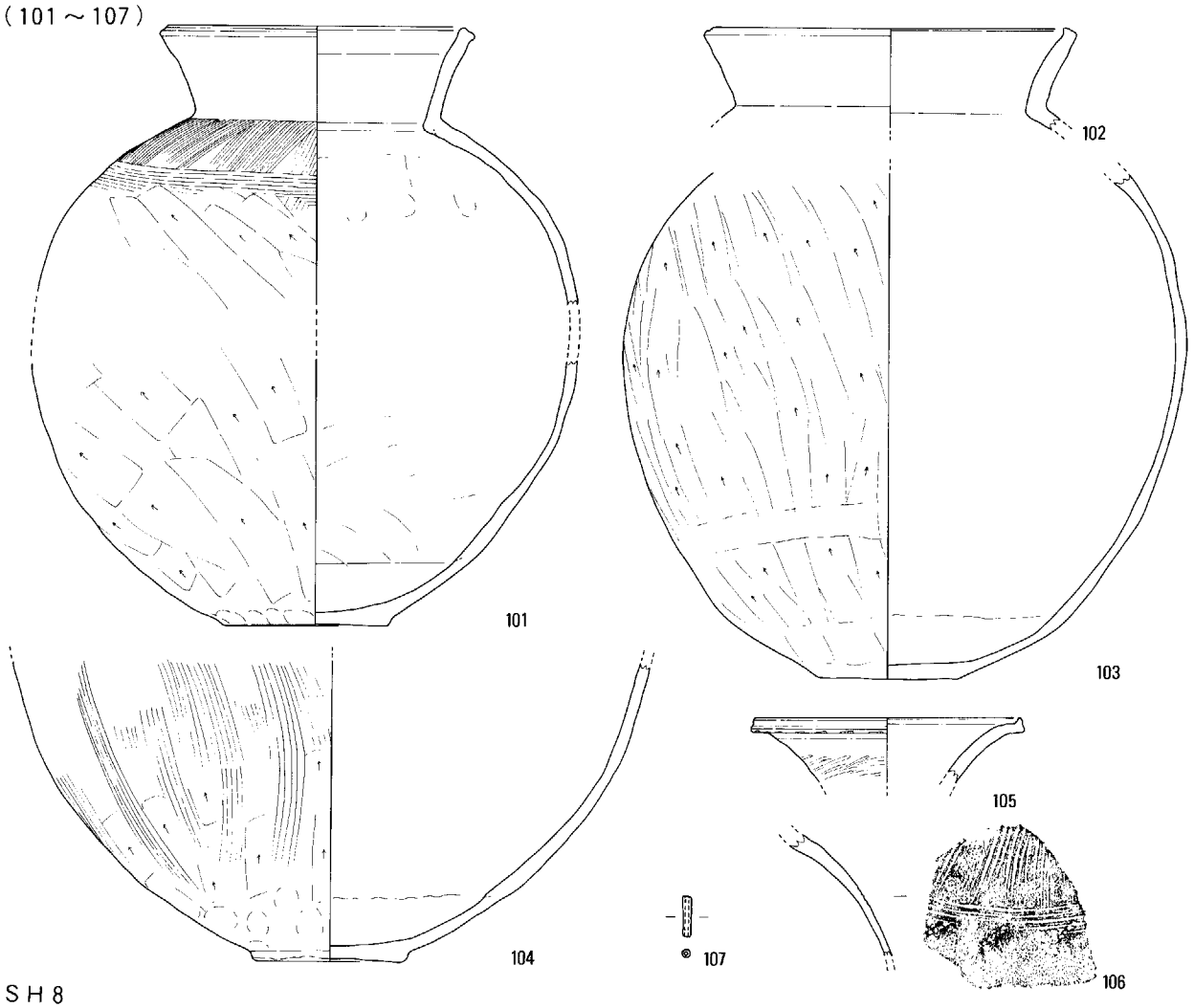
ＳＨ６



第57図　出土遺物実測図Ｅ区（６）（１：４）

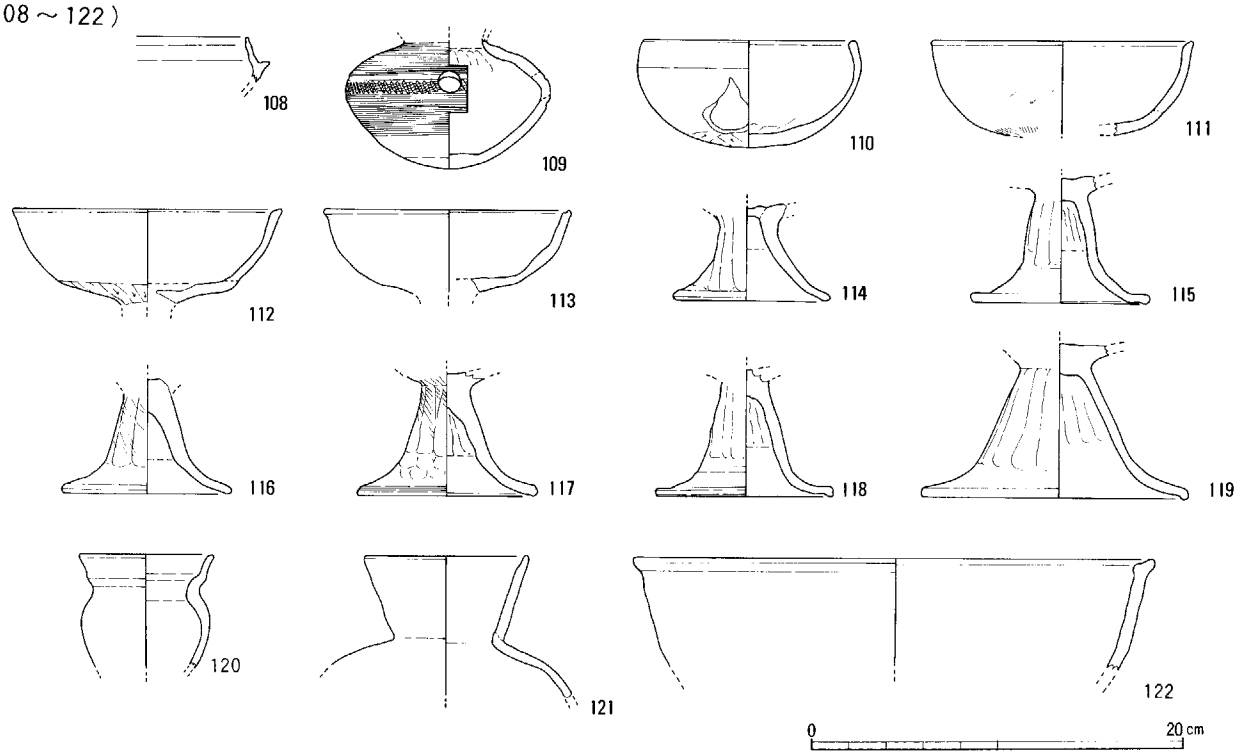
ＳＨ６

（101～107）



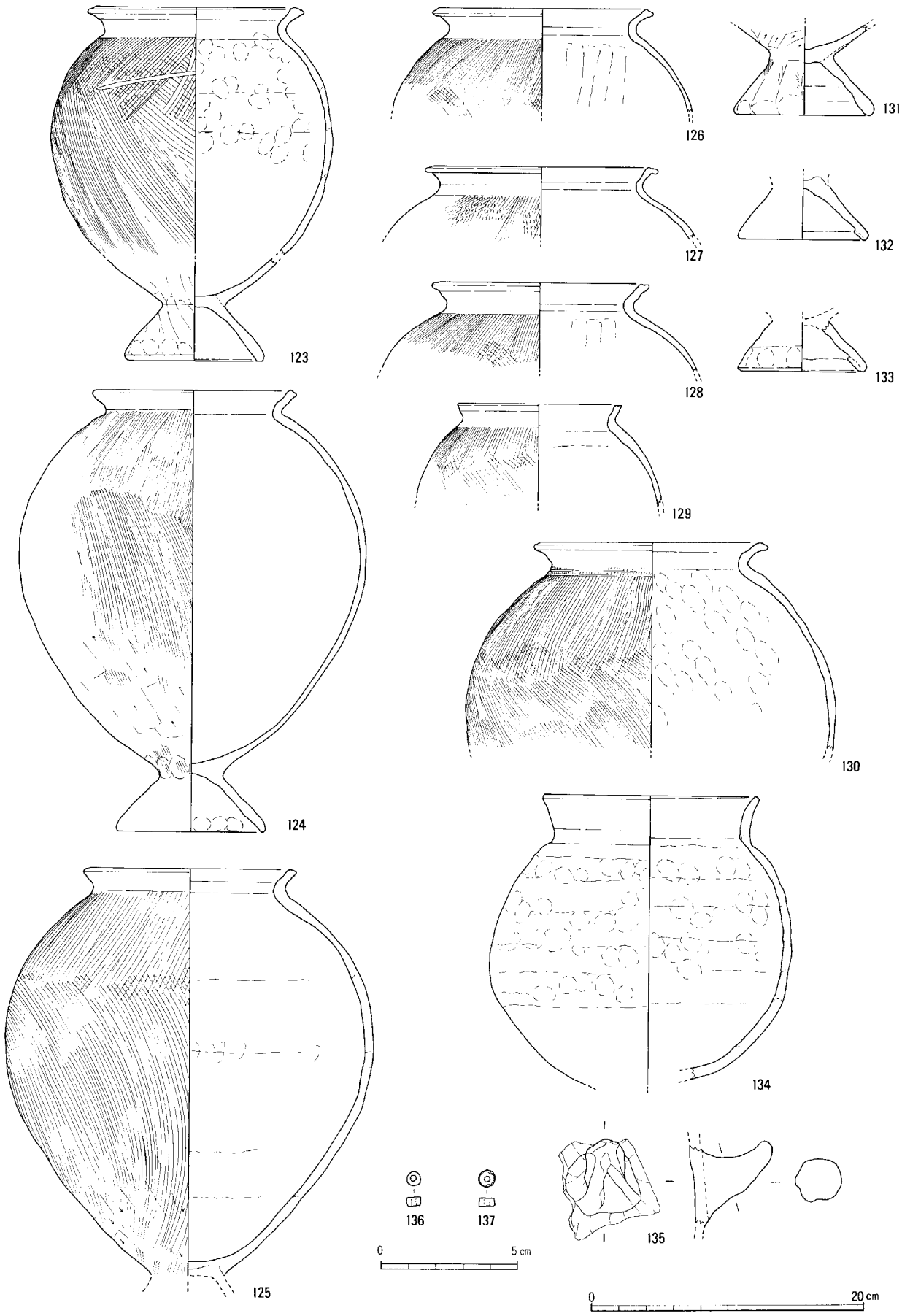
ＳＨ８

（108～122）

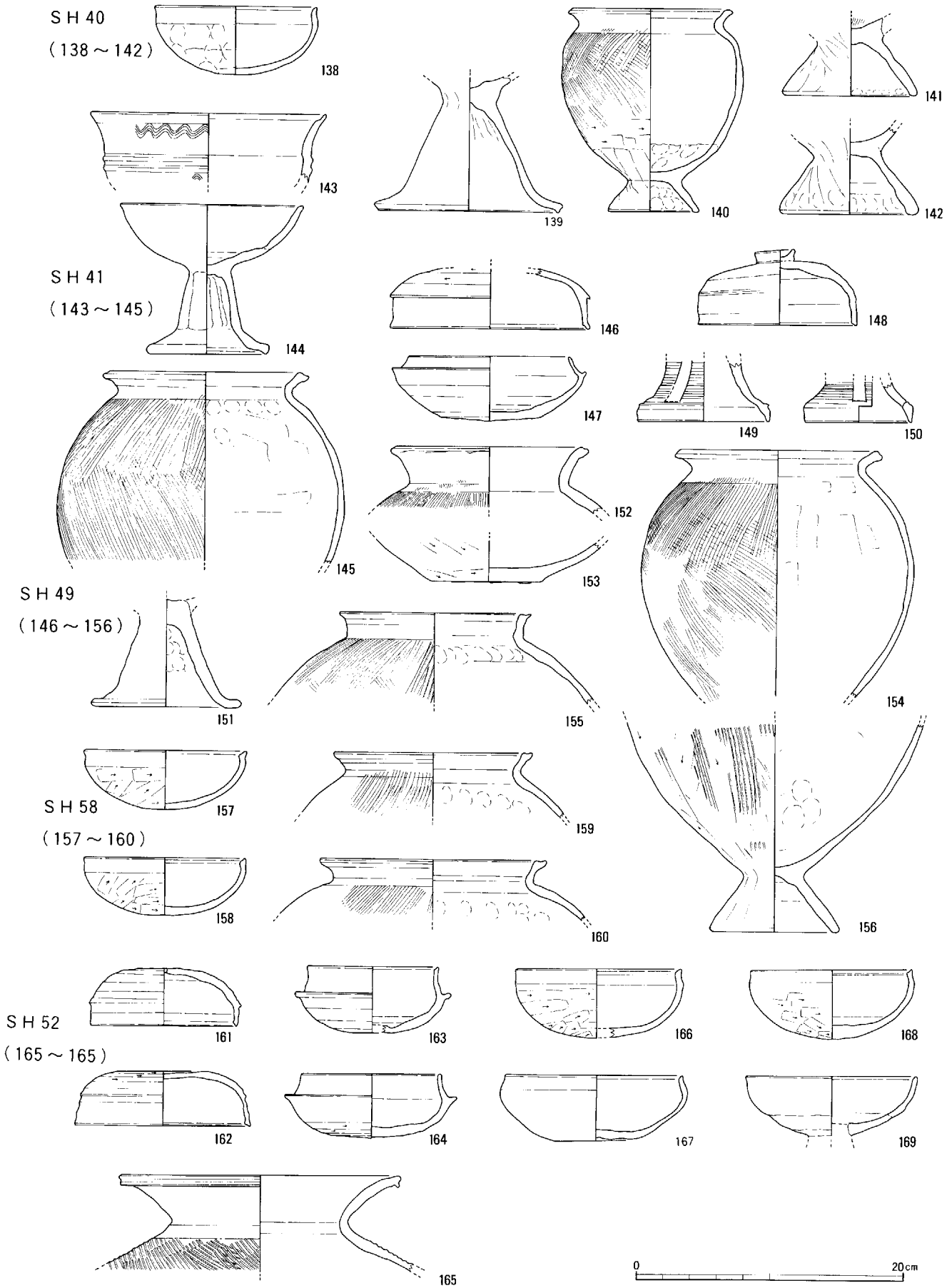


第58図　出土遺物実測図Ｅ区（７）（１：４）

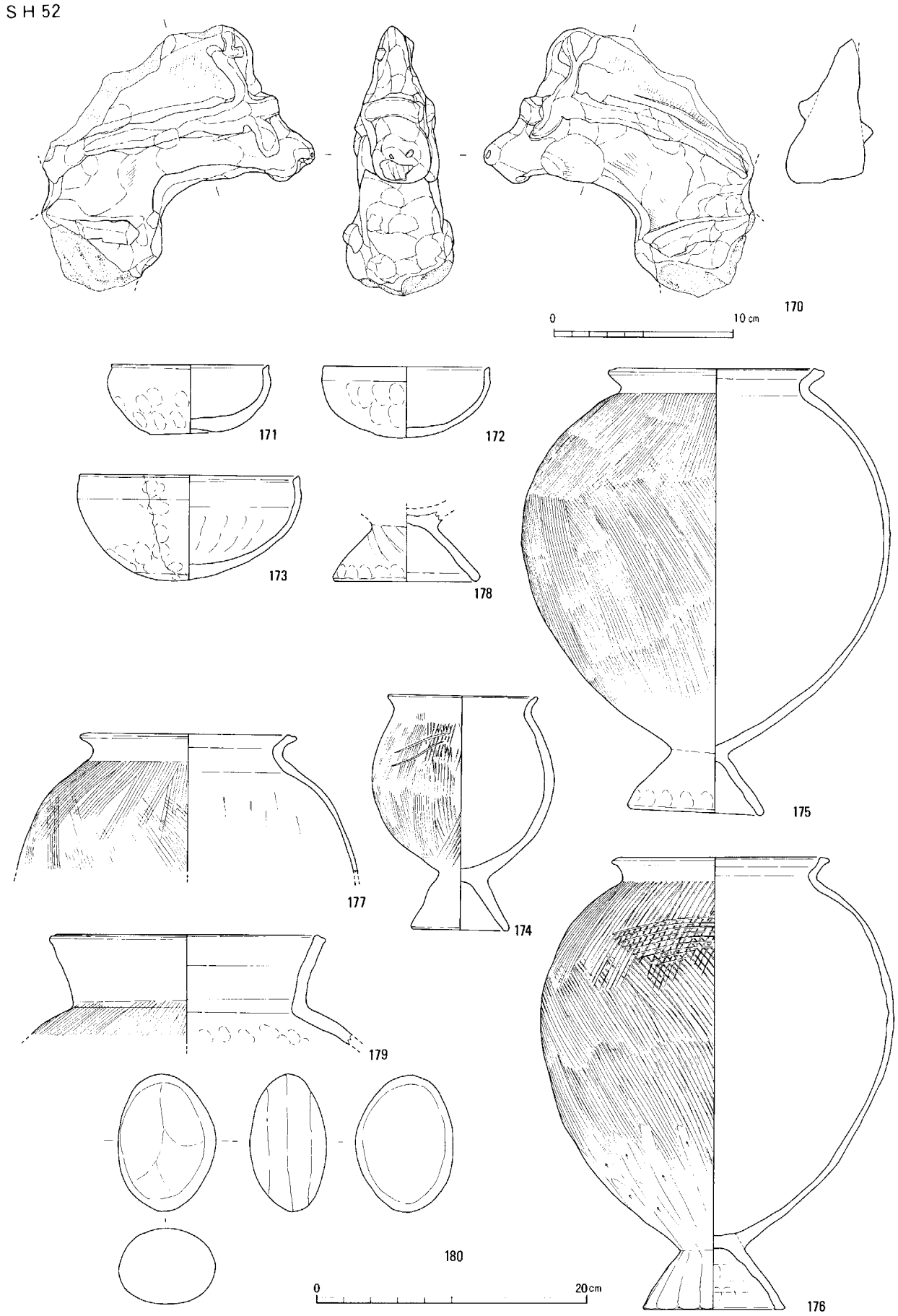
ＳＨ８



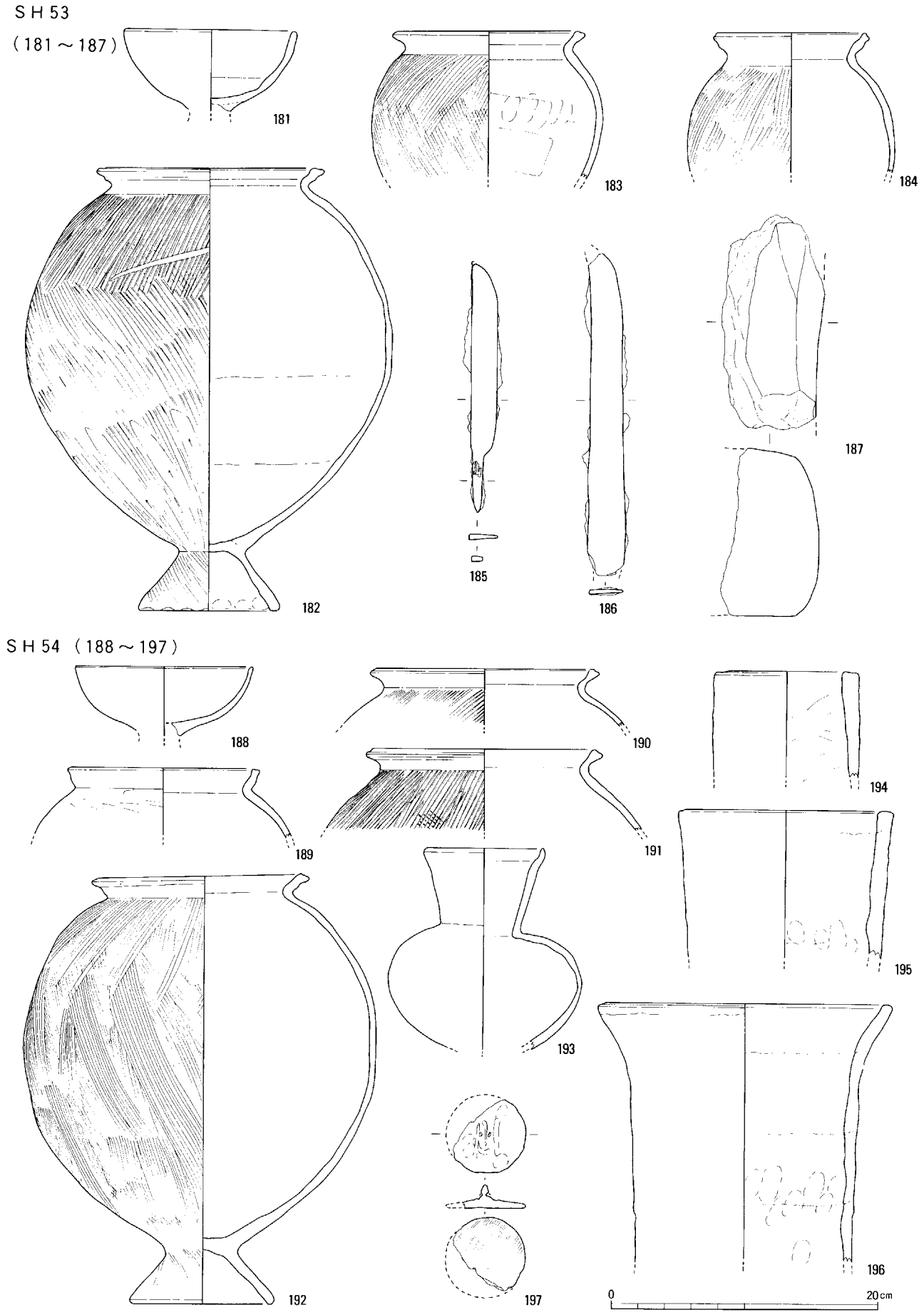
第59図　出土遺物実測図Ｅ区（８）（１：４、136・137は１：２）



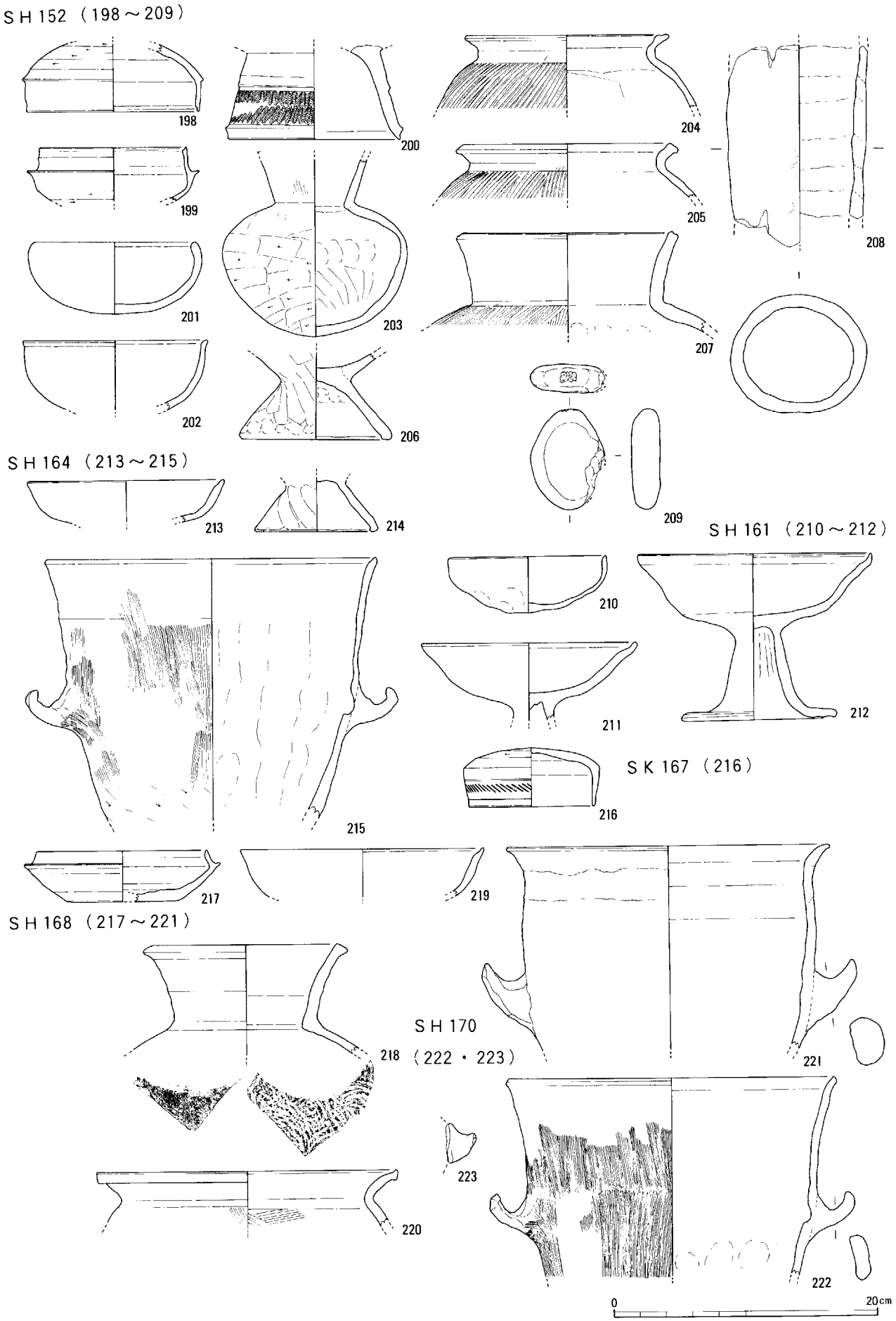
第60図　出土遺物実測図E区（9）（1：4）



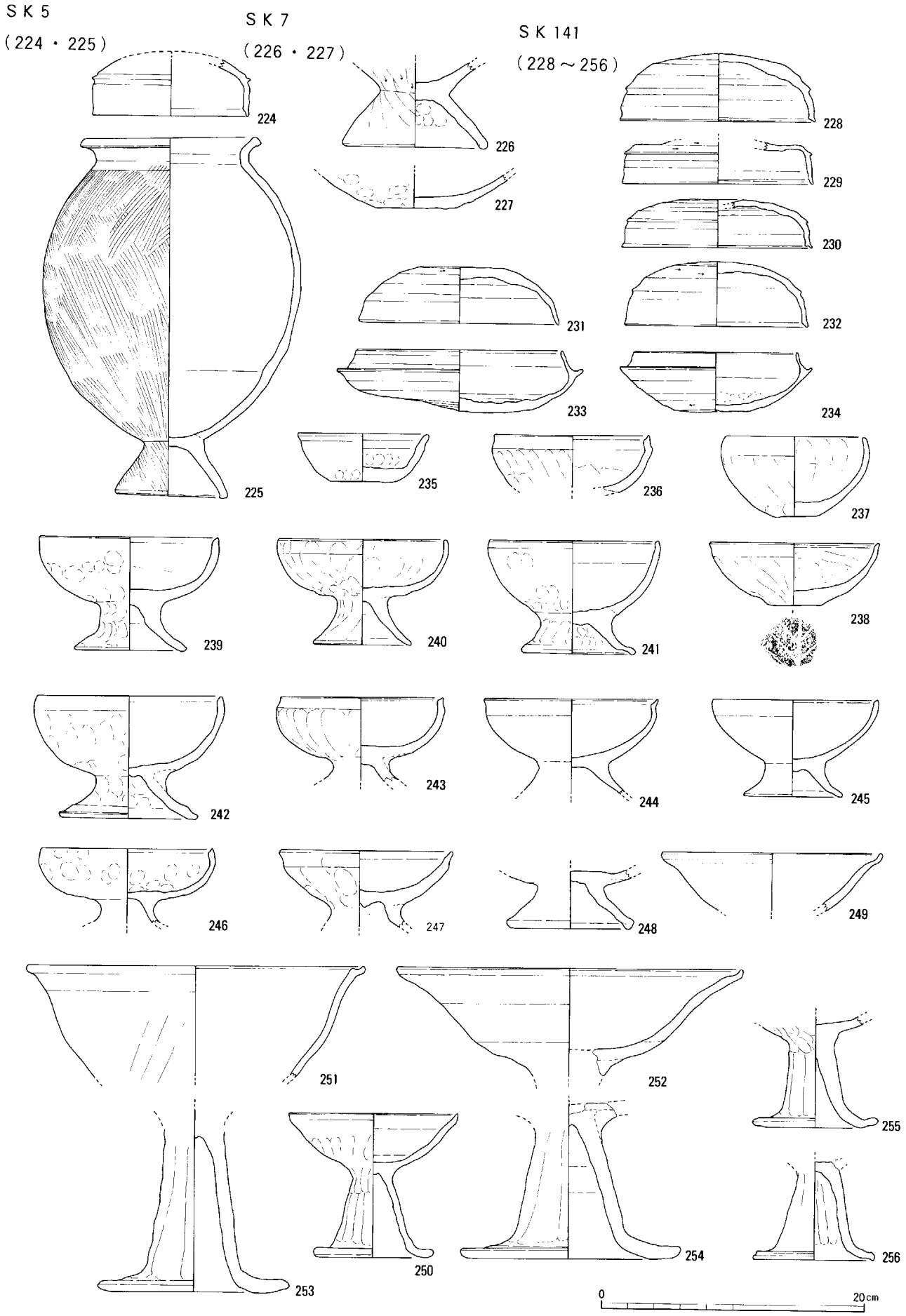
第61図　出土遺物実測図E区（10）（1：4、170は1：3）



第62図　出土遺物実測図E区（11）（1：4）

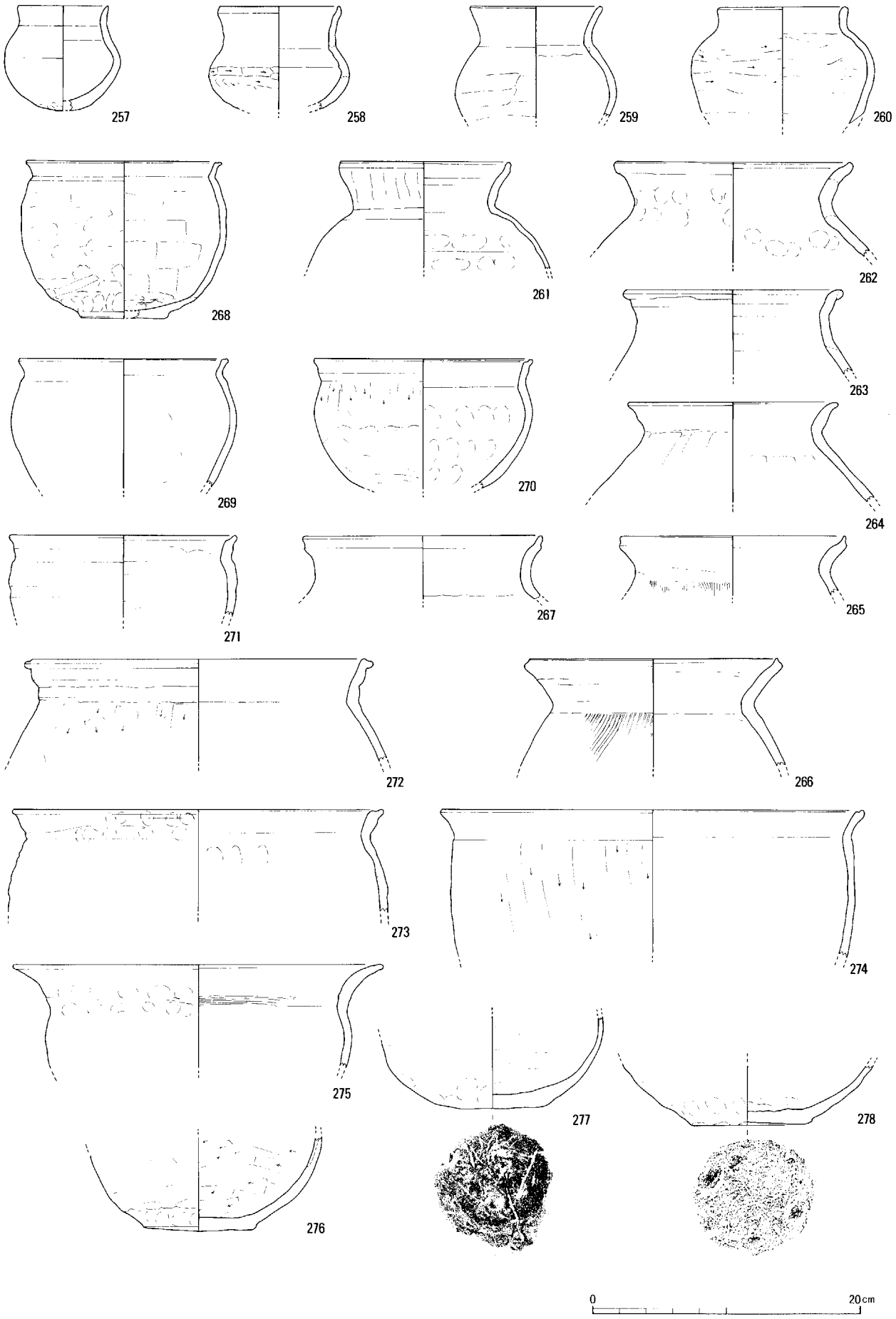


第63図　出土遺物実測図E区（12）（1：4）



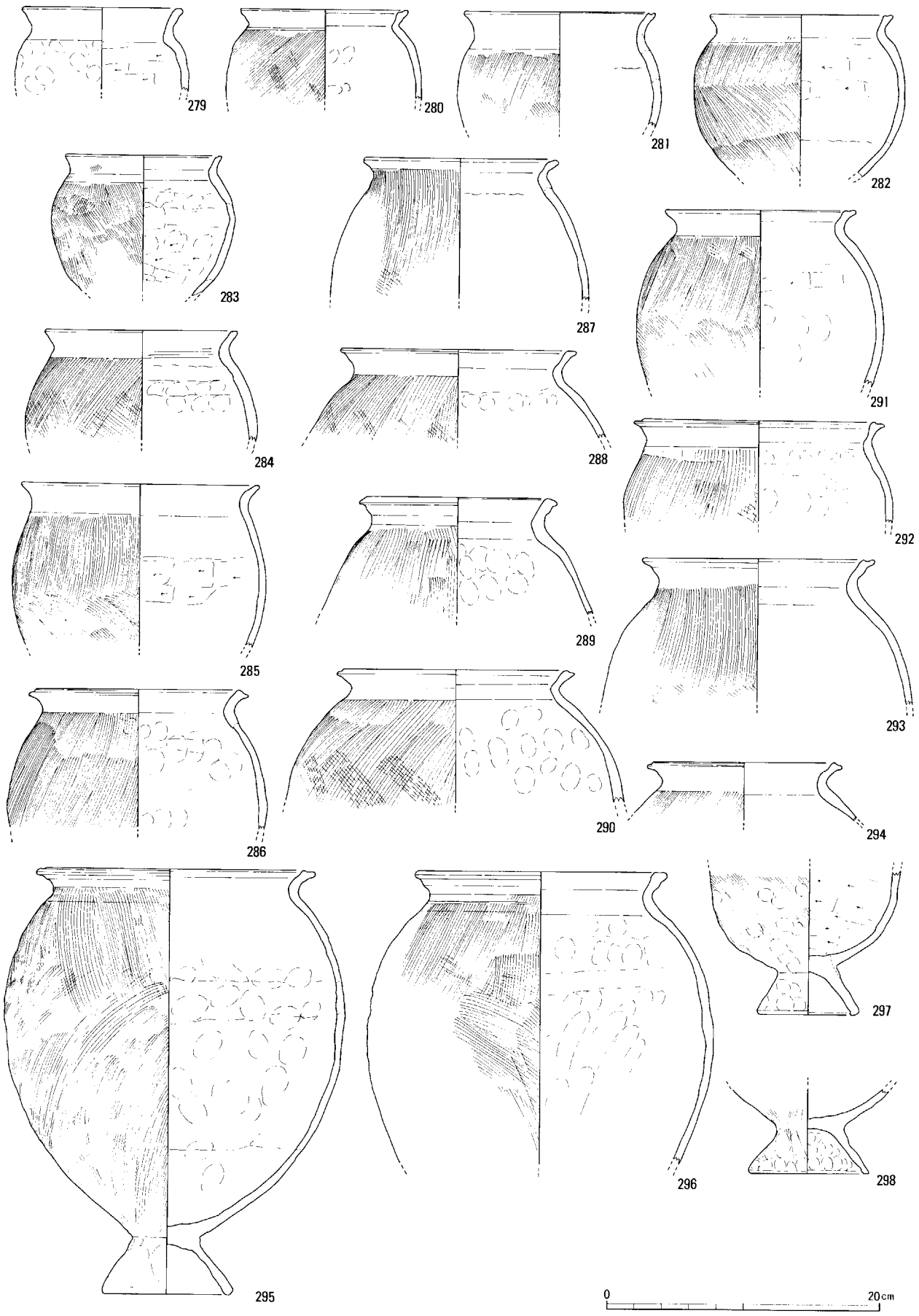
第64図　出土遺物実測図Ｅ区（13）（１：４）

SK141



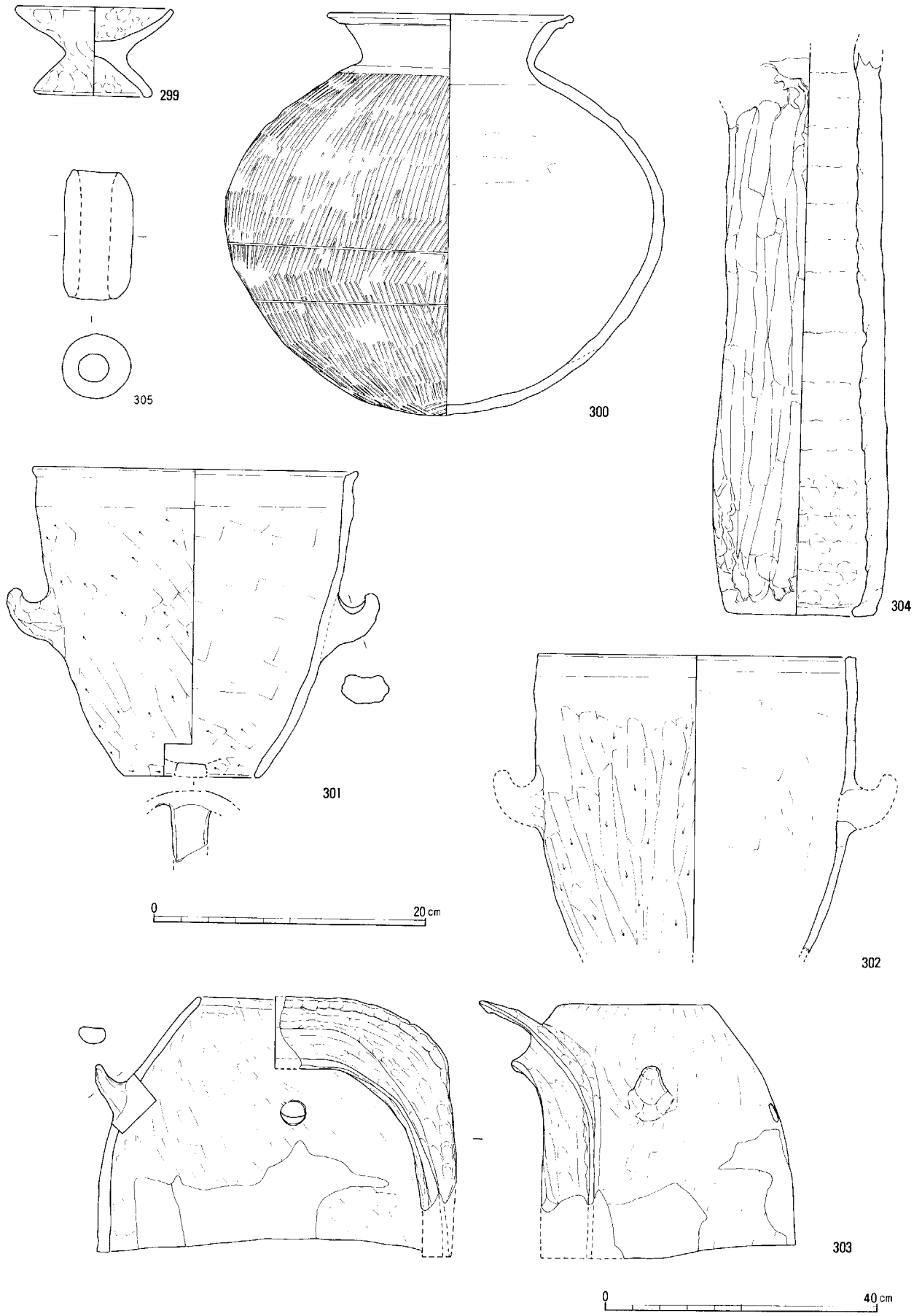
第65図　出土遺物実測図Ｅ区（14）（１：４）

SK141

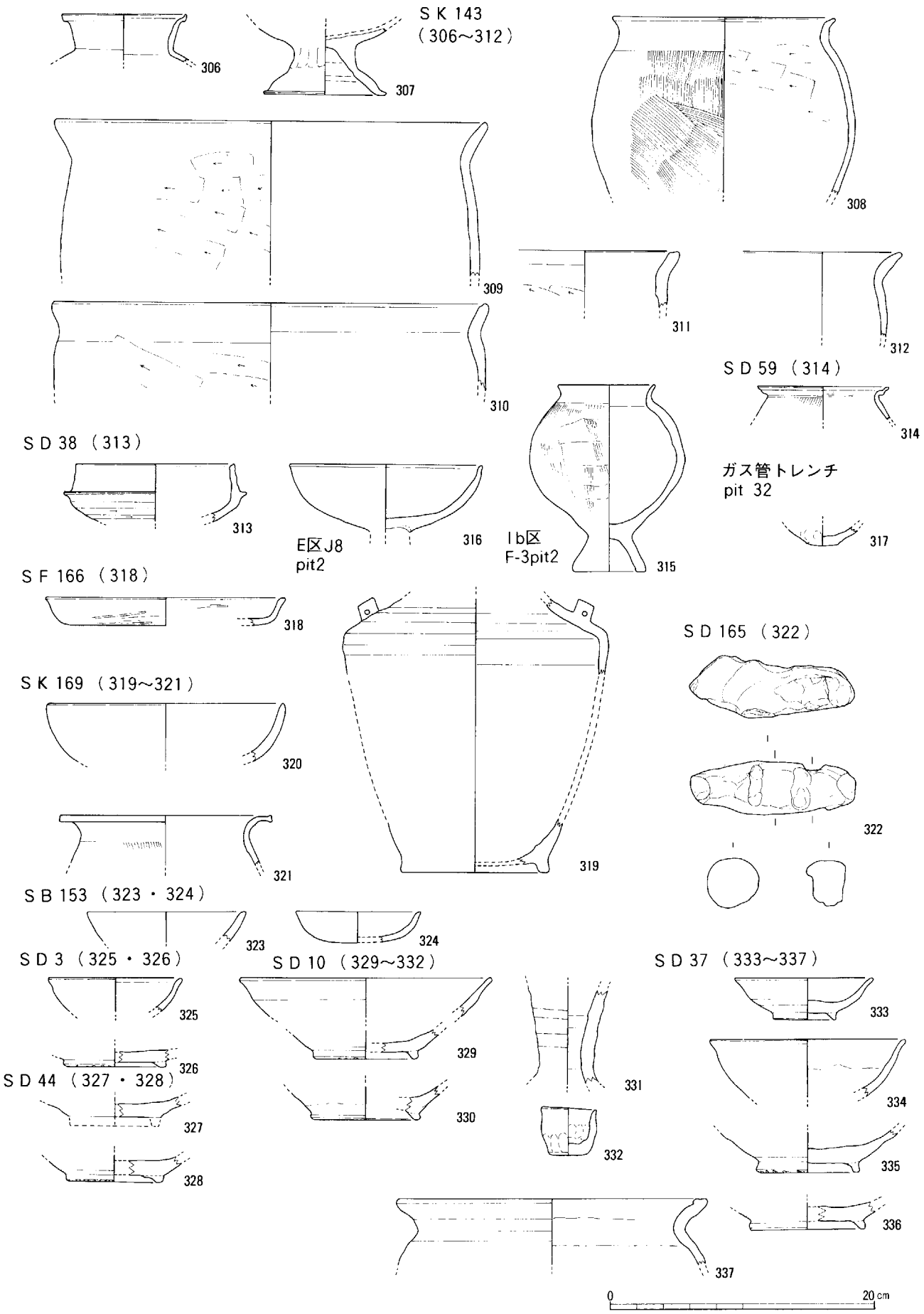


第66図　出土遺物実測図Ｅ区（15）（1：4）

SK141

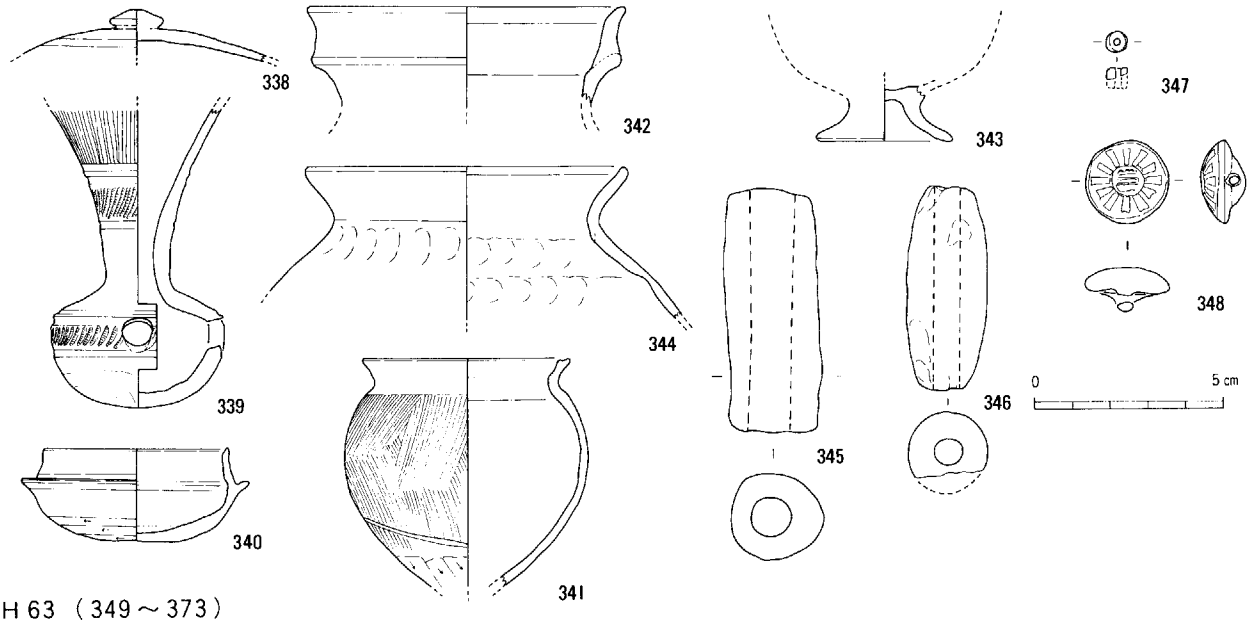


第67図　出土遺物実測図E区（16）（1：4、303は1：8）

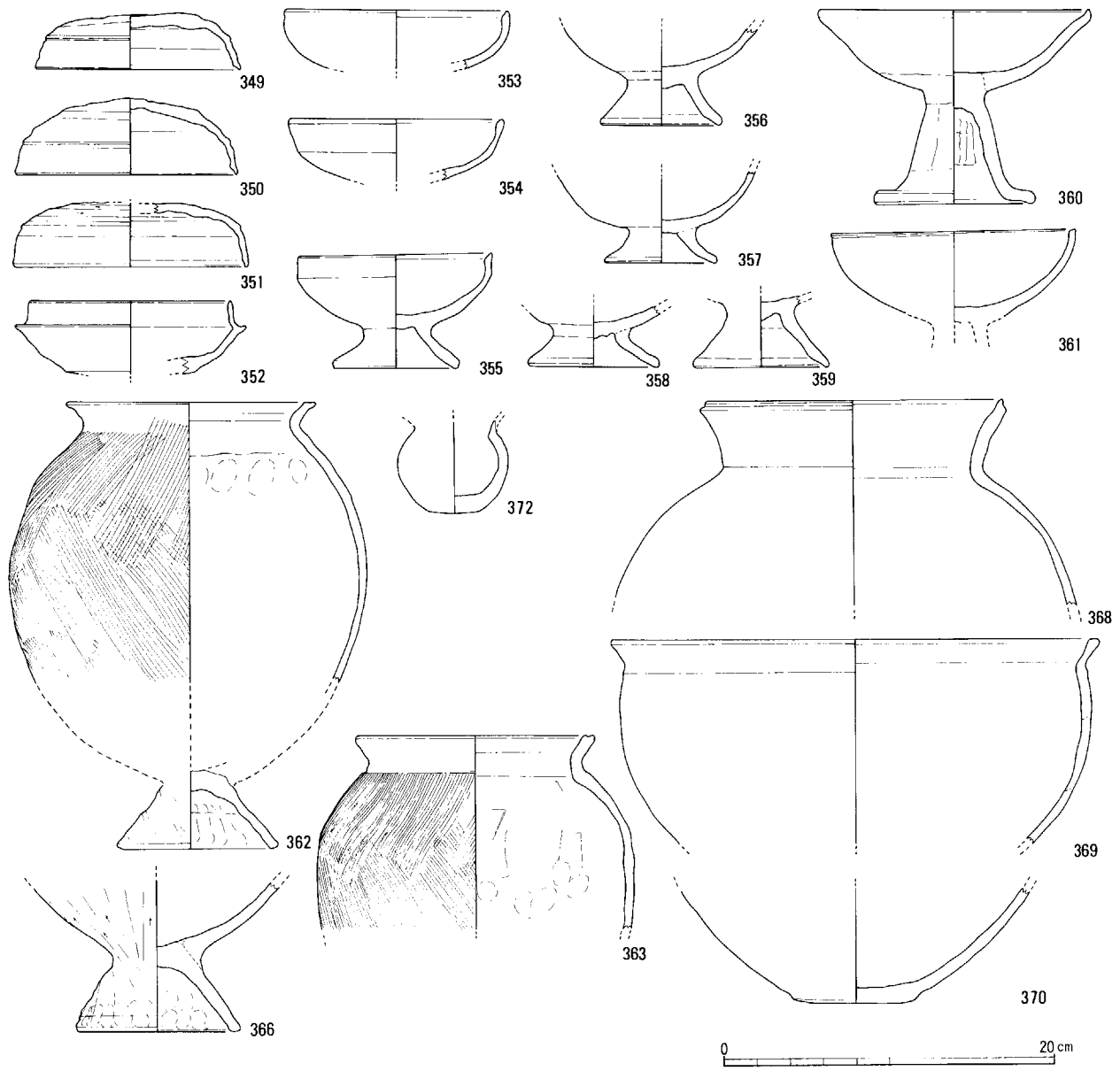


第68図　出土遺物実測図E区（17）（1：4）

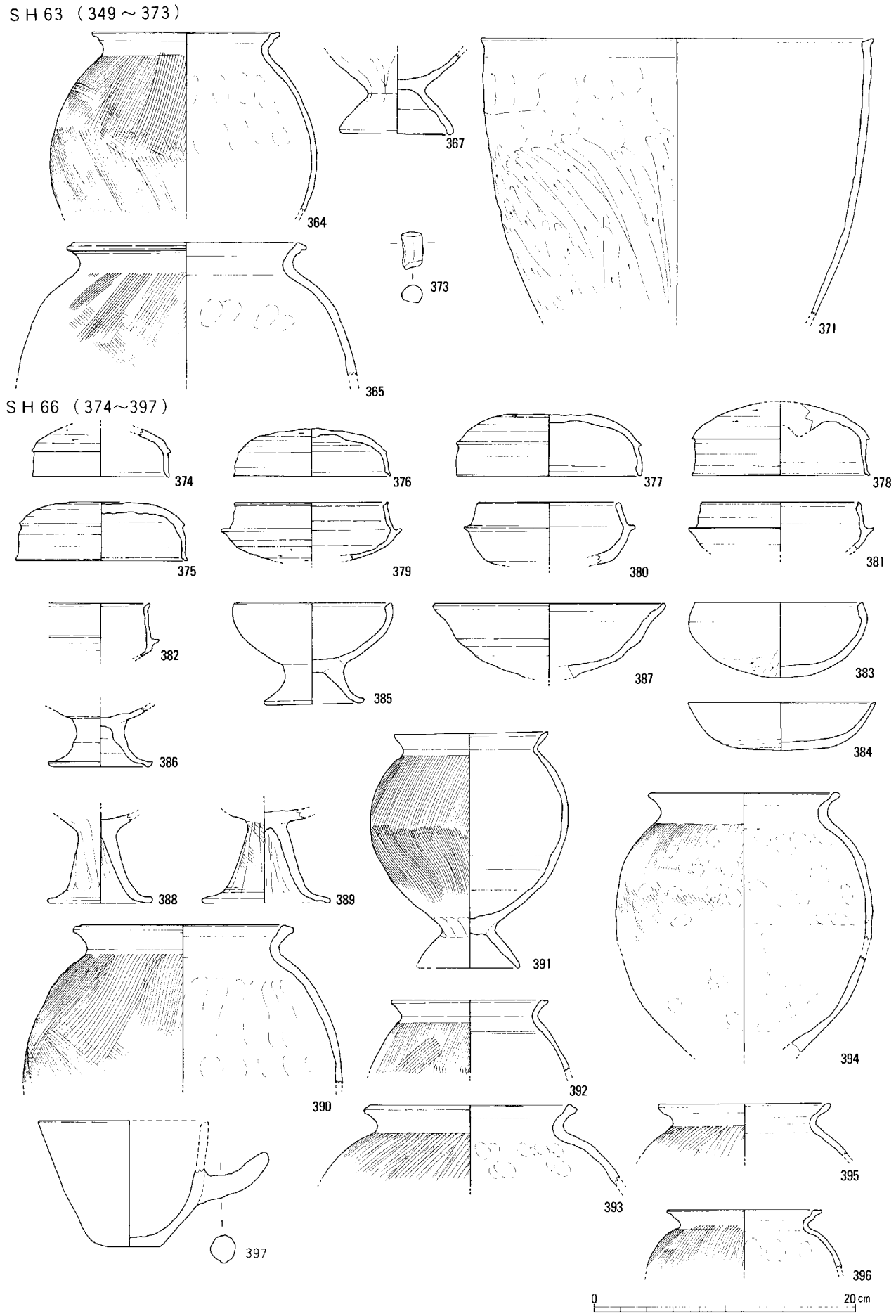
包含層（E・H・I・J区）



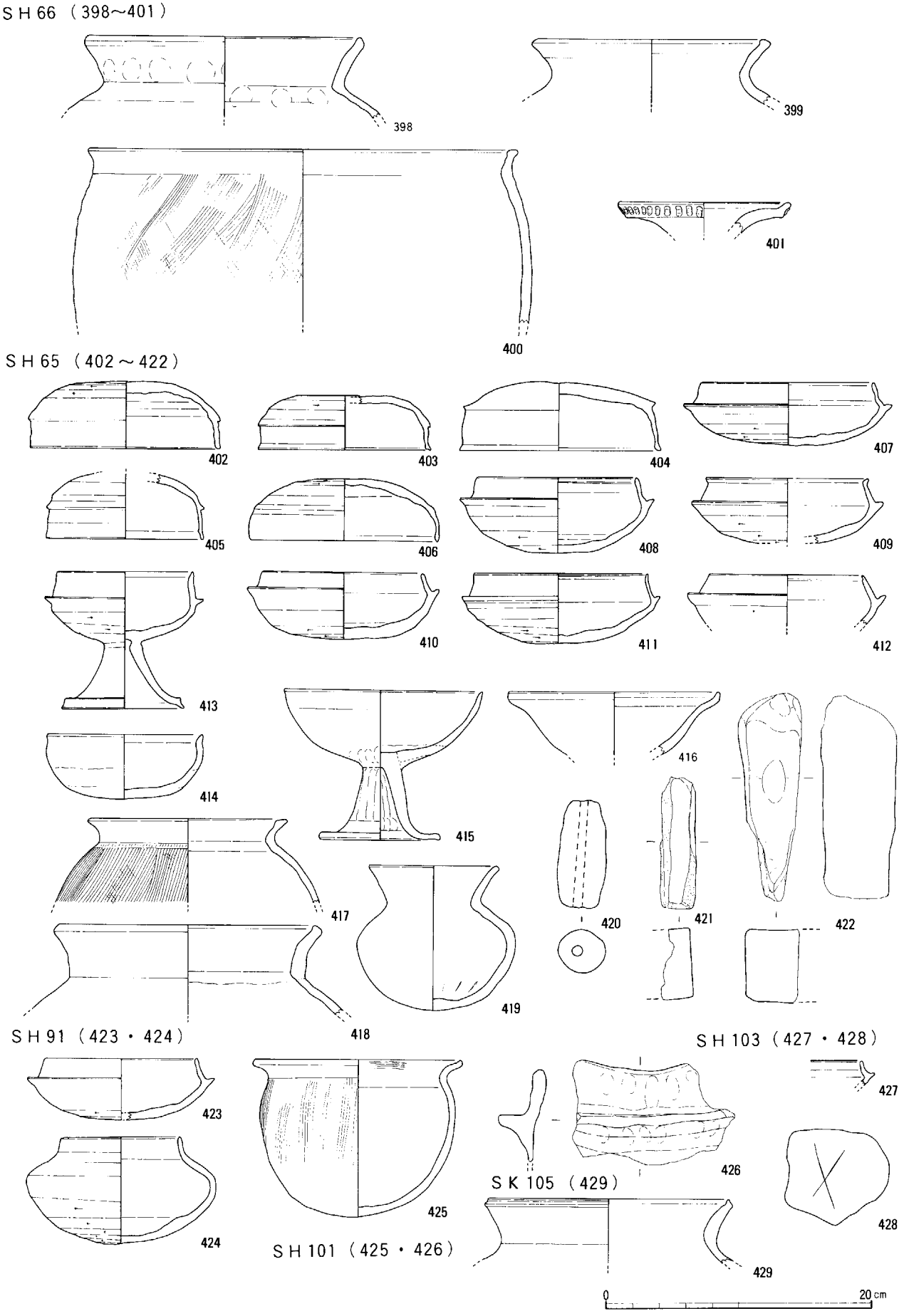
SH63（349～373）



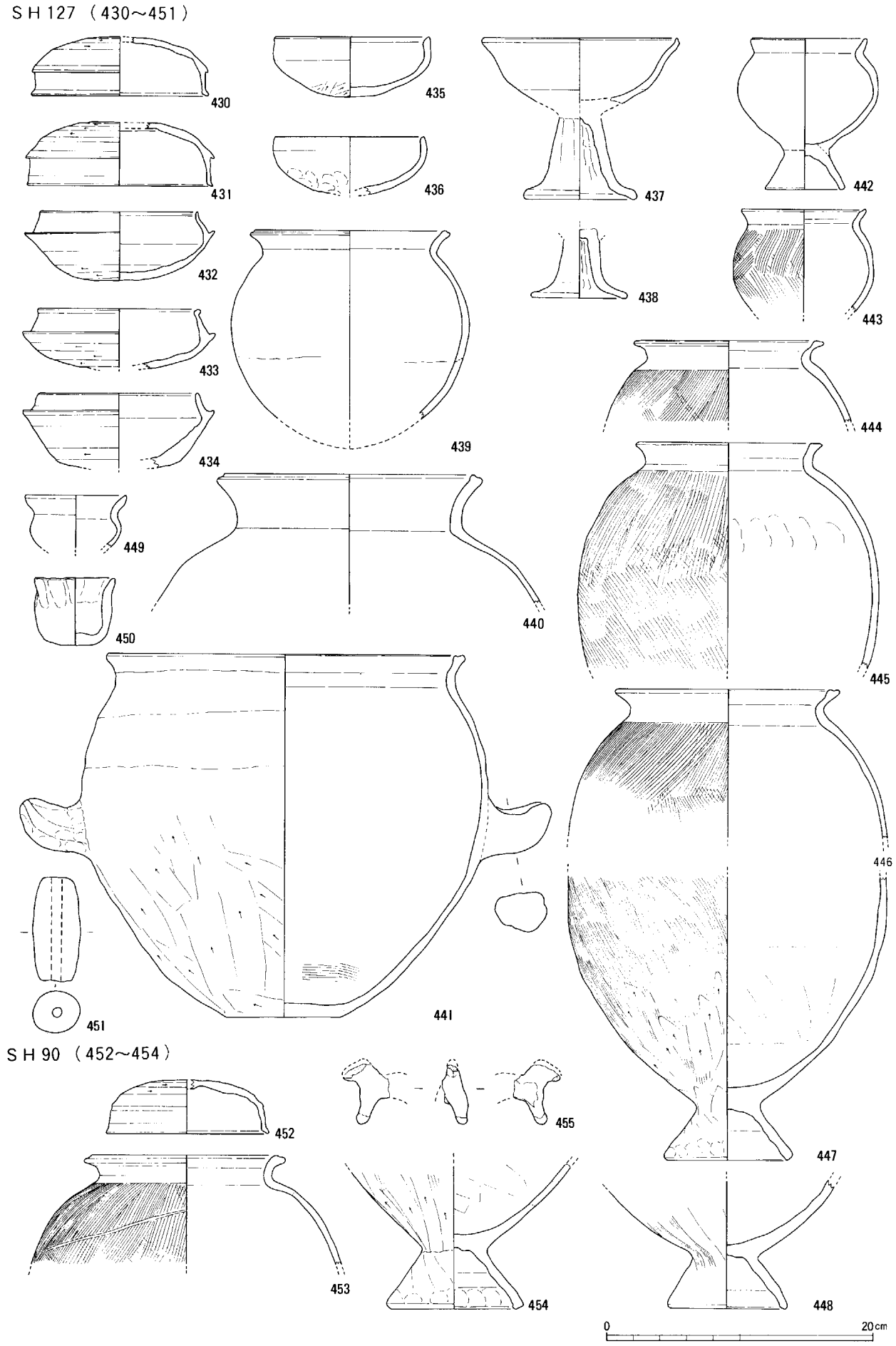
第69図　出土遺物実測図E・F区（18）（1：4、347・348は1：2）



第70図　出土遺物実測図Ｆ区（19）（１：４）

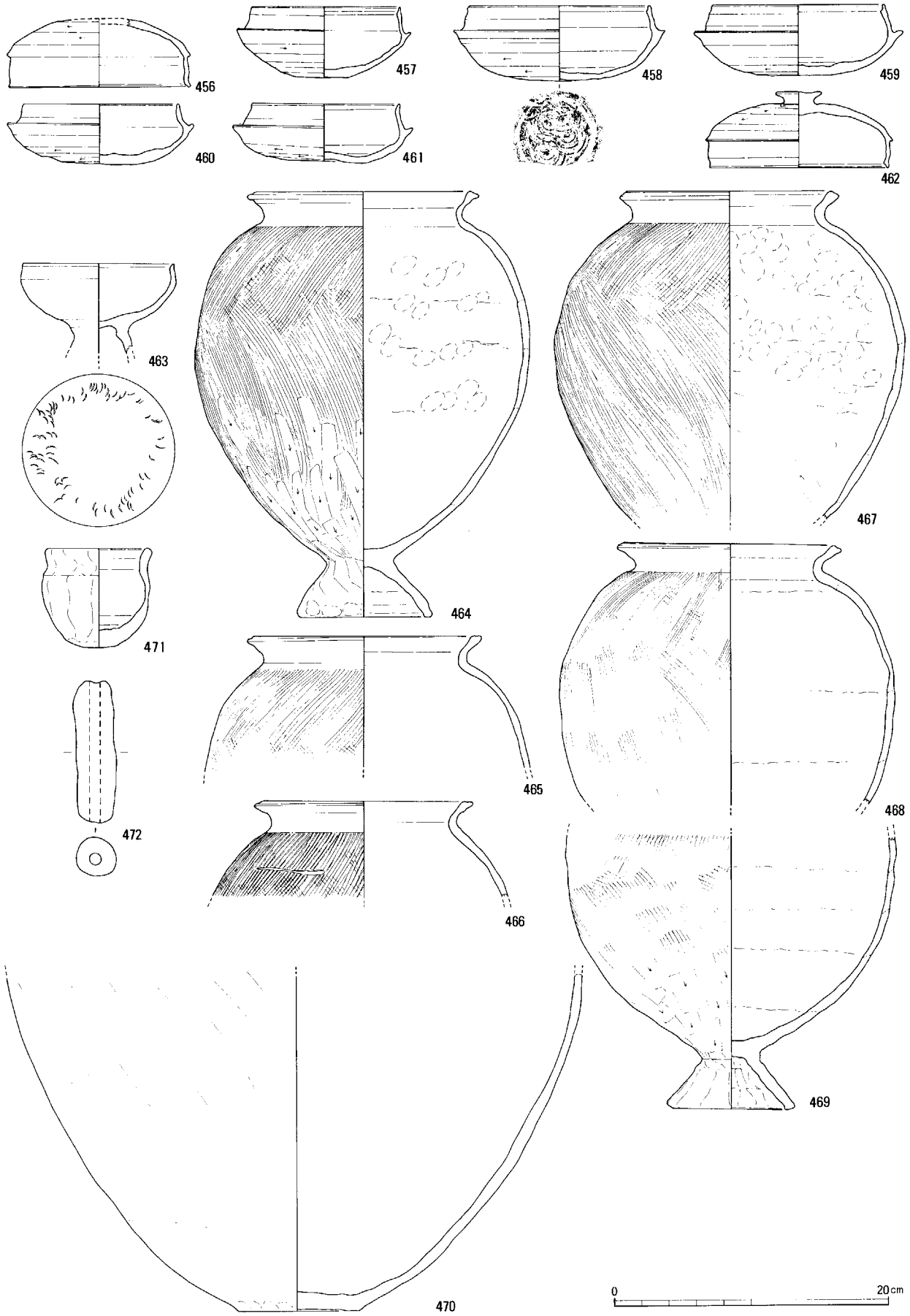


第71図　出土遺物実測図F区（20）（1：4）

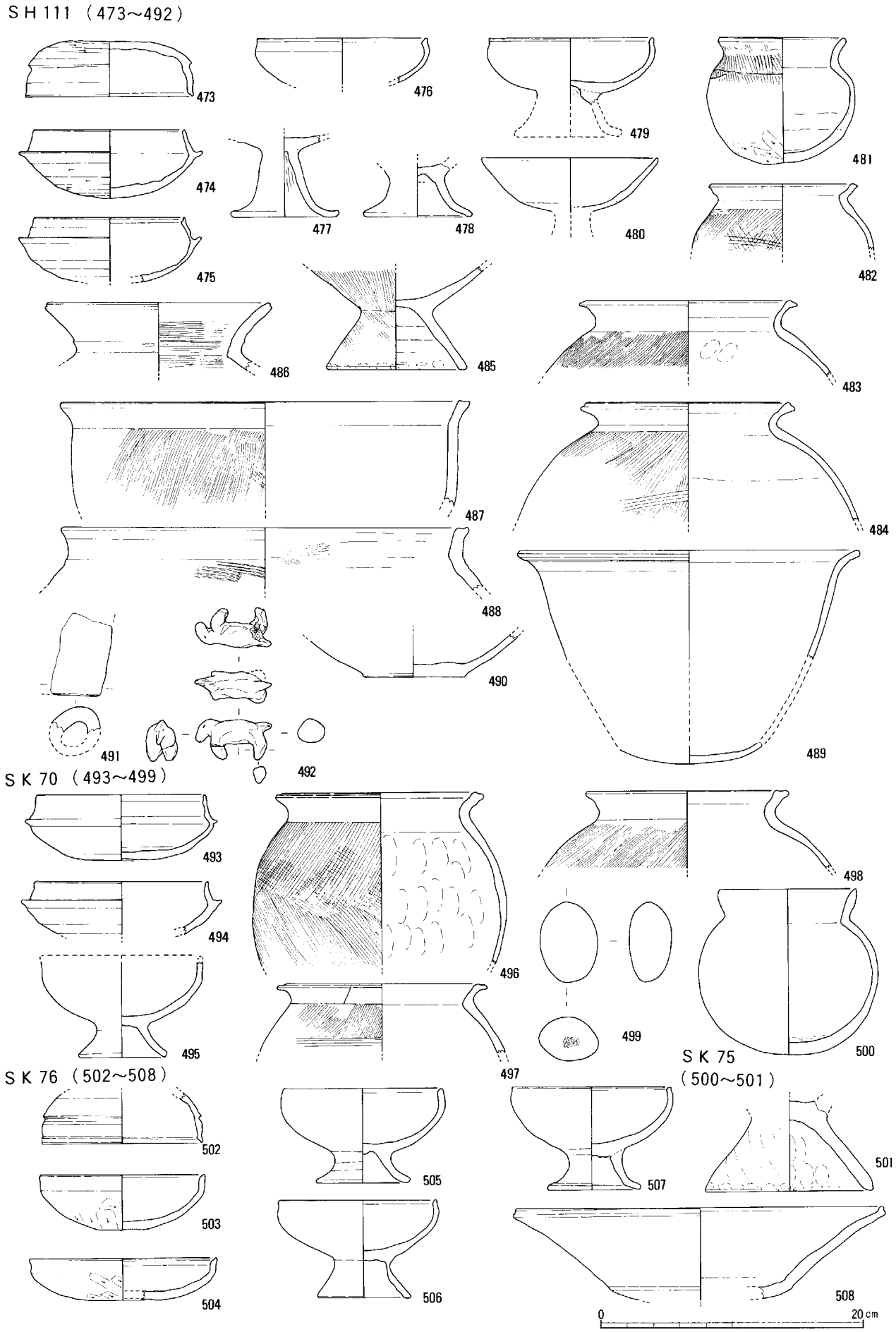


第72図　出土遺物実測図F区（21）（1：4）

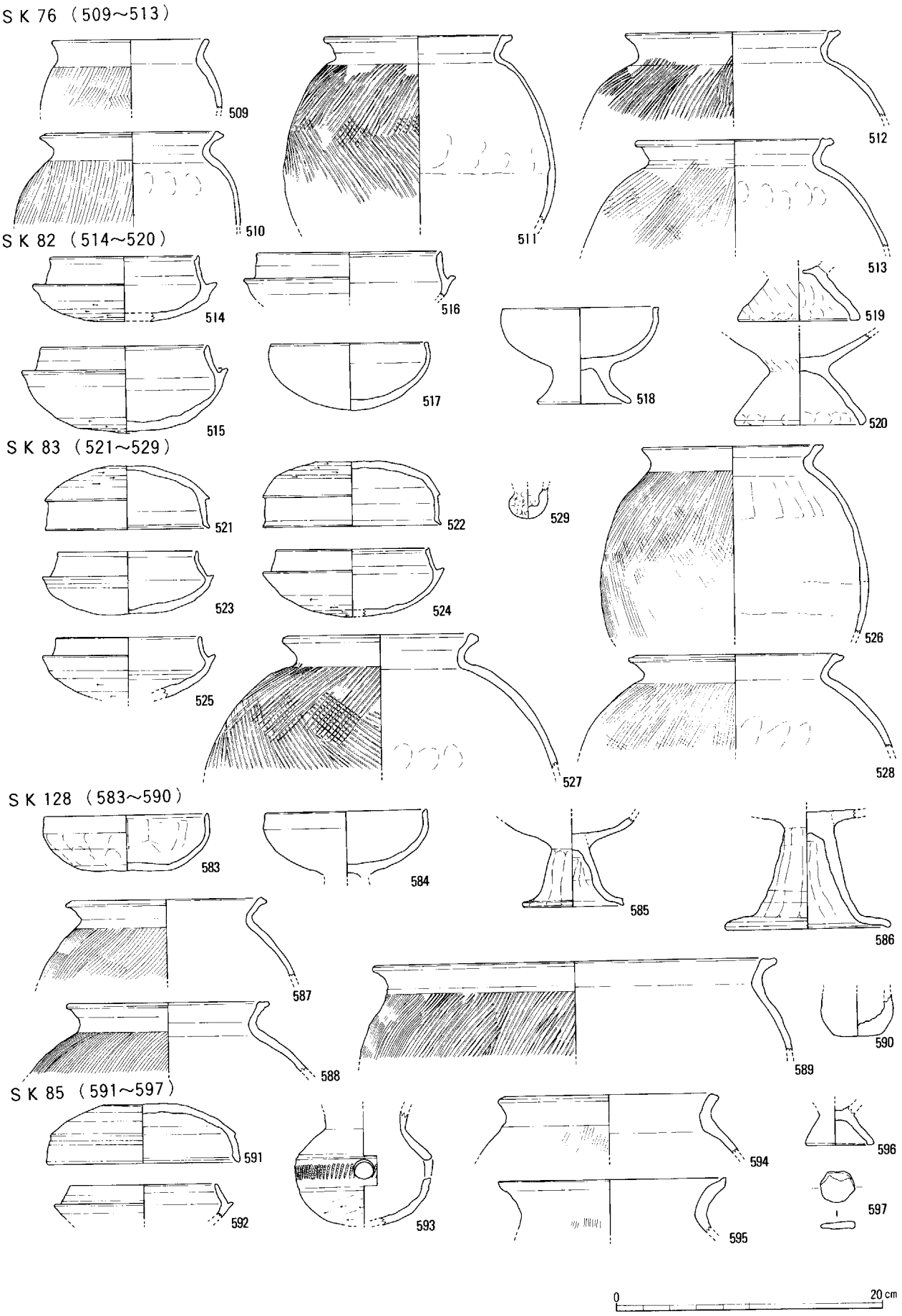
ＳＨ99（456～472）



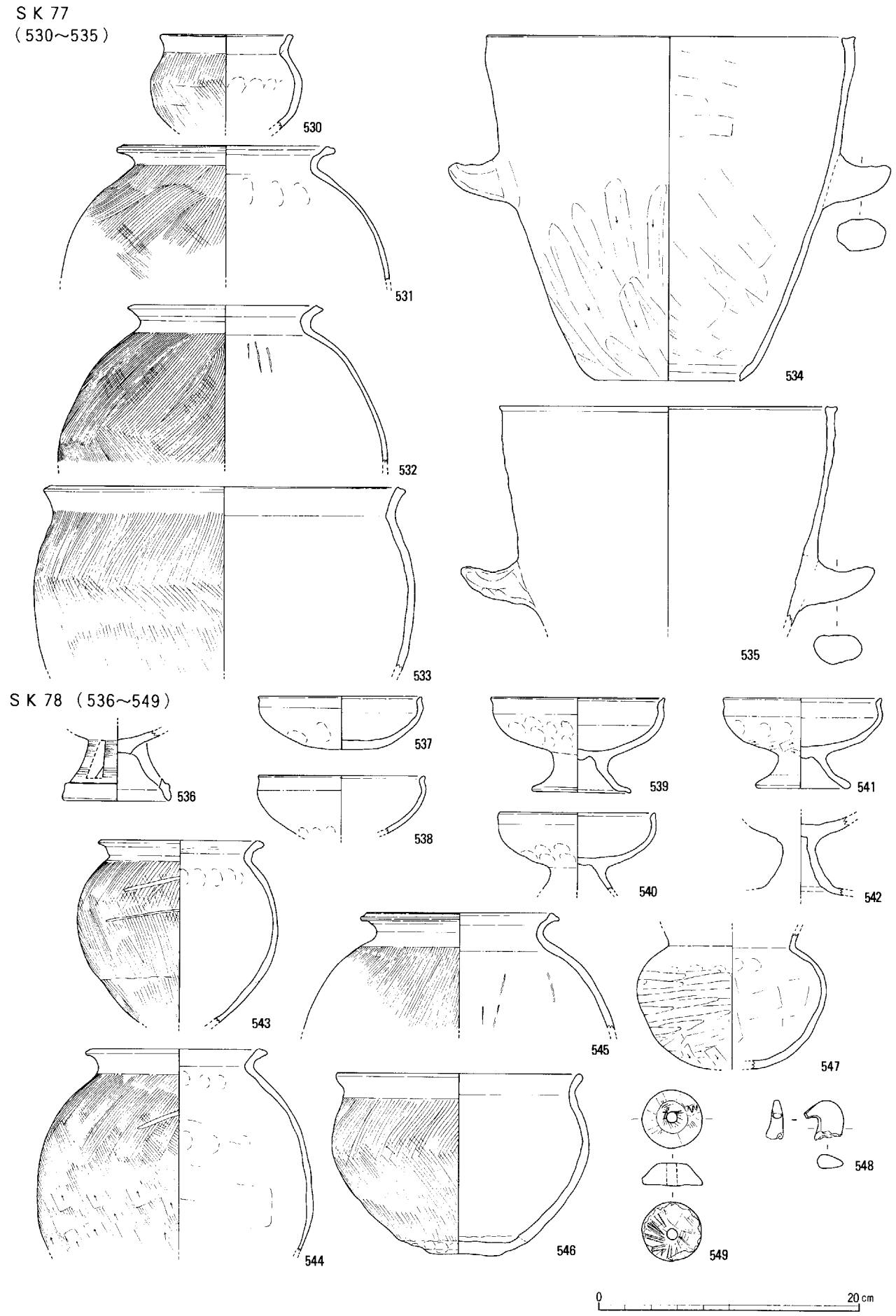
第73図　出土遺物実測図Ｆ区（22）（1：4）



第74図　出土遺物実測図Ｆ区（23）（１：４）

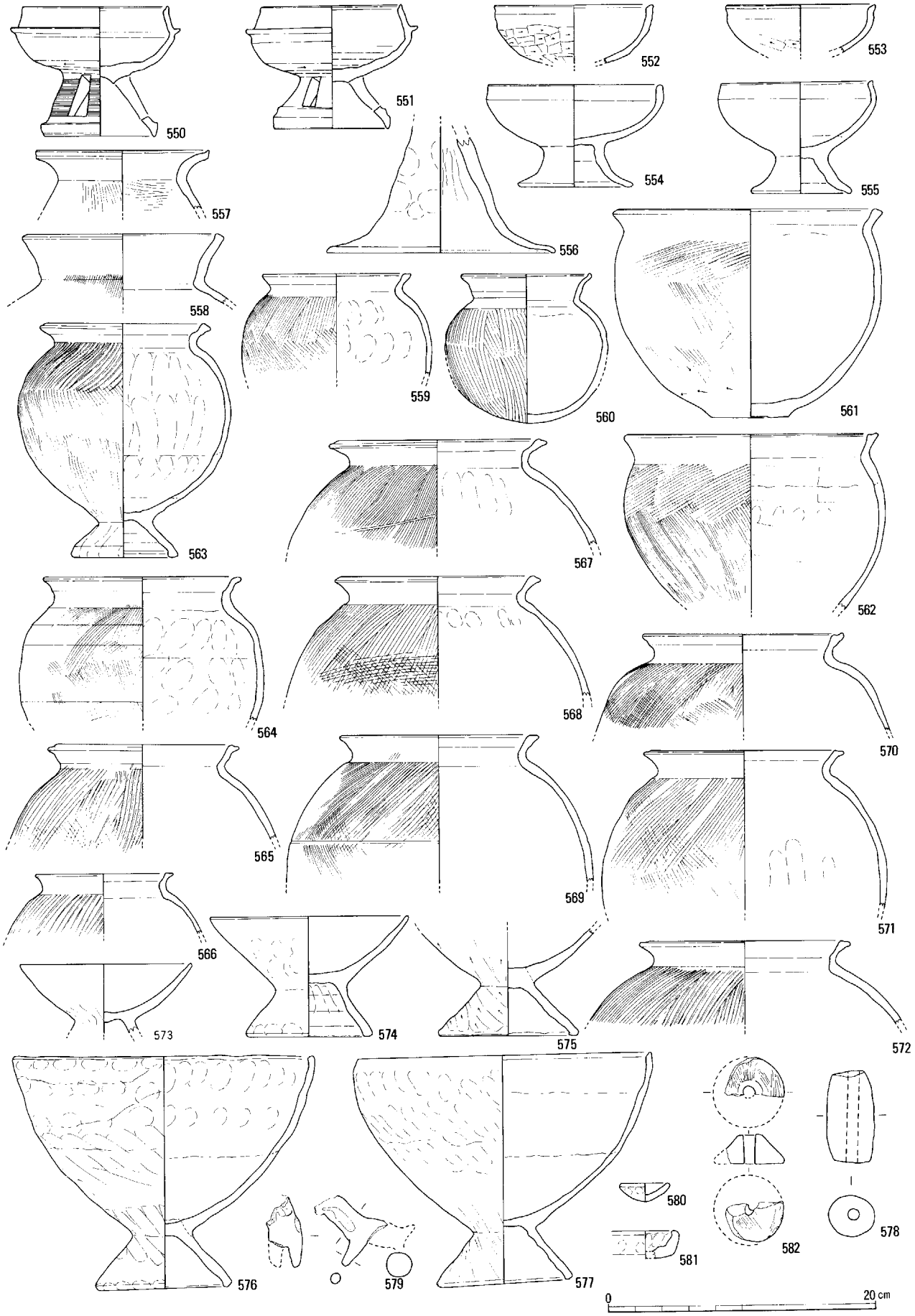


第75図　出土遺物実測図F区（24）（1：4）

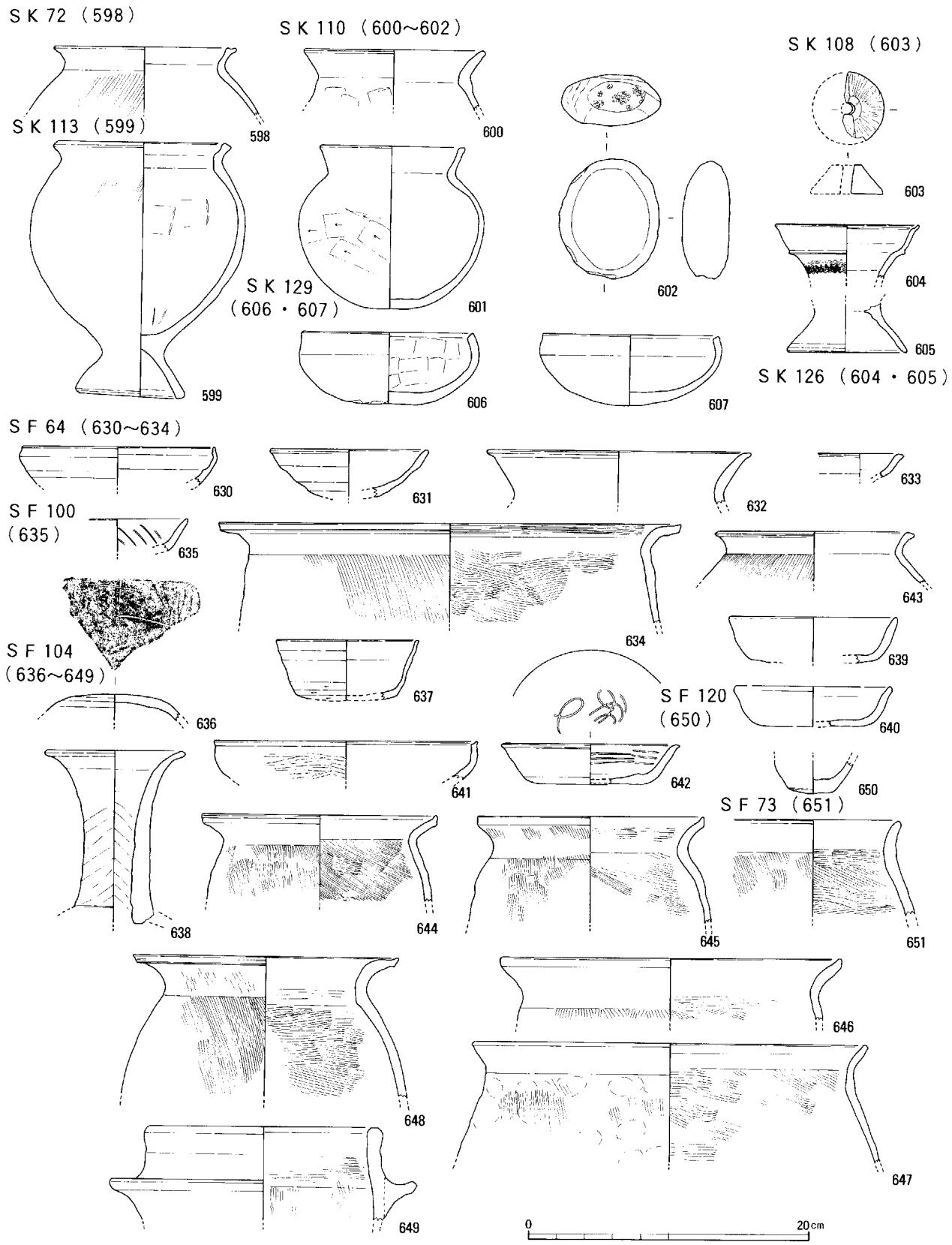


第76図　出土遺物実測図Ｆ区（25）（1：4）

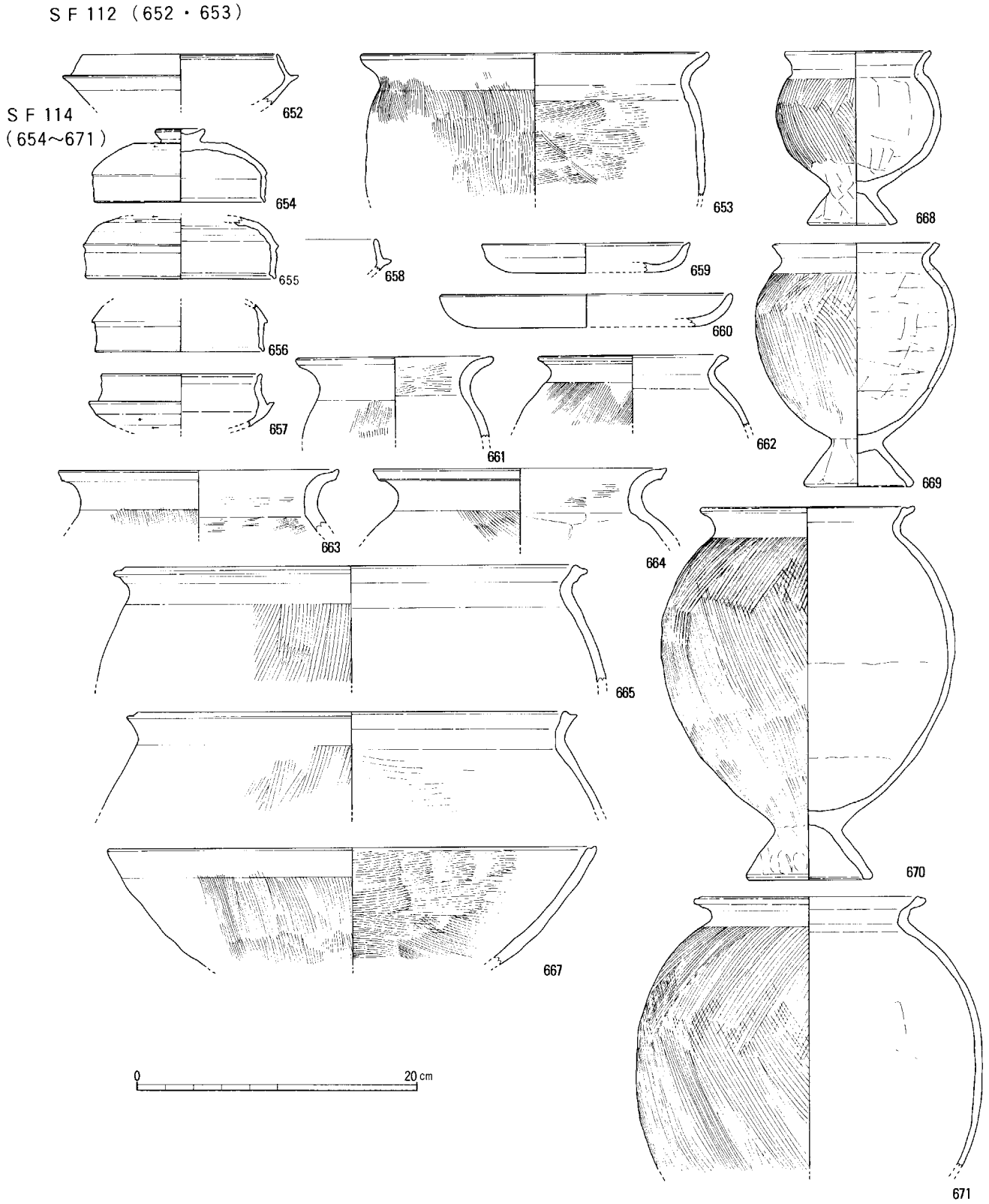
ＳＫ119（550～582）



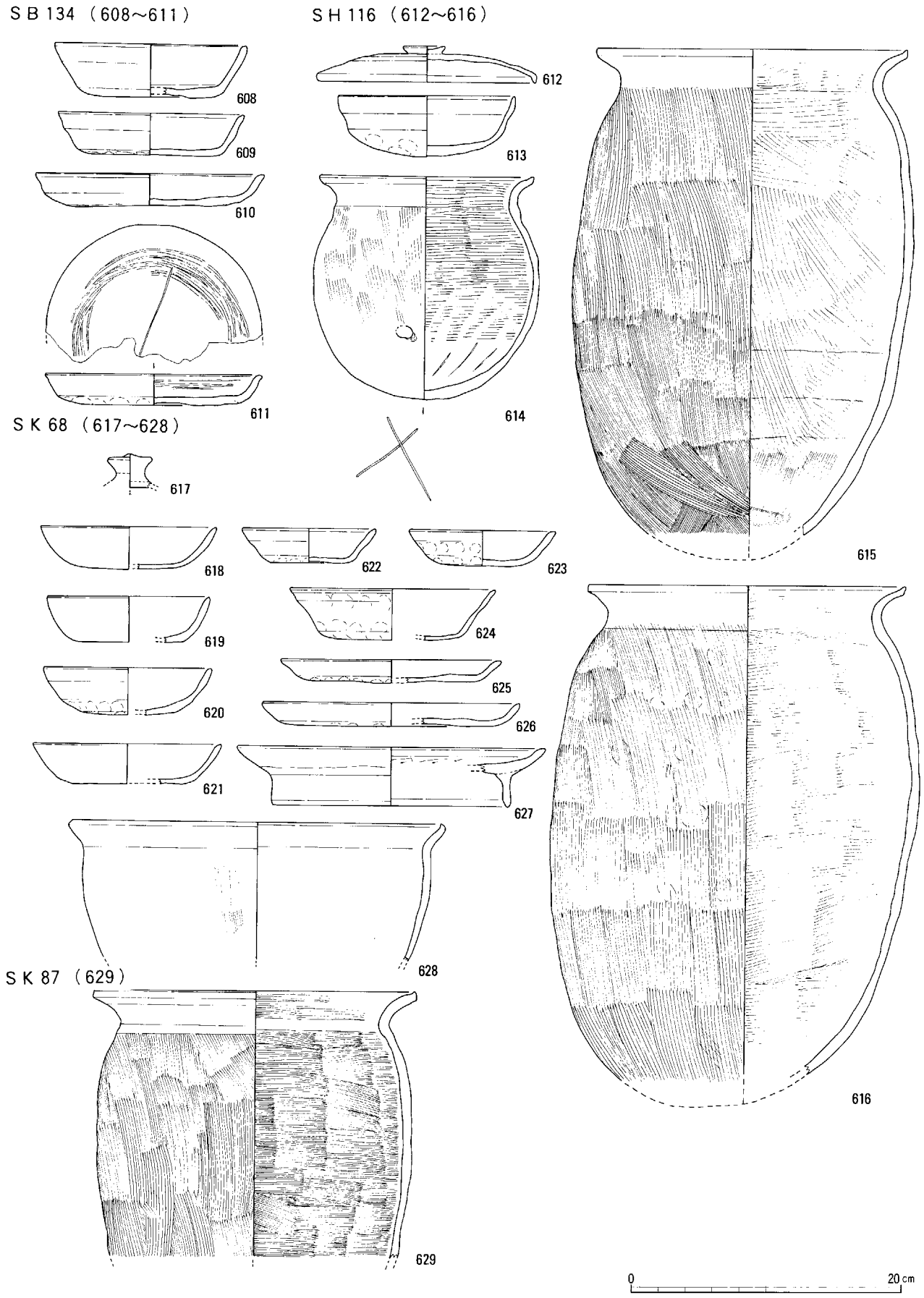
第77図　出土遺物実測図Ｆ区（26）（1：4）



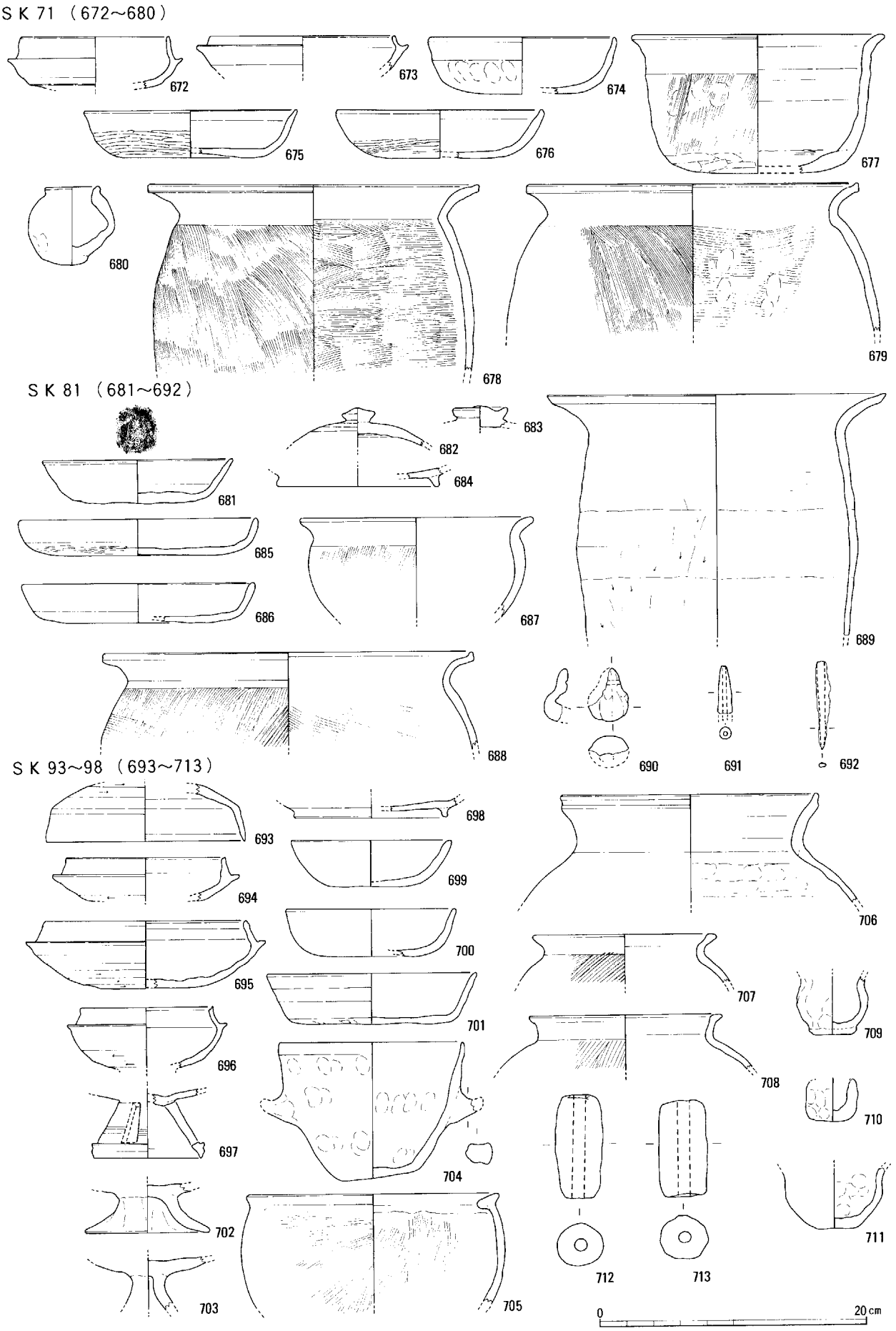
第78図　出土遺物実測図F区（27）（1：4）



第79図　出土遺物実測図F区（28）（1：4）

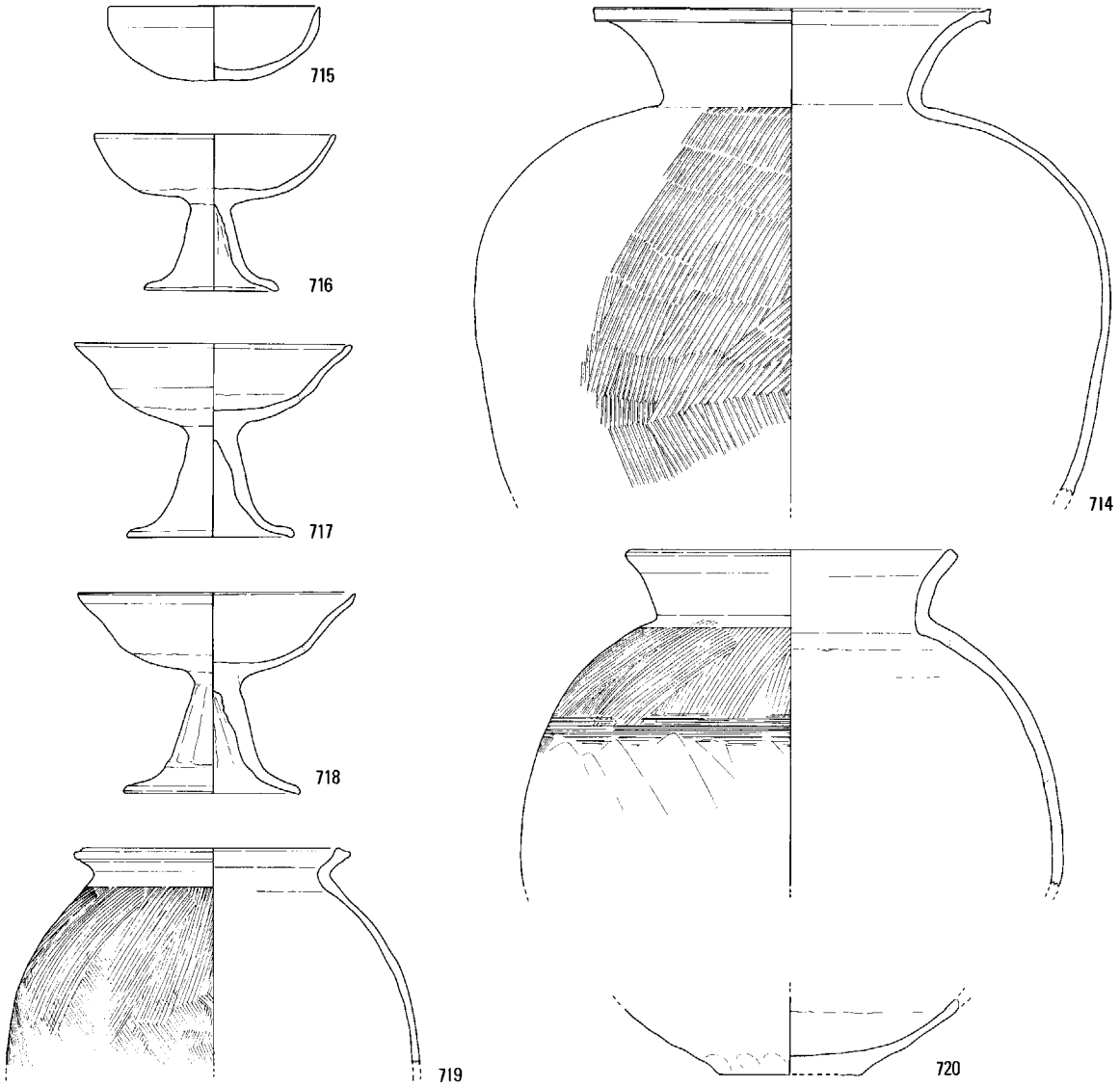


第80図　出土遺物実測図Ｆ区（29）（１：４）

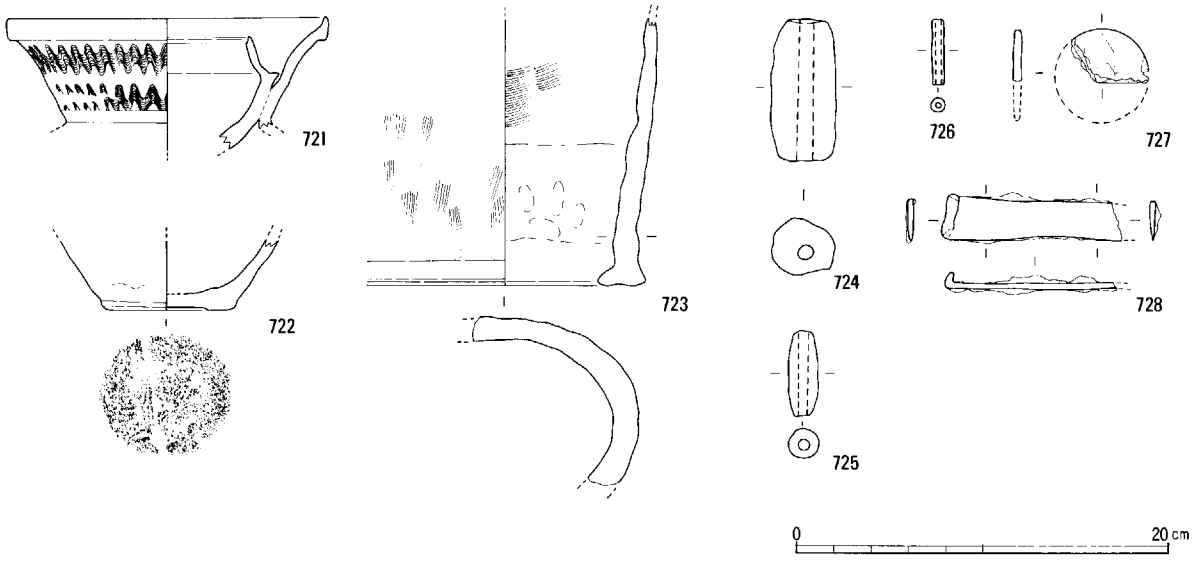


第81図　出土遺物実測図Ｆ区（30）（1：4）

F区下水管立会（715～720）



包含層（F区）



第82図　出土遺物実測図F区（31）（1：4）

報告番号	登録番号	調査次数	地区名	種類	器種	出土遺構	口径 (cm)	器高 (cm)	その他 (cm・g)	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考
1	006-03	3	E-P6	須恵器	杯蓋	SH1	12.4	5.0	—	ロクロナデ、天井部外面ロクロケズリ	粗	良	灰白 5Y7/1	1/3	
2	051-01	2	A-C3	須恵器	杯蓋	SH1	12.7	4.6	—	ロクロナデ、外面上部ロクロケズリ	密	並	灰 5Y5/1	1/2	
3	025-03	3	E-P6	須恵器	杯蓋	SH1	10.8	5.0	—	ロクロナデ、ロクロケズリ	やや密	並	灰白 5Y7/1 にぶい橙 7.5YR6/4	1/3	
4	025-02	2	A-C3	須恵器	蓋	SH1	—	—	—	ロクロナデ、ロクロケズリ	やや粗	不良	にぶい黄 2.5Y6/3		
5	055-01	3	E-Q7	須恵器	壺底	SH1	—	—	—	口縁部・頸部ロクロナデ、外面カキメ、内面同心円状当て具痕をナデ消す	精緻	良	灰 5Y5/1	口縁部完形	
6	004-03	3	E-Q7	土師器	椀	SH1	13.5	—	—	口縁部ヨコナデ、外面ケズリ、内面ナデ	粗	並	橙 5YR6/6	1/3	
7	006-02	3	E-P6	土師器	椀	SH1	13.0	—	—	口縁部ヨコナデ、外面オサエ、内面ナデ	粗	並	外：橙 5YR6/6 内：明黄褐 10YR7/6 芯：橙 5YR6/6	1/2	
8	004-01	3	F-P7	土師器	高杯	SH1	13.6	—	—	ヨコナデ	粗	並	外：にぶい赤褐 5YR3/4 内：明赤褐 5YR6/5	杯部1/3	口縁部外面に黒色の付着物有り
9	006-01	3	E-P6	土師器	高杯	SH1	—	—	底部径 9.2	外面縦方向のケズリ、端部ナデ、内面シボリ	粗	良	橙 5YR6/6	脚完形	杯部を欠損する
10	051-03	2	A-C3	土師器	高杯	SH1	—	11.15	底部径 8.8	杯部ヨコナデ、脚部ナデ・端部ヨコナデ、脚内部シボリ痕	やや粗	並	橙 2.5YR6/6	脚部3/8欠損	
11	051-02	2	A-C3	土師器	高杯	SH1	14.4	10.5	底部径 8.4	杯部ヨコナデ、接合部オサエ、脚部ナデ・端部ヨコナデ、脚内部シボリ痕	やや密	並	橙 5YR6/6	杯部1/4欠損	
12	004-05	3	E-O7	土師器	台付壺	SH1	14.2	(18.5)	底部径 (4.0) 体部最大径18.0	口縁部ヨコナデ、外面ナナメハケ、内面ナデ、脚部ナデ	粗	並	灰白 10YR2/8 にぶい黄橙 10YR3/7	2/5	脚部を欠損する
13	037-04	2	A-C3	土師器	台付壺	SH1	11.8	—	体部最大径 18.0	口縁部ヨコナデ、他は風化著しく不明	やや粗	並	にぶい橙 5YR7/3 灰黄褐 10YR5/2	1/5	
14	037-03	2	A-C3	土師器	台付壺	SH1	13.4	—	—	口縁部ヨコナデ、外面ナナメハケ・内面工具ナデ	やや粗	並	にぶい黄橙 10YR7/3	口縁部1/3	
15	037-02	2	A-C3	土師器	台付壺	SH1	11.4	—	—	口縁部ヨコナデ、外面ナナメハケ・内面工具ナデ	やや粗	並	にぶい黄橙 10YR7/3	口縁部1/4	
16	037-01	2	A-C3	土師器	台付壺	SH1	10.5	—	—	口縁部ヨコナデ、外面ナナメハケ・内面工具ナデ	やや粗	やや不良	灰 5Y4/1	口縁部1/2	
17	026-02	2	A-C3	土師器	台付壺	SH1	19.0	—	—	口縁部ヨコナデ、体部外面ハケ・内面ナデ	密	並	にぶい黄橙 10YR7/3	口縁部1/8	
18	042-01	2	A-C3	土師器	台付壺	SH1	15.1	—	—	口縁部ヨコナデ、体部ナナメハケ、内面オサエ・ナデ	やや粗	並	にぶい黄橙 10YR7/3	小片	
19	025-01	3	E-P6	土師器	台付壺	SH1	14.9	—	体部最大径 22.0	ヨコナデ、体部外面ナナメハケ、内面ナデ	やや密	並	灰白 10YR2/8	1/4	
20	042-02	2	A-C3	土師器	台付壺	SH1	—	—	底部径 9.3	ナデ、オサエ	やや粗	並	にぶい黄橙 10YR7/3	脚部完形	
21	025-04	2	A-C3	土師器	台付壺	SH1	—	—	底部径 7.7	外面ケズリ・内面ナデ、脚部外面ナデ、端部ヨコナデ	やや粗	並	にぶい黄橙 7.5YR7/4	脚部完形	
22	025-03	2	A-C3	土師器	台付壺	SH1	—	—	底部径 10.0	脚部外面ナナメナデ、内面ナデ、端部ヨコナデ	やや粗	並	にぶい黄橙 7.5YR7/4	脚部完形	
23	106-01	3	E-P6	土師器	鉢	SH1	28.5	—	体部最大径 36.8	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、内面ナデ	やや粗	並	浅黄橙 10YR8/4	口縁部ほぼ完形	
24	024-01	3	E-P6	土師器	鉢	SH1	32.5	—	体部最大径 36.2	ヨコナデ、体部外面ナナメハケ、内面ナデ	粗	並	灰白 10YR8/2	3/8	
25	026-01	2	E-P6	土師器	甑	SH1	—	—	底部径 11.0	外面縦方向のケズリ	やや粗	並	灰白 5Y7/1	底部完形	底部外面にけびき線あり
26	026-04	2	A-C3	土製品	土錘	SH1	—	—	残長 10.8 径 4.5～4.8 穴径 4.5～4.8 重さ 173.3	ナデ	やや密	並	にぶい黄橙 10YR7/3		
27	037-05	2	A-C3	鉄製品	小刀	SH1	—	—	長さ 18.8 幅 3.6 厚さ 0.8						
28	028-02	2	A-C6	土師器	椀	SH4	12.4	4.4	—	口縁部ヨコナデ、外面ケズリ、内面ナナメナデ、底部ナデ	密	良	橙 5YR6/6	1/3	
29	028-01	2	A-C6	土師器	椀	SH4	12.0	5.4	—	口縁部ヨコナデ、外面指オサエ後ナデ、内面ナデ、底部ケズリ	やや粗	良	浅黄橙 7.5YR8/4	1/2	
30	033-03	3	E-Q10	土師器	椀	SH4	11.3	5.1	—	ナデの後オサエ、底部外面にケズリ	精	並	橙 5YR6/6	2/3	
31	054-01	2	A-C6	土師器	高杯	SH4	13.2	10.3	底部径 8.2	口縁部ヨコナデ、体部ナデ、脚柱状部面取り、端部ヨコナデ	やや粗	並	橙 7.5YR6/8	脚部1/2欠損	
32	032-02	3	E-Q10	土師器	高杯	SH4	14.4	—	—	ナデ、オサエ	密	良	橙 5YR6/6 灰黄褐 10YR4/2	杯部1/3	
33	035-01	2	A-C6	土師器	高杯	SH4	14.3	—	—	ナデ、脚接合部外面工具ナデ	やや粗	並	橙 7.5YR6/6	椀部 完形 脚部 欠損	粗製
34	035-02	2	A-C6	土師器	高杯	SH4	—	(7.0)	底部径 9.0	ナデ、脚部外面工具ナデ	やや密	並	橙 5YR6/8	底部1/3	
35	032-03	3	E-Q10	土師器	高杯	SH4	—	—	底部径 13.8	ナデ、オサエ、内面シボリ痕	粗	良	橙 5YR6/8	脚部1/5	
36	036-02	2	A-C6	土師器	台付壺	SH4	12.0	22.3	底部径 8.5 体部最大径 18.0	口縁部ヨコナデ、外面ナナメハケ・下部ケズリ、内面ナデ、脚部外面ナデ・内面ナデ、端部オサエ	やや密	並	浅黄橙 7.5YR8/3	1/3	
37	031-02	2	A-C6	土師器	台付壺	SH4	15.0	—	体部最大径 16.1	口縁部ヨコナデ、外面ナナメハケ・下部ケズリ・内面工具ナデ	やや粗	並	にぶい黄橙 10YR7/3	1/3	
38	028-04	2	A-C6	土師器	台付壺	SH4	12.0	—	体部最大径 15.5	口縁部ヨコナデ、外面ナナメハケ・内面オサエの後ナデ	やや粗	良	外：浅黄橙 7.5YR8/3 内：淡橙 5YR8/4	口縁部1/2	
39	025-05	2	A-C6	土師器	台付壺	SH4	14.8	—	—	口縁部ヨコナデ、外面ナナメハケ・内面ナデ	やや粗	並	にぶい橙 7.5YR7/4	口縁部1/4	
40	028-03	2	A-C6	土師器	台付壺	SH4	15.0	—	—	口縁部ヨコナデ、外面ナナメハケ・内面ナデ、	やや粗	良	浅黄橙 7.5YR8/4	口縁部1/5	
41	029-01	2	A-C6	土師器	台付壺	SH4	13.8	(9.9)	体部最大径 18.3	口縁部ヨコナデ、外面ケズリ後ハケ、内面ナデ	やや粗	良	外：黒褐 10YR3/1 内：浅黄橙 10YR8/4	口縁部1/4	
42	029-02	2	A-C6	土師器	台付壺	SH4	13.0	(9.0)	—	口縁部ヨコナデ、外面ナナメハケ・内面工具ナデ	粗	やや不良	外：灰褐 7.5YR5/2 内：浅黄橙 7.5YR8/4	口縁部 3/4 体部 1/3	
43	035-02	3	E-Q10	土師器	台付壺	SH4	15.4	—	—	口縁部内面及び外面ハケ、内面工具ナデ	やや密	並	淡黄 2.5Y8/3	口縁部1/5	体部外面にハケの後棒状工具による沈線が1条あり
44	031-01	2	A-C6	土師器	台付壺	SH4	16.5	—	—	口縁部ヨコナデ、外面ナナメハケ・内面ナデ	やや粗	並	にぶい黄橙 10YR7/4	口縁部1/4	
45	038-01	2	A-C6	土師器	台付壺	SH4	17.0	—	—	口縁部ヨコナデ、外面ナナメハケ・内面ナデ	やや密	並	にぶい黄橙 10YR7/4	口縁部3/8	
46	030-02	2	A-C6	土師器	台付壺	SH4	(16.6)	(8.6)	底部径 9.4	外面ケズリ後ハケ・内面ナデ、脚部ナデ	密	やや不良	にぶい黄橙 10YR7/3	脚部 9/10 体部 1/10	体部内面のナデが丁寧であり、台付き鉢の可能性有り
47	035-05	2	A-C6	土師器	台付壺	SH4	—	—	底部径 8.2	外面ナナメハケ、内面ナデ、脚部外面ナデ・内面ナデ、端部オサエ	やや粗	並	にぶい黄橙 10YR7/4	底部完形	
48	033-01	3	E-Q10	土師器	台付壺	SH4	—	—	底部径 10.3	外面ハケの後ナデ、内面ナデ	粗	並	浅黄橙 10YR8/4	脚部のみ	台付鉢の可能性あり
49	032-01	2	A-C6	土師器	台付壺	SH4	—	(23.0)	底部径 9.6	外面ナナメハケ・下部ケズリ、内面工具ナデ、脚部ナデ	やや粗	並	浅黄橙 7.5YR8/3	4/5	口縁部を欠く
50	030-01	3	E-Q10	土師器	台付壺	SH4	—	—	底部径 10.5	外面ナナメハケ・下部ケズリ、内面工具ナデ、脚部外面ナデ・内面ナデ、端部オサエ、ナデ	やや粗	並	にぶい黄橙 10YR7/4 灰黄褐 10YR4/2	底部完形	
51	031-02	3	E-Q10	土師器	台付壺	SH4	—	—	底部径 6.3	下部ケズリ、内面工具ナデ、脚部外面ナデ・内面ナデ、端部ナデ	やや密	並	にぶい橙 2.5YR7/3	脚部のみ	
52	035-04	2	A-C6	土師器	台付壺	SH4	—	—	底部径 10.0	外面下部ケズリ、内面ナデ、脚部工具ナデ・内面ナデ、端部折り返しの後ナデ	やや粗	並	浅黄橙 10YR8/3	脚部完形	
53	030-02	3	E-Q10	土師器	壺	SH4	10.5	13.8	体部最大径 14.8	ナデ、外面ケズリ	やや粗	並	にぶい橙 7.5YR7/4	完形	黒斑あり
54	030-01	2	A-C6	土師器	鉢	SH4	31.2	(15.4)	体部最大径 33.0	口縁部ヨコナデ、外面ナナメハケ・内面工具ナデ	密	良	浅黄橙 10YR8/4	口縁部1/5	
55	033-01	2	A-C6	土師器	壺	SH4	22.8	(36.0)	体部最大径 41.6	口縁部ヨコナデ、体胴部タテハケ・ヨコハケ、下半部ケズリ	やや粗	並	にぶい橙 2.5YR7/4	4/5	櫛描き横線 底部を欠く
56	032-03	3	E-Q10	土師器	甑	SH4	—	—	底部径 9.0	ケズリの後オサエ、内面工具ナデ	粗	良	灰黄褐 10YR4/2	底部1/2	
57	031-03	3	E-Q10	土師器	ミニチュア土器	SH4	—	—	底部径 9.4	ナデ、オサエ	やや粗	並	にぶい黄橙 10YR7/4	底部のみ	

第1表　出土遺物観察表E区（1）

報告番号	登録番号	調査次数	地区名	種類	器種	出土遺構	口径 (cm)	器高 (cm)	その他 (cm・g)	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考
58	019-02	2	A-C9	須恵器	壺	SH6 45	—	—	—	ロクロナデ	密	良	灰 7.5Y6／1	小片	
59	018-02	2	A-C9	土師器	椀	SH6 3	12.3	4.8	—	口縁部ヨコナデ、外面ケズリ・内面ナデ	やや粗	やや不良	にぶい橙 7.5YR7／4	ほぼ完形	外面に黒斑有り
60	019-01	2	A-C9	土師器	高杯	SH6 28	14.0	9.7	底部径 10.0	杯端部ヨコナデ、外面下部ケズリ、内面ナデ、脚部外面タテハケの後タテナデ	やや粗	並	橙 5YR6／8	口縁部 1／3 底部 1／6	
61	006-02	2	A-C9	土師器	高杯	SH6 34	14.0	11.6	底部径 9.2	口縁部ヨコナデ、杯部外面オサエ・ナデ、脚部外面工具ナデ、内面シボリ痕、脚端部ヨコナデ	粗	並	橙 5YR6／8	口縁部 1／3 底部 2／3	
62	018-04	2	A-C9	土師器	高杯	SH6 22	13.8	11.9	底部径 9.7	外面内面ナデ、脚部外面タテハケの後タテナデ、内面シボリ痕、端部ヨコナデ	粗	並	明赤褐 5YR5／8	口縁部 1／2	
63	016-03	2	A-C9	土師器	高杯	SH6 21	13.9	12.4	底部径 9.2	外面内面ナデ、脚部外面タテハケの後タテナデ、内面シボリ痕、端部ナデ	やや密	良	橙 7.5YR6／6	口縁部 1／3	
64	016-03	2	A-C9	土師器	椀	SH6 20	14.8	—	—	ヨコナデ	やや粗	並	明赤褐 5YR5／8	口縁部 1／4	外面に黒斑あり
65	008-02	2	A-C9	土師器	椀	SH6 28	13.0	—	—	口縁部ヨコナデ、体部ナデ	やや粗	並	にぶい黄橙 10YR7／4	口縁部 1／2	高杯の可能性もある
66	053-03	2	A	土師器	高杯	SH6	—	—	—	不明瞭	やや粗	並	黄橙 7.5YR7／8	脚部片	三方向透孔（円形）
67	005-04	2	A-C9	土師器	高杯	SH6 38	—	—	底部径 7.1	外面ナデ・内面ナデ、脚端部ヨコナデ	粗	並	にぶい橙 5YR7／4	脚部のみ 2／5	
68	016-04	2	A-C9	土師器	壺	SH6 33	9.0	8.0	体部最大径 9.8	口縁部オサエ、外面ケズリ・不調整、内面ナデ	やや粗	並	にぶい黄橙 10YR7／4	口縁部 わずか	内面全体が黒色
69	024-01	2	A-C9	土師器	壺	SH6 床面直上	17.0	—	体部最大径 22.5	口縁部外面ヨコナデ・内面ヨコハケ、体部外面ナナメハケ・内面ケズリ	粗	並	にぶい黄橙 10YR7／4	口縁部 7／8	
70	006-03	2	A-C9	土師器	壺	SH6 34	10.0	—	—	ヨコナデ	やや密	並	にぶい橙 2.5YR6／4	口縁部 1／3	一部に黒斑あり
71	015-03	2	A-C9	土師器	壺	SH6 37	8.8	—	—	ヨコナデ	やや密	並	橙 5YR6／8	口縁部 1／6	
72	008-03	2	A-C9	土師器	壺	SH6 28	13.0	—	—	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、内面ナデ	やや密	並	外：にぶい黄橙 10YR7／4 内：黒褐 10YR3／1	口縁部 1／4	
73	018-01	2	A-C9	土師器	台付壺	SH6 22	7.8	(12.0)	体部最大径 10.7	口縁部ヨコナデ、外面ナナメハケ・内面ナデ、脚部外面ナナメハケ・内面ナデ	やや密	良	にぶい橙 7.5YR7／3 灰黄褐 10YR5／2	2／3	内面に接合痕あり
74	016-02	2	A-C9	土師器	台付壺	SH6 34	12.2	—	—	口縁部ヨコナデ、外面ナナメハケ・内面ナデ	やや粗	並	橙 7.5YR6／6	口縁部 1／4	
75	014-01	2	A-C9	土師器	台付壺	SH6 41	14.1	27.7	底部径 8.3 体部最大径 22.3	口縁部ヨコナデ、外面ナナメハケ、下部ケズリ、内面ナデの後ケズリ、オサエ、脚部外面ハケの後ナデ、内面ナデ・オサエ、端部ナデ	やや粗	並	にぶい黄橙 10YR6／4	口縁部 1／10 底部 完形	
76	017-01	2	A-C9	土師器	台付壺	SH6 27	15.7	28.2	底部径 9.5 体部最大径 22.8	口縁部ヨコナデ、外面ナナメハケ・下部ケズリ、内面ナデ、脚部外面オサエの後ナデ・内面ナデ、端部折り返し	やや密	並	浅黄橙 7.5YR8／3	口縁部 わずか 底部 完形	
77	002-01	2	A-C9	土師器	台付壺	SH6 19	15.2	(18.5)	体部最大径 22.7	口縁部ヨコナデ、外面ナナメハケ、内面ナデ	やや粗	並	にぶい黄橙 10YR7／4	口縁部 1／2	口縁部に強いヨコナデ
78	009-02	2	A-C9	土師器	台付壺	SH6 28	15.0	—	体部最大径 22.9	口縁部ヨコナデ、外面ナナメハケ、内面ナデ	やや粗	並	にぶい黄橙 10YR7／4	口縁部 1／4	粘土接合痕が明瞭
79	002-02	2	A-C9	土師器	台付壺	SH6 18	14.4	(12.2)	体部最大径 22.5	口縁部ヨコナデ、外面ナナメハケ、内面ナデ	やや粗	並	にぶい黄橙 7.5YR7／4	口縁部 1／3	口縁部に強いヨコナデ
80	011-01	2	A-C9	土師器	台付壺	SH6 14	17.2	53.6	底部径 11.0 体部最大径 28.3	口縁部ヨコナデ、外面ナナメハケ・下部ケズリ、内面ナデ、脚部外面ハケの後ナデ・内面ナデ、端部折り返しの後ナデ	やや密	やや良	浅黄橙 10YR8／3	口縁部 2／5	口縁部の一部を欠損
81	003-01	2	A-C9	土師器	台付壺	SH6 2	17.5	31.7	底部径 10.5 体部最大径 27.0	口縁部ヨコナデ、外面ナナメハケ、内面ナデ・オサエ、脚部外面ハケの後ナデ・内面ナデ	やや粗	並	にぶい黄橙 7.5YR7／3	3／5	口縁部に強いヨコナデ
82	013-01	2	A-C9	土師器	台付壺	SH6 31	15.0	(29.2)	体部最大径 25.7	口縁部ヨコナデ、外面ナナメハケ、下部ケズリ、内面ナデ	やや粗	並	外：橙 7.5R6／6 内：明褐 7.5YR5／6	3／8	脚部を欠損
83	022-01	2	A-C9	土師器	台付壺	SH6 4	16.7	32.5	底部径 11.0 体部最大径 29.3	口縁部ヨコナデ、外面ナナメハケ・下部ケズリ、内面ナデ、脚部外面オサエ、ナデ・内面オサエ、ナデ、端部ナデ	やや粗	並	にぶい橙 10YR7／3	口縁部 1／3 底部 完形	
84	023-01	2	A-C9	土師器	台付壺	SH6 20	15.0	—	体部最大径 28.3	口縁部ヨコナデ、外面ナナメハケ・下部ケズリ、内面板状工具によるナデ、外面肩部にヨコハケ一条	やや粗	並	にぶい橙 7.5YR6／4	口縁部 1／6	
85	015-01	2	A-C9	土師器	台付壺	SH6 28	16.0	—	—	口縁部ヨコナデ、外面ナナメハケ・内面ナデ	やや粗	並	にぶい橙 7.5YR7／4	口縁部 1／8	肩部にヘラ状工具による沈線が1条あり
86	005-01	2	A-C9	土師器	台付壺	SH6 26	16.3	—	—	口縁部ヨコナデ、外面ナナメハケ、内面ナデ	やや粗	並	にぶい橙 7.5YR7／4	口縁部 1／6	口縁部に強いヨコナデ
87	006-01	2	A-C9	土師器	台付壺	SH6 35	15.4	—	—	口縁部ヨコナデ、外面ナナメハケ・内面ナデ	やや粗	並	浅黄橙 10YR8／3	口縁部 2／3	
88	004-01	2	A-C9	土師器	台付壺	SH6 1	—	—	底部径 10.5 体部最大径 26.8	外面ナナメハケ、内面ナデ、脚部外面ナデ・内面工具ナデ、端部折り返しの後ナデ	やや粗	並	にぶい橙 7.5YR7／4	体下半部 1／4 底部 完形	
89	012-01	2	A-C9	土師器	台付壺	SH6 24	—	(23.0)	底部径 11.0 体部最大径 27.7	外面ナナメハケの後ケズリ・内面ナデ、脚部外面ナデ、端部折り返しの後ヨコナデ	やや粗	並	にぶい黄橙 10YR7／3	7／8 底部 完形	肩部以上を欠損 折り返しを丁寧に消す
90	010-01	2	A-C9	土師器	台付壺	SH6 5	—	—	底部径 11.0 体部最大径 28.8	外面ナナメハケ・下部ケズリ、内面ナデ、脚部外面ヨコナデ、端部折り返しの後ヨコナデ	やや密	並	にぶい黄橙 10YR6／4	3／4 底部 完形	体肩部以下完存
91	021-01	2	A-C9	土師器	台付壺	SH6 9	—	(32.7)	底部径 11.0 体部最大径 28.2	口縁部ヨコナデ、外面ナナメハケ・下部ケズリ、内面ナデ、脚部外面オサエ、ナデ・内面ナデ、端部折り返し	やや粗	並	にぶい黄橙 10YR7／3	1／3 底部 完形	口縁部を欠く
92	007-02	2	A-C9	土師器	台付壺	SH6 1	—	—	底部径 9.7	外面ナナメハケ、内面ナデ、脚部外面ナデ・内面オサエ、端部折り返しの後ナデ	やや粗	並	にぶい橙 7.5YR6／4	底部 2／3	
93	009-01	2	A-C9	土師器	台付壺	SH6 23	—	—	底部径 11.0	下部外面ケズリ、内面ナデ、脚部外面ヨコナデ、端部折り返しの後ヨコナデ	やや粗	並	にぶい橙 7.5YR7／4	1／8	
94	005-03	2	A-C9	土師器	台付壺	SH6 44	—	—	底部径 10.1	脚部外面ナナメハケの後ナデ、内面ナデ、端部折り返しの後オサエ	粗	並	にぶい橙 5YR7／4	台部 完形	脚端部内面に指オサエ
95	005-02	2	A-C9	土師器	台付壺	SH6 44	—	—	底部径 10.0	脚部外面ナナメハケの後ナデ、内面オサエ・ナデ、端部折り返しの後オサエ・ナデ	やや粗	並	にぶい褐 7.5YR6／3	台部 完形	脚端部内面に指オサエ
96	001-02	2	A-C9	土師器	台付壺	SH6 19	—	(6.1)	底部径 11.0	脚部外面ナナメハケの後ナデ、内面指圧の後ナデ、端部折り返し、ナデ、オサエ	やや粗	並	にぶい橙 7.5YR7／4	台部 1／2	
97	015-02	2	A-C9	土師器	鉢	SH6 31	31.3	—	体部最大径 31.3	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、内面ナデ	やや粗	並	にぶい黄橙 10YR7／4	口縁部 1／8	
98	015-01	2	A-C9	土師器	鉢	SH6 37	36.8	—	—	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、内面ナデ	やや密	並	にぶい黄橙 10YR7／4	口縁部 1／6	
99	007-01	2	A-C9	土師器	鉢	SH6 21	—	—	—	外面ハケ、内面ナデ	やや粗	並	灰黄褐 10YR5／2	小片	
100	016-05	2	A-C9	土師器	鉢	SH6 33	—	—	—	口縁部ヨコナデ、外面ナナメハケ・内面ナデ	やや密	並	にぶい橙 7.5YR7／4	小片	
101	034-01	2	A-C9	土師器	壺	SH4	16.3	33.3	底部径 8.9 体部最大径 30.3	口縁部ヨコナデ、体肩部タテハケ・ヨコハケ、下半部ケズリ	やや粗	並	にぶい橙 7.5YR7／4	2／5	体部中央を欠く 櫛描き横線
102	[illegible]	2	A-C9	土師器	壺	SH6 32	21.0	—	—	口縁部ヨコナデ、体部ナデ	やや密	並	にぶい黄橙 10YR7／4	口縁部 1／4	
103	020-01	2	A-C9	土師器	壺	SH6 7	—	(28.1)	底部径 7.7 体部最大径 31.5	体部外面ケズリ・内面ナデ	やや粗	並	にぶい橙 7.5YR7／4	4／5	口縁部・肩部を欠く
104	001-01	2	A-C9	土師器	壺	SH6 12	—	(16.5)	底部径 8.7	体部外面タテハケの後下部にケズリ、内面ナデ	やや粗	並	内面：明褐灰 7.5YR7／2 外面：にぶい黄橙 10YR7／4	体部下半、底部完形	粘土接合痕あり 体部外面に黒斑あり
105	007-03	2	A-C9	土師器	壺	SH6 21	14.9	—	—	ナデ	やや粗	並	橙 2.5YR6／6	口縁部 1／5	輝製土器 口縁下部に刺突文
106	001-03	2	A-C9	土師器	壺？	SH6 18	—	—	—	タテハケ	やや粗	並	にぶい黄橙 10YR7／3	10cm四方の破片	横櫛書き沈線、櫛状工具による刺突
107	038-07	2	A-C9	石製品	管玉	SH6	—	—	長さ 2.1 径 0.6 穴径0.2				緑		
108	047-04	2	B-F2	須恵器	杯身	SH8	—	—	—	ロクロナデ	やや粗	良	褐灰 10YR6／1	小片	
109	030-03	3	B-L6	須恵器	甕	SH8	—	—	体部最大径 11.0	ロクロナデ、ロクロケズリの後カキメ、刺突、スカシ孔	密	並(良)	灰白 N7／0	体部 2／3	体上部外面と体下部内面に自然釉
110	052-05	2	B-F2	土師器	椀	SH8	11.4	5.7	—	口縁部ヨコナデ、体部ナデ、体下部ケズリ	やや粗	並	にぶい橙 7.5YR7／4	完形	穿孔あり
111	028-02	3	B-L5	土師器	椀	SH8	14.0	—	—	ナデ、ケズリ	粗	並	橙 7.5YR7／6	口縁部 2／5	
112	052-01	2	B-F2	土師器	高杯	SH8	14.2	(5.0)	—	ナデ、下部ケズリ	やや粗	並	橙 5YR6／8	杯部 1／2	
113	043-01	2	B-F2	土師器	高杯	SH8	13.0	—	—	風化著しく不明	粗	並	橙 7.5YR6／6		
114	044-04	2	B-F2	土師器	高杯	SH8	—	—	底部径 5.1	脚部縦方向のナデ、端部ヨコナデ、内面ナデ	やや粗	やや不良	浅黄橙 7.5YR8／3	脚部 1／5	

第２表　出土遺物観察表Ｅ区（２）

報告番号	登録番号	調査次数	地区名	種類	器種	出土遺構	口径(cm)	器高(cm)	その他(cm・g)	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考
115	048-04	2	B-F2	土師器	高杯	SH8	—	(6.7)	底部径 9.2	脚柱状部面取り、端部ヨコナデ	粗	良	外：にぶい黄橙 10YR7/4 内：黒 10YR2/1	脚部 4/5	
116	027-02	3	E-L5	土師器	高杯	SH8	—	—	底部径 8.7	ヨコナデ、柱状部面取りナデ	粗	並	橙 5YR6/6	脚部 1/2	
117	027-03	3	E-L5	土師器	高杯	SH8	—	—	底部径 9.4	ヨコナデ、柱状部面取りナデ、ハケメ	やや粗	並	橙 5YR6/6	脚部 3/4	
118	046-01	2	B-F2	土師器	高杯	SH8	—	(5.7)	底部径 9.4	脚部縦方向のナデ、端部ヨコナデ、内面ナデ	やや粗	良	橙 5YR6/8	脚部 1/2	
119	052-03	2	B-F2	土師器	高杯	SH6	—	(8.0)	底部径 14.2	脚柱状部面取り、端部ヨコナデ	やや粗	並	橙 5YR6/6	脚部 1/6	
120	053-04	2	B-F2	土師器	ミニチュア土器	SH8	7.0	—	体部最大径 6.8	口縁部ヨコナデ、体部ナデ	やや密	並	灰白 2.5YR8/2	1/2	ミニチュア土器
121	052-04	2	B-F3	土師器	壺	SH8	8.7	(7.5)	—	風化のため調整不明	粗	並	橙 5YR7/8	肩部以上 2/3	
122	047-01	3	B-F2	土師器	高杯	SH8	27.6	(5.9)	—	ヨコナデ	密	やや不良	にぶい黄橙 10YR7/4	口縁部 1/8	
123	029-01	3	E-L6	土師器	台付壺	SH8	14.5	25.6	底部径 9.9 体部最大径 20.7	口縁部ヨコナデ、外面ナナメハケ・下部ケズリ、内面ナデ、脚部外面ナデ・内面ナデ、端部オサエ、ナデ	粗	並	にぶい黄橙 10YR7/3	口縁部 2/3 底部 1/3	
124	048-01	2	B-F2	土師器	台付壺	SH8	14.8	32.5	底部径 10.8 体部最大径 25.3	口縁部ヨコナデ、外面ナナメハケ・下部ケズリ、内面ナデ、脚部外面ナデ・内面ナデ、端部オサエ・ナデ	やや粗	良	にぶい橙 7.5YR7/3	口縁部 1/10 体部 3/5	
125	031-01	3	E-L5	土師器	台付壺	SH8	15.6	—	体部最大径 27.0	口縁部ヨコナデ、外面ナナメハケ・下部ケズリ、内面ナデ	やや粗	並	にぶい黄橙 10YR7/4	口縁部 小片	
126	044-03	2	B-F2	土師器	台付壺	SH8	15.2	—	—	口縁部ヨコナデ、外面ナナメハケ・内面工具ナデ	やや粗	良	にぶい橙 5YR7/4	口縁部 1/3	
127	045-02	2	B-F2	土師器	台付壺	SH8	15.8	—	—	口縁部ヨコナデ、外面ナナメハケ・内面ナデ	粗	良	浅黄橙 7.5YR8/3	口縁部 1/3	
128	044-02	2	B-F2	土師器	台付壺	SH8	14.8	—	—	口縁部ヨコナデ、外面ナナメハケ・内面工具ナデ	やや粗	やや不良	にぶい黄橙 10YR7/3	口縁部 1/4	
129	045-01	2	B-F13	土師器	台付壺	SH8	11.2	(7.4)	—	口縁部ヨコナデ、外面ナナメハケ・内面ナデ	やや粗	やや不良	にぶい橙 5YR7/4	口縁部 1/3	
130	029-01	3	E-L5	土師器	台付壺	SH8	16.2	—	体部最大径 27.3	ヨコナデ、外面ナナメハケ、内面オサエ、ナデ	やや粗	並	浅黄橙 7.5YR8/3	口縁部 9/10 体部 1/2	
131	045-03	2	B-F2	土師器	台付壺	SH8	—	(5.6)	底部径 9.7	下部ケズリ、脚端部指オサエ後ナデ・外面工具ナデ	密	やや不良	浅黄橙 10YR8/3	台部 5/6 底部 1/4	
132	044-03	2	B-F2	土師器	台付壺	SH8	—	—	底部径 9.2	端部折り返し・ヨコナデ、他は風化著しく不明	粗	やや不良	浅黄橙 10YR8/3	台部 完形	
133	046-03	2	B-F2	土師器	台付壺	SH8	—	—	底部径 9.0	高部ヨコナデ、端部折り返し・オサエ・ナデ	やや粗	良	灰褐 7.5YR5/2	台部 3/5	
134	027-01	3	E-L5	土師器	壺	SH8	15.6	—	体部最大径 22.2	口縁部ヨコナデ、オサエ、ナデ	やや粗	並	にぶい黄橙 10YR7/4	口縁部 ほぼ完形 体部 1/2	結土接合痕が残る
135	047-03	2	B-F2	土師器	甕	SH8	—	—	—	ナデ	粗	やや不良	浅黄橙 7.5YR8/4	把手片	
136	038-08	2	B-F2	石製品	臼玉	SH8	—	—	径 0.6 穴径 0.2				にぶい褐 7.5YR5/3		
137	038-09	2	B-F2	石製品	臼玉	SH8	—	—	径 0.6 穴径 0.2				にぶい黄褐 10YR5/3		
138	004-04	3	E-N7	土師器	椀	SH40	12.2	5.0	—	口縁部ヨコナデ、体部外面ケズリの後オサエ・ナデ、内面ナデ	粗	並	橙 5YR6/6	口縁部 1/3	
139	047-04	3	E-O11	土師器	高杯	SH40	—	—	底部径 13.5	ナデ	粗	並	橙 5Y7/8	脚部 一部残	
140	035-01	3	E-N11	土師器	台付壺	SH40	13.7	150	底部径 6.7 体部最大径 13.8	口縁部ヨコナデ、体部外面ナナメハケ・下部ケズリ、内面ナデ、脚部外面ナデ・内面オサエ	やや粗	並	橙 7.5Y7/6	口縁部 1/3 脚部 完形	
141	047-03	3	E-O11	土師器	台付壺	SH40	—	—	底部径 9.0	ナデ、オサエ	やや粗	並	浅黄橙 10YR8/4	脚部 完形	
142	047-02	3	E-O11	土師器	台付壺	SH40	—	—	底部径 8.8	ナデ	やや粗	並	浅黄橙 7.5YR8/4	脚部 完形	
143	026-02	3	E-J7	須恵器	高杯	SH41	17.5	—	—	体部外面に櫛書き波状文、ロクロナデ	密	並	灰白 5Y7/1	口縁部 1/8	大型高杯
144	025-04	3	E-J6	土師器	高杯	SH41	13.5	11.2	底部径 8.7	ナデ、柱部面取り風ナデ、内面シボリ痕	やや密	並	にぶい橙 7.5YR6/4	杯部 1/3 脚部 1/2	
145	103-01	3	E-J8	土師器	台付壺	SH41	14.3	—	体部最大径 21.6	口縁部ヨコナデ、体部外面ハケ、同内面ナデ	粗	並	にぶい黄橙 10YR7/2	口縁部 少量欠く	
146	047-01	3	E-G5	須恵器	杯蓋	SH49	15.0	—	—	ロクロナデ、外面上部ロクロケズリ	やや密	並	灰 5Y5/1	口縁部 1/7	
147	046-04	3	E-G5	須恵器	杯身	SH49	11.6～12.2	4.8	—	ロクロナデ、外面下部ヘラ切り	やや密	良	灰 7.5Y5/1	口縁部 2/3	底部にヘラ記号
148	046-01	3	E-G6	須恵器	高杯蓋	SH49	11.7～12.2	5.7	—	ロクロナデ、外面上部ロクロケズリ	やや密	良	灰黄 2.5Y7/2	口縁部 完形	
149	034-01	3	E-G5	須恵器	高杯	SH49	—	—	底部径 9.8	ロクロナデ、カキメ、三方スカシ	密	良	灰白 N7/0	小片	透孔
150	034-02	3	E-G5	須恵器	高杯	SH49	—	—	底部径 8.0	ロクロナデ、カキメ、二方スカシ	密	良	灰白 N7/0	小片	透孔
151	034-04	3	E-G5	土師器	高杯	SH49	—	—	底部径 11.0	ナデ、脚端部ヨコナデ	粗	並	橙 5YR6/6	脚部 2/3	大型高杯
152	034-05	3	E-G6	土師器	壺	SH49	13.9	—	—	ナデ、外面肩部ハケ	やや粗	並	にぶい黄橙 10YR7/4	口縁部 1/6	
153	047-05	3	E-G6	土師器	壺	SH49	—	—	底部径 8.3	ナデ、ケズリ	やや粗	良	にぶい黄橙 7.5YR7/4	底部のみ	
154	035-02	3	E-G6	土師器	台付壺	SH40	14.6	—	体部最大径 20.5	口縁部ヨコナデ、体部外面ナナメハケ・下部ケズリ、内面ナデ	やや密	並	にぶい黄橙 10YR7/4	体部 1/8	
155	046-03	3	E-G5	土師器	甕	SH49	14.2	—	—	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、内面ナデ	粗	並	にぶい黄橙 10YR6/3	口縁部 1/3	
156	046-02	3	E-G6	土師器	台付壺	SH49	—	—	底部径 9.8	外面ハケの後ナデ、ケズリ、内面ナデ、脚部ナデ	粗	並	淡黄 2.5Y8/4	肩部以上 欠損	貯蔵穴出土
157	158-04	3	H-R14	土師器	椀	SH58	12.0	4.35	—	ナデ、ケズリ	やや粗	並	にぶい橙 7.5YR7/4	口縁部 1/2	
158	158-05	3	H-R14	土師器	椀	SH58	12.0	4.3	—	ナデ、ケズリ	やや粗	並	にぶい橙 5YR7/4	口縁部 3/8	
159	158-03	3	H-R14	土師器	台付壺	SH58	14.7	—	—	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、内面ナデ	やや粗	並	浅黄橙 10YR8/3	口縁部 1/5	
160	159-01	3	H-R14	土師器	台付壺	SH58	16.8	—	—	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、内面ナデ	やや粗	並	灰黄褐 10YR6/2	口縁部 わずか	
161	010-04	3	H-W16	須恵器	杯蓋	SH52	11.0	4.2	—	ロクロナデ、ロクロケズリ	密	やや不良	にぶい黄橙 10YR7/3	2/3	
162	010-02	3	H-W16	須恵器	杯蓋	SH52	13.6	4.0	—	ロクロナデ、ロクロケズリ	やや粗	やや不良	灰白 5Y7/2	1/2	土器正立時、ロクロは時計回り
163	010-03	3	H-W16	須恵器	杯身	SH52	9.8	4.9	—	ロクロナデ、ロクロケズリ	やや粗	やや不良	淡黄 2.5Y8/3	1/2	
164	012-01	3	H-W16	須恵器	杯身	SH52	10.4	4.8	—	ロクロナデ、ロクロケズリ	やや粗	並	灰 5Y6/1	口縁部 2/3	土器正立時、ロクロは時計回り
165	010-01	3	H-W16	須恵器	壺	SH52	20.8	—	—	口縁部・頸部ロクロナデ、体部外面タタキ、内面ナデ	やや密	やや不良	灰黄 2.5Y6/1	口縁部 1/6	
166	152-01	3	H-W16	土師器	椀	SH52	12.5	—	—	ナデ、ケズリ	やや粗	並	橙 2.5YR6/6	口縁部 2/3	
167	011-01	3	H-W16	土師器	椀	SH52	13.2	4.9	—	口縁部・体部内面ヨコナデ、体部外面オサエの後ナデ	やや粗	やや不良	浅黄橙 10YR8/3	口縁部 1/3	
168	011-02	3	H-W16	土師器	椀	SH52	12.0	5.1	—	口縁部・体部内面ヨコナデ、体部外面横方向のケズリの後ナデ	やや密	やや不良	橙 2.5YR7/6	口縁部 1/2	
169	012-04	3	H-W16	土師器	高杯	SH52	12.8	—	—	口縁部ヨコナデ、体部ナデ	やや粗	並	橙 7.5YR7/6	杯部のみ 1/2	
170	007-01	3	H-W16	土製品	土馬	SH52	—	—	縦 14.8 横 14.8 厚さ 5.8		やや粗	並	浅黄橙 10YR8/3	頭部	
171	012-02	3	H-W16	土師器	椀	SH52	11.5	5.1	—	口縁部ヨコナデ、体部内面ナデ、外面オサエ、底部ナデ	やや密	並	橙 5YR6/6	完形	

第３表　出土遺物観察表Ｅ区（３）

報告番号	登録番号	調査次数	地区名	種類	器種	出土遺構	口径 (cm)	器高 (cm)	その他 (cm・g)	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考
172	012-03	3	H-W16	土師器	椀	SH52	12.9	5.2	—	口縁部ヨコナデ、体部内面ナデ、外面オサエの後ナデ、底部ナデ	やや粗	並	浅黄橙 7.5YR8／6	完形	
173	011-03	3	H-W16	土師器	椀	SH52	16.2	7.8	—	口縁部・体部内面ヨコナデ、体部外面オサエの後ナデ、粘土合わせ痕明瞭	やや粗	やや不良	外：橙 5YR7／6 内：橙 2.5YR6／6	完形	粘土板の合わせ目が顕著に残る
174	192-01	3	H-W16	土師器	台付甕	SH52	11.0	17.2	底部径 6.5 体部最大径 12.1	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、内面ナデ	やや粗	並	橙 7.5YR7／6	底部完形	
175	191-01	3	H-W16	土師器	台付甕	SH52	14.5	33.3	底部径 9.5 体部最大径 27.5	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、内面ナデ	やや粗	並	浅黄橙 10YR8／3	口縁部 1／2 底部 1／3	外面に煤が付着
176	149-01	3	H-W16	土師器	台付甕	SH52	16.0	33.7	底部径 10.0 体部最大径 28.2	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、ケズリ、内面ナデ	やや粗	並	にぶい黄橙 10YR7／4	口縁部 1／5	
177	153-01	3	H-W16	土師器	台付甕	SH52	16.1	—	—	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、内面工具ナデ	やや密	並	浅黄橙 10YR8／4	口縁部 1／4	
178	191-02	3	H-W16	土師器	台付甕	SH52	—	—	底部径 10.1	外面工具ナデ、内面ナデ	やや粗	並	にぶい黄橙 10YR7／2 褐灰 10YR5／1	底部完形	
179	158-01	3	H-W16	土師器	壺	SH52	19.3	—	—	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、内面ナデ、オサエ	やや粗	並	浅黄橙 7.5YR8／3	口縁部 1／2	
180	159-02	3	H-W16	石器	こね石	SH52	—	—	—						
181	151-03	3	H-U15	土師器	高杯	SH53	12.5	—	—	摩滅著しく、調整不明	粗	並	明赤褐 5YR5／6 橙 5YR6／8	口縁部 2／3	
182	188-02	3	H-U15	土師器	台付甕	SH53	17.0	33.3	底部径 10.5 体部最大径 27.4	口縁部ヨコナデ、外面ハケ・ケズリ、内面ナデ	やや密	並	にぶい褐 7.5YR6／3	口縁部 1／2 底部 完形	
183	152-02	3	H-T15	土師器	台付甕	SH53	14.5	—	—	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、内面ナデ	やや粗	並	浅黄橙 10YR8／3	口縁部完形	
184	152-03	3	H-U15	土師器	台付甕	SH53	11.7	—	—	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、内面ナデ	やや密	並	にぶい褐 7.5YR5／3	口縁部 1／3	
185	064-01	3	H-U15	鉄製品	小刀	SH53	—	—	現長 18.3						
186	067-02	3	H-U15	鉄製品	小刀	SH53	—	—	現長 24.0						
187	154-01	3	H-U15	石製品	砥石	SH53	—	—	—						
188	161-02	3	H-V16	土師器	高杯	SH54	13.0	—	—	摩滅著しく、調整不明	粗	並	橙 5YR6／8	口縁部 1／2	
189	150-01	3	H-V16	土師器	壺	SH54	14.0	—	—	ナデ	やや粗	並	浅黄橙 10YR8／4		
190	150-02	3	H-V16	土師器	台付甕	SH54	16.0	—	—	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、内面ナデ	やや粗	並	浅黄橙 7.5YR8／4	口縁部 1／3	
191	188-01	3	H-V16	土師器	台付甕	SH54	17.5	—	—	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、内面ナデ	やや粗	並	浅黄橙 7.5YR8／4	口縁部 1／3	
192	002-01	3	H-V16	土師器	台付甕	SH54	14.4	32.3	底部径 10.0 体部最大径 26.5	口縁部ヨコナデ、体部外面ナナメハケ、内面ナデ、脚部外面ハケ・ナデ・内面ナデ、端部ナデ	やや粗	並	淡黄 2.5Y8／4	2／3	
193	151-01	3	H-V16	土師器	壺	SH54	9.0	—	—	摩滅著しく、調整不明	やや粗	並	橙 7.5YR7／6	口縁部 1／2	
194	148-03	3	H-V16	土製品	土管	SH54	10.9	—	—	ナデ、工具ナデ	やや粗	並	褐灰 10YR5／1	口縁部 1／4	
195	148-02	3	H-V16	土製品	土管	SH54	16.2	—	—	ナデ、オサエ	やや粗	並	浅黄橙 10YR8／3	口縁部 1／5	
196	148-01	3	H-V16	土製品	土管	SH54	22.0	—	—	ナデ、オサエ	やや粗	並	にぶい橙 5YR6／4	口縁部 1／4	
197	062-06	3	H-V16	土製品	紡形	SH54	6.1	—	—	手捏ね	粗		明黄褐 10YR7／6		
198	157-01	3	Ib-H2	須恵器	杯蓋	SH152	13.0	—	—	ロクロナデ、ロクロケズリ	やや密	良	明青灰 5B7／1	口縁部わずか	
199	157-02	3	Ib-H2	須恵器	杯身	SH152	14.2	—	—	ロクロナデ、ロクロケズリ	密	良	灰 N5／0	口縁部 1／8	
200	157-03	3	Ib-H2	須恵器	脚付壺	SH152	—	—	底部径 13.0	ロクロナデ、波状文	やや粗	良	灰 5Y6／1	底部 2／3	
201	155-03	3	Ib-H2	土師器	椀	SH152	12.0	5.5	—	ナデ	粗	並	橙 5YR6／6	口縁部わずか	
202	194-03	3	Ib-H2	土師器	椀	SH152	14.5	—	—	ナデ	やや粗	並	橙 2.5YR6／6	口縁部完形	
203	194-01	3	Ib-H2	土師器	壺	SH152	—	—	体部最大径 14.0	内面ナデ、オサエ、外面ハケ、ケズリ	粗	並	橙 2.5YR7／6	体部 2／3	
204	155-04	3	Ib-H2	土師器	台付甕	SH152	15.2	—	—	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、内面ナデ	粗	並	浅黄橙 7.5YR8／4	口縁部 1／4	
205	156-01	3	Ib-H2	土師器	台付甕	SH152	16.0	—	—	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、内面ナデ	やや粗	並	浅黄橙 10YR8／3	口縁部 1／3	
206	155-02	3	Ib-H2	土師器	台付甕	SH152	—	—	底部径 11.3	ナデ	やや粗	並	にぶい橙 7.5YR7／3	底部完形	
207	155-01	3	Ib-H2	土師器	壺	SH152	16.0	—	—	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、内面ナデ	やや密	並	浅黄橙 10YR8／3	頸部 1／3	
208	156-03	3	Ib-H2	土製品	土管	SH152	—	—	—	ナデ、オサエ	やや粗	並	浅黄橙 10YR8／4		
209	156-02	3	Ib-H2	石器	たたき石	SH152	—	—	—						
210	194-05	3	Id-K6	土師器	椀	SH162	12.0	4.3	—	ナデ、オサエ	やや粗	並	橙 5YR7／6	小片	
211	194-04	3	Id-L5	土師器	高杯	SH161	16.3	—	—	調整不明	やや粗	並	橙 5YR7／6	口縁部 1／2	
212	182-01	3	Id-L5	土師器	高杯	SH161	17.5	12.65	底部径 11.7	ナデ	やや粗	並	にぶい橙 7.5YR7／4	口縁部 2／3 底部 1／4	
213	160-06	3	Id-H6	土師器	椀	SH164	15.0	—	—	ナデ	やや粗	並	淡赤橙 2.5YR7／4	口縁部小片	
214	161-01	3	Id-H6	土師器	台付甕	SH164	—	—	底部径 9.0	ナデ	やや密	並	にぶい黄橙 10YR7／2	底部 3／4	
215	164-01	3	Id-H6	土師器	甕	SH164	25.0	—	—	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、内面ナデ・オサエ	やや粗	並	橙 5YR7／6	口縁部 1／16	
216	160-02	3	Id-G6	須恵器	蓋	SK167	9.5	4.4	—	ロクロナデ、ロクロケズリ、キザミ文	やや密	良	灰白 5Y7／1	口縁部 1／6	
217	160-03	3	Id-J5	須恵器	杯身	SH168	13.0	3.85	—	ロクロナデ、ロクロケズリ	やや粗	並	灰白	口縁部 1／5	
218	160-01	3	Id-J4	須恵器	壺	SH168	14.0	—	—	ロクロナデ、外面ハケ後タタキ、内面青海波	やや密	良	青灰 5B6／1	口縁部 1／4	口縁部の歪み大
219	175-05	3	Id-J4	土師器	椀	SH168	18.5	—	—	ナデ	やや粗	良	橙 2.5YR7／6		内面が黒ずむ
220	160-04	3	Id-I4	土師器	甕	SH168	23.0	—	—	口縁部ヨコナデ、外面・内面ハケ	やや粗	並	にぶい橙 5YR6／4	口縁部 1／5	
221	163-01	3	Id-J5	土師器	甑	SH168	24.8	—	—	口縁部ヨコナデ、ナデ、オサエ	やや粗	並	橙 7.5YR7／6	口縁部 1／6	
222	163-02	3	Id-G6	土師器	甑	SH170	25.0	—	—	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、内面ナデ・オサエ	やや粗	並	橙 7.5YR7／6	口縁部 1／6	
223	175-06	3	Id-G6	土製品	紡形？	SH170	—	—	—	ナデ	密	良	明黄褐 10YR7／6		
224	055-01	2	A-G7	須恵器	杯蓋	SK5	12.0	(推4.8)	体部最大径 12.2	ロクロナデ、天井部外面ロクロケズリ	密	良	褐灰 N3／0		
225	055-02	2	A-G7	土師器	台付甕	SK5	13.5	26.7	底部径 8.4 体部最大径 19.8	口縁部ヨコナデ、体部外面ナナメハケ、内面ナデ、脚部外面ナデ・内面ナデ、端部オサエ	密	良	にぶい黄橙 10YR7／3	2／3	外面に黒斑あり
226	038-02	2	A-F9	土師器	台付甕	SK7	—	—	底部径 10.6	ナデ、ケズリ	やや粗	並	浅黄橙 10YR8／4	脚のみ	
227	038-03	2	A-F9	土師器	壺	SK7	—	—	底部径 6.0	ナデ、オサエ	やや粗	並	にぶい黄橙 10YR7／4	底部のみ	
228	065-01	3	J-B4	須恵器	杯蓋	SK141	14.8	5.1	—	ロクロナデ、上部外面ロクロケズリ	密	良	黄灰 2.5Y6／1	口縁部 1／2	
229	065-02	3	J-B4	須恵器	杯蓋	SK141	14.4	—	—	ロクロナデ、上部外面ロクロケズリ	やや密	並	灰白 5Y7／2		

第４表　出土遺物観察表Ｅ区（４）

報告番号	登録番号	調査次数	地区名	種類	器種	出土遺構	口径 (cm)	器高 (cm)	その他 (cm・g)	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考
230	065-05	3	J-B4	須恵器	杯蓋	SK141	14.5	3.6	—	ロクロナデ、上部外面ロクロケズリ	やや密	良	灰 7.5Y6／1	口縁部 1／8	
231	065-03	3	J-B4	須恵器	杯蓋	SK141	15.2	4.3	—	ロクロナデ、上部外面ロクロケズリ	やや粗	良	灰黄 2.5Y7／2	口縁部 1／6	
232	081-03	3	J-B4	須恵器	杯蓋	SK141	14.0	4.9	—	ロクロナデ、上部外面ロクロケズリ	やや密	良	灰 N5／0	口縁部 1／6	
233	065-06	3	J-B4	須恵器	杯身	SK141	15.7	4.6	—	ロクロナデ、底部外面ロクロケズリ	密	良	灰 7.5Y6／1	口縁部 1／2	
234	065-04	3	J-B4	須恵器	杯身	SK141	12.5	4.5	—	ロクロナデ、底部外面ロクロケズリ	やや粗	並	灰白 2.5Y8／2	口縁部 3／4	
235	097-03	3	J-B4	土師器	椀	SK141	10.0	3.6	底部径 5.0	ナデ	やや密	並	浅黄橙 7.5YR8／3	口縁部 1／4	
236	080-04	3	J-B4	土師器	椀	SK141	11.5	—	—	口縁部ヨコナデ、ナデ（工具ナデか）	やや密	並	橙 5YR6／6	口縁部 10／11	
237	080-05	3	J-B4	土師器	椀	SK141	10.5	6.0	底部径 3.1	口縁部ヨコナデ、ナデ（工具ナデか）	やや粗	並	にぶい黄橙 10YR7／3	口縁部 1／3 底部 完形	
238	076-03	3	J-B4	土師器	椀	SK141	12.8	4.7	底部径 4.0	ナデ、底部木葉文	やや粗	並	浅黄橙 10YR8／3	口縁部 1／3	
239	082-02	3	J-B4	土師器	台付椀	SK141	13.5	8.6	底部径 8.0	口縁部脚端部ヨコナデ、ナデ	やや粗	並	浅黄橙 7.5YR8／4	口縁部 1／2 底部 1／2	
240	076-04	3	J-B4	土師器	台付椀	SK141	12.8	8.0	底部径 7.2	口縁部脚端部ヨコナデ、ナデ	やや粗	並	浅黄橙 7.5YR8／6	口縁部 1／5	
241	108-02	3	J-B4	土師器	台付椀	SK141	12.6	8.6	底部径 8.4	ナデ	やや粗	並	橙 2.5YR7／6	口縁部 3／8	
242	080-03	3	J-B4	土師器	台付椀	SK141	14.0	9.3	底部径 10.1	口縁部脚端部ヨコナデ、ナデ	やや密	並	淡橙 5YR8／4	口縁部 1／6 脚部 1／3	
243	077-01	3	J-B4	土師器	台付椀	SK141	12.3	—	—	口縁部ヨコナデ、ナデ	密	並	淡黄 2.5Y8／4	口縁部 3／4	
244	080-03	3	J-B4	土師器	台付椀	SK141	13.1	—	—	口縁部ヨコナデ、ナデ	やや粗	並	橙 2.5YR7／6	口縁部 3／4	
245	080-02	3	J-B4	土師器	台付椀	SK141	12.5	7.3	底部径 7.3	口縁部脚端部ヨコナデ、ナデ	やや粗	並	橙 7.5YR7／6	口縁部 1／5 脚部 1／2	
246	081-03	3	J-B4	土師器	台付椀	SK141	13.3	—	—	口縁部ヨコナデ、ナデ	粗	並	浅黄橙 7.5YR8／4	口縁部 1／3	
247	076-03	3	J-B4	土師器	台付椀	SK141	13.0	—	—	口縁部ヨコナデ、ナデ	やや粗	並	浅黄橙 7.5YR8／3	口縁部 1／8	
248	081-02	3	J-B4	土師器	台付椀	SK141	—	—	底部径 9.0	ナデ	やや粗	並	にぶい橙 7.5YR7／4	口縁部 1／4	
249	071-02	3	J-B4	土師器	高杯	SK141	16.7	—	—	ナデ	やや粗	並	橙 5YR7／6	口縁部 わずか	
250	084-02	3	J-B4	土師器	高杯	SK141	12.8	10.9	底部径 9.2	ヨコナデ、工具ナデ	やや粗	やや不良	橙 5YR6／8	口縁部 1／3 底部 3／4	
251	073-03	3	J-B4	土師器	高杯	SK141	26.0	—	—	ナデ	やや粗	並	淡黄 2.5Y8／6	口縁部 1／6	
252	084-01	3	J-B4	土師器	高杯	SK141	26.4	—	—	ヨコナデ	粗	やや不良	浅黄橙 7.5YR8／4	杯部のみ	
253	083-03	3	J-B4	土師器	高杯	SK141	—	—	底部径 14.2	ナデ	密	やや不良	浅黄橙 10YR8／4	脚部のみ	
254	083-02	3	J-B4	土師器	高杯	SK141	—	—	底部径 16.9	ナデ	やや密	やや不良	にぶい黄橙 7.5YR7／4	脚部のみ	
255	083-04	3	J-B4	土師器	高杯	SK141	--	—	底部径 9.7	ナデ	やや粗	やや不良	灰白 7.5YR8／2	杯底部のみ 脚部のみ	
256	083-01	3	J-B4	土師器	高杯	SK141	--	—	底部径 9.4	ナデ	やや密	良	橙 7.5YR7／6	脚部のみ	
257	080-06	3	J-B4	土師器	壷	SK141	6.7	—	—	口縁部ヨコナデ、ナデ	やや密	並	灰白 10YR8／2	口縁部 小片	
258	101-02	3	J-B4	土師器	壷	SK141	9.8	—	—	ナデ、体部外面ケズリ	やや粗	並	浅黄橙 7.5YR8／4	口縁部 1／3	
259	072-01	3	J-B4	土師器	壷	SK141	10.0	—	--	ナデ	やや密	並	橙 7.5YR6／6	口縁部 1／3	
260	068-03	3	J-B4	土師器	壷	SK141	9.4	—	体部最大径 13.9	ナデ、外面ケズリ	やや粗	並	浅黄橙 10YR8／3	口縁部 1／5	
261	101-01	3	J-B4	土師器	壷	SK141	12.6	--	—	ナデ	密	並	浅黄橙 10YR8／3	口縁部 ほぼ完存	
262	066-03	3	J-B4	土師器	甕	SK141	19.6	—	—	ナデ	やや粗	並	にぶい橙 7.5YR7／4	口縁部 2／11	
263	066-01	3	J-B4	土師器	甕	SK141	15.8	—	—	ナデ	やや粗	並	浅黄橙 10YR8／3	口縁部 1／5	
264	066-04	3	J-B4	土師器	甕	SK141	15.6	—	—	ナデ	やや粗	並	橙 7.5YR7／6	口縁部 1／5	
265	067-01	3	J-B4	土師器	甕	SK141	16.8	—	--	ナデ、外面ハケ	やや粗	並	淡橙 5YR8／3	口縁部 2／7	
266	066-02	3	J-B4	土師器	甕	SK141	18.6	—	—	ナデ、外面ハケ	やや粗	並	にぶい橙 5YR8／3	口縁部 1／13	
267	067-03	3	J-B4	土師器	甕	SK141	17.7	—	—	ナデ	やや粗	並	にぶい橙 5YR7／4	口縁部 1／4	
268	074-01	3	J-B4	土師器	鉢	SK141	14.4	11.1	底部径 6.2	口縁部ヨコナデ、外面工具ナデ、内面ナデ	やや粗	並	にぶい橙 7.5YR6／4	口縁部 1／8 底部 1／3	
269	068-01	3	J-B4	土師器	鉢	SK141	15.4	—	体部最大径 17.0	ナデ	やや粗	並	にぶい橙 5YR7／4	口縁部 1／12	
270	075-02	3	J-B4	土師器	鉢	SK141	16.3	—	--	口縁部ヨコナデ、外面ケズリ+ナデ、内面ナデ	やや密	並	にぶい橙 5YR6／3	口縁部 1／5	口縁内部に煤が付着
271	068-02	3	J-B4	土師器	鉢	SK141	16.8	—	—	ナデ	やや粗	並	灰褐 7.5YR5／2	口縁部 1／5	
272	067-02	3	J-B4	土師器	鉢	SK141	25.0	—	—	ナデ、外面ケズリ	やや粗	並	浅黄橙 7.5YR8／4	口縁部 1／7	
273	107-02	3	J-B4	土師器	鉢	SK141	27.7	—	—	口縁部ヨコナデ、外面・内面ナデ+オサエ	密	並	浅黄橙 7.5YR8／4	口縁部 9／16	
274	075-01	3	J-B4	土師器	鉢	SK141	31.5	—	—	口縁部ヨコナデ、ナデ	やや密	並	浅黄橙 10YR8／3	口縁部 1／5	
275	107-01	3	J-B4	土師器	鉢	SK141	27.5	—	—	口縁部ヨコナデ、外面ナデ、内面ハケ・ナデ	やや密	並	浅黄橙 7.5YR8／3	口縁部 5／16	
276	075-03	3	J-B4	土師器	鉢	SK141	—	—	底部径 8.2	外面ナデ、内面ケズリ	やや密	並	浅黄橙 7.5YR8／3		
277	074-03	3	J-B4	土師器	鉢	SK141	—	—	—	ナデ	やや粗	並	にぶい黄橙 10YR7／3		底部木葉文
278	076-02	3	J-B4	土師器	鉢	SK141	—	—	底部径 9.0	ナデ	やや粗	並	浅黄橙 7.5YR8／3		底部の木葉文は不鮮明
279	083-04	3	J-B4	土師器	甕	SK141	11.4	—	—	ナデ	やや粗	並	淡黄 2.5Y8／3	口縁部 2／7	
280	078-01	3	J-B4	土師器	甕	SK141	12.2	—	—	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、内面ナデ	やや密	並	にぶい橙 2.5YR6／4	口縁部 1／4	
281	067-04	3	J-B4	土師器	甕	SK141	13.8	—	体部最大径 15.1	ナデ、外面ハケ	やや粗	並	にぶい黄橙 10YR7／4	口縁部 1／4	
282	073-02	3	J-B4	土師器	台付甕	SK141	13.4	—	体部最大径 15.0	口縁部ヨコナデ、外面タテハケ、内面ナデ	やや密	並	灰白 10YR8／2	口縁部 完形	
283	074-02	3	J-B4	土師器	台付甕	SK141	14.3	—	—	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、内面ナデ、ケズリ	やや粗	並	にぶい黄橙 10YR7／3	口縁部 1／4	
284	078-02	3	J-B4	土師器	台付甕	SK141	13.9	—	--	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、内面ナデ	やや密	並	浅黄橙 7.5YR8／4	口縁部 1／4	
285	073-01	3	J-B4	土師器	甕	SK141	17.5	—	体部最大径 18.6	口縁部ヨコナデ、外面タテハケ、内面ナデ、ケズリ	やや密	並	浅黄橙 10YR8／2	口縁部 1／5	
286	079-04	3	J-B4	土師器	台付甕	SK141	15.0	—	—	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、内面ナデ	やや密	並	淡黄 2.5Y8／3	口縁部 7／16	
287	072-03	3	J-B4	土師器	台付甕	SK141	14.0	—	—	口縁部ヨコナデ、外面タテハケ、内面ナデ	やや粗	並	浅黄橙 10YR8／4	口縁部 1／6	

第５表　出土遺物観察表Ｅ区（５）

報告番号	登録番号	親番次数	地区名	種類	器種	出土遺構	口径(cm)	器高(cm)	その他(cm・g)	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考
288	078-03	3	J-B4	土師器	台付甕	SK141	17.1	—	—	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、内面ナデ	粗	並	灰白 7.5YR8／2	口縁部 1／4	
289	079-03	3	J-B4	土師器	台付甕	SK141	13.2	—	—	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、内面ナデ	やや粗	並	にぶい橙 7.5YR7／3	口縁部 1／6	
290	078-04	3	J-B4	土師器	台付甕	SK141	16.3	—	—	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、内面ナデ	やや粗	並	淡橙 5YR8／3	口縁部 1／4	
291	072-02	3	J-B4	土師器	台付甕	SK141	14.0	—	体部最大径 15.0	口縁部ヨコナデ、外面タテハケ、内面ナデ	やや粗	並	浅黄橙 10YR8／3	口縁部 1／4	
292	079-01	3	J-B4	土師器	台付甕	SK141	17.0	—	—	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、内面ナデ	密	並	浅黄橙 7.5YR8／3	口縁部 1／5	
293	072-04	3	J-B4	土師器	台付甕	SK141	17.0	—	—	口縁部ヨコナデ、外面タテハケ、内面ナデ	やや密	並	にぶい黄橙 10YR6／3	口縁部 1／5	
294	069-03	3	J-B4	土師器	甕	SK141	13.2	—	—	ナデ、外面ハケ	やや粗	並	黒 N2／0	口縁部 1／6	
295	102-01	3	J-B4	土師器	台付甕	SK141	18.9	30.9	底部径 9.0 体部最大径 25.0	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、同内面ナデ脚部ナデ	やや粗	並	浅黄橙 7.5YR8／4	口縁部 1／14 底部 完形	
296	108-01	3	J-B4	土師器	台付甕	SK141	18.0	—	体部最大径 25.4	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、内面ナデ	やや密	並	灰黄褐 10YR6／2	口縁部 7／16	
297	082-01	3	J-B4	土師器	台付鉢？	SK141	—	—	底部径 6.2	外面ナデ、内面ケズリ、外面上部ハケ	やや粗	並	にぶい橙 7.5YR7／3	脚部 完形	
298	079-02	3	J-B4	土師器	台付甕	SK141	—	—	底部径 8.3	ナデ	やや粗	並	浅黄橙 10YR8／4	脚部 ほぼ完形	
299	081-04	3	J-B4	土師器	器台？	SK141	13.3	6.4	底部径 8.0	ナデ	やや粗	並	浅黄橙 7.5YR8／4	口縁部 1／7 底部 完形	
300	109-01	3	J-B4	須恵器	壺	SK141	18.2	29.3	体部最大径 32.4	口縁部ヨコナデ、外面タタキ、内面板ナデ	やや粗	不良	にぶい黄橙 10YR7／3	口縁部 1／2	生焼けの須恵器か
301	104-01	3	J-B4	土師器	甑	SK141	23.8	22.4	—	口縁部ヨコナデ、外面ケズリ、内面ナデ	やや粗	並	浅黄橙 7.5YR8／4	口縁部 2／5	
302	103-01	3	J-B4	土師器	甑	SK141	23.3	—	—	口縁部ヨコナデ、外面ケズリ、内面ナデ	やや密	並	橙 7.5YR7／6	口縁部 2／5	
303	086-01	3	J-B4	土師器	甑	SK141	21.5	—	—	ナデ、工具ナデ	やや密	並	にぶい黄橙 10YR7／4	口縁部 3／4	
304	085-01	3	J-B4	土製品	土管	SK141	10.5	—	—	工具ナデ	粗	並	浅黄橙 7.5YR8／4		
305	085-02	3	J-B4	土師器	土錘	SK141	—	—	長さ 3.5 幅 5.0 重さ 23.3	ナデ	やや密	並	浅黄橙 7.5YR8／4		
306	071-03	3	J-C4	須恵器	壺	SK143	9.2	—	—	ロクロナデ	密	良	灰 N6／0	口縁部 1／6	
307	069-04	3	J-C3	土師器	台付椀	SK143	—	—	底部径 9.0	ナデ	やや粗	並	にぶい橙 7.5YR7／4	脚部 一部欠損	
308	071-01	3	J-C4	土師器	壺	SK143	16.8	—	体部最大径 20.0	口縁部ヨコナデ、外面タテハケ、内面ケズリ	やや密	並	浅黄橙 7.5YR8／3	口縁部 1／6	
309	070-01	3	J-C4	土師器	鉢	SK143	32.4	—	—	ナデ、外面ケズリ	やや粗	並	浅黄橙 10YR8／3	口縁部 わずか	
310	069-01	3	J-C4	土師器	鉢	SK143	32.8	—	—	ナデ、外面ケズリ	やや粗	並	褐灰 10YR6／1	口縁部 わずか	
311	070-04	3	J-C4	土師器	鉢	SK143	—	—	—	ナデ	やや粗	並	褐灰 10YR6／1		
312	070-02	3	J-C3	土師器	鉢	SK143	—	—	—	ナデ	やや粗	並	浅黄橙 10YR8／3		
313	090-06	3	E-N9	須恵器	杯身	SD38	11.7	—	—	ロクロナデ、底部ロクロケズリ	やや密	並	灰 N5／0	口縁部 1／6	
314	158-03	3	H-S4	土師器	台付甕	SD59	9.8	—	—	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、摩滅すすみ調整不明瞭	やや粗	並	灰白 10YR8／2	口縁部 わずか	
315	175-01	3	Ib-P3	土師器	台付甕	Pit2	7.0	14.0	底部径 5.8 体部最大径 11.5	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、内面ナデ	やや粗	良	浅黄橙 10YR8／3		
316	004-02	3	E-J8	土師器	高杯	Pit4	14.8	—	—	口縁部ヨコナデ、体部ナデ	粗	良	橙 5YR6／6	杯部 1／5	
317	181-03	3	カス穴	土師器	ミニチュア土器	Pit32	—	—	底部径 2.5	ナデ	やや密	並	橙 5YR6／6	底部 1／2	
318	160-05	3	Id-H4	土師器	杯	SF166	18.0	2.1	—	ナデ、ミガキ	やや密	並	にぶい橙 7.5YR7／4	口縁部 1／5	
319	176-01	3	Id-I14	須恵器	壺	SK169	—	—	—	ロクロナデ、2カ所耳付	密	良	浅黄 2.5Y7／3		
320	161-04	3	Id-I4	土師器	椀	SK169	18.0	—	—	ナデ	やや密	並	橙 2.5Y7／6	口縁部 1／8	
321	175-02	3	Id-I4	土師器	壺	SK169	16.0	—	—	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、内面ナデ	密	良	浅黄橙 10YR8／3	口縁部 1／6	
322	161-03	3	Id-I4	土製品	土馬	SD165	—	—	残長 12.5		やや密	並	灰白 10YR8／2		脚を造り出す
323	175-03	3	Ib-B3	土師器	杯	SB153	12.0	—	—	ナデ	密	良	明褐 7.5YR5／6	口縁部 1／8	
324	175-04	3	Ib-B3	土師器	杯	SB153	9.6	—	—	ナデ	やや粗	良	橙 5YR6／6	口縁部 1／10	
325	026-04	3	E-P9	陶器	椀	SD3	—	—	—	ロクロナデ、自然釉付着	密	りょう	灰白 2.5Y8／1	小片	
326	026-05	3	E-P9	陶器	椀	SD3	—	—	底部径 7.0	貼付高台、高台切離痕、底部糸切り	やや密	並	灰白 2.5Y8／1・7／1	底部 1／3	
327	025-06	3	E-O9	陶器	椀	SD44	—	—	—	底部糸切り、高台は剥離	やや密	並	灰白 2.5Y8／1	底部 小片	
328	025-05	3	E-O9	陶器	椀	SD44	—	—	底部径 6.4	貼付高台、高台切離痕、底部糸切り	やや密	並	灰白 10YR7／1	底部 1／4	
329	026-03	3	E-N8	陶器	椀	SD10	18.6	(6.0)	底部径 7.3	ロクロナデ、貼付高台、高台切離痕、糸切り痕	密	良	灰白 5Y8／1	1／8	
330	039-01	2	B-P5	陶器	椀	SD10	—	—	底部径 8.3	ロクロナデ、高台貼付	やや密	並	灰白 10YR8／1	底部 1／4	
331	039-02	2	B-P5	須恵器	長頸壺	SD10	—	—		ロクロナデ	やや密	並	浅黄橙 10YR8／3	頸部のみ	
332	039-03	2	B-R7	土師器	ミニチュア壺	SD10	4.1	3.6	底部径 2.0	手捏ね	やや密	並	淡黄 2.5Y8／3	完形	
333	090-04	3	E-M8	陶器	小椀	SD37	10.3	3.1	底部径 4.4	ロクロナデ、高台貼付、糸切り痕	やや密	良	灰白 2.5Y8／1	口縁部 1／4 底部 3／4	
334	090-02	3	E-M6	陶器	椀	SD37	14.8	—	—	ロクロナデ	密	並	灰黄 2.5Y7／2	口縁部 1／7	
335	090-05	3	E-O6	陶器	椀	SD37	—	—	底部径 7.0	ロクロナデ、高台貼付、切離痕、糸切り痕	密	良	灰白 2.5Y8／2	底部 1／2	
336	090-03	3	E-O4	陶器	椀	SD37	—	—	底部径 8.6	ロクロナデ、高台貼付、糸切り痕	やや密	並	灰白 2.5Y8／2	底部 3／8	
337	090-01	3	E-O4	土師器	壺	SD37	23.1	—	—	ヨコナデ、ナデ	やや粗	並	にぶい黄橙 10YR7／4	口縁部 わずか	
338	195-02	3	Id-J4	須恵器	蓋	包含層	—	—	—	ロクロナデ、ロクロケズリ	密	並	灰白 2.5Y7／1	端部 欠損	
339	195-01	3	Id-K6	須恵器	壺	包含層	—	—	体部最大径 9.2	ロクロナデ、ロクロケズリ、刺突文、スカシ孔、	やや密	並	灰白 2.5Y8／2	口縁部 欠損	
340	182-02	3	ヨコウヘキ	須恵器	杯身	Pit8	9.8	4.9	—	ロクロナデ、ロクロケズリ	やや粗	不良	灰白 2.5Y8／3	口縁部 3／4	
341	182-03	3	ヨコウヘキ	土師器	台付甕	Pit8	10.9	—	—	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、内面ナデ	やや粗	並	灰褐 7.5YR6／2	口縁部 わずか	
342	047-02	2	B-G5	土師器	壺	包含層	17.0	(5.3)	—	風化のため調整不明	粗	良	浅黄橙 7.5YR8／4	口縁部 1／10	二重口縁壺
343	046-02	2	B-G5	土師器	台付椀	包含層	—	—	底部径 6.0	風化著しく不明瞭	やや粗	良	灰褐 7.5YR5／2	脚部 1／5	
344	194-02	3	Id-K6	土師器	壺	包含層	17.0	—	—	ナデ、オサエ	やや密	並	浅黄橙 10YR8／4	口縁部 1／3	

第6表　出土遺物観察表E区（6）

報告番号	登録番号	調査次数	地区名	種類	器種	出土遺構	口径(cm)	器高(cm)	その他(cm・g)	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考
345	161-02	3	Id-J5	土師器	土鍋	包含層	—	—	長さ 12.0 径 5.0 穴径 2.0～2.5	ナデ	やや密	並	にぶい橙 7.5YR7／3	折れている	
346	026-03	2	A-C2	土製品	土錘	包含層	—	—	残長 10.8 径 4.3 穴径 3.4～1.6 重さ 170.0	ナデ			浅黄 7.5YR8／4		
347	174-05	3	N-W13	石製品	臼玉	包含層	—	—	径 5.5mm 残厚 3.0mm						
348	038-04	2	A-W3	陶器	ボタン	包含層	2.2	—	—		密	良	浅黄 5Y7／4	代用品	
349	040-01	3	F-G10	須恵器	杯蓋	SH63	12.3	3.4	—	ロクロナデ、外面上部ヘラ切り	やや粗	並	青灰 5BG6／1	1／5	
350	040-03	3	F-E10	須恵器	杯蓋	SH63	13.3	4.6	—	ロクロナデ、外面上部ヘラ切り	やや粗	並	灰白 N7／0	口縁部 1／4	
351	038-02	3	F-E10	須恵器	杯蓋	SH63	14.0	3.8	—	ロクロナデ、ロクロケズリ	やや粗	並	灰 N6／0	口縁部 3／16	
352	040-05	3	F-E10	須恵器	杯身	SH63	12.1	—	—	ロクロナデ、下部ヘラ切り	やや粗	並	灰白 N7／0	口縁部 1／4	
353	041-05	3	F-E10	土師器	椀	SH63	13.3	—	—	ナデ	やや粗	並	浅黄橙 10YR8／4	口縁部 1／5	
354	038-01	3	F-E10	土師器	椀	SH63	13.0	—	—	ナデ	粗	並	浅黄橙 10YR8／3	口縁部 1／5	
355	040-04	3	F-E10	土師器	台付椀	SH63	11.6	6.9	底部径 7.2	ナデ	やや粗	並	浅黄橙 10YR8／3	ほぼ完形	
356	041-02	3	F-E10	土師器	台付椀	SH63	—	—	底部径 7.2	ナデ	やや粗	並	浅黄橙 10YR8／4	口縁部 欠損 底部 3／4	
357	041-06	3	F-E9	土師器	台付椀	SH63	—	—	底部径 6.8	ナデ	粗	並	橙 5YR6／8	口縁部 欠損 底部 1／4	
358	041-04	3	F-E10	土師器	台付椀	SH63	—	—	底部径 7.5	ナデ	粗	並	橙 7.5YR7／6	脚部のみ 底部 2／3	
359	041-03	3	F-E10	土師器	台付椀	SH63	—	—	底部径 8.0	ナデ	粗	並	橙 5YR7／6	脚部のみ 底部 2／3	
360	040-02	3	F-E10	土師器	高杯	SH63	16.3	11.6	底部径 9.2	ナデ、脚内面シボリ痕	やや粗	並	橙	杯部 1／4 脚部 完形	
361	038-03	3	F-E10	土師器	高杯	SH63	14.7	—	—	ナデ	粗	並	橙 2.5YR7／8	口縁部 7／8	
362	044-01	3	F-E10	土師器	台付甕	SH63	14.9	26.6	底部径 8.8 体部最大径 21.8	口縁部ヨコナデ、外面ナデ後ハケ、内面ナデ、脚部内面指オサエ	やや粗	並	浅黄橙 10YR8／3	口縁部 5／6	
363	042-02	3	F-E10	土師器	台付甕	SH63	14.2	—	体部最大径 19.3	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、内面ナデ、オサエ	粗	並	浅黄橙 10YR8／3	口縁部 1／4	
364	043-02	3	F-E10	土師器	台付甕	SH63	14.1	—	体部最大径 20.5	口縁部ヨコナデ、外面ナデ後ハケ、内面ナデ後オサエ	やや粗	並	にぶい橙 7.5YR7／3	口縁部 7／8	
365	038-05	3	F-E10	土師器	台付甕	SH63	17.2	—	—	外面ナデ、ハケ 内面ナデ、オサエ	やや粗	並	浅黄橙 7.5YR8／4	口縁から肩 1／2	
366	038-04	3	F-E10	土師器	台付甕	SH63	--	--	底部径 9.8	外面ナデ、ケズリ、内面ナデ、オサエ	やや粗	並	浅黄橙 7.5YR8／3	脚部 完形	
367	043-01	3	F-E10	土師器	台付甕	SH63	--	--	底部径 8.3	ナデ	粗	並	浅黄橙 7.5YR8／3	脚部 完形	
368	039-01	3	F-E10	土師器	壺	SH63	17.8	—	—	風化著しく調整不明	粗	並	浅黄橙 7.5YR8／6	口縁から肩 15／16	
369	042-03	3	F-E10	土師器	鉢	SH63	29.4	—	—	口縁部ヨコナデ、摩滅著しく調整不明	粗	並	浅黄橙 10YR8／3	口縁部 1／4 底部 欠損	
370	042-01	3	F-E10	土師器	鉢	SH63	—	—	底部径 7.3	摩滅著しく調整不明	粗	並	浅黄橙 10YR8／4	底部 完形	
371	045-01	3	F-E10	土師器	甑	SH63	15.0	—	—	ナデ、指オサエ、ケズリ	やや粗	並	浅黄橙 7.5YR8／3	口縁部 1／10	
372	040-06	3	F-E10	土師器	ミニチュア壺	SH63	—	—	体部最大径 7.0	摩滅著しく調整不明	粗	並	浅黄橙 7.5YR8／6	口縁部 欠損	
373	040-07	3	F-E9	土製品	不明	SH63	—	—	長さ 2.7 径 1.6	不明	やや粗	並	にぶい黄橙 10YR7／2		
374	093-03	3	F-E7	須恵器	杯蓋	SH66	10.2	—	—	ロクロナデ、ロクロケズリ	やや密	良	褐灰 10YR6／1	口縁部 1／9	
375	094-01	3	F-E7	須恵器	杯蓋	SH66	13.0	4.4	—	ロクロナデ、ロクロケズリ	密	並	灰 5Y6／1	口縁部 1／6	
376	094-02	3	F-E8	須恵器	杯蓋	SH66	12.9	3.6	—	ロクロナデ、ロクロケズリ	密	並	灰 N5／0	口縁部 1／8	
377	016-04	3	F-F7	須恵器	杯蓋	SH66	14.0	4.5	—	ロクロナデ、ロクロケズリ	やや密	良	灰 N6／0	1／4	土器正立時、ロクロは時計回り
378	094-03	3	F-E8	須恵器	杯蓋	SH66	13.6	—	—	ロクロナデ、ロクロケズリ	密	並	灰 N5／0	口縁部 1／3	
379	016-03	3	F-F7	須恵器	杯蓋	SH66	11.7	(4.6)	体部最大径 13.6	ロクロナデ、ロクロケズリ	密	良	灰 N5／0	口縁部 1／2	土器正立時、ロクロは反時計回り
380	093-05	3	F-E7	須恵器	杯身	SH66	10.8	—	—	ロクロナデ	やや粗	不良	灰白 7.5Y8／1		
381	094-05	3	F-E8	須恵器	杯身	SH66	13.0	—	—	ロクロナデ	やや粗	並	褐灰 10YR5／1	口縁部 1／10	
382	094-04	3	F-E8	須恵器	杯身	SH66	—	—	—	ロクロナデ	密	並	灰 N5／0	小片	
383	093-01	3	F-F7	土師器	椀	SH66	12.8	4.7	—	ナデ	粗	並	橙 2.5YR6／8	口縁部 1／2	
384	020-04	3	F-E9	土師器	杯	SH66	14.0	3.6	--	ロクロナデ、ロクロケズリ	やや密	良	にぶい橙 5YR7／4	口縁部 1／2	製作技法は須恵器系 焼成は土師器
385	092-02	3	F-F7	土師器	台付椀	SH66	11.9	7.8	底部径 6.8	口縁部ヨコナデ、ナデ	やや粗	並	橙 2.5YR7／6	口縁部 2／3 底部 3／4	
386	093-05	3	F-F7	土師器	台付椀	SH66	—	--	底部径 7.3	ナデ	やや粗	並	橙 2.5YR6／8	底部 1／4	
387	094-06	3	F-F8	土師器	高杯	SH66	17.4	--	—	ナデ	やや粗	並	淡黄 2.5Y8／3	口縁部 3／8	
388	093-06	3	F-F7	土師器	高杯	SH66	—	—	底部径 7.6	外面ナデ（面取り）、内面ナデ	粗	並	橙 7.5YR6／6	脚部のみ 底部 2／3	
389	095-04	3	F-F7	土師器	高杯	SH66	—	—	底部径 9.4	脚部外面ハケ後板ナデ、内面絞り痕	やや粗	並	浅黄橙 7.5YR8／4	底部 1／4	
390	096-01	3	F-E8	土師器	台付甕	SH66	15.4	—	—	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、内面ナデ	やや粗	並	浅黄橙 10YR8／4	口縁部 1／6	
391	009-01	3	F-E7	土師器	台付甕	SH66	12.3	17.8	底部径 7.8 体部最大径 15.0	口縁部ヨコナデ、体部外面ナナメハケ、内面ナデ、脚部ナデ	やや粗	並	にぶい橙 10YR7／4	完形	
392	095-02	3	F-E7	土師器	台付甕	SH66	11.	—	—	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、内面ナデ	やや粗	並	浅黄橙 10YR8／4		
393	092-03	3	F-E7	土師器	台付甕	SH66	15.2	—	—	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、内面ナデ	やや粗	並	黄橙 10YR8／6	口縁部 1／4	
394	091-01	3	F-E8	土師器	台付甕	SH66	13.8	—	—	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、内面ナデ	粗	並	にぶい褐 7.5YR5／3	口縁部 1／5	
395	110-03	3	F-E9	土師器	台付甕	SH66	13.0	—	—	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、内面ナデ	粗	やや不良	にぶい黄褐 10YR5／3	口縁部 1／6	
396	095-03	3	F-E8	土師器	台付甕	SH66	11.5	—	—	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、内面ナデ	やや粗	並	浅黄橙 10YR7／2	口縁部 1／5	
397	096-02	3	F-E8	土師器	把手付椀	SH66	—	—	—	ナデ	やや粗	並	橙 5YR7／6		
398	095-01	3	F-E8	土師器	壺	SH66	26.4	—	—	ナデ、オサエ	やや粗	並	浅黄橙 10YR8／3	口縁部 1／6	
399	093-02	3	F-E7	土師器	壺	SH66	17.0	—	—	ナデ	やや粗	並	灰黄褐 10YR6／2	口縁部 1／4	
400	092-01	3	F-E7	土師器	鉢	SH66	31.5	—	—	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、内面ナデ	粗	並	浅黄橙 10YR8／4	口縁部 1／7	
401	093-04	3	F-E8	土師器	壺	SH66	12.8	—	—	ナデ、刺突	やや粗	並	橙 5YR6／6	口縁部 1／8	

第７表　出土遺物観察表E区（７）Ｆ区（1）

報告番号	登録番号	調査次数	地区名	種類	器種	出土遺構	口径 (cm)	器高 (cm)	その他 (cm・g)	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考
402	019-06	3	F-H10	須恵器	杯蓋	SH127	14.2	5.0		ロクロナデ、ロクロケズリ	やや粗	並	灰 N6/0	完形	
403	037-01	3	F G10	須恵器	杯蓋	SH65	12.9	4.0	体部最大径 13.0	ロクロナデ、ロクロケズリ	密	良	灰 N5/0	口縁部 1/4	
404	008-03	3	F-H10	須恵器	杯蓋	SH127	15.0	5.2	--	ロクロナデ、ロクロケズリ	粗	不良	灰白 10Y7/1	完形	
405	037-02	3	F-F9	須恵器	杯蓋	SH65	11.5	—	体部最大径 11.8	ロクロナデ、ロクロケズリ	密	良	灰白 7.5Y7/1	1/5	歪み大
406	061-05	3	F-F9	須恵器	杯蓋	SH127	14.0	4.6	—	ロクロナデ、ロクロケズリ	やや密	良	灰5 5Y6/1	口縁部 1/8	内面に同心円状タタキ
407	041-01	3	F-H9	須恵器	杯身	SH65	13.5	4.7	—	ロクロナデ、ロクロケズリ、内面中央オサエ	密	良	灰白 N7/0	小片	
408	036-04	3	F-G9	須恵器	杯身	SH65	12.0	5.6	体部最大径 14.5	ロクロナデ、ロクロケズリ	やや密	並	緑灰 10GY6/1	口縁部 1/2	正立時反時計回り
409	016-06	3	F	須恵器	杯身	SH127	12.2	4.8	体部最大径 14.3	ロクロナデ、ロクロケズリ	やや粗	やや不良	灰 10Y5/1	口縁部 1/3	土器正立時、ロクロは反時計回り
410	019-01	3	F	須恵器	杯身	SH127	12.0	5.1	体部最大径 14.3	ロクロナデ、ロクロケズリ	やや粗	並	灰 5Y6/1	杯部 4/5	
411	019-02	3	F	須恵器	杯身	SH127	13.0	5.2	体部最大径 14.6	ロクロナデ、ロクロケズリ	やや粗	並	浅黄橙 7.5YR8/3	受部 2/3	土器正立時、ロクロは時計回り
412	037-03	3	F-G10	須恵器	杯身	SH65	11.5	—	体部最大径 14.9	ロクロナデ	やや密	良	灰白 7.5Y7/1	小片	
413	021-03	3	F	須恵器	高杯	SH127	10.2	10.3	底部径 9.2	ロクロナデ、ロクロケズリ	やや密	並	黄灰 2.5Y6/1	杯部 完形 脚部 1/3	透孔なし
414	026-03	3	F-F9	土師器	椀	SH65	11.5	4.8	—	ナデ	やや粗	並	橙 5YR7/6	口縁部 1/4	歪み大
415	036-02	3	F-F9	土師器	高杯	SH65	14.6	11.2	底部径 8.8	ナデ、接合部オサエ、脚内面シボリ痕	やや粗	並	橙 5YR7/6	口縁部 1/4	
416	036-06	3	F-G9	土師器	高杯	SH65	15.7	—	—	ナデ、摩滅著しい	やや粗	並	浅黄橙 10YR8/4	口縁部 1/5	
417	036-05	3	F-G9	土師器	台付甕	SH65	14.6	—	—	口縁部ヨコナデ、体部外面ナナメハケ	やや粗	並	浅黄橙 10YR8/3	口縁部 1/4	
418	026-01	3	F G9	土師器	壺	SH65	19.4	—	—	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、内面ナデ	やや粗	並	浅黄橙 7.5YR8/3	口縁部 1/3	
419	019-03	3	F	土師器	壺	SH127	9.6	10.7	体部最大径 12.0	摩滅著しく不明	粗	並	灰白 2.5Y8/1	口縁部 1/4	
420	039-02	3	F-F9	土製品	土錘	SH65	—	—	長さ 8.0 幅 3.6 穴径 0.7 重さ 104.6	ナデ	やや粗	並	浅黄橙 7.5YR8/4	完形	
421	058-04	3	F-G10	石製品	砥石	SH127	—	—	長さ 4.9						
422	037-04	3	F-H10	石製品	砥石	SH65	—	—	長さ 15.4			並			
423	021-02	3	F-J9	須恵器	杯身	SH91	11.3	4.6	—	ロクロナデ、ロクロケズリ	やや密	並	灰 5Y5/1	口縁部 1/3	外面にヘラ記号?あり
424	021-01	3	F-J9	須恵器	壺	SH91	8.7	8.0	—	ロクロナデ、ロクロケズリ	やや密	並	灰 7.5Y4/1	完存	土器正立時、ロクロケズリは反時計回り
425	014-01	3	F-G4	土師器	甕	SH101	15.6	11.7	—	口縁部ヨコナデ、体部外面ハケ、内面ナデ	やや粗	並	にぶい橙 7.5YR7/4	口縁部 1/2	カマド支脚
426	173-01	3	F-G5	土製品	土管	SH101	—	—	--	ナデ、オサエ	やや粗	並	灰白 10YR8/2		
427	034-03	3	F-H7	須恵器	杯身	SH103	—	—	--	ロクロナデ	密	良	緑灰 10GY6/1	小片	
428	143-02	3	F-H7	土師器		SH103	—	—	—	破片、ヘラ記号	やや密	並	にぶい黄橙 5YR7/4		
429	052-01	3	F-H6	土師器	壺	SH105	18.2	—	—	口縁部ヨコナデ、他は摩滅著しく不明	粗	並	浅黄橙 10YR8/4	口縁部 3/16	
430	058-03	3	F-H9	須恵器	杯蓋	SH127	13.1	4.4	—	ロクロナデ、底体部外面ロクロケズリ	やや密	並	灰 N5/0	口縁部 わずか	
431	058-02	3	F-G10	須恵器	杯蓋	SH127	13.8	4.7	—	ロクロナデ、底部外面ロクロケズリ	やや粗	並	灰 N6/0	口縁部 1/3	
432	061-03	3	F-G10	須恵器	杯身	SH127	11.7	5.1	—	ロクロナデ、ロクロケズリ	やや密	良	灰白 N7/0	口縁部 ほぼ完形	
433	061-04	3	F-G10	須恵器	杯身	SH127	12.0	—	—	ロクロナデ、ロクロケズリ	やや密	やや不良	灰白 5Y7/1	口縁部 1/3	
434	059-01	3	F-F9	須恵器	杯身	SH127	11.8	—	—	ロクロナデ、底部外面ロクロケズリ	やや粗	良	灰 10Y6/1	口縁部 1/3	
435	061-02	3	F-G10	土師器	椀	SH127	11.4	4.5	—	ナデ、底部外面ケズリ	やや粗	並	浅黄橙 7.5YR8/4		
436	058-05	3	F-G10	土師器	椀	SH127	11.1	—	—	ナデ	やや粗	並	浅黄橙 10YR8/3	口縁部 一部欠損	
437	059-03	3	F-G10	土師器	高杯	SH127	14.5	—	底部径 8.2	ナデ	粗	並	橙 5YR7/6	口縁部 少量欠損	
438	057-01	3	F	土師器	高杯	SH127	—	—	底部径 6.7	ナデ	やや粗	並	浅黄橙 10YR8/4	脚部 ほぼ完形	
439	056-02	3	F	土師器	壺	SH127	14.0	—	—	口縁部ヨコナデ、他不明	やや粗	並	浅黄橙 10YR8/3	小片	
440	056-01	3	F	土師器	壺	SH127	18.6	—	—	口縁部ヨコナデ、他不明	やや粗	並	浅黄橙 7.5YR7/4	口縁部 1/4	
441	055-01	3	F	土師器	鍋	SH127	26.6	27.0	底部径 8.5 体部最大径 40.0	ナデ、体下部外面ケズリ、内面下部にハケ	やや粗	並	浅黄橙 7.5YR8/4	口縁部 1/5 底部 完形	
442	056-03	3	F	土師器	台付壺	SH127	8.3	11.25	底部径 5.4 体部最大径 10.6	摩滅著しく調整不明、ナデか	やや粗	並	灰白 10YR8/2	口縁部 1/4 脚部 3/4	
443	057-02	3	F-F9	土師器	台付壺	SH127	9.2	—	—	口縁部ヨコナデ、外面タテハケ、内面ナデ	やや密	並	浅黄橙 10YR8/4	口縁部 1/4	
444	059-02	3	F	土師器	台付壺	SH127	13.1	—	—	口縁部ヨコナデ、外面タテハケ、内面ナデ	粗	並	にぶい橙 5YR7/4	口縁部 2/3	
445	061-01	3	F-G10	土師器	台付壺	SH127	13.5	—	体部最大径 22.6	口縁部ヨコナデ、外面ナナメハケ、内面ナデ	やや粗	並	浅黄橙 7.5YR8/4	口縁部 1/4	
446	058-01	3	F H9	土師器	台付壺	SH127	16.6	—	—	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、内面ナデ	やや粗	並	浅黄橙 10YR8/3	口縁部 1/2	
447	060-01	3	F	土師器	台付壺	SH127	—	—	底部径 8.9 体部最大径 34.0	外面ハケ、ケズリ、内面ナデ、脚部工具ナデ、内面ヨコナデ、オサエ	粗	並	浅黄橙 7.5YR8/4	脚部 完形 体部 1/6	
448	111-01	3	F	土師器	台付壺	SH127	—	—	底部径 8.8	外面ハケ、内面ナデ	粗	やや不良	浅黄橙 7.5YR8/3	脚部 3/4	
449	057-04	3	F	土師器	ミニチュア土器	SH127	7.4	—	—	ナデ	やや粗	並	灰白 2.5Y8/2		
450	057-05	3	F-H10	土師器	ミニチュア土器	SH127	5.8	5.0	—	手捏ね	やや密	並	淡黄 2.5Y8/3	口縁部 1/2	
451	057-06	3	F G10	土製品	土錘	SH127	—	—	長さ 7.7 幅 3.5 径 3.5 穴径 0.7 重さ 88.7	穴径0．7、黒斑あり	やや密	並	浅黄橙 10YR8/4		
452	137-02	3	F-I8	須恵器	杯蓋	SK90	12.0	4.0	—	ロクロナデ、ロクロケズリ	やや密	やや不良	灰白 5Y8/1	口縁部 1/6	
453	138-02	3	F	土師器	甕	SK90	13.7	—	—	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、内面ナデ	やや粗	並	橙 7.5YR7/6	口縁部 完形	
454	137-05	3	F	土師器	台付壺	SK90	—	—	底部径 9.5	外面ハケ、ケズリ、内面ナデ	粗	並	にぶい橙 7.5YR7/4	底部 1/3	
455	136-05	3	F-I8	土製品	転形	SK90	—	—	—	ナデ	やや粗	並	灰黄褐 10YR6/2		
456	169-03	3	F	須恵器	杯蓋	SK99	13.0	—	—	ロクロナデ、ロクロケズリ	やや密	不良	灰 7.5Y6/1	口縁部 1/3	
457	173-02	3	F	須恵器	杯身	SK99	10.8	5.1	—	ロクロナデ、ロクロケズリ	やや粗	良	灰白 2.5Y8/1	口縁部 1/4	

第8表　出土遺物観察表F区（2）

報告番号	登録番号	調査次数	地区名	種類	器種	出土遺構	口径(cm)	器高(cm)	その他(cm・g)	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考
458	145-01	3	F-H8	須恵器	杯身	SK99	13.2	5.4	—	ロクロナデ、ロクロケズリ	密	並	灰黄 2.5Y6／2	口縁部 1／2	内底面にあて具痕あり
459	145-02	3	F-H8	須恵器	杯身	SK99	12.6	5.6	—	ロクロナデ、ロクロケズリ	やや粗	並	灰 7.5Y6／1	口縁部 3／8	
460	177-02	3	F	須恵器	杯身	SK99	11.3	4.4	—	ロクロナデ、ロクロケズリ	やや粗	良	灰 N6／0	口縁部 2／3	
461	145-03	3	F-H8	須恵器	杯身	SK99	10.8	4.1	—	ロクロナデ、ロクロケズリ	密	並	青灰 5PB6／1	口縁部 5／8	
462	177-03	3	F-H8	須恵器	高杯蓋	SK99	13.0	5.5	—	ロクロナデ、ロクロケズリ	やや密	良	灰白 N8／0	口縁部 1／8	
463	145-04	3	F-H8	土師器	台付椀	SK99	11.0	—	—	ナデ、爪状の痕跡	やや密	並	明黄褐 10YR7／6	口縁部 7／8	
464	120-01	3	F-H8	土師器	台付甕	SK99	15.5	31.2	底部径 9.3 体部最大径 24.3	口縁部ヨコナデ、外面ハケ下部ケズリ、内面ナデ	粗	並	橙 7.5YR7／6	口縁部 1／4	
465	147-02	3	F-H8	土師器	台付甕	SK99	17.1	—	—	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、内面ナデ	やや粗	並	浅黄橙 10YR8／4	口縁部 2／3	
466	184-01	3	F	土師器	台付甕	SK99	16.1	—	—	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、内面ナデ	やや粗	並	浅黄橙 10YR8／3	口縁部 ほぼ完形	
467	121-01	3	F-H8	土師器	台付甕	SK99	15.0	—	体部最大径 26.0	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、内面ナデ	やや粗	並	橙 7.5YR7／6	口縁部 1／6	
468	147-01	3	F-H8	土師器	台付甕	SK99	16.3	—	—	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、内面ナデ	やや粗	並	浅黄橙 10YR8／4	口縁部 1／2	
469	146-03	3	F-H8	土師器	台付甕	SK99	—	—	底部径 8.6	外面ハケ、ケズリ、内面ナデ	やや粗	並	にぶい橙 7.5YR7／3		
470	183-03	3	F-H8	土師器	壺?	SK99	—	—	底部径 8.4	ナデ、ケズリ	やや粗	並	浅黄橙 10YR8／3	底部 完形	貯蔵穴出土
471	146-01	3	F-H8	土師器	ミニチュア土器	SK99	7.3	7.2	—	ナデ、オサエ	密	並	灰白 2.5Y8／2	口縁部 5／8	
472	177-06	3	F-H8	土製品	土錘	SK99	—	—	長さ 10.2 幅 2.6 穴径 0.8		やや粗	並	淡橙 5YR8／3		
473	048-03	3	F-G3	須恵器	杯蓋	SH111	12.5	4.2	—	ロクロナデ、ロクロケズリ	密	並	灰 7.5YR6／1	口縁部 3／4	
474	048-02	3	F-G3	須恵器	杯身	SH111	11.4	5.1	—	ロクロナデ、ロクロケズリ	やや密	良	灰 5Y6／1	口縁部 1／2	
475	048-03	3	F-G3	須恵器	杯身	SH111	11.2	—	—	ロクロナデ、ロクロケズリ	密	良	灰 N5／0	小片	
476	048-05	3	F-H3	土師器	椀	SH111	12.7	—	—	ナデ	やや密	並	橙 7.5YR7／6	口縁部 1／6	
477	054-05	3	F-H3	土師器	高杯	SH111	—	—	底部径 7.7	ナデ	やや密	並	橙 5YR7／8	脚部 1／4	
478	054-02	3	F-G3	土師器	台付甕	SH111	—	—	底部径 8.1	ナデ	やや密	並	浅黄橙 7.5YR8／3	脚部 ほぼ完形	
479	052-03	3	F-H3	土師器	台付椀	SH111	12.4	—	—	口縁部ヨコナデ、ナデ	粗	並	浅黄橙 7.5YR8／6	椀部 7／8	
480	048-04	3	F-H3	土師器	高杯	SH111	13.2	—	—	ナデ	やや密	並	橙 5YR7／6	口縁部 1／2	
481	014-02	3	F-G3	土師器	壺	SH111	9.4	9.8	—	口縁部ヨコナデ、頸部ハケ、外面ナデ、底部ケズリ、内面ナデ	やや粗	並	にぶい橙 7.5YR7／4	完形	
482	052-04	3	F-G3	土師器	台付甕	SH111	10.7	—	—	口縁部ヨコナデ、外面ナナメハケ、内面ナデ	粗	並	浅黄橙 7.5YR8／4	口縁部 7／16	
483	052-02	3	F-H3	土師器	台付甕	SH111	15.5	—	—	口縁部ヨコナデ、外面タテハケ、内面ナデ	粗	並	浅黄橙 7.5YR8／3	口縁部 3／8	
484	054-01	3	F-H3	土師器	台付甕	SH111	15.5	—	—	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、内面ナデ	やや粗	並	浅黄橙 10YR8／4	口縁部 9／16	
485	049-03	3	F-H3	土師器	台付甕	SH111	—	—	底部径 10.4	外面ハケの後ナデ、内面ナデ	やや粗	並	淡橙 5YR8／3	脚部 3／4	
486	049-02	3	F-H3	土師器	壺	SH111	16.7	—	—	ヨコナデ、内面ハケ	やや粗	並	浅黄橙 7.5YR8／3	口縁部 1／5	
487	053-02	3	F-H3	土師器	鉢	SH111	31.0	—	—	口縁部ヨコナデ、外面タテハケ、内面ナデ	やや粗	並	にぶい黄橙 10YR7／4	口縁部 1／2	
488	053-01	3	F-H3	土師器	壺	SH111	30.8	—	—	口縁部ヨコナデ、外面ヨコハケ	やや粗	並	灰褐 7.5YR6／2	口縁部 1／8	
489	049-01	3	F-G3	土師器	鉢	SH111	25.6	—	—	口縁部ヨコナデ、他は摩滅著しく不明	やや粗	並	橙 7.5YR7／6	口縁部 1／4	
490	048-06	3	F-G3	土師器	壺	SH111	—	—	底部径 7.5	ナデ	やや粗	並	浅黄橙 7.5YR8／3	底部 完形	
491	054-04	3	F-H3	土製品	不明	SH111	—	—	長さ 6.0	ナデ	やや粗	並	灰黄褐 10YR5／2		
492	063-04	3	F-G3	土製品	獣形	SH111	—	—	長さ 5.8 高さ 3.0 幅 2.0		やや粗	並	にぶい褐 7.5YR5／3		
493	008-01	3	F-P3	須恵器	杯身	SK70	12.3	4.8	—	ロクロナデ、ロクロケズリ	やや粗	やや不良	にぶい黄橙 10YR7／4	完形	
494	099-03	3	F-P10	須恵器	杯身	SK70	13.0	—	—	ロクロナデ、ロクロケズリ	やや密	良	灰白 N7／0	口縁部 わずか	
495	099-02	3	F-P10	土師器	台付椀	SK70	—	—	底部径 5.4	ナデ	やや粗	並	橙 5YR7／6	底部 4／5	
496	099-01	3	F-P10	土師器	台付甕	SK70	14.5	—	—	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、内面ナデ、オサエ	やや粗	並	にぶい黄橙 7.5YR7／4	口縁部 1／2	
497	100-01	3	F-P10	土師器	台付甕	SK70	14.8	—	—	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、内面ナデ	やや粗	並	にぶい黄橙 7.5YR7／4	口縁部 1／5	
498	100-02	3	F-P10	土師器	台付甕	SK70	14.8	—	—	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、内面ナデ	やや粗	並	浅黄橙 10YR8／3	口縁部 1／8	
499	100-04	3	F-H10	石器	叩き石	SK70	—	—	長さ 6.0 幅 4.4	片側に打突痕					
500	003-01	3	F-H8	土師器	壺	SK75	10.3	12.4	体部最大径 12.6	風化により調整不明。内面底部に工具ナデが残る。	粗	並	黄橙 7.5YR7／8	完形	
501	122-02	3	F-P8	土師器	台付甕	SK75	—	—	底部径 12.5	ナデ	やや密	並	浅黄橙 7.5YR8／3	底部 7／8	
502	118-01	3	F-P8	須恵器	杯蓋	SK76	12.1	—	—	ロクロナデ	やや密	並	灰 N6／0	口縁部 わずか	
503	118-02	3	F-P8	土師器	椀	SK76	12.4	—	—	口縁部・内面ナデ、外面ケズリ	やや粗	並	にぶい赤褐 5YR5／4	口縁部 1／4	
504	113-03	3	F-P8	土師器	椀	SK76	14.0	—	—	口縁部・内面ナデ、外面ケズリ	粗	やや不良	にぶい赤褐 2.5YR4／4	口縁部 1／6	
505	113-03	3	F-P8	土師器	台付椀	SK76	11.9	7.1	底部径 6.6	摩滅著しく、調整不明	やや粗	並	明赤褐 2.5YR5／6	口縁部 1／4 底部 2／3	
506	118-04	3	F-P8	土師器	台付椀	SK76	11.9	7.3	底部径 6.7	ナデ	やや粗	並	浅黄橙 7.5YR8／3	口縁部 わずか 底部 1／6	
507	013-02	3	F-P8	土師器	台付椀	SK76	12.0	7.9	底部径 6.8	ナデ、脚部ヨコナデ	やや粗	並	橙 5YR7／6	完形	口縁端部に煤が付着
508	117-01	3	F-P8	土師器	高杯	SK76	27.8	—	—	摩滅著しく、調整不明	やや粗	並	にぶい黄橙 10YR7／4	口縁部 1／8	
509	117-03	3	F-P8	土師器	台付甕	SK76	11.2	—	—	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、内面ナデ	やや粗	並	赤橙 10YR6／8	口縁部 1／2	
510	117-02	3	F-P8	土師器	台付甕	SK76	12.7	—	—	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、内面ナデ、オサエ	やや粗	並	橙 5YR7／6	口縁部 1／2	
511	119-01	3	F-P8	土師器	台付甕	SK76	14.0	—	—	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、内面ナデ	やや粗	やや不良	にぶい橙 5YR7／4		
512	119-02	3	F-P8	土師器	台付甕	SK76	16.0	—	—	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、内面ナデ	やや粗	やや不良	浅黄橙 7.5YR8／3	口縁部 1／4	
513	117-04	3	F-P8	土師器	台付甕	SK76	14.5	—	—	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、内面ナデ	やや粗	並	浅黄橙 7.5YR8／4	口縁部 1／5	
514	017-02	3	F-P8	須恵器	杯身	SK82	11.0	4.9	体部最大径 13.7	ロクロナデ、ロクロケズリ	やや密	不良	浅黄 2.5YR7／3	1／4	土器正立時、ロクロは反時計回り

第９表　出土遺物観察表Ｆ区（3）

報告番号	登録番号	調査次数	地区名	種類	器種	出土遺構	口径 (cm)	器高 (cm)	その他 (cm・g)	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考
515	016-01	3	F-F8	須恵器	杯身	SK82	12.4	6.4	体部最大径 15.2	ロクロナデ、ロクロケズリ	密	良	灰 10Y6／1	1／2	土器正立時、ロクロは反時計回り
516	122-05	3	F-F8	須恵器	杯身	SK75	14.0	—	体部最大径 16.0	ロクロナデ	やや密	良	灰白 N7／0	口縁部 小片	
517	018-03	3	F-F8	土師器	椀	SK82	11.7	4.9	—	摩滅著しく不明	やや粗	並	橙 5Y7／6	口縁部 1／2	
518	122-01	3	F-F8	土師器	台付椀	SK82	11.5	7.1	底部径 6.5	表面剥離のため調整不明	やや粗	並	橙 5Y7／6	口縁部 3／4 底部 1／2	
519	122-04	3	F-F8	土師器	台付甕	SK82	—	—	底部径 6.5	ナデ、オサエ	やや粗	並	にぶい橙 5YR7／4	底部 ほぼ完形	
520	122-03	3	F-F8	土師器	台付甕	SK82	—	—	底部径 9.3	ナデ	やや粗	並	にぶい黄橙 10YR7／4	底部 ほぼ完形	
521	016-05	3	F-F7	須恵器	杯蓋	SK83	12.2	4.6	—	ロクロナデ、ロクロケズリ	密	良	灰 N5／0	口縁部 1／4	土器正立時、ロクロは時計回り
522	016-02	3	F-F7	須恵器	杯蓋	SK83	13.4	4.8	体部最大径 13.4	ロクロナデ、ロクロケズリ	密	良	灰 N6／0	1／2	土器正立時、ロクロは時計回り
523	008-02	3	F-F7	須恵器	杯身	SK83	10.4	4.8	—	ロクロナデ、ロクロケズリ	やや粗	良	灰 N5／0	口縁部 3／4	
524	017-01	3	F-F7	須恵器	杯身	SK83	11.5	5.0	体部最大径 13.5	ロクロナデ、ロクロケズリ	やや粗	良	灰 N5／0	3／4	土器正立時、ロクロは反時計回り
525	129-04	3	F-F7	須恵器	杯身	SK83	11.0	—	—	ロクロナデ、ロクロケズリ	やや粗	並	灰黄褐 10YR6／2	口縁部 わずか	
526	128-01	3	F-F7	土師器	台付甕	SK83	13.6	—	体部最大径 20.0	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、内面ナデ	やや粗	並	にぶい橙 7.5YR7／3	口縁部 3／4	
527	127-01	3	F-F7	土師器	台付甕	SK83	14.8	—	—	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、内面ナデ	やや粗	並	橙 7.5YR7／6	口縁部 1／4	
528	127-02	3	F-F7	土師器	台付甕	SK83	16.2	—	—	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、内面ナデ	やや粗	並	にぶい橙 7.5YR7／4	口縁部 1／3	
529	062-04	3	F-F7	土製品	ミニチュア土器	SK83	—	—	体部最大径 3.0	手捏ね	やや粗	並	橙 5YR6／6		
530	165-03	3	F-H9	土師器	甕	SK77	10.2	—	—	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、内面ナデ	やや粗	並	にぶい橙 5YR7／4	口縁部 1／6	
531	130-01	3	F-H9	土師器	台付甕	SH77	15.6	—	—	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、内面ナデ	やや粗	並	浅黄橙 7.5YR8／4	口縁部 3／8	
532	190-01	3	F-H9	土師器	台付甕	SK77	14.8	—	—	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、内面ナデ	やや粗	並	浅黄橙 7.5YR8／3	口縁部 ほぼ完形	
533	165-01	3	F-H9	土師器	鉢	SK77	27.8	—	—	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、内面ナデ	やや粗	並	浅黄橙 7.5YR8／3	口縁部 1／4	
534	001-01	3	F-H8	土師器	甑	SK77	28.2	26.1	底部径 11.0	口縁部ヨコナデ、ケズリ、内面板ナデ、孔ヘラ切り	やや粗	軟	浅黄橙 7.5YR8／4	1／2	内面に黒斑あり
535	189-01	3	F-H9	土師器	甑	SK77	25.8	—	—	ナデ、オサエ	粗	並	黄橙 7.5YR8／8	口縁部 3／8	
536	131-04	3	F-I8	須恵器	高杯	SK78	—	8.0	—	ロクロナデ、三方スカシ	やや密	良	灰白 N8／0	底部 1／4	
537	131-03	3	F	土師器	椀	SK78	12.4	4.0	—	ナデ、オサエ	やや粗	並	橙 5YR7／6	口縁部 2／3	
538	133-02	3	F	土師器	椀	SK78	12.5	—	—	ナデ	やや密	並	橙 7.5YR7／6	口縁部 1／2	一部外面に黒斑あり
539	131-02	3	F-I8	土師器	台付椀	SK78	13.2	7.2	底部径 7.4	ナデ、オサエ	やや粗	並	橙 2.5YR6／8	口縁部 1／3 脚部 3／4	
540	131-01	3	F-I8	土師器	台付椀	SK78	11.95	—	—	ナデ、オサエ	やや粗	並	橙 5YR6／8	口縁部 3／4	
541	133-04	3	F-I8	土師器	台付椀	SK78	12.0	6.8	底部径 6.5	ナデ、ケズリ	やや密	並	橙 5YR7／6	口縁部 小片 底部 完形	
542	131-05	3	F-I8	須恵器	高杯	SK78	—	—	—	ロクロナデ	やや密	並	灰白 5Y7／1		
543	133-01	3	F	土師器	台付甕	SK78	11.5	—	体部最大径 15.2	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、内面ナデ	やや粗	並	にぶい橙 5YR7／3	口縁部 完形	
544	132-02	3	F-I8	土師器	台付甕	SK78	12.5	21.2	—	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、内面ナデ	やや粗	並	にぶい橙 5YR7／4	口縁部 1／10	
545	130-02	3	F-I8	土師器	台付甕	SK78	14.2	—	—	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、内面ナデ	やや粗	並	浅黄橙 7.5YR8／3	口縁部 1／3	
546	132-01	3	F-I8	土師器	鉢	SK78	18.5	13.8	底部径 5.0	口縁部ヨコナデ、外面ハケ	やや粗	並	灰白 10YR8／2	口縁部 1／3 底部 完形	
547	133-03	3	F-I8	土師器	壺	SK78	—	—	体部最大径 14.6	外面ミガキ・ケズリ、内面ナデ	やや密	並	橙 2.5YR6／6		
548	063-02	3	F-G10	土製品	獣形？	SH127	—	—	—		やや粗	並	褐灰 10YR4／1		
549	062-01	3	H-I8	石製品	紡錘車	SK78	—	—	上径 2.5 底部径 4.8 高さ 1.8 重さ 48.5				オリーブ黒 10Y3／1		
550	019-04	3	F-G3	須恵器	高杯	SK119	10.7	9.6	底部径 8.1 体部最大径 12.1	ロクロナデ、ロクロケズリ、脚部カキメ、二方スカシ	やや密	並	灰 N6／0	口縁部 1／4 底部 完形	二方向透孔
551	019-05	3	F-H3	須恵器	高杯	SK119	10.4	9.1	底部径 8.4 体部最大径 12.7	ロクロナデ、ロクロケズリ、三方スカシ	やや粗	並	灰 N7／0	口縁部 小片 底部 1／2	三方向透孔
552	089-01	3	F-G3	土師器	椀	SF114	11.8	—	—	口縁部ヨコナデ、外面ケズリ、内面ナデ	やや粗	並	橙 7.5YR6／6	口縁部 1／3	
553	179-02	3	F	土師器	椀	SF114	11.2	—	—	ナデ、ケズリ	やや密	並	橙 5YR6／6	口縁部 1／4	
554	018-01	3	F-G3	土師器	台付椀	SK119	13.0	7.6	底部径 8.6	口縁部ヨコナデ、杯部内外面ナデ、脚部ヨコナデ	やや粗	並	橙 5YR7／6	口縁部 1／2 底部 完形	
555	143-03	3	F-G3	土師器	台付椀	SK119	11.0	8.3	底部径 7.0	口縁部ヨコナデ、ナデ	やや粗	並	橙 5YR7／6	底部 完形	
556	156-03	3	F-G3	土師器	高杯	SK119	—	—	底部径 17.2	摩滅著しく、調整不明瞭、ナデ、オサエ	密	並			
557	180-05	3	F-G3	土師器	壺	SK119	13.0	—	—	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、内面ナデ・ハケ	やや粗	並	暗灰黄 2.5Y4／2	口縁部 1／7	
558	178-04	3	F-G3	土師器	壺	SK119	15.1	—	—	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、内面ナデ	やや粗	並	浅黄橙 7.5YR8／4	口縁部 1／6	
559	140-01	3	F-H3	土師器	台付甕	SK119	11.1	—	—	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、内面ナデ	やや粗	並	浅黄橙 7.5YR8／4	口縁部 1／4	
560	162-01	3	F	土師器	壺	SK119	9.8	11.0	体部最大径 12.0	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、内面ナデ	やや密	並	にぶい褐 7.5YR6／3	口縁部 1／6	
561	192-02	3	F-G3	土師器	鉢	SK119	18.5	15.4	底部径 6.0	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、ケズリ、内面ナデ	やや粗	並	橙 7.5Y7／6	底部 完形	
562	143-01	3	F-G3	土師器	鉢	SK119	18.7	—	—	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、内面ナデ	やや密	並	浅黄橙 10YR8／3	口縁部 1／2	
563	182-03	3	F-G3	土師器	台付甕	SK119	12.8	17.8	底部径 7.0 体部最大径 15.8	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、内面ナデ	やや粗	並	浅黄橙 7.5YR8／3	ほぼ完存	
564	162-02	3	F-G3	土師器	台付甕	SK119	14.8	—	—	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、内面ナデ	やや粗	並	灰白 7.5YR8／2	口縁部 6／7	
565	167-02	3	F-G3	土師器	台付甕	SK119	14.4	—	—	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、内面ナデ		良	にぶい橙 7.5YR7／4		
566	167-01	3	F-G3	土師器	台付甕	SK119	10.4	—	—	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、内面ナデ	やや粗	やや不良	浅黄 2.5YR7／3	口縁部 1／3	
567	140-02	3	F-H3	土師器	台付甕	SK119	16.3	—	—	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、内面ナデ	やや密	並	にぶい黄橙 10YR7／4	口縁部 3／4	
568	139-01	3	F-G3	土師器	台付甕	SK119	13.4	—	—	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、内面ナデ	やや粗	並	浅黄橙 10YR8／4	口縁部 1／4	
569	150-04	3	F-G3	土師器	台付甕	SK119	14.0	—	—	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、内面ナデ	やや粗	並	にぶい黄橙 10YR7／4		
570	167-05	3	F-G3	土師器	台付甕	SK119	15.0	—	—	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、内面ナデ	密	良	にぶい黄橙 10YR7／4	口縁部 1／2	
571	139-02	3	F-G3	土師器	台付甕	SK119	15.0	—	—	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、内面ナデ	やや粗	並	浅黄橙 7.5YR8／3	口縁部 1／3	

第10表　出土遺物観察表Ｆ区（4）

報告番号	登録番号	調査次数	地区名	種類	器種	出土遺構	口径 (cm)	器高 (cm)	その他 (cm・g)	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考
572	167-04	3	F-G3	土師器	台付甕	SK119	15.8	—	—	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、内面ナデ	やや粗	並	にぶい橙 7.5YR7/4		
573	150-03	3	F-G3	土師器	台杯鉢	SK119	13.0	—	--	ナデ	やや粗	並	浅黄橙 7.5YR8/3	口縁部 1/4	
574	018-02	3	F-G3	土師器	台付鉢	SK119	14.5	8.9	底部径 9.0	鉢部外面オサエ後ナデ、内面ナデ、台部ナデ、端部オサエ後ナデ	やや粗	並	にぶい橙 7.5YR7/4	口縁部 1/3	
575	166-02	3	F-G3	土師器	台付鉢?	SK119	—	—	底部径 10.2	外面縦ナデ、内面ナデ		並			
576	144-01	3	F-G3	土師器	台付鉢	SK119	22.3	17.3	底部径 9.5	口縁部オサエ、ナデ、外面工具ナデ、内面ナデ	やや粗	並	浅黄橙 10YR8/3	口縁部 1/3 底部 完形	
577	013-01	3	F-G3	土師器	台付鉢	SK119	21.9	17.3	底部径 9.5	口縁部・体部内面上半ヨコナデ、下半ナデ、外面ケズリ後ナデ、台部外面ハケ、内面ナデ	やや粗	並	浅黄橙 10YR8/3	台部 2/3欠損	
578	015-03	3	F-G3	土製品	土錘	SK93～98	—	—	長さ 6.3 底部径 3.5 穴径 0.9 重さ 34.38	ナデ	やや粗	並	浅黄橙 10YR8/4		
579	063-03	3	F-H3	土製品	獣形?	SF114	—	—	—		やや粗	並	にぶい黄橙 10YR7/3		
580	062-05	3	F-G3	土製品	ミニチュア土器	SK119	3.6	1.3	—	手捏ね、ナデ	やや粗	並	灰白 2.5YR8/2		
581	143-05	3	F-G3	土師器	ミニチュア土器	SK119	—	—	—	オサエ	やや粗	並	にぶい橙 5YR7/3		
582	062-02	3	F-G3	土製品	紡錘車	SK119	—	—	上径 2.5 底部径 5.4 高さ 2.1 重さ 21.5		やや粗	良	明赤褐 5YR5/8		
583	123-01	3	C-H9	土師器	椀	SK128	12.2	4.1	—	ナデ、ケズリ	やや粗	並	浅黄橙 10YR8/3	口縁部 5/6	
584	123-04	3	F-H9	土師器	台付椀	SK78	12.0	—	—	摩滅著しく、調整不明	やや粗	並	橙 5YR6/8	口縁部 1/2	
585	123-03	3	F-H9	土師器	高杯	SK78	—	—	底部径 7.3	表面剥離のため調整不明	やや粗	並	橙 7.5YR6/6	底部 完形	
586	123-02	3	F-H9	土師器	高杯	SK78	—	—	底部径 12.3	表面剥離のため調整不明、面取り	やや粗	並	橙 5YR7/6	底部 5/8	
587	124-02	3	F-H9	土師器	台付甕	SK78	14.2	—	—	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、内面ナデ	やや粗	並	淡黄 2.5Y8/3	口縁部 1/4	
588	124-03	3	F-H9	土師器	台付甕	SK78	14.8	—	—	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、内面ナデ	やや粗	並	にぶい黄橙 10YR7/4	口縁部 1/4	
589	124-01	3	F-H9	土師器	甕	SK78	30.0	—	—	口縁部ヨコナデ、外面タテハケ、内面ナデ	やや密	並	橙 5YR7/6	口縁部 1/4	
590	124-04	3	F-H9	土師器	ミニチュア土器	SK78	—	—	底部径 3.3	外面ナデ、内面オサエ	やや密	並	灰黄褐 10YR6/2		
591	129-03	3	F-K8	須恵器	杯蓋	SK85	14.5	4.4	—	ロクロナデ、ロクロケズリ	やや密	並	灰 5Y5/1	口縁部 1/3	
592	129-05	3	F-K8	須恵器	杯身	SK85	11.0	—	—	ロクロナデ	やや密	並	黄灰 2.5Y6/1	口縁部 1/9	
593	022-01	3	F-K8	須恵器	甑	SK85	—	—	体部最大径 10.2	ロクロナデ、ケズリ、刺突、スカシ孔	やや密	並	黄灰 2.5Y6/1	頸部欠損	透孔（1つ）刺突文
594	129-01	3	F-K8	土師器	甕	SK85	16.6	—	—	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、内面ナデ	やや密	並	灰白 10YR8/2	口縁部 1/4	
595	128-02	3	F-K8	土師器	甕	SK85	17.1	—	—	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、内面ナデ	やや粗	並	浅黄橙 10YR8/4	口縁部 1/2	
596	129-02	3	F-K8	土師器	台付甕	SK85	—	—	底部径 5.2	摩滅著しく、調整不明	やや密	並	灰白 10YR8/2	底部 1/2	
597	128-06	3	F-K8	土師器	加工円板	SK85	—	—	長径 2.5 短径 2.1		やや密	並	灰白 10YR8/2		
598	100-03	2	F-H11	土師器	台付甕	SK72	12.6	—	—	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、内面ナデ	やや粗	並	浅黄橙 7.5YR8/4	口縁部 1/6	
599	142-01	3	F-E6	土師器	台付甕	SK113	11.95	18.1	底部径 7.0 体部最大径 16.2	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、内面ナデ	やや粗	並	にぶい橙 7.5YR7/4	口縁部 一部欠損	
600	172-03	3	F-I5	土師器	甕	SK160	12.8	—	—	ヨコナデ、ナデ	やや粗	並	にぶい橙 5YR7/4	口縁部 1/8	
601	169-01	3	F	土師器	甕	SK110	10.0	11.4	—	口縁部ヨコナデ、外面ケズリ・ナデ、内面ナデ	やや粗	密	橙 5YR7/8		
602	173-07	3	F-I5	石器	叩き石	SK110	--	—	—						
603	143-04	3	F-G6	土製品	紡錘車	SK108	—	—	—		やや密	並	橙 2.5YR6/6		
604	173-03	3	F-L6	須恵器	甑	SK126	10.2	—	—	ロクロナデ、波状文	やや粗	良	灰白 N7/0	口縁部 1/5	
605	173-04	3	F-L6	土師器	台付甕	SK126	8.5	—	—	ナデ	やや粗	並	橙 5YR7/6	脚部 3/4	
606	018-05	3	F-F6	土師器	椀	SK129	12.2	5.1	—	口縁部ヨコナデ、外面ナデ・ケズリ、内面工具ナデ	やや密	並	浅黄橙 10YR8/3	口縁部 3/4	
607	018-04	3	F-F6	土師器	椀	SK129	12.5	4.9	—	口縁部ヨコナデ、体部ナデ	やや粗	並	にぶい橙 7.5YR7/4	口縁部 4/5	
608	017-03	3	F-K5	土師器	杯	SB134	14.0	3.9	—	横方向ナデ	粗	並	橙 7.5YR7/6	口縁部 3/4	
609	020-02	3	F-K5	土師器	杯	SB134	13.5	3.0	—	体部外面ケズリ、内面ナデ	やや密	並	橙 2.5YR7/8	口縁部 1/2	
610	020-01	3	F-K5	土師器	杯	SB134	16.5	2.5	—	内面にミガキ	やや密	並	橙 7.5YR7/6	口縁部 1/2	
611	177-04	3	F-K5	土師器	杯	SB134	15.8	2.2	—	口縁部ヨコナデ、外面オサエ、内面ナデ	やや密	並	橙 2.5YR7/6	口縁部 1/2	内面にヘラ描きが残る
612	020-05	3	F-I4	須恵器	蓋	SH116	16.0	2.6	つまみ部径 3.0	ロクロナデ、ロクロケズリ	やや密	良	灰白 10YR7/1	口縁部 1/4	
613	172-04	3	F-I4	土師器	杯	SH116	13.0	4.4	—	口縁部ヨコナデ、外面オサエ、内面ナデ	やや粗	並	橙 5YR7/6	口縁部 1/6	
614	172-01	3	F-I4	土師器	甕	SH116	15.7	16.4	体部最大径 17.6	口縁部ヨコナデ、外面タテハケ、内面ヨコハケ	やや粗	並	灰白 10YR8/1	口縁部 1/5	カマド支脚
615	051-01	3	F-I4	土師器	甕	SH116	22.7	—	体部最大径 24.0	口縁部ヨコナデ、外面タテハケ、内面ヨコハケ	やや粗	並	灰白 2.5YR8/2	口縁部 5/8	
616	050-01	3	F-I4	土師器	甕	SH116	23.1	—	体部最大径 27.0	口縁部ヨコナデ、外面タテハケ、内面ヨコハケ	やや粗	並	灰白 10YR8/2	口縁部 1/5	
617	116-03	3	F-H9	須恵器	蓋つまみ	SK68	--	—	—	ヨコナデ	やや密	並	浅黄橙 7.5YR8/4	つまみのみ	
618	115-07	3	F-G9	土師器	杯	SK68	12.9	3.1	--	摩滅著しく、調整不明	やや粗	並	橙 7.5YR7/6	口縁部 1/4	
619	115-05	3	F-G9	土師器	杯	SK68	12.0	3.3	—	摩滅著しく、調整不明	やや密	並	にぶい橙 5YR7/4	口縁部 1/3	
620	115-06	3	F-G9	土師器	杯	SK68	12.2	3.4	—	ナデ、オサエ	やや密	並	橙 7.5YR7/6	口縁部 1/5	
621	115-03	3	F-G9	土師器	杯	SK68	13.8	2.9	--	摩滅著しく、調整不明	やや粗	並	橙 7.5YR7/6	口縁部 1/3	
622	115-04	3	F-G9	土師器	杯	SK68	9.8	2.5	--	ナデ、オサエ、ケズリ	やや密	並	にぶい黄橙 10YR7/4	口縁部 1/2	
623	115-08	3	F-G9	土師器	杯	SK68	10.9	2.65	--	ナデ、オサエ、ケズリ	やや粗	並	にぶい橙 7.5YR7/4	口縁部 1/3	
624	116-02	3	F-G9	土師器	杯	SK68	15.1	3.75	--	ナデ	やや密	並	浅黄橙 7.5YR8/4	口縁部 1/8	
625	115-01	3	F-G9	土師器	皿	SK68	16.1	1.7	--	ナデ、オサエ	やや粗	並	橙 7.5YR6/6	口縁部 1/5	
626	115-02	3	F-G9	土師器	皿	SK68	18.8	1.7	—	ナデ、オサエ	やや粗	並	にぶい橙 7.5YR7/4		
627	116-04	3	F-G9	土師器	盤	SK68	22.7	4.3	底部径 17.5	ヨコナデ、ケズリ、貼付高台	やや密	並	にぶい橙 7.5YR7/4	口縁部 1/6 底部 1/10	

第11表　出土遺物観察表Ｆ区（5）

報告番号	登録番号	調査次数	地区名	種類	器種	出土遺構	口径(cm)	器高(cm)	その他(cm・g)	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考
628	116-03	3	F-H9	土師器	鉢	SK68	27.4	—	—	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、内面風化大不明	やや粗	並	浅黄橙 10YR8/4	口縁部 1/11	
629	141-03	3	F	土師器	甕	SK87	23.7	—	—	口縁部ヨコナデ、外面タテハケ、内面ヨコハケ	やや粗	並	浅黄橙 10YR8/3	口縁部 1/3	
630	113-05	3	F-G9	須恵器	杯身	SF64	13.6	—	—	ロクロナデ	密	並	褐灰 10YR6/1	口縁部 1/6	
631	113-06	3	F-G7	土師器	高杯	SF64	11.2	—	—	ナデ	やや密	並	浅黄橙 10YR8/3	口縁部 1/6	
632	172-02	3	F-G9	土師器	壷	SF64	18.6	—	—	ヨコナデ	やや密	並	にぶい黄橙 10YR7/2	口縁部 1/9	
633	173-06	3	F-G9	土師器	杯	SF64	—	—	—	ナデ	やや密	並	橙 5YR6/6		
634	112-03	3	F	土師器	甕	SF64	33.0	—	—	口縁部ハケの後ナデ、外面タテハケ、内面ヨコハケ	やや粗	並	黒褐 10YR3/1	口縁部 1/7	
635	180-04	3	F-G5	土師器	杯	SF100	—	—	—	ナデ、外面ミガキ、内面暗文	やや密	並	浅黄橙 10YR8/3		
636	111-02	3	F-G5	須恵器	杯蓋	SF104	—	—	—	外面ケズリ、内面ナデ	密	やや不良	浅黄橙 7.5YR8/6	体部破片	上面にヘラ記号あり
637	111-04	3	F-G5	須恵器	無台杯身	SF104	10.2	—	—	ロクロナデ、ロクロケズリ	やや密	良	暗黄灰 2.5Y5/2		
638	114-02	3	F-G5	土師器	長頸壷	SF104	9.6	—	—	ヨコナデ、ナデ	密	並	青灰 5B6/1		
639	179-03	3	F-G5	土師器	杯	SF104	12.1	—	—	ナデ	やや密	並	灰白 10YR8/1	口縁部 1/5	
640	113-03	3	F-G5	土師器	杯	SF104	—	—	—	ナデ	やや密	並	橙 5YR7/6		
641	113-04	3	F-G5	土師器	杯	SF104	19.4	—	—	ナデ、外面ミガキ	密	並	にぶい橙 5YR6/4	口縁部 1/10	
642	179-01	3	F-G5	土師器	杯	SF104	12.7	2.9	—	ナデ、内面ミガキ・暗文	やや密	並	浅黄橙 7.5YR8/4	口縁部 1/3	
643	113-01	3	F	土師器	台付甕	SF64	13.4	—	—	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、内面ナデ	やや粗	並	浅黄橙 10YR8/3	口縁部 1/5	
644	113-02	3	F-G5	土師器	甕	SF104	16.6	—	—	口縁部ヨコナデ、外面タテハケ、内面ヨコハケ	やや密	並	淡黄 2.5Y8/3	口縁部 1/5	
645	178-03	3	F-G5	土師器	甕	SF104	16.2	—	—	口縁部ヨコナデ、外面タテハケ、内面ヨコハケ	やや粗	並	淡黄 2.5Y8/3	口縁部 1/3	
646	112-02	3	F-G5	土師器	甕	SF104	24.4	—	—	口縁部ヨコナデ、外面タテハケ、内面ヨコハケ	やや粗	並	橙 7.5YR7/6	口縁部 1/5	
647	112-03	3	F-G5	土師器	甕	SF104	28.0	—	—	口縁部ヨコナデ、外面タテハケ、内面ヨコハケ	やや粗	並	灰白 10YR8/2	口縁部 1/7	
648	178-01	3	F-G5	土師器	甕	SF104	19.0	—	—	口縁部ヨコナデ、外面タテハケ、内面ヨコハケ	やや粗	並	浅黄橙 10YR8/4	口縁部 1/6	
649	114-01	3	F-G5	土製品	土管	SF104	16.4	—	—	外面ナデ、内面ハケ	粗	並	淡黄 2.5Y8/3		脚付き、接続部か
650	173-05	3	F-G5	土師器	ミニチュア土器	SF120	—	—	底部径 3.5	ナデ	やや粗	並	灰白 10YR8/1	底部 完形	
651	113-07	3	F-H9	土師器	甕	SF73	—	—	—	口縁部ヨコナデ、外面タテハケ、内面ヨコハケ	やや粗	並	にぶい黄橙 10YR7/4		
652	179-05	3	F-H3	須恵器	杯身	SF112	14.1	—	体部最大径 16.9	ロクロナデ、ロクロケズリ	やや密	並	灰黄褐 10YR6/2	口縁部 わずか	
653	110-02	3	F-G3	土師器	甕	SF112	24.8	—	—	口縁部ヨコナデ、外面タテハケ、内面ヨコハケ	やや粗	やや不良	にぶい黄橙 10YR7/4	口縁部 1/4	
654	087-04	3	F-G3	須恵器	高杯蓋	SF134	12.2	5.2	—	ロクロナデ、ロクロケズリ	やや密	並	灰白 5Y7/1	口縁部 1/11	
655	175-06	3	F-G3	須恵器	杯蓋	SF134	13.7	—	—	ロクロナデ、ロクロケズリ	やや粗	並	灰 5Y6/1	口縁部 わずか	
656	087-03	3	F-G3	須恵器	杯蓋	SF134	12.0	—	—	ロクロナデ	やや密	並	灰 10Y5/1	口縁部 1/10	
657	111-03	3	F-G3	須恵器	杯身	SF134	11.2	—	—	ロクロナデ、ロクロケズリ	密	良	黄灰 2.5Y5/1	1/6	
658	087-02	3	F-H3	須恵器	杯身	SF134	—	—	—	ロクロナデ	やや密	並	褐灰 10YR6/1		
659	179-04	3	F-G3	土師器	杯	SF134	15.0	—	—	ナデ、ミガキ、ケズリ	やや密	並	橙 7.5YR7/6		
660	180-06	3	F-G3	土師器	杯	SF114	21.0	—	—	ナデ	やや密	並	にぶい橙 5YR7/4	口縁部 1/9	
661	088-02	3	F-G3	土師器	甕	SF114	13.8	—	—	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、内面ヨコハケ+ナデ	粗	並	黒褐 10YR3/1	口縁部 1/6	
662	180-03	3	F-G3	土師器	台付甕	SF114	13.7	—	—	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、内面ナデ	やや粗	並	浅黄橙 10YR8/3	口縁部 わずか	
663	178-02	3	F-G3	土師器	甕	SF114	20.1	—	—	口縁部ヨコナデ、外面タテハケ、内面ヨコハケ	やや密	並	浅黄橙 10YR8/3	口縁部 1/4	
664	180-02	3	F-G3	土師器	甕	SF114	21.0	—	—	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、内面ナデ・ハケ	やや粗	並	灰白 10YR8/2	口縁部 1/9	
665	089-03	3	F-G3	土師器	甕	SF114	22.0	—	—	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、内面ナデ	やや密	並	灰白 10YR8/2	口縁部 1/4	
666	180-01	3	F-G3	土師器	甕	SF114	22.2	—	—	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、内面ナデ・ハケ	やや粗	並	灰白 10YR8/2	口縁部 1/8	
667	110-01	3	F-G3	土師器	鉢	SF114	34.8	—	—	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、内面ヨコハケ	やや粗	やや不良	にぶい黄橙 10YR7/3	口縁部 1/8	
668	089-02	3	F-G3	土師器	台付甕	SF114	10.3	32.3	底部径 5.6 体部最大径 11.8	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、内面ナデ	やや粗	並	にぶい橙 7.5YR7/4	口縁部 1/4 底部 2/3	
669	089-01	3	F-H3	土師器	台付甕	SF114	11.4	37.2	底部径 7.3 体部最大径 14.3	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、内面ナデ	やや粗	並	浅黄橙 7.5YR8/4	口縁部 1/4 底部 1/2	
670	087-01	3	F-H3	土師器	台付甕	SF114	14.8	28.4	底部径 9.1	口縁部脚端部ヨコナデ、外面ハケ、内面ナデ	やや粗	並	浅黄橙 7.5YR8/4	底部 1/2	
671	088-03	3	F-G3	土師器	台付甕	SF114	15.5	—	体部最大径 24.8	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、内面ナデ	やや粗	並	にぶい橙 7.5YR7/4	口縁部 1/2	
672	099-04	3	F-H10	須恵器	杯身	SK71	11.0	—	体部最大径 12.9	ロクロナデ、ロクロケズリ	やや密	良	オリーブ灰 2.5GY5/1	口縁部 わずか	
673	098-03	3	F-I10	須恵器	杯身	SK71	14.0	—	—	ロクロナデ	やや密	並	灰 7.5YG6/1	口縁部 わずか	
674	098-02	3	F-I10	土師器	杯	SK71	14.2	—	—	口縁部ヨコナデ、外面オサエ+ナデ、内面ナデ	やや粗	並	にぶい橙 5YR6/4	口縁部 1/4	
675	097-03	3	F-I10	土師器	杯	SK71	16.0	3.5	—	ナデ、底部外面ヘラミガキ	やや密	並	黄灰 2.5Y4/1	口縁部 1/2	
676	097-04	3	F-I10	土師器	杯	SK71	15.8	3.6	—	ナデ、底部外面ヘラミガキ	やや密	並	橙 5YR6/6	口縁部 1/3	
677	097-02	3	F-I10	土師器	鉢	SK71	19.0	—	—	口縁部ヨコナデ外面ハケ後ナデ、ケズリ、内面ナデ	やや粗	並	にぶい褐 7.5YR6/3	口縁部 1/5	
678	097-01	3	F-I10	土師器	甕	SK71	25.0	—	—	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、内面ヨコハケ	やや粗	並	灰白 10YR8/2	口縁部 1/4	
679	098-01	3	F-I10	土師器	甕	SK71	25.0	—	—	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、内面ヨコハケ	やや粗	並	浅黄橙 7.5YR8/4	口縁部 1/6	
680	022-02	3	F-J10	土師器	ミニチュア壷	SK71	3.8	5.8	体部最大径 7.0	ナデ	やや密	並	明黄褐 10YR7/6	完形	
681	193-01	3	F-J7	須恵器	無台杯身	SK81	14.2	3.3	—	ロクロナデ、ヘラ切り、刻印	やや粗	良	灰白 5Y7/1	口縁部 1/8	「奥満」刻印
682	125-04	3	F-F7	土師器	蓋	SK81	—	—	—	ロクロナデ、ロクロケズリ	粗	並	にぶい橙 5YR6/3		
683	125-05	3	F-F7	土師器	蓋つまみ	SK81	—	—	—	ナデ	やや粗	並	橙 7.5YR7/6	つまみのみ	
684	125-03	3	F-F7	土師器	杯	SK81	—	—	底部径 11.5	ロクロナデ、貼付高台	やや粗	並	橙 7.5YR7/6	底部 1/5	
685	125-02	3	F-H6	土師器	杯	SK81	—	—	—	口縁部ヨコナデ、外面底部ミガキ、内面ナデ	やや粗	並	橙 5YR6/6		

第12表　出土遺物観察表Ｆ区（6）

報告番号	登録番号	調査次数	地区名	種類	器種	出土遺構	口径(cm)	器高(cm)	その他(cm・g)	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考
686	126-03	3	F-P7	土師器	杯	SK81	17.5	—	—	ナデ、ヨコナデ	やや粗	並	にぶい橙 5YR6／4		
687	126-02	3	F-P8	土師器	鉢	SK81	17.0	—	—	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、内面ナデ	やや粗	並	淡黄 2.5Y8／3	口縁部 1／5	
688	125-01	3	F-P7	土師器	甕	SK81	27.5	—	—	口縁部ヨコナデ、外面タテハケ、内面ヨコハケ	やや粗	並	灰白 10YR8／2	口縁部 1／4	
689	126-01	3	F-P7	土師器	甕	SK81	25.0	—	—	口縁部ナデ、外面ケズリ、内面ハケ痕跡	やや粗	並	淡黄 2.5Y8／3		
690	063-01	3	F-P7	土製品	鈴形？	SK81	—	—	—		やや粗	並	灰白 2.5B／1		
691	125-05	3	F-P7	土師器	土錘	SK81	—	—	長さ 3.5 径 1.0 重さ 3.18	ナデ	やや密	並	灰白 2.5B／2	残1／2	
692	174-04	3	F-P7	鉄	釘	SK81	—	—	—						
693	134-01	3	F-J6	須恵器	杯蓋	SK93	14.8	—	—	ロクロナデ、ロクロケズリ	やや密	良	灰 5YR5／1	口縁部 1／6	
694	134-02	3	F-J6	須恵器	杯身	SK93	11.8	—	—	ロクロナデ、ロクロケズリ	やや密	良	灰 N6／0	口縁部 1／8	
695	137-01	3	F-I7	須恵器	杯身	SK92	16.0	5.0	体部最大径 18.0	ロクロナデ、ロクロケズリ	やや密	良	灰 5Y6／1	口縁部 1／6	
696	134-03	3	F-J6	須恵器	杯身	SK93	10.0	—	—	ロクロナデ、ロクロケズリ	やや粗	良	灰 7.5Y6／1	口縁部 1／7	
697	136-02	3	F-J6	須恵器	高杯	SK93	—	—	底部径 8.0	ロクロナデ、カキメ、三方スカシ	密	良	灰 N5／0		
698	135-04	3	F-I7	土師器	杯	SK92	—	—	底部径 11.2	ナデ、ロクロナデ、貼付高台	やや粗	並	橙 5YR7／6		
699	136-01	3	F-J6	土師器	杯	SK93	12.0	3.4	—	ナデ	やや粗	並	浅黄橙 10YR8／3		
700	136-03	3	F-J6	土師器	杯	SK93	12.5	—	—	ナデ	粗	並	浅黄橙 10YR8／4		
701	020-03	3	F-J6	土師器	杯	SK96	15.5	3.7	—	ナデ、内面ミガキ、外面ケズリ	やや密	並	にぶい橙 5YR7／4	完形	
702	135-05	3	F-J6	土師器	台付椀	SK97	—	—	底部径 9.0	ナデ、工具ナデ	やや粗	並	橙 5YR7／6		
703	135-03	3	F-J6	須恵器	高杯	SK93	—	—	—	ロクロナデ、ナデ	やや密	並	灰 10YR6／1		
704	135-02	3	F-J6	土師器	鍋	SK93	13.5	—	—	ナデ、オサエ	粗	並	橙 7.5YR7／6	口縁部 1／2	
705	135-01	3	F-J6	土師器	鉢	SK93	15.0	—	—	口縁部ヨコナデ、外面ヨコハケ、内面タテハケ	やや粗	並	橙 7.5YR7／6	口縁部 1／3	
706	138-01	3	F-J6	土師器	壺	SK98	19.0	—	—	摩滅著しく、調整不明	やや密	並	淡黄 2.5Y8／3	口縁部 1／3	
707	136-04	3	F-J6	土師器	台付甕	SK93	13.0	—	—	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、内面ナデ	やや粗	並	浅黄橙 7.5YR8／4	口縁部 1／6	
708	137-04	3	F-I7	土師器	台付甕	SK92	14.4	—	—	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、内面ナデ	粗	並	にぶい橙 7.5YR7／4	口縁部 1／5	
709	146-62	3	F	土師器	ミニチュア土器	SK98	—	—	底部径 2.8	壺、ナデ、オサエ	やや粗	並	灰白 2.5Y8／2		
710	022-03	3	F-J6	土師器	ミニチュア土器	SK 93～96	—	—	体部最大径 3.9	オサエの後ナデ	やや密	並	にぶい橙 7.5YR7／3	口縁部 少し欠く	
711	137-03	3	F-I7	土師器	ミニチュア土器	SK92	—	—	底部径 5.0 体部最大径 7.0	ナデ、オサエ	粗	並	にぶい黄橙 10YR7／4		
712	015-02	3	F-J6	土製品	土錘	SK 93～98	—	—	長さ 7.7 幅 3.6 穴径 0.9 重さ 94.40	ナデ	やや密	並	浅黄橙 10YR8／3		
713	015-03	3	F-J6	土製品	土錘	SK 93～98	—	—	長さ 7.2 幅 3.6 穴径 0.9 重さ 95.28	ナデ	やや密	並	灰白 10YR8／2		
714	185-01	3	下水管	須恵器	甕	Pit3	22.0	—	—	口縁部ヨコナデ、外面タタキ、内面ナデ	やや粗	並	黄灰 2.5Y5／1		
715	181-01	3	ガス管	土師器	椀	Pit23	11.8	4.0	—	ナデ	やや密	並	黄橙 10YR8／6	口縁部 1／6	
716	181-02	3	下水管	土師器	高杯	Pit3	13.4	8.6	底部径 7.2	ナデ	やや粗	並	橙 7.5YR6／6	口縁部 7／16 底部 ほぼ完形	
717	181-04	3	下水管	土師器	高杯	Pit3	15.3	10.6	底部径 9.3	ナデ、オサエ	やや粗	並	橙 5YR7／8	ほぼ完形	
718	186-02	3	下水管	土師器	高杯	Pit3	15.0	10.0	底部径 9.5	ナデ	粗	並	橙 2.5YR7／6	口縁部 3／4 底部 1／3	
719	186-01	3	下水管	土師器	台付甕	Pit3	14.0	—	—	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、内面ナデ	粗	並	明黄褐 10YR7／6	口縁部 2／3	
720	187-01	3	下水管	土師器	壺	Pit3	17.8	—	—	口縁部ヨコナデ、外面ハケ、内面ナデ	やや粗	並	浅黄橙 10YR8／4		
721	169-02	3	F	須恵器	壺・杯身	包含層	—	—	—	壺・ロクロナデ、波状文。杯身・ロクロナデ。溶着	やや密	並	暗黄灰 2.5Y5／2		
722	165-02	3	F-J3	土師器	甕	包含層	—	—	底部径 7.0	ナデ、木葉文	やや粗	並	橙 2.5Y7／6	底部 完形	
723	142-02	3	F-I10	土製品	土管	包含層	—	—	—	ナデ、ハケ	やや粗	並	浅黄橙 10YR8／3		
724	015-04	3	F-J6	土製品	土錘	SK 93～98	—	—	長さ 7.5 幅 3.4 穴径 0.8 重さ 84.26	ナデ	やや密	並	浅黄橙 10YR8／4		
725	177-03	3	F-G5	土製品	土錘	Pit8	—	—	長さ 4.3 幅 1.6 穴径 0.5		やや粗	並	浅黄橙 10YR8／3		
726	062-03	3	F-P8	石製品	管玉	包含層	—	—	長さ 3.4 径 0.7 重さ 2.5				灰オリーブ 7.5Y6／2		
727	062-07	3	F-P9	石製品	有孔円板	包含層	—	—	重さ 9.4				オリーブ灰 10Y5／2		
728	174-01	3	F-J9	鉄	鏃	包含層	—	—	幅 2.5						

第13表　出土遺物観察表Ｆ区（7）

(註)

① 須恵器編年は、田辺昭三『須恵器大成』（角川書店　1981）を参考にした。
② 拙著「三重県下古墳時代後期竪穴住居内の造り付け竈の構造について」『研究紀要』第９号（三重県埋蔵文化財センター　1999.3）
③ 山田猛ほか『山城遺跡・北瀬古墳跡』（三重県埋蔵文化財センター　1997.3）
④ 「斎宮跡の土師器」『三重県斎宮跡調査事務所年報 1984 史跡　斎宮跡　－発掘調査概報－』（三重県教育委員会・三重県斎宮跡調査事務所　1984.3）
⑤ 上村安生氏の御教示及び、『古代の土師器生産と焼成研究会　窯跡研究会　1887.5』による。
⑥ 『研究紀要』第7号－土師器焼成坑と古代土器の生産と流通－（三重県埋蔵文化財センター　1998.3）
⑦ 楠崎彰一『老洞古窯跡群発掘調査報告書』（岐阜市教育委員会）
⑧ 『三重県斎宮跡調査事務所年報 1982　史跡　斎宮跡　－発掘調査報告－』（三重県教育委員会・三重県斎宮跡調査事務所　1982.3）
⑨ 『斎宮跡発掘資料選』（斎宮歴史博物館　1989.10）
⑩ 『贄遺跡』第2次発掘調査報告書（鳥羽市教育委員会　1987.3）

Ⅴ　Ⅰ・K区の調査成果

1　はじめに

Ⅰ区は第３次、K区は第４次において調査を実施した。第Ⅲ章でも述べたが、Ⅰ区は更にａ～ｄの小地区に分れており、ここではK区に隣接するⅠａ区を併せて報告する。調査合計面積は、900㎡である。

2　基本層序

旧病院関連建物の基礎による攪乱が多く、遺物包含層・遺構検出面等の上層観察は困難であった。

第１層は旧建物の基礎ブロック、プラスチック等を含む現代の攪乱である。遺構検出面まで深く掘り込まれている。第２層は黒色土層である。遺物はさほど含まれない。第３層は第２層にわずかに黄褐色土ブロックを含む層である。ここに遺物が多く包含される。第４層は明黄褐色土であり、この高茶屋台地の基盤となっている。遺構は第２層から切り込まれていると思われるが、遺構埋土も黒色土であるため判別しづらく、第４層上面を遺構検出面とした。

3　遺構

前述したように調査区の大半において戦時中から現代までの攪乱が見られた。しかし、古墳時代前期の遺構が検出され、台地南東部にまで、古墳時代前期の集落が広がることが証明された。時代を追って述べていく。

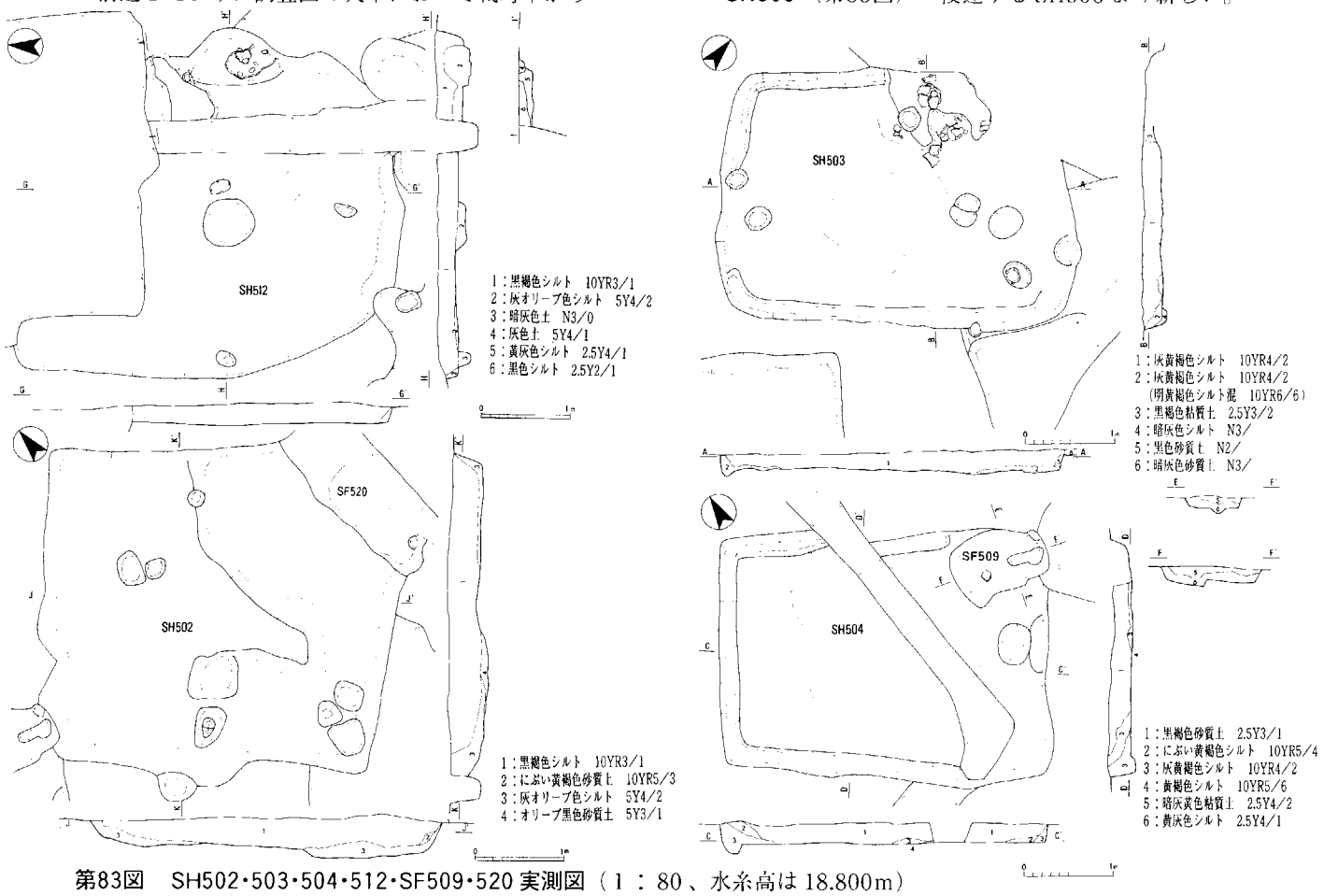
(1)　古墳時代前期

SD501（第84図）　東西方向の溝である。幅は1.4ｍ、深さ25㎝で船底状の断面形を呈し、調査区外へのびる。調査区内では総延長15ｍを検出した。出土遺物(729～754)は土師器小型壺・小型器台・直口壺・広口壺・台付甕で、古墳時代前期[①]の範疇に収まるものである。

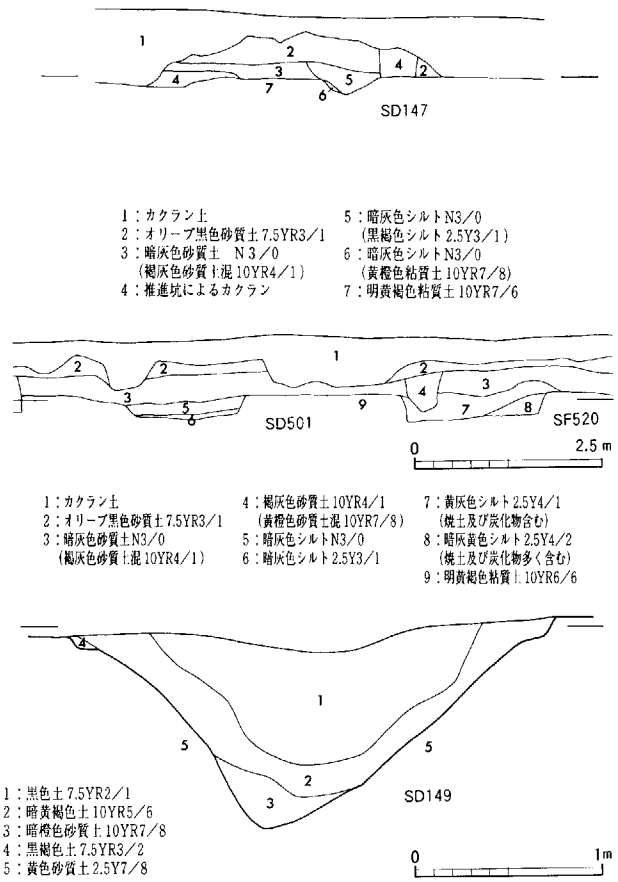
(2)　飛鳥・奈良時代

SH502（第83図）　一辺2.0ｍ×1.8ｍ、深さ18㎝の規模を有する正方形の竪穴住居である。壁周溝・主柱穴・炉・カマド等の施設は、調査区内では認められない。床面は全体に固く締まっている。出土遺物(764～779)は土師器杯・皿・甕・長胴甕・甑で、飛鳥Ⅲ併行期[②]と考えられる。

SH503（第83図）　後述するSH506より新しい。



第83図　SH502・503・504・512・SF509・520 実測図（１：80、水糸高は18.800ｍ）



第84図　SD147・501・SF520・SD149土層断面図
(SD147・501・SF520は1:100、SD149は1：40、水糸高は18.800m)

一辺2.0m×1.4m、深さ14cmの規模を有する長方形の竪穴住居である。壁周溝は北辺・南辺が途切れる。カマドは西辺ほぼ中央につき、カマド燃焼部に土師器甕(804)が据わった状態で出土した。主柱穴は確認できない。床面は中央付近が固く締まっている。出土遺物(795～811)には土師器杯・甕・長胴甕・鍋、須恵器長頸壺があり、飛鳥Ⅳ併行期と考えられる。

SH504（第83図）　一辺1.3m×1.8m、深さ14cmの規模を有する長方形の竪穴住居である。壁周溝は東辺が途切れるが、ほぼ全周する。カマド・主柱穴は確認できない。床面は中央付近が固く締まっている。出土遺物(780～785)は土師器杯・甕・長胴甕があり、飛鳥Ⅳ～Ⅴ併行期と考えられる。

SH506（第83図）　大半が調査区外に広がる。一辺1.2m以上×1.3m以上、深さ4cmである。出土遺物(786)は土師器長胴甕で、飛鳥Ⅳ併行期と考えられる。

SH512（第85図）　北東部が攪乱を受ける。一辺2.2×1.8m、深さ12cmの規模を有するほぼ正方形の竪穴住居である。カマドは東辺やや北寄り中央につく。カマドの向かって、右からは土師器杯・甕等が出土した(829～831)。壁周溝・主柱穴は確認できない。住居南東部床面上に白色粘土塊がみられた。出土遺物（812～831)には土師器杯・Ⅲ・甕・長胴甕・移動式カマドがあり、飛鳥Ⅲ併行期であろう。

SH521　工事中に発見した。2分のIほどしか遺存していなかったが、正方形の平面形を持つものと思われる。カマド・壁周溝・主柱穴は確認できなかった。出土遺物(787～794)には土師器杯・Ⅲ・甕・甑、須恵器長頸壺があり、飛鳥Ⅲ併行期と考えられる。

SF509（第83図）　SH502・504より新しい。長辺0.6m×短辺0.3m、深さ8cmの長方形を呈す。断面形は船底状を呈す。北・東・南辺が強く被熱する。出土遺物(832～836)は土師器杯・高杯・甕があり、飛鳥Ⅲ併行期と考えられる。これらの土器は細片で、土坑埋土に散在してみられた。

SF515　長辺0.8m×短辺0.6m、深さ4cmの楕円形を呈す。断面形は船底状を呈す。被熱痕は僅かであるが、北部が比較的被熱している。出土遺物の土師器杯蓋片(837)は、飛鳥Ⅲ～Ⅳ併行期と考えてよいか。

SF520（第83図）　SH502より新しい。長辺0.8m×短辺0.2m以上、深さ16cmの規模を有す。平面形は不明であるが、断面形は箱型を呈す。南辺に強い被熱痕が見られる。出土遺物は土師器細片で詳細は不明である。

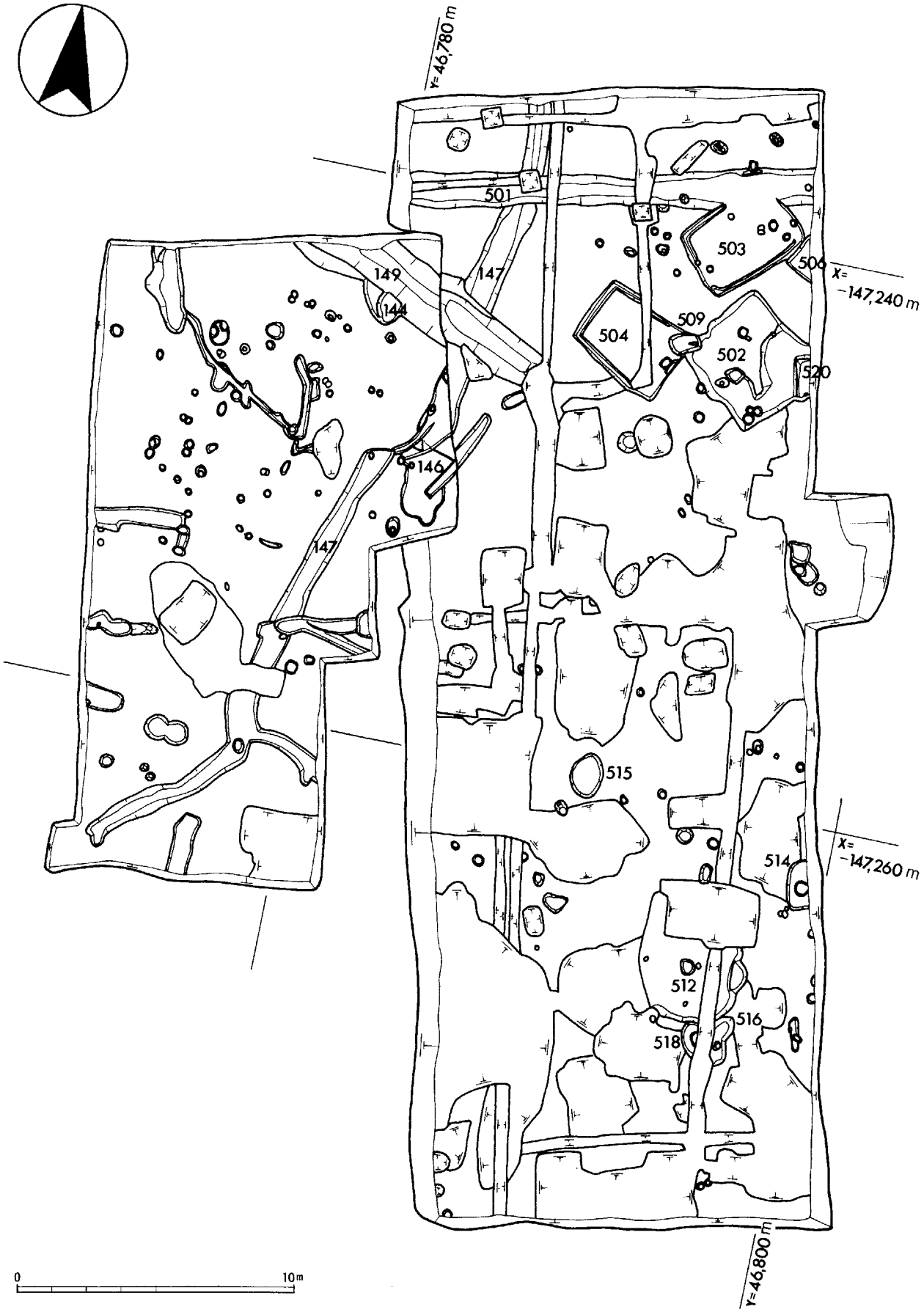
SF522　SH521より新しい。工事中に発見した。焼土の広がりを確認したのみで、平面形の検出は行うことができなかった。出土遺物(838～839)は土師器杯・甑で、飛鳥Ⅱ～Ⅲ併行期と考えられる。

SK516　一辺0.4m×0.3m、深さ20cmの不定形の土坑である。内部には白色粘土が多く見られた。出土遺物(762)は細片であるが土師器甕である。

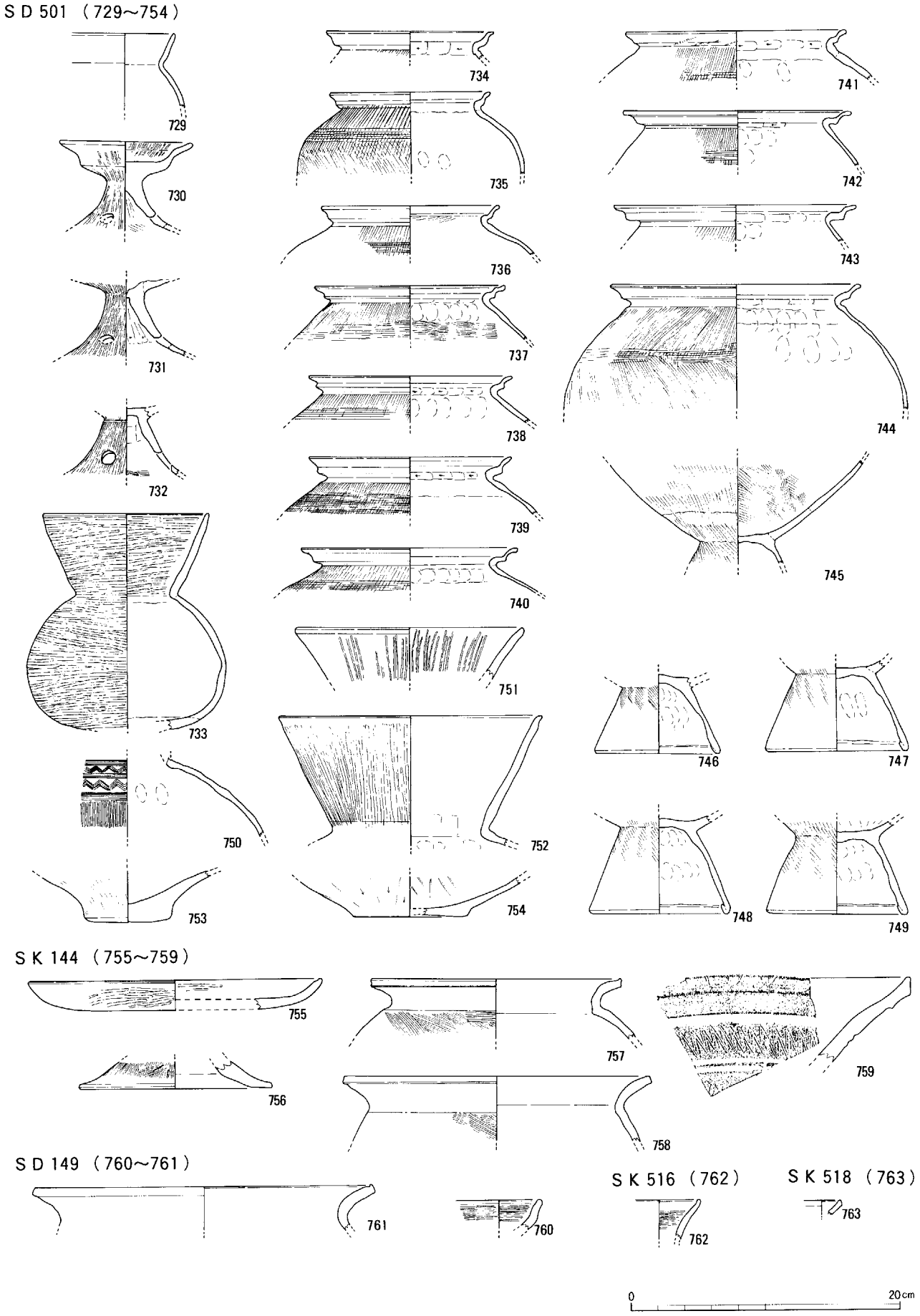
SK518　一辺0.5m×0.4m、深さ22cmの不定形の土坑である。内部には白色粘土が多く見られた。出土遺物（763)は細片であるが土師器甕である。

SK144　後述するSD149の後に掘削された土坑である。南北3m×東西5m以上、深さ10cmの不定形を呈する。

出土遺物(755～759)は土師器杯・高杯脚・甕、須

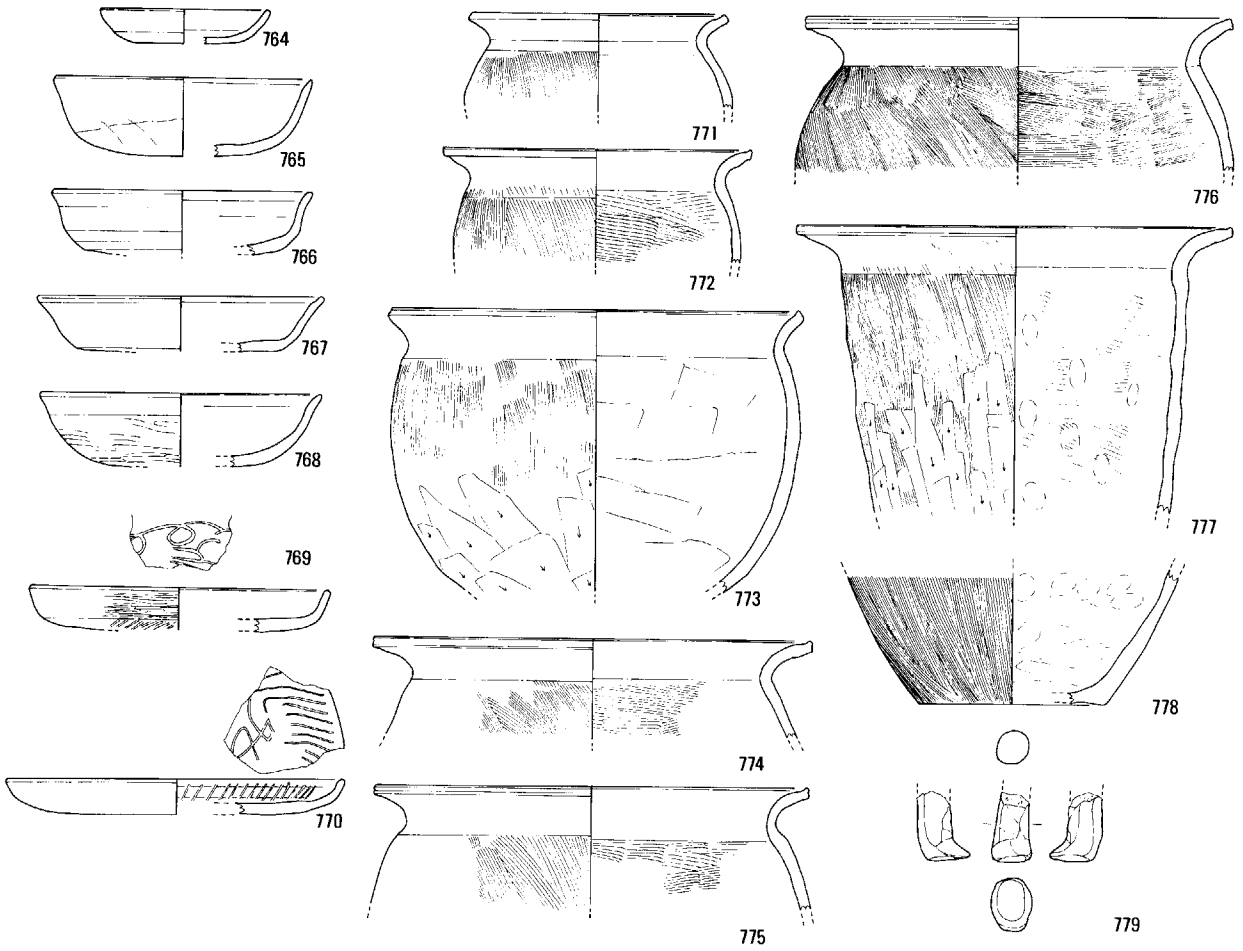


第85図　Ⅰ・Ｋ区遺構平面図（１：200）

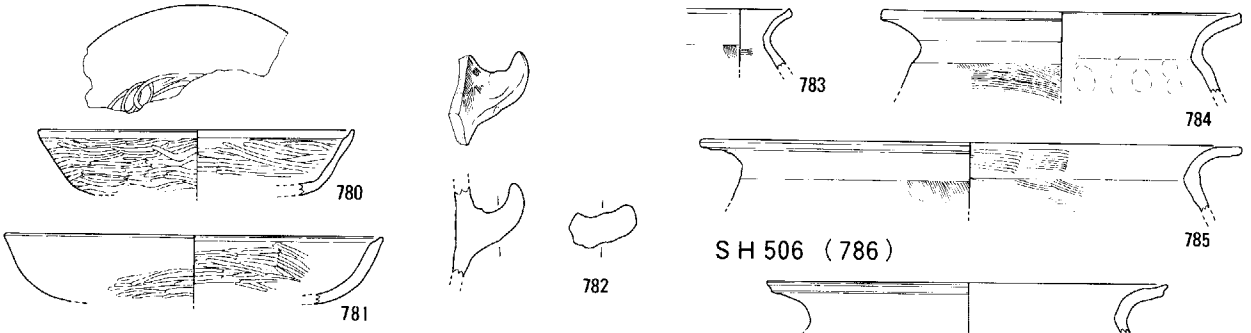


第86図　出土遺物実測図Ｉ・Ｋ区（1）（１：４）

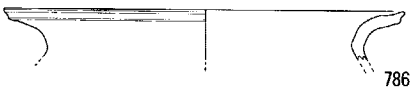
ＳＨ 502 （764～779）



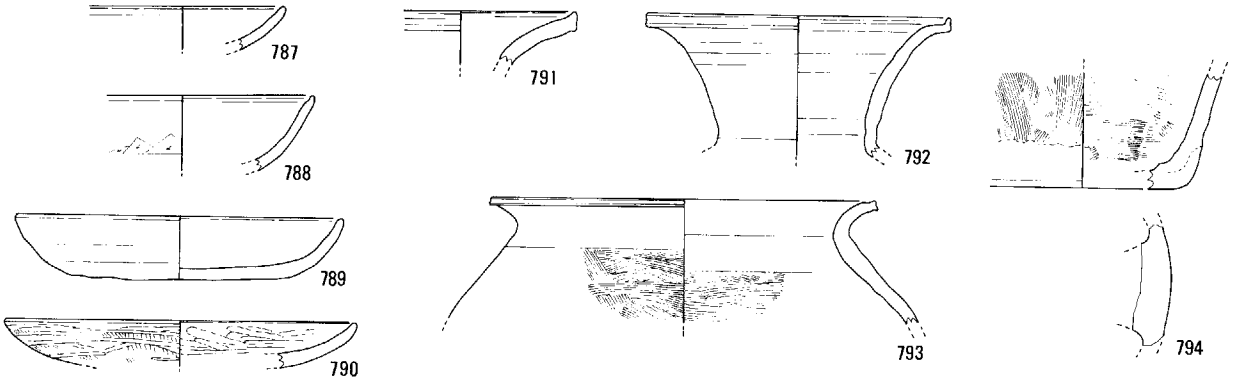
ＳＨ 504 （780～785）



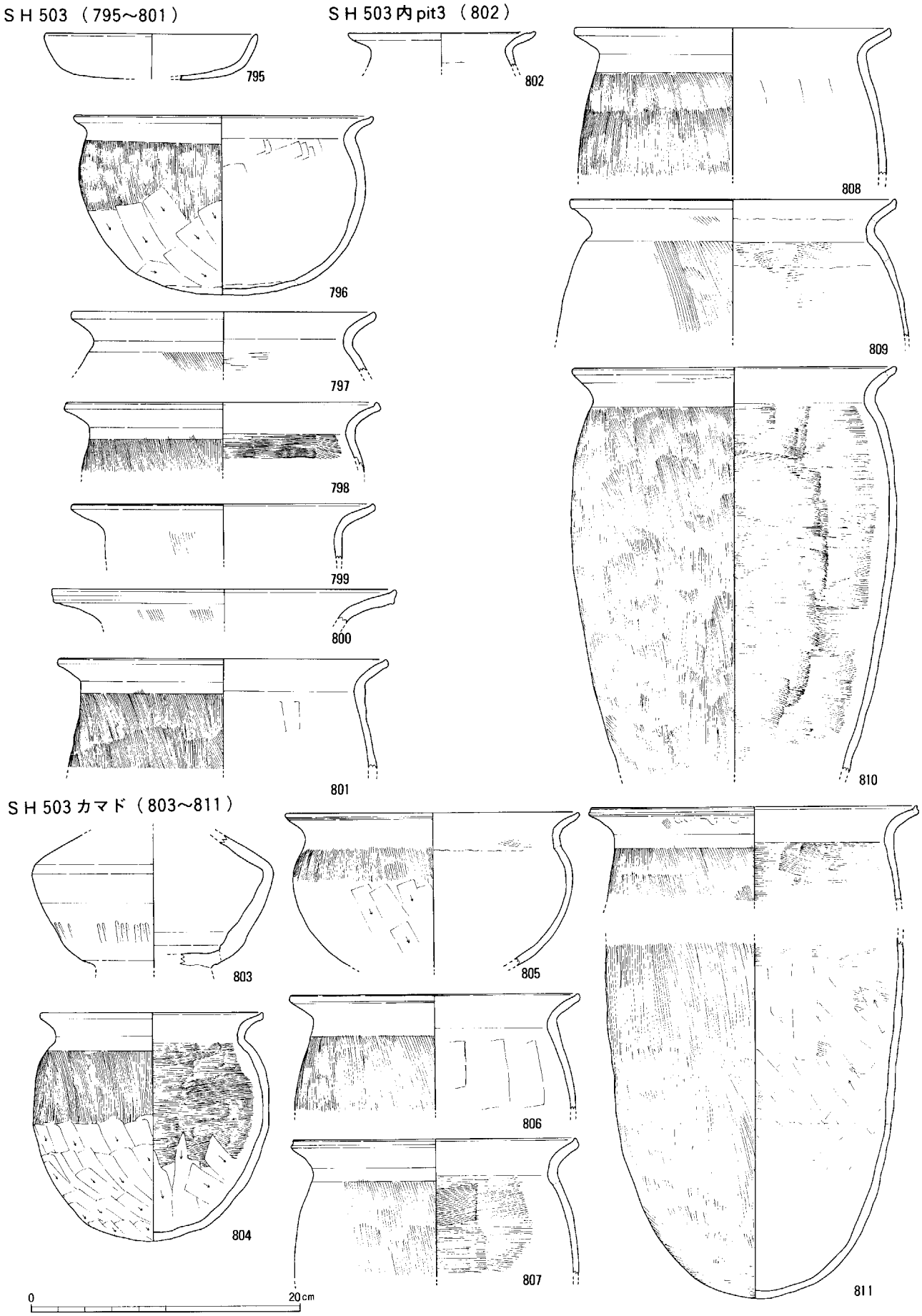
ＳＨ 506 （786）



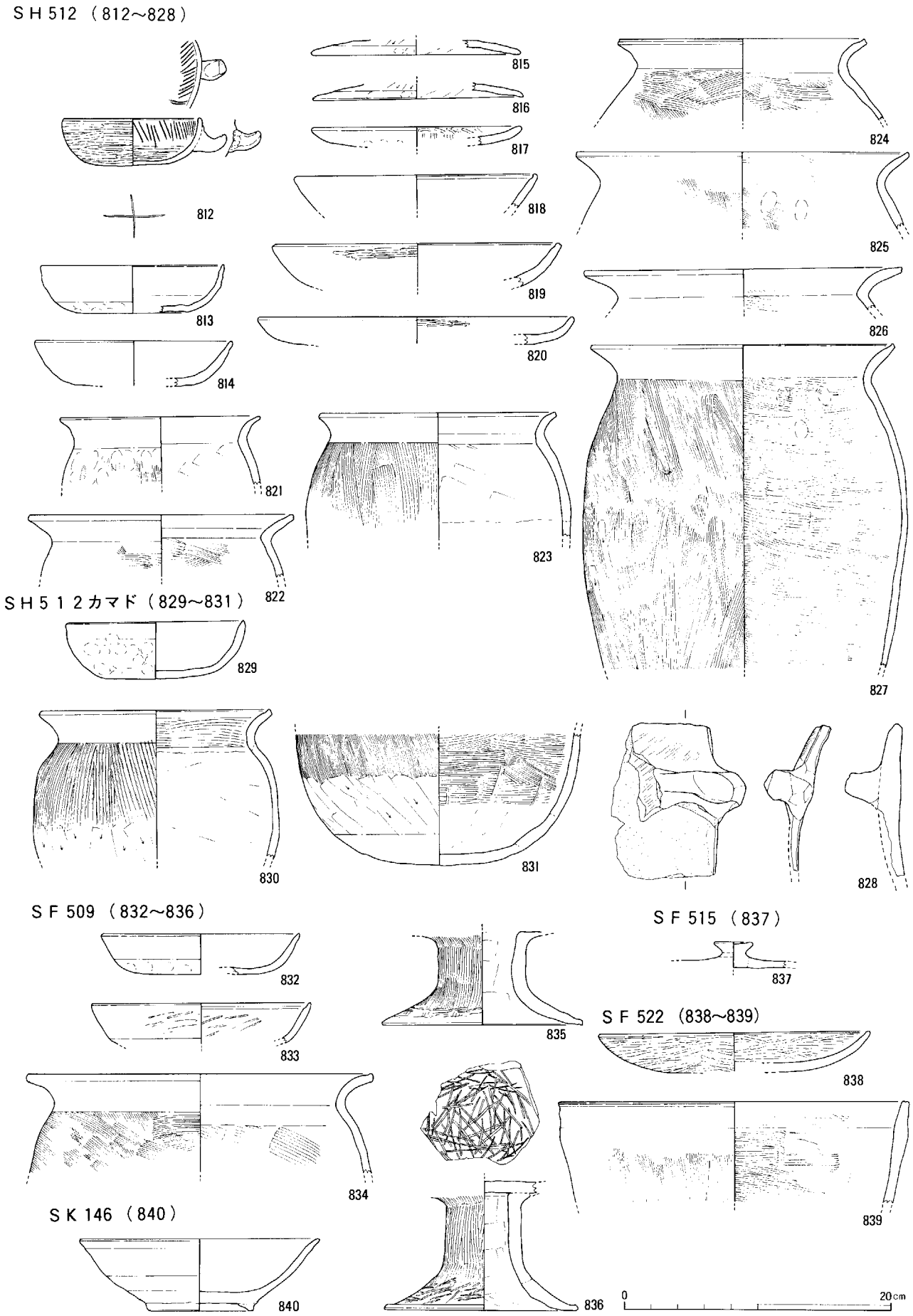
ＳＨ 521 （787～794）



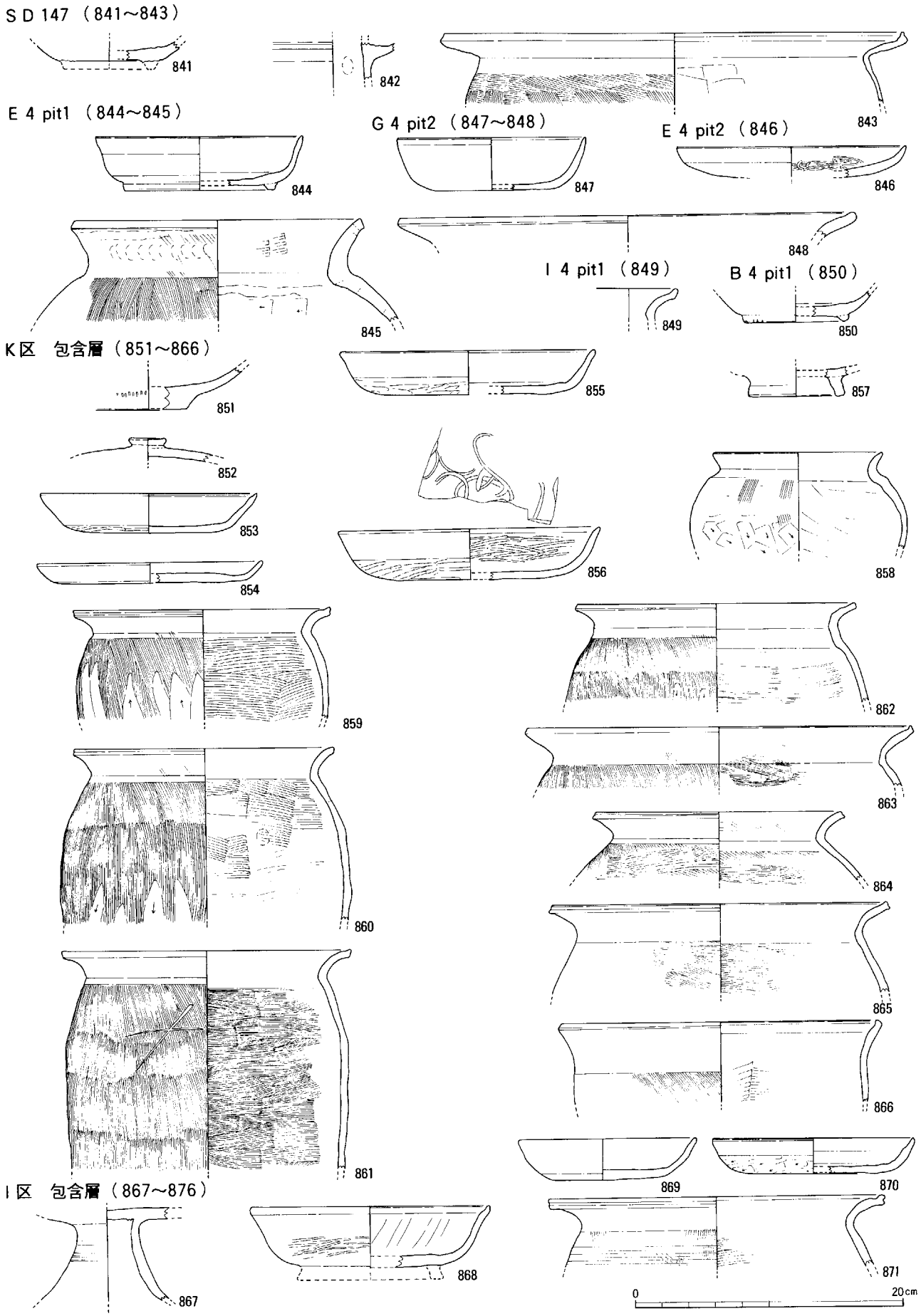
第87図　出土遺物実測図Ｉ・Ｋ区（2）（１：４）



第88図　出土遺物実測図Ｉ・Ｋ区（3）（1：4）



第89図　出土遺物実測図Ｉ・Ｋ区（4）（１：４）



第90図 出土遺物実測図Ⅰ・K区 (5) (1：4)

恵器甕片があり、若干古い様相のものも混じるが、飛鳥Ⅱ～Ⅲ併行期と考えてよいか。

SD149（第84図）　Ⅰ区北東隅よりのび、K区中央で途切れる。幅は2.2m、深さ1.4mで断面形はV字形に近い。途切れる部分は、第2次世界大戦中の建物の配水管に少々攪乱を受けてはいるが、ほぼ垂直に立ち上がる。その先に延長部は見られない。出土遺物(760～761)は溝の規模に比べ少なく、細片であるが土師器杯・甕が見られ、飛鳥Ⅱ～Ⅲ併行期と考えられる。

(3)　鎌倉時代

SD147（第84図）　K区北辺より南西方向に延びる溝である。幅は1.1m、深さ18～20cmで総延長12mを検出した。断面形は船底状を呈する。Ⅰ区で一旦途切れる。出土遺物(841～843)は土師器鍋・羽釜、陶器椀があり、伊藤編年[3]でいうところの第4段階併行期と考えられる。

4　出土遺物

調査区の大半が攪乱を受けていたにもかかわらず、多くの遺物が出土した。これについては、時期をおって特徴的なものを挙げて概観したい。

(1)　古墳時代前期(729～754)

ＳD501出土遺物のみである。751・752は広口壺頸部である。両方とも縦方向のミガキを施す。接合しないが、体部破片が多く見られる。台付甕(734～749)は破片を含めるとかなり多く見られた。頸部外側には仕上げの際に工具を用いて強いナデを施し、頸部内側には板状のケズリを施す。

(2)　奈良時代（755～839、844～849、851～874）

ＳＨ群、ＳＦ群、SD149からの出土で、この地区の主体となる。

ＳH502出土遺物(764～779)　769・770は内面に暗文が確認できる。甕771～773は丸底になると思われる。773は体部下半にハケ後板状工具でケズリを施す。777は体部最大部径が頸部近くになるものである。778は甑底部であるが、底桟が欠損している。779の土製品は獣脚になると思われる。

SH503出土遺物(795～811)　796はほぼ完形に復元できる鍋である。体部内面は板状工具によるナデ、外面はハケ後下半にケズリを施す。803～811はカマド及びカマド周辺からの出土遺物である。804はほぼ完形の甕である。体部内面はヨコ方向のハケ後下半にケズリ、外面はタテ方向のハケメ後ケズリを施す。口縁端部は面を持たせて仕上げる。

ＳH512出土遺物(812～831)　杯・杯蓋・皿・甕・移動式カマド等がある。812は内外面にミガキを施すが、片側にのみ把手をつける。

(3)　鎌倉時代(840～843、850、875)

ＳD147からの出土である。842は土師器羽釜である。843は土師器鍋で、南伊勢系土師器である。煤が体部外面に付着する。陶器椀はいわゆる山茶椀で藤沢編年[4]でいう第5型式併行期に属する。

(4)　その他

K区攪乱から出土した土馬1点がある(877)。手綱・面繋・尻繋・口は太い線刻で、たてがみは細い線刻で表現する。目・鼻は工具による刺突で表し、鞍橋は粘土を貼り付ける。脚部は欠損している。

5　まとめ

当区の特徴として、後述するG区とほぼ同時期の古墳時代前期の遺構が検出されたこと、奈良時代前半を中心とする時期の竪穴住居がまとまって検出されたことが挙げられる。

(1)　古墳時代前期の状況

古墳時代前期の遺構は溝1条のみであるが、ここまで前期に集落が営まれていたことを示す。後述するG区以外では古墳時代前期に属する遺構は見つかっていない。これはどう考えるべきであろうか。

当区で検出したSD501は、深さが25cmである。この溝は本来、もう少し深いものと考えると、後世の削平をかなり受けたと考えることができる。したがって、他地区に当該時期の遺構があったとしても削平されていると考えられる。

また、SD501の南側には、古墳時代前期に属する遺構がもともと営まれていなかったとも考えられる。SD501の北側での調査はG区のみである。他の調査区とG区の同時期と思われる古墳時代後期の竪穴住居の残存する深さを比較すると、ほぼ同じもしくは他調査区の竪穴住居のほうが深い。また、G区の古墳時代前期と古墳時代後期の竪穴住居の深さを比較すると、前期の竪穴住居のほうが深い。

前述したように、高茶屋台地の基盤である黄褐色土状にはいわゆる黒ボクが堆積し、古墳時代前期以

降の遺構についてはこの黒ボク上面から切り込んでいることは埋土から見ても確実である。しかし、調査にあたっては、遺構の見極めが困難であることから、ほぼどの調査区でも、基盤層である黄褐色土面で遺構の検出を行っている。他の調査区において、包含層から古墳時代前期の遺物の出土が皆無であることを考えると、K区において検出したSD501の南側においては、古墳時代前期の遺構は存在しない可能性が高いといえるのではないか。

(2) 飛鳥・奈良時代の状況

竪穴住居群について

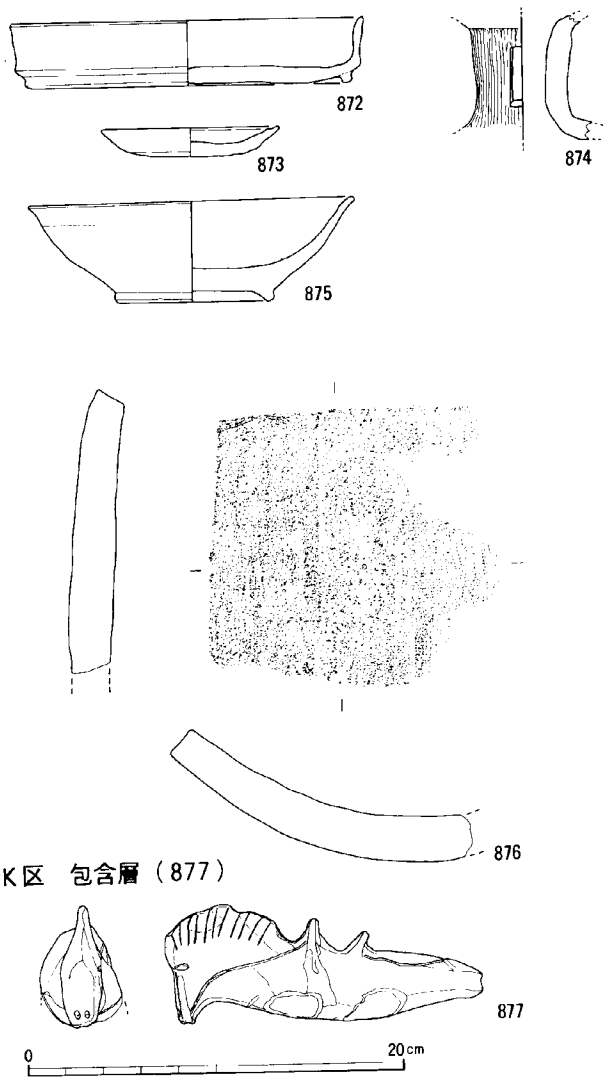
竪穴住居6棟中、詳細が判明する竪穴住居は4棟である。この4棟中、カマドの見られたものはSH503・512である。また、いずれにおいても、主柱穴と思われるピットは検出できなかった。カマドの有無についてはどう考えるべきであろうか。当地区の竪穴住居の面積は2.3～3.9㎡と古墳時代の竪穴住居に比して狭い。この広さでは、古墳時代の竪穴住居のように、食住空間兼用とは機能しないようである。このことから、カマドを持つ竪穴住居を「竈屋」、持たない竪穴住居を居住施設と考えることはできないだろうか。柱穴等が見られないため、上屋構造については不明である。

焼成土坑について

当地区で検出された焼成土坑については、残存する深さも浅いため、出土遺物は少なかった。F区にあるような土師器焼成坑とも考えられるが、当区でほぼ全容の分かる竪穴住居4棟中、カマド施設を持つものが2棟、残り2棟はカマドが見られなかったことは前述したが、この焼成土坑については、竪穴住居の屋外炉としての可能性も考えられる。

SD149について

前述したように、断面形がV字形を呈する溝で、K区内で途切れる。E区のSD10と組み合う可能性があるが、これらの溝はどのように機能していたのであろうか。SD149の北側で検出されたSH群はSD149よりも若干新しい。このことから飛鳥Ⅲ併行期の段階でSD149が埋没し始めるころ、SD149の北側に竪穴住居が構築され始めるといえる。SD10と組み合って区画溝としての性格を持つと考えた場合、SD149の南側が区画内部となる。出土土器から、飛鳥Ⅲ併行期までSD149が機能していたと考えられるが、区画内部には飛鳥Ⅲ併行期までの遺構は見られない。



第91図　出土遺物実測図Ⅰ・K区（6）（1：4）

(註)

① ここでは、古墳時代前期の年代は隣接する雲出島貫遺跡で良好な一括土器が出土し、それに基づく編年がなされているため、それに基づく。SD501出土の土器は島貫2期新相併行期と考えられる（伊藤裕偉・川崎志乃『嶋抜第1次調査』三重県埋蔵文化財センター 1999年）。

② 古代の土器研究会編『古代の土器1 都城の土器集成』1992年に基づく。

③ 伊藤裕偉「伊勢の中世煮沸用土器から東海を見る」（『鍋と甕そのデザイン』第4回東海考古学フォーラム 1996年）

④ 藤沢良祐ほか『尾呂』瀬戸市教育委員会　1990年

報告番号	登録番号	調査次数	地区名	種類	器種	出土遺構	口径(cm)	器高(cm)	その他(cm)	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考
729	002-08	4	K-B2	土師器	小型壺	SD501	–		–	外：ナデ－ヨコナデ 内：ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	浅黄橙 7.5YR8／3	細片	
730	003-04	4	K-B4	土師器	小型器台	SD501	9.7	–	–	外：ヨコナデ－ヘラミガキ 内：ヨコナデ－ヨコナデ、シボリ－ナデ－ハケメ	やや密	並	橙 7.5YR6／6	3／4	三方向に透孔 全体的に磨滅
731	003-05	4	K-B4	土師器	小型器台	SD501	–	–	接合部径 2.9	外：ヘラミガキ 内：ケズリ－ナデ	やや密	並	橙 7.5YR6／8	頸～脚部	三方向に透孔
732	002-06	4	K-B4	土師器	小型器台	SD501	–	–	接合部径 3.2	外：ヘラミガキ 内：工具ナデ－ナデ－ハケメ	やや密	並	にぶい橙 7.5YR7／4	頸～脚部	二方向に透孔
733	004-01	4	K-B4	土師器	壺	SD501	12.4	16.1以上	–	外：ヨコナデ－ヘラミガキ 内：工具ナデ－ヨコナデ－ヘラミガキ	やや密	並	橙 7.5YR6／6	1／3	
734	114-07	4	K-B1	土師器	台付壺	SD501	12.5	–	–	外：ハケメ－ヨコナデ 内：ナデ－ヨコナデ－ケズリ	やや粗	並	にぶい橙 7.5YR6／4	1／4	
735	001-01	4	K-B3	土師器	台付壺	SD501	12.0	–	–	外：タテ－ヨコハケ ヨコナデ 内：オサエナデ－ヨコナデ	やや粗	並	にぶい橙 7.5YR7／3	1／4	
736	001-06	4	K-B4	土師器	台付壺	SD501	13.6	–	–	外：タテ－ヨコハケ－ヨコナデ 内：オサエナデ－ヨコナデ－ケズリ	やや粗	並	淡橙 5YR8／4	細片	
737	004-03	4	K-B4	土師器	台付壺	SD501	14.4	–	–	外：タテ－ヨコハケ－ヨコナデ 内：ハケメ－オサエ－ヨコナデ－ナデ	やや粗	並	灰黄 2.5Y7／2	1／4	
738	001-04	4	K-B4	土師器	台付壺	SD501	15.3	–	–	外：タテ－ヨコハケ－ヨコナデ 内：オサエナデ－ヨコナデ－ケズリ	やや粗	並	にぶい黄橙 10YR7／3	1／2	
739	001-05	4	K-B4	土師器	台付壺	SD501	15.2	–	–	外：タテ－ヨコハケ－ヨコナデ 内：工具ナデ－ヨコナデ－ケズリ	やや粗	並	淡黄 2.5Y8／3	1／8	
740	001-02	4	K-B2	土師器	台付壺	SD501	16.2	–	–	外：タテ－ヨコハケ－ヨコナデ 内：オサエナデ－ヨコナデ	やや粗	並	淡黄 2.5Y8／3	1／4	
741	002-01	4	K-B4	土師器	台付壺	SD501	15.4	–	–	外：タテ－ヨコハケ－ヨコナデ 内：オサエナデ－ヨコナデ－ケズリ	粗	並	橙 5YR6／6	1／8	
742	002-04	4	K-A2	土師器	台付壺	SD501	17.0	–	–	外：タテ－ヨコハケ－ヨコナデ 内：オサエナデ－ヨコナデ－ケズリ	やや粗	並	明褐灰 7.5YR7／2	1／8	
743	002-03	4	K-B3	土師器	台付壺	SD501	19.0	–	–	外：タテハケ－ヨコナデ 内：オサエナデ ヨコナデ	やや粗	並	にぶい橙 5YR7／4	細片	
744	005-01	4	K-B4	土師器	台付壺	SD501	18.8	–	–	外：タテ－ヨコハケ－ヨコナデ 内：オサエナデ－ヨコナデ	やや粗	並	灰黄褐 10YR4／2	1／6	
745	004-04	4	K-B4	土師器	台付壺	SD501	–	–	接合部径 3.8	外：タテハケ 内：ハケメ、ナデ	やや粗	並	にぶい黄橙 10YR6／3	接合部完存	
746	003-03	4	K-A-B2	土師器	台付壺	SD501	–	–	底径 9.8	外：ナデ－ハケ 内：オサエ・ナデ	やや粗	並	灰オリーブ 5Y6／2	1／4	
747	002-05	4	K-B3	土師器	台付壺	SD501 上層	–	–	底径 10.6	外：ナデ－ハケ 内：オサエ・ナデ	やや密	並	にぶい橙 10YR7／3	1／2	
748	003-02	4	K-B4	土師器	台付壺	SD501	–	–	底径 10.6	外：ナデ－ハケ 内：オサエ・ナデ	やや粗	並	にぶい橙 10YR7／3	1／2	
749	003-01	4	K-A3	土師器	台付壺	SD501 上層	–	–	底径 10.4	外：ナデ－ハケ 内：オサエ・ナデ	やや粗	並	にぶい黄橙 10YR6／4	ほぼ完存	
750	003-06	4	K-B3	土師器	広口壺	SD501 上層	–	–	–	外：櫛描文－ヘラミガキ 内：オサエ・ナデ	粗	並	明赤褐 5YR5／6	体部 1／8	
751	034-02	4	K-A3	土師器	広口壺	SD501	17.2	–	–	外：ヨコナデ－ヘラミガキ 内：ヨコナデ－ヘラミガキ	やや粗	並	にぶい黄橙 10YR7／3	1／7	
752	156-02	4	K-B4	土師器	広口壺	SD501	19.8	–	–	外：ヨコナデ－ヘラミガキ 内：オサエ、ナデ－ヨコナデ－工具ナデ	やや粗	並	橙 5YR7／6	1／3	歪み大
753	004-02	4	K-B4	土師器	広口壺	SD501	–	–	底径 8.4	外：ナデ－ハケ 内：ナデ	やや粗	並	橙 2.5YR7／6	1／2	
754	156-01	4	K-B4	土師器	広口壺	SD501	–	–	底径 4.2	外：ヘラミガキ ケズリ 内：工具ナデ	粗	並	橙 7.5YR7／6	ほぼ完存	７５２と同一個体か
755	171-01	3	I-B4	土師器	皿	SK144	22.0	2.2	–	外：ヨコナデ－ヘラミガキ 内：ヨコナデ ヘラミガキ	やや密	並	にぶい褐 7.5YR5／3	1／5	
756	171-03	3	I-B4	土師器	高杯	SK144	–	–	底径 14.5	外：ハケメ－ヨコナデ－ヘラミガキ 内：ナデ－ヨコナデ	やや密	並	橙 5YR6／6	1／5	
757	170-05	3	I-B4	土師器	壺	SK144	18.8	–	–	外：ハケメ－ヨコナデ 内：ナデ ヨコナデ	やや粗	並	にぶい橙 7.5YR7／4	1／4	
758	171-02	3	I-B4	土師器	壺	SK144	23.2	–	–	外：ハケメ－ヨコナデ 内：ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	にぶい橙 7.5YR6／4	1／7	
759	171-03	3	I-B4	須恵器	器台	SK144	–	–	–	外：回転ナデ－波状文・凹線 内：回転ナデ	やや密	並	灰白 5Y7／1	細片	
760	015-07	4	K-C1-2	土師器	杯	SD149	–	–	–	外：ヨコナデ－ヘラミガキ 内：ヨコナデ－ヘラミガキ	密	良	明赤褐 5YR5／8	細片	
761	197-04	3	I-B4	土師器	壺	SD149	25.4	–	–	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	やや粗	良	にぶい黄橙 10YR7／4	1／6	
762	017-06	4	K-I3	土師器	壺	SK518	–	–	–	外：ヨコナデ 内：ハケメ－ヨコナデ	やや粗	並	灰褐 7.5YR5／2	細片	
763	017-05	4	K-I4	土師器	壺	SK518	–	–	–	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	やや粗	並	橙 5YR6／6	細片	
764	007-04	4	K-C4	土師器	杯	SH502	9.0	1.8	–	外：オサエ－ナデ－ヨコナデ 内：ナデ－ヨコナデ	密	良	にぶい黄橙 10YR6／4	1／4	
765	007-01	4	K-C3-4	土師器	杯	SH502	13.8	4.1	–	外：オサエ－ナデ－ヨコナデ 内：ナデ－ヨコナデ	やや粗	良	橙 5YR7／6	1／4	
766	009-04	4	K-C4	土師器	杯	SH502	13.9	–	–	外：ナデ－ヨコナデ 内：ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	にぶい赤褐 5YR5／3・4	1／8	
767	010-02	4	K-C3	土師器	杯	SH502	15.4	–	–	外：ナデ－ヨコナデ 内：ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	にぶい赤褐 5YR5／3・4	1／3	
768	009-03	4	K-C3	土師器	杯	SH502	15.5	4.0	–	外：ヨコナデ－ヘラミガキ 内：ナデ－ヨコナデ	やや密	並	浅黄橙 5YR8／4	口縁部 1／8	
769	008-04	4	K-C4	土師器	杯	SH502	16.0	–	–	外：ヨコナデ－ヘラミガキ 内：ナデ－暗文－ヨコナデ	やや密	並	橙 5YR6・7／6	1／4	暗文あり
770	007-03	4	K-C4	土師器	皿	SH502	18.1	1.9	–	外：ナデ－ヨコナデ 内：ナデ－暗文－ヨコナデ	密	良	橙 5YR6／6	1／4	暗文あり
771	007-02	4	K-C3-4	土師器	壺	SH502	14.0	–	–	外：ハケメ－ヨコナデ 内：ハケメ－ヨコナデ	やや密	良	にぶい黄橙 10YR4／3	1／4	
772	008-03	4	K-C4	土師器	壺	SH502	16.6	–	–	外：ハケメ－ヨコナデ 内：ハケメ－ヨコナデ	やや粗	並	灰褐 7.5YR5／2	1／5	
773	008-01	4	K-C4	土師器	壺	SH502	22.4	–	–	外：ハケメ－ヨコナデ ケズリ 内：工具ナデ－ヨコナデ	粗	並	にぶい黄橙 10YR7／4	1／4	
774	010-01	4	K-C4	土師器	壺	SH502	23.8	–	–	外：ハケメ－ヨコナデ 内：ハケメ－ヨコナデ	粗	並	にぶい橙 7.5YR7／4	1／7	
775	008-02	4	K-C4	土師器	壺	SH502	23.6	–	–	外：ハケメ－ヨコナデ 内：ハケメ－ヨコナデ	粗	並	にぶい橙 5YR6／4	1／8	
776	006-01	4	K-C4	土師器	壺	SH502 カマド	23.2			外：ハケメ－ヨコナデ 内：ハケメ－ヨコナデ	やや粗	良	橙 7.5YR6／6	口縁部 ほぼ完形	
777	009-01	4	K-C4	土師器	壺	SH502 カマド	23.4	–	–	外：ハケメ－ヨコナデ ケズリ 内：オサエ－ハケメ－ナデ	やや粗	並	にぶい橙 5YR7／4	1／6	
778	010-03	4	K-C3	土師器	甕	SH502	–	–	底径 10.1	外：ハケメ－ナデ 内：オサエ－工具ナデ	やや粗	並	橙 5YR6／6	1／6	
779	010-04	4	K-C3	土製品	獣脚	SH502	–	–	残存長 3.6	オサエ・ナデ	やや粗	並	にぶい橙 5YR7／4	完形	
780	015-01	4	K-C3	土師器	杯	SH504 焼土内	17.0	–	–	外：ヨコナデ－ヘラミガキ 内：ヨコナデ－ヘラミガキ	密	並	橙 5YR6／6	1／6	暗文あり
781	015-05	4	K-C3	土師器	杯	SH504 上層	20.2	–	–	外：ヨコナデ－ヘラミガキ 内：ヨコナデ－ヘラミガキ	密	並	にぶい黄橙 10YR7／4	1／9	
782	015-06	4	K-C3	土師器	甕？把手	SH504	–	–	–	オサエ・ナデ－ハケメ	やや粗	並	灰黄褐 10YR5／2	把手のみ 完形	
783	015-07	4	K-C3	土師器	壺	SH504 北壁周溝	–	–	–	外：ハケメ－ヨコナデ 内：ハケメ－ヨコナデ	粗	並	にぶい黄橙 10YR6／4	細片	
784	015-03	4	K-C3	土師器	壺	SH504	19.4	–	–	外：ハケメ－ヨコナデ 内：オサエ－ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	にぶい橙 7.5YR6／4	1／7	黒斑あり

第14表　出土遺物観察表Ｉ・Ｋ区(1)

報告番号	登録番号	調査次数	地区名	種類	器種	出土遺構	口径(cm)	器高(cm)	その他(cm)	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考
785	015-04	4	K-C3	土師器	壺	SH504 上層	28.2	－	－	外：ハケメ－ヨコナデ 内：ハケメ－ヨコナデ	やや粗	並	にぶい橙 7.5YR7／4	1／10	
786	015-03	4	K-B4	土師器	甕	SH506	21.6			外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	密	良	浅黄橙 10YR8／4	1／10	
787	026-07	4	K-B5	土師器	杯	SH521	－	－	－	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	やや密	並	浅黄橙 7.5YR8／3	細片	
788	026-06	4	K-B5	土師器	杯	SH521	－			外：ナデ ケズリ ヨコナデ 内：ヨコナデ	やや密	並	浅黄橙 10YR8／3	細片	
789	026-01	4	K-B5	土師器	杯	SH521	17.6	3.4	－	外：オサエ・ナデ－ヨコナデ 内：ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	橙 5YR6／6	1／4	
790	026-02	4	K-B5	土師器	杯	SH521	19.0			外：ハケメ ヨコナデ ヘラミガキ 内：ヨコナデ－ヘラミガキ	やや密	並	橙 5YR6／6	1／7	
791	027-05	4	K-B5	土師器	壺	SH521	－	－	－	外：ハケメ－ヨコナデ 内：ヨコナデ	やや密	並	にぶい褐 7.5YR5／3	細片	
792	027-04	4	K-B5	須恵器	壺	SH521	16.6			外：回転ナデ 内：回転ナデ	やや密	良	灰白 N7／0	1／4	
793	027-02	4	K-B5	土師器	甕	SH521	20.8	－	－	外：ハケメ－ヨコナデ 内：ハケメ－ヨコナデ	やや粗	並	灰黄褐 10YR5／2	1／8	
794	027-03	4	K-B5	土師器	甑	SH521				外：ハケメ－ナデ 内：ハケメ－ナデ	やや粗	並	にぶい黄橙 10YR6／4	細片	
795	013-04	4	K-B4	土師器	杯	SH503	16.0	－	－	外：ナデ－ヨコナデ 内：ヨコナデ	やや粗	並	にぶい黄橙 10YR7／4	1／6	
796	035-01	4	K-B4	土師器	甕	SH503	23.0	13.3	－	外：ハケメ－ケズリ－ヨコナデ 内：工具ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	にぶい橙 7.5YR7／4	1／4	
797	014-01	4	K-B4	土師器	甕	SH503	23.0	－	－	外：ハケメ－ヨコナデ 内：ハケメ－ヨコナデ	やや粗	良	浅黄橙 10YR8／3	1／6	
798	013-05	4	K-B4	土師器	甕	SH503	24.0	－	－	外：ハケメ－ヨコナデ 内：ハケメ－ヨコナデ	やや粗	良	にぶい黄橙 10YR7／4	1／8	
799	013-06	4	K-B4	土師器	甕	SH503	23.0	－	－	外：ハケメ－ヨコナデ 内：ナデ－ヨコナデ	やや密	良	浅黄橙 10YR8／4	1／8	
800	013-07	4	K-B4	土師器	甕	SH503	26.2	－	－	外：ハケメ－ヨコナデ 内：ヨコナデ	やや密	良	にぶい黄橙 10YR7／4	1／12	
801	014-02	4	K-B4	土師器	甕	SH503	25.0	－	－	外：ハケメ－ヨコナデ 内：工具ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	浅黄橙 7.5YR8／4	1／6	
802	025-03	4	K-B4	土師器	甕	SH503 (pit3)	14.0			外：ハケメ ヨコナデ 内：ヨコナデ	やや密	良	にぶい赤褐 5YR5／4	1／6	
803	011-01	4	K-B4	須恵器	長頸壺	SH503 カマド	－	－	体部最大部径 18.2	外：回転ナデ－回転ヘラケズリ－タタキ 内：回転ナデ	やや粗	並	灰 N6／0	2／3	
804	014-03	4	K-B4	土師器	甕	SH503 カマド中央	16.8	17.0		外：ハケメ ケズリ、ヨコナデ 内：ハケメ－ケズリ、ヨコナデ	やや密	良	にぶい黄橙 10YR7／4	2／3	全体に焼土付着 強い被熱痕あり
805	012-01	4	K-B4	土師器	甕	SH503 カマド前部	22.2	－	－	外：ハケメ－ケズリ、ヨコナデ 内：ナデ－ヨコナデ－ハケメ	やや粗	並	にぶい橙 7.5YR7／4	1／4	
806	012-02	4	K-B4	土師器	長胴甕	SH503 カマド前部	22.0	－	－	外：ハケメ－ヨコナデ ナデ 内：工具ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	浅黄橙 7.5YR8／3	1／4	口縁部、被熱のため赤変
807	011-02	4	K-A4	土師器	長胴甕	SH503 カマド煙道	21.6	－	－	外：ハケメ－ヨコナデ 内：ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	にぶい黄橙 10YR7／3	1／6	
808	006-02	4	K-B4	土師器	長胴甕	SH503 カマド	24.0	－	－	外：ハケメ－ヨコナデ 内：工具ナデ?－ヨコナデ	やや粗	良	にぶい橙 7.5YR6／4	1／4	内面は磨滅著しい
809	011-03	4	K-B4	土師器	長胴甕	SH503 カマド右袖	24.6	－	－	外：ハケメ－ヨコナデ 内：工具ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	にぶい黄橙 10YR7／3	1／7	
810	038-01	4	K-B4	土師器	長胴甕	SH503 カマド右袖	24.2	－	－	外：ハケメ－ヨコナデ ナデ 内：工具ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	にぶい黄橙 10YR7／4	1／2	
811	036-01	4	K-B4	土師器	長胴甕	SH503 カマド	24.6	36.5 (推定)	－	外：ハケメ－ヨコナデ 内：ハケメ、ナデ－ケズリ、工具ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	にぶい黄橙 10YR7／3	1／4	カマド支脚
812	021-04	4	K-I3	土師器	把手付杯	SH512	10.3	3.5	－	外：ヨコナデ－ヘラミガキ 内：ヨコナデ ヘラミガキ (把手)ナデ	やや密	並	橙 5YR6／6	口縁部 1／8欠損	底部にヘラ記号（十字）、墨文あり
813	019-05	4	K-P1～3	土師器	杯	SH512	13.8	3.6	－	外：オサエ－ナデ－ヨコナデ 内：ナデ－ヨコナデ	やや粗	良	にぶい黄橙 10YR6／4	1／5	
814	018-03	4	K-I3	土師器	杯	SH512	14.8	－	－	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	やや密	良	橙 5YR6／6	1／8	
815	019-01	4	K-I3	土師器	杯蓋	SH512	15.8	－	－	外：ケズリ－オサエ－ヨコナデ 内：工具ナデ－ヨコナデ	密	良	橙 5YR6／6	1／8	
816	018-05	4	K-I3	土師器	杯蓋	SH512	15.8	－	－	外：ケズリ オサエ ヨコナデ 内：工具ナデ－ヨコナデ	密	良	橙 5YR6／6	1／6	
817	018-04	4	K-I3	土師器	杯	SH512	15.8	－	－	外：オサエ－ナデ－ヨコナデ 内：ヨコナデ－ヘラミガキ	密	良	橙 5YR6／8	1／8	
818	019-02	4	K-I3	土師器	杯	SH512	16.3	－	－	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	やや粗	良	橙 5YR6／6	1／5	
819	019-04	4	K-H3	土師器	杯	SH512	21.8	－	－	外：ヨコナデ－ヘラミガキ 内：ヨコナデ	ほぼ密	良	にぶい黄橙 10YR7／4	1／8	
820	019-03	4	K-H3	土師器	杯	SH512	24.0	－	－	外：ハケメ?－ヨコナデ 内：ヨコナデ－ヘラミガキ	ほぼ密	良	橙 5YR6／6	1／8	磨滅
821	021-02	4	K-H3	土師器	壺	SH512	15.1	－	－	外：ハケメ－オサエ－ナデ－ヨコナデ 内：ケズリ－ヨコナデ	やや粗	並	淡赤褐 2.5Y7／4	1／6	
822	020-01	4	K-H3	土師器	壺	SH512	26.1	－	－	外：ハケメ－ヨコナデ 内：ハケメ－ヨコナデ	やや粗	良	にぶい黄橙 10YR6／4	1／8	黒斑あり（口縁～）
823	021-05	4	K-I3	土師器	壺	SH512	18.0	－	－	外：ハケメ－ヨコナデ 内：工具ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	灰褐 7.5YR4／1	1／8	
824	021-03	4	K-H3	土師器	壺	SH512	16.8	－	－	外：ハケメ－ヨコナデ 内：ハケメ－ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	にぶい橙 7.5YR7／4	1／8	
825	135-01	4	K-H3	土師器	壺	SH512	25.2	－	－	外：ハケメ－ヨコナデ 内：オサエ－ハケメ－ヨコナデ	やや密	並	にぶい橙 10YR7／3	1／9	
826	018-02	4	K-I3	土師器	壺	SH512	24.0	－	－	外：ヨコナデ 内：ハケメ－ヨコナデ	やや粗	良	にぶい黄橙 10YR6／4	1／8	
827	037-01	4	K-H3	土師器	壺	SH512	21.9	－	－	外：ハケメ－ケズリ、ヨコナデ 内：オサエ－ハケメ－ヨコナデ	やや粗	並	にぶい黄橙 10YR7／2	1／4欠損	少々歪む
828	023-01	4	K-I3	土師器	移動式カマド	SH512	－	－		外：ハケメ、オサエ、ナデ 内：ナデ	やや粗	並	にぶい黄橙 10YR7／3	細片	
829	021-01	4	K-I3	土師器	杯	SH512 カマド	13.4	4.1	－	外：オサエ－ナデ－ヨコナデ 内：ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	にぶい黄橙 10YR7／4	口縁部 1／4欠損	
830	022-01	4	K-B4・H3	土師器	壺	SH503 カマド SH512	18.4	－	－	外：ハケメ－ケズリ－ヨコナデ 内：工具ナデ－ハケメ－ヨコナデ	やや粗	並	にぶい褐 7.5YR5／4	1／3	別遺構で接合
831	018-01	4	K-I3	土師器	壺	SH512 カマド	－	－	最大部径 19.0	外：ハケメ－ケズリ－ナデ 内：ナデ－ハケメ	やや粗	良	橙 7.5YR6／6	1／4	底部の一部が剥離
832	016-04	4	K-C1	土師器	杯	SF509	15.0	3.0	－	外：オサエ－ナデ－ヨコナデ 内：ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	にぶい黄褐 10YR5／3	1／5	
833	016-05	4	K-C3	土師器	杯	SF509	16.5	－	－	外：ヨコナデ－ヘラミガキ 内：ヨコナデ－ヘラミガキ	やや密	並	橙 7.5YR7／6	1／9	
834	016-01	4	K-C3	土師器	壺	SF509	26.2	－	－	外：ハケメ－ヨコナデ 内：ハケメ－ヨコナデ	やや粗	並	灰褐 7.5YR6／2	1／5	
835	016-03	4	K-C1	土師器	高杯	SF509		－	底径 15.2	外：ハケメ－ヨコ方向ナデ－ヘラミガキ 内：工具ナデ－ヨコ方向ナデ	やや密	並	明赤褐 5YR5／6	1／10	杯部との接合部にヘラで線刻
836	016-02	4	K-C1	土師器	高杯	SF509	－	－	底径 15.0	外：ハケメ－ヨコ方向ナデ－ヘラミガキ 内：工具ナデ－ヨコ方向ナデ	やや密	並	橙 5YR6／6	1／5	杯部との接合部にヘラで線刻
837	016-06	4	K-C2	土師器	杯蓋	SF515		－	つまみ径 3.0	外：ナデ－貼り付け後ナデ 内：ヘラミガキ	やや密	並	にぶい橙 5YR7／4	つまみ部完形	
838	026-04	4	K-B5	土師器	杯	SF522	20.6	－	－	外：ヨコナデ－ヘラミガキ 内：ヨコナデ－ヘラミガキ	密	並	橙 5YR6／6	1／6	
839	027-01	4	K-B5	土師器	甑	SF522	26.4	－	－	外：ハケメ－ナデ、オサエ 内：ハケメ－ナデ	やや粗	並	にぶい黄橙 10YR6／4	細片	
840	196-01	3	Ga-C5	陶器	碗	SK146	18.0	5.3	高台径 7.9	外：ロクロナデ－糸切り－高台貼り付け後ナデ 内：ロクロナデ	やや密	良	灰白 2.5Y8／2	完形	

第15表　出土遺物観察表Ⅰ・K区(2)

報告番号	登録番号	調査次数	地区名	種類	器種	出土遺構	口径(cm)	器高(cm)	その他(cm)	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考
841	017-02	4	K-B2	陶器	椀	SD147		-	底径 7.4	外：回転ナデ－糸切り－高台貼り付け後ナデ 内：回転ナデ	やや密	良	灰黄 2.5YR7／2	1／8	
842	017-03	4	K-A2	土師器	羽釜	SD147	－	－	－	外：ヨコナデ 内：オサエ、ナデ	粗	良	にぶい黄橙 10YR7／4	細片	
843	017-01	4	K-B2	土師器	鍋	SD147	34.8	-	－	外：ハケメ－ヨコナデ－ナデ 内：ケズリ－ヨコナデ	やや密	良	にぶい橙 7.5YR7／4	1／12	外面（口縁～）に煤付着 南伊勢系
844	024-02	4	K-E4	須恵器	杯	pit1	15.7	4.0	高台径 11.4	外：回転ナデ－切り離し後回転ヘラケズリ－貼り付け後ナデ 内：回転ナデ	やや粗	並	灰黄 2.5YR6／2	1／3	
845	025-01	4	K-E4	土師器	壺	pit1	22.2	-	－	外：ハケメ－オサエ－ヨコナデ 内：工具ナデ－ハケメ－ヨコナデ	やや粗	並	にぶい黄橙 10YR6／4	3／8	
846	024-04	4	K-E4	土師器	杯	pit2	17.4	－	－	外：ナデ－ヨコナデ 内：ヨコナデ－ヘラミガキ	密	並	橙 5YR6／8	1／6	
847	024-01	4	K-G4	土師器	杯	pit2	14.2	3.9	－	外：ナデ－ヨコナデ 内：ヨコナデ	やや粗	並	浅黄橙 10YR8／3	1／4	
848	025-02	4	K-G4	土師器	甕	pit2	34.6	－	－	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	やや密	並	浅黄橙 10YR8／3	1／6	
849	025-04	4	K-I4	土師器	壺	pit1	－	－	－	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	やや粗	並	浅黄 2.5Y7／3	細片	
850	024-03	4	K-B4	陶器	椀	pit1	－	－	高台径 7.8	外：ロクロナデ－糸切り－高台貼り付け後ナデ 内：ロクロナデ	やや密	並	灰黄 2.5YR7／2	3／8	初般煤あり
851	034-05	4	X-D	土師器	甕	包含層	－	－	－	外：ナデ、工具痕 内：ナデ	やや密	並	にぶい黄橙 10YR7／3	1／6	
852	034-01	4	K-I3	土師器	杯蓋	包含層	－	－	つまみ径 2.7	外：ナデ－貼り付け後ナデ 内：ナデ	やや密	並	橙 7.5YR7／6	つまみ部完形	
853	031-02	4	K-C2	土師器	杯	包含層	16.2	2.9	-	外：ヨコナデ ヘラミガキ 内：ナデ－ヨコナデ	やや密	並	にぶい橙 5YR7／4	1／4	底部外面に黒斑あり
854	031-04	4	K-C1	土師器	皿	包含層	17.0	1.5	－	外：オサエ、ナデ－ヨコナデ 内：ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	にぶい橙 5YR7／4	1／6	
855	031-03	4	K-B1	土師器	杯	包含層	19.2	3.3	－	外：ケズリ－ヨコナデ・ヘラミガキ 内：ナデ－ヨコナデ	やや密	並	橙 5YR6／6	1／5	
856	031-01	4	K-B1	土師器	杯	包含層	19.8	3.8	－	外：ヨコナデ－ヘラミガキ 内：ヨコナデ－ヘラミガキ	やや密	並	にぶい橙 7.5YR7／4	1／4	暗文あり
857	034-04	4	K-B1	土師器	杯	包含層		-	高台径 7.2	外：貼り付け後ナデ 内：ナデ	やや密	並	橙 5YR7／6	1／5	
858	032-03	4	K-B1	土師器	壺	包含層	12.8	－	－	外：ハケメ－ケズリ－ヨコナデ 内：工具ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	にぶい黄橙 10YR7／3	3／4	
859	028-01	4	K-B1	土師器	壺	包含層	19.4	－	－	外：ハケメ・ケズリ－ヨコナデ 内：ハケメ－ヨコナデ	やや粗	良	橙 7.5YR6／6	1／4	
860	030-03	4	K-C1	土師器	壺	包含層	19.6	－	－	外：ハケメ－ケズリ－ヨコナデ 内：オサエ－ハケメ－ヨコナデ	やや粗	良	にぶい褐 7.5YR5／4	1／12	
861	029-04	4	K-C2	土師器	壺	包含層	21.8	－	－	外：ハケメ－ヨコナデ 内：ハケメ－ヨコナデ	やや粗	良	にぶい褐 7.5YR5／4	1／12	ヘラ記号あり
862	029-02	4	K-C1	土師器	壺	包含層	21.2	－	－	外：ハケメ－ケズリ－ヨコナデ 内：ハケメ－ヨコナデ	やや粗	良	橙 7.5YR6／6	1／12	
863	023-04	4	K-B2	土師器	壺	包含層	29.4	－	－	外：ハケメ－ヨコナデ 内：ハケメ－ヨコナデ	やや粗	良	橙 7.5YR6／6	1／12	
864	029-03	4	K-C1	土師器	壺	包含層	19.0	－	－	外：ハケメ－ヨコナデ 内：ハケメ－ヨコナデ	やや粗	良	にぶい黄橙 10YR6／4	1／5	
865	030-02	4	K-C1	土師器	壺	包含層	25.6	－	－	外：ハケメ－ヨコナデ 内：ハケメ－ヨコナデ	やや粗	良	橙 7.5YR6／6	1／6	
866	033-03	4	K-C1	土師器	甑	包含層	24.3	－	－	外：ハケメ－ヨコナデ 内：ハケメ－ヨコナデ	やや粗	並	暗灰黄 2.5Y5／2	1／8	
867	179-04	3	Ia-G2	須恵器	高杯	包含層	－	－	接合部径 9.0	外：回転ナデ 内：回転ナデ	やや密	並	灰白 5Y7／2	1／2	杯底はヘラ切り離し後不調整
868	170-02	3	Ia-B4	土師器	杯	包含層	18.2	－	－	外：ヨコナデ－貼り付け後ヨコナデ－ヘラミガキ 内：ナデ－ヨコナデ－ヘラミガキ	やや密	並	褐 7.5YR4／3	1／7	暗文あり
869	196-02	3	Ia-B4	土師器	杯	包含層	14.0	3.1	－	外：ヨコナデ－工具ナデツケ 内：ナデ－ヨコナデ	やや粗	良	橙 7.5YR6／6	ほぼ完形	歪みあり
870	170-03	3	Ia-B4	土師器	杯	包含層	15.2	2.6	－	外：ナデ－ケズリ－ヨコナデ 内：ナデ－ヨコナデ	やや密	並	にぶい橙 5YR6／4	1／4	
871	197-03	3	Ia-G2	土師器	壺	包含層	25.2	－	－	外：ハケメ－ヨコナデ 内：ハケメ－ヨコナデ	やや密	良	にぶい黄褐 10YR5／3	1／6	
872	170-01	3	Ia-G2	須恵器	高台付杯	包含層	19.0	3.5	高台径 17.4	外：回転ナデ－切り離し後ナデ－貼り付けナデ 内：回転ナデ－ナデ	やや密	並	灰オリ ブ 5Y6／2	1／3	
873	196-04	3	Ia-C5	土師器	小皿	包含層	9.4	1.5	－	外：ナデ－ヨコナデ 内：ナデ－ヨコナデ	やや粗	良	浅黄橙 10YR8／3	ほぼ完形	
874	196-05	3	Ia	土師器	高杯	包含層	－	－	接合部径 3.6	外：ヘラミガキ 内：ナデ	やや密	良	橙 7.5YR6／6	脚部 1／3欠損	二方向に透孔
875	196-03	3	Ia-C5	陶器	椀	包含層	17.4	5.3	高台径 8.6	外：ロクロナデ－糸切り後ナデ－高台貼り付け後ナデ 内：ロクロナデ	やや粗	良	灰黄 2.5Y7／2	ほぼ完形	
876	198-01	3	Ia	瓦	平瓦	包含層	－	－	－	布圧痕	密	良	にぶい黄橙 10YR7／3	2／3	
877	179-01	4	K	土製品	土鈴	包含層	－	－	全長 18.0	オサエ・ナデ－線刻	やや密	良	浅黄橙 10YR8／3	脚部以外ほぼ完形	

【 凡例 】

1 「報告番号」は、当報告書で記載した番号であり、図版と対応する。
2 「登録番号」は、実測番号と対応する。
3 「調査次数」の「3」は第3次調査を、「4」は第4次調査を表す。
4 「地区名」は、調査区－小地区で示す。
5 「種類」・「器種名」は、出土遺物の見た目で判断している。
6 「出土遺構」は、その遺物の出土した遺構名を略記号と数字で示している。
7 「出土遺物の法量」のうち「その他」は、計測した部位を明示し、その数値を記入した。なお、「－」は計測不能を示す。
8 「調整・技法の特徴」は、出土遺物の外面・内面それぞれについて可能な限り調整の施された順序で示すよう努めた。「－」はその調整の順を、「・」はほぼ同時に行った調整を示す。
9 「胎土」は、観察により「密」・「やや密」・「粗」・「やや粗」で表現した。
10 「焼成」は、観察により「良」・「並」・「やや軟質」・「軟質」・「やや不良」・「不良」で表現した。
11 「色調」は、その遺物の大半を占める色を示している。なお、色名は農林水産技術会議事務局監修『新版標準土色帖』（1997年版）に拠った。
12 「残存度」は、特に明記する場合を除き、基本的に図で示した部分の残存状況を示した。但し、残存する部分が多い場合は、「○／○欠損」と欠損の度合いを示した。
13 「備考」については、上記の項目で表すことのできない特徴等を示した。

第16表 出土遺物観察表Ⅰ・K区(3)

Ⅵ G区の調査成果

1　はじめに

厚生施設建設、看護婦寮建設に伴う調査である。これらの建物に伴う付属施設の立会の調査成果も併せてここで述べることとする。

第３次調査では西部1,200㎡を、第４次調査では東部1,600㎡を対象とした。

2　基本層序

戦時中から現代の遺物を包含する礫混じり土（第１層）、黒褐色土（第２層）、古墳時代から中世までの遺物を包含する黄褐色土ブロックを含む黒褐色土（第３層）、そしてこの高茶屋台地の基盤となる明黄褐色土（第４層）である。

遺構は第２層から切り込んでいると思われるが、遺構埋土との判別が困難であるため、第４層上面を遺構検出面として調査を行った。

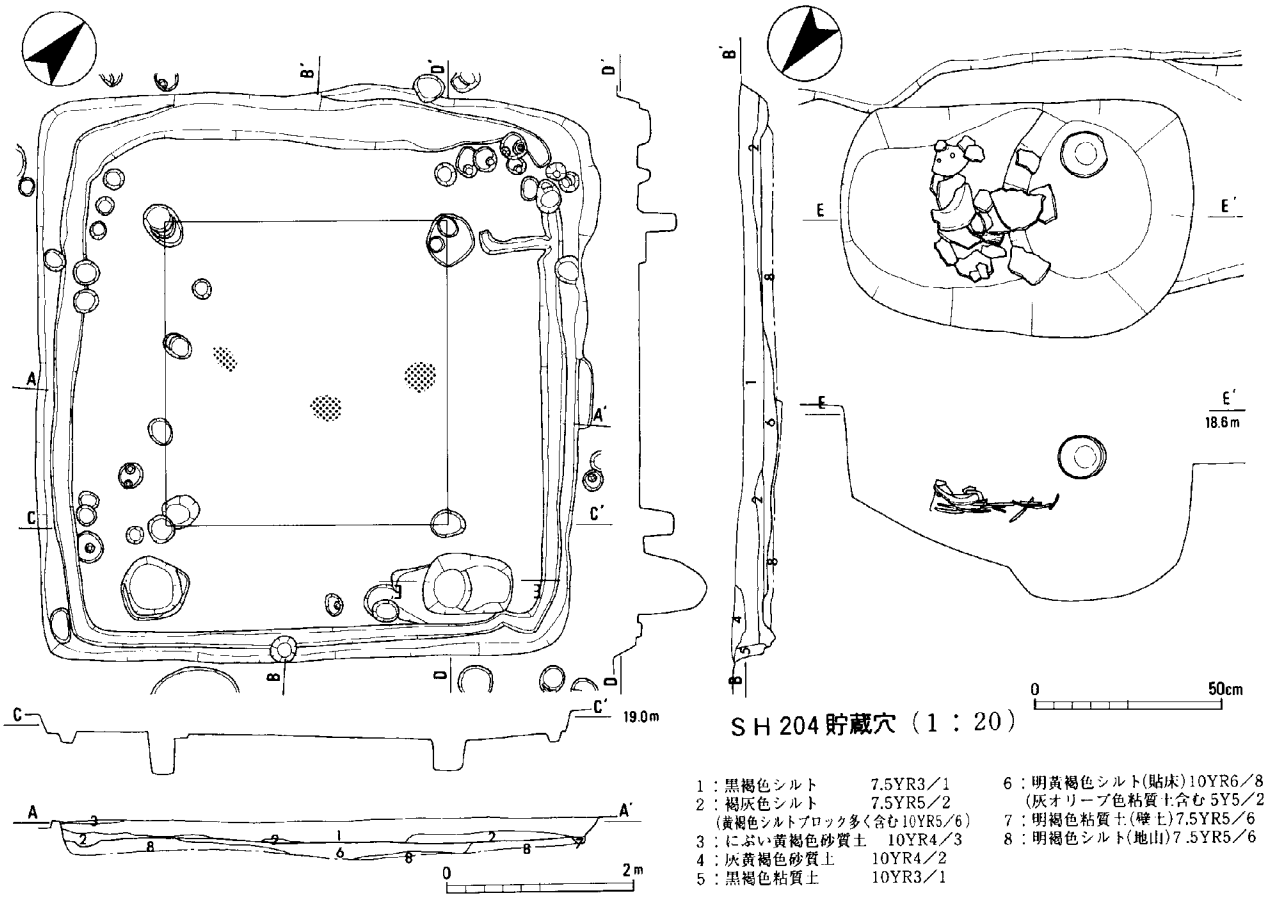
3　遺構

(1) 古墳時代前期

古墳時代前期の遺構としては、区画施設を持つ掘立柱建物群とその西に環状に配置された竪穴住居群がある。それぞれについて見ていく。

当該時期の竪穴住居の記述についてであるが、遺構図面では貯蔵穴を向かって右下に配置した状況で極力レイアウトするよう努めている。建物方向等を記述する際、貯蔵穴を右下において配置したとき、住居中央を通る縦方向の軸を建物軸と設定し、その軸方向で記述する。また、建物内の施設の配置等をいう場合は、建物軸を直立させ、貯蔵穴を右下においた状況で、「右上」「上辺」などと記述する。方角で記述するほうが適当な際はその都度記述する。

SH204（第92図）　一辺６ｍ、深さ20cmの規模を有するほぼ正方形の竪穴住居である。建物方向はＮ45°Ｗである。壁周溝は全周する。中央付近に径30cmの被熱による赤変箇所が５ヶ所認められ、炉跡と推定される。右下隅には貯蔵穴があり、長辺90cm×短辺60cm、深さ52cmの楕円形を呈する。中から赤彩の施された土師器広口壺、土師器小型器台・台付椀・高杯・台付甕(892～898)が一括で出土した。貯蔵穴内からは桃果種も出土した。

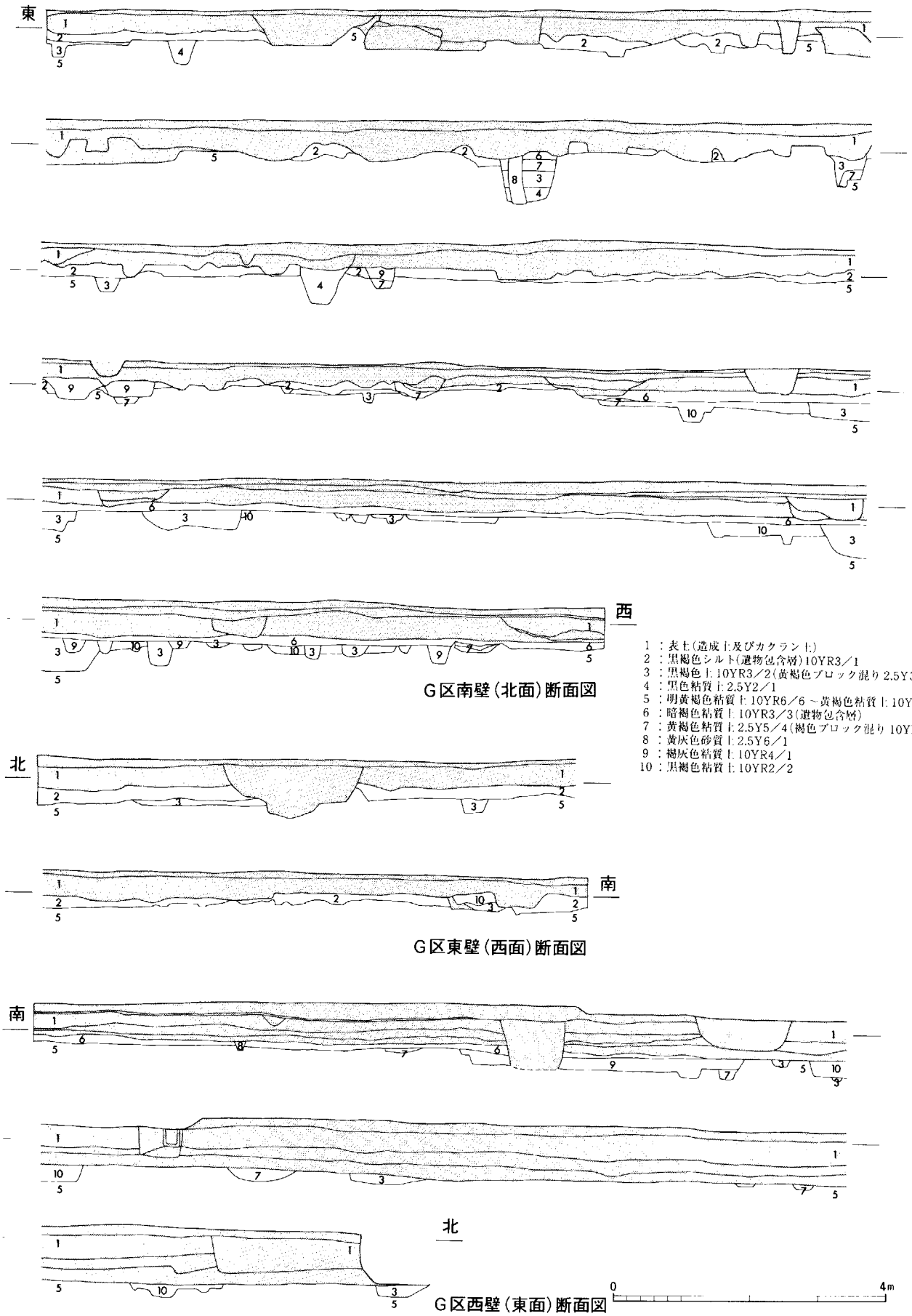


SH204貯蔵穴（1：20）

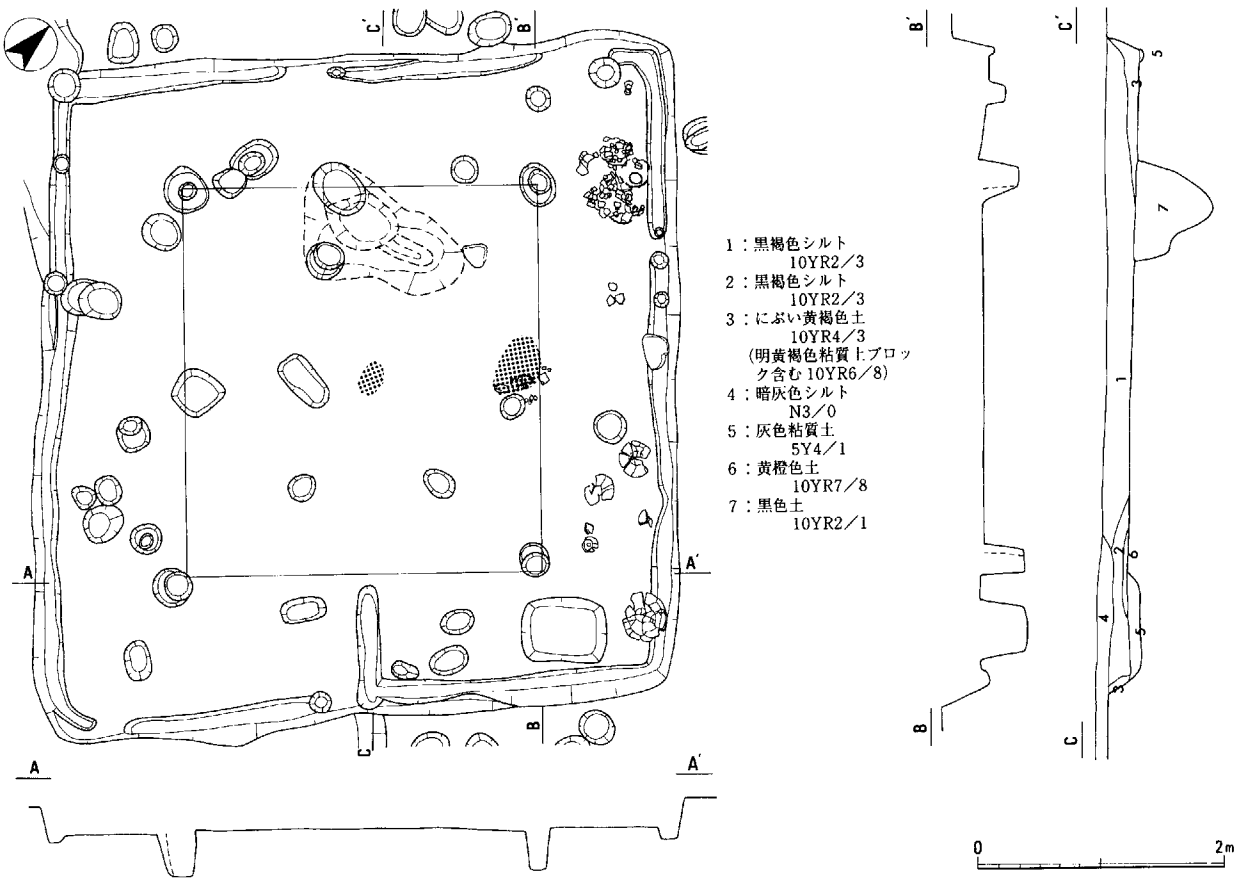
1：黒褐色シルト　7.5YR3／1
2：褐灰色シルト　7.5YR5／2
（黄褐色シルトブロック多く含む10YR5／6）
3：にぶい黄褐色砂質土　10YR4／3
4：灰黄褐色砂質土　10YR4／2
5：黒褐色粘質土　10YR3／1
6：明黄褐色シルト(貼床)10YR6／8
（灰オリーブ色粘質土含む5Y5／2）
7：明褐色粘質土(壁土)7.5YR5／6
8：明褐色シルト(地山)7.5YR5／6

第92図　SH204実測図（1:60、貯蔵穴出土状況は1:20）

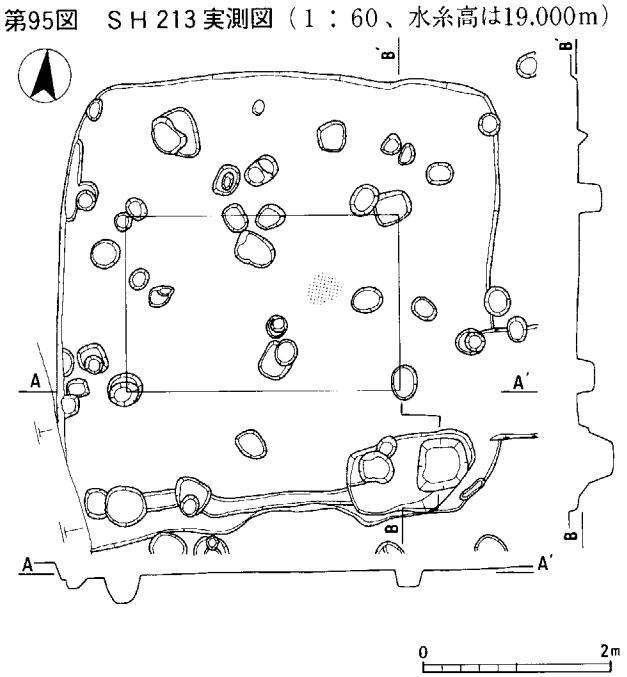
第93図　G区遺構平面図（1：300）



第94図　G区土層断面図（1：40、水糸高は 19.200m）



第95図　ＳＨ213実測図（１：60、水糸高は19.000m）



第96図　ＳＨ214実測図（１：80、水糸高は18.600m）

左下隅には径65cmの円形土坑があり、土坑内には焼土が見られた。主柱穴は４ヶ所確認でき、柱間は3.0～3.2mである。床面は中央が固く締まっており、踏みしめの状況を示しているものと考えられる。

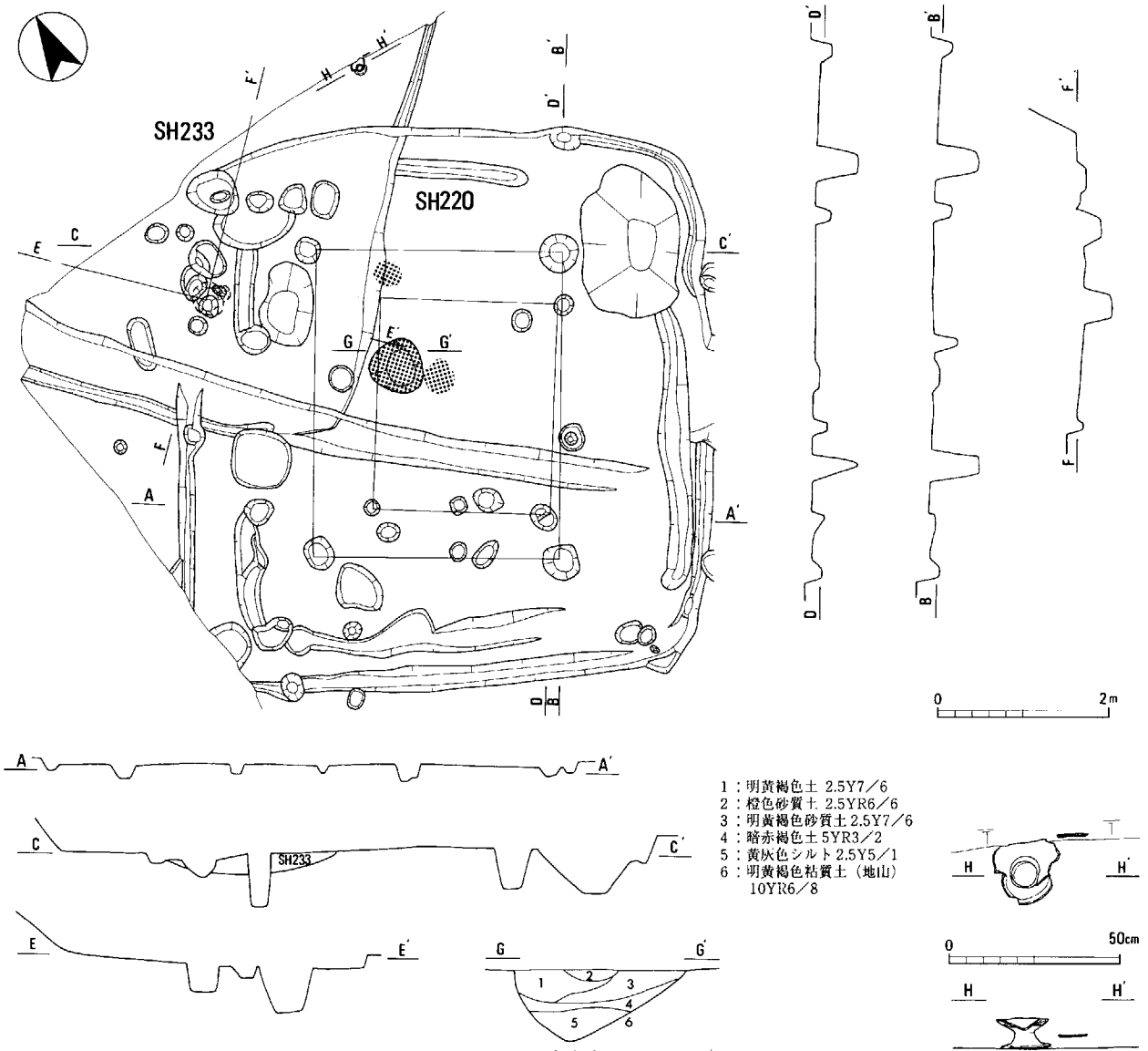
右上主柱穴から右横方向に壁周溝に伸びる溝が確認された。仕切り溝と考えられる。①

出土遺物(878～899)には 土師器台付甕・台付椀・高杯・甕底部がある。他、図化はしなかったが、軽石が２点あった。

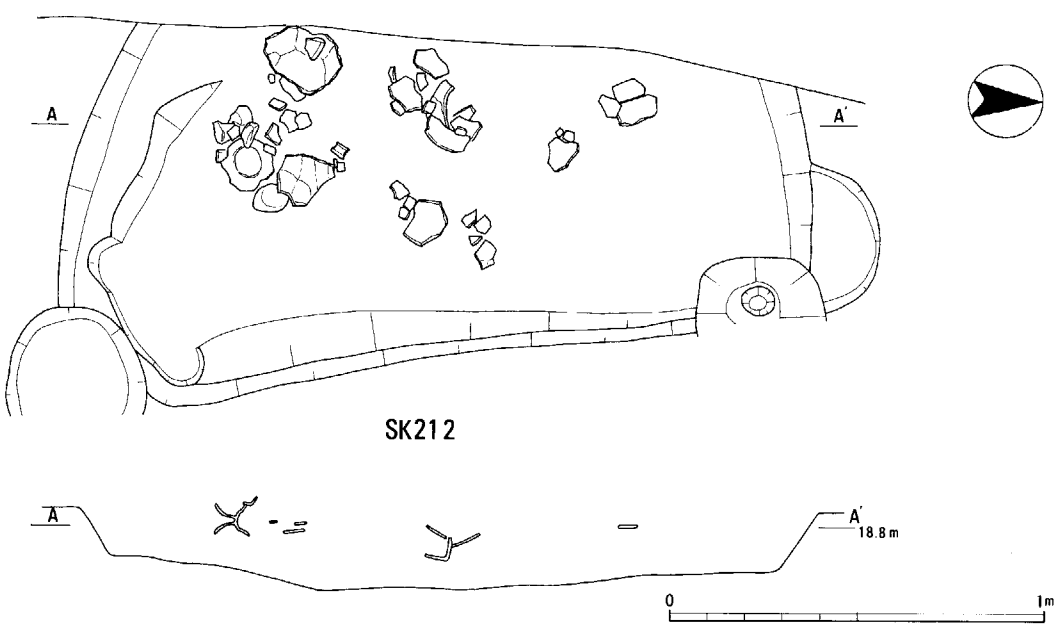
SH213(第75図)　一辺5.1m、深さ22cmの規模を有するほぼ正方形の竪穴住居である。建物方向はN 44° Wである。壁周溝はほぼ全周する。中央に炉跡と思われる強い被熱痕が見られる。右壁に沿った床面直上に、土師器小型鉢・小型器台・台付椀・広口壺・高杯・台付甕が集中してみられた。貯蔵穴の近くに見られた広口壺底部(898)は、SH204の貯蔵穴出土の広口壺と接合する。右下隅に貯蔵穴が見られ、長径34cm×短径24cm、深さ40cmの楕円形を呈する。貯蔵穴からは少量の土師器甕体部破片が出たのみであった。主柱穴は４ヶ所確認でき、柱間は3.0～3.1mである。上辺の主柱穴間には深さ60cmの床下土坑があり、土坑上には貼床が見られた。床面は中央が踏みしめのため固く締まっている。

全体に焼土、炭化材が見られた。住居壁から2mの範囲に集中する傾向が認められ、住居床面から12cm程浮いた状態で見られた。

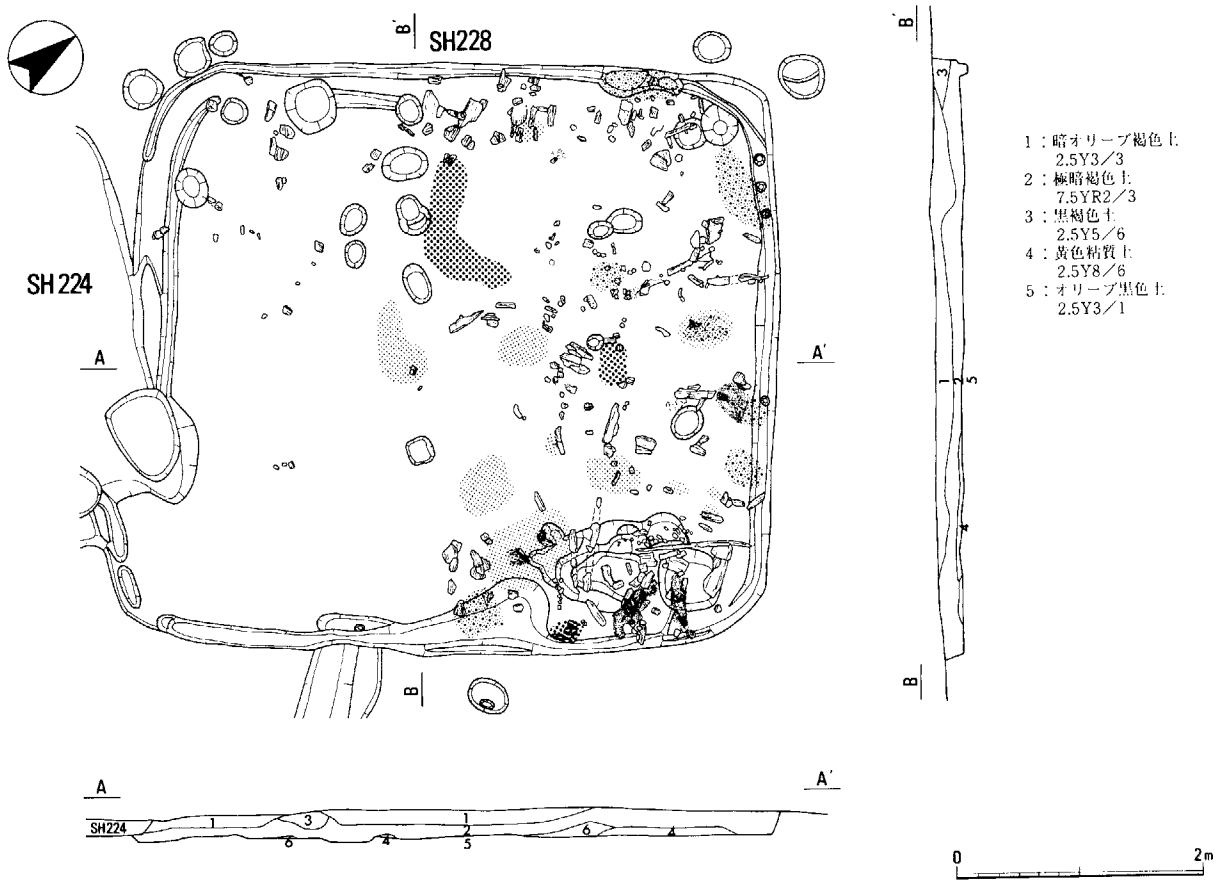
出土遺物(900～911)には竪穴住居床面上右壁寄

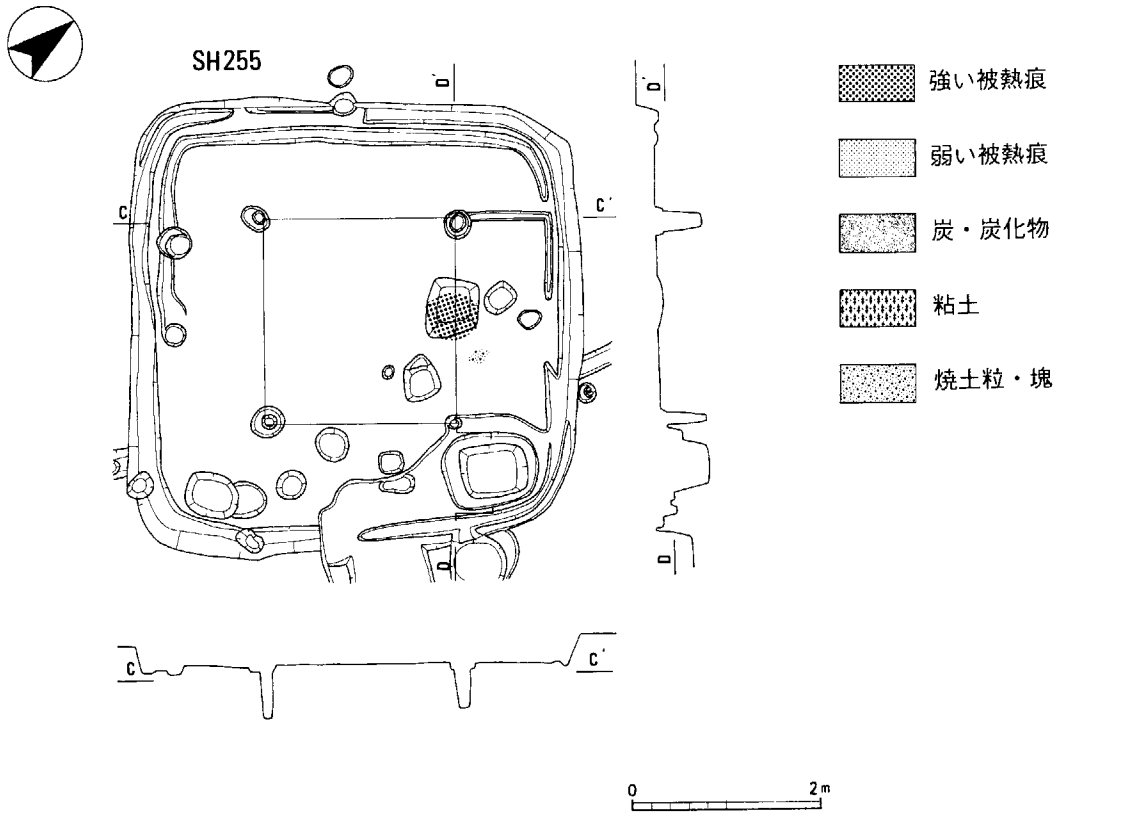


第97図　ＳＨ 220･233 実測図（１：80、その他は１：20、水糸高は 18.400m）

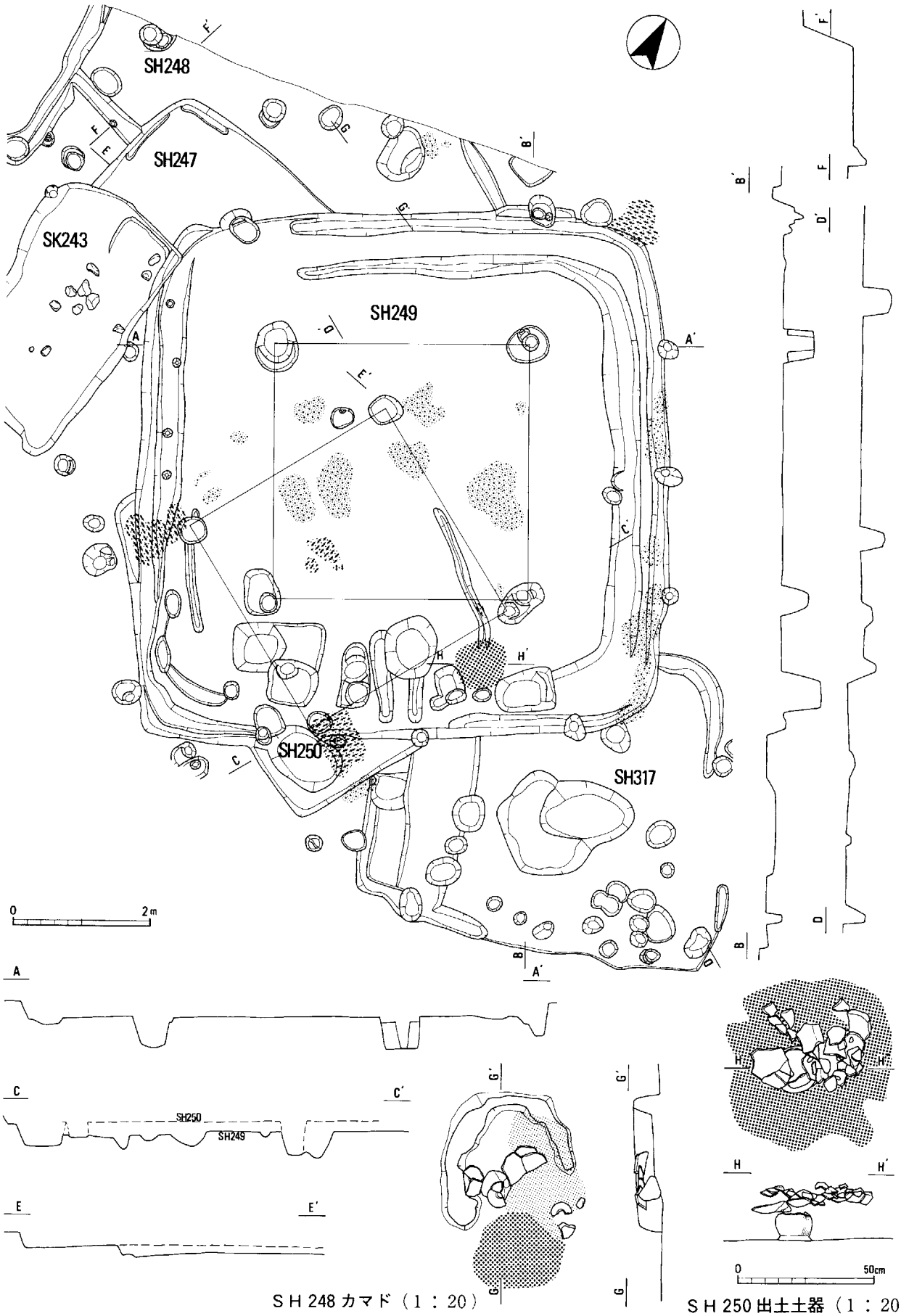


第98図　ＳＫ 212 実測図（１：20、水糸高は 18.800m）





第99図　ＳＨ228・255実測図（ＳＨ228は1：60、ＳＨ255は1：80、水糸高は18.000m）



第100図　SH247・248・249・250・317 実測図（1：80、水糸高は 19.000m　SH248 カマド・SH250 出土土器は 1：20、水糸高は 18.400m）

りから出土したものと、埋土から、そして主柱穴から出土したものがある。主柱穴から出土したものには、小型高杯のものと思われる脚部(900)がある。

SH214(第96図)　一辺4.6m、深さ10cmの規模を有するほぼ正方形の竪穴住居である。建物方向はN5°Eである。中央に炉跡と思われる強い被熱痕が見られる。右下隅には貯蔵穴が見られ、長径1.2m×短径60cm、深さは40cmの長方形である。壁周溝は下・左辺に見られる。主柱穴は4ヶ所確認でき、柱間は2.9m×1.9mである。竪穴住居埋土・貯蔵穴から、図化でき得るような遺物の出土はなかった。

SH220(第97図)　SH233が廃絶した後に建てられた、短辺6.1m×長辺6.6m、深さ10cmの規模を有するやや長方形の竪穴住居である。建物方向はN70°Wである。SH233と重なる部分に床を張り、床としている。右下隅には貯蔵穴があり、長径1.7m×短径1.2m、深さは60cmの長方形を呈す。壁周溝は左下角が途切れるが、ほぼ全周する。主柱穴は4ヶ所確認でき、柱間は3.6m×2.9mである。床面は中央が踏みしめのため固く締っている。中央に炉跡と思われる強い被熱痕が見られるが、この炉は床を掘り窪め、炉としている。灰層が二層確認できるが、最初の灰が堆積した上に、粘土状の白色土が西部分にのみ確認でき、また灰層が覆う。このことから、灰が堆積した後、土器を支えるための装置として白色土を片側にのみ置き、再び火を焚いたものと考えられる。

この竪穴住居は建替えが行われており、その建替え前の規模は長辺5.6m×短辺5.4mである。主柱穴は4ヶ所確認でき、柱間は2.5m×2.1mである。出土遺物(912～914)は、小型高杯・小型壺で、主柱穴出土遺物に台付甕がある。

SH228(第99図)　一辺4.8m×5.2m、深さ20cmの規模のやや長方形を呈する竪穴住居である。建物方向はN60°Wである。右下隅には貯蔵穴がある。壁周溝は全周するが、主柱穴は明確でない。全体に焼土、炭化材が見られた。特に、貯蔵穴周辺に良好な炭化材が見られる。

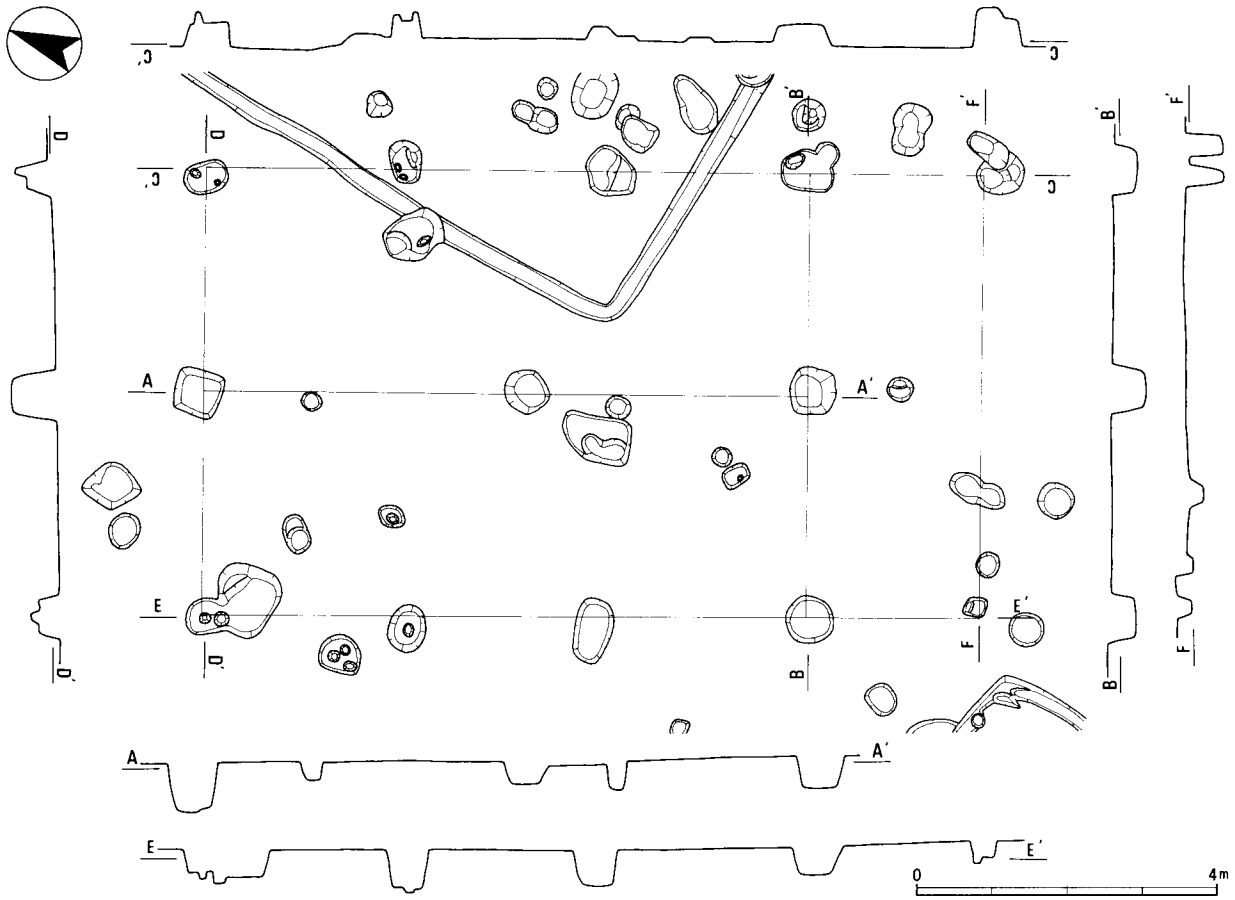
出土遺物(915～917)は全て台付甕であるが、良好な状態で残存する遺物は少なかった。

SH233(第97図)　大半は調査区外へ広がる。残存部で3.9m×5.4m、深さ10cmの規模を有す。建物方向はN36°Eである。右下隅に貯蔵穴があり、長径50cm×短径30cm、深さ70cmの長方形を呈する。主柱穴は右下隅のみ確認できた。壁周溝はほぼ全周する。床面には踏みしめによる硬化面が見られる。調査区北壁に接する部分で土師器広口壺(923)が倒立した状態で出土した。他、出土遺物(918～923)は、土師器壺・広口壺・台付甕がある。

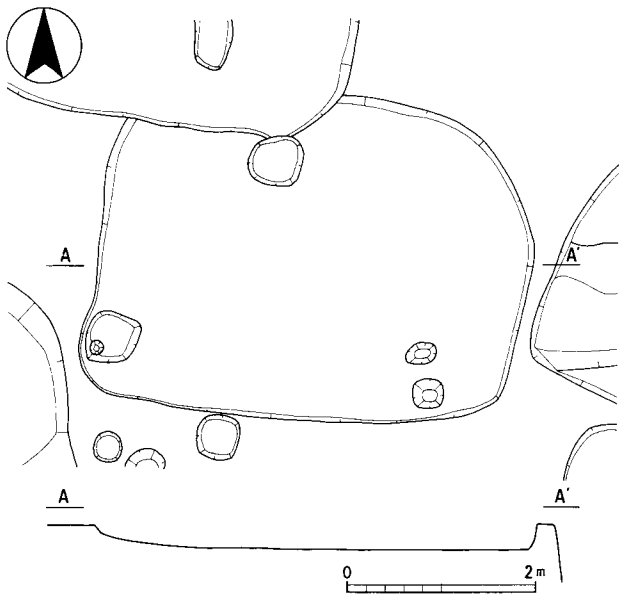
SH244(第120図)　廃絶後にSH242が建てられている。住居の大半は調査区外へ広がる。検出した規模は東西5.8m×南北2.7m以上、深さ26cmである。貯蔵穴は見られないが、残存する住居壁から建物方向はN7°Eと任意で設定する。壁周溝は調査区内では全周する。主柱穴・カマド・貯蔵穴は調査区内では検出できない。床面は全体に踏みしめのため硬化する。出土遺物は細片であり、遺物から住居の時期は推定できないが、規模、床面に硬化が見られる事から、古墳時代前期の竪穴住居と考えたい。

SH249(第100図)　一辺7.5m、深さ20cmの規模を有するほぼ正方形の竪穴住居である。建物方向はN32°Wである。貯蔵穴は右下隅にあり、長辺45cm×短辺30cm、深さ55cmの長方形を呈す。左下隅にも長方形土坑があり、長径1.3m×短径70cm、深さは20cmである。主柱穴は4ヶ所あり、その柱間は3.8mの等間である。壁周溝はほぼ全周するが、その内側、上・左・下辺に溝が見られることから、建替えが行われた可能性がある。しかし、建替え前の主柱穴はみられない。下辺中央にある2条の溝は仕切り溝の可能性がある。床面は全体に踏みしめのため硬化する。床面には7カ所に炉跡がある。特に左辺の主柱間にある炉は細長い石をおき、支石としている。主柱間上辺にある炉には石が外れた痕跡がある。いずれの炉も床を掘り窪めていない。住居右壁に沿って焼土塊が見られる。

この竪穴住居に特徴的なのは、住居壁に等間隔で柱穴を持つことである。これは右・上・下辺で確認できるが、遺構検出面からの深さが20cmほどの柱穴が住居建物軸に当たるところに1ヶ所、それから2.3m両側に1ヶ所ずつの計3ヶ所みられる。上辺では2ヶ所、左辺では検出できない。出土遺物(924～927)には土師器小型器台・小型壺底部・台付甕がある。



第101図　ＳＢ 284 実測図（１：100、水糸高は 19.000m）



第102図　SK246 実測図（１：40、水糸高は 19.000m）

SH255（第99図）　一辺 4.6m×4.9m、深さ20mの規模を有するやや長方形を呈する竪穴住居である。建物方向はN45°Wである。貯蔵穴は右下隅にあり、長辺 1m×短辺0.78m、深さ50cmの長方形を呈す。主柱穴は４ヶ所あり、柱間は 2.2mである。壁周溝はほぼ全周する。また、右上主柱穴からＬ字状にのびる仕切り溝がある。

右辺主柱穴間にレンズ状のピットがあり、内面は被熱することから炉跡と思われる。床面は全体に踏みしめのため硬化する。出土遺物(940～955)は 土師器高杯･壺･台付甕･広口壺があるが、貯蔵穴から土師器台付甕･甕が出土している。

SB284（第101図）　第３次･第４次調査区にまたがる。桁行３間(6.5m)･梁行２間(4.8m)で、南に庇がつく。棟方向はN22°Wである。柱間は桁行で 2.2m･2.1m･2.2m、梁行で 2.4mの等間である。中央には床束柱が見られる。SH307 と重なる柱穴の部分は、貼床が施されている。出土土器は細片であるが、古墳時代前期に属するものが見られる。

SB361（第103図）　桁行4間(8.6m)･梁行2間以上(5.4 m以上）で、東側にのみ独立棟持柱を持つ。棟方向はN68°Ｅである。後にSB362 が掘削されているため、柱痕跡が一部しか確認できないが、確認できる柱間は桁行で 2.1m、梁行で 3.8mである。側柱の掘形は 1m×1.2mの方形で、柱痕跡は径30cm、柱掘形のほぼ中央に確認できる。中央に床束柱

がある。束柱と独立棟持柱の柱間は3.1mになると推定されるが、束柱の規模は、SB362が重複しているため、不明である。側柱は幅80㎝、長さ7.6m、深さ5㎝の溝を掘り、柱穴を掘削している。この溝は柱筋を揃える、もしくは深い柱穴を掘削する際の足場として掘られた可能性がある。柱掘形・柱痕跡等から、高床式の建物と推定される。

SB362(第103図)　桁行4間(8.3m)・梁行2間(5m以上)で、西側にのみ独立棟持柱を持つ。棟方向はN111°Wである。SB361と重複して建てられている。柱間は桁行で東から2.1m・2.0m・2.1m・2.1m、梁行で3.4mである。柱痕跡は径30㎝である。中央に床束柱があり、束柱と独立棟持柱の柱間は2.2mである。束柱穴の深さは、側柱穴とほぼ同じである。柱掘形・柱痕跡等から、高床式の建物と推定される。

SB363(第104図)　桁行4間(8m)・梁行2間(6.6m)で、西側にのみ独立棟持柱を持つ。棟方向はN111°Wである。柱間は桁行で2mの等間、梁行で3.3mの等間である。側柱掘形は1.1m×1.4mの長方形を呈し、その柱痕跡は径30㎝で、位置は柱掘形の中央ではなく、両側柱とも建物中央に寄って見られる。中央に床束柱があり、束柱と独立棟持柱の柱間は3.1mである。束柱穴の深さは側柱穴に比べ浅い。側柱は幅1m、長さ5m、深さ5㎝程の溝を掘り、柱穴を掘削している。この溝は柱筋を揃える、もしくは深い柱穴を掘削する際の足場として掘られた可能性がある。両側柱の6ヶ所で柱抜き取り痕が見られる。柱掘形・柱痕跡等から、高床式の建物と推定される。出土遺物(863)は、土師器鉢がある。

SB364(第105図)　桁行4間(8.3m)・梁行2間(5.8m)で、西側に庇を持つ。棟方向はN110°Wである。柱間は桁行で東から2.1m・2.1m・2.1m・2.0m、梁行で2.9mの等間である。柱掘形等から見て、建替えの可能性がある。柱痕跡は径20㎝である。柱掘形の規模・形・柱痕跡等から、平地式の建物と推定される。

SA305　西・東辺の一部、北・南辺が調査区外へ伸びるが、幅30～40㎝、深さは40～60㎝の塀跡である。その形状等から区画施設と考える。長方形の区画をなし、区画内部の推定面積は1,184㎡である。方向はN25°Wである。東側溝は区画内部側壁が垂直に落ち、区画外側の壁がなだらかにあがる断面形を呈し、溝底面の痕跡から竪板塀であったと思われる。東辺の溝の一部が長さ3mほど途切れており、この区画の出入口と考えられる。出土遺物(958～961)には、土師器壺・台付甕がある。

SA309　SA305が廃絶した後に掘削されている。N23°E方向に真っ直ぐ伸びる、幅30～40㎝、深さ60㎝の塀跡である。後述するSA314と1mの間隔を保ち平行して伸びており、その方向が同じであることから、SA309とSA314は同時に存在し区画を形成していたと考えられる。区画内部側壁が垂直に落ち、区画外側の壁がなだらかにあがる断面形を呈する。溝底面の痕跡から竪板塀であったと思われる。立会調査で東西方向を向く溝が確認できたことから、調査区外で屈曲しているものと思われる。SH306と重複する部分で、長さ1.2mほど途切れており、この区画の出入口と考えられる。出土遺物(964～966)には、土師器台付甕がある。

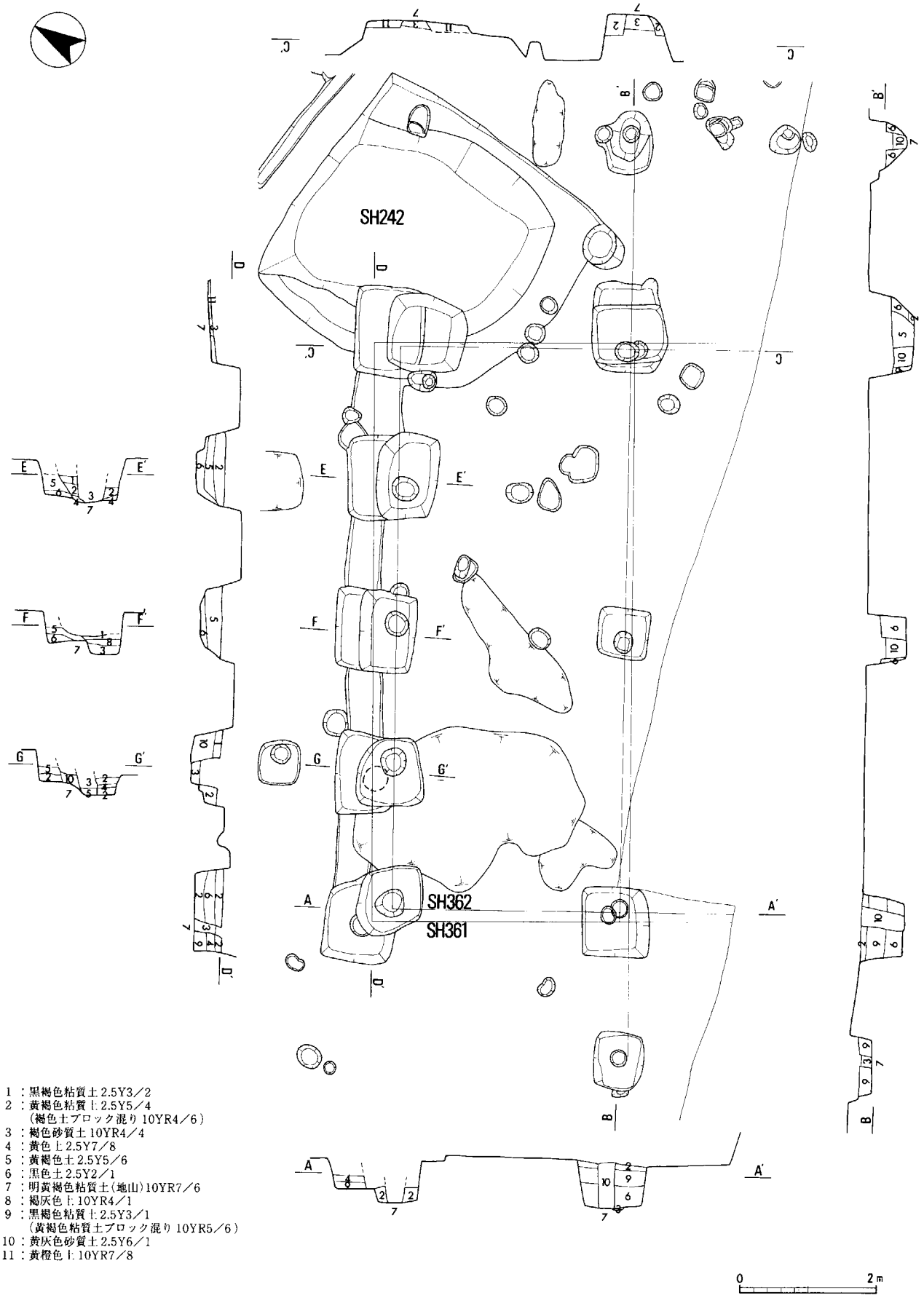
SA314　N23°E方向に真っ直ぐ伸びる、幅30～40㎝、深さは60㎝の溝である。区画内部側壁が垂直に落ち、区画外側の壁がなだらかにあがる断面形を呈する。溝底面の痕跡から竪板塀であったと思われる。立会調査で東西方向を向く溝が確認でき、調査区外で屈曲しているものと思われる。SH308と重複する部分で8mに渡って一段高く、その部分でピットが2.5m間隔で3ヶ所確認できる。出入口施設の可能性がある。出土遺物(967～971)は、土師器壺・台付甕・広口壺がある。

SK212(第98図)　規模は南北辺2m、東西辺1m以上で深さは20㎝の長方形を呈する土坑である。やや中央が深くレンズ状に近い形状を呈す。出土遺物(928～931)には土師器小型丸底鉢・小型器台・台付甕・甕がある。

SK246(第102図)　長辺2.3m×短辺1.75m、深さ14㎝の平面長方形、断面形は箱型を呈する土坑である。出土遺物(935～939)には土師器壺口縁片・広口壺・台付甕・甕・土錘がある。

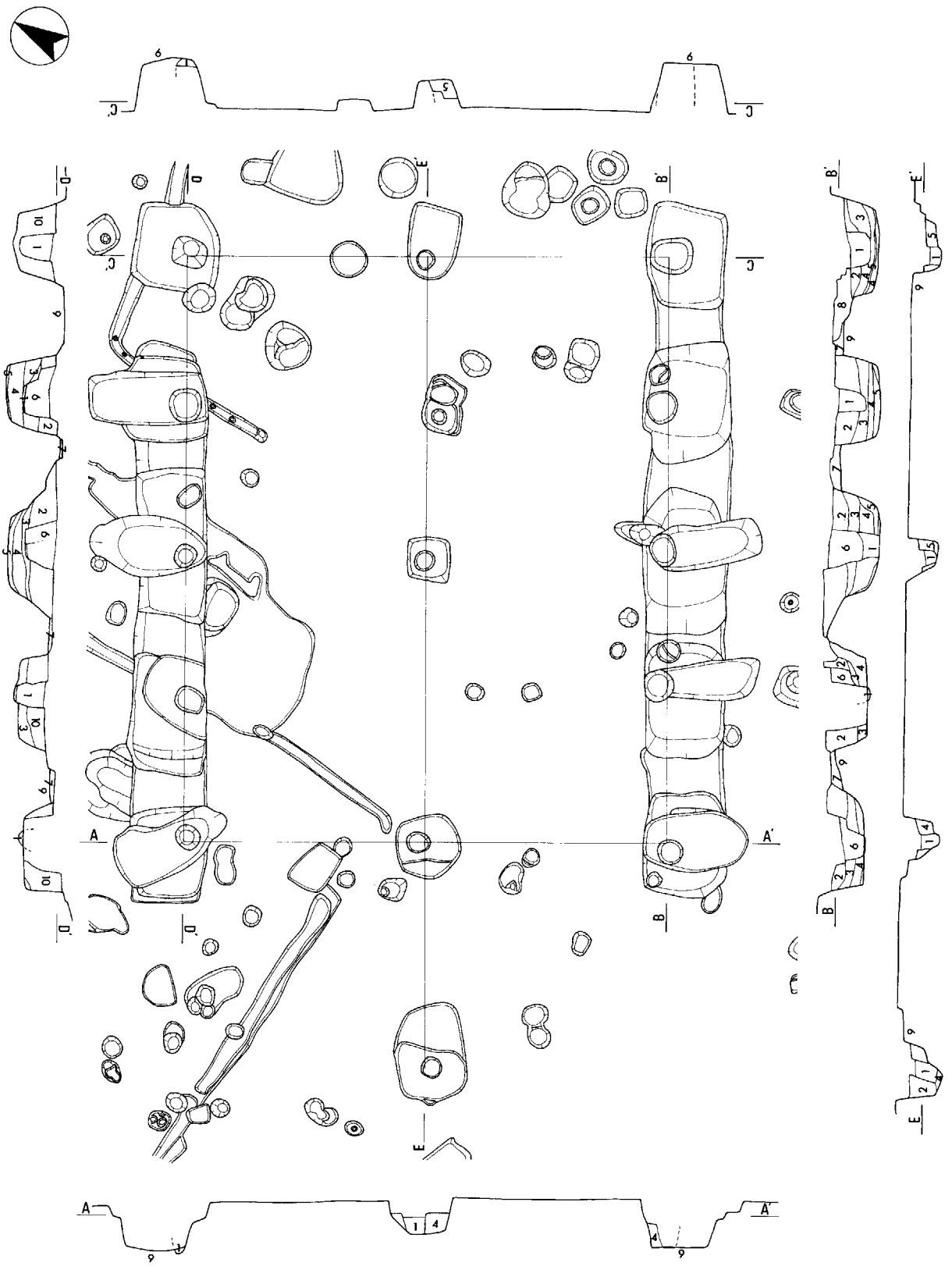
(2) 古墳時代後期

ここで言う古墳時代後期は、前期の建物群廃絶後の、5世紀後半代～6世紀後半代(田辺編年で言う



1 ：黒褐色粘質土 2.5Y3／2
2 ：黄褐色粘質土 2.5Y5／4
（褐色土ブロック混り 10YR4／6）
3 ：褐色砂質土 10YR4／4
4 ：黄色土 2.5Y7／8
5 ：黄褐色土 2.5Y5／6
6 ：黒色土 2.5Y2／1
7 ：明黄褐色粘質土（地山）10YR7／6
8 ：褐灰色土 10YR4／1
9 ：黒褐色粘質土 2.5Y3／1
（黄褐色粘質土ブロック混り 10YR5／6）
10 ：黄灰色砂質土 2.5Y6／1
11 ：黄橙色土 10YR7／8

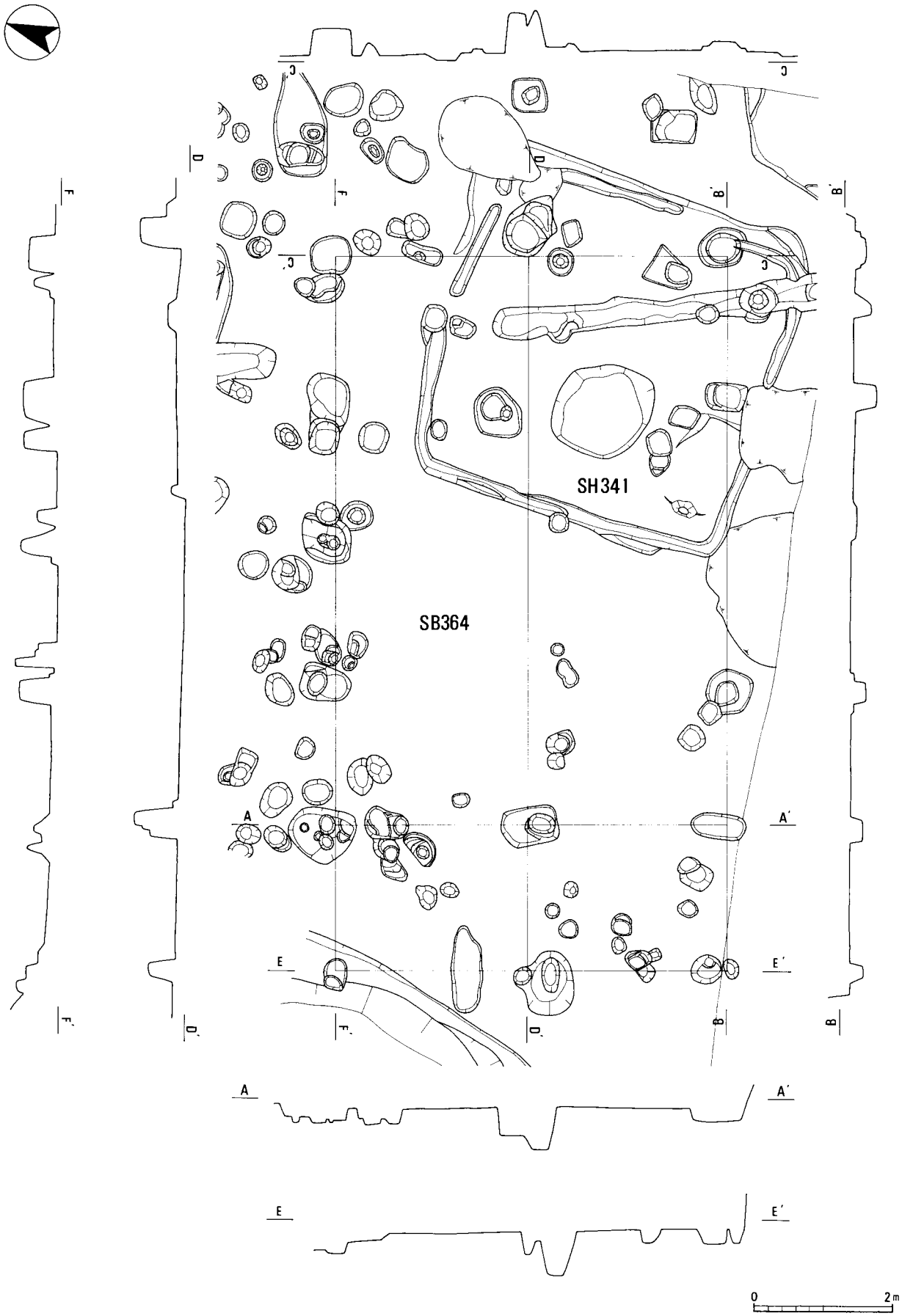
第103図　ＳＢ 361 ・ 362 実測図（１：80、水糸高は 18.600m）



1：暗オリーブ褐色粘質土2.5Y3／3
2：暗灰黄色粘質土2.5Y4／2(黒褐色土ブロック混り2.5Y3／1)
3：オリーブ黒色粘質土2.5Y3／1(明黄褐色土ブロック混り2.5Y6／8)
4：オリーブ褐色土2.5Y4／6（黒褐色土含む2.5Y3／1）
5：黒色粘質土2.5Y2／1
6：灰黄褐色砂質土10YR5／2
7：明黄褐色土2.5Y6／6
8：にぶい黄褐色土10YR5／3
9：明黄褐色粘質土(地山)10YR7／6
10：黄褐色粘質土2.5Y5／4

0　2m

第104図　ＳＢ363実測図（1：80、水糸高は18.200m）



第105図　ＳＢ 364 実測図（１：80、水糸高は 19.000m）

ところのTK47型式～TK10型式併行期）[2]をさす。個々について見ていく。

当該時期の竪穴住居の記述についてであるが、遺構図面では極力カマドを上に配置した状況でレイアウトしている。建物方向等を記述する際、カマドを上において配置したとき、住居中央を通る縦方向の軸を建物軸と設定し、その軸方向で記述する。しかし、カマドが確認できない場合は、北に対して傾きが最も小さい配置での住居軸を任意で設定する。また、建物内の施設の配置等をいう場合は、建物軸を直立させた状態で向かって「右上」「上辺」などと記述する。方角で記述するほうが適当な際はその都度記述する。

SH203（第106図）　5.7m×5.0m、深さ20cmのやや長方形を呈する竪穴住居である。建物方向はN125°Eである。壁周溝は全周する。住居上辺の調査区壁にあたるところに焼土が固まり、土師器台付甕に須恵器甕口縁部が伏せた状態で出土した。カマド構築物は見られないこと、須恵器には被熱痕が見られないことから、カマドが廃絶若しくは破壊された後、須恵器を据えたものと考えられる。住居下辺壁寄りに土師器甕（998）が倒立した形で出土した。主柱穴は3ヶ所確認でき、柱間は2.6m・2.5mである。貯蔵穴はない。

出土遺物（997～1008）には、竪穴住居埋土出土の土師器台付甕、主柱穴出土遺物として土製丸玉、焼土部分出土遺物には須恵器甕がある。

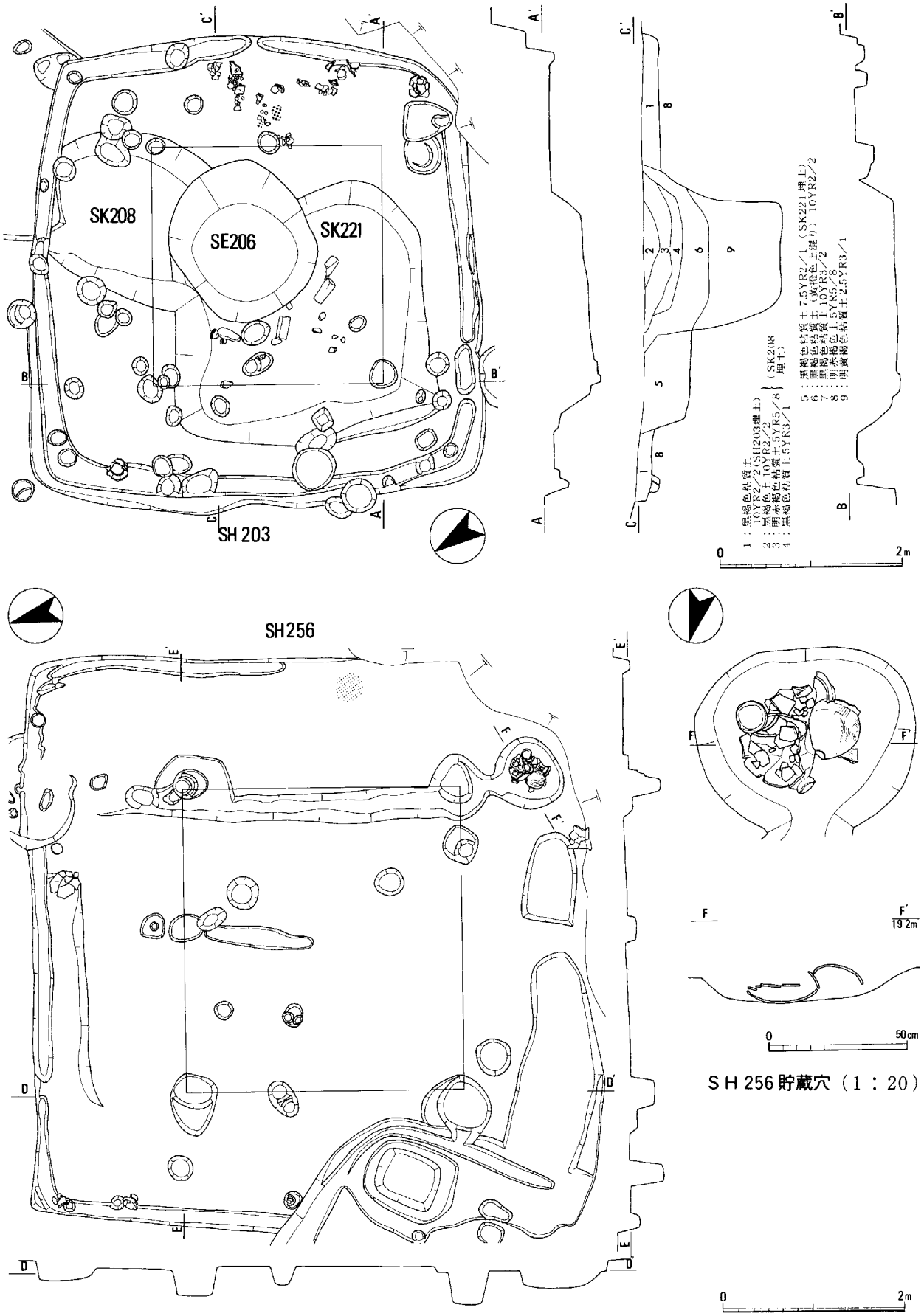
SH203の住居平面形にあわせたように、SK221が掘られている。SK221は一辺2.8mの方形で、深さ40cmの断面箱型の土坑である。土層断面観察では、SH203が埋没しない段階でSK221が掘削された、若しくはSH203が機能している段階でSK221が掘削されたことが考えられる。つまり、SH203もSK221も同時に埋没しはじめているということである。しかし、SH203の右下主柱穴は、SK221が掘削されていることで機能していないこと、また住居が機能している段階でSK221が掘削されているとしたら、おそらくSK221上に板状施設をかける必要があると考えられるが、その痕跡が土層断面で確認できないことからSH203とSK221は同時に機能していないと考えられる。よって、SH203が廃絶し、埋没しない早い段階でSK221が掘削されたといえる。では、SK221はどのような機能を持つ土坑であるのだろうか。SK221内部に壁周溝・主柱穴・カマド等の竪穴住居としての施設が確認できないことから、竪穴住居とは考えられない。土坑内から須恵器甕（1007・1008）、土師器管状土製品（1004～1006）が出土した。管状土製品は、3個体とも自然石2点とともに、床面直上から並んでいたような状況で出土している。いずれにも被熱痕などは見られない。

SH250（第100図）　一辺5.4m、深さ20cmの規模を有するほぼ正方形の竪穴住居である。建物方向はN108°Eである。壁周溝は切り合いが激しいため不明である。カマドも同様であるが、南辺に土師器甕（1020）が伏せられた状態で焼土と共に見られ、これがカマドと考えられる。貯蔵穴は右上隅にあり、長辺1.1m×短辺0.7m、深さ40cmの長方形を呈す。主柱穴は4ヶ所確認でき、柱間は3.4m×3.5mである。出土遺物（1009～1020）には 不明土製品、土師器杯・台付甕・甕がある。

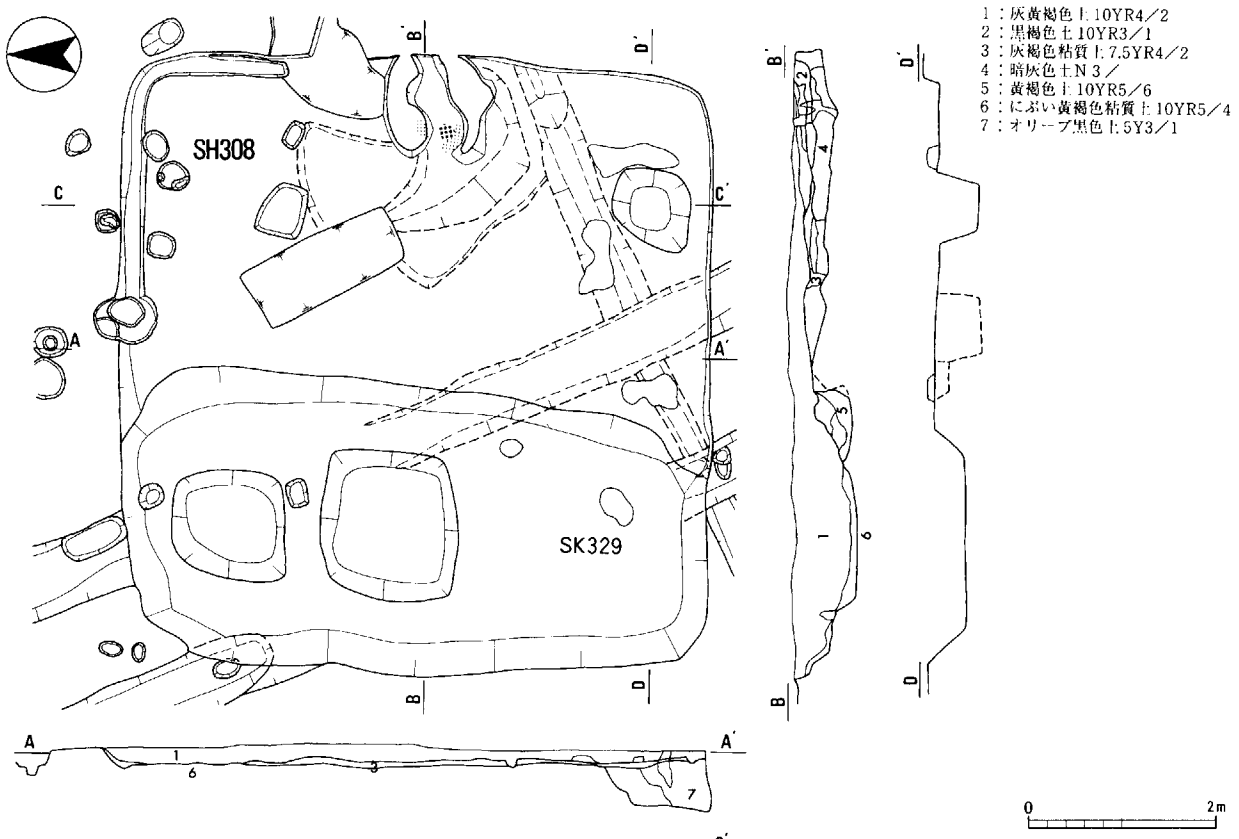
SH256（第106図）　一辺6m、深さ5cmの規模を有するほぼ正方形の竪穴住居である。建物方向はN107°Eである。壁周溝はほぼ全周する。住居壁左辺際と下辺際には断面船底状の溝が掘られる。主柱穴は4ヶ所確認でき、柱間は3.3m×3.0mである。カマドは東辺中央の床面に焼土が見られたことから、住居廃絶時に破壊されている可能性がある。貯蔵穴は右上隅にあり、その規模は径80cmの円形を呈し、深さ10cmで断面は船底状である。中からは土師器台付甕2個体・須恵器蓋杯（1028～1033）が出土した。

他、住居左壁沿いに土師器甕（1025）・杯（1021）が床面直上で出土した。住居右壁沿いから出土した土師器長胴甕（1024）は、10cmほど浮いた状態で出土していることから、当竪穴住居に伴わない遺物の可能性が高い。他、出土遺物（1021～1034）には砥石などがある。

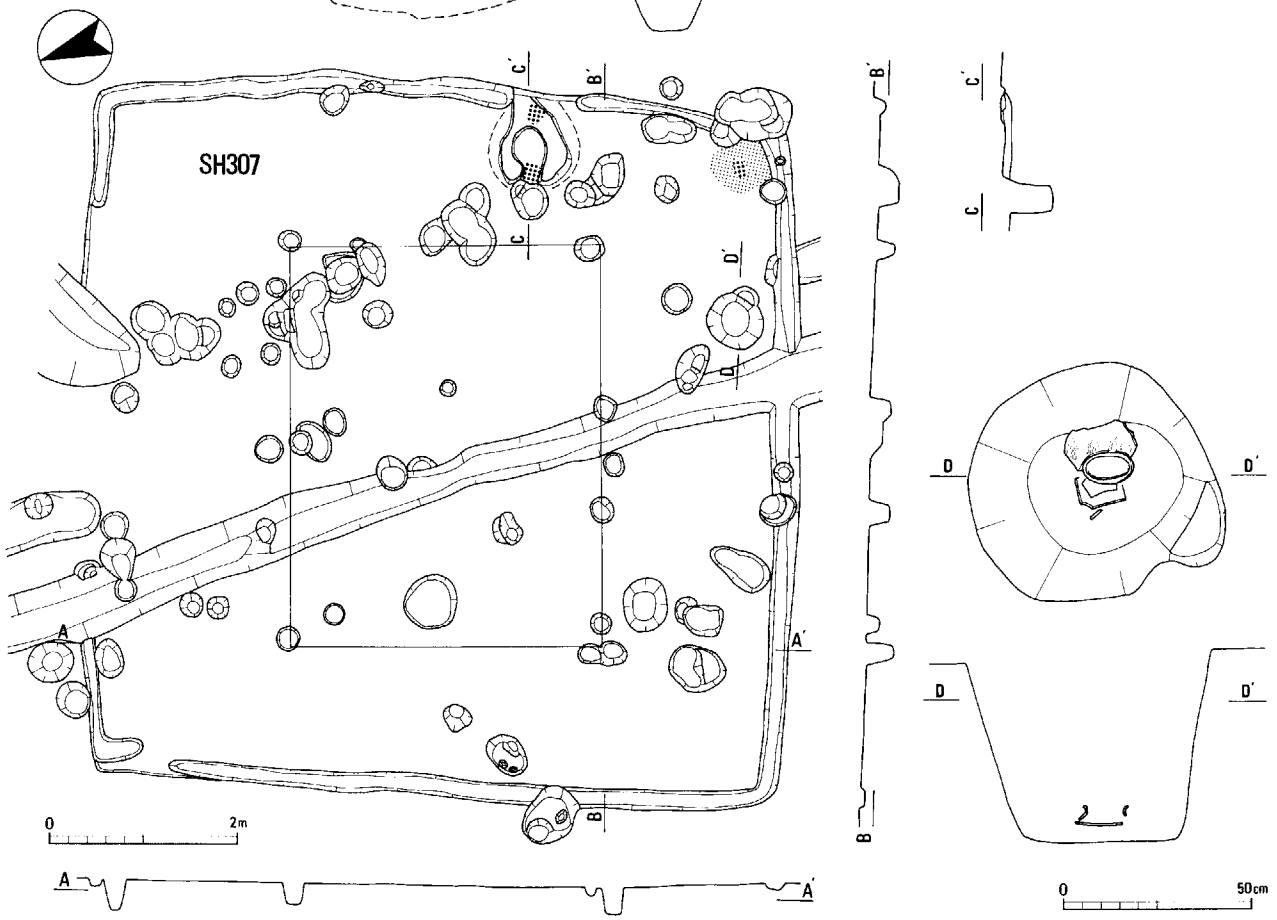
SH306（第107図）　一辺5.6m、深さ5cmの正方形を呈す竪穴住居である。建物方向はN93°Eである。カマド燃焼部には支柱石があり、支柱石上には土師器台付甕台部（1132）がのった状態で出土した。右上隅には径70cm、深さ68cmの貯蔵穴があり、貯蔵



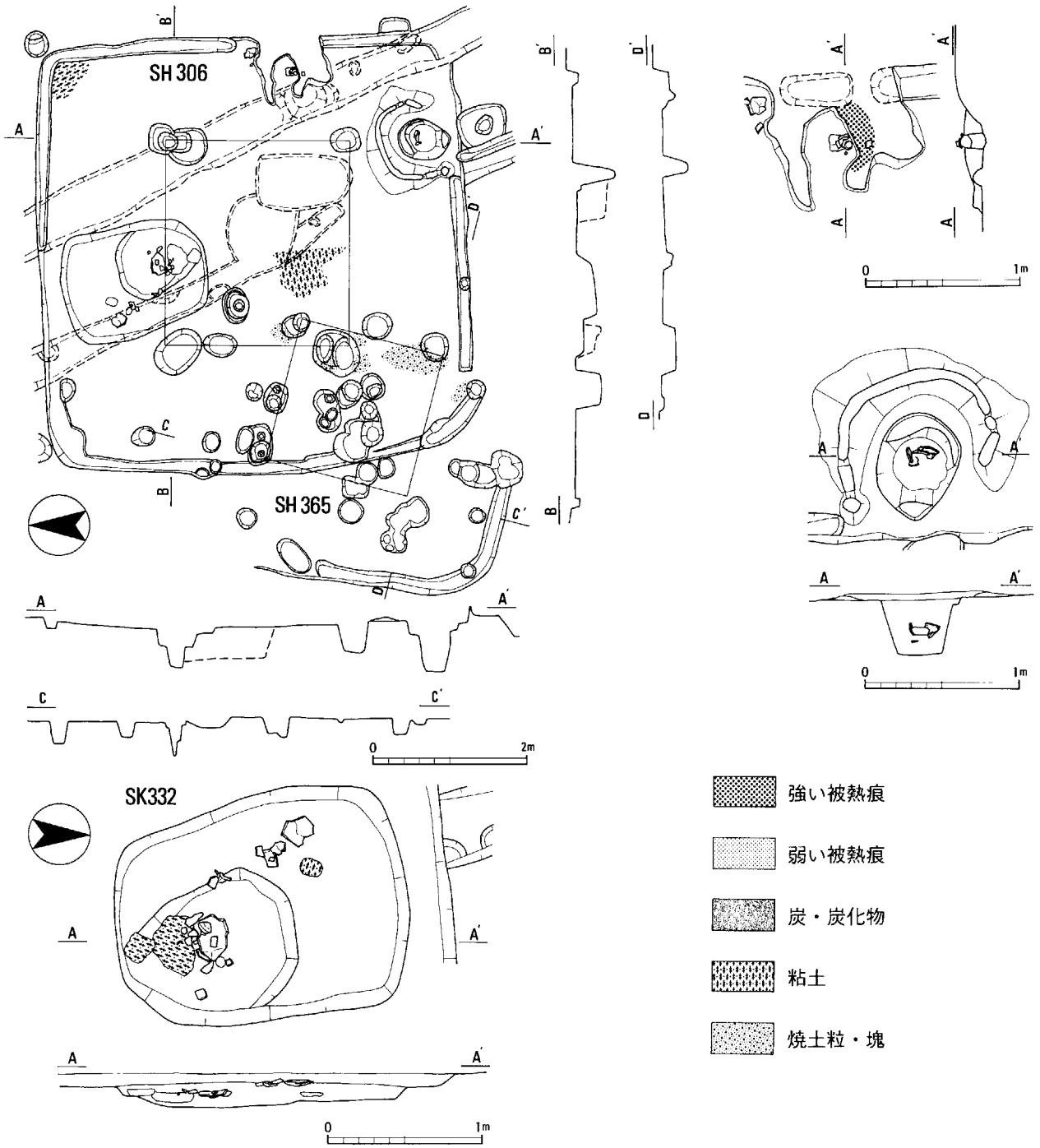
第106図　SH 203・256 実測図（1：60、水糸高は19.000m、SH 256 貯蔵穴は1：20）



第107図　SH308実測図(1:80、水糸高は19.000m)



第108図　ＳＨ 307 実測図（１：80、水糸高は 18.800m、貯蔵穴は１：20）



第109図　SH306・365・SK332実測図（SH306・356は、1：80、SK332他は1：40、水糸高は19.000m）

穴を取り囲むように幅10cmの土手が築かれている。壁周溝はほぼ全周する。主柱穴は4ヶ所あり、柱間は2.7m×2.4mである。住居中央には長辺1.2m×短辺0.7mと長辺0.9m×短辺0.8mの方形土坑2基があり、掘削後床を貼っている。この竪穴住居はSA309・314と重複する部分には特に床を貼って、強度を補っている。住居左部中央にある土坑SK332は住居廃絶後掘削されているようで、中より多くの土師器・粘土・焼土が出土した。しかし、土坑内壁・底に被熱痕が見られないことから、廃棄したものと思われる。出土遺物(1095～1148)には土製品、土師器台付椀・高杯・小型甕・甕・台付甕、須恵器蓋杯がある。

SH307(第108図)　一辺8m、深さは5cmの正方形を呈する竪穴住居である。建物方向はN 101°Eである。カマドはやや右に寄って構築されている。右上隅には径70cm、深さ50cmの貯蔵穴があり、内部からは土師器台付甕(1049～1054)が出土した。壁周溝はほぼ全周する。主柱穴は4ヶ所あり、柱間は

4.3m×3.4mで、やや長方形を呈す。右上角床面上に被熱部分がある。他、出土遺物(1046～1048)には、土師器台付甕・不明土製品がある。1046の土師器台付甕は混入と考えられる。

SH308(第107図)　6.6m×6.4m、深さ20cmの規模を有す、ほぼ正方形の竪穴住居である。建物方向はN 93°Eである。右上隅には径80cm、深さ48cmの平面形が円形の貯蔵穴があり、貯蔵穴を取り囲むように幅10cmの土手が築かれている。壁周溝は、住居左上角付近で検出できたのみである。主柱穴は検出できなかった。SA305・309・314と重なる部分には特に床を貼っている。

竪穴住居下半部には、SH308の平面形にあわせたように、長辺6.1m×短辺3.3mの方形土坑SK329が掘られている。深さは45cmで断面箱型を呈す。土層断面観察では、SH308が埋没しない段階でSK329が掘削された、若しくはSH308が機能している段階でSK329が掘削されていたことが考えられる。つまり、SH308もSK329も同時に埋没しはじめているということである。しかし、住居が機能している段階でSK329が掘削されているとしたら、おそらくSK329上に板状施設を設ける必要があると考えられるが、その痕跡が土層断面で確認できないことから、SH308とSK329は同時に機能していないと考えられる。よって、SH308が廃絶し、埋没しない早い段階でSK329が掘削されたといえる。では、SK329はどのような機能を持つ土坑であるのかといえば、内部に例えば壁周溝・主柱穴・カマド等の竪穴住居としての施設が確認できないことから、竪穴住居とは考えられない。これらのことは、前述のSH203におけるSK221と同様である。土坑内からは、多くの焼土・粘土と共に、土師器台付椀・高杯・台付甕、須恵器杯蓋、不明土製品が出土した。これらのことから、SK329は廃棄土坑としての機能が考えられる。出土遺物(1149～1166)には土師器小型壺・把手付鉢・高杯・台付甕・甕・長胴甕・管状土製品、須恵器壺・蓋杯がある。SK329出土遺物(1167～1182)には、土師器土錘・甕・高杯・鉢・台付甕、須恵器蓋杯がある。

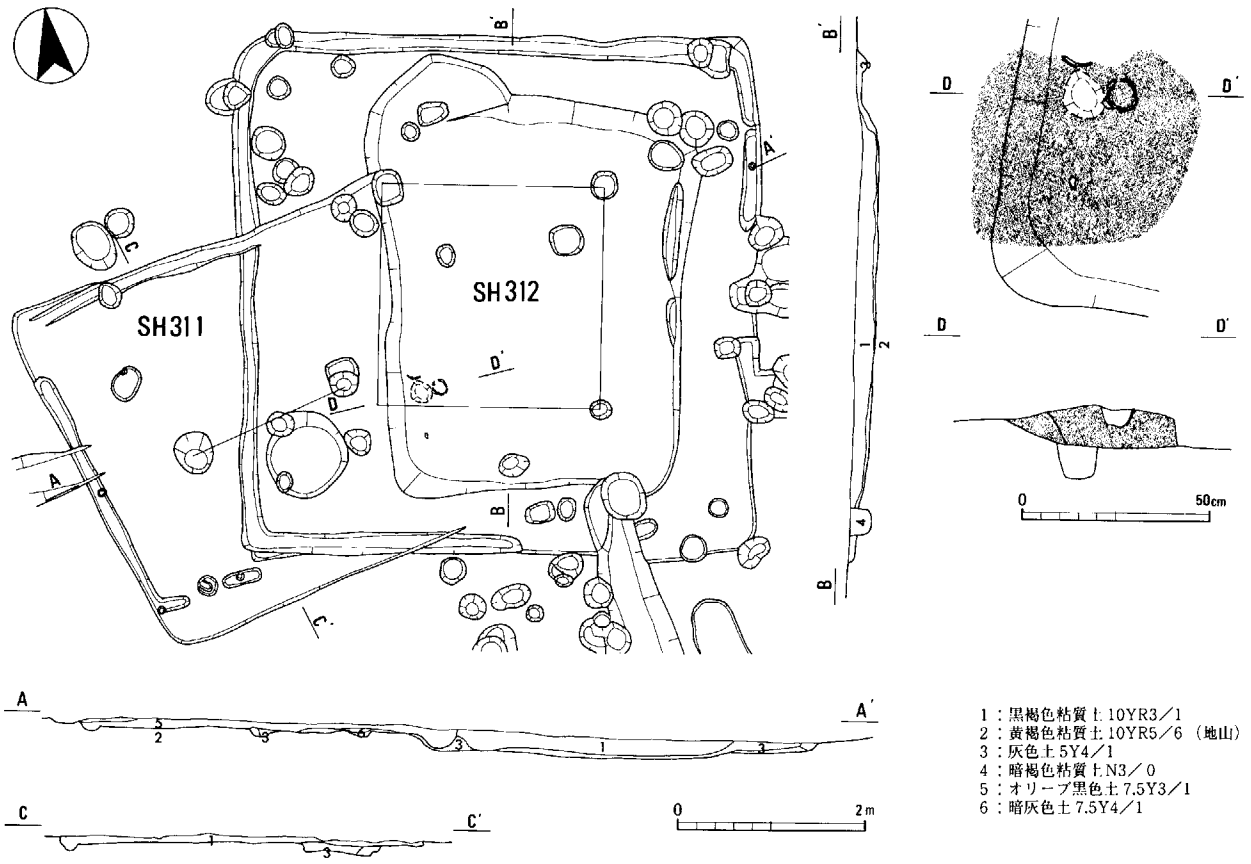
SH365(第109図)　SH306廃絶後に掘削されている。残存する規模は東西3.3m以上・南北3.4m以上で、深さはわずか2cmである。カマドは確認できないが、建物方向は残存する住居壁からN11°Eと設定する。壁周溝は南西隅のみ残存している。主柱穴は4ヶ所あり、柱間は1.9mの等間である。カマド・貯蔵穴は検出できない。埋土には焼土・炭化物が多く混じり、南部床面には被熱箇所が認められた。

SH312(第110図)　一辺5.5m、深さ5cmの正方形を呈す竪穴住居である。カマドは確認できないが、同時期に属する、貯蔵穴を南東隅にもつ他の竪穴住居は、みなカマドを東辺に持つことから、SH312についても同様に考えると、建物方向はN99°Eである。貯蔵穴は南東隅にあり、径40cm、深さ40cmである。壁周溝は所々途切れるが、ほぼ全周するようである。主柱穴は南西隅以外の3ヶ所確認でき、柱間は2.4mの等間である。

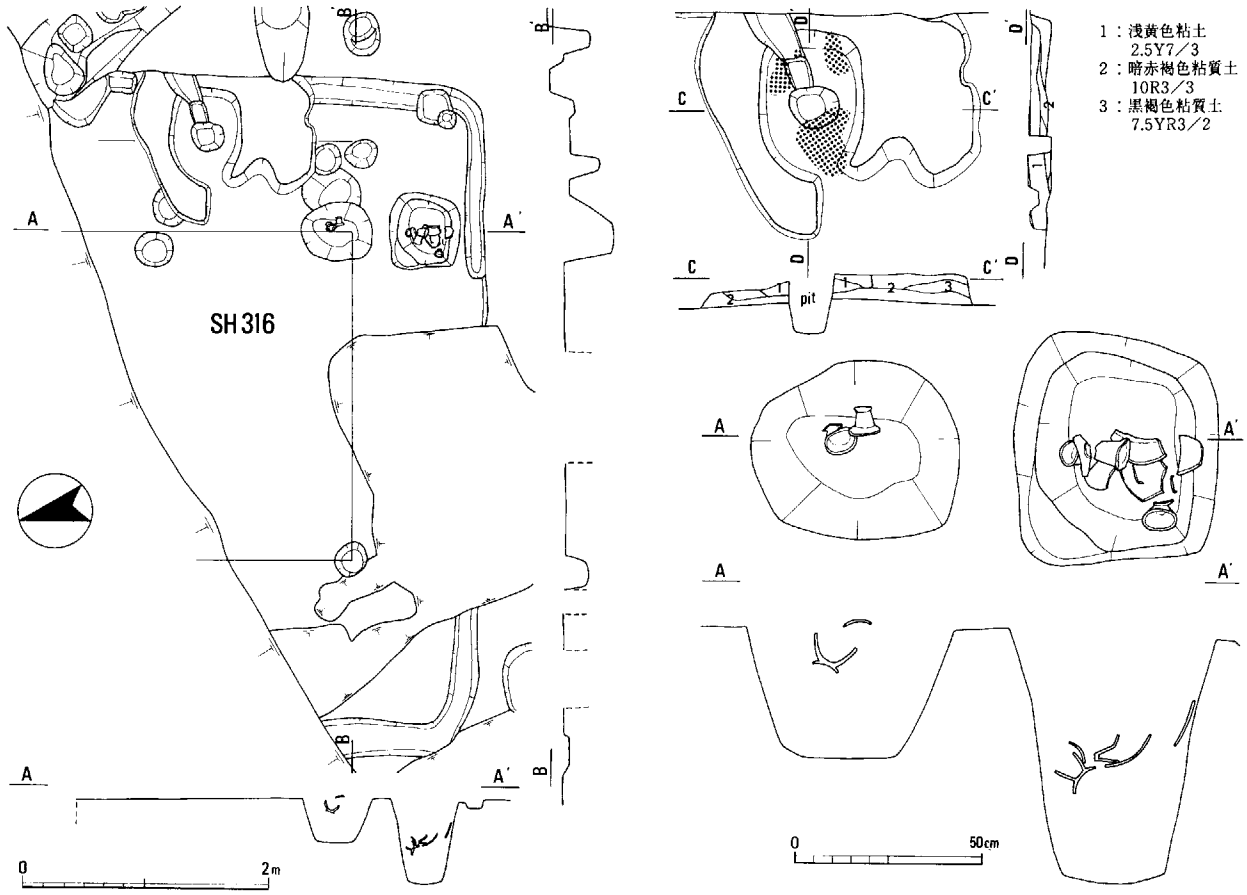
中央には一辺4.2m×3.6m、深さ20cmの方形土坑SK315がある。この土坑内からは土師器高杯・甕・台付甕・管状土製品、鞴羽口、須恵器蓋杯・高杯脚部(1064～1080)が廃棄されたような状態で多く出土した。土層観察の結果、他の竪穴住居に見られる方形土坑と同様、竪穴住居が埋没する以前に掘削されたようである。出土遺物には、埋土出土遺物として、土師器杯・高杯・台付甕・甕、鞴羽口、須恵器瑤(1055～1062)、貯蔵穴出土遺物に土師器台付甕(1063)がある。

SH316(第111図)　調査区外へ広がり、下半部は攪乱を受けている。残存する規模は東西7.3m×南北4.2m以上、深さ15cmの規模を有す竪穴住居である。他の竪穴住居と同様、正方形を呈すものと思われる。建物方向はN107°Eである。壁周溝は調査部分では全周する。主柱穴は2ヶ所確認でき、柱間は3.5mである。右上主柱穴内から、土師器台付甕台部・高杯脚部(1195～1196)が出土した。カマド構築土には白色粘土も用いられているが、粘土自体には被熱が見られない。貯蔵穴は右上隅にあり、一辺60cm、深さ70cmのやや方形を呈す。中からは土師器台付甕台部2個体・土師器高杯等(1191～1194)が出土した。他、出土遺物(1183～1189)には、他に土師器高杯・甕・台付甕、須恵器蓋杯がある。

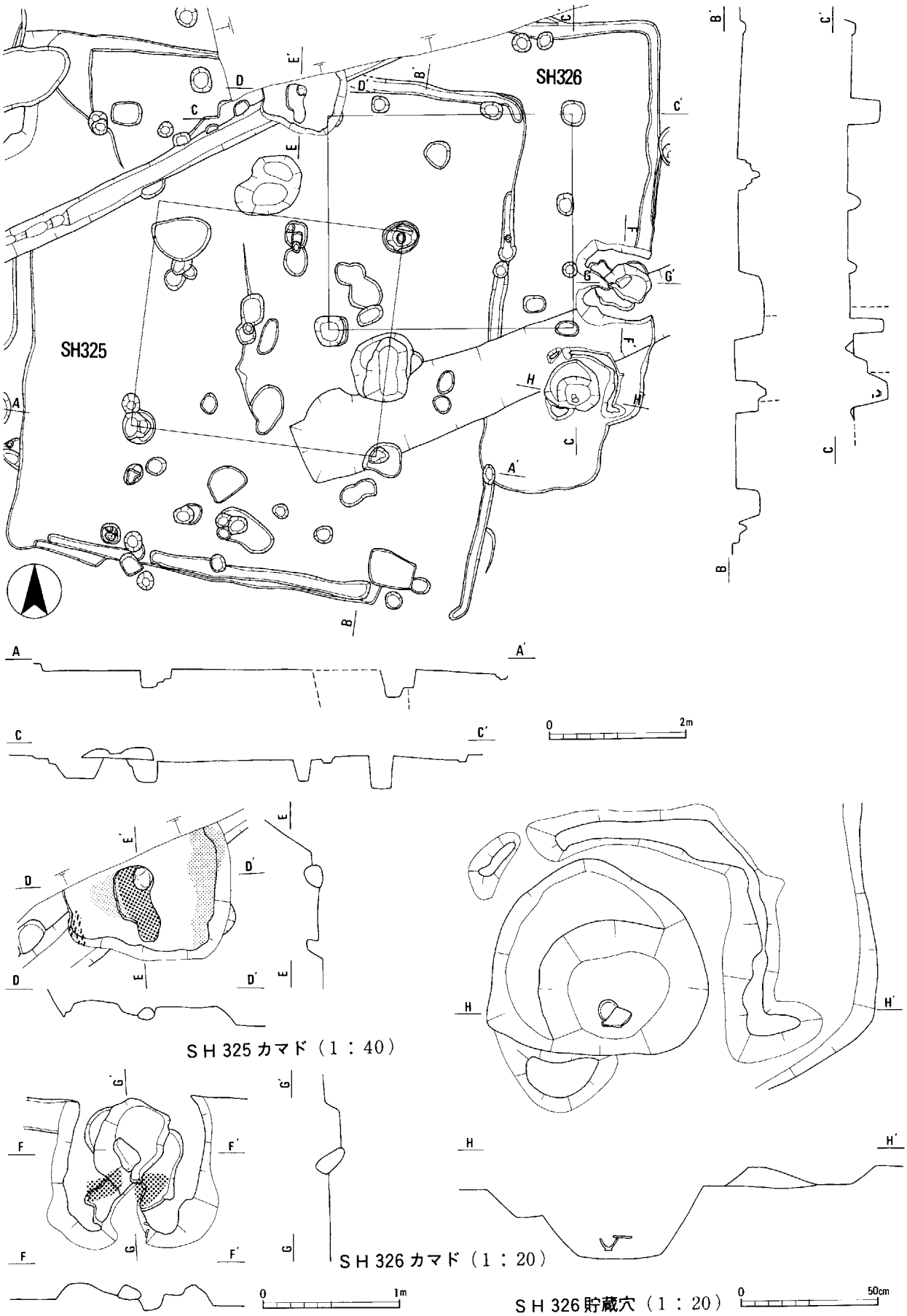
SH325(第112図)　東西7m×南北8m、深さ5cmのやや長方形を呈す竪穴住居である。他の竪穴住



第110図　SH311・312 実測図（1：80、カマドは1：20、水糸高は 19.000m）



第111図　ＳＨ 316 実測図（1：60、カマド・貯蔵穴は1：20、水糸高は 18.800m）



第112図　SH 325・326（1：80、カマドは1：40、貯蔵穴は1：20、水糸高は19.000m）

居と同様、正方形を呈すものと思われる。建物方向はＮ９°Ｅである。壁周溝は左辺では確認できない。主柱穴は４ヶ所確認でき、柱間は3.5～4ｍである。カマド構築土には白色粘土も用いられているが、粘土自体には被熱が見られない。カマドはSH326の左下主柱穴上に構築されている。カマド前方に、径１ｍ、深さ10㎝断面レンズ形の土坑がある。

SH326(第112図)　一辺5.8ｍ、深さ５㎝の正方形を呈す竪穴住居である。建物方向はN96°Ｅである。壁周溝はほぼ全周する。主柱穴は４ヶ所確認でき、柱間は3.2～3.6ｍである。貯蔵穴は右上隅にあり、径70㎝、深さ30㎝である。

SH333(第113図)　推定規模は一辺6.1ｍ×5.9ｍ、深さ５㎝のほぼ正方形を呈す竪穴住居である。カマドは確認できないが、残存する壁周溝方向から建物方向はＮ９°Ｅである。壁周溝は左上角部分のみ検出できた。主柱穴は４ヶ所確認でき、柱間は3.0ｍ×3.2ｍである。主柱穴はいずれも重複していることから、建替えが行われている可能性がある。貯蔵穴は確認できなかった。出土遺物(1220～1221)には土師器杯破片･台付甕口縁部破片がある。

SH334(第113図)　３分の２以上が調査区外へ広がる。残存する部分で東西2.5ｍ以上･南北1.7ｍ以上、深さは５㎝の規模を有す。カマドは確認できないが、残存する壁周溝方向から建物方向はN8°Eと任意で設定する。壁周溝は左下角部分のみ検出できた。検出し得る部分が限られているため、貯蔵穴･主柱穴･カマドは調査区内では確認できなかった。左下角床面上には白色粘土が遺存していた。出土土器は細片のみであった。

SH341(第114図)　一辺4.9ｍ、深さ20㎝の正方形を呈す竪穴住居である。住居建物方向はN2°Wである。住居中央やや左寄りには径1.4㎝、深さ10㎝の断面レンズ形土坑が掘られている。明確な貯蔵穴は見られない。カマドには支柱石の代わりに土師器高杯脚部(1230)と、底部と体部一部を欠いた土師器鍋(1231)を組み合わせている。壁周溝は全周する。主柱穴は４ヶ所確認でき、柱間は2.3ｍの等間である。SA305と重なる部分には床を貼っている。出土遺物(1222～1231)には土製品、土師器小型壺･杯･鉢･高杯･甕がある。

SH342(第115図)　推定規模は東西8.5ｍ×南北6.1ｍ以上、深さ２㎝の規模を有す。カマドは確認できないが、残存する壁周溝から建物方向はN14°Ｅと任意で設定する。貯蔵穴は右下隅に見られる。壁周溝は上辺のみ確認できた。主柱穴は右上・左下の２ヶ所で確認でき、推定の柱間隔は東西4.6ｍ×南北4.1ｍである。

中央には東西6.1ｍ×南北6.3ｍ、深さ55㎝の方形土坑が掘られている。この土坑内からは多くの焼土や黄色･白色粘土、土師器･須恵器等が出土した。土層断面観察から、竪穴住居が廃絶した後に掘削、焼土や土器･粘土を廃棄した様子が窺える。

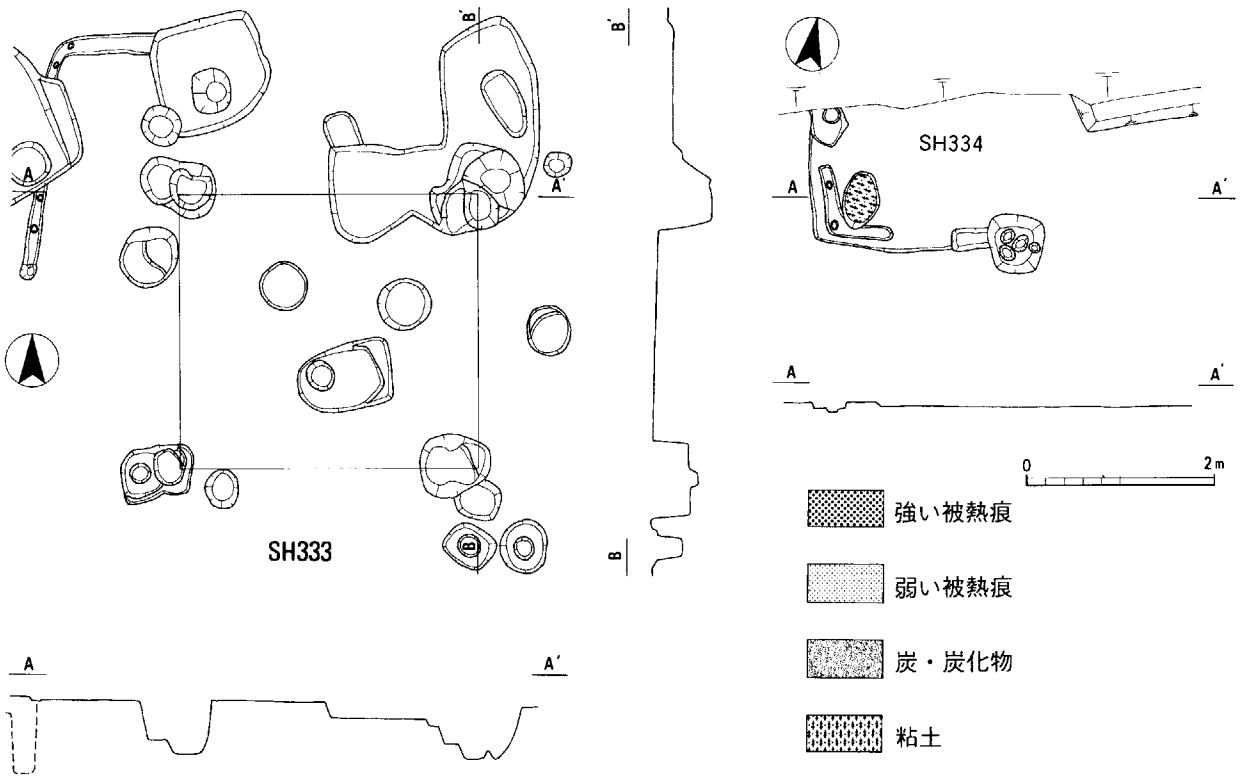
出土遺物(1232～1364)は、中央の方形土坑からで、土製品、土師器杯･台付椀･高杯･小型甑･小型甕･甕･甑･台付甕、須恵器蓋杯･瑤･壺･無蓋高杯、石製品、鉄製品がある。

SH345(第116図)　一辺5.5ｍ×5.7ｍ、深さ20㎝のほぼ正方形を呈する竪穴住居である。建物方向はＮ84°Ｅである。カマド燃焼部には支柱石が確認できた。貯蔵穴は径80㎝、深さ60㎝の円形を呈し、右上隅にある。貯蔵穴の周囲に幅10㎝の土手を巡らせている。壁周溝は所々途切れるが、ほぼ全周するようである。カマド下にも壁周溝が見られ、壁周溝を掘削した後、カマドを構築したものと思われる。主柱穴は左上･左下の２ヶ所確認でき、柱間は2.6ｍの等間になると考えられる。

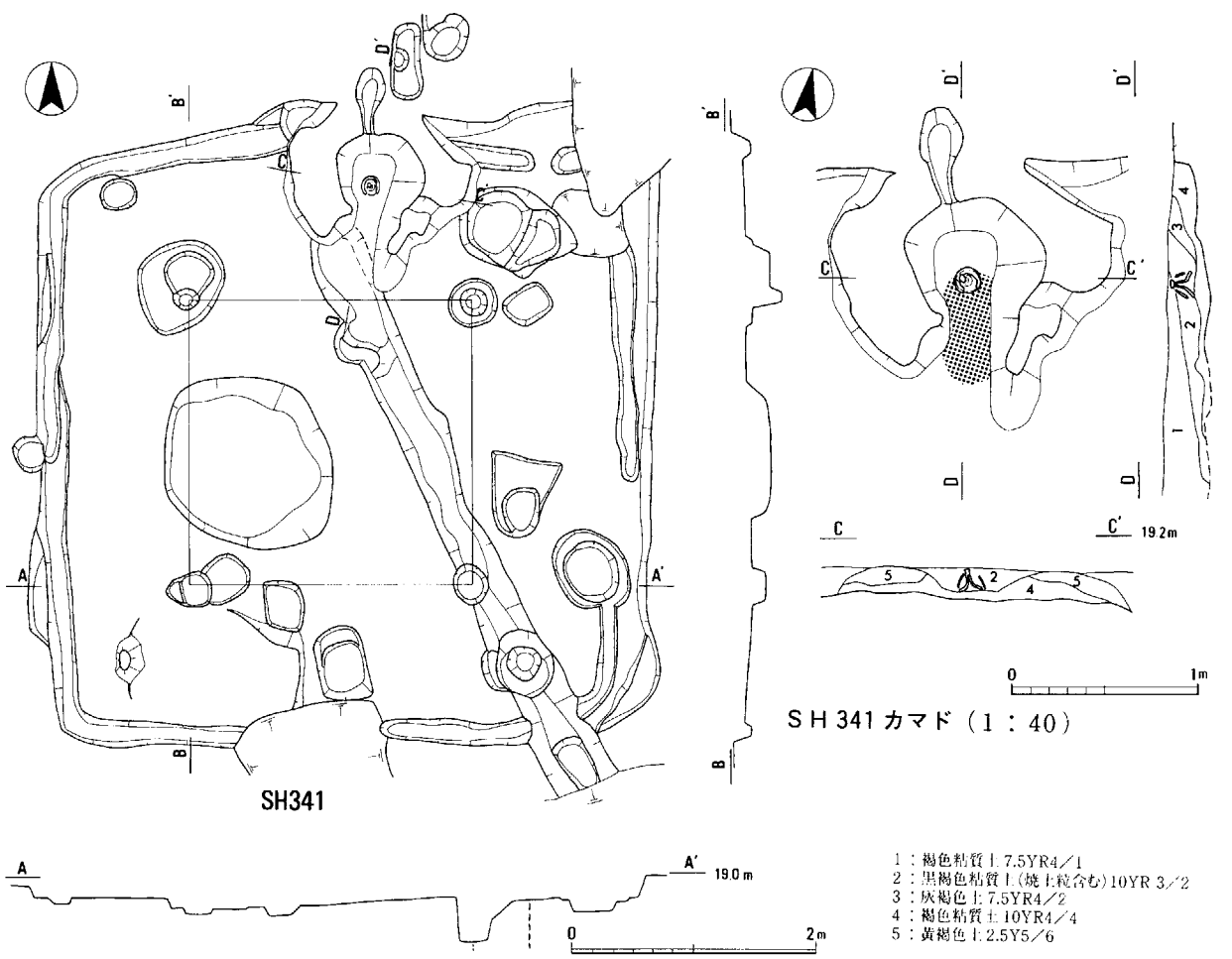
中央に一辺3.5ｍ、深さ60㎝の方形土坑SK351がある。この土坑内からは焼土が多く見られ、右下角壁面に弱い被熱痕が見られた。また、左上角付近から鉄滓１点が出土した。土層観察の結果、SK351は他の竪穴住居の方形土坑と同様、竪穴住居が埋没する以前に掘削されたようである。

出土遺物(1365～1373)には、土師器杯･小型壺･台付甕･不明製品、須恵器杯身･甕がある。SK351からは須恵器杯身･無蓋高杯、土師器土錘、図化していないが鉄滓が出土している。

SH346(第116図)　SH345廃絶後に掘削されている。一辺5.4ｍ、深さ10㎝の正方形を呈す竪穴住居である。建物方向はＮ１°Ｗである。建物軸中央には径1.2ｍ、深さ20㎝の断面レンズ形の土坑が掘られている。土坑内から土師器台付甕(1383)が出土

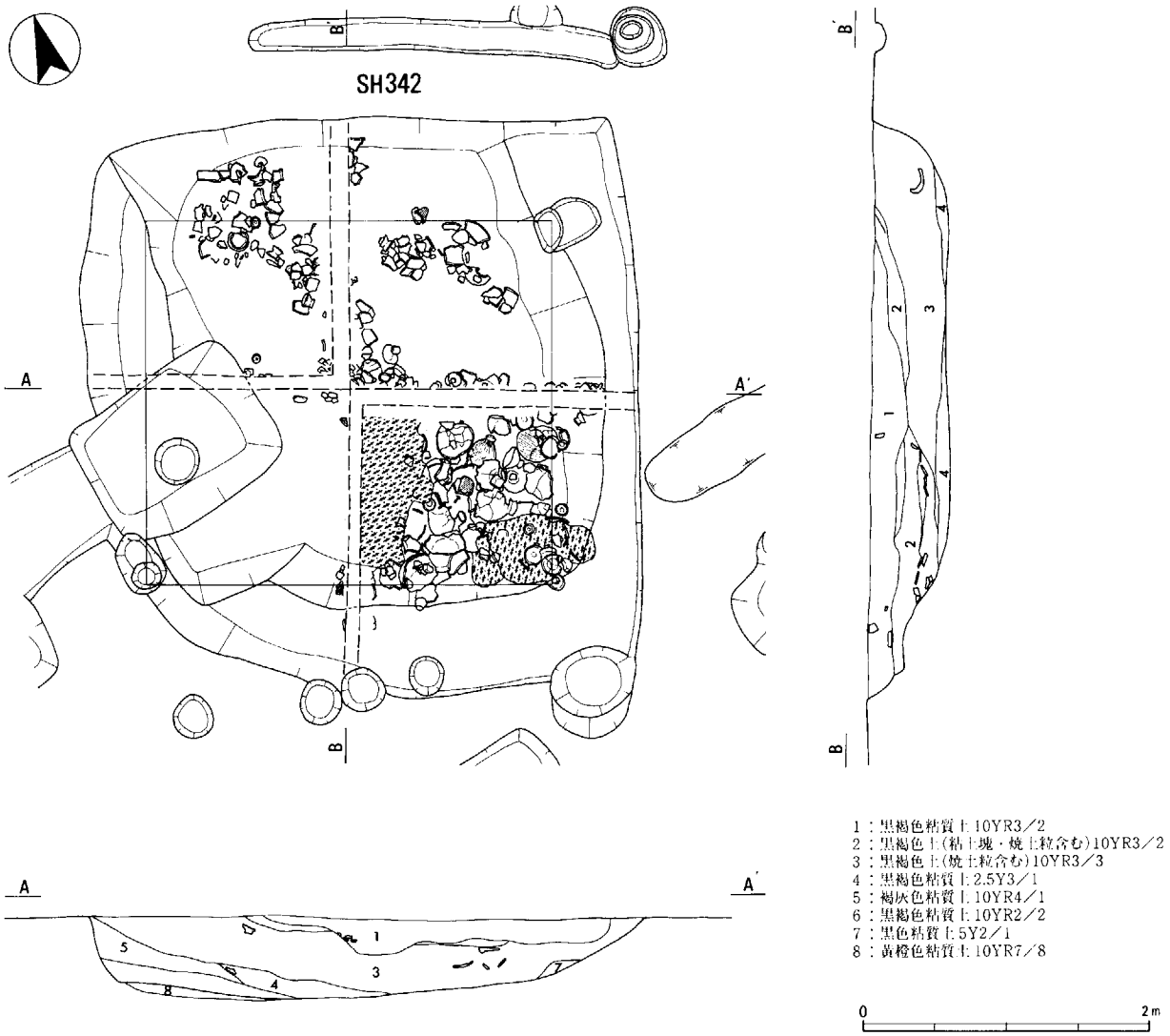


第113図　SH333・334実測図(1:80、水糸高は19.000m)



ＳＨ 341 カマド（１：40）

第114図　ＳＨ 341 実測図（１：60、カマドは１：40）



第115図　ＳＨ 342 実測図（１：50、水糸高は 19.000m）

している。貯蔵穴は見られない。カマド支柱石は確認できなかった。壁周溝は下辺以外は巡る。カマドドにも壁周溝が見られることから、まず壁周溝を掘削した後、カマドを構築したものと思われる。主柱穴は右下以外の３ヶ所確認でき、柱間は 2.0m×2.4mである。出土遺物には、埋土出土遺物(1374～1380)として土師器把手・高杯・台付甕・鍋がある。カマド出土遺物には土師器高杯(1381)がある。主柱穴から土師器台付椀(1382)が出土している。

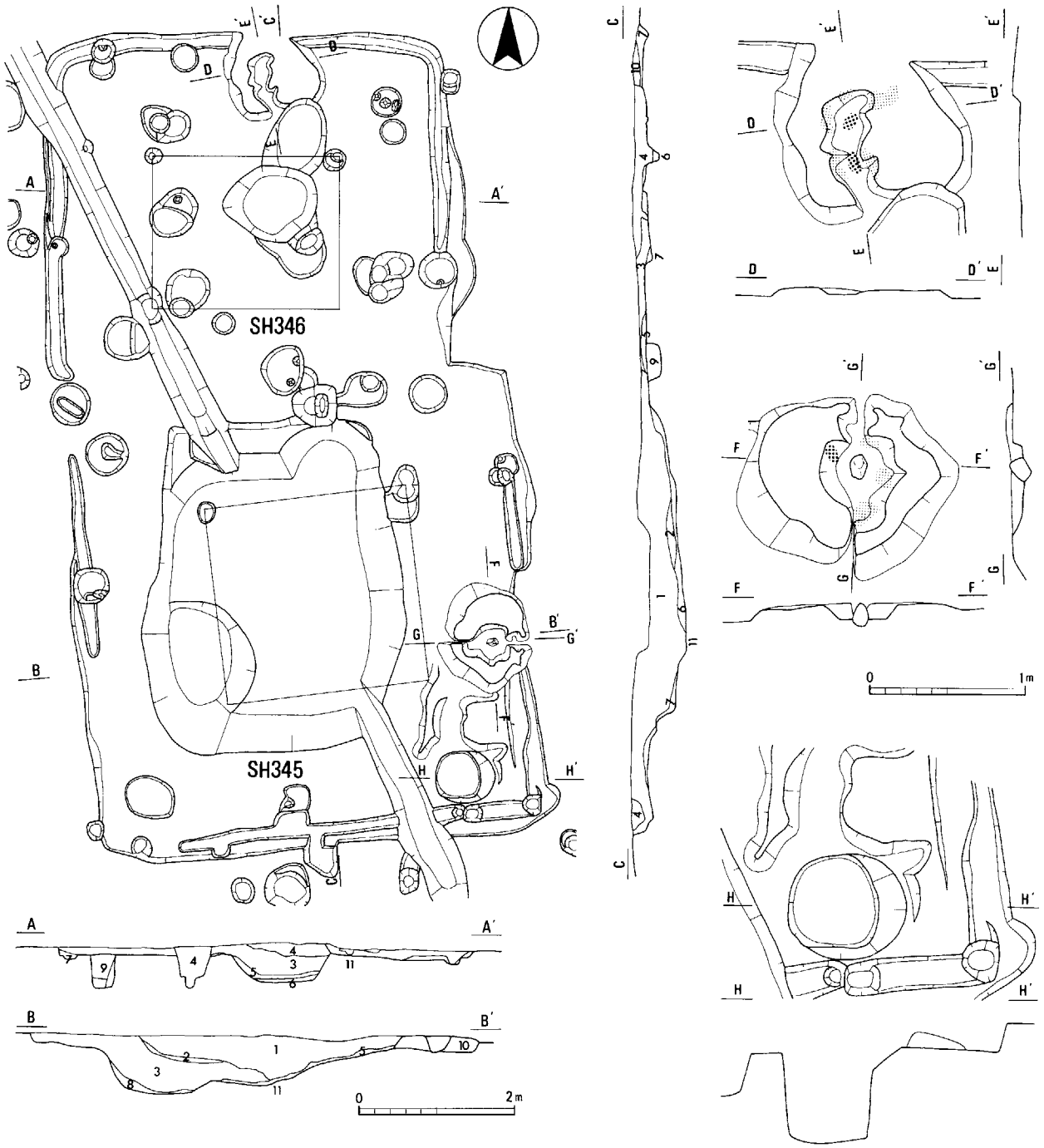
SK252(第117図)　4.4m×3.6m、深さ 40cmの不定形の土坑である。断面形は箱型を呈す。カマド・壁周溝・主柱穴等の施設が見られないことから、竪穴住居ではない。埋土からは比較的多量の粘土と土器細片が出土した。粘土採掘土坑の可能性がある。図化できる遺物はなかった。

(3) 飛鳥・奈良時代

古墳時代後期に比して竪穴住居の規模が縮小し、Ｇ区においては明確な焼成土坑が見られる時期である。時期としては、ここでは都城編年でいうところの飛鳥Ⅱ期～平城Ⅴ期併行期[3]のものとする。個々の遺構について見ていく。

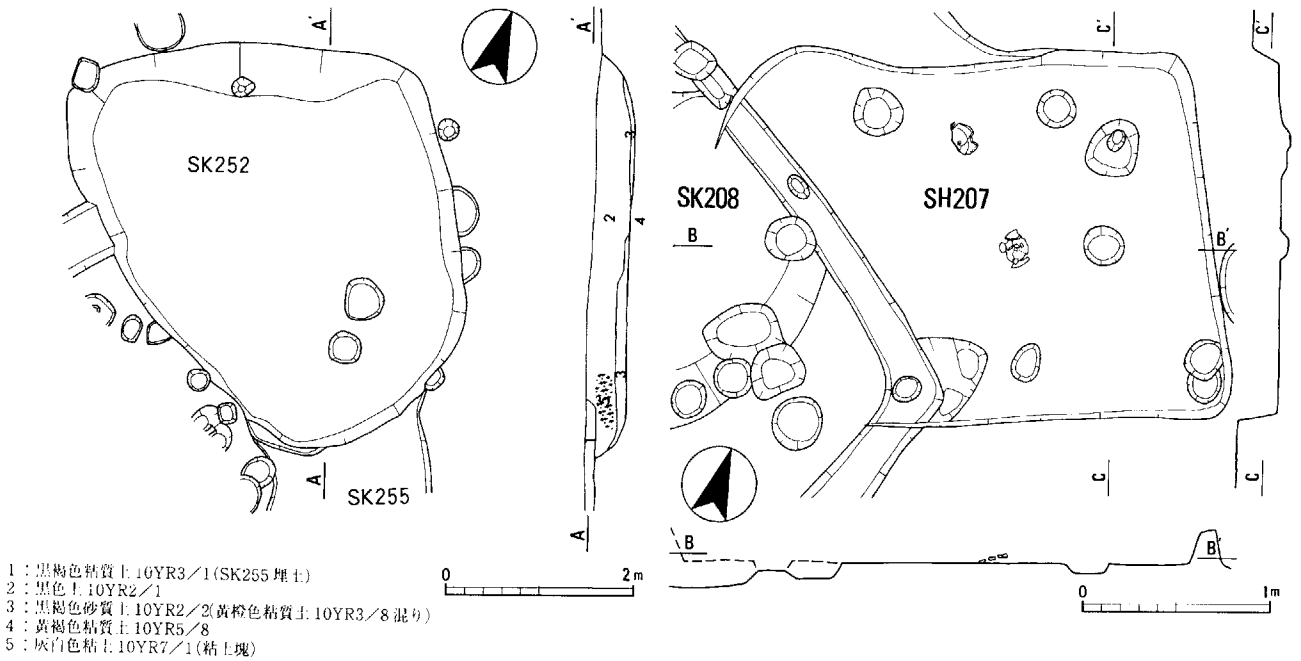
SH207(第117図)　長辺 2.7m×短辺 2.0m、深さ 15cmの長方形を呈す竪穴住居である。カマドは確認できないが、建物方向はN75°Ｅと任意で設定する。主柱穴は２ヶ所確認でき、柱間は 1.7mである。ほぼ床面直上で土師器杯(1440)が出土した。飛鳥Ⅲ期併行期をくだらない時期のものと考えられる。

SH209(第118図)　一辺 4.6m、深さ 20cmの正方形を呈すと考えられる竪穴住居である。建物方向はＮ９°Ｅである。ほぼ中央付近は現代のゴミ穴として掘られた攪乱がある。また左半分は調査区外に広がる。右上隅に径 60cm、深さ22cmの円形を呈する貯



1：黒褐色粘質土 10YR3／1
2：黒褐色粘質土 10YR3／1(焼土粒を含む)
3：黒色シルト 10YR2／1
4：暗灰黄色砂質土 2.5Y4／2
5：黒色粘質土 2.5Y3／1(浅黄色土 2.5Y7／4 をやや含む)
6：黄灰色粘質土 2.5Y5／1
7：オリーブ黒色粘質土 5Y5／1
8：褐灰色シルト 10YR4／1
9：暗灰色シルト N3／0(明黄褐色ブロック 2.5Y6／6 含む)
10：暗灰黄色粘質土(2.5Y4／2)
11：明黄褐質土 10YR6／8(地山)

第116図　ＳＨ 345 ・ 346 実測図（１：80、カマド・貯蔵穴は１：40、水糸高は 19.000m）



第117図　SK252・SH207実測図（SK252は1：80、SH207は1：40、水糸高は19.000m）

蔵穴がある。中からは土師器杯・甕、須恵器杯身(1407～1409)が一括で出土した。主柱穴は左下以外の3ヶ所確認でき、柱間は2.1m×2.3mである。

カマド周辺に大量の土師器(1412～1419)を検出したが、土層観察の結果、住居が廃絶して暫く土が流れ込んだ後、浅い落ち込みの状態のときに廃棄されたものと思われる。他、出土遺物(1395～1419)として、土師器杯・壺・高杯・甕・甑・管状土製品、須恵器甕がある。

SH215(第118図)　一辺2.6m×2.9m、深さ8cmのやや長方形を呈する竪穴住居である。北東隅にカマドがあるため、住居建物方向はN9°Eと任意で設定する。主柱穴は4ヶ所確認でき、間隔は1.1m×1.2mである。出土遺物には土師器杯・甕(1420～1421)がある。

SH224(第119図)　一辺3.0m×3.3m、深さ16cmのほぼ正方形を呈する竪穴住居である。建物方向はN96°Eである。カマドはやや右隅に寄る。主柱穴は左上以外の3ヶ所確認でき、柱間は1.3mである。壁周溝・貯蔵穴は確認できない。出土遺物には土師器杯(1423)がある。平城Ⅲ併行期と考えられる。

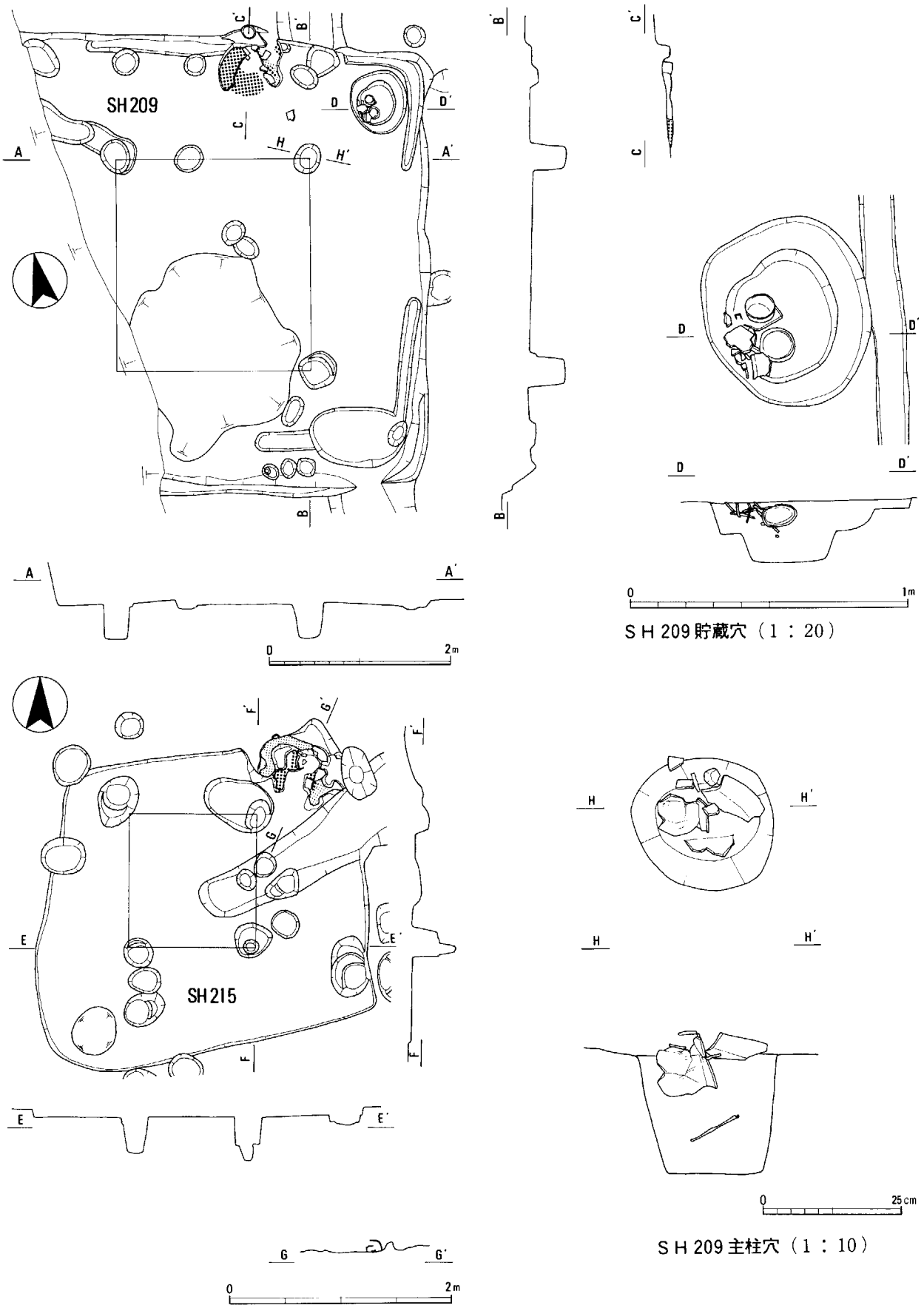
SH230(第119図)　一辺3.3m×2.4m、深さ30cmの長方形を呈す竪穴住居である。南東隅にカマドがあるため、建物方向はN170°Eと任意で設定する。カマドは住居角を利用して袖部としている。壁周溝は上・下・左辺で見られる。主柱穴は左下以外の3ヶ所確認でき、柱間は1.1m×1.3mである。貯蔵穴はない。床面全体が踏みしめのため硬化している。出土遺物(1424～1429)には土師器有孔円盤・皿・甕がある。飛鳥Ⅲ～Ⅳ併行期の所産と考えられる。

SH241(第121図)　3.4m×2.6m、深さ21cmの長方形を呈する竪穴住居である。建物方向はN21°Eと任意で設定する。住居右上部に径40cm、深さ5cmの断面形レンズ状の土坑があり、内部には焼土が堆積し底は被熱している。これは炉跡と考えられる。壁周溝・主柱穴は見られない。住居右辺に集中して土師器杯(1430～1436)が出土した。

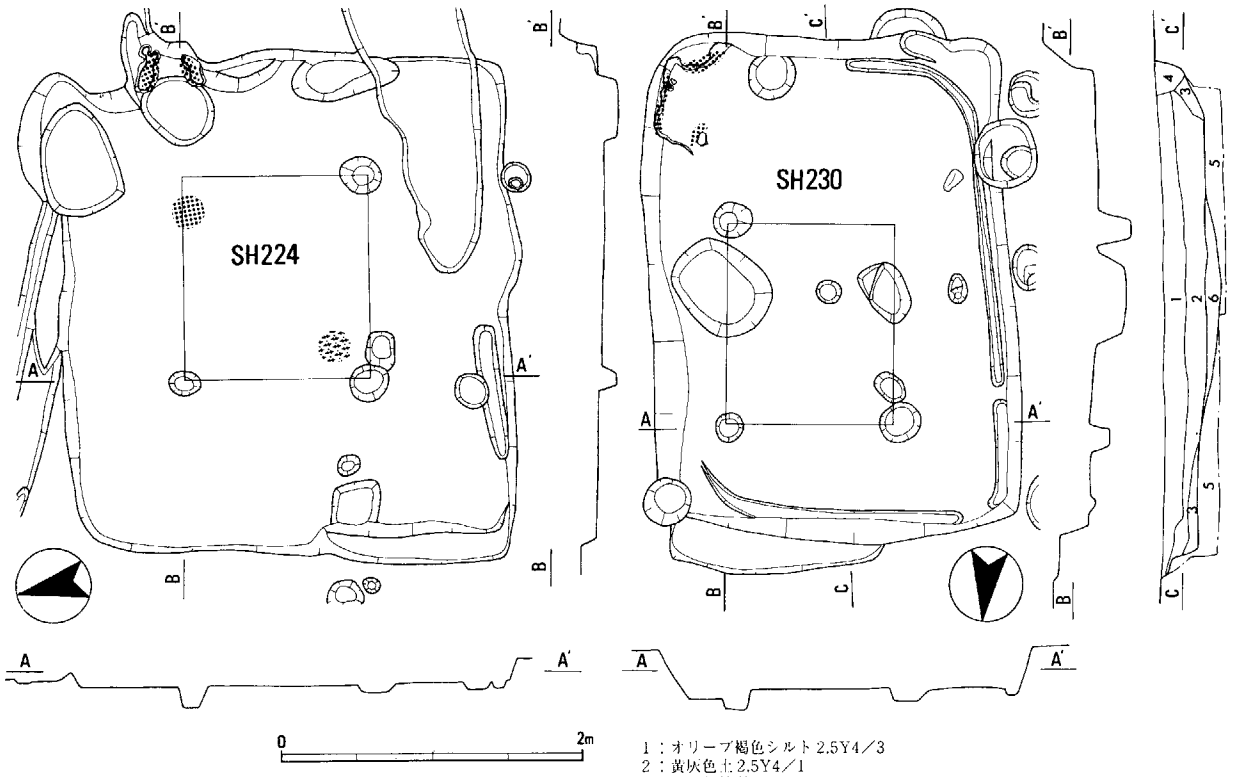
SH242(第120図)　SH244廃絶後に建てられている。4.5m×3.3m、深さ35cmの長方形を呈す。建物方向はN10°Eである。カマドはやや右寄りに構築されている。建物軸に対してやや主軸を傾け、煙道として土師器長胴甕(1458)を少なくとも2個体連結させている。カマドの西にはカマドの袖状構築物がもう一ヶ所確認できた。主柱穴・貯蔵穴はない。

住居の左・下辺に深さ5cmの溝が床下で確認できた。土層観察によると、この溝を掘削した後、床を貼っている。この溝についての機能・用途は不明である。出土遺物(1447～1458)には、土師器ミニチュア・台付甕・高杯・甕・長胴甕・移動式カマド、砥石がある。これらの土器は調整・形状の特徴から、飛鳥Ⅱ併行期の所産と考えられる。

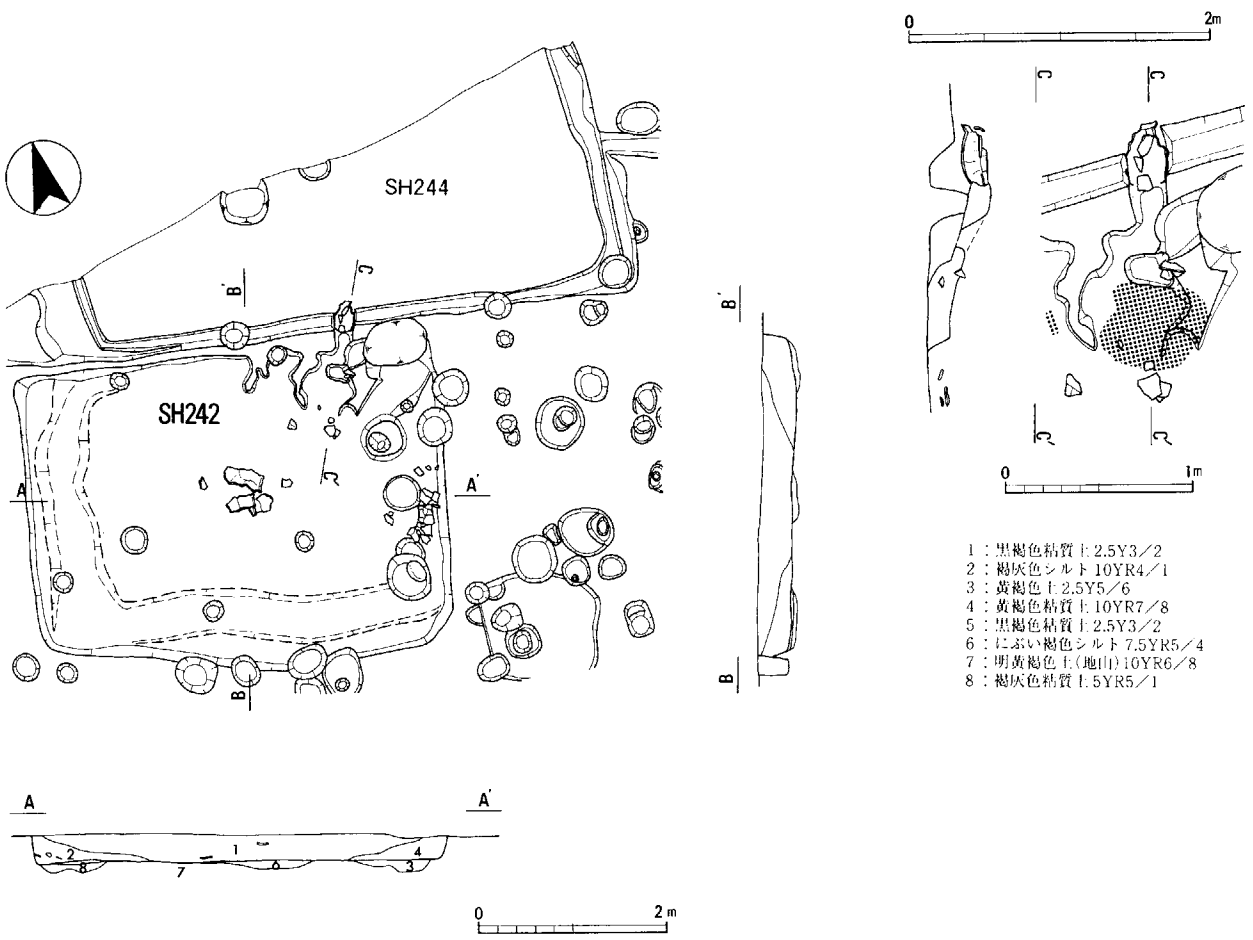
SH247(第100図)　一辺4.4m×2.4m、深さ10cmの



第118図　SH209・215実測図(SH209は1:60、SH215は1:50、貯蔵穴は1:20、主柱穴は1:10、水糸高は18.800m)



第119図　SH224・230実測図（1:50、水糸高は18.600m）

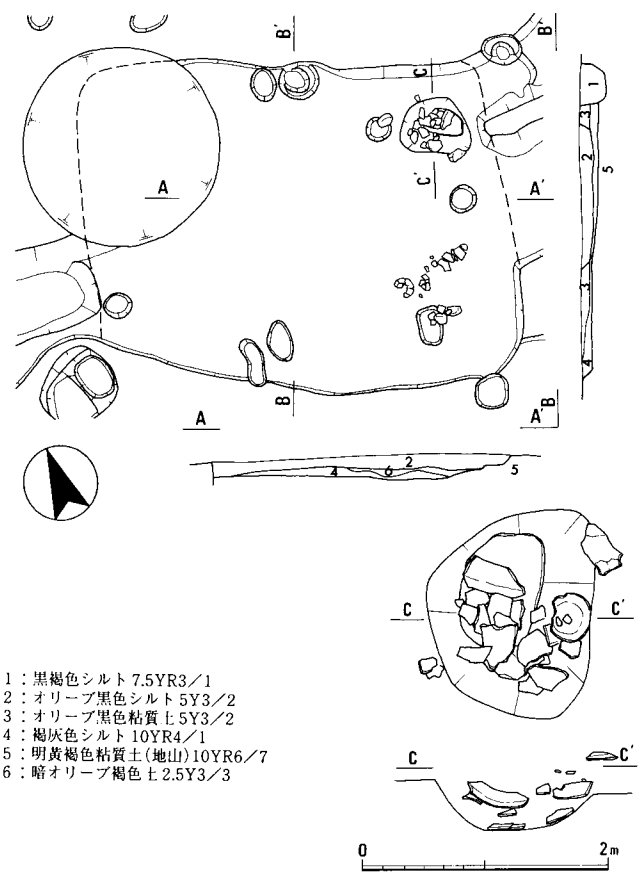


第120図　SH242・244実測図（1：80、カマドは1：40、水糸高は19.000m）

長方形を呈する竪穴住居である。建物方向はN92°Eである。壁周溝は左下隅にのみ確認できる。主柱穴・貯蔵穴はみられない。出土遺物(1459～1461)は、全てカマドからの出土であり、土師器杯・甕がある。飛鳥Ⅱ期併行期の所産と考えられる。

SH311(第110図)　一辺3.5m×4.3m、深さ10cmの長方形を呈す竪穴住居である。建物方向はN75°Eである。壁周溝は右辺などで途切れるが、全周するものと思われる。主柱穴は中央のピット2ヶ所の可能性がある。その場合、柱間は1.8mである。カマドの構造は明確に出来なかったが、土師器甕(1094)が倒立した状態で据わっており、SH312内のSK315の埋土である黒褐色土上にのっていた。他、出土遺物(1081～1093)は、竪穴住居埋土出土遺物として土製品、土師器高杯・杯蓋・杯・甕がある。飛鳥Ⅲ～Ⅴ併行期の所産と考えられる。

SH359　推定6.0m、深さ20cmの規模を有す。住居内で一段下がり、土坑があるものと思われる。狭い調査区のため建物方向、他施設等は不明である。出土遺物(1466～1471)には、竪穴住居埋土出土遺物として土師器鍋(1466)があり、飛鳥Ⅱ併行期の所産と考えられる。



第121図　SH241実測図（1:60、土器出土状況は1:20、水糸高は18.800 m）

SF254(第122図)　5.4m×4.9m、深さ3cmの平面形は不整円形、断面はレンズ状を呈す。床面全体が強く被熱する。出土遺物は細片ばかりだが、飛鳥の範疇に収まるのではないか。

SF318(第122図)　2.0m×2.4m、深さ10cmの平面形は楕円形、断面はレンズ状を呈す土坑である。床面全体が被熱し、中央が特に強い。出土遺物は細片ばかりであるが、飛鳥の範疇に収まるのではないか。

SF320(第122図)　推定1.4m×2.2m、深さ14cmの規模を有す。床面中央が強く被熱する。出土遺物は細片ばかりである。

SF354(第122図)　SH346と重複するため、被熱範囲から規模を推定した。径2.6m、深さ5cmの楕円形を呈す土坑である。床面全体が強く被熱する。出土遺物は細片ばかりであるが、飛鳥期の所産と考えられる。

SF368(第122図)　径2.6m、深さ5cmの平面やや楕円形、断面レンズ状の土坑である。床面全体が強く被熱する。床面直上から刀子(1473)が出土した。他、須恵器杯身(1472)があり、飛鳥Ⅱ併行期の所産と考えられる。

SF370(第122図)　被熱面のみ確認した。1.1m×1.7mの長方形を呈するものと考えられる。全体に弱い被熱痕が見られる。出土遺物はない。

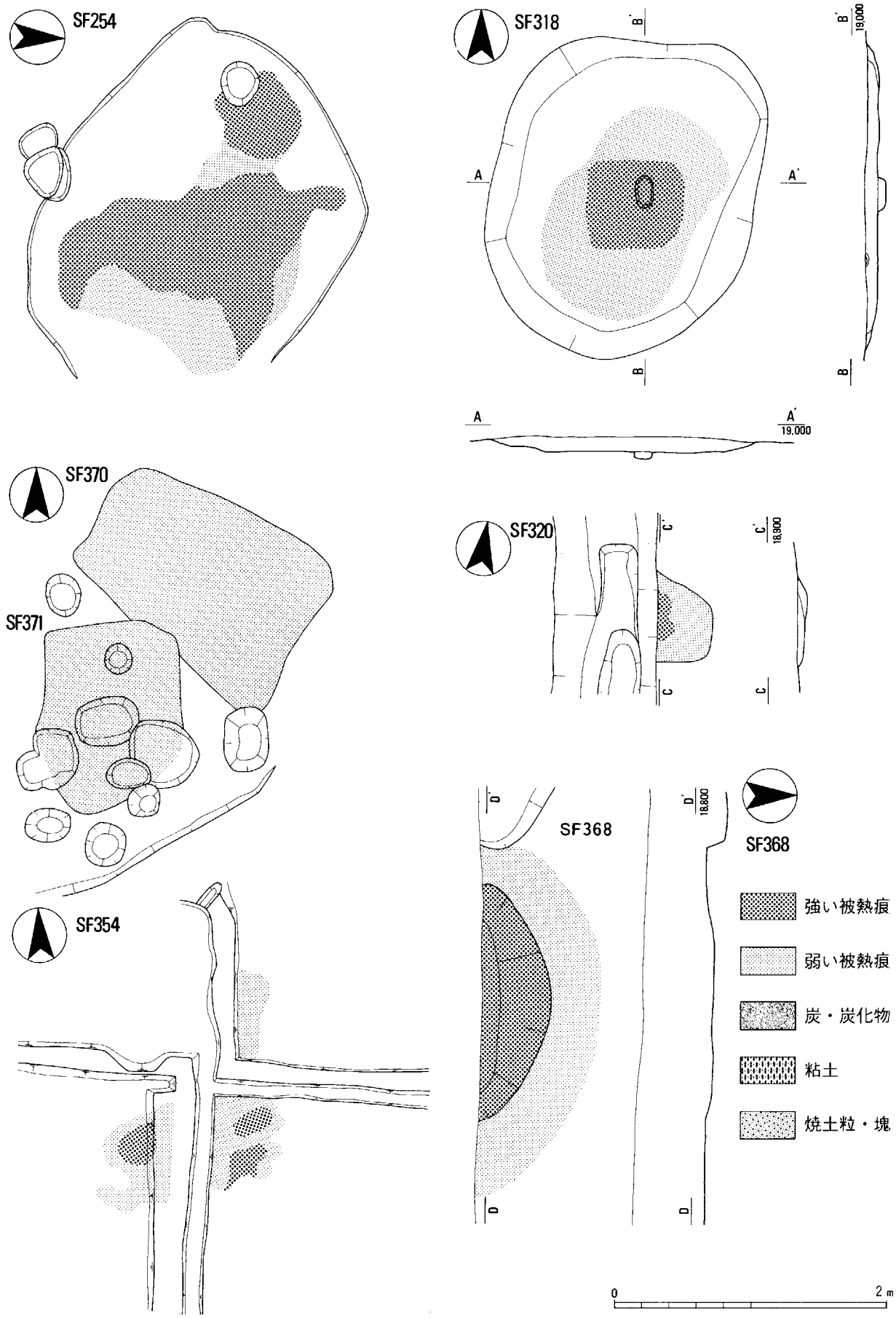
SF371(第122図)　被熱面のみ確認した。1.1m×1.4mの長方形を呈するものと考えられる。全体に弱い被熱痕が見られる。出土遺物はない。

(5) 中世

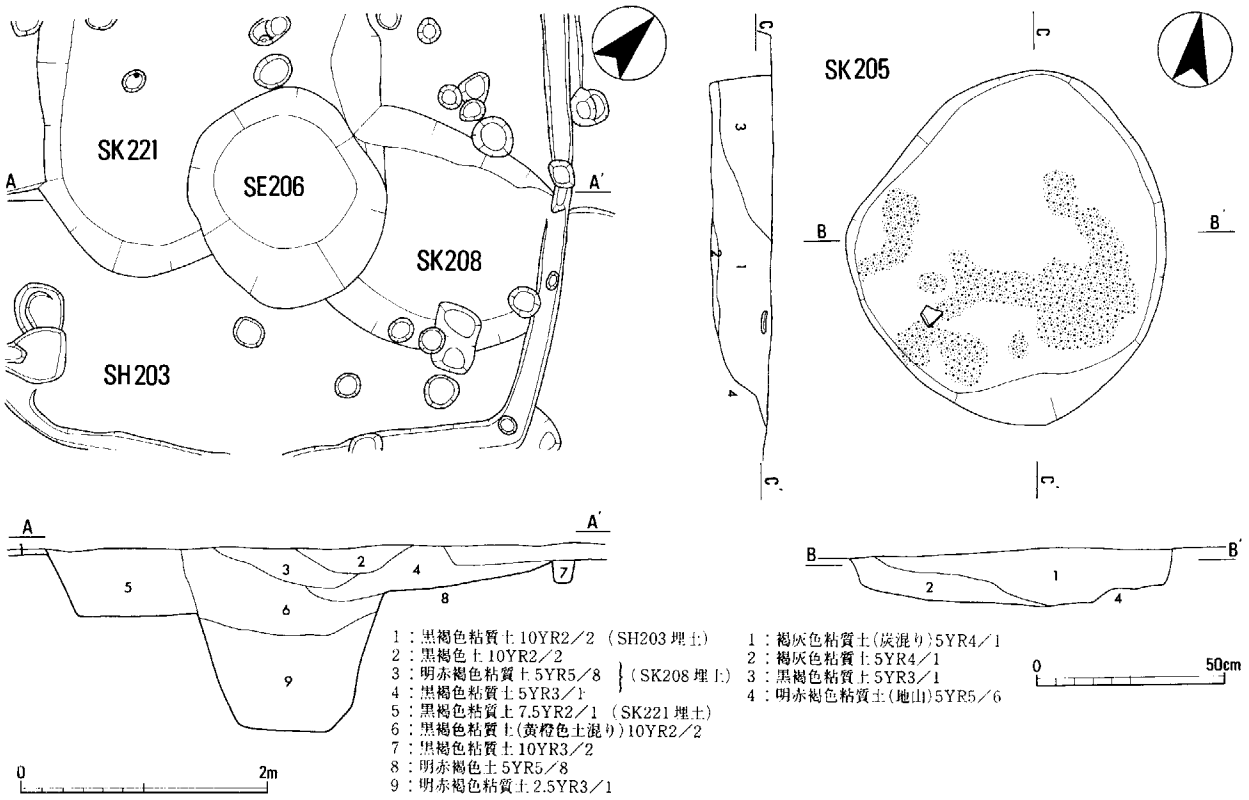
区画溝を伴う掘立柱建物が調査区全体に広がる。個々について見ていく。

SD201　調査区南より北方向に延びる。幅60～80cm、深さ15cmで調査区内で途切れる。長さは15mである。中に含まれる土器は細片であるが、12世紀後半代と考えられる。東西方向のSD232と組み合い、区画溝となると考えられる。

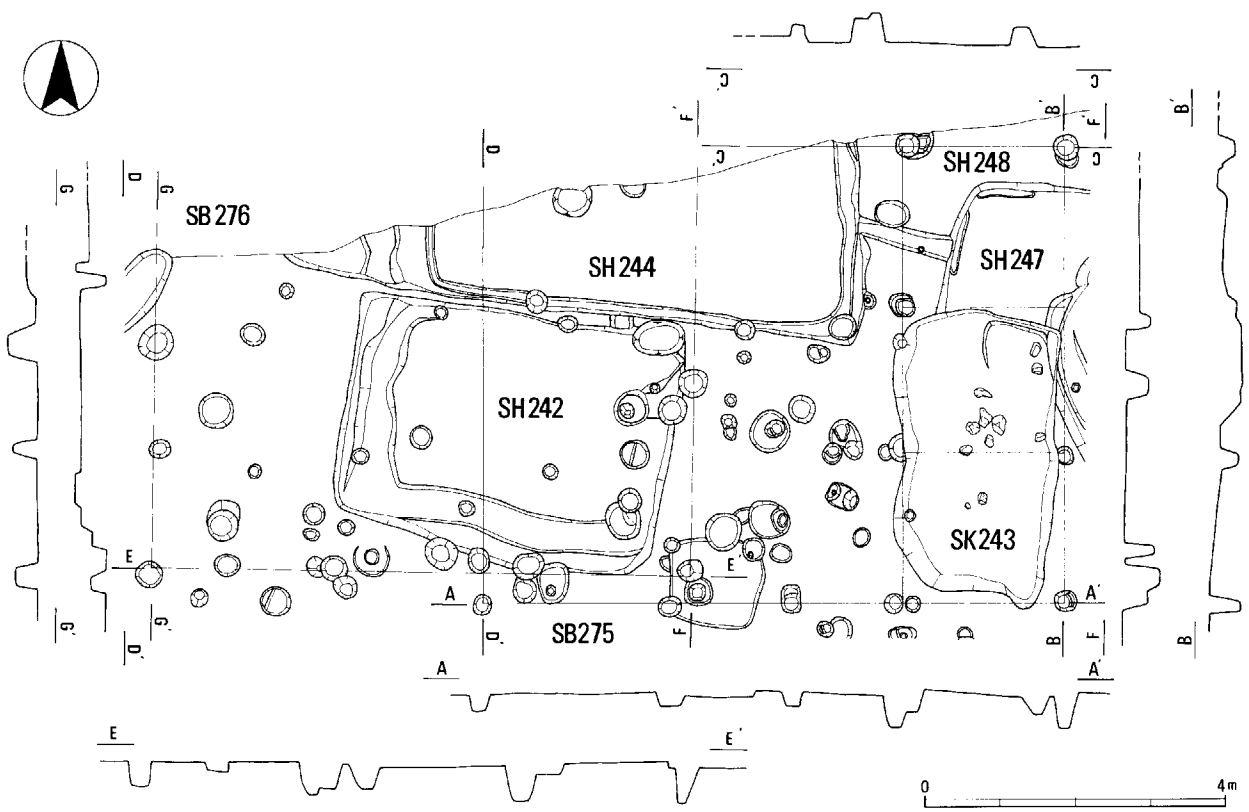
SD202　ほぼ南北方向に伸び東西方向に屈曲し調査区外へ延びる。区画溝としての機能が考えられる。中に含まれる土器は細片であるが、12世紀後半代と考えられる。他、出土遺物に土製丸玉、土師器甕



第122図　SF254・318・320・354・368・370・371 実測図（1：40）



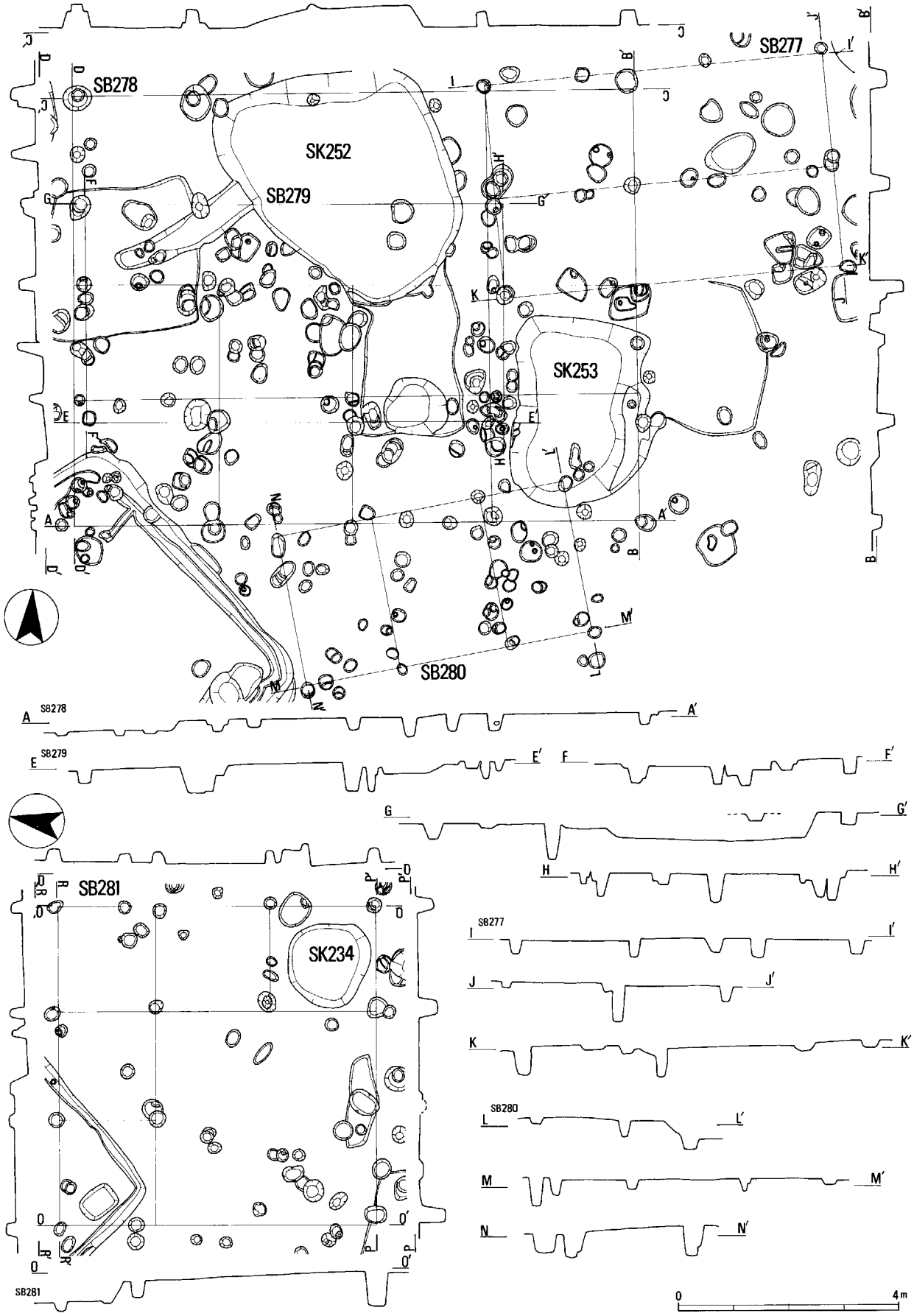
第123図　SE206・SK205・208実測図（SE206・SK208は1：60、SK205は1：20、水糸高は19.000m）



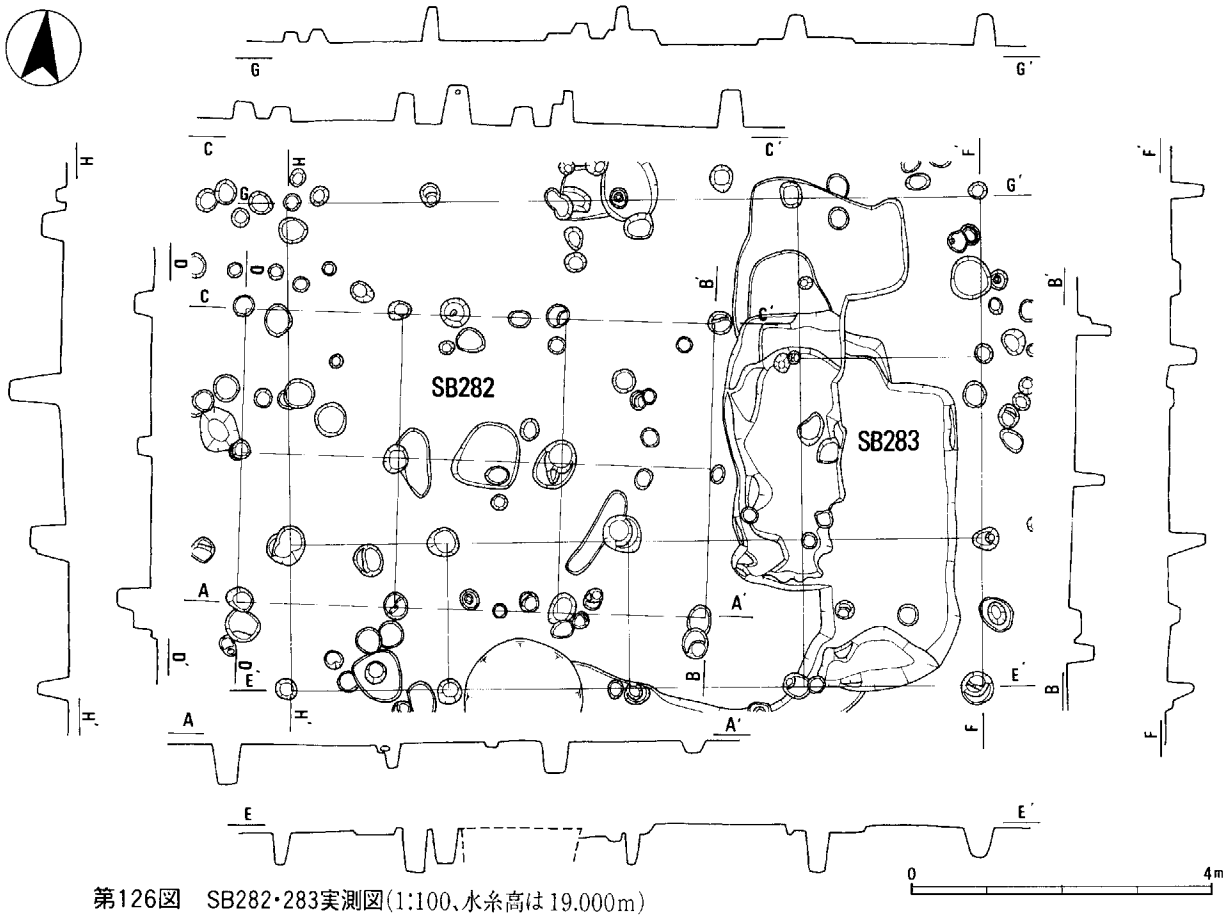
第124図　SB275・276実測図（1：100、水糸高は19.000m）

底部(1502·1503)があるが、混入の可能性がある。

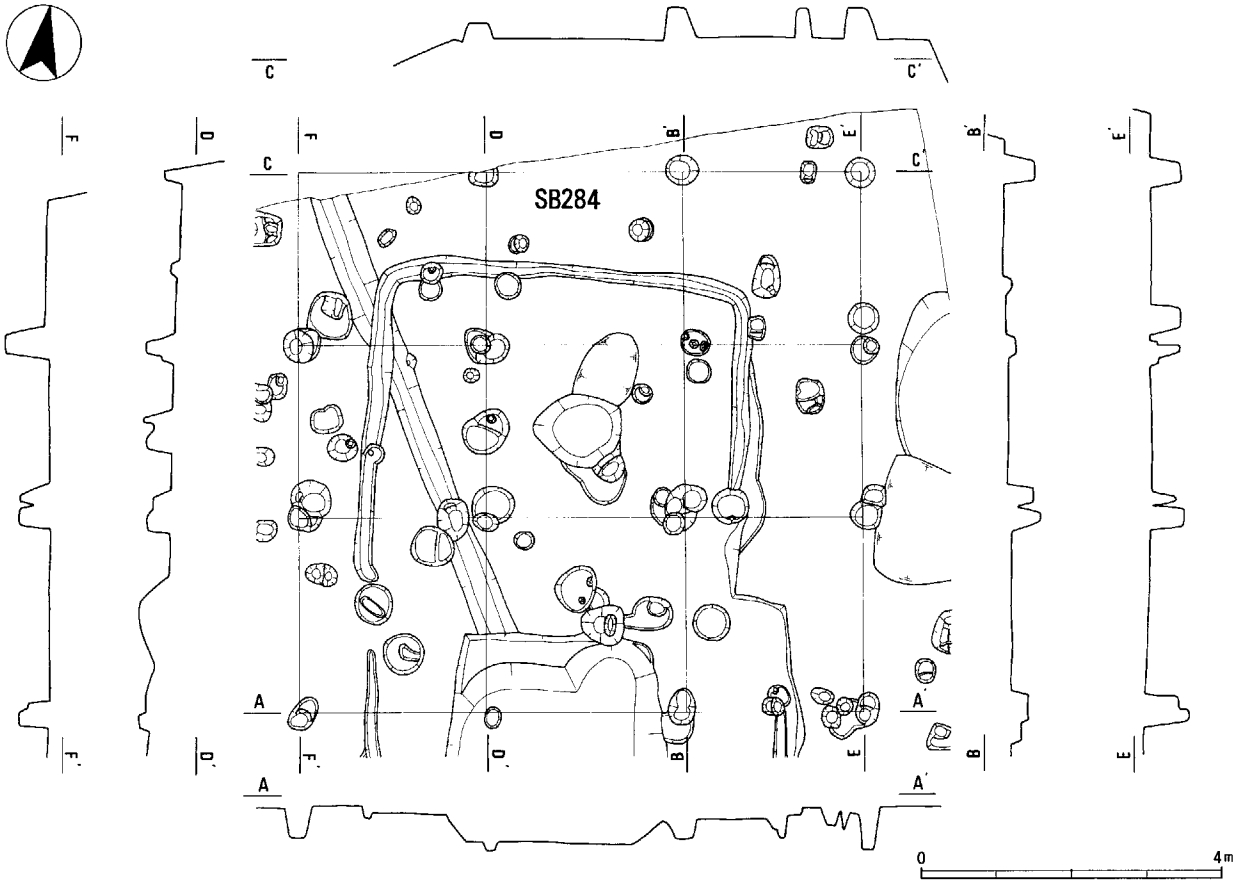
SK205(第123図)　直径85cm×95cm、深さ15cmの土坑で、中に焼土が堆積している。埋土の土層観察の結果、土坑内に粘土等で構築された馬蹄形状の施設が被熱し、赤変したものと考えられる。出土遺物には土師器椀、陶器椀(1516～1518)があり、陶器椀は藤沢編年[4]でいうところの第4形式併行期の所産と考えられる。掘立柱建物の屋外炉としての性格が



第125図　SB277・278・279・280・281実測図（1：100、水糸高は19.000m）



第126図　SB282・283実測図(1:100、水糸高は19.000m)



第127図　SB284実測図（1：100、水糸高は19.000m）

考えられる。

SE206(第123図)　SK208より古い。埋土土層の観察の結果、廃絶後、人為的に埋められたようである。井戸枠等の施設は確認することができなかった。出土遺物(1510～1515)には、瓦器椀、土師器小皿、陶器椀・小皿がある。陶器椀は第5形式併行期の所産と考えられる。

SK208(第123図)　SE206より新しい。1.8m×2.9m、深さが38cmで、楕円形を呈す。出土遺物(1519・1520)には土師器小皿がある。12世紀後半代の所産と考えられる。

SD219　調査区北西隅より、南東－北西方向に延びる。幅50cm、深さ10cm、調査区内での長さは28mである。出土遺物は細片である。他の溝と同様、区画溝となるものと思われる。

SD232　幅60cm、深さ15cm、調査区内での長さは26mを計る。SD219と途中で重なる。出土遺物(1504)には土師器小皿がある。他の溝と同様、区画溝となる。

SD301　SD303と並走する。出土遺物の陶器椀(1507)は第6形式併行期の所産と考えられる。

SD303　SD301と並走する。出土遺物の陶器椀(1508～1509)は第6形式併行期の所産と考えられる。

SK231　径1m、深さ10cmの楕円形を呈す。出土遺物(1521)の陶器椀から、第5形式併行期の所産と考えられる。

SB275(第124図)　4間(7.8m)×3間以上(6.1m以上)である。建物方向はN1°Wである。南東隅土坑SK243を持つ。SK243内には人頭大の石が数個入っていた。出土遺物には、土坑SK243から出土した、土師器小皿・杯・甕・鍋、陶器椀・小皿(1480～1482、1484～1487)がある。陶器椀は、第5形式併行期の所産と考えられる。また、土師器鍋についても同時期と考えられる。

SB276(第124図)　3間(7.3m)×2間以上(3.1m以上)である。建物方向はN1°Wである。出土遺物には柱穴から出土した陶器椀(1475)があり、第5形式併行期の所産と考えられる。

SB277(第125図)　3間(6.2m)×2間(3.8m)である。建物方向はN8°Wである。出土遺物はない。

SB278(第125図)　4間(10.2m)×3間(7.8m)である。南東隅土坑SK253を持つ。建物方向はN4°Wである。出土遺物は陶器椀・小皿・加工円盤、土師器鍋(1492～1501)で、第4～5形式併行期の所産と考えられる。

SB279(第125図)　3間(7.7m)×2間(4.0m)である。建物方向はN3°Wである。出土遺物はない。

SB280(第125図)　4間(5.4m)×1間(2.7m)である。建物方向はN13°Wである。出土遺物はない。

SB281(第125図)　3間(5.7m)×3間(5.3m)、建物方向はN4°Eである。北東隅のSK234はSB281に伴うものか。

SB282(第126図)　3間(6.4m)×2間(3.9m)、建物方向はN3°Wである。出土遺物(1477～1479)には、柱穴から、白磁器、陶器椀、土師器鍋が出土した。陶器椀は、第5形式併行期の所産と考えられ、土師器鍋についても同時期と考えられる。

SB283(第126図)　4間(9.5m)×3間(6.5m)、建物方向はN5°Eである。南東隅土坑SK261を持つ。出土遺物(1487～1491)は陶器椀・小皿・鉢、鉄製品がある。第4形式併行期の所産と考えられる。

SB284(第127図)　3間(7.7m)×3間(7.2m)で、建物方向はN5°Wである。出土遺物はない。

4　出土遺物

属する時期としては弥生時代前期から近代(第二次世界大戦時)にまで及ぶが、古墳時代後期が主体となる。時期を追って、各遺構毎に概観したい。

(1)　弥生時代前期(878・972)

古墳時代前期に属する竪穴住居SH204から甕口縁部破片が出土した(878)。

他、K7pit12から、同じく甕口縁部が出土している(972)。外反する口縁部外面に2条突帯を貼り付ける。

(2)　古墳時代前期(879～996)

SH204出土遺物(879～899)　竪穴住居埋土出土遺物の土師器甕(885)は技法・胎土から、生駒西麓産の庄内甕と考えられる。時期は纏向Ⅲ式併行期と考えられる。

貯蔵穴出土遺物の中で図化できなかったが、土師器甕体部破片で、板状工具の木口を原体とした押圧文が見られるものがある。細片のため、確認できる

部分で、押圧文は2個所であるが、類例から、山陰の影響を受けたものと考えられる。磨滅が激しいためその他の調整は確認できない。

SH213 出土遺物(900～911)　竪穴住居床面上東壁よりから出土したものと、埋土から、そして主柱穴から出土したものがある。

東壁よりに並んで出土したものには土師器小型鉢(901･902)･小型器台(903)･小型高杯(904)･高杯(910)･台付甕(909)･広口壺底部(898)がある。遺構の部分でも述べたように、広口壺底部はSH204貯蔵穴出土広口壺と接合する。SH204とSH213が同時期廃絶と想定する根拠となる。

SK212 出土遺物(928～931)　土師器小型丸底鉢･小型器台･台付甕･甕が出土した。931の甕はいわゆる布留形甕である。

(2) 古墳時代後期(977～1394)

SH203 出土遺物(997～1008)　竪穴住居埋土出土遺物と、主柱穴出土遺物、焼土部分出土遺物、竪穴住居内に掘削されたSK221出土遺物に分けてみていく。

竪穴住居出土遺物の須恵器甕口縁部(1001)は、倒立した状態で伏せられて出土している。しかし、甕自体に被熱痕はみられない。カマドを破壊した後に据えたものと考えられる。

SK221出土遺物には、土師器甕･台付甕台部･須恵器甑･管状土製品がある。

中でも、管状土製品(1004～1006)の出土状況については遺構の部分で述べたが、3個体とも床面直上から出土している。みな、オサエ･ナデ成形･調整を施し、片面はややすぼませている。1006は内面を工具ナデで調整している。3個体とも磨滅が激しいが、二次的な被熱痕等は見られない。

SH250 出土遺物(1009～1020)　不明土製品･土師器杯･台付甕･甕がある。

不明土製品(1009)は若干欠損しているが、楕円形を呈する。断面は、片方の端が反対の端に比べ、薄く作られる。表面に植物痕が見られることから、土器焼成時に伴うものと考えられる。類似品としては竪穴住居SH307出土遺物にある(1047)。

SH306 出土遺物(1095～1148)　竪穴住居埋土出土遺物と、カマド部出土遺物、貯蔵穴出土遺物、竪穴住居内土坑出土遺物に分けられる。中でも、竪穴住居内土坑SK332内からは、多くの焼土･粘土と共に、土師器台付椀･高杯･台付甕、須恵器杯蓋、不明土製品が出土した。土師器台付甕(1146)は、体部外面にハケを施した後、板状工具の木口を原体として、一定間隔で押圧文を施す。約1／5残存しているが、残存部全体にこの押圧文は確認できる。この押圧文を施す際にあてた指オサエ痕が、体部内面に同様に一定間隔でみられる。また、体部外面に施されたハケは、当遺跡内で見られる他の台付甕とはハケの方向が左上から、右下に施し、異なっている。

不明土製品(1148)は若干欠損しているが、不整形を呈する土製品である。オサエ･ナデ成形･調整を施す。両面に植物痕が多く残り、土器焼成時に伴う遺物と考えられる。

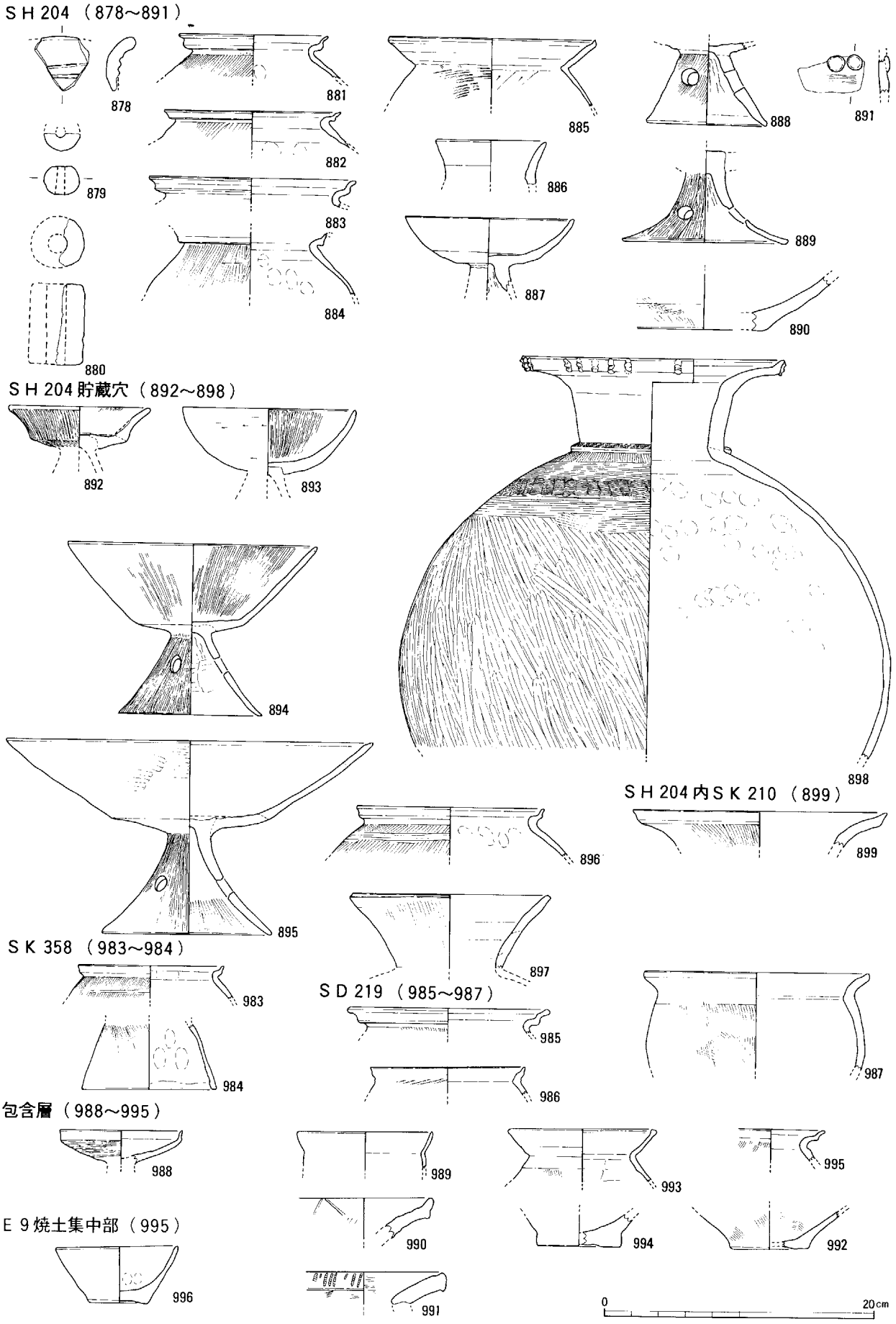
SH321 出土遺物(1197～1200)　竪穴住居埋土出土遺物には、土師器小型壺、須恵器杯身がある。土師器小型壺 (1197)は丁寧な作りで、頸部に工具でヨコナデを施す。

SH341 出土遺物(1222～1231)　竪穴住居埋土出土遺物、主柱穴出土遺物、カマド部出土遺物に分けられる。竪穴住居埋土出土遺物として、土製品、土師器甕がある。1223は棒状を呈するが、両端とも、欠損している。

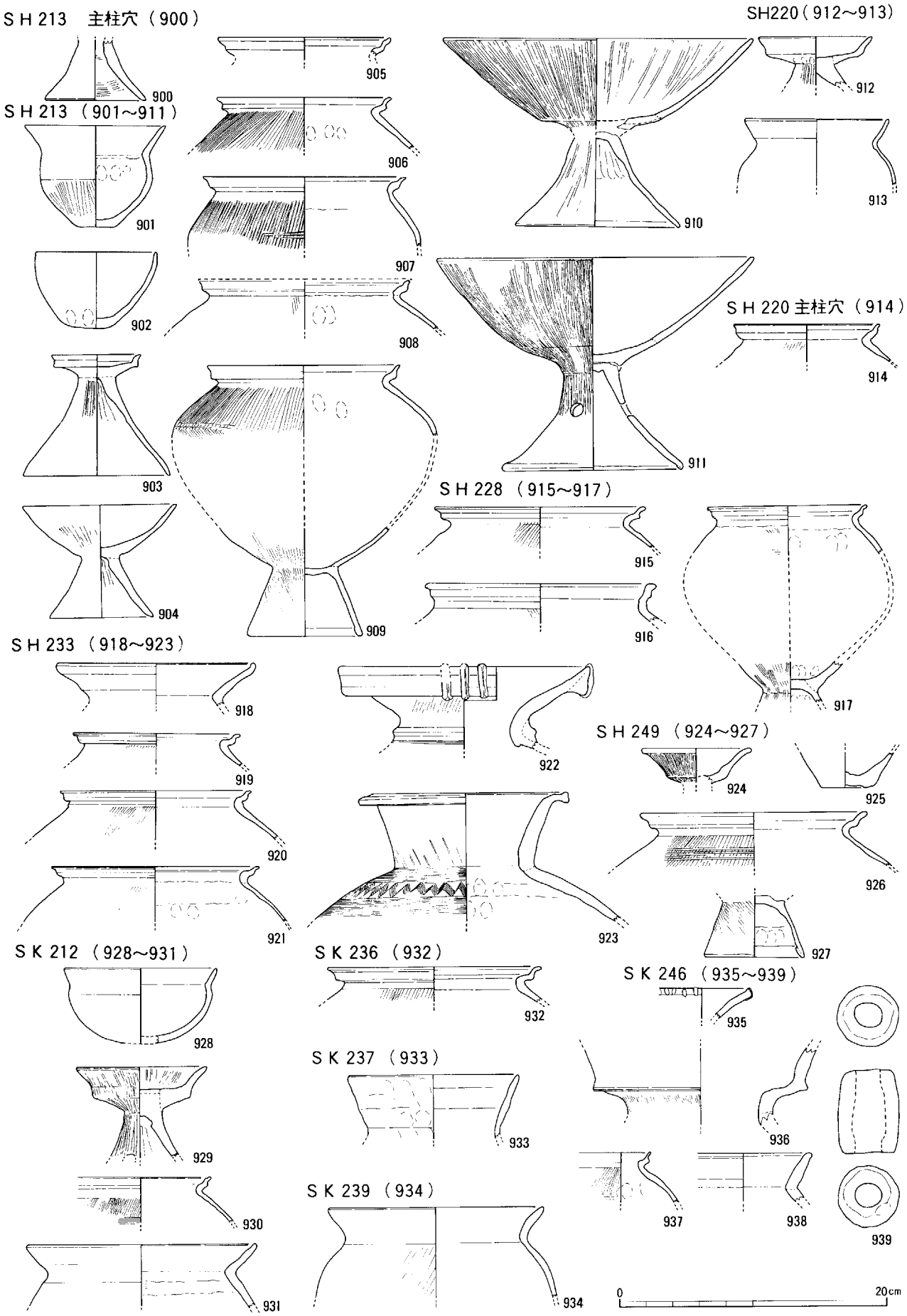
主柱穴出土遺物には、土師器小型壺(1222)がある。体部内外面に工具ナデを施し、口縁部は丁寧にヨコナデを施す。

カマド部出土遺物として、土師器杯･鉢･高杯･甕がある。1231の土師器高杯と1232の土師器甕はカマド部支脚として用いられた。高杯は、脚部のみカマド支脚に用いられ、杯部は、竪穴住居埋土から出土している。高杯脚部に、底部を欠いた甕を倒立させ被せて用いられた。よって、高杯･甕とも被熱のため磨滅が激しい。

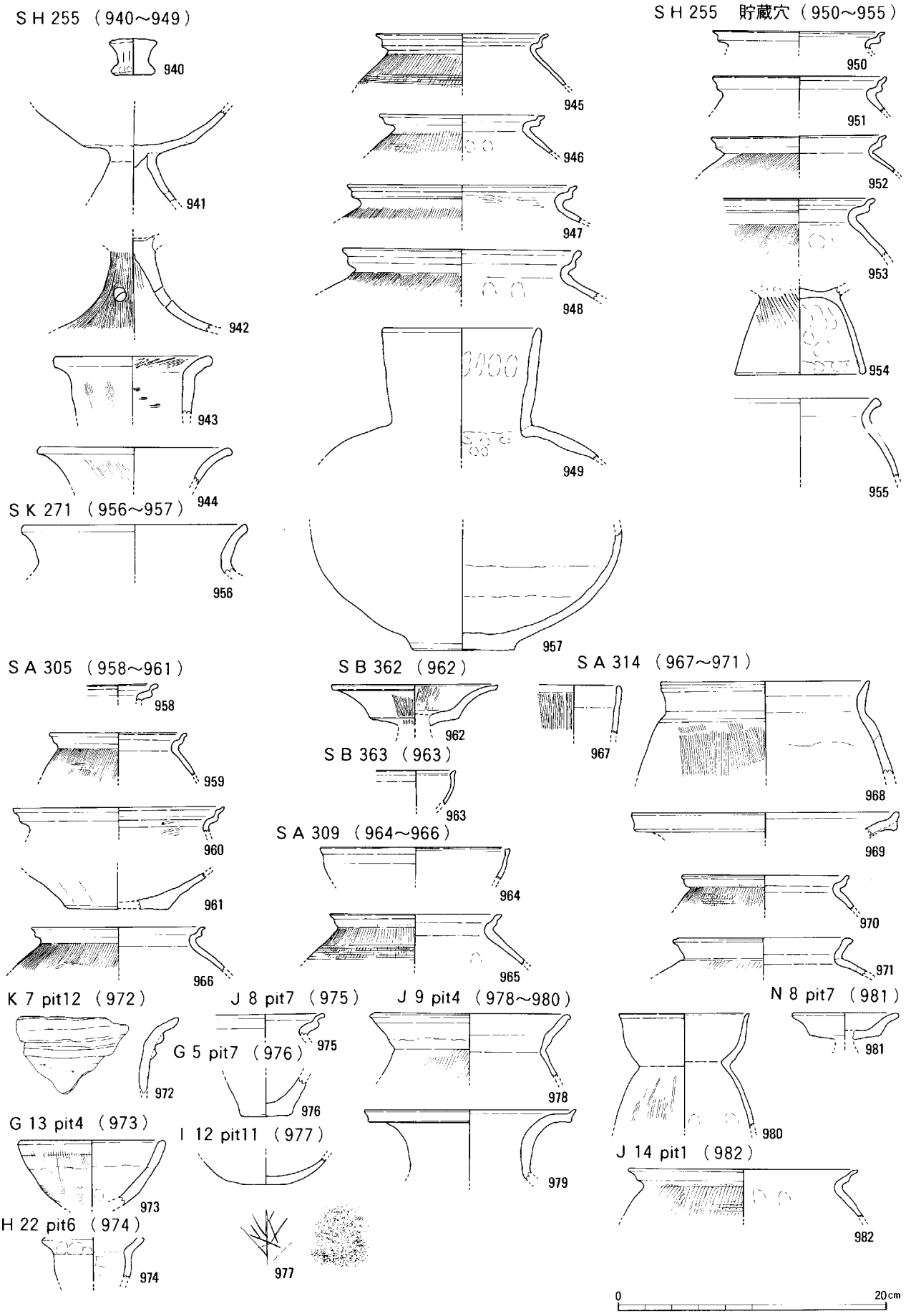
SH342 出土遺物(1232～1364)　遺構の部分でも述べたように、竪穴住居としての残存状況は悪いが、竪穴住居内に方形土坑が掘削されており、その中から、粘土･焼土と共に大量の土器類が出土した。出土状況から、ほぼ一括廃棄されたものと考えられる。遺物としては、多種多様な土製品、土師器杯･台付椀･高杯･小型甑･小型甕･甕･甑･台付甕、須恵器



第128図　出土遺物実測図Ｇ区　古墳時代前期（1）（1：4）



第129図　出土遺物実測図G区　古墳時代前期（2）（1：4）



第130図　出土遺物実測図G区　古墳時代前期（3）（1：4）

蓋杯・瓹・壺・無蓋高杯、石製品、鉄製品がある。遺物毎に見ていく。

土製品には、ミニチュア製品がある(1232～1234、1240～1241)。土製品1237は一部欠損しているが、両面に指オサエ痕が明瞭である。SH250出土遺物(1009)・SH307出土遺物(1047)・SH306内土坑SK332出土遺物(1148)の類似品である。土錘(1239)は他の土錘と制作技法は同様で、棒状のものに板状粘土を巻き付け、棒を引き抜き、孔のあく面に工具ナデ調整を施す。側面の一部に、棒状の当り痕が見られる。乾燥の際の台痕跡とも考えられる。

土師器杯(1242～1247)は外面下半部には明瞭な指オサエ痕が見られ、上半部はナデ調整を施す。口縁端部はヨコナデを施すが、端部をやや外反させるもの(1242・1243・1247)、丸くおさめるもの(1244～1246)に大きく分けられる。また、1245の底部には木葉痕が確認できる。1246の内面には、ヘラ記号が施されている。

台付椀についても、椀部で見れば、口縁部を直立させて端部をヨコナデにより強く外反させるもの(1249)、口縁部を直立させてやや外反させるもの(1250・1252)、口縁部をやや内湾させ、端部をやや外反させるもの(1251)、口縁部をやや内湾させて端部を丸くおさめるもの(1248)に分けられる。脚部も多様であり、椀部との接合部からラッパ状に開くもの(1248・1249)と、接合部から一旦真っ直ぐ伸び、下半部1／3からラッパ状に開くもの(1250～1252)に分けられる。前者については、1248に比して、1249は下半部1／3に若干段が見られることから、後者への過渡的な様相と考えられる。

高杯はここでは例は少ないが、杯部については、小振りで口縁部はそのまま真っ直ぐ開くもの(1253)と上半部1／3で更に外反するものと(1254)異なる。後者は端部を摘み上げ、面を持たせる。脚部の分かる資料は1255のみであるが、下半部1／3で更にラッパ状に開く。

1256は土師器小型甑と考えられる。残存する範囲では、両端部とも生きており、おそらく、十字もしくは一文字の蒸気孔がつくものと思われる。把手部は残存する範囲では確認できない。

1265は丸みを帯びた体部を持つ甕である。体部内外ともオサエ・ナデ成形・調整を施し、その後外面下半部にはケズリ調整を施す。底部については欠損しているため不明であるが、底部近くの破片から丸底と考えられる。口縁部は横方向の断続的なナデでくの字に外反させて摘み上げ、端部は丸くおさめる。頸部には指オサエ痕が確認できる。胎土には多く雲母が確認でき、他の土器とは異なる。軟質土器の影響が考えられる。

土師器台付甕(1280～1330)はSH342出土遺物の中で、大半を占めた遺物である。図版のほうは、口径の小さなものから大きなものへと機械的に並べたが、口縁部・端部の形状から、分類できるものと考えられる。

頸部と口縁端部それぞれに施されたヨコナデの境が強く盛り上がり、所謂S字甕D類に近い形状を持つものもある。

須恵器杯蓋(1331～1341)は、製作技法でみると、どれも天井部に回転ヘラケズリを施すことでは一致する。内面の仕上げナデについては、残存状況や磨滅のために確認できないものがあるが、一方向ナデと多方向ナデを施し、一点ではあるが円形ナデを施すものがある。また、内面に残る当て具痕は、1335で確認できる。1336は天井部外面が使用時に伴うと思われるナデで、回転ヘラケズリが磨滅している。また、1332・1337～1339は焼成不良で、磨滅が激しい。1333は歪みや焼成時の細かいひび割れが確認できる。

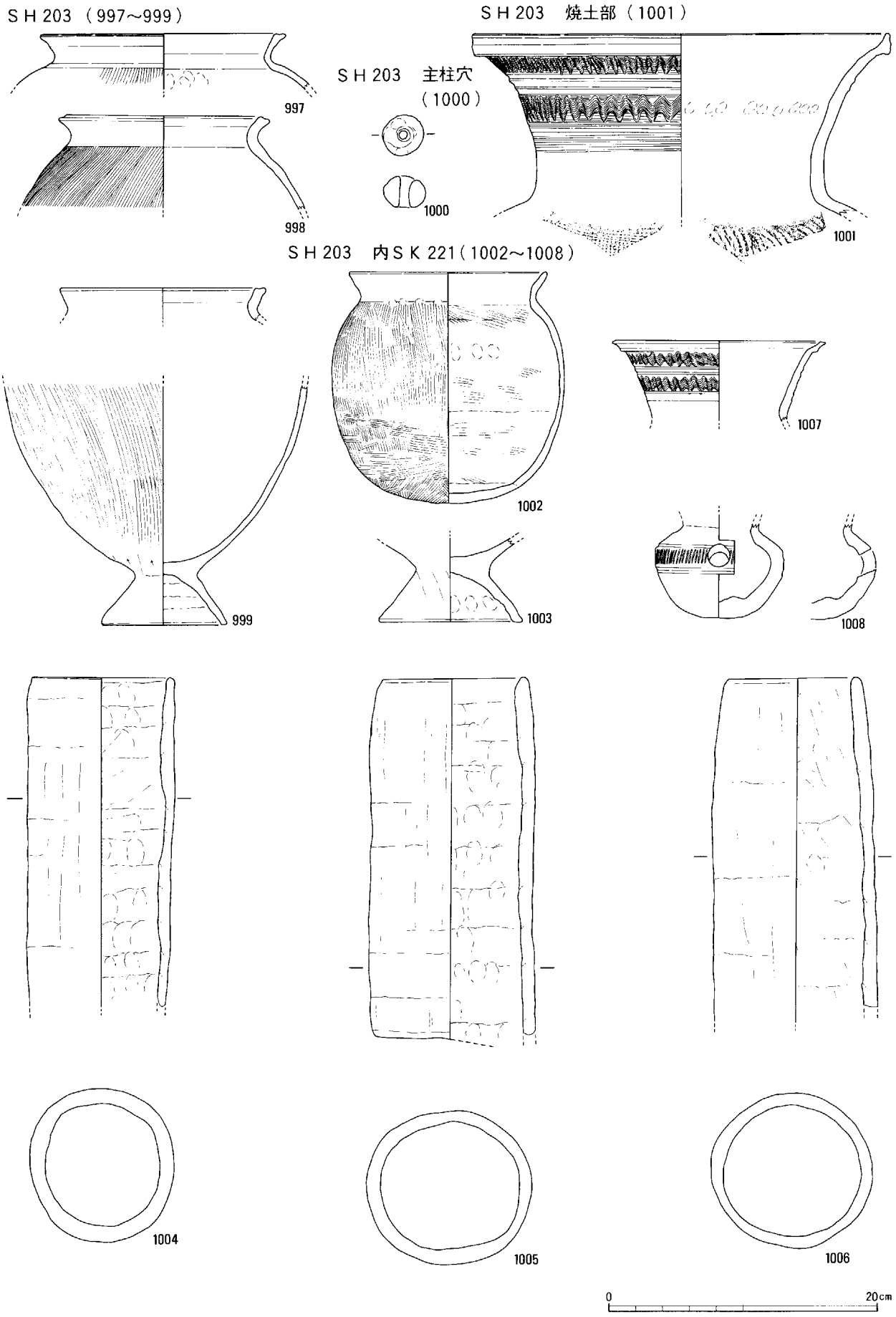
須恵器杯身(1342～1357)は杯蓋と同様に、焼成不良のものが多い。底部内面の仕上げナデは、一方向ナデと多方向ナデに分けられる。当て具痕は8点に見られる。1357の底部外面は、使用時に伴うと思われるナデで、回転ヘラケズリが磨滅している。

無蓋高杯(1360)は、杯部が大きく歪み、全体的に自然釉が見られる。

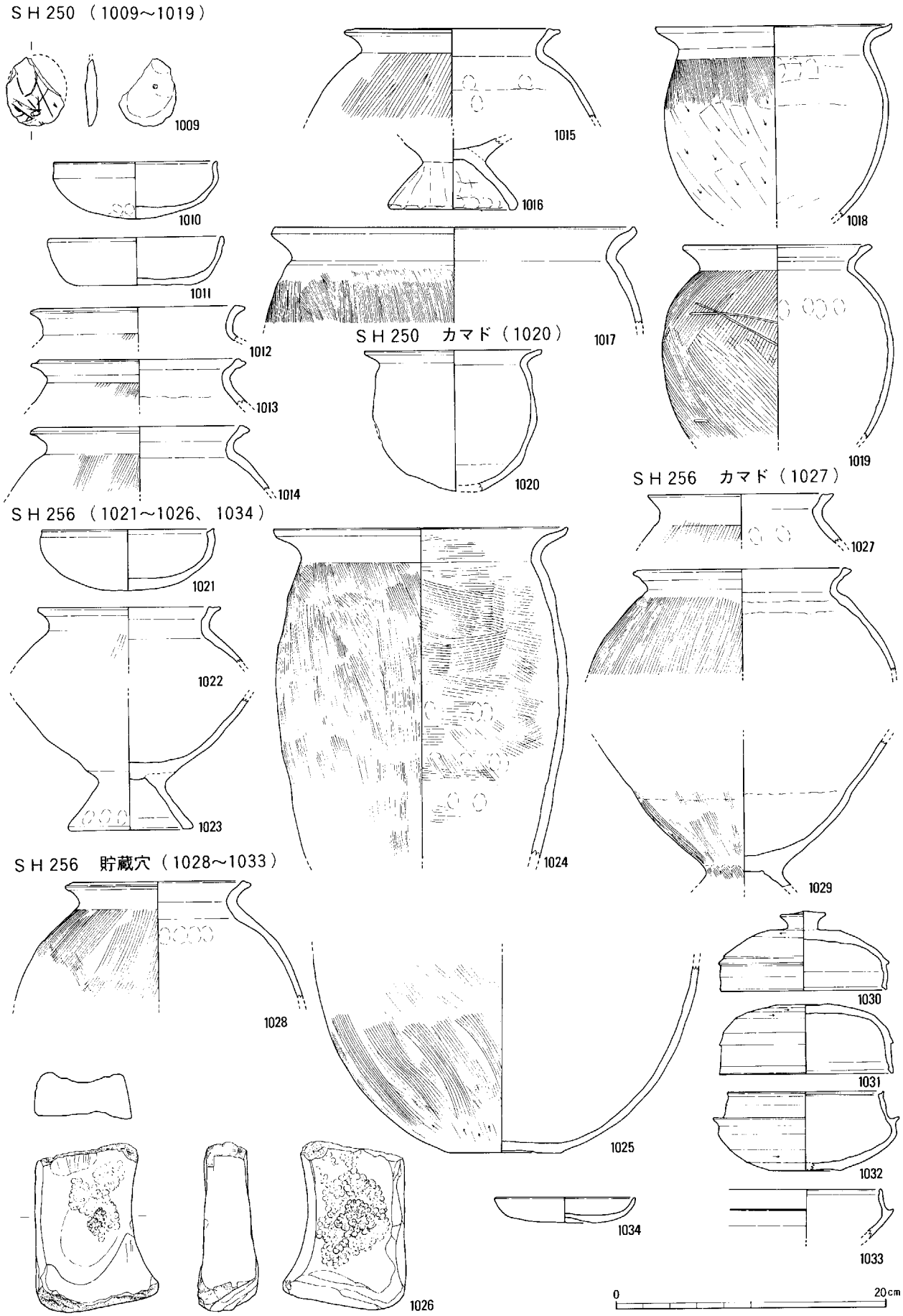
(3) 飛鳥・奈良時代の遺物(1395～1474)

SH209出土遺物(1395～1419)　竪穴住居埋土出土遺物、カマド部出土遺物、貯蔵穴出土遺物、主柱穴出土遺物、竪穴住居廃絶後に廃棄された遺物がある。それぞれについてみる。

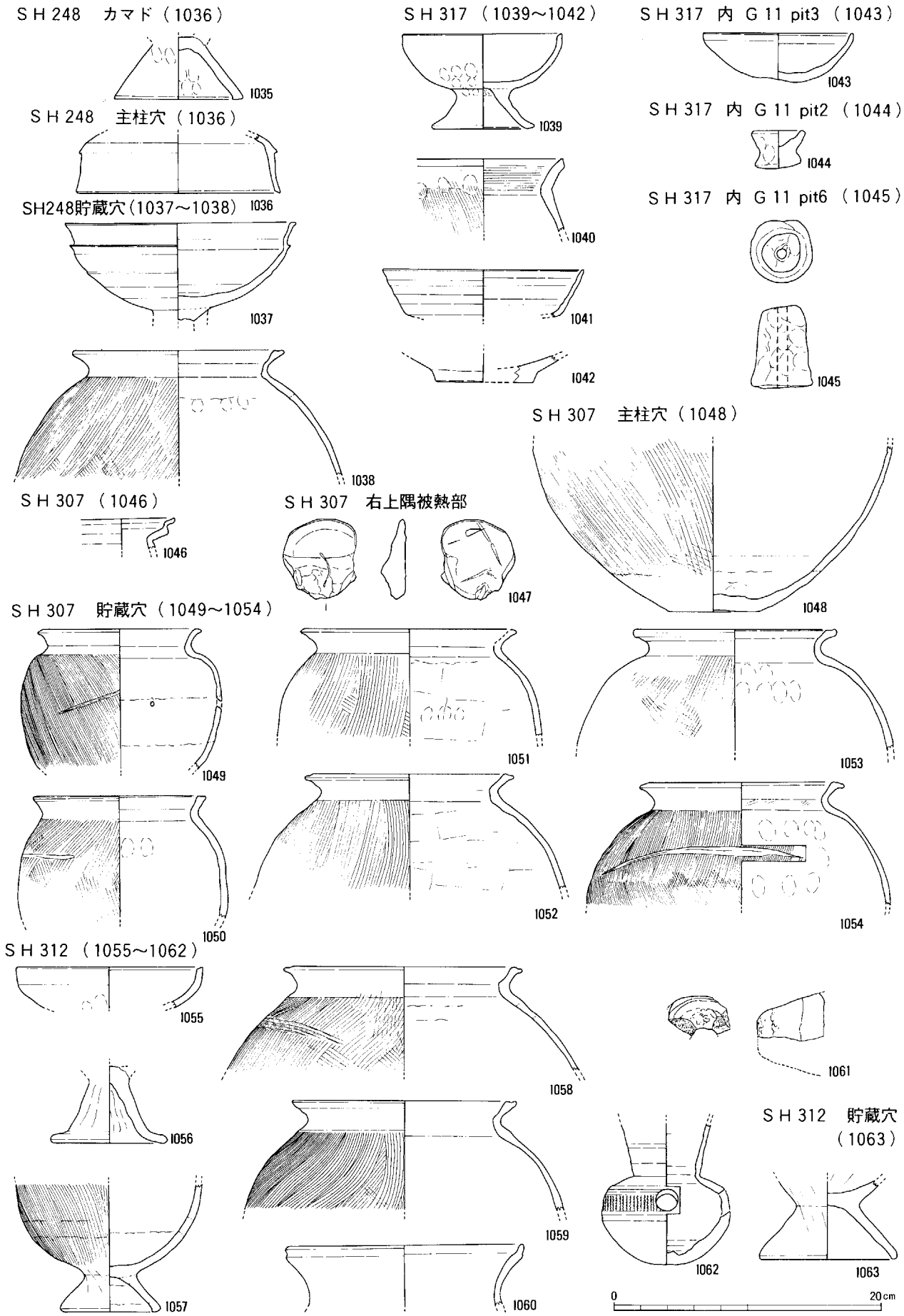
竪穴住居埋土出土遺物(1395～1405)には、土師器杯・壺・高杯・甕・管状土製品、須恵器瓹がある。



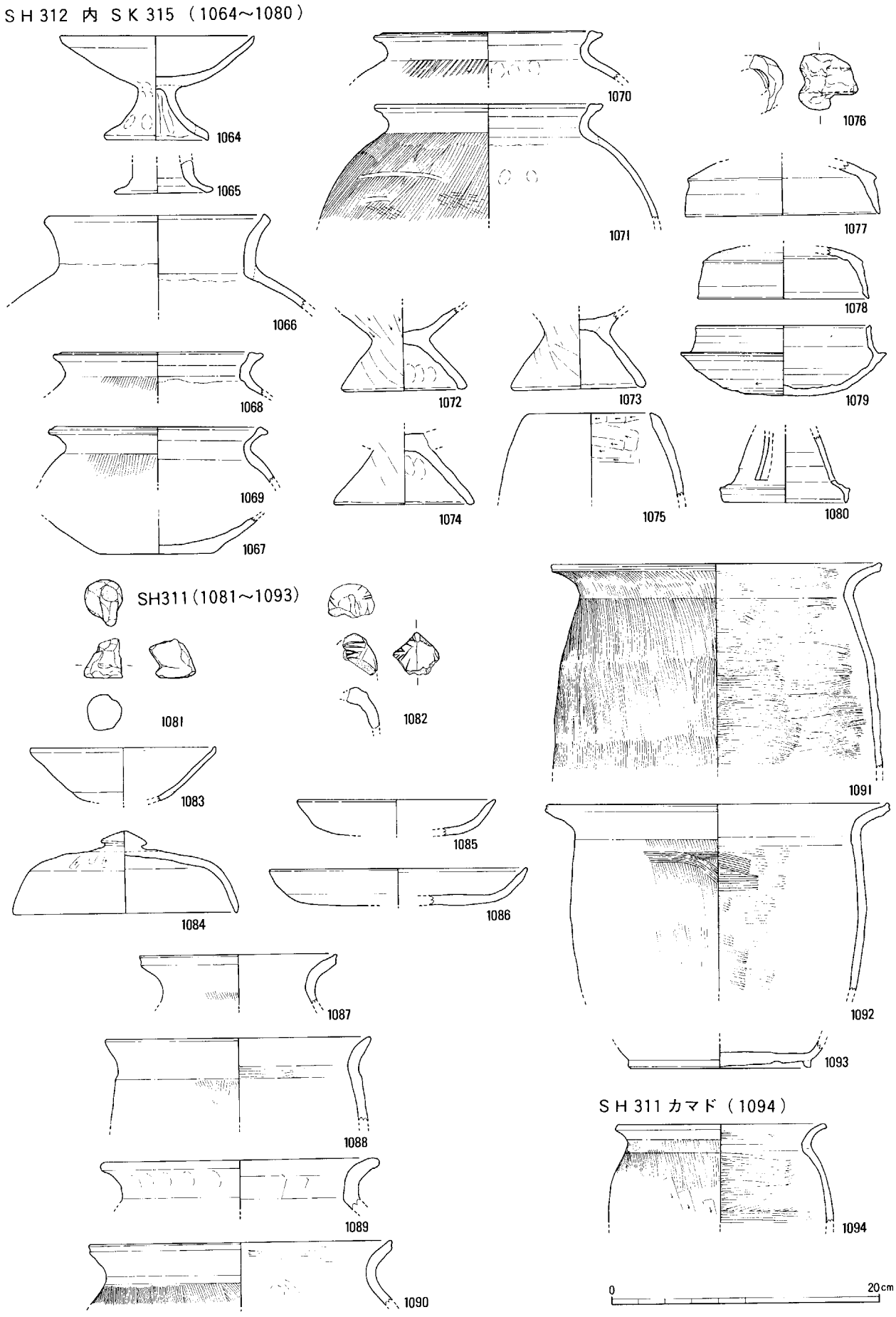
第131図　出土遺物実測図Ｇ区　古墳時代後期（1）（１：４）



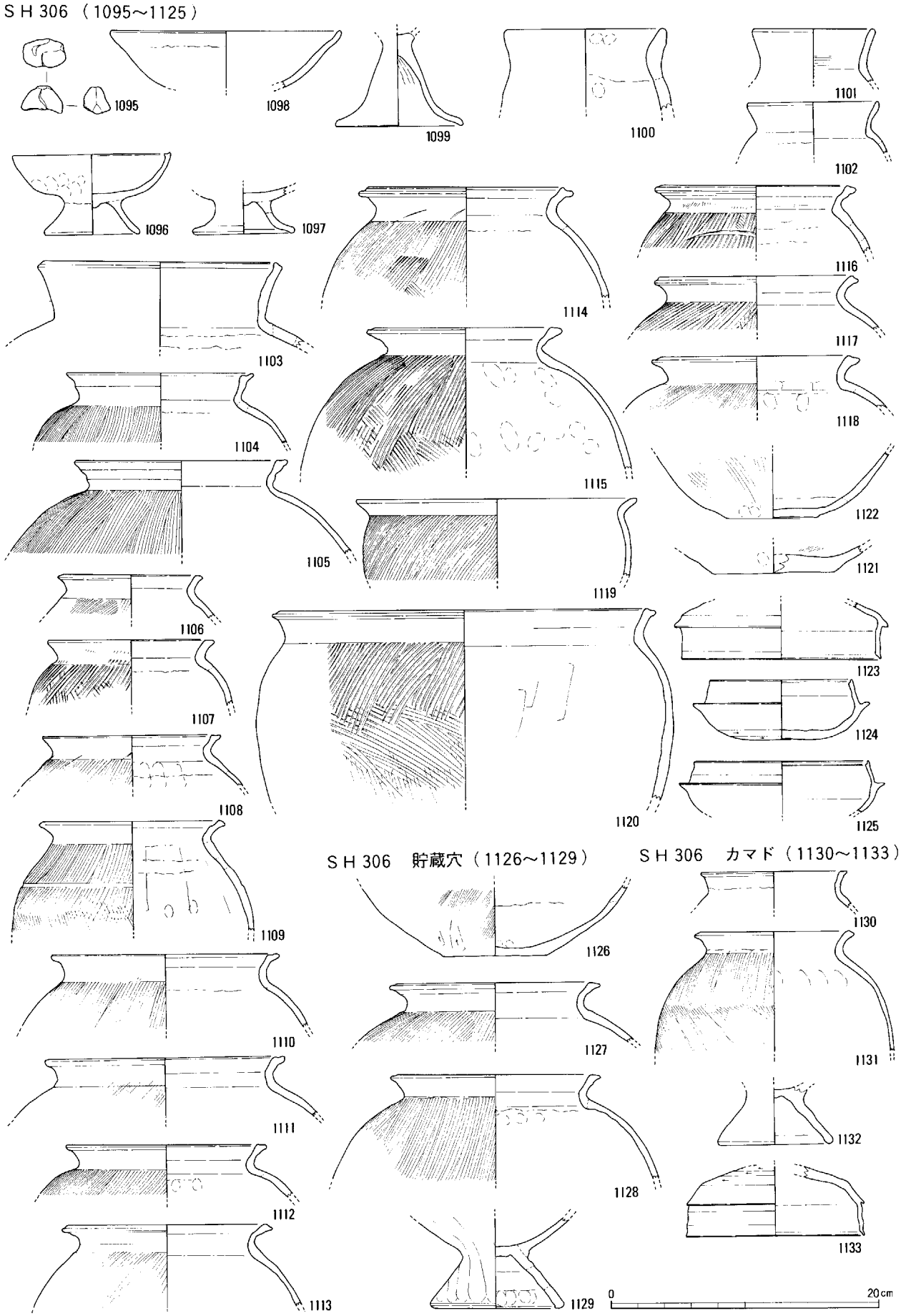
第132図　出土遺物実測図Ｇ区　古墳時代後期（2）（1：4）



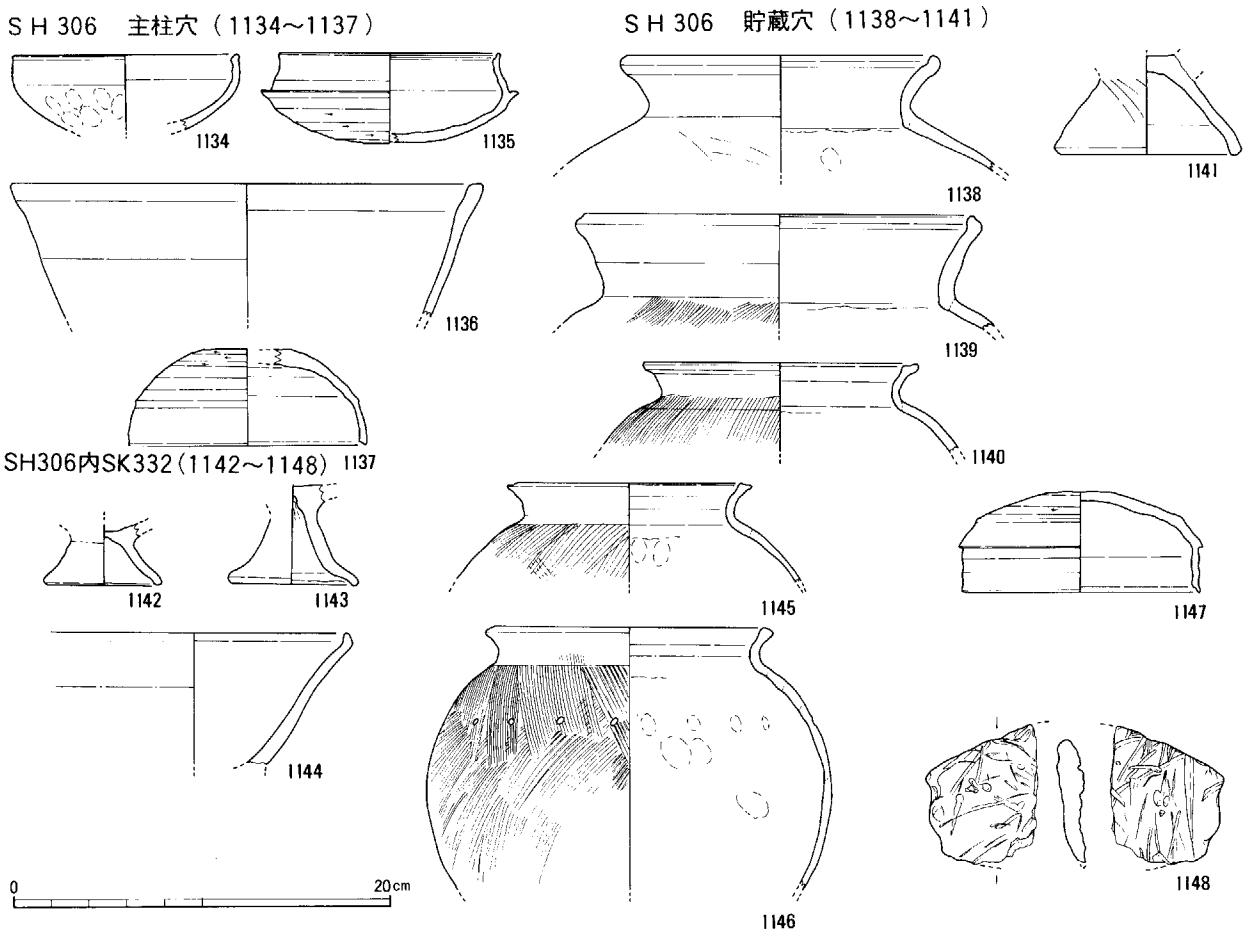
第133図　出土遺物実測図Ｇ区　古墳時代後期（3）（1：4）



第134図　出土遺物実測図Ｇ区　古墳時代後期（4）（1：4）



第135図　出土遺物実測図Ｇ区　古墳時代後期（5）（１：４）



第136図　出土遺物実測図Ｇ区　古墳時代後期（6）（１：４）

高杯(1398)は内外ともケズリ痕が明瞭に観察できる。1402・1403の管状土製品は端部に面を持たせ、古墳時代のものに比して、丁寧な作りである。

カマド部出土遺物(1405・1406)には土師器杯・甑がある。甑(1406)は底部が欠損する。他例から見て、円形の蒸気孔を持つのではないか。

貯蔵穴出土遺物は、土師器杯・甕、須恵器杯身がある。杯(1407)は粘土紐積み上げ痕が明瞭に残る。須恵器杯身(1409)は所謂杯Ｈである。飛鳥Ⅱ併行期の所産と考えられる。

竪穴住居廃絶後に廃棄された遺物(1412～1419)には、土師器不明品・甕・移動式カマド、須恵器杯がある。須恵器杯(1419)は所謂杯Ｂである。飛鳥Ⅴ併行期の所産と考えられる。

SH311 出土遺物(1081～1094)　竪穴住居埋土出土遺物とカマド部に出土遺物に分けられる。竪穴住居埋土出土遺物には土製品、土師器高杯・杯蓋・杯・甕がある。土製品(1081)は獣脚と考えられる。1082は約１／３程しか残存していないが、鈴のミニチュアと考えられる。1084は、宝珠つまみがつき、須恵器杯Ｇをひっくり返し、宝珠つまみをつけたものの写しのようである。1093は須恵器杯である。杯Ｂである。

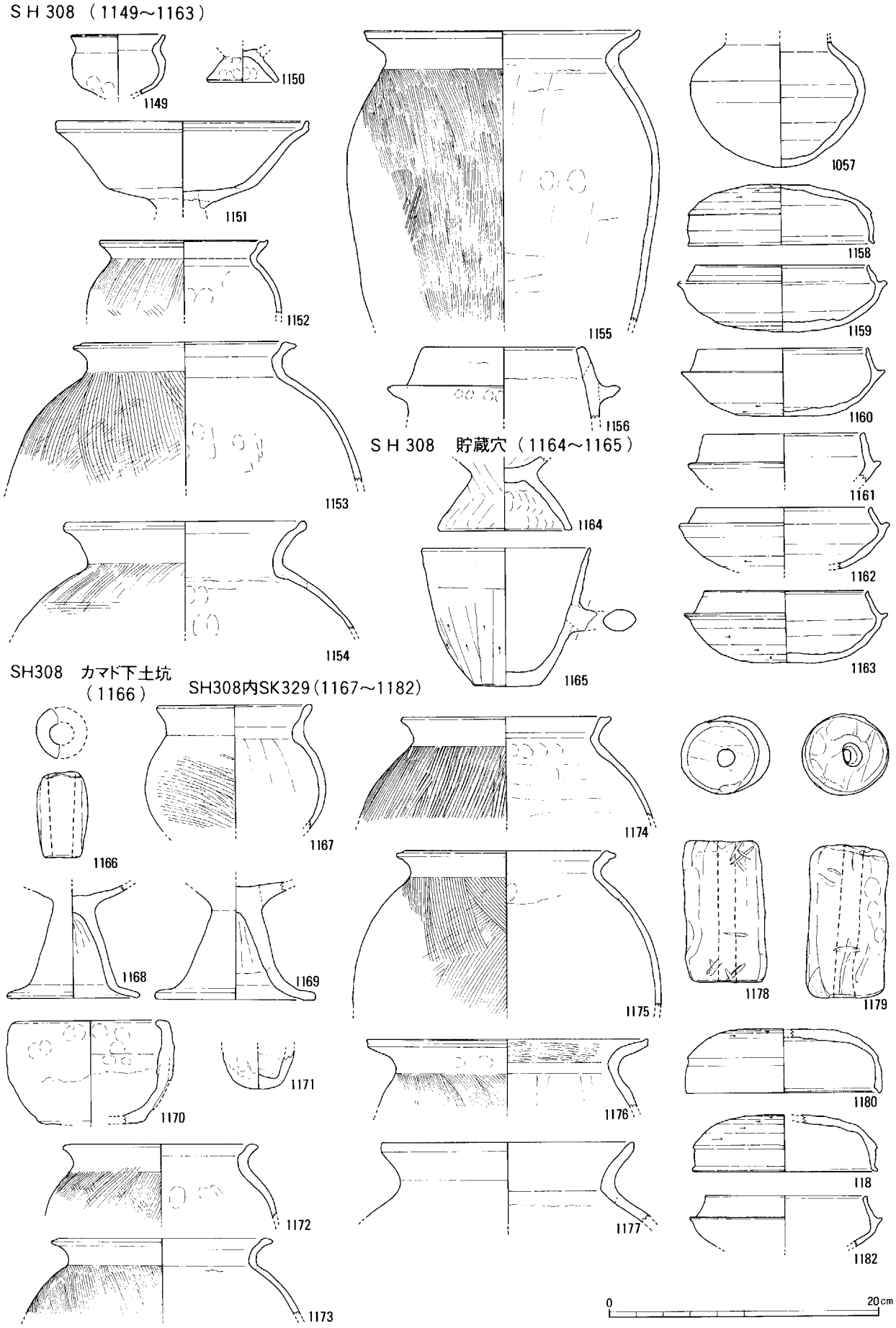
SH359 出土遺物(1466～1471)　竪穴住居埋土出土遺物と、竪穴住居内土坑出土遺物がある。竪穴住居埋土出土遺物は土師器鍋(1466)である。調整・形状の特徴から、飛鳥Ⅱ併行期の所産と考えられる。竪穴住居内土坑出土遺物(1467～1471)には土師器杯・甕・長胴甕がある。それぞれの土器の調整・形状の特徴から、飛鳥Ⅱ併行期の所産と考えられる。

SF368 出土遺物(1472～1473)　須恵器杯身、刀子がある。須恵器杯身は所謂杯Ｈであり、飛鳥Ⅱ併行期の所産と考えられる。刀子は床面直上から出土し、完存する。柄の木質が残存する。

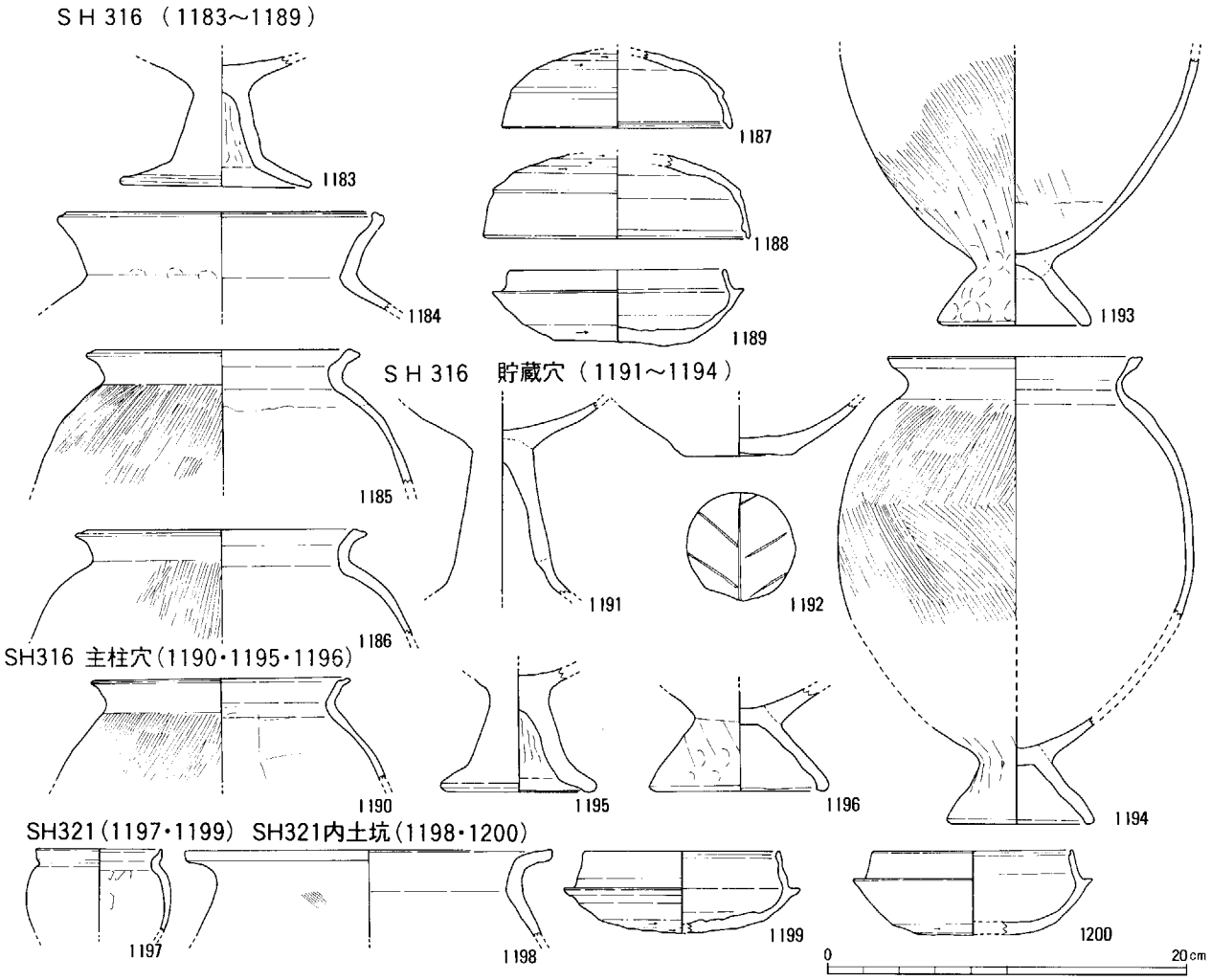
包含層出土遺物(1474)　土師器皿である。調整・形状の特徴から、飛鳥Ⅲ併行期の所産と考えられる。

(4) 中世の遺物(1475～1556)

SD232出土遺物(1504)　土師器小皿である。ての



第137図　出土遺物実測図Ｇ区　古墳時代後期（7）（１：４）



第138図　出土遺物実測図G区　古墳時代後期 (8) (1：4)

字口縁小皿である。

SK235 出土遺物(1522～1524)　土師器破片、陶器椀がある。陶器椀は第4～5形式併行期の所産と考えられる。

SK238 出土遺物(1525～1529)　瓦器小皿、土師器皿・鍋、陶器小皿がある。瓦器小皿は磨滅が激しい。土師器鍋から陶器椀でいうところの第4形式併行期の所産と考えられる。

SK257 出土遺物(1530・1531)　陶器椀・加工円盤がある。陶器椀は第5～6形式併行期の所産と考えられる。

SK258 出土遺物(1532・1533)　土師器皿・鍋がある。皿(1532)は平城Ⅰ併行期の所産と考えられる。土師器鍋は、陶器椀でいうところの第4形式併行期の所産と考えられる。よって、皿は混入と考えられる。

SK266 出土遺物(1534)　陶器椀がある。陶器椀は第5形式併行期の所産と考えられる。

SK302 出土遺物(1535)　土師器小皿である。12世紀後半代の所産と考えられる。

5　まとめ

古墳時代前期の集落

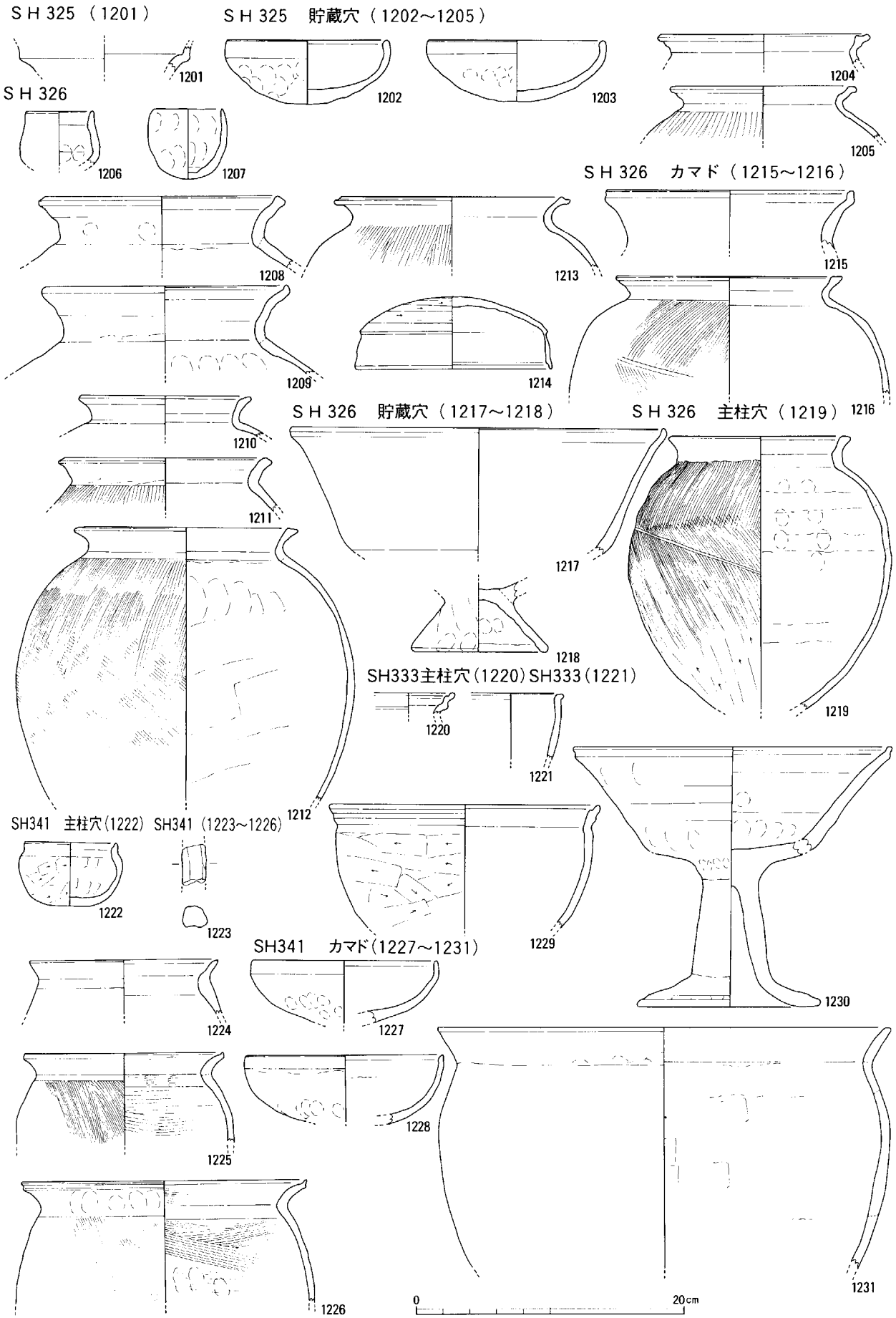
G区では、古墳時代前期の良好な集落跡が検出された。竪穴住居群と区画溝に囲われた大型掘立柱建物群である。

(1)　竪穴住居エリア一個々の構造と立地

竪穴住居群はみな、ほぼ同様の構造を持つ。各施設について見ていく。

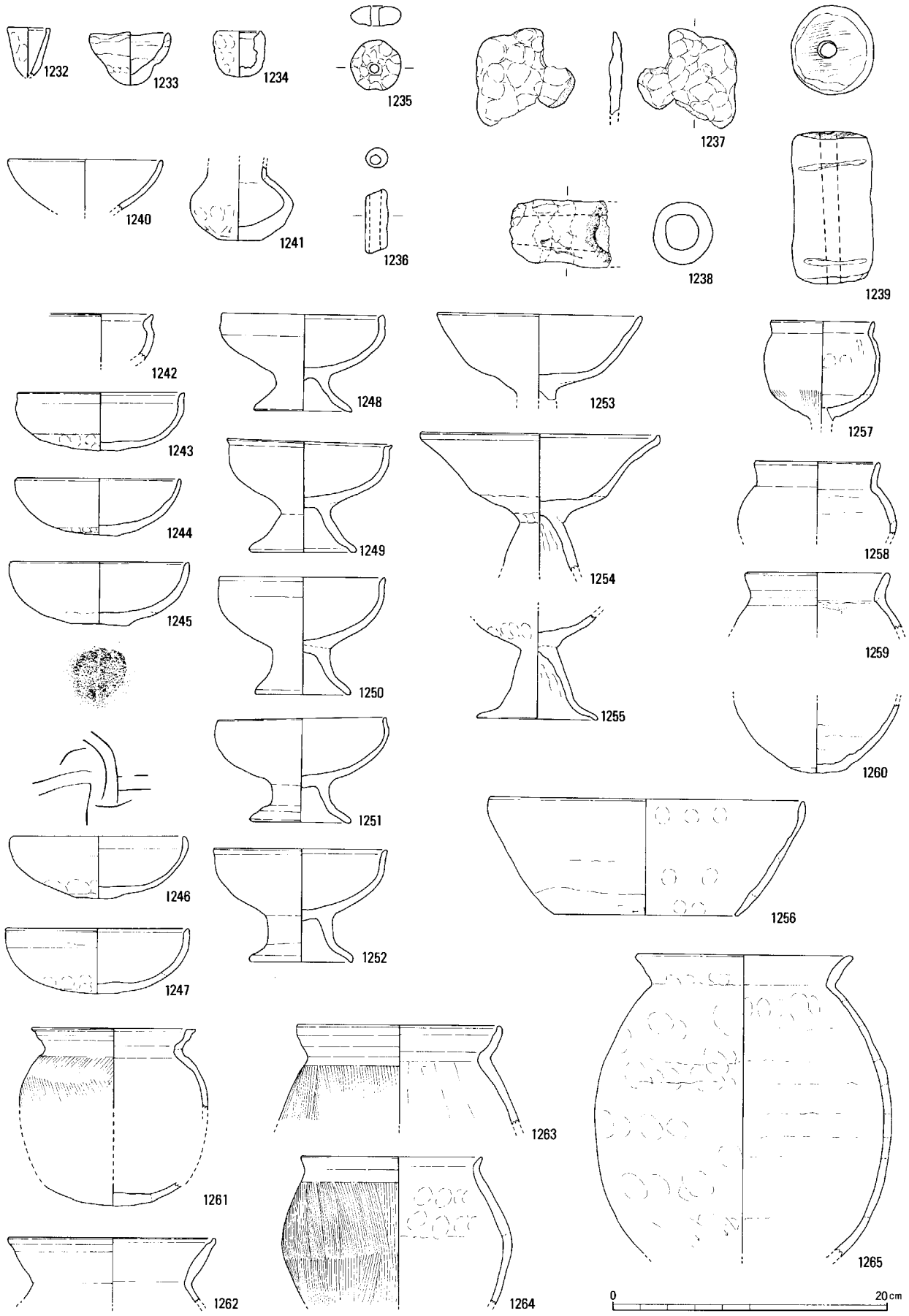
炉　平面形が円形、断面形がレンズ状に掘り窪めて炉とするもの(SH220・255)と、掘り窪めず、床面を転々とするもの(SH204・213・249)に分けられる。後者では、支石を用いるものがある。炉の位置としては、前・後者とも主柱穴が取り囲む範囲に限られる。SH255は主柱穴間中央に設置される。

貯蔵穴　皆床面から一段下げて設けている。このうな貯蔵穴の構造は、津市四ツ野B遺跡[5]でも確認さ

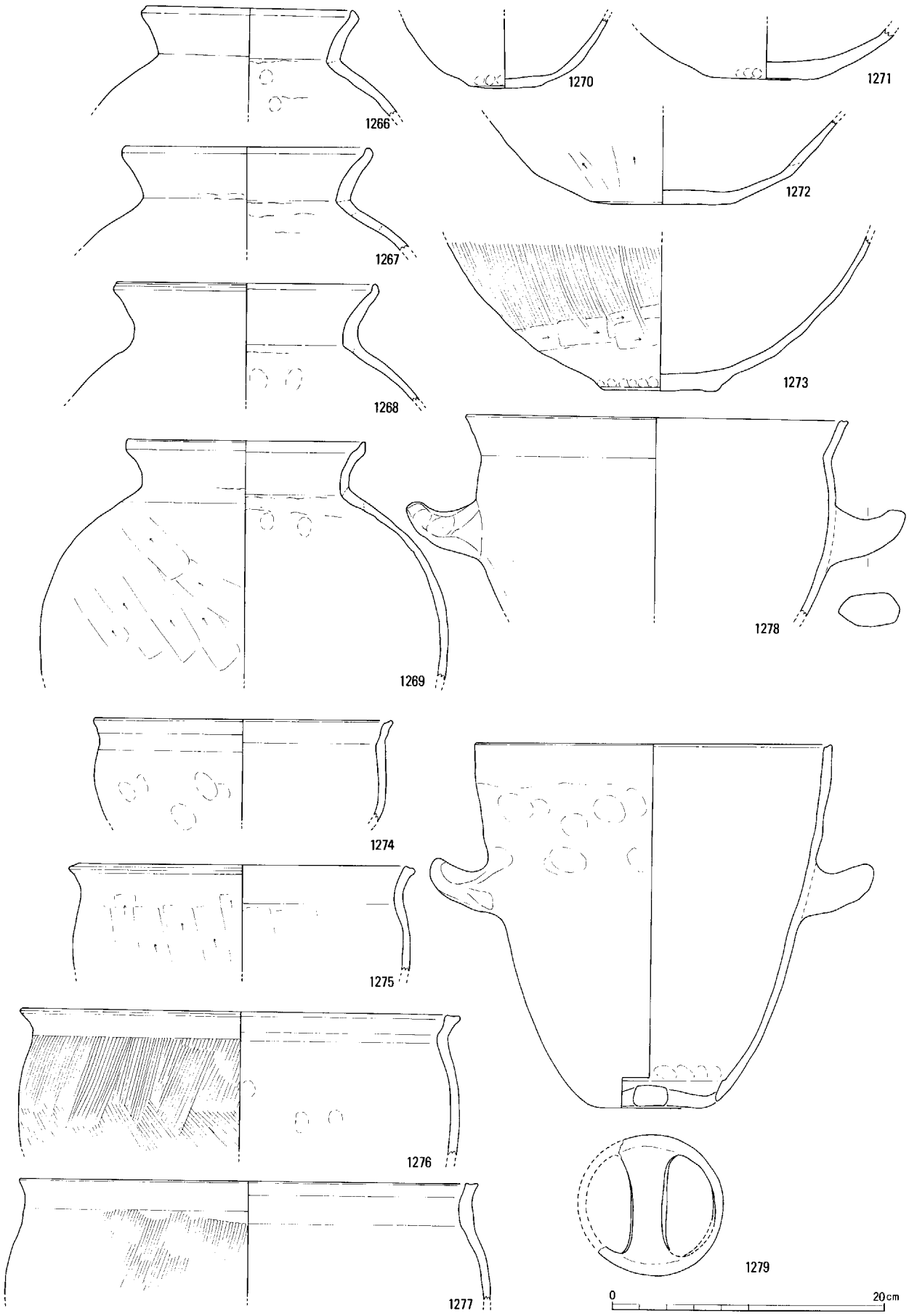


第139図　出土遺物実測図G区　古墳時代後期 (9) (1 : 4)

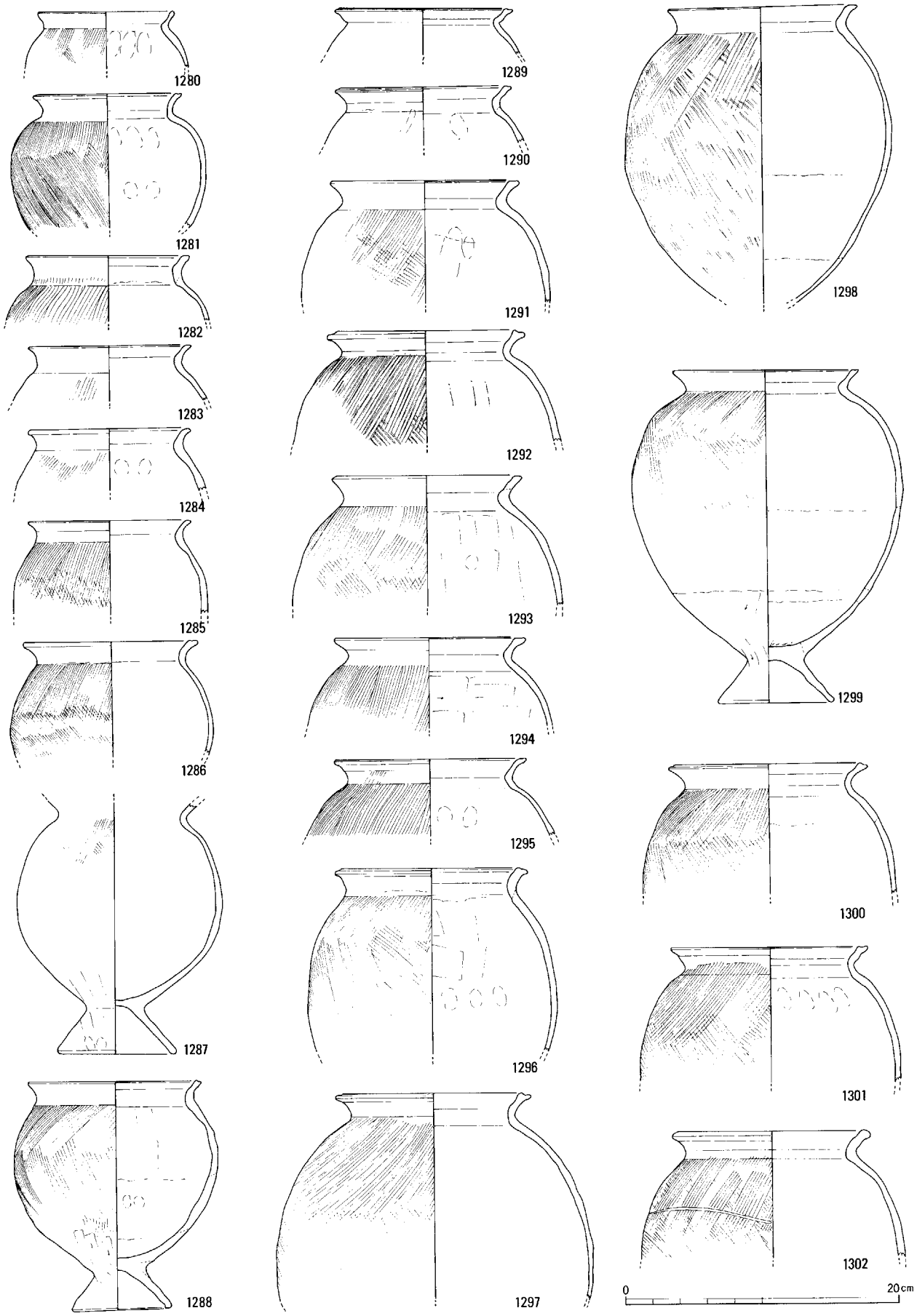
ＳＨ 342 （1232～1364）



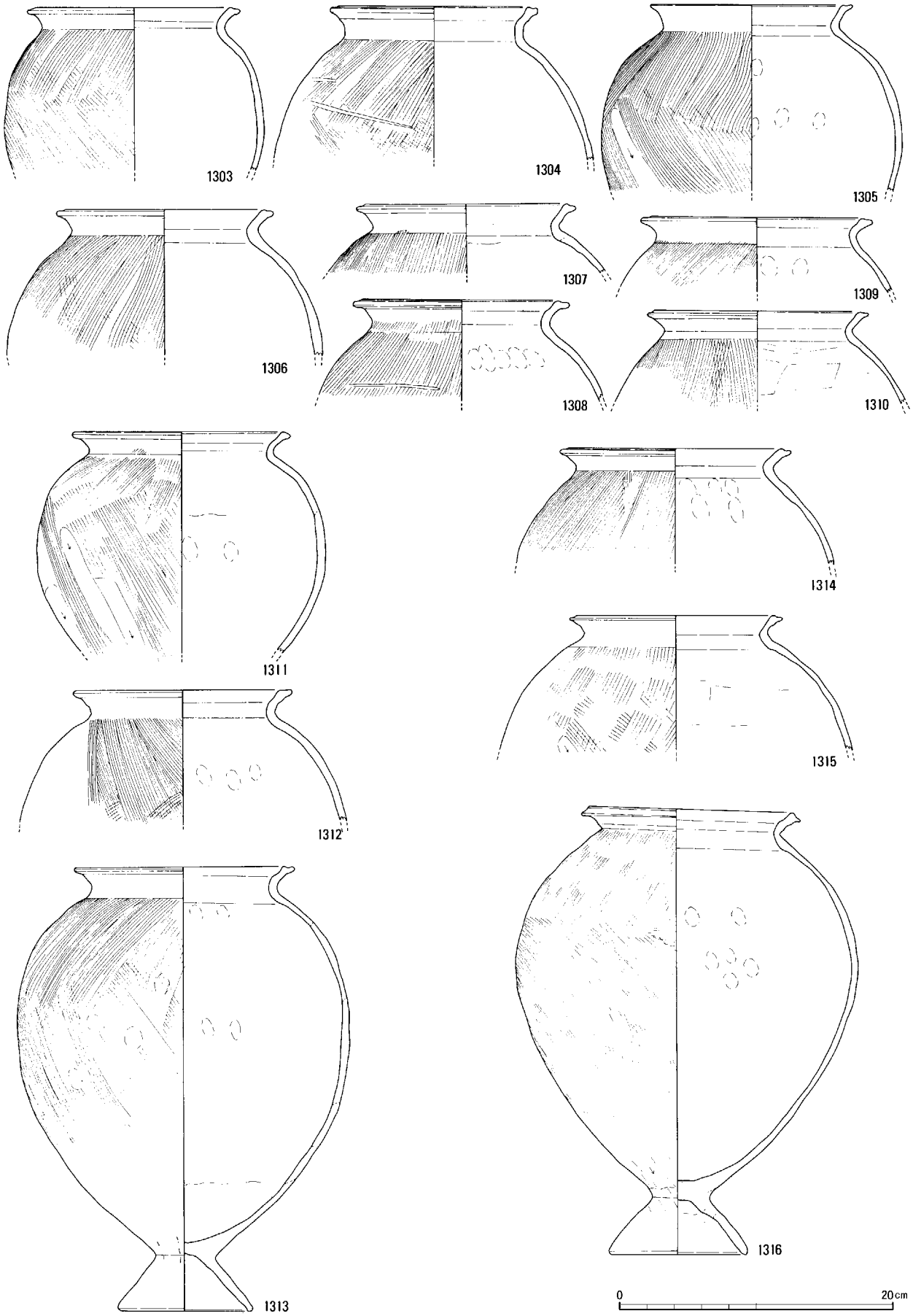
第140図　出土遺物実測図Ｇ区　古墳時代後期（10）（１：４）



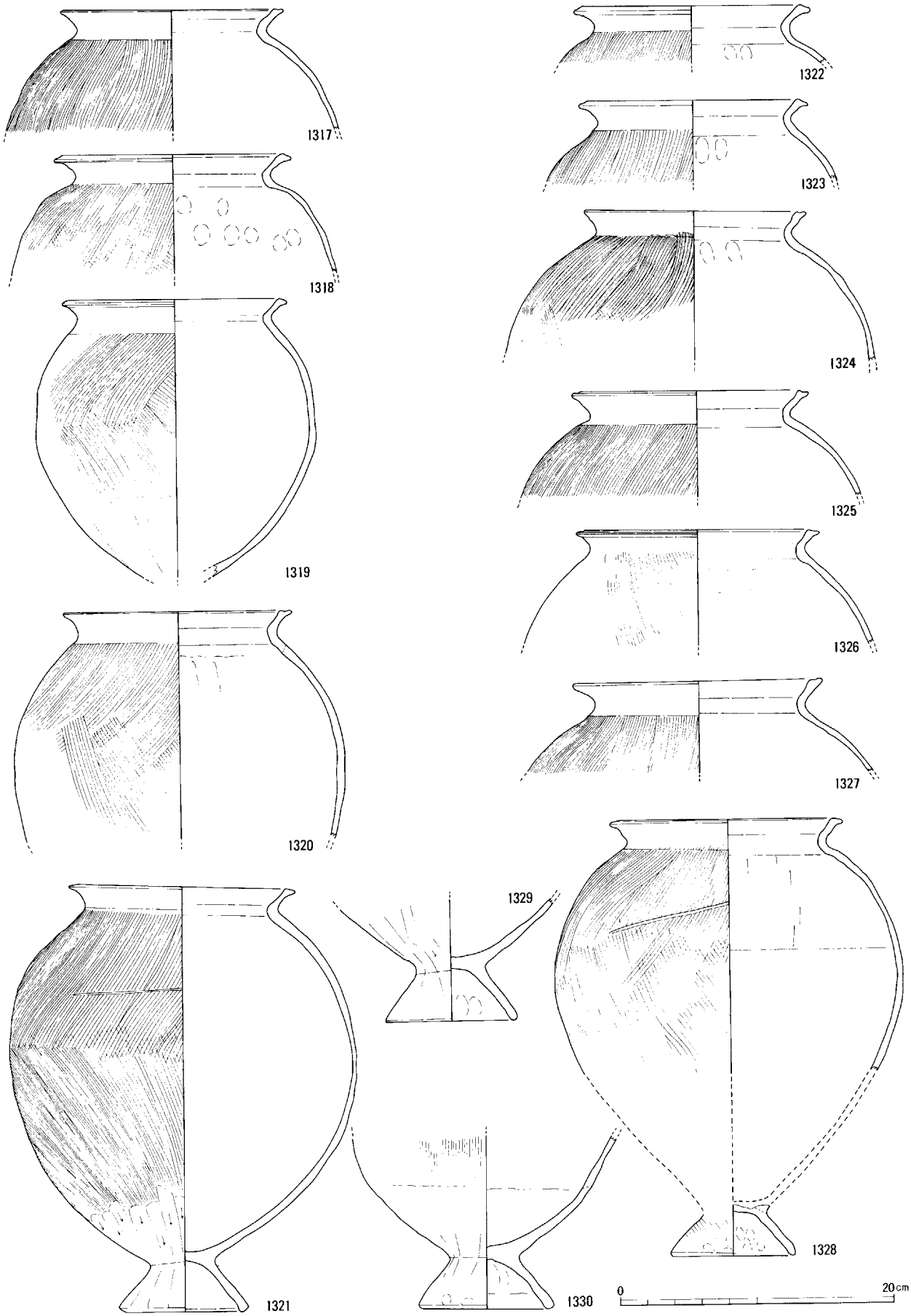
第141図　出土遺物実測図Ｇ区　古墳時代後期（11）（１：４）



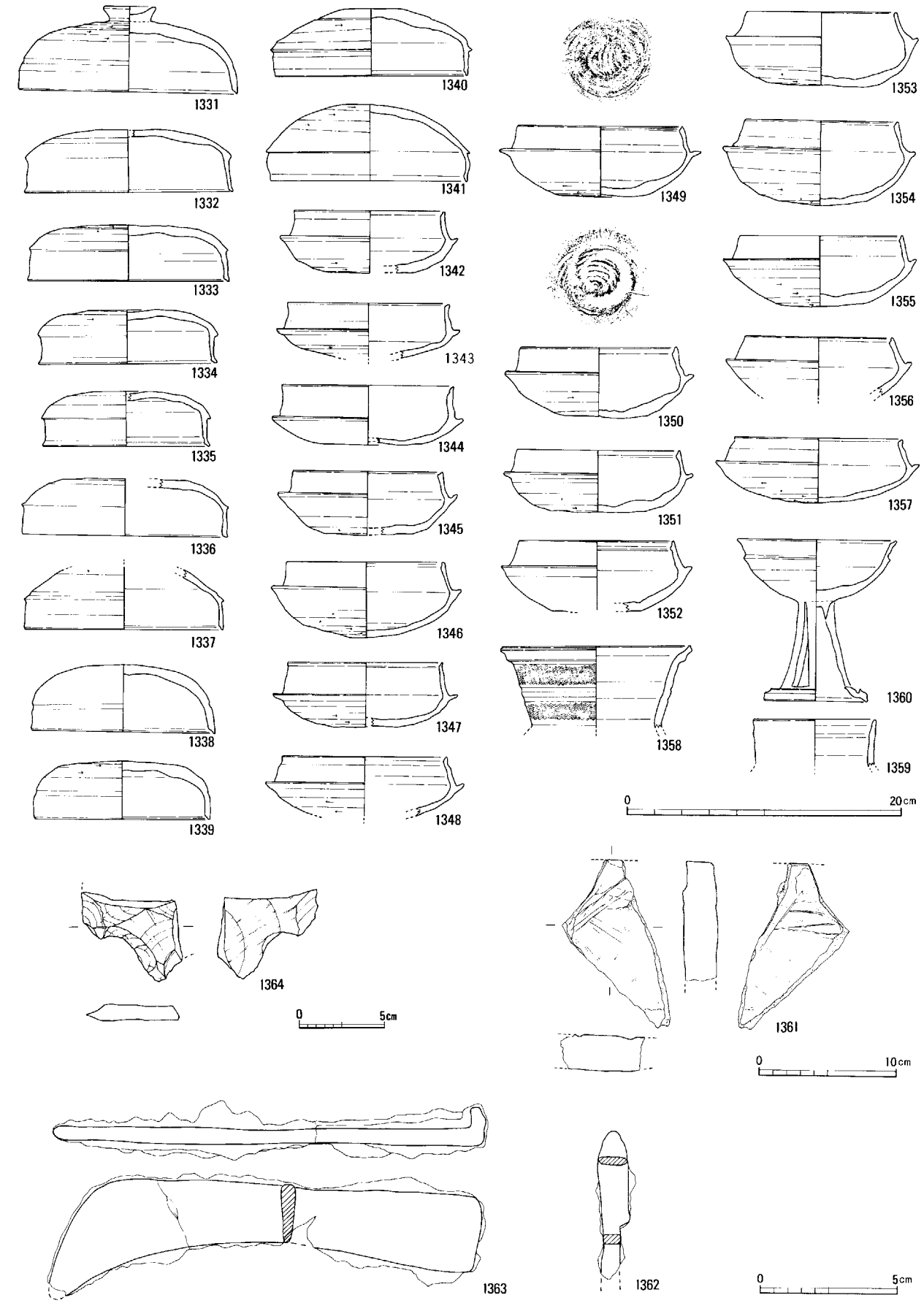
第142図　出土遺物実測図Ｇ区　古墳時代後期（12）（１：４）



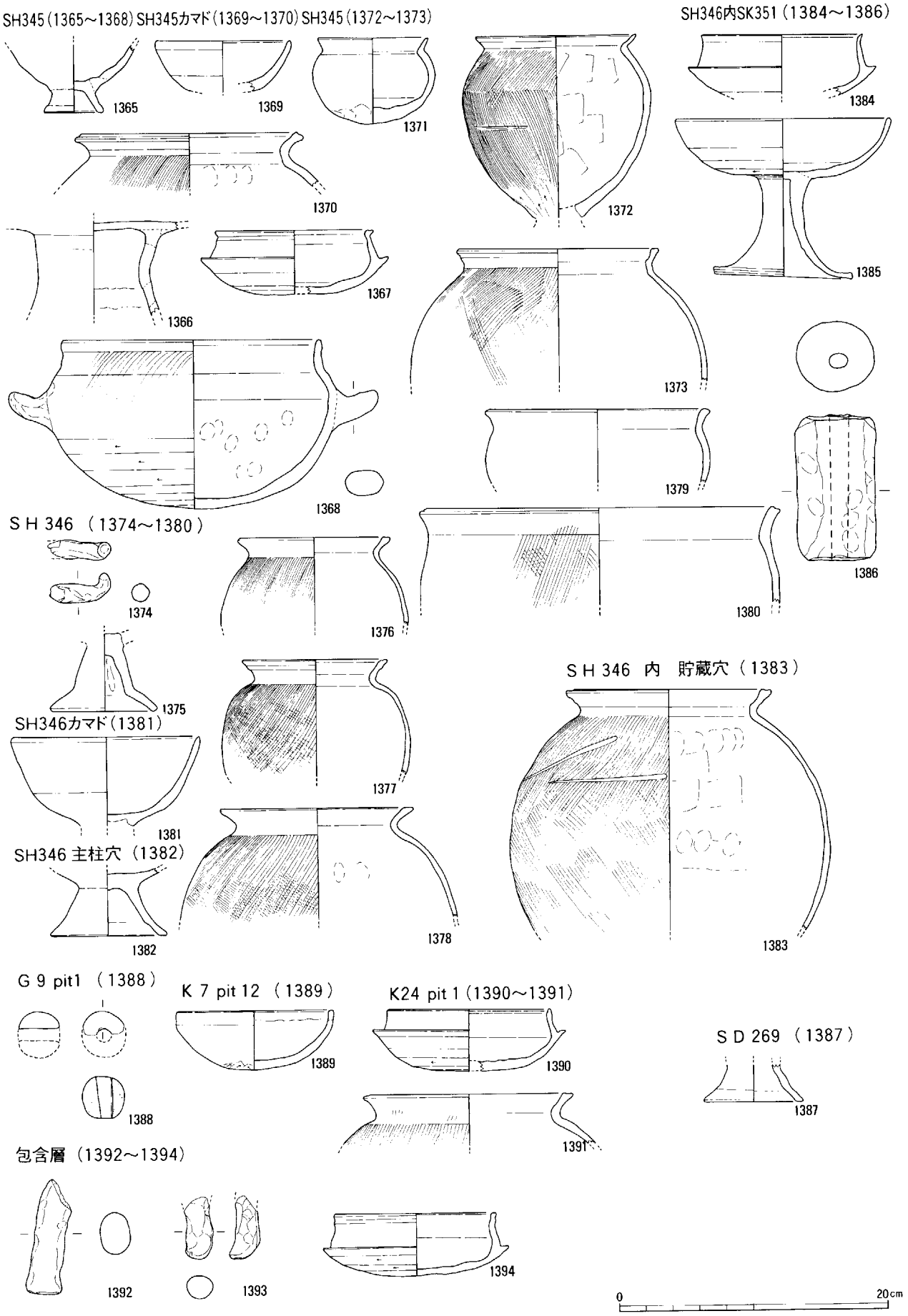
第143図　出土遺物実測図Ｇ区　古墳時代後期（13）（１：４）



第144図　出土遺物実測図G区　古墳時代後期（14）（1：4）



第145図　出土遺物実測図Ｇ区　古墳時代後期（15）（１：４、1365は２：３）



第146図　出土遺物実測図G区　古墳時代後期(16)(1：4)

れており、貯蔵穴を蓋する為の装置と考えられている。これを裏つけるものとして、SH228の炭化材の状況がある。炭化材は貯蔵穴を塞ぐように、遺存している。貯蔵穴内部には炭化材はほとんど確認できなかった。また、竪穴住居の他の部分の炭化材は、貯蔵穴上の炭化材に比べ遺存状況はさほどよくなかった。

また、壁周溝は、貯蔵穴につながり掘削されている。貯蔵穴が貯蔵施設であるとともに、排水施設・貯水施設の役割を担っていたことを示しているかもしれない。

仕切り溝　SH204・213・249・255において確認できた。主柱穴から壁際へ見られるもの(SH204・255)、主柱穴間中央から壁際へ伸びるもの(SH213・249)である。

立地　竪穴住居は中央に空閑地を保ち、円形上に立地している。そのうち、SH213・228は焼失住居と考えられ、同時期に火災に遭ったものと推定される。また、SH204貯蔵穴出土の土師器広口壺と、SH213出土の土師器広口壺底部は接合し、この2棟も同時存在といえる。

一番東端にあるSH249はもっとも規模が大きく、壁立式竪穴住居として他の竪穴住居とは異なる。中央の「広場」に面する竪穴住居の外側に位置する、SH214・233・244は別として、おそらく「広場」に面する竪穴住居群は、同じ場所での建替えはともかく、「広場」を囲むようにしてほぼ同時存在で建てられていたのではないだろうか。

ただし、大型掘立柱建物群に接する部分には竪穴住居は見られない。前期の竪穴住居は残存状況は良好であるため、削平されているとは考えがたい。

この「広場」に、掘立柱建物SB284が建つ。出土遺物からは時期を推し量ることはできないが、建物方向が区画溝と同じくすること、また前述したように、古墳時代後期のSH307が、わざわざ柱穴の上に床を貼って建てられていることから、それ以前の建物と断定できる。その立地状況から、古墳時代前期、竪穴住居群と同時存在と考えたほうが妥当といえる。

(2) 区画を伴う大型掘立柱建物エリア

この区画溝・掘立柱建物群は大きく2つの時期に分けられると考えられる。即ち、小区画SA305とSB361の時期、そして大区画SA309・314とSB362・363・364の時期である。

大型掘立柱建物

高床式大型掘立柱建物は片側にのみ独立棟持柱を持つ点が特徴である。しかし、その掘形の深さはというと、側柱柱掘形に比べ、格段に浅い。本来、屋根を支えるものであったはずが、本例の場合は意味を成していないといえる。ここで、本例の独立棟持柱の役割を考えた場合、可能性があるのが建物の正面観（方向）を示すということである。勿論、この「正面観」は独立棟持柱のある梁行に建物入り口があるという意味ではない。あくまでも、建物の「向き」を示すという意味である。小区画の時期のＳＢ361は区画の入り口である東側に独立棟持柱を持つが、大区画の時期のSB362・363は西側に独立棟持柱を持つようになる。

同時存在と想定できるSB362・363には構造上の違いがある。それは、束柱掘形の深さが異なるということである。これについては、深いSB362の束柱が、棟までのび支えているのに比べ、浅いＳＢ363の束柱はあくまでも床束柱であるという違いであると考えられる。

区画の範囲

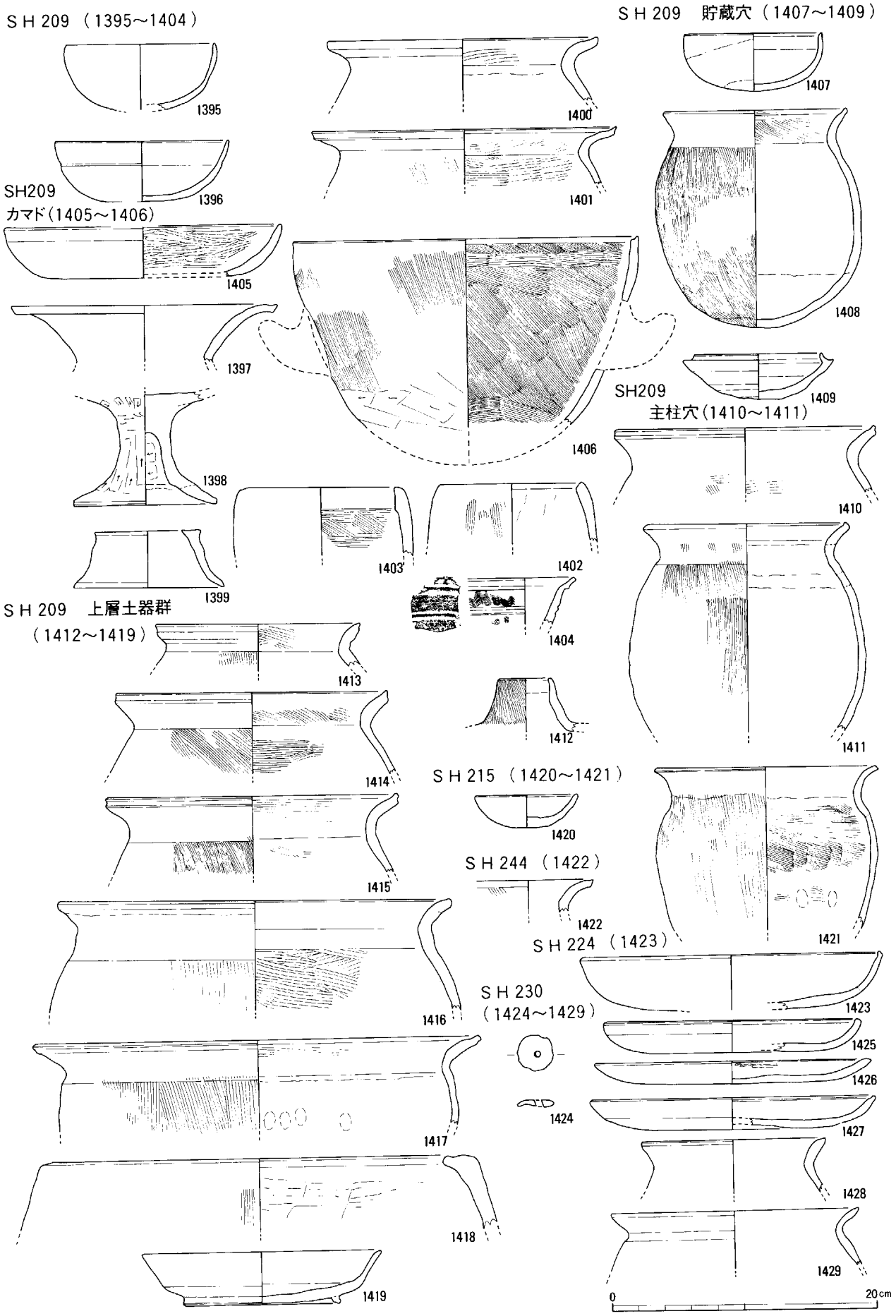
ここで、小区画の面積について述べたい。本調査では北・南辺が調査区外へ伸び、規模は不明であった。配水管設置に伴う調査で、南辺が確認でき、その規模は南北40m×東西32mと断定できる。

また、大区画の2条溝の範囲についてはどうであろうか。本調査後のフェンス設置に伴う調査で、SA309・314と思われる溝が東トレンチで確認できた。また、新たに大型掘立柱建物と思われる柱掘形が東側で確認された。本調査区では確認されていないので、トレンチで確認できた新たな柱掘形が西端の掘形と考えると、少なくとも、大区画の東西長さは55mにはなるであろう。もしくは、台地縁まで、伸びていたことも考えられる。

確かな規模として南北46m×東西55m以上ということはいえる。

(3) 大型掘立柱建物群の性格について

ここで若干、大型掘立柱建物群の性格について考えたい。前述したように、大型掘立柱建物群は台地



第147図　出土遺物実測図Ｇ区　飛鳥・奈良時代（1）（１：４）

の縁に立つ。眼下には伊勢湾を見渡し、本来は台地間際まで海岸線が迫っていたと考えられる。この周辺は中世安濃津の存在も示しているように、中世段階では物資交流の要地であった。これより溯って考えても、高茶屋大垣内遺跡の北、半田丘陵一帯に広がる三重県最古段階の須恵器窯の操業など、海上交通による新文化流入が盛んであったと考えられる。

このように考えると、交通の要地に立つ「豪族居館」[6]・「公的施設」の可能性が高いと考えてよいのではないか。当該時期の祭祀遺物出土が皆無であること、掘立柱建物の規模・配置などから、「祭祀施設」・「倉庫」の可能性は、高茶屋大垣内遺跡の大型掘立柱建物群については考えがたい。

古墳時代後期の集落（竪穴住居の構成）

古墳時代後期、5世紀後半から6世紀前半に、竪穴住居群が見られるようになる。竪穴住居個々の施設について見ていきたい。

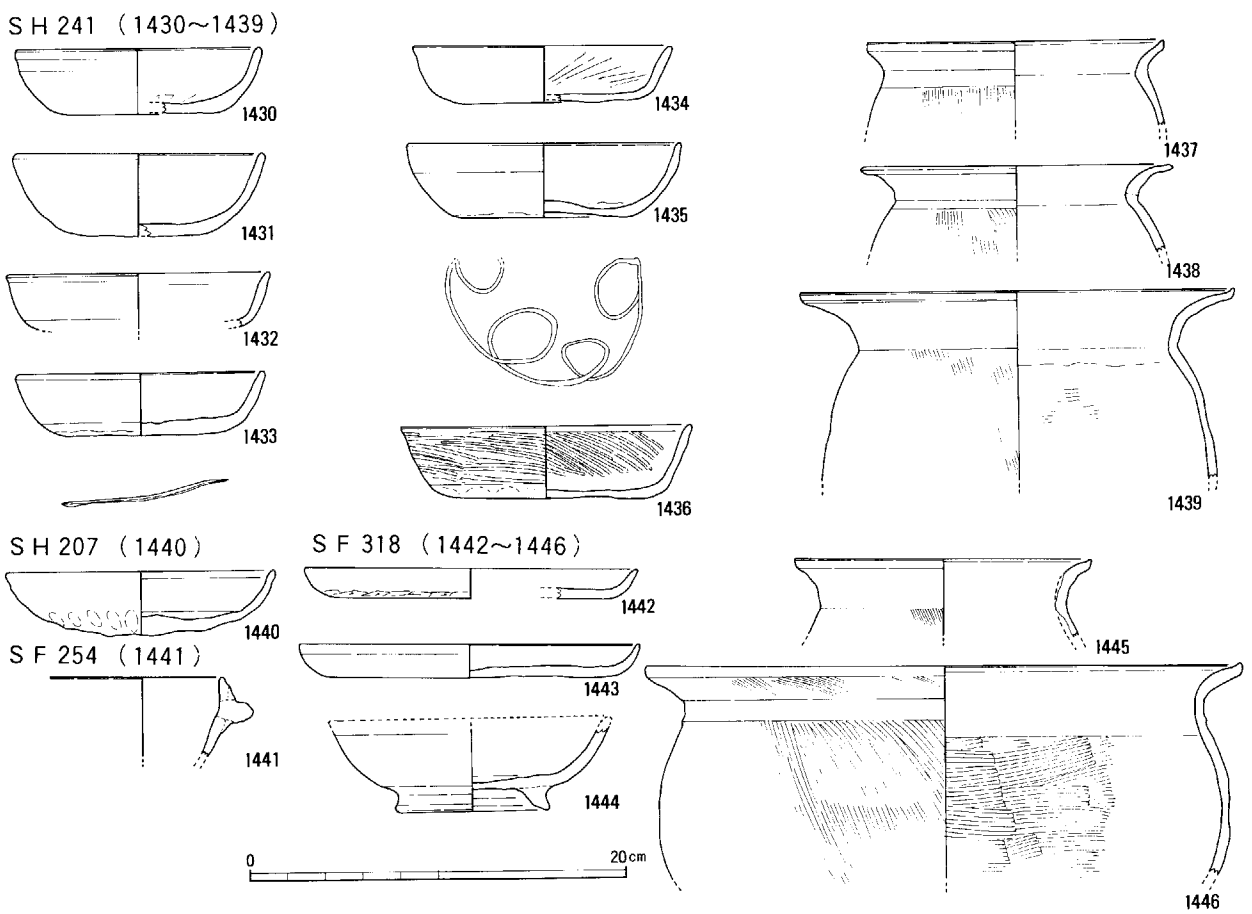
(1) 竪穴住居内施設

カマド　カマドの設置される方向には大きく2方向がある。即ち、東辺につくものと北辺につくものである。

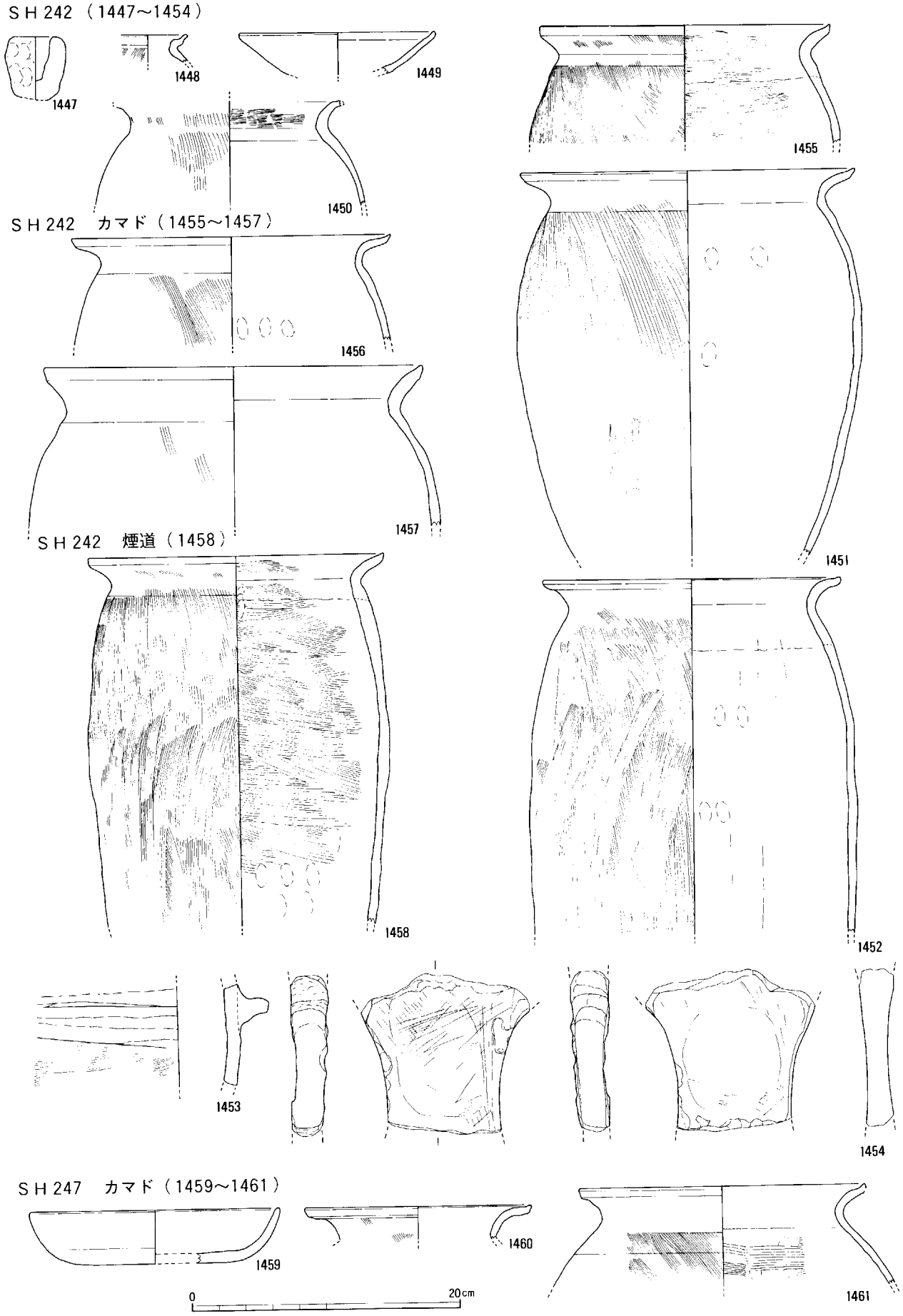
貯蔵穴　方向等について見る前に、その構造について触れたい。SH306・308・325・345において、貯蔵穴を取り囲む土手が確認できた。これは、壁際以外の3方向に築かれている。ここで思い出されるのが、古墳時代前期の竪穴住居の貯蔵穴である。前期の貯蔵穴は床面を一段掘り下げていた。これと同様の施設ではないであろうか。即ち、貯蔵穴に被せる蓋を固定するものである。

方形土坑　竪穴住居のプランに沿って掘削されている。土層の状況、もしくは主柱穴等の施設の残存状況等から、竪穴住居と方形土坑が同時存在とはいえない。断言できるのは、埋没時期が同じということである。このことから、竪穴住居が廃絶した後、埋まらないうちに掘削されたものと考えられる。その用途として、廃棄土坑として用いた、何らかの作業場として用いた、土を採掘した等のことが考えられるが、それぞれの土坑の状況は様々であるので、断定できない。

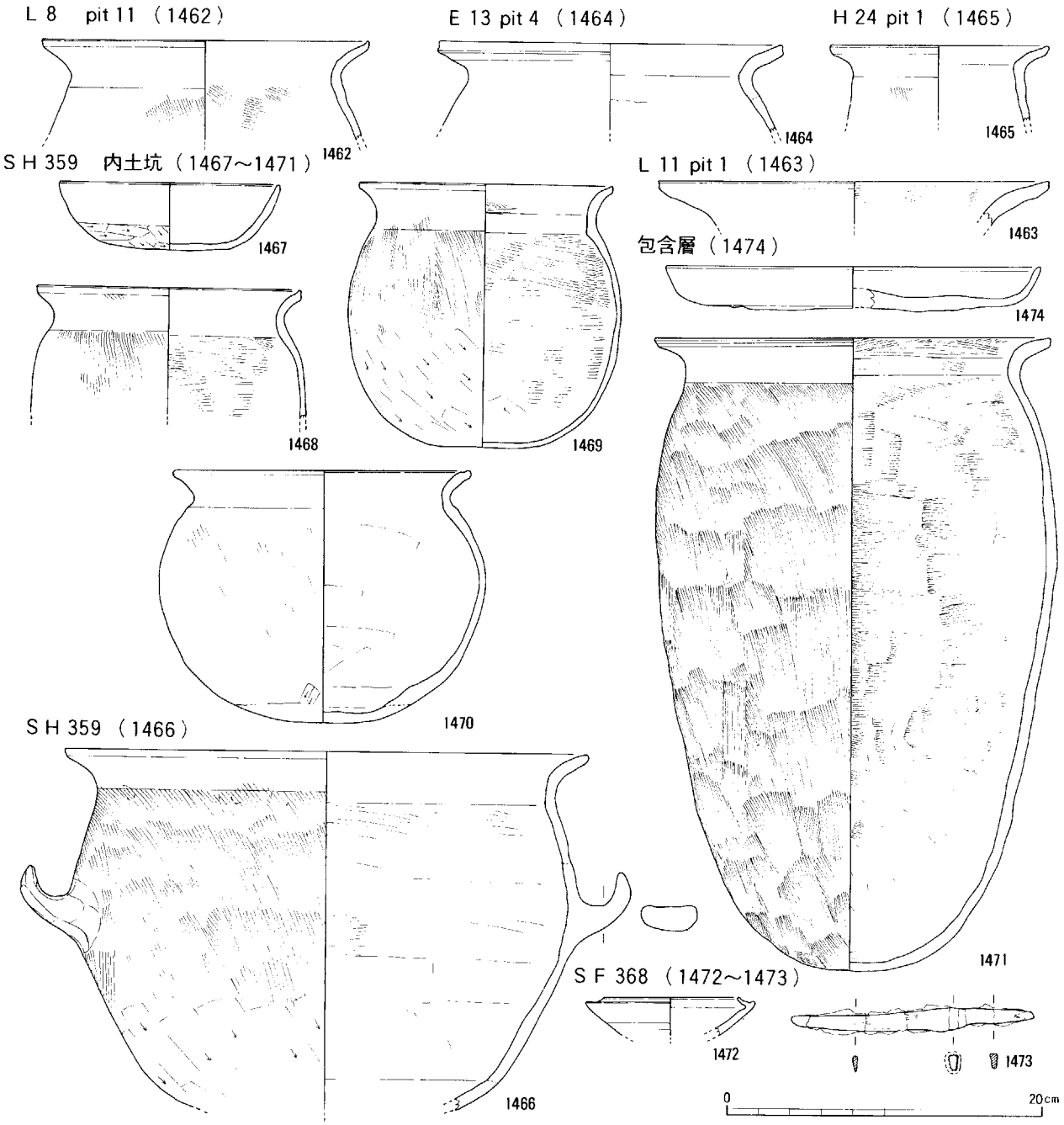
(2) 竪穴住居の時期と構造



第148図　出土遺物実測図G区　飛鳥・奈良時代（2）（1：4）



第149図　出土遺物実測図Ｇ区　飛鳥・奈良時代（3）（１：４）



第150図　出土遺物実測図G区　飛鳥・奈良時代（4）（1：4）

カマドに2方向があることが先に述べた。このカマド方向と同時に、他の施設の差異はあるのだろうか。

この時期に該当する竪穴住居で、北カマドのものとしてSH326・341・346がある。この竪穴住居には貯蔵穴は見られない。あるのは、カマド手前やや左手に、浅いレンズ状の土坑である。

また、東カマドのものとしてSH306・307・308・316・325・345がある。この竪穴住居には貯蔵穴がつく。また、方形土坑がつくのもこのタイプである。

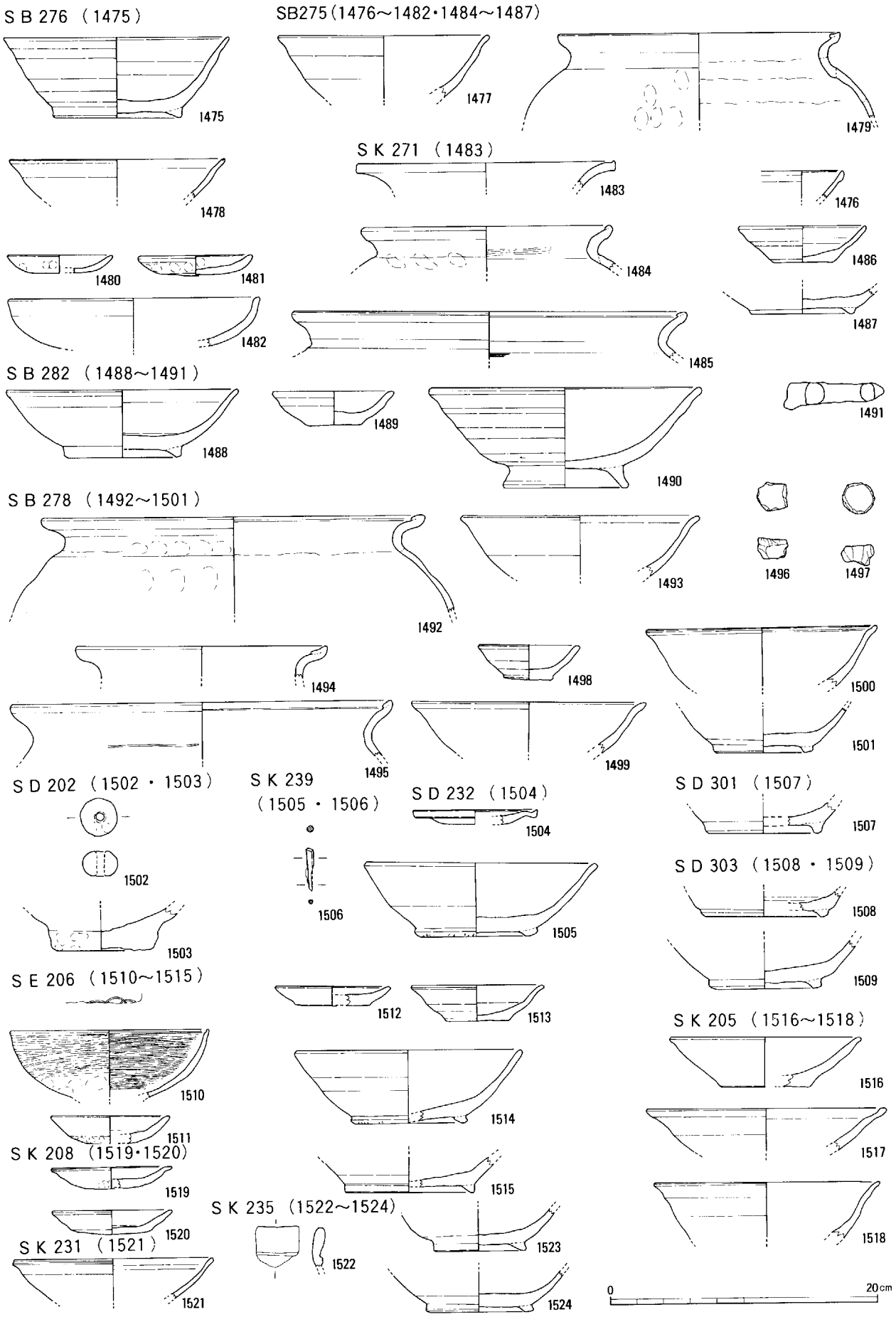
時期差としては、北カマドが新しくなる。

焼成土坑について

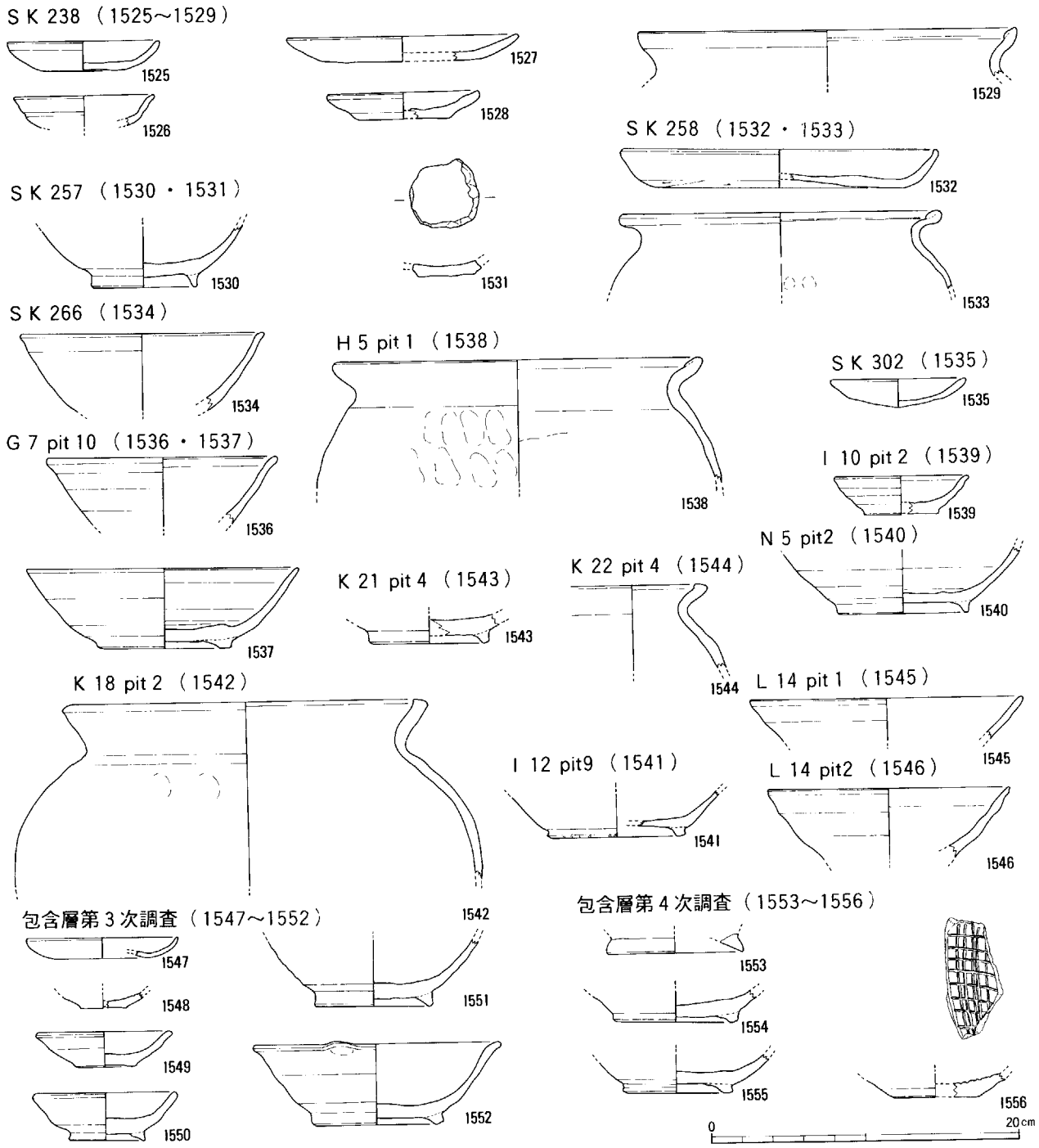
G区の調査では、被熱の見られる土坑が6基見られた。みな、浅いレンズ状を呈し、出土遺物も少ない。しかし遺物は皆細片で、被熱のため剥離している。時期としては、飛鳥時代に属するが、この時期の住居は皆竪穴住居であるが、小型化する。

(註)

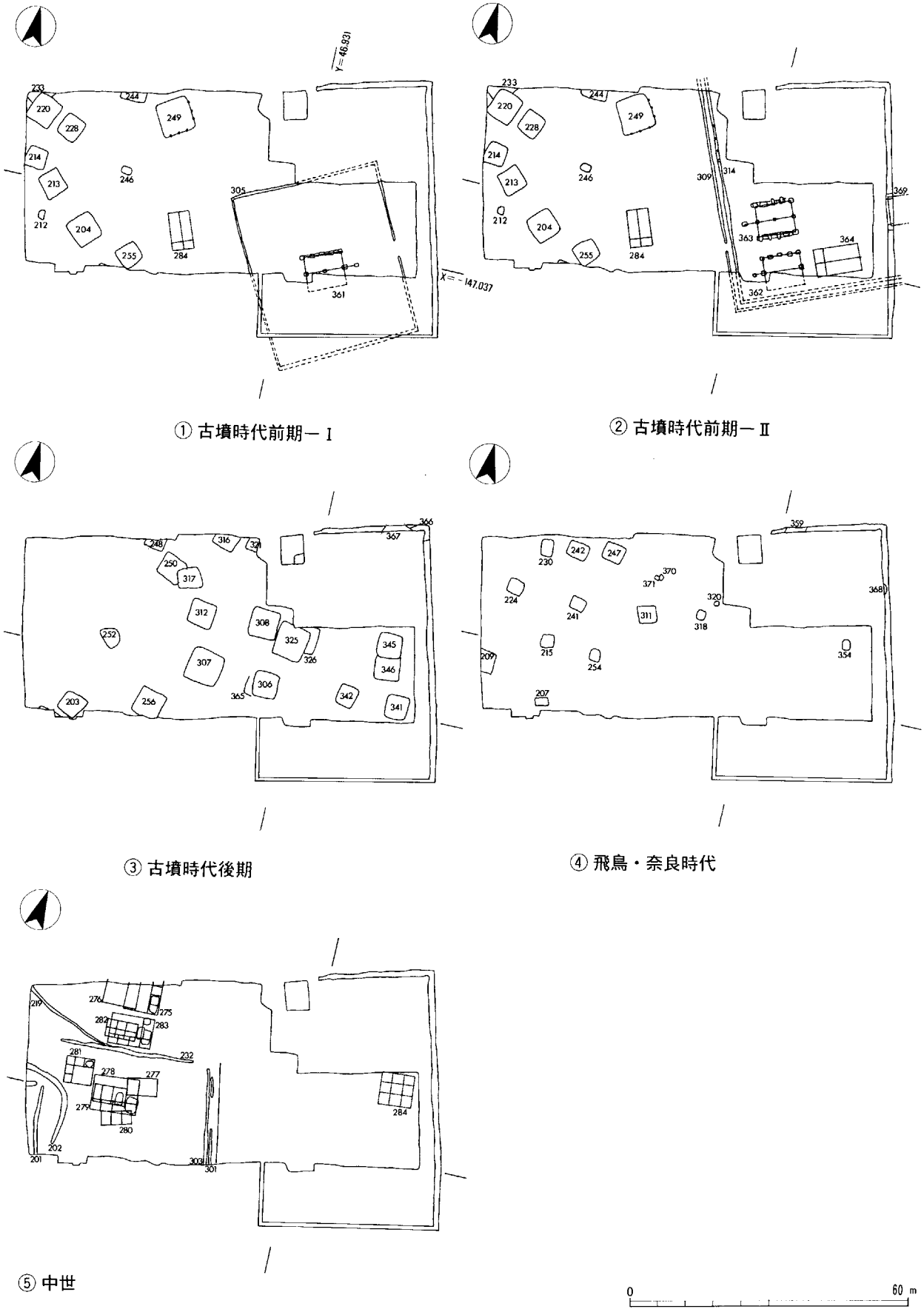
① 仕切り溝の定義については石野博信『日本原始・古代住居の研究』吉川弘文館　1990年に基づく。
② 田辺昭三『須恵器大成』角川書店 1981年
③ 古代の土器研究会編『古代の土器Ⅰ都城の土器集成』1992年
④ 以下、陶器椀の編年については藤沢編年で記述する。藤沢良祐ほか『尾呂』瀬戸市教育委員会 1990年
⑤ 調査担当者池端清行氏の御教示による
⑥ ここでいう「豪族」は、「豪族」がどういうものかという問題は排除し、一般的な用語として用いている。



第151図　出土遺物実測図G区　中世（1）（1：4）



第152図　出土遺物実測図Ｇ区　中世（2）（1：4）



第153図　G区遺構変遷図（1：1,200）

報告番号	登録番号	調査次数	地区名	種類	器種	出土遺構	口径 (cm)	器高 (cm)	その他 (cm・g)	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考
878	G012-05	3	G-L6	弥生土器	甕	SH204	－	－	－	外：ナデ・オサエ－ヘラ描 内：ナデ	粗	並	明赤褐　5YR5／6	細片	前期
879	G012-03	3	G-M6	土製品	丸玉	SH204	－	2.1	孔径　0.7 最大幅　2.7	ナデ・オサエ	ほぼ密	並	にぶい黄橙　10YR6／4	1／2	片側穿孔
880	G012-04	3	G-M6	土製品	土錘	SH204	－	5.9	孔径　1.4 幅(復元)　4.0	ナデ・オサエ	やや粗	並	灰白　7.5YR8／2	1／3	穿孔の際の工具痕あり
881	G011-02	3	G-N8	土師器	台付甕	SH204	11.0	－	－	外：ハケ－ヨコナデ 内：オサエ・ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	明黄褐　2.5Y7／6	1／8	
882	G011-03	3	G-M7	土師器	台付甕	SH204	13.1	－	－	外：ハケ－ヨコナデ 内：オサエ・ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	にぶい黄橙　10YR7／3	1／9	
883	G103-03	3	G-M6・7	土師器	台付甕	SH204	15.4	－	－	外：ハケ－ヨコナデ 内：ヨコナデ	やや粗	並	浅黄橙　10YR8／3	1／7	
884	G011-01	3	G-N8	土師器	台付甕	SH204	－	－	頸部径 9.9	外：ハケ－ヨコナデ 内：オサエ・ナデ－ヨコナデ	やや密	並	浅黄橙　10YR8／4	1／4	
885	G013-05	3	G-N8	土師器	甕	SH204	15.5	－	－	外：タタキ－ヨコナデ 内：ケズリ－ヨコナデ　ケズリ　ナデ	密	並	褐　7.5YR4／4	5／6	庄内甕
886	G011-07	3	G-K6	土師器	短頸壺	SH204	8.2	－	－	外：ヨコ方向ナデ 内：ヨコ方向ナデ	密	並	にぶい黄橙　10YR6／4	1／4	
887	G011-04	3	G-M6	土師器	台付椀	SH204	12.5	－	－	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ　(脚内部)シボリ	やや粗	並	にぶい黄橙　10YR6／4	杯部 ほぼ完形	
888	G012-01	3	G-M7	土師器	高杯	SH204	－	－	底部径 9.0	外：ハケ－ヨコナデ－ナデ 内：シボリ－ナデ－ヨコナデ	密	並	橙　7.5YR7／6	完形	三方向透孔
889	G012-02	3	G-M6	土師器	高杯	SH204	－	－	底部径 12.4	外：ヘラミガキ－ヨコナデ 内：シボリ－ナデ－ヨコナデ	やや密	並	橙　7.5YR7／6	1／4	三方向透孔 SH204貯蔵穴と接合
890	G048-04	3	G-M6	土師器	甕	SH204				外：ナデ・ハケ 内：ナデ	やや粗	並	橙　7.5YR7／6	細片	
891	G012-06	3	G-N8	土師器	壺	SH204	－	－	－	外：ナデ－ハケ－貼り付け 内：ナデ	粗	並	にぶい黄褐　10YR5／4	細片	
892	G119-01	3	G-M6	土師器	小形器台	SH204 貯蔵穴	10.4			外：ヨコナデ－ヘラミガキ 内：ヨコナデ－ヘラミガキ	密	やや軟質	橙　7.5YR6／6	杯部 ほぼ完形	
893	G119-02	3	G-M7	土師器	椀形高杯	SH204 貯蔵穴	12.8	－	－	外：ヨコナデ－ケズリ 内：ヨコナデ－ヘラミガキ	やや粗	軟質	明赤褐　5YR5／6	杯部 完形	
894	G119-03	3	G-M6	土師器	高杯	SH204 貯蔵穴	18.6	12.2	底部径 10.6	外：ヨコナデ－透孔穿孔－ヘラミガキ 内：ヨコナデ－ケズリ－ヘラミガキ	密	軟質	明赤褐　5YR5／6	1／5欠損	
895	G062-01	3	G-M6	土師器	高杯	SH204 貯蔵穴	27.0	14.0	底部径 14.3	外：ハケ－ヨコナデ－ヘラミガキ 内：ナデ、ハケ－ヨコナデ	密	並	橙　7.5YR6／6	1／4欠損	
896	G020-04	3	G-M7	土師器	台付甕	SH204 貯蔵穴	14.0	－		外：ナデ－ハケ－ヨコナデ 内：オサエ・ナデ－ヨコナデ	粗	並	にぶい黄橙　10YR4～5／3	1／3	
897	G119-04	3	G-M6	土師器	広口壺	SH204 貯蔵穴	14.0	－	－	外：ヨコナデ－ヘラミガキ 内：ヨコナデ	やや密	軟質	明黄褐　10YR6／6	2／5	
898	C001-01	3	G-M6・7	土師器	広口壺	SH204 貯蔵穴 SH213	19.4	－	－	外：ヨコナデ－ハケ－ヘラミガキ－凸帯・棒状浮文－凸帯上刺突 内：オサエ・ナデ－ヨコナデ	粗	並	橙　5YR6／6	ほぼ完形	体部上(SH204貯蔵穴) 体部下(SH213)
899	G019-04	3	G-N6	土師器	壺	SK210	19.0	－	－	外：ハケ－ヨコナデ 内：ヨコナデ	やや粗	並	浅黄　2.5Y8／4	1／8	
900	G043-06	3	G-K3	土師器	台付椀	SH213 P4柱痕	－	－	底部径 7.6	外：ナデ 内：ナデ－ハケ	やや粗	並	橙　7.5YR7／6	1／3	
901	G022-04	3	G-J4	土師器	小形鉢	SH213	10.6	7.5	底部径 2.6	外：ナデ－ハケ－ヨコナデ 内：オサエ・ナデ－ヨコナデ	やや粗	良	浅黄橙　10YR8／4	1／3欠損	
902	G021-03	3	G-J4	土師器	小形鉢	SH213	9.0	5.7	－	外：オサエ－調整不明 内：調整不明	粗	良	橙　7.5YR6／6	ほぼ完形	
903	G022-03	3	G-J4	土師器	小形器台	SH213	6.6	9.1	底部径 11.1	外：ヨコナデ－ヘラミガキ 内：シボリ、ヨコナデ	密	良	明黄褐　10YR7／6	ほぼ完形	底部外面に黒斑あり
904	G022-02	3	G-J4	土師器	台付椀	SH213	11.6	8.4	底部径 7.9	外：ヘラミガキ 内：シボリ	やや粗	良	浅黄　2.5Y8／4	ほぼ完形	
905	G134-06	3	G-J4	土師器	台付甕	SH213	13.0	－	－	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	やや粗	並	にぶい橙　7.5YR7／3	1／11	体部片あるが接合せず
906	G021-02	3	G-J4	土師器	台付甕	SH213	13.0	－	－	外：ハケ－ヨコナデ 内：オサエ　ヨコナデ	やや粗	良	浅黄　2.5Y8／3	1／3	
907	G022-01	3	G-J4	土師器	台付甕	SH213	13.4	－	－	外：ハケ－ヨコナデ 内：ナデ－ヨコナデ	やや粗	良	暗褐　10YR3／4	1／5	
908	G114-03	3	G-J4	土師器	台付甕	SH213	16.1 (推定)	－	－	外：ハケ－ヨコナデ 内：ヨコナデ	やや粗	並	にぶい黄橙　10YR7／4	1／8	
909	G021-01	3	G-J4	土師器	台付甕	SH213	14.4	21.9 (推定)	底部径 9.0	外：ハケ－ヨコナデ 内：オサエ・ナデ－ヨコナデ	粗	良	にぶい黄橙　10YR7／4	1／2	
910	G116-01	3	G-J4	土師器	高杯	SH213	23.2	14.1	底部径 12.8	外：ヨコナデ－ヘラミガキ 内：ヨコナデ－ヘラミガキ、シボリ－ヨコナデ	やや粗	並	橙　7.5YR7／6	1／3欠損	
911	G006-01	3	G-J4	土師器	高杯	SH213	24.2	15.9	底部径 15.5	外：ヨコナデ－透孔穿孔－ヘラミガキ 内：シボリ、ナデ、杯内部不明	やや密	並	橙　7.5YR7／6	1／8欠損	歪みあり
912	G008-02	3	G-G3	土師器	小形器台	SH220	8.6	－	－	外：オサエ－ヨコナデ、ヘラミガキ 内：ヨコナデ、シボリ　ナデ	やや粗	並	橙　7.5YR7／6	1／2	
913	G008-01	3	G-G3	土師器	小形壺	SH220	11.0		－	外：ヨコナデ 内：ナデ－ヨコナデ	やや密	並	橙　5YR6／6	1／8	
914	G043-04	3	G-H5	土師器	台付甕	SH220 (Pit1)	11.2	－	－	外：ハケ－ヨコナデ 内：ナデ－ヨコナデ	粗	並	にぶい黄褐　10YR5／3	1／8	
915	G009-02	3	G-H5	土師器	台付甕	SH228	16.0	－	－	外：ハケ　ヨコナデ 内：ナデ－ヨコナデ	粗	並	にぶい黄橙　10YR7／4	1／8	
916	G009-01	3	G-G-H5	土師器	台付甕	SH228	17.4	－	－	外：ハケ－ヨコナデ 内：ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	黄橙　7.5YR6／8	1／7	
917	G009-03	3	G-H4・5	土師器	台付甕	SH228	12.0	－		外：ハケ－ヨコナデ 内：オサエ・ナデ－ヨコナデ	粗	並	黄灰　2.5Y4～5／1	口縁部 1／8	
918	G036-05	3	G-P2・3	土師器	壺？	SH233	15.1	－	－	外：ヨコナデ 内：ナデ－ヨコナデ	やや密	並	にぶい褐　7.5YR5／4	1／7	
919	G036-03	3	G-P2	土師器	台付甕	SH233	12.7	－	－	外：ハケ　ヨコナデ 内：ヨコナデ	やや粗	並	にぶい黄橙　10YR7／3	1／8	
920	G036-02	3	G-P2・3	土師器	台付甕	SH233	14.5	－	－	外：ハケ－ヨコナデ 内：ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	にぶい橙　7.5YR7／4	1／3	
921	G036-04	3	G-P2・3	土師器	台付甕	SH233	15.6	－	－	外：ハケ－ヨコナデ 内：オサエ・ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	にぶい黄橙　10YR6／4	口縁部 細片	
922	G120-01	3	G-P2・3	土師器	広口壺	SH233	18.8	－	－	外：ハケ－ヨコナデ－貼付凸帯・棒状浮文 内：ヨコナデ	やや粗	やや不良	明赤褐　5YR5／6	1／4	
923	G036-01	3	G-P3	土師器	広口壺	SH233	16.0	－	－	外：ヨコナデ－櫛描文 内：オサエ・ナデ－ヨコナデ	粗	並	浅黄橙　10YR8／4	口縁部 1／2欠損	
924	G030-04	3	G-P9	土師器	小形器台	SH249	8.4	－	－	外：ヨコナデ－ヘラミガキ 内：ヨコナデ	密	並	橙　5YR6／8	1／8	
925	G033-01	3	G-P-P10	土師器	小形鉢か	SH249	－	－	底部径 4.1	外：ナデ 内：オサエ・ナデ	粗	並	浅黄　2.5Y8／3	底部 完形	
926	G033-04	3	G-P10	土師器	台付甕	SH249	17.4	－	－	外：ハケ－ヨコナデ 内：ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	にぶい黄橙　10YR7／4	1／4	
927	G033-02	3	G-P10	土師器	台付甕	SH249 焼土	－	－	底部径 7.6	外：ナデ－ヨコナデ－ハケ 内：オサエ・ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	浅黄橙～黄橙　10YR8／4～6	1／4欠損	
928	G020-02	3	G-M4	土師器	小形鉢	SK212	11.6	5.6 (推定)	－	外：ヨコナデ 内：ナデ－ヨコナデ	やや密	並	明赤褐　5YR5／6・8	1／3	
929	G020-03	3	G-M4	土師器	小形器台	SK212	9.8	－	－	外：ヨコナデ－ヘラミガキ、透孔(三方) 内：ヨコナデ－ヘラミガキ、工具ナデ	やや密	並	橙　5YR7／6	1／3	
930	G056-02	3	G-M4	土師器	台付甕	SK212	－	－	－	外：ハケ　ヨコナデ 内：不明－ヨコナデ	やや粗	並	浅黄橙　10YR8／4	細片	
931	G020-01	3	G-M4	土師器	壺	SK212	17.6	－	－	外：不明－ヨコナデ 内：ハケ－ヨコナデ	やや密	並	橙　2.5YR6／6	1／3	摩滅
932	G037-01	3	G-M3	土師器	台付甕	SK236	16.2	－	－	外：ハケ－ヨコナデ 内：ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	灰白　10YR7／1	1／5	
933	G037-05	3	G-I6	土師器	壺	SK237 上面	13.0	－	－	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	やや粗	並	明黄褐　10YR7／6	1／5	
934	G037-02	3	G-I6	土師器	壺	SK239	16.4	－	－	外：ハケ－ヨコナデ 内：ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	浅黄橙　10YR8／4	1／3	

第17表　出土遺物観察表Ｇ区（1）

報告番号	登録番号	調査次数	地区名	種類	器種	出土遺構	口径 (cm)	器高 (cm)	その他 (cm・g)	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考
935	G044-09	3	G-I8	土師器	壺	SK246	－	－	－	外：ナデ－ヨコナデ－櫛状浮文 内：ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	にぶい黄橙 10YR6／4	細片	
936	G103-05	3	G-I8	土師器	壺	SK246	－	－	最大部径 16.2	外：ハケ－ナデ 内：ナデ	やや粗	並	橙 7.5YR7／6	1／5	
937	G044-10	3	G-I8	土師器	台付甕	SK246	－		－	外：ハケ－ヨコナデ 内：オサエ・ナデ－ヨコナデ	粗	並	にぶい黄橙 10YR6／4	細片	
938	G044-07	3	G-I8	土師器	甕	SK246	－	－	－	ヨコナデ？	粗	並	灰黄褐 10YR5／2	細片	
939	G106-04	3	G-I8	土製品	土錘	SK246	－	6.2	孔径 2.0 最大部径 4.6 重さ 108.9	オサエ・ナデ	やや粗	並	浅黄橙 10YR8／4	完形	
940	G051-03	3	G-M10	土製品	つまみ？	SH255	3.4	2.7	－	ナデ・オサエ	やや密	並	灰黄褐 10YR5／2	完存	
941	G025-04	3	G-N9	土師器	高杯	SH255	－	－	接合部径 3.5	磨滅が著しいため調整不明	やや密	並	橙 5YR6／8	脚杯接合部完存	円形透孔 杯部内面に炭化物付着
942	G060-03	3	G-M8	土師器	高杯	SH255	－	－	－	外：円形透孔穿孔－ヘラミガキ 内：シボリ－ナデ	やや密	並	橙 5YR6／6	脚部1／3	
943	G109-05	3	G-N9	土師器	壺	SH255	12.0	－	－	外：ナデ－ヨコナデ 内：ナデ？－ヨコナデ－ヘラミガキ	やや密	並	橙 7.5YR7／6	1／4	
944	G058-02	3	G	土師器	壺	SH255	14.6	－	－	外：ハケ？－ヨコナデ？ 内：ヨコナデ？	粗	並	黄橙 10YR8／6	1／6	磨滅
945	G109-03	3	G-N9	土師器	台付甕	SH255	13.0			外：ハケ－ヨコナデ 内：ナデ－ヨコナデ	粗	並	浅黄橙 10YR8／3	1／10	
946	G052-03	3	G-N8	土師器	台付甕	SH255	12.5	－	－	外：ハケ－ヨコナデ 内：ナデ－ヨコナデ	粗	良	にぶい黄橙 10YR7／4	1／6	
947	G052-01	3	G-M9	土師器	台付甕	SH255	8.6	－	－	外：ハケ－ヨコナデ 内：ナデ ヨコナデ－ハケ	粗	並	にぶい黄橙 10YR5／4	1／4	
948	G052-02	3	G-N8	土師器	台付甕	SH255	18.1	－	－	外：ハケ－ヨコナデ 内：オサエ・ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	にぶい黄橙 10YR6／4	1／8	
949	G059-07	3	G-M8	土師器	広口壺	SH255	12.0	－	－	外：ナデ－ヨコナデ 内：オサエ・ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	浅黄橙 10YR8／4	1／6	
950	G056-05	3	G-N9	土師器	台付甕	SH255 貯蔵穴	13.0	－	－	外：ハケ－ヨコナデ 内：ヨコナデ	やや粗	並	浅黄橙 10YR8／4	1／8	
951	G056-06	3	G-M9	土師器	台付甕	SH255 貯蔵穴	13.2	－	－	外：ヨコナデ？ 内：ヨコナデ？	やや粗	並	灰褐 7.5YR6／2	1／8	磨滅著しい
952	G056-03	3	G-M9	土師器	台付甕	SH255 貯蔵穴	13.2	－	－	外：ハケ－ヨコナデ 内：オサエ・ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	にぶい橙 7.5YR7／4	1／6	
953	G056-01	3	G-M9	土師器	台付甕	SH255 貯蔵穴	－	－	－	外：ハケ－ヨコナデ 内：オサエ・ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	浅黄 2.5Y8／3	1／12	
954	G056-07	3	G-M9	土師器	台付甕	SH255 貯蔵穴	－	－	台部径 9.8	外：ナデ－ハケ 内：オサエ	粗	並	にぶい黄橙 10YR7／2	1／10	
955	G056-04	3	G-M9	土師器	台付甕	SH255 貯蔵穴	－	－	－	摩滅が著しいため調整不明	やや粗	並	にぶい黄橙 10YR7／4	1／10	
956	G023-02	3	G-P10	土師器	壺	SK271	17.0	－	－	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	やや粗	並	浅黄 2.5Y8／3	1／4	
957	G023-01	3	G-P10	土師器	壺	SK271	－	－	底部径 7.8	摩滅が著しいため調整不明	粗	並	にぶい褐 7.5YR6／3	底部完形	体部に黒斑あり
958	131-07	4	G-J14	土師器	台付甕	SA305		－	－	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ－ハケ	やや粗	並	灰黄褐 10YR4／2	細片	
959	131-04	4	G-I14	土師器	台付甕	SA305	10.3	－	－	外：ハケ－ヨコナデ 内：ナデ ヨコナデ	粗	良	にぶい黄橙 10YR7／4	1／8	
960	132-01	4	G-J14	土師器	台付甕	SA305	16.0	－		外：ヨコナデ 内：ヨコナデ－ハケ	やや密	並	にぶい黄褐 10YR5／3	1／10	
961	131-03	4	G-I14	土師器	壺	SA305	－	－	底部径 7.8	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	粗	並	にぶい黄橙 10YR7／3	底部1／4	内面に砂粒が多く付着
962	163-04	4	G-K19	土師器	小形器台	SB362 P8細形	12.6	－		外：ヨコナデ－ヘラミガキ 内：ヨコナデ－ヘラミガキ	やや密	並	橙 5YR7／6	1／12	
963	163-07	4	G-I18	土師器	杯？	SB362 P27細形	－	－	－	外：ナデ－ヨコナデ 内：ヨコナデ	やや密	並	橙 5YR6／6	細片	
964	130-08	4	G-K13	土師器	壺	SA309	14.2	－		外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	やや密	並	にぶい黄褐 10YR5／4	細片	布留式甕
965	130-04	4	G-L14	土師器	台付甕	SA309	12.8	－	－	外：ハケ－ヨコナデ 内：オサエ・ナデ ヨコナデ	粗	良	にぶい黄橙 10YR7／3	1／6	
966	130-03	4	G-K3	土師器	台付甕	SA309	13.0	－	－	外：ハケ－ヨコナデ 内：ナデ－ヨコナデ	粗	良	にぶい橙 7.5YR6／4	1／7	
967	127-06	4	G-F14	土師器	細頸壺	SA314	－	－	－	外：ヨコナデ－ヘラミガキ 内：ナデ－ヨコナデ	密	良	橙 5YR6／6	細片	
968	127-01	4	G-J16	土師器	壺	SA314	15.8	－	－	外：ハケ ヨコナデ 内：調整不明－ヨコナデ	やや粗	良	浅黄 2.5Y8／3	1／5	外面に黒斑あり
969	131-05	4	G-I15	土師器	広口壺	SA314	20.1	－	－	外：ハケ－ヨコナデ 内：ヨコナデ	やや粗	良	にぶい黄橙 10YR7／4	1／8	
970	139-05	4	G-G15	土師器	台付甕	SA314	12.6	－	－	外：ハケ ヨコナデ 内：ナデ－ヨコナデ－工具ナデ	やや粗	良	灰黄褐 10YR4／2	1／8	
971	163-05	4	G-K17	土師器	壺	SA314	13.6	－	－	外：ハケ－ヨコナデ 内：ヨコナデ	やや粗	並	にぶい黄橙 10YR7／4	1／4	
972	G119-02	3	G-K7	弥生土器	壺	Pit12	－	－	－	ナデ、突帯	やや粗	並	浅黄橙 10YR8／3	細片	
973	136-01	4	G-G13	土師器	鉢	Pit4	11.2	－	－	外：ハケ－ヨコナデ 内：オサエ・ナデ－ヨコナデ	粗	並	橙 5YR6／6	1／6	
974	140-05	4	G-M22	土師器	鉢？	Pit6	7.6	－	－	外：ナデ－オサエ－ヨコナデ 内：工具ナデ－ヨコナデ	やや密	並	にぶい橙 7.5YR7／4	1／3	
975	G069-04	3	G-J8	土師器	台付甕	Pit7	－	－	－	外：ヨコナデ 内：ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	灰白 2.5Y8／2	細片	
976	G043-05	3	G-G5	土師器	小形鉢	Pit7	－	－	底部径 3.8	外：ナデ 内：ナデ	粗	並	橙 5YR6／6	底部完形	
977	140-06	4	G-I12	土師器	壺	Pit11	－	－	－	外：ナデ 内：ナデ	やや粗	並	浅黄橙 10YR8／4	底部のみ	
978	G043-03	3	G-J9	土師器	壺	Pit4	15.0	－	－	外：ハケ－ヨコナデ 内：ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	淡黄 2.5Y8／3	1／4	
979	G043-07	3	G-J9	土師器	壺	Pit4	16.0		－	外：ナデ？ 内：ナデ？	やや粗	並	にぶい黄橙 10YR7／3	口縁部1／6	磨滅著しい
980	G043-08	3	G-J9	土師器	小形壺	Pit4	9.8	－	－	外：調整不明－ヘラミガキ 内：調整不明	やや密	並	橙 5YR6／8	1／9	磨滅著しい
981	G114-04	3	G-N8	土師器	小形器台	Pit7	8.0	－	－	外：ナデ？ 内：ナデ？	やや密	並	橙 7.5YR7／6	1／6	磨滅著しい
982	139-05	4	G-J14	土師器	台付甕	Pit1	17.4	－	－	外：ハケ－ヨコナデ 内：オサエ・ナデ－ヨコナデ	やや密	並	灰白 2.5Y8／2	1／6	
983	130-07	4	G-H16	土師器	台付甕	SK358	11.0	－	－	外：ハケ－ヨコナデ－工具ナデ 内：ナデ－ヨコナデ－工具ナデ	やや粗	並	にぶい黄橙 10YR7／4	1／10	
984	130-08	4	G-H16	土師器	台付甕	SK358	－	－	底部径 10.0	外：ナデ－ハケ 内：オサエ・ナデ	やや粗	並	にぶい黄橙 10YR7／4	1／4	
985	G019-02	3	G-G3	土師器	台付甕	SD219	15.2	－	－	外：ハケ－ヨコナデ 内：ヨコナデ	やや粗	並	にぶい黄橙 10YR6／4	1／7	
986	G019-03	3	G-G2	土師器	台付甕	SD219	11.6	－	－	外：ナデ－ヨコナデ－刺突 内：ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	にぶい黄橙 10YR5／3	1／8	
987	G019-01	3	G-F3	土師器	壺	SD219	17.0	－	－	外：ハケ－ヨコナデ 内：ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	にぶい黄橙 10YR7／4	1／3	
988	G042-03	3	G-I8	土師器	小形器台	包含層	9.2	－	－	外：ヨコナデ－ヘラミガキ 内：ヨコナデ	やや粗	並	橙 5YR6／6	1／5	
989	G042-02	3	G-G2	土師器	小形壺	包含層	10.2	－	－	摩滅が著しいため調整不明	やや粗	並	橙 5YR6／6	1／6	
990	G045-03	3	G-I10	土師器	広口壺	包含層	－	－	－	外：ヨコナデ－ハケ？－ヘラ描 内：不明	やや粗	並	にぶい橙 7.5YR7／4	細片	磨滅著しい
991	131-08	4	G-I15	土師器	広口壺	包含層		－	－	外：ハケ－ヨコナデ－刺突 内：ハケ－ヨコナデ	やや粗	並	にぶい褐 7.5YR5／3	細片	

第18表　出土遺物観察表Ｇ区（2）

報告番号	登録番号	調査次数	地区名	種類	器種	出土遺構	口径 (cm)	器高 (cm)	その他 (cm・g)	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考
992	G042-06	3	G-G2	土師器	壺	包含層	－		底部径 6.0	外：ハケ－ナデ 内：ハケ	やや粗	並	にぶい橙 7.5YR7／4	底部 1／4	
993	G042-01	3	G-I8	土師器	壺	包含層	11.2	－	－	外：ハケ　ヨコナデ 内：工具ナデ－ヨコナデ	やや密	並	橙 5YR7／6	1／8	
994	G042-05	3	G-I8	土師器	壺？	包含層	－	－	底部径 6.4	外：ナデ 内：ナデ	粗	並	にぶい橙 7.5YR7／4	1／4	
995	136-06	4	G-J14	土師器	台付甕	包含層	－	－	－	外：ハケ－ヨコナデ 内：ナデ－ヨコナデ	やや粗	良	にぶい黄橙 10YR6／3	細片	
996	G103-06	3	G-E9	土師器	鉢	焼土集中部	9.1	4.1	底部径 4.4	外：オサエ・ナデ－ヨコナデ 内：オサエ・ナデ	やや密	良	橙 5YR6／6	口縁部 1／4	黒斑あり
997	G103-02	3	G-F6	土師器	台付甕	SH203	18.4	－	－	外：ハケ・ヨコナデ 内：オサエ・ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	にぶい橙 5YR6／3	1／8	
998	G010-01	3	G-N8	土師器	台付甕	SH203	15.8	－	－	外：ハケ－ヨコナデ 内：ナデ－ヨコナデ	粗	並	橙 5YR7／6	口縁部 ほぼ完形	
999	G016-01	3	G-O6・7	土師器	台付甕	SH203	15.8	－	底部径 9.6	外：ハケ－ヨコナデ－ケズリ、ナデ－ケズリ 内：ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	にぶい橙 7.5YR7／4	口縁部 細片	
1000	G106-03	3	G-O5	土製品	丸玉	SH203 (Pit7)	－	2.3	孔径 0.7 最大幅 2.2 重さ 18.1	ナデ・オサエ	やや密	並	浅黄橙 7.5YR8／3	完形	
1001	G015-01	3	G-O7	須恵器	壺	SH203 焼土部分	31.4	－	－	外：回転ナデ　タタキ－カキメ－波状文 内：回転ナデ－オサエ、当具	やや密	良	灰白 N7／0	ほぼ完形	
1002	G115-01	3	G-O6	土師器	壺	SH203内 SK221	14.6	12.2	－	外：ハケ－ヨコナデ 内：ハケ－ヨコナデ	やや粗	並	浅黄橙 10YR8／3	1／4	
1003	G037-01	3	G-O6	土師器	台付甕	SH203内 SK221	－	－	底部径 10.8	外：ナデ－ケズリ 内：オサエ－ナデ	やや粗	並	淡黄 2.5Y8／3	1／8欠損	
1004	G005-01	3	G-O6	土製品	管状土製品	SH203内 SK221	－	－	上部径 10.5 最大部径 10.9	外：工具ナデ？－ヨコナデ 内：オサエ・ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	浅黄橙 10YR8／4	下部 欠損	外面に黒斑あり 磨滅
1005	G003-01	3	G-O6	土製品	管状土製品	SH203内 SK221	－	26.6	上部径 10.9 最大部径 12.3	外：工具ナデ？－ヨコナデ 内：オサエ・ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	浅黄橙 10YR8／4	下部 若干欠損	外面に黒斑あり 磨滅
1006	G004-01	3	G-O6	土製品	管状土製品	SH203内 SK221	－	－	上部径 10.9 最大部径 11.1	外：工具ナデ？－ヨコナデ 内：工具ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	にぶい橙 7.5YR7／4	下部 若干欠損	外面に黒斑あり 磨滅
1007	G017-03	3	G-O6	須恵器	甕	SH203内 SK221	16.1	－	－	外：回転ナデ－波状文 内：回転ナデ	密	並	にぶい黄橙 10YR7／2	1／8	
1008	G017-02	3	G-O6	須恵器	甕	SH203内 SK221	－	－	最大部径 9.6	外：回転ナデ－沈線－刺突 内：回転ナデ	やや密	並	灰 N6／	体部～底部 完形	内面に自然釉塊
1009	G045-02	3	G-P9	土製品	不明土製品	SH250	－	－	長径 5.1 短径 4.5 厚さ 0.8	オサエ・ナデ	やや粗	並	にぶい黄橙 10YR7／4	一部欠損	植物痕あり 土器焼成時道具か？
1010	G030-02	3	G-O9	土師器	杯	SH250	12.2	4.2	－	外：オサエ・ナデ－ヨコナデ－多方向ケズリ 内：ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	浅黄橙 7.5YR8／4	完形	
1011	G034-01	3	G-O9	土師器	杯	SH250	13.2	3.6	底部径 8.8	外：ナデ－ヨコナデ 内：ナデ－ヨコナデ	粗	並	浅黄橙 7.5YR8／4	1／8	剥離著しい
1012	G031-03	3	G-O9	土師器	台付甕	SH250	16.1	－	－	外：ハケ－ヨコナデ 内：ヨコナデ	やや粗	並	橙 7.5YR7／6	1／10	
1013	G034-02	3	G-E10	土師器	台付甕	SH250	16.0	－	－	外：ハケ－ヨコナデ 内：ナデ　ヨコナデ	やや粗	並	浅黄橙 10YR8／4	1／10	
1014	G031-02	3	G-O10	土師器	台付甕	SH250	16.4	－	－	外：ハケ－ヨコナデ 内：オサエ・ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	浅黄橙 10YR8／4	1／6	
1015	G031-01	3	G-O10	土師器	台付甕	SH250	16.2	－	－	外：ハケ－ヨコナデ 内：ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	淡黄 2.5Y8／3	1／6	黒斑あり
1016	G030-03	3	G-O10	土師器	台付甕	SH250	－	－	底部径 9.8	外：ナデ　ヨコ方向ナデ－ハケ 内：オサエ・ナデ－ヨコ方向ナデ	やや密	並	灰白 10YR8／2	台部 完形	
1017	G118-02	3	G-O9	土師器	壺	SH250	27.0	－	－	外：ハケ－ヨコナデ 内：ナデ－ヨコナデ	やや粗	良	橙 5YR6／6	1／6	
1018	G030-01	3	G-O9	土師器	壺	SH250	17.7	－	－	外：ハケ　ヨコナデ、ケズリ 内：オサエ－工具ナデ－ヨコナデ、ケズリ	やや粗	並	灰白 10YR8／2	体部上～口縁部完形	
1019	G034-03	3	G-E10	土師器	壺	SH250	14.2		－	外：ハケ－ヨコナデ 内：オサエ・ナデ　ヨコナデ	粗	並	にぶい黄橙 10YR7／4	1／4	ヘラ記号・工具当たり痕あり
1020	G033-03	3	G-O9	土師器	壺	SH250 カマド	13.4	10.4	－	磨滅が著しいため調整不明	やや粗	並	浅黄橙 10YR8／4	1／2	被熱のため全体剥離
1021	G025-01	3	G-M10	土師器	杯	SH256	13.0	4.5	－	外：ナデ？－ヨコナデ 内：ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	橙 7.5YR7／6	ほぼ完形	磨滅
1022	G025-03	3	G-M10	土師器	台付甕	SH256	13.6	－	－	外：ハケ・ヨコナデ 内：ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	淡黄 2.5Y8／3	1／8	
1023	G025-02	3	G-M10	土師器	台付甕	SH256	－	－	底部径 9.3	外：オサエ・ナデ－ヨコ方向ナデ 内：ヨコナデ－ヨコ方向ナデ	粗	並	浅黄橙 7.5YR8／4	1／6欠損	
1024	G027-01	3	G-M11	土師器	長胴甕	SH256	22.1	－	－	外：ハケ　ヨコナデ 内：オサエ－ハケ－ヨコナデ	やや粗	並	浅黄橙 10YR8／4	1／4	
1025	G062-01	3	G-M10	土師器	壺	SH256	－	－	底部径 9.0	外：ハケ－ナデ－ケズリ 内：ナデ	やや粗	良	にぶい橙 7.5YR7／3	体下半～底部 完形	
1026	G026-01	3	G-M10	石製品	砥石	SH256	－	－	－						3面が研磨面、2面が凹面
1027	G059-01	3	G-M11	土師器	壺	SH256 カマド	14.0	－	－	外：ハケ－ヨコナデ 内：ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	浅黄橙 10YR8／4	1／6	
1028	G028-01	3	G-M10	土師器	台付甕	SH256 貯蔵穴	13.8	－	－	外：ハケ－ヨコナデ 内：工具ナデ－ヨコナデ	粗	並	にぶい黄橙 10YR7／4	1／3欠損	
1029	G118-01	3	G-M10	土師器	台付甕	SH256 貯蔵穴	16.2	－	－	外：ハケ－ヨコナデ 内：ナデ－ヨコナデ	やや粗	良	にぶい黄橙 10YR7／4	1／4	
1030	G024-0.	3	G-M10	須恵器	蓋	SH256 貯蔵穴	12.5	5.8	つまみ径 3.4	外：回転ナデ－回転ヘラケズリ　つまみ貼り付け後ナデ 内：回転ナデ	やや密	やや軟	灰白 2.5Y7／1	ほぼ完形	
1031	G024-02	3	G-M10	須恵器	杯蓋	SH256 貯蔵穴	13.0	5.2	－	外：回転ナデ－回転ヘラケズリ 内：回転ナデ	やや密	並	灰 N6／	1／5	外面に焼けぶくれあり
1032	G024-03	3	G-M10	須恵器	杯身	SH256 貯蔵穴	13.6	5.8	－	外：回転ナデ－回転ヘラケズリ 内：回転ナデ	やや密	並	灰 N5／	1／2	歪み大 端部細かく欠く
1033	G057-05	3	G-M10	須恵器	杯身	SH256 貯蔵穴	－	－	－	外：回転ナデ 内：回転ナデ	やや密	良	灰 N5／	細片	
1034	G028-03	3	G-M10	瓦器	小皿	SH256	10.5	1.8	－	外：オサエ・ナデ－ヨコナデ 内：ナデ－ヨコナデ	やや粗	やや不良	黒褐 2.5Y3／1	1／5欠損	
1035	G060-02	3	G-E9	土師器	台付甕	SH248 カマド	－	－	底部径 3.6	外：オサエ・ナデ－ヨコ方向ナデ 内：オサエ・ナデ－ヨコ方向ナデ	粗	並	橙 7.5YR7／6	1／2	カマド支柱石上にのる
1036	G110-03	3	G-E9	須恵器	杯蓋	SH248 主柱穴 (Pit2)	15.4	－	－	外：回転ナデ－回転ヘラケズリ 内：回転ナデ	やや密	不良	灰 5Y5／1	1／6	
1037	G106-02	3	G-E9	須恵器	無蓋高杯	SH248内 土坑	17.8	－	－	外：回転ナデ－回転ヘラケズリ、三方透かし 内：回転ナデ－仕上げナデ	やや粗	並	黄灰 2.5Y6／1	口縁部 1／5欠損	
1038	G109-01	3	G-E9	土師器	台付甕	SH248内 土坑	15.8		－	外：ハケ－ナデ 内：ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	にぶい橙 5YR7／4	1／4	
1039	102-01	3	G-G10	土師器	台付椀	SH317	12.1	7.1	底部径 7.7	磨滅が著しいため調整不明	粗	良	橙 7.5YR7／6	1／4欠損	
1040	124-03	4	G-G10	土師器	壺	SH317	－	－	－	外：ハケ－ヨコナデ－オサエ 内：ナデ－ハケ－ヨコナデ	やや粗	並	浅黄橙 10YR8／3	細片	
1041	182-05	4	G-G10	須恵器	杯	SH317	15.1	－	－	外：回転ナデ 内：回転ナデ	やや密	並	灰 7.5Y6／1	1／8	底部に高台がつくか
1042	123-03	4	G-G10	土師器	壺	SH317	－	－	底部径 7.6	外：ナデ？ 内：ナデ？	やや密	並	黄橙 10YR8／6	1／4	全体に磨滅が著しい
1043	160-03	4	G-G11	土師器	杯	SH317 (Pit3)	11.4	3.6	－	外：オサエ・ナデ－ヨコ方向ナデ内：オサエ・ナデ－ヨコ方向ナデ	粗	並	淡橙 5YR8／4	1／3欠損	底部外面木葉痕を一方向ナデで消す 歪み大
1044	162-07	4	G-G11	土製品	ミニチュア土器	SH317 (Pit2)	4.0	3.8	底部径 3.5	オサエ・ナデ	やや粗	並	にぶい黄橙 10YR7／2	完形	
1045	-09	4	G-G11	土製品	紡錘車？	SH317 (Pit6)	－	6.0	孔径 0.8 最大部径 4.6	オサエ・ナデ	やや粗	並	黄灰 2.5Y5／1	完形	穿孔は下から上へ行う
1046	132-02	4	G-K13	土師器	台付甕	SH307	－	－		外：ハケ－ヨコナデ－工具ナデ 内：ヨコナデ	やや密	並	にぶい黄橙 10YR7／3	細片	
1047	127-06	4	G-L13	土製品	不明土製品	SH307 右上隅 被熱部	－	－	最大部径 5.9 最大部厚 1.9	オサエ・ナデ	やや密	並	にぶい黄橙 10YR7／4	若干欠損	土器焼成時の道具か？
1048	144-02	4	G-K13	土師器	壺	SH307 主柱穴	－	－	底部径 12.4	外：ハケ－ナデ－ケズリ 内：工具ナデ－ナデ	やや粗	並	黄橙 10YR8／6	体下半～底部 完形	

第19表　出土遺物観察表G区（3）

報告番号	登録番号	調査次数	地区名	種類	器種	出土遺構	口径 (cm)	器高 (cm)	その他 (cm・g)	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考
1049	161-01	4	G-L13	土師器	壺	SH307 貯蔵穴	－	－	－	外：ハケ－ヨコナデ－ケズリ 内：オサエ・ナデ－ヨコナデ	粗	並	にぶい褐 7.5YR5／3	口縁部 1／2	被熱による剥離あり
1050	161-02	4	G-L13	土師器	壺	SH307 貯蔵穴	13.0		－	外：ハケ－ヨコナデ ヘラ記号 内：オサエ・ナデ－ヨコナデ	粗	並	橙 5YR6／6	1／6欠損	
1051	139-03	4	G-L13	土師器	壺	SH307 貯蔵穴	14.4	－	－	外：ハケ－ヨコナデ 内：オサエ→工具ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	にぶい褐 7.5YR6／3	1／8	
1052	139-01	4	G-L13	土師器	壺	SH307 貯蔵穴	15.8	－	－	外：ハケ ヨコナデ 内：工具ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	橙 7.5YR7／6	1／4	
1053	163-04	4	G-L13	土師器	壺	SH307 貯蔵穴	15.4	－	－	外：ハケ－ヨコナデ 内：オサエ・ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	にぶい黄橙 10YR6／2	1／4	
1054	167-01	4	G-L13	土師器	壺	SH307 貯蔵穴	15.6			外：ハケ－ヨコナデ ヘラ記号 内：オサエ・ナデ－ヨコナデ－ハケ	やや粗	良	橙 7.5YR7／6	口縁部 完形	
1055	055-06	4	G-H12	土師器	杯	SH312	14.0	－	－	外：オサエ・ナデ－ヨコナデ 内：ヨコナデ	やや密	並	にぶい橙 7.5YR7／3	1／9	
1056	055-04	4	G-H11	土師器	高杯	SH312	－	－	底部径 8.8	外：オサエ・ナデ ヨコナデ 内：シボリ－ヨコナデ	やや粗	並	にぶい黄橙 10YR7／4	1／3	
1057	053-03	4	G-H12	土師器	台付壺	SH312	－	－	底部径 7.4	外：ハケ、ナデ－ケズリ 内：工具ナデ、ナデ	やや密	良	にぶい黄橙 10YR7／3	底部 完形	
1058	054-01	4	G-H11	土師器	台付壺	SH312	16.0			外：ハケ－ヨコナデ 内：ナデ－ヨコナデ	やや密	良	にぶい橙 7.5YR6／4	1／4	
1059	054-02	4	G-H12	土師器	台付壺	SH312	17.0	－	－	外：ハケ－ヨコナデ 内：ナデ－ヨコナデ	やや粗	良	にぶい黄橙 10YR7／4	1／8	
1060	053-04	4	G-H12	土師器	壺	SH312	18.0	－	－	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	やや粗	並	浅黄橙 10YR8／3	1／12	
1061	056-05	4	G-I12	土製品	鞭頭口	SH312	3.1	－	－	外：オサエ・ナデ 内：オサエ・ナデ	やや粗	並	浅黄橙 7.5YR8／4	1／3	鉄滓付着
1062	059-05	4	G-I12	須恵器	瓶	SH312	－	－	最大部径 9.8	外：回転ナデ－回転ヘラケズリ－刺突－穿孔 内：回転ナデ	ほぼ密	良	暗灰黄 2.5Y5／2	体部 完形	
1063	136-03	4	G-I12	土師器	台付壺	SH312 貯蔵穴	－	－	底部径 10.6	外：ナデ－ヨコ方向ナデ－工具ナデ 内：オサエ・ナデ－ヨコ方向ナデ	粗	並	浅黄橙 10YR8／4	1／2	
1064	060-01	4	G-H12	土師器	高杯	SH312内 SK315	14.8	7.8	底部径 7.8	外：オサエ・ナデ－ヨコナデ 内：シボリ－オサエ・ナデ	やや粗	並	明黄褐 10YR7／6	口縁部 1／8 脚部 完形	特に杯部の磨滅が著しい
1065	055-05	4	G-H12	土師器	台付椀	SH312内 SK315	－	－	底部径 7.5	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	ほぼ密	並	橙 5YR7／6	ほぼ完形	
1066	061-01	4	G-H12	土師器	壺	SH312内 SK315	17.0	－	－	外：ヨコナデ 内：オサエ・ナデ－ヨコナデ	粗	良	にぶい黄橙 10YR7／4	1／2	
1067	060-03	4	G-H12	土師器	壺	SH312内 SK315	－	－	底部径 7.5	磨滅が著しいため調整不明	粗	良	黄橙 10YR8／6	底部 完形	
1068	057-03	4	G-I12	土師器	台付壺	SH312内 SK315	17.4	－	－	外：ハケ－ヨコナデ 内：オサエ－ヨコナデ	やや粗	並	にぶい橙 5YR7／4	1／4	
1069	057-04	4	G-H12	土師器	台付壺	SH312内 SK315	16.6	－	－	外：ハケ－ヨコナデ 内：ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	にぶい橙 5YR7／4	1／6	
1070	057-02	4	G-H12	土師器	台付壺	SH312内 SK315	17.4	－	－	外：ハケ－ヨコナデ 内：オサエ－ヨコナデ	やや粗	並	浅黄橙 10YR8／4	1／5	
1071	057-01	4	G-H12	土師器	台付壺	SH312内 SK315	17.4	－	－	外：ハケ－ヨコナデ 内：オサエ・ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	灰黄褐 10YR6／2	1／5	体部外に工具当り痕あり
1072	057-05	4	G-H12	土師器	台付壺	SH312内 SK315	－	－	底部径 9.4	外：ナデ－ヨコ方向ナデ－ケズリ 内：オサエ・ナデ－ヨコ方向ナデ	やや粗	並	にぶい橙 5YR7／4	台部 完形	
1073	057-06	4	G-H12	土師器	台付壺	SH312内 SK315	－	－	底部径 9.6	外：ナデ－ヨコ方向ナデ－ケズリ 内：ナデ－ヨコ方向ナデ	やや粗	並	浅黄橙 7.5YR8／4	1／4	
1074	060-02	4	G-H12	土師器	台付壺	SH312内 SK315	－	－	底部径 10.6	外：オサエ・ナデ－ヨコ方向ナデ－ケズリ 内：オサエ・ナデ－ヨコ方向ナデ	粗	良	にぶい黄橙 10YR7／4	台部 完形	
1075	059-04	4	G-H12	土製品	管状 土製品	SH312内 SK315	9.4	－	－	外：ナデ－ヨコナデ 内：ケズリ－ヨコナデ	やや粗	良	にぶい黄橙 10YR7／4	1／6	
1076	169-04	4	G-H12	土製品	鞭頭口	SH312内 SK315	3.1	－	－	外：オサエ・ナデ 内：オサエ・ナデ	やや粗	並	にぶい黄橙 10YR7／2	1／4	鉄滓付着
1077	059-02	4	G-I12	須恵器	杯蓋	SH312内 SK315	14.8	－	－	外：回転ナデ 内：回転ナデ	ほぼ密	不良	にぶい黄橙 10YR6／3	1／3	土師質
1078	059-03	4	G-H12	須恵器	杯蓋	SH312内 SK315	13.0	－	－	外：回転ナデ－回転ヘラケズリ 内：回転ナデ 全体に焼け脆れ	ほぼ密	良	灰 5Y6／1	1／8	降灰状況から、頂部に別個体を重ね、溶着する
1079	059-01	4	G-H12	須恵器	杯身	SH312内 SK315	13.2	5.2	－	外：回転ナデ－回転ヘラケズリ 内：回転ナデ－仕上げ－方向ナデ	ほぼ密	良	灰 N5／	1／2	歪み大 全体に細かいひび割れ
1080	059-04	4	G-H12	須恵器	高杯	SH312内 SK315	－	－	底部径 9.4	外：回転ナデ 内：回転ナデ	ほぼ密	不良	灰白 2.5Y8／1	端部 1／7	三方向透孔（長方形）
1081	056-06	4	G-H12	土製品	獣脚？	SH311	－	2.9		オサエ・ナデ	やや粗	並	褐灰 7.5YR5／1	脚部 完形	脚部？との接合部分ではがれる
1082	G056-07	4	G-H12	土製品	鈴？	SH311	－	－	－	オサエ・ナデ－線刻	やや密	並	褐灰 10YR4／1	1／3	
1083	052-04	4	G-I11	土師器	高杯	SH311	14.0	－	－	磨滅が著しいため調整不明	やや粗	並	浅黄橙 7.5YR8／4	1／8	
1084	052-01	4	G-H11	土師器	杯蓋	SH311	17.0	6.2	－	外：ヨコナデ－ケズリ－つまみ貼り付けナデ 内：ヨコナデ	やや粗	並	浅黄橙 10YR8／3	完形	
1085	055-03	4	G-I11	土師器	杯	SH311	15.0	－	－	外：ナデ－ヨコナデ 内：ナデ－ヨコナデ	やや密	並	橙 5YR6／6	1／8弱	
1086	055-02	4	G-H12	土師器	皿？	SH311	19.6	2.7		外：オサエ・ナデ ヨコナデ 内：ナデ－ヨコナデ	やや密	並	橙 5YR6／6	1／3	
1087	054-04	4	G-H12	土師器	壺	SH311	14.8	－	－	外：ハケ－ヨコナデ 内：ヨコナデ	やや密	良	橙 7.5YR7／6	1／12	
1088	052-03	4	G-H11	土師器	壺	SH311	20.2		－	外：ハケ－ヨコナデ 内：ナデ－ヨコナデ－ハケ	やや粗	並	にぶい橙 7.5YR7／3	1／8	
1089	055-01	4	G-I11	土師器	壺	SH311	23.2	－	－	外：ハケ－オサエ－ヨコナデ 内：ナデ ヨコナデ 工具ナデ	やや粗	並	浅黄橙 10YR8／3	1／3	歪み大
1090	053-02	4	G-I11	土師器	壺	SH311	23.0	－	－	外：ハケ－ヨコナデ 内：オサエ・ナデ－ヨコナデ－ハケ	やや密	良	にぶい黄橙 10YR7／4	1／6	
1091	053-01	4	G-I11	土師器	壺	SH311	25.0	－	－	外：ハケ－ヨコナデ 内：ハケ－ヨコナデ ハケ	やや粗	良	にぶい黄橙 10YR6／4	1／6	
1092	052-02	4	G-I11	土師器	壺	SH311	28.1	－	－	外：ハケ－ヨコナデ 内：ハケ－ヨコナデ	やや粗	並	にぶい橙 7.5YR6／4	1／7	
1093	052-06	4	G-H11	須恵器	杯	SH311	－	－	底部径 13.8	外：回転ナデ－回転ヘラケズリ－貼り付けナデ 内：回転ナデ－一方向ナデ	やや密	良	灰白 10YR8／1	底部 完形	内面の底部は磨耗している
1094	054-03	4	G-I12	土師器	鍋	SH311 カマド	15.9	－	－	外：ハケ－ヨコナデ－ケズリ 内：ハケ－ヨコナデ－ケズリ	やや粗	良	にぶい赤褐 5YR5／4	3／4	
1095	051-06	4	G-K17	土製品	不明 土製品	SH306	－	1.7	－	板状の粘土を中央に折り込む	やや粗	良	浅黄橙 2.5YR8／4	完形	ミニチュア模造品か
1096	051-01	4	G-L16	土師器	台付甕	SH306	11.8	5.9	底部径 7.2	外：オサエ・ナデ ヨコナデ 内：ヨコナデ、ナデ	やや粗	並	浅黄橙 7.5YR8／4	口縁部 1／12台部 3／4	
1097	041-02	4	G-L16	土師器	台付甕	SH306	－	－	底部径 7.6	外：ナデ－ヨコナデ 内：ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	橙 7.5YR7／6	台部 1／3	
1098	041-06	4	G-L17	土師器	高杯	SH306	17.4	－	－	外：ナデ－ヨコナデ 内：ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	橙 7.5YR7／6	1／10	
1099	042-02	4	G-L16	土師器	高杯	SH306	－		底部径 9.5	外：ナデ－ヨコナデ 内：シボリ－ヨコナデ	やや粗	並	橙 5YR7／8	1／6	
1100	042-05	4	G-K15	土師器	短頸壺	SH306	12.2	－	－	外：オサエ・ナデ 内：オサエ・ナデ	粗	並	にぶい橙 7.5YR7／4	1／6	
1101	042-04	4	G-K15	土師器	壺？	SH306	9.4		－	外：ナデ－ヨコナデ 内：ナデ－ハケ－ヨコナデ	やや粗	並	にぶい橙 7.5YR7／4	1／6	
1102	042-03	4	G-L16	土師器	壺	SH306	9.9	－	－	外：ナデ－ヨコナデ 内：ナデ ヨコナデ	やや粗	並	にぶい橙 7.5YR7／4	1／4	
1103	046-02	4	G-K16	土師器	壺	SH306	13.4	－		外：ナデ－ヨコナデ 内：ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	にぶい黄橙 10YR7／4	1／4	
1104	039-04	4	G-K16	土師器	台付壺	SH306	14.0	－	－	外：ハケ－ヨコナデ 内：ナデ－ヨコナデ	やや密	良	にぶい褐 7.5YR5／4	1／4	
1105	039-02	4	G-L16	土師器	台付壺	SH306	16.0		－	外：ハケ－ヨコナデ 内：ナデ－ヨコナデ	やや粗	良	にぶい黄橙 10YR7／4	1／2	
1106	048-04	4	G-L16	土師器	台付壺	SH306	10.8	－	－	外：ハケ－ヨコナデ 内：ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	橙 7.5YR7／6	1／7	

第20表　出土遺物観察表Ｇ区（4）

報告番号	登録番号	調査次数	地区名	種類	器種	出土遺構	口径 (cm)	器高 (cm)	その他 (cm・g)	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考
1107	045-03	4	G-K17	土師器	台付甕	SH306	12.4		－	外：ハケ－ヨコナデ 内：ナデ－ヨコナデ	やや密	並	浅黄橙 10YR8／4	1／3	
1108	045-01	4	G-L17	土師器	台付甕	SH306	13.4		－	外：ハケ－ヨコナデ 内：オサエ・ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	浅黄橙 10YR8／4	1／2	頸部にヨコナデの際の工具当り痕あり
1109	039-05	4	G-L16	土師器	台付甕	SH306	14.0	－		外：ハケ－ヨコナデ－ヘラ描 内：オサエ・工具ナデ－ヨコナデ	やや粗	良	浅黄橙 10YR8／4	1／4	
1110	046-01	4	G-L17	土師器	台付甕	SH306	17.0	－		外：ハケ－ヨコナデ 内：ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	浅黄橙 7.5YR8／3	1／4	頸部に強いヨコナデ
1111	045-04	4	G-L17	土師器	台付甕	SH306 貼床土内	18.0	－	－	外：ハケ－ヨコナデ 内：ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	浅黄橙 10YR8／4	1／8	
1112	043-03	4	G-L16	土師器	台付甕	SH306	15.0	－	－	外：ハケ－ヨコナデ 内：オサエ・ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	浅黄橙 7.5YR8／4	1／6	
1113	050-01	4	G-K17	土師器	台付甕	SH306	15.6	－	－	外：ハケ－ヨコナデ 内：ナデ－ヨコナデ	粗	並	浅黄橙 7.5YR8／3	1／8	
1114	048-02	4	G-K17	土師器	台付甕	SH306	16.0	－	－	外：ハケ－ヨコナデ 内：ナデ－ヨコナデ	粗	並	にぶい橙 7.5YR7／4	1／8	頸部にヨコナデの際の工具当り痕あり
1115	049-02	4	G-L16	土師器	台付甕	SH306	14.6	－	－	外：ハケ－ヨコナデ 内：オサエ・ナデ－ヨコナデ	粗	並	浅黄橙 10YR8／3	1／4	
1116	048-01	4	G-K17	土師器	台付甕	SH306	15.0	－	－	外：ハケ－ヨコナデ－ヘラ描き 内：工具ナデ－ヨコナデ－ハケ	粗	並	にぶい赤褐 5YR5／4	1／3	
1117	048-03	4	G-K17	土師器	台付甕	SH306	15.2		－	外：ハケ－ヨコナデ 内：ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	橙 7.5YR7／6	1／7	
1118	045-02	4	G-K16	土師器	台付甕	SH306	15.6	－	－	外：ハケ－ヨコナデ 内：オサエ・ナデ－ヨコナデ－ケズリ	やや粗	並	浅黄橙 7.5YR8／6	1／4	
1119	039-01	4	G-L16	土師器	甕	SH306	21.0	－	－	外：ハケ－ヨコナデ 内：ナデ－ヨコナデ	やや粗	良	橙 7.5YR7／6	1／3	
1120	050-02	4	G-K17	土師器	甕	SH306	28.8	－	－	外：オサエ－ハケ－ヨコナデ 内：工具ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	浅黄橙 10YR8／3	1／8	
1121	044-02	4	G-L16	土師器	甕	SH306	－	－	底部径 9.0	外：オサエ・ナデ 内：ハケ	やや粗	並	にぶい橙 7.5YR7／3	1／4	
1122	044-01	4	G-L16	土師器	甕	SH306	－	－	底部径 8.8	外：オサエ－ハケ 内：ナデ 底部－一方向のハケ	やや粗	並	にぶい橙 7.5YR7／4	底部完形	
1123	041-05	4	G-K16	須恵器	杯蓋	SH306	15.0	－	－	調整不明瞭	やや粗	不良	橙 7.5YR7／6	1／8	
1124	041-01	4	G-K16	須恵器	杯身	SH306	10.6	4.5	－	外：回転ナデ－回転ヘラケズリ 内：回転ナデ－多方向ナデ	やや粗	良	灰 5Y5／1	1／4	降灰の状況から擬詰めは蓋をして行ったと思われる
1125	041-04	4	G-K17	須恵器	杯身	SH306	13.0	－	－	外：回転ナデ 内：回転ナデ	やや密	良	灰 5Y5／1	1／8	
1126	138-02	4	G-L17	土師器	壺	SH306 貯蔵穴	－	－	底部径 8.0	外：ハケ－ケズリ 内：オサエ・ナデ	やや粗	良	にぶい黄橙 10YR7／4	底部完形	底部外面に初般痕あり
1127	161-03	4	G-L17	土師器	台付甕	SH306 貯蔵穴底	15.9	－	－	外：ハケ－ヨコナデ 内：ヨコナデ	粗	並	浅黄橙 10YR8／3	1／4	黒斑あり
1128	139-02	4	G-L17	土師器	台付甕	SH306 貯蔵穴底	15.8	－		外：ハケ－ヨコナデ 内：工具ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	橙 7.5YR7／6	1／4	
1129	047-02	4	G-L17	土師器	台付甕	SH306 貯蔵穴	－	－	底部径 9.8	外：ナデ－ヨコ方向ナデ－ケズリ 内：オサエ・ナデ ヨコ方向ナデ	やや粗	並	にぶい黄橙 10YR7／4	底部完形	
1130	043-04	4	G-K17	土師器	壺	SH306 カマド	11.0	－	－	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	やや粗	並	灰白 10YR8／2	1／4	
1131	040-02	4	G-K17	土師器	台付甕	SH306 カマド	12.0	－	－	外：ハケ ヨコナデ 内：オサエ・ナデ－ヨコナデ	やや粗	良	黄橙 10YR8／6	1／12	
1132	044-04	4	G-K17	土師器	台付甕	SH306 カマド	－	－	底部径 8.7	外：調整不明瞭 内：オサエ	やや粗	並	淡黄 2.5Y8／3	1／2	カマド支柱石上に据わった状態で出土
1133	041-02	4	G-K16	須恵器	杯蓋	SH306 カマド SK332	13.4	－	－	外：回転ナデ－回転ヘラケズリ 内：回転ナデ－一方向ナデ	やや粗	良	灰 5Y5／1	1／3	歪み大 擬詰めは正位で、更に上に別個体を重ねる
1134	137-05	4	G-K17	土師器	杯	SH306 主柱穴	12.2	－	－	外：オサエ・ナデ－ヨコナデ 内：ナデ－ヨコナデ	やや密	良	にぶい黄橙 10YR7／4	1／6	
1135	142-03	4	G-K16	須恵器	杯身	SH306 主柱穴	11.8	4.8	－	外：ヨコナデ－回転ヘラケズリ 内：ヨコナデ－多方向ナデ	やや粗	並	灰 5Y5／1	1／3	歪み大 擬詰めは蓋をして正位で行う 底部外面は擦過している
1136	138-01	4	G-L16	土師器	甕	SH306 主柱穴	15.4	－	－	摩滅のため調整不明瞭	粗	並	黄橙 10YR8／6	1／8	
1137	140-05	4	G-L16	須恵器	杯蓋	SH306 主柱穴	12.8	5.1	－	外：回転ナデ－回転ヘラケズリ 内：回転ナデ	密	良	オリーブ灰 2.5GY5／1	1／5	焼き歪れあり 擬詰めは正位で行う
1138	134-03	4	G-K16	土師器	壺	SH306 貯蔵穴	17.4	－	－	外：工具ナデ－ヨコナデ 内：オサエ・ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	にぶい黄橙 10YR7／4	1／3	
1139	137-03	4	G-K16	土師器	壺	SH306 貯蔵穴	21.9	－	－	外：ハケ ヨコナデ 内：ナデ－ヨコナデ	やや粗	良	橙 7.5YR6／6	1／8	
1140	137-02	4	G-K16	土師器	台付甕	SH306 貯蔵穴	15.0	－	－	外：ハケ－ヨコナデ 内：ナデ－ヨコナデ	やや粗	良	橙 5YR6／6	1／6	
1141	137-04	4	G-K16	土師器	台付甕	SH306 貯蔵穴	－	－	底部径 10.1	外：ナデ－ヨコ方向ナデ－ケズリ 内：オサエ・ナデ－ヨコ方向ナデ	やや粗	良	明黄褐 10YR6／6	底部完形	
1142	159-03	4	G-K16	土師器	台付椀	SK332	－		底部径 6.4	外：オサエ・ナデ 内：オサエ・ナデ	やや粗	並	浅黄橙 7.5YR8／3	台部完形	
1143	129-04	4	G-K16	土師器	高杯	SK332	－	－	底部径 6.9	外：ナデ－ヨコ方向ナデ 内：ナデ－シボリ	粗	並	にぶい黄橙 10YR7／4	脚部完形	
1144	129-03	4	G-K16	土師器	高杯	SK332	－	－	-	外：ナデ－ヨコナデ 内：ヨコナデ	やや粗	並	にぶい橙 5YR7／4	細片	
1145	129-02	4	G-K16	土師器	台付甕	SK332	13.2	－	－	外：ハケ－ヨコナデ 内：オサエ・ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	橙 7.5YR7／6	1／3	
1146	128-01	4	G-K16	土師器	台付甕	SK332	－	－	－	外：ハケ－ヨコナデ－工具による押圧文 内：オサエ・ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	明赤褐 5YR5／6	1／5	
1147	159-02	4	G-K16	須恵器	杯蓋	SK332	13.8	5.3	－	外：回転ナデ－回転ヘラケズリ 内：回転ナデ－一方向ナデ	やや密	並	灰 N6／	1／8	擬詰めは正位、更に上に別個体を重ねる
1148	129-05	4	G-K16	土製品	不明 土製品	SK332	－	－	－	植物痕が多く見られる	やや粗	並	にぶい黄橙 10YR7／3	－	上器野焼きの際の覆い粘土か
1149	114-05	4	G-H15	土師器	ミニチュア土器	SH308	7.0	－	－	外：工具ナデ－ヨコナデ 内：ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	にぶい褐 7.5YR5／3	1／5	
1150	114-06	4	G-H15	土師器	ミニチュア土器	SH308	－		底部径 2.7	外：オサエ・ナデ－工具痕 内：オサエ・ナデ	やや粗	並	にぶい褐 7.5YR5／4	台部完形	
1151	116-03	4	G-H16	土師器	高杯	SH308	18.6	－	－	外：ナデ－ヨコナデ 内：ナデ－ヨコナデ	やや密	並	橙 5YR6／6	1／3	
1152	117-04	4	G-G16	土師器	台付甕	SH308	12.6	－	－	外：ハケ－ヨコナデ 内：オサエ・ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	にぶい橙 7.5YR7／4	1／4	
1153	115-03	4	G-H15	土師器	台付甕	SH308	16.4	－	－	外：ハケ－ヨコナデ 内：オサエ・工具ナデ－ヨコナデ	やや密	並	にぶい黄橙 10YR7／4	1／4	
1154	115-02	4	G-H15	土師器	甕	SH308	18.9	－	－	外：ハケ－ヨコナデ 内：オサエ・ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	浅黄橙 10YR8／4	2／3	
1155	116-03	4	G-H15	土師器	壺	SH308	20.6	－	－	外：ハケ－ヨコナデ、ヘラミガキ 内：オサエ－工具ナデ ヨコナデ	やや密	並	浅黄橙 10YR8／3	1／3	
1156	114-04	4	G-H15	土師器	壺状 土製品	SH308	12.0	－	－	外：ナデ－貼りけけオサエ 内：ナデ	やや密	並	浅黄橙 10YR8／4	1／4	
1157	121-01	4	G-G15	須恵器	壺	SH308	－		最大部径 13.6	外：ナデ－回転ナデ 内：回転ナデ	やや密	並	灰 5Y5／1	体部完形	
1158	134-03	4	G-G16	須恵器	杯蓋	SH308	14.0	4.5	－	外：回転ナデ－回転ヘラケズリ 内：回転ナデ－一方向ナデ	やや粗	やや不良	黄灰 2.5Y6／1	1／4	若干磨滅している 擬詰めは正位で、更に別個体を重ねる
1159	121-02	4	G-H15	須恵器	杯身	SH308	13.2	4.9		外：回転ナデ－回転ヘラケズリ 内：回転ナデ－当具痕－一方向ナデ	やや密	並	灰 5Y6／1	1／4	同心円文当具痕 擬詰めは蓋を合わせ正位で行う
1160	117-05	4	G-G15	須恵器	杯身	SH308	12.8	5.0		外：回転ナデ－回転ヘラケズリ 内：回転ナデ－一方向ナデ－底部ヘラ記号	やや密	並	灰 N6／	1／5	擬詰めは蓋を合わせ正位で行う
1161	119-03	4	G-H15	須恵器	杯身	SH308	12.0	－	－	外：回転ナデ 内：回転ナデ	粗	良	灰 N5／	1／5	擬詰めは蓋を合わせ正位で行う
1162	139-02	4	G-G16	須恵器	杯身	SH308	13.1	－	－	外：回転ナデ－回転ヘラケズリ 内：回転ナデ	粗	良	灰 5Y5／1	1／3	擬詰めは蓋を合わせ正位で行う
1163	114-02	4	G-G16	須恵器	杯身	SH308	12.4	5.2	－	外：回転ナデ－回転ヘラケズリ 内：回転ナデ－当具痕 一方向ナデ	やや密	並	灰黄褐 10YR6／2	1／2	同心円文当具痕 擬詰めは蓋を合わせ正位で行う

第21表　出土遺物観察表G区（5）

報告番号	登録番号	調査次数	地区名	種類	器種	出土遺構	口径 (cm)	器高 (cm)	その他 (cm・g)	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考
1164	133-04	4	G-116	土師器	台付甕	SH308 貯蔵穴	—	—	底部径 10.0	外：オサエ・ナデ　ケズリ 内：オサエ・ナデ、工具当り痕	やや粗	並	にぶい橙 7.5YR7/3	2/3	
1165	158-03	4	G-116	土師器	把手付鉢	SH308 貯蔵穴	12.6	10.1	底部径 5.0	外：ナデ　ヨコナデ−ケズリ−把手貼り付けナデ 内：ナデ−ヨコナデ	やや密	良	橙 5YR6/8	2/3	内面に黒斑あり
1166	165-03	4	G-H16	土製品	土錘	SH308 カマド下 土坑	—	6.1	孔径 1.4 最大部径 3.8 重さ 30.3	ナデ　穿孔の方向は不明	やや密	並	灰黄褐 10YR6/2	完形	
1167	119-04	4	G-H15	土師器	甕	SH308内 SK328	11.6	—	—	外：ナデ−ヘラミガキ−ヨコナデ 内：工具ナデ−ヨコナデ	やや密	良	橙 5YR6/6	1/5	
1168	117-01	4	G	土師器	高杯	SH308内 SK328	—	—	底部径 9.9	外：ナデか 内：ナデ−シボリ	やや粗	並	橙 5YR7/6	3/4	磨滅著しい
1169	126-02	4	G-H15	土師器	高杯	SH308内 SK328	—	—	底部径 12.0	外：ナデ−ヨコ方向ナデ 内：ナデ−シボリ−ヨコ方向ナデ	やや密	並	浅黄橙 10YR8/4	1/5	
1170	134-03	4	G-115	土師器	鉢	SH308内 SK328	11.4	—	—	外：オサエ・ナデ 内：オサエ・ナデ	やや粗	並	にぶい黄橙 10YR4/3	1/3	
1171	135-03	4	G-H15	土製品	ミニチュア土器	SH308内 SK328	—	—	—	外：オサエ・ナデ 内：ナデ	やや粗	並	にぶい橙 7.5YR6/4	底部完形	
1172	134-04	4	G-H15	土師器	台付甕	SH308内 SK328	14.6	—	—	外：ハケ−ヨコナデ 内：オサエ・ナデ−ヨコナデ	やや粗	並	にぶい橙 7.5YR7/4	1/4	
1173	116-03	4	G-115	土師器	台付甕	SH308内 SK328	16.6	—		外：ハケ−ヨコナデ 内：ナデ−ヨコナデ	やや粗	並	浅黄橙 10YR8/4	1/3	
1174	164-01	4	G-H15	土師器	台付甕	SH308内 SK328	15.8	—	—	外：ハケ−ヨコナデ 内：オサエ・工具ナデ−ヨコナデ	やや密	並	浅黄橙 10YR8/4	1/3	
1175	151-01	4	G-H15	土師器	台付甕	SH308内 SK328	16.4		—	外：ハケ−ヨコナデ 内：オサエ・ナデ−ヨコナデ	やや粗	並	浅黄橙 7.5YR8/4	1/3	
1176	118-02	4	G-H15	土師器	甕	SH308内 SK328	21.0	—	—	外：ハケ−オサエ−ヨコナデ 内：工具ナデ−ハケ−ヨコナデ	やや粗	並	にぶい橙 7.5YR7/4	1/4	
1177	116-04	4	G-H15	土師器	甕	SH308内 SK328	19.0	—	—	外：ナデ−ヨコナデ 内：ナデ−ヨコナデ	やや密	並	浅黄橙 7.5YR8/4	2/3	
1178	165-01	4	G-H15	土製品	土錘	SH308内 SK328	—	10.4	孔径 1.3 最大部径 5.9 重さ 448	ナデ・オサエ	やや粗	並	浅黄橙 7.5YR8/4	完形	側面に植物痕つく
1179	165-02	4	G-H15	土師器	土錘	SH308内 SK328	—	11.3	孔径 1.4 最大部径 5.8 重さ 493	ナデ・オサエ	やや粗	並	橙 5YR6/6	完形	側面に植物痕つく
1180	136-01	4	G-H15	須恵器	杯蓋	SH308内 SK328	14.5	4.8	—	外：回転ナデ−回転ヘラケズリ 内：回転ナデ−一方向ナデ	やや密	並	灰 5Y6/1	1/5	扁詰めは正位で行う
1181	153-03	4	G-H15	須恵器	杯蓋	SH308内 SK328	13.8	4.2	—	外：回転ナデ−回転ヘラケズリ 内：回転ナデ	やや密	並	灰 N6/	1/4	SH308遺物と接合
1182	126-03	4	G-H15	須恵器	杯身	SH308内 SK328	12.2	—	—	外：回転ナデ 内：回転ナデ	やや密	不良	淡黄 2.5Y7/3	1/3	焼成不良
1183	135-03	4	G-D12	土師器	高杯	SH316	—	—	底部径 11.5	外：ナデ−ヨコナデ 内：シボリ−ナデ−ヨコナデ	粗	並	浅黄橙 7.5YR8/6	1/4	
1184	134-03	4	G-D12	土師器	甕	SH316	18.2	—	—	外：ナデ−ヨコナデ 内：ナデ−ヨコナデ	やや粗	並	明黄褐 10YR7/6	1/5	
1185	169-01	4	G-D13	土師器	台付甕	SH316	15.4	—	—	外：ハケ−ヨコナデ 内：ナデ　ヨコナデ	やや粗	並	浅黄橙 10YR8/3	1/5	
1186	134-02	4	G-D13	土師器	台付甕	SH316	16.3	—	—	外：ハケ−ヨコナデ 内：ナデ−ヨコナデ	やや粗	並	浅黄橙 10YR8/4	1/3	
1187	133-02	4	G-D12	須恵器	杯蓋	SH316	13.6	—	—	外：回転ナデ　回転ヘラケズリ 内：回転ナデ	やや密	並	灰白 5Y7/2	1/6	扁詰めは正位で、更に別個体を重ねる
1188	133-01	4	G-D13	須恵器	杯蓋	SH316	15.0	—		外：回転ナデ−回転ヘラケズリ 内：回転ナデ−一方向（または多方向）ナデ	やや密	並	灰 5Y6/1	1/8	細片のため降灰が見られず、扁詰め状況は不明
1189	162-04	4	G-D12	須恵器	杯身	SH316	12.2	4.1	—	外：回転ナデ−回転ヘラケズリ 内：回転ナデ−当具痕	やや密	並	灰 7.5Y5/1	1/8	
1190	163-02	4	G-D12	土師器	台付甕	SH316 主柱穴	14.6	—	—	外：ハケ−ヨコナデ 内：工具ナデ−ヨコナデ−ハケ	やや粗	並	にぶい橙 7.5YR7/4	1/4	
1191	126-04	4	G-D12	土師器	高杯	SH316 貯蔵穴	—	—	—	外：調整不明 内：シボリ−ナデ	やや粗	並	橙 7.5YR7/6	実測部分完形	磨滅著しい
1192	121-06	4	G-D13	土師器	甕	SH316 貯蔵穴	—	—	底部径 6.0	外：ナデ　底部に木葉痕 内：ナデ	やや粗	並	橙 7.5YR7/6	底部完形	
1193	129-02	4	G-D12	土師器	台付甕	SH316 貯蔵穴	—	—	底部径 9.9	外：ハケ、オサエ・ナデ−ケズリ 内：工具ナデ、ナデ	やや粗	並	淡赤橙 2.5YR7/4	体部下〜底部完形	
1194	122-01	4	G-D12	土師器	台付甕	SH316 貯蔵穴	14.2	26.0 (推定)	底部径 8.3	外：ハケ−ケズリ、ヨコナデ　オサエ・ナデ−ケズリ 内：ナデ　ヨコナデ	やや粗	並	橙 7.5YR7/6	口縁部 1/8 底部 完形	
1195	121-05	4	G-D12	土師器	高杯	SK323	—	—	底部径 9.8	外：オサエ・ナデ　ヨコ方向ナデ 内：シボリ−ナデ−ヨコナデ	やや粗	並	橙 7.5YR7/6	脚部完形	
1196	126-05	4	G-D12	土師器	台付壺	SK323	—	—	底部径 10.1	外：オサエ・ナデ　ヨコ方向ナデ−ケズリ 内：オサエ・ナデ−ヨコナデ	やや粗	並	にぶい橙 7.5YR6/4	底部完形	二次的な被熱痕あり
1197	169-03	4	G-D14	土師器	小形壺	SH321	7.1	—	—	外：ナデ−ヨコナデ−工具によるナデ 内：工具ナデ−ヨコナデ	密	良	褐 7.5YR4/3	1/6強	黒斑あり
1198	130-03	4	G-D14	土師器	甕	SH321内 土坑	26.7		—	外：ハケ−ヨコナデ 内：ヨコナデ	粗	良	にぶい黄橙 10YR7/4	1/4	
1199	162-03	4	G-D14	須恵器	杯身	SH321	11.0	4.6	—	外：回転ナデ−回転ヘラケズリ 内：回転ナデ−円形当具痕	やや密	並	灰 7.5Y6/1	1/4	扁詰めは蓋を合わせ正位で行う
1200	162-02	4	G	須恵器	杯身	SH321内 土坑	11.4	4.7	—	外：回転ナデ−回転ヘラケズリ 内：回転ナデ	粗	並	黄灰 2.5Y6/1	1/2	扁詰めは蓋をして正位で行う 工事立会
1201	143-04	4	G-J17	土師器	甕	SH325	—	—	最大部径 12.1	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	やや粗	並	にぶい黄橙 10YR7/3	細片	古墳前期
1202	169-01	4	G-J17	土師器	杯	SH325 貯蔵穴	12.2	4.7	—	外：オサエ・ナデ−ヨコナデ 内：ナデ−ヨコナデ	粗	並	浅黄橙 10YR8/4	完形	
1203	160-02	4	G-J17	土師器	杯	SH325 貯蔵穴	13.4	4.5	—	外：オサエ・ナデ−ヨコナデ 内：ナデ−ヨコナデ	粗	並	にぶい橙 7.5YR7/4	1/5欠損	
1204	136-05	4	G-I17	土師器	台付壺	SH325 貯蔵穴	16.0	—	—	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	やや密	並	橙 7.5YR7/6	1/8	
1205	136-04	4	G-I17	土師器	台付甕	SH325 貯蔵穴	14.0	—		外：ハケ　ヨコナデ 内：ナデ−ヨコナデ	粗	良	浅黄橙 10YR8/4	1/4	
1206	142-05	4	G-I18	土師器	ミニチュア土器	SH326	5.0		—	外：調整不明−ヨコナデ？ 内：オサエ・ナデ−ヨコナデ	粗	並	淡黄 2.5Y8/3	1/3	磨滅著しい
1207	164-05	4	G-I18	土師器	ミニチュア土器	SH326	5.2	5.2	—	外：オサエ・ナデ 内：オサエ・ナデ	やや粗	並	橙 7.5YR6/6	1/4	
1208	142-01	4	G-H18	土師器	甕	SH326	18.6	—	—	外：ナデ−オサエ−ヨコナデ 内：ナデ−ヨコナデ	やや粗	並	にぶい橙 7.5YR7/3	1/4	
1209	158-01	4	G-I18	土師器	甕	SH326	18.6	—	—	外：工具ナデ−ヨコナデ 内：オサエ・ナデ−ヨコナデ	やや粗	並	浅黄橙 7.5YR8/4	体部上〜口縁完形	
1210	142-06	4	G-I18	土師器	台付甕	SH326	13.0	—	—	外：ハケ−ヨコナデ 内：調整不明−ヨコナデ	やや粗	並	にぶい黄橙 10YR7/3	1/5	磨滅著しい
1211	143-01	4	G-H18	土師器	台付甕	SH326	16.0	—	—	外：ハケ−ヨコナデ 内：ナデ　ヨコナデ	粗	並	浅黄橙 10YR8/3	1/5	
1212	152-01	4	G	土師器	台付甕	SH326	16.3	—	—	外：ハケ−ヨコナデ 内：オサエ−工具ナデ−ヨコナデ	やや粗	並	にぶい黄橙 10YR7/4	1/3	
1213	164-02	4	G-I18	土師器	台付甕	SH326	17.8	—		外：ハケ　ヨコナデ 内：オサエ・ナデ−ヨコナデ	やや粗	並	浅黄橙 10YR8/3	1/4	
1214	164-03	4	G-I18	須恵器	杯蓋	SH326	14.6	5.4	—	外：回転ナデ−回転ヘラケズリ 内：回転ナデ	やや密	並	灰 N5/	1/4	扁詰めは正位で行う
1215	142-02	4	G-I18	土師器	甕	SH326 カマド	18.8	—	—	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	やや粗	並	にぶい黄橙 10YR7/4	1/8	
1216	143-03	4	G-I19	土師器	台付甕	SH326 カマド	17.0	—	—	外：ハケ−ヨコナデ−ヘラ描 内：調整不明−ヨコナデ	粗	並	にぶい黄橙 10YR7/3	1/4	
1217	142-03	4	G-I18	土師器	高杯	SH326 貯蔵穴	29.4	—	—	調整不明	粗	並	浅黄橙 7.5YR8/4	1/8	
1218	142-04	4	G-I18	土師器	台付甕	SH326 貯蔵穴	—	—	底部径 10.3	外：オサエ・ナデ−ヨコ方向ナデ−ケズリ 内：オサエ−ヨコ方向ナデ	粗	並	浅黄橙 7.5YR8/3	台部完形	
1219	166-01	4	G-I17	土師器	台付甕	SH326 主柱穴	13.6	—	—	外：ハケ−ヨコナデ−ケズリ　ヘラ記号 内：オサエ・ナデ−ヨコナデ	粗	良	にぶい黄橙 10YR6/4	1/4	体部下半は磨滅が著しい
1220	163-06	4	G-I20	土師器	台付甕	SH326 主柱穴	—	—	—	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	やや粗	並	浅黄橙 10YR8/3	細片	

第22表　出土遺物観察表G区（6）

報告番号	登録番号	調査次数	地区名	種類	器種	出土遺構	口径 (cm)	器高 (cm)	その他 (cm・g)	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考
1221	127-07	4	G-119	土師器	甕?	SH331	－	－		外：ナデ－ヨコナデ 内：ナデ　ヨコナデ	やや密	並	灰白　2.5Y8／2	細片	
1222	150-04	4	G-J24	土師器	ミニチュア土器	SH341 主柱穴	7.0	4.7	－	外：ケズリ－ヨコナデ 内：工具ナデ　ヨコナデ	やや粗	並	褐灰　7.5YR4／1	1／3	底部外面に木葉痕あり
1223	122-03	4	G-K23	土製品	歓脚?	SH341	－	－	最大部径 1.8	ナデ	やや密	良	にぶい黄橙　10YR6／4	下面　剥離 上面　欠損	
1224	123-02	4	G-K24	土師器	甕	SH341	14.1	－	－	外：ヨコナデ 内：ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	にぶい橙　7.5YR7／4	1／6	
1225	154-04	4	G-J24	土師器	甕	SH341	15.0	－	－	外：ハケ－ヨコナデ 内：ハケ－ヨコナデ	やや粗	並	にぶい橙　7.5YR7／4	1／6	
1226	125-01	4	G-K22	土師器	甕	SH341	23.4	－	－	外：ハケ－オサエ－ヨコナデ 内：オサエ－ハケ－ヨコナデ	やや粗	並	橙　7.5YR7／6	1／8	
1227	123-01	4	G-J22	土師器	杯	SH341 カマド	14.0	－	－	外：オサエ・ナデ－ヨコナデ 内：ナデ－ヨコナデ	やや密	並	橙　5YR6／6	1／2	
1228	154-02	4	G-J23	土師器	杯	SH341 カマド	14.8	－	－	外：オサエ・ナデ－ヨコナデ 内：オサエ・ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	浅黄橙　10YR8／4	1／8欠損	
1229	125-02	4	G-J23	土師器	鉢	SH341 カマド	24.4	－	－	外：ケズリ－ヨコナデ 内：ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	にぶい褐　7.5YR5／3	1／4強	
1230	155-02	4	G-J23	土師器	高杯	SH341 カマド	24.0	19.4	底部径 13.9	外：オサエ・ナデ－ヨコナデ、脚端部に工具当痕 内：ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	橙　5YR7／8	杯部　1／8　脚部　完形	カマド支脚 全体に被熱
1231	124-01	4	G-J24	土師器	甕	SH341 カマド	34.1	－		外：工具ナデ－ヨコナデ 内：工具ナデ　ヨコナデ	粗	並	橙　7.5YR6／6	1／4強	カマド支脚に逆位で被せる 全体に被熱
1232	111-04	4	G-J21	土師器	ミニチュア土器	SH342	3.1	3.6以上	－	外：ナデ・オサエ 内：ナデ・オサエ	やや粗	並	にぶい橙　5YR7／4	1／3	
1233	092-05	4	G-K20	土師器	ミニチュア土器	SH342	6.0	3.8	－	外：ナデ・オサエ 内：ナデ・オサエ	やや粗	並	褐灰　7.5Y6／1	1／2	
1234	095-02	4	G-J21	土師器	ミニチュア土器	SH342	3.2	3.3	－	外：ナデ・オサエ 内：ナデ・オサエ	やや密	並	淡黄　2.5Y8／3	1／4	底部に黒斑あり
1235	103-04	4	G-J21	土師器	土製円板	SH342	－	－	径　3.7 孔径　0.7 重量　18.2	オサエ（手づくね）－片側穿孔	やや粗	並	にぶい黄橙　10YR7／3	完形	
1236	096-01	4	G-K21	土師器	土錘	SH342		4.3	最大部径　3.7 重さ　9.6	オサエ・ナデ	やや密	並	灰白　10YR8／2	ほぼ完形	
1237	111-05	4	G-J20	土師器	不明 土製品	SH342	－		－	オサエ（手捻ね）	やや粗	並	灰褐　7.5YR6／2	1／4欠損	焼台か?
1238	096-02	4	G-K21	土師器	鞴羽口	SH342	3.7	－	孔径 1.9	オサエ・ナデ	やや粗	並	淡黄　2.5Y8／3	基部欠損	先端に鉄滓付着
1239	071-05	4	G-K21	土師器	土錘	SH342	－	11.1	孔径　1.1 最大部径　5.7 重さ　492.8	オサエ・ナデ　穿孔は下から上	やや粗	並	橙　7.5YR7／6	完形	
1240	111-03	4	G-J20	土師器	ミニチュア土器	SH342	11.3	－	－	外：ナデ? 内：ナデ?	やや粗	並	淡黄　2.5Y8／3	1／6	高杯か? 磨滅が著しい
1241	098-04	4	G-K21	土師器	ミニチュア土器	SH342	－	－	最大部径 7.5	外：オサエ・ナデ－工具ナデ 内：ナデ	やや粗	並	灰白　10YR8／2	体部～底部 完形	壺か?
1242	071-03	4	G-K21	土師器	杯	SH342	－	－	－	外：ナデ－ヨコナデ 内：ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	にぶい黄橙　10YR7／4	細片	
1243	102-04	4	G-K21	土師器	杯	SH342	12.3	4.2	－	外：オサエ・ナデ－ヨコナデ 内：調整不明－ヨコナデ	やや粗	並	淡黄　2.5Y8／4	完形	磨滅が著しい
1244	105-06	4	G-K21	土師器	杯	SH342	12.1	4.2	－	外：オサエ、底部工具当痕、調整不明 内：調整不明	粗	並	浅黄橙　10YR8／4	1／3欠損	磨滅が著しい
1245	106-01	4	G-K21	土師器	杯	SH342	13.2	4.6		摩滅が著しいため調整不明	粗	並	にぶい橙　7.5YR6／4	1／3欠損	底部に木葉痕あり
1246	082-02	4	G-K20	土師器	杯	SH342	13.2	4.5	－	外：オサエ・ナデ－ヨコナデ 内：ナデ－ヨコナデ、ヘラ描き	粗	並	にぶい橙　7.5YR7／3	1／5欠損	
1247	074-03	4	G-J21	土師器	杯	SH342	13.6	4.8	－	外：オサエ・ナデ　ヨコナデ 内：オサエ・ナデ－ヨコナデ	やや密	並	にぶい橙　7.5YR7／4	1／2	
1248	075-02	4	G-K21	土師器	台付椀	SH342	11.8	7.0	底部径 7.2	外：ナデ－ヨコナデ 内：オサエ・ナデ－ヨコナデ	やや粗	やや不良	浅黄橙　10YR8／4	脚部 1／3欠損	
1249	099-03	4	G-K21	土師器	台付椀	SH342	12.1	8.2	底部径 7.6	外：ナデ－ヨコナデ 内：シボリ、ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	橙　5YR7／6	1／2	
1250	075-01	4	G-K21	土師器	台付椀	SH342	12.2	8.5	底部径 7.0	外：ナデ－ヨコナデ 内：オサエ・ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	橙　5YR6／6	1／3	
1251	099-02	4	G-K21	土師器	台付椀	SH342	12.4	7.5	底部径 7.6	摩滅が著しいため調整不明	やや粗	並	浅黄橙　10YR8／4	1／2	
1252	074-02	4	G-J21	土師器	台付椀	SH342	13.0	8.2	底部径 7.6	外：ナデ－ヨコナデ 内：ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	橙　5YR7／6	1／4欠損	
1253	067-01	4	G-J21	土師器	高杯	SH342	15.2	－		ヨコナデか　調整不明	やや密	良	橙　5YR6／6	1／4	全体に磨滅が著しい
1254	099-01	4	G-K21	土師器	高杯	SH342	17.8	－	－	外：ナデ－ヨコナデ－オサエ 内：シボリ－ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	灰白　2.5Y8／2	杯部 ほぼ完形	
1255	112-03	4	G-J21	土師器	高杯	SH342	－	－	底部径 9.0	外：ナデ　ヨコナデ－オサエ 内：シボリ－ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	橙　5YR6／6	脚部 1／4	
1256	079-01	4	G-K20	土師器	甑?	SH342	23.2	8.3	底部径 13.6	外：不明－ヨコナデ、ケズリ 内：オサエ・ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	にぶい橙　7.5YR7／4	1／12	外面被熱
1257	088-02	4	G-J21	土師器	台付甕?	SH342	7.6	－	－	外：ハケ－ヨコナデ 内：オサエ・ナデ－ヨコナデ	やや粗	良	明黄褐　10YR7／6	1／2	
1258	105-04	4	G-K21	土師器	壺?	SH342	9.4	－	－	外：調整不明－ヨコナデ 内：工具ナデ－ヨコナデ	粗	並	浅黄橙　10YR8／3	1／3	磨滅
1259	096-03	4	G-K21	土師器	甕?	SH342	10.6	－	－	外：ナデ－ヨコナデ 内：工具ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	にぶい橙　5YR7／4	1／5	
1260	090-03	4	G-J20	土師器	甕?	SH342	－		底部径 4.2	外：ナデ 内：ナデ	粗	良	にぶい黄橙　10YR7／4	底部 完形	
1261	079-02	4	G-K21	土師器	甕	SH342	12.1	12.1 (推定)	－	外：ハケ－ナデ－ヨコナデ 内：ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	淡黄　2.5Y8／3	1／6	
1262	111-02	4	G-K21	土師器	甕	SH342	15.2	－	－	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	やや粗	並	にぶい橙　5YR6／4	1／4	
1263	102-03	4	G-K21	土師器	甕	SH342	15.2	－	－	外：ハケ－ヨコナデ 内：工具ナデ－ヨコナデ	やや密	並	橙　5YR6／6	1／5	
1264	067-02	4	G-K21	土師器	台付甕?	SH342	14.4	－	－	外：ハケ－ヨコナデ 内：オサエ・ナデ－ヨコナデ	やや密	良	橙　5YR6／6	1／2	台部との接合部分破片あり
1265	124-01	4	G-K21	土師器	甕	SH342	16.0	－	－	外：オサエ・ナデ－ケズリ、ヨコ方向ナデ 内：オサエ・ナデ－ヨコ方向ナデ	粗	並	明黄褐　10YR7／6	1／4欠損	体部下半被熱 丸底
1266	083-01	4	G-K20	土師器	甕	SH342	16.3	－	－	外：調整不明－ヨコナデ 内：オサエ・ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	浅黄橙　10YR8／4	1／3	磨滅
1267	073-01	4	G-K21	土師器	甕	SH342	18.8	－	－	外：工具ナデ－ヨコナデ 内：ナデ－ヨコナデ	粗	並	にぶい黄橙　10YR7／3	1／3	
1268	069-01	4	G-K21	土師器	甕	SH342	19.8		－	外：ナデ－ヨコナデ 内：オサエ・ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	浅黄橙　10YR8／3	1／3欠損	
1269	078-01	4	G-K21	土師器	甕	SH342	17.8	－	－	外：ケズリ－ヨコナデ 内：オサエ・ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	浅黄橙　7.5YR8／4	1／3	
1270	105-03	4	G-K21	土師器	甕	SH342	－	－	底部径 3.2	外：調整不明－オサエ 内：調整不明	粗	並	浅黄橙　10YR8／4	底部 完形	磨滅著しい
1271	073-04	4	G-K21	土師器	甕	SH342	－	－	底部径 7.8	外：ナデ－オサエ 内：ナデ	やや粗	並	にぶい橙　7.5YR7／3	底部 完形	
1272	100-04	4	G-J21	土師器	甕	SH342	－	－	底部径 10.8	外：ケズリ　工具ナデ 内：ナデ	やや粗	並	にぶい橙　7.5YR7／4	1／6欠損	
1273	084-01	4	G-J20	土師器	甕	SH342	－	－	底部径 8.8	外：ナデ－オサエ－ハケ　ケズリ 内：ナデ	やや粗	並	浅黄橙　7.5YR8／3	底部 完形	
1274	064-02	4	G-K21	土師器	甕	SH342	22.2	－	－	外：オサエ・ナデ－ヨコナデ 内：ヨコナデ	やや粗	並	浅黄橙　10YR8／4	1／2	おそらく把手がつく
1275	080-03	4	G-K21	土師器	甕	SH342	25.6	－	－	外：ケズリ－ヨコナデ 内：工具ナデ－ヨコナデ	やや密	並	にぶい黄橙　10YR7／4	1／4	把手はがれ痕あり
1276	082-01	4	G-J20	土師器	甕	SH342	32.6		－	外：ハケ－ヨコナデ 内：オサエ・ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	浅黄橙　7.5YR8／4	1／6	
1277	098-01	4	G-J21	土師器	甕	SH342	34.1	－		外：ハケ－ヨコナデ 内：ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	浅黄橙　7.5YR8／4	1／7	

第23表　出土遺物観察表G区（7）

報告番号	登録番号	調査次数	地区名	種類	器種	出土遺構	口径 (cm)	器高 (cm)	その他 (cm・g)	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考
1278	068-01	4	G-K21	土師器	鍋	SH342	18.4	－	－	外：工具ナデ－ヨコナデ－把手貼り付けナデ 内：ナデ－ヨコナデ	粗	並	明黄褐 10YR7／6	1／3	
1279	157-01	4	G-J21	土師器	甑	SH342	26.1	27.9	底部径 10.0	外：オサエ・ナデ－ヨコナデ　把手貼り付けオサエ 内：ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	浅黄橙 10YR8／4	1／4	
1280	074-05	4	G-K21	土師器	台付甕	SH342	19.0	－		外：ハケ－ヨコナデ 内：オサエ・ナデ－ヨコナデ	やや密	並	にぶい褐 7.5YR5／3	1／4	
1281	081-03	4	G-K21	土師器	台付甕	SH342	18.8		－	外：ハケ－ヨコナデ 内：オサエ・ナデ－ヨコナデ	粗	良	にぶい黄橙 10YR6／4	1／2	体部下半被熱のため磨滅
1282	090-01	4	G-J20	土師器	台付甕	SH342	12.1		－	外：ハケ－ヨコナデ 内：ナデ－ヨコナデ	やや粗	良	にぶい黄橙 10YR7／4	1／4	
1283	079-07	4	G-K21	土師器	台付甕	SH342	12.0	－	－	外：ハケ－ヨコナデ 内：ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	にぶい黄橙 10YR7／3	1／4	
1284	106-02	4	G-K21	土師器	台付甕	SH342	12.0	－	－	外：ハケ－ヨコナデ 内：オサエ・ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	灰褐 7.5YR5／2	1／4	
1285	074-01	4	G-K21	土師器	台付甕	SH342	12.2	－	－	外：ハケ－ヨコナデ 内：オサエ・ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	浅黄橙 7.5YR8／3	1／4	
1286	163-01	4	G-K21	土師器	台付甕	SH342	12.8	－	－	外：ハケ－ヨコナデ 内：不明－ヨコナデ	やや粗	並	淡黄 2.5Y8／3	1／4	磨滅が著しい
1287	065-01	4	G-J20	土師器	台付甕	SH342	－	－	底部径 5.7	外：ハケ、オサエ・ナデ－ケズリ 内：ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	浅黄橙 10YR8／3	1／2	
1288	065-02	4	G-K20	土師器	台付甕	SH342	12.6	16.7	底部径 6.5	外：ハケ、オサエ・ナデ　ケズリ 内：オサエ・ナデ－工具ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	にぶい黄橙 10YR7／3	完形	
1289	070-06	4	G-K21	土師器	台付甕	SH342	13.2	－		外：ナデ－ヨコナデ 内：ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	にぶい橙 7.5YR7／4	1／6	
1290	070-03	4	G-K21	土師器	台付甕	SH342	13.2		－	外：ハケ－ヨコナデ 内：オサエ・ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	にぶい橙 7.5YR6／4	1／4	
1291	096-02	4	G-J21	土師器	台付甕	SH342	14.1	－	－	外：ハケ－ヨコナデ 内：ナデ－工具ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	灰白 10YR8／2	1／4	
1292	081-02	4	G-K21	土師器	台付甕	SH342	14.6	－	－	外：ハケ－ヨコナデ 内：工具ナデ－ヨコナデ	やや密	並	にぶい橙 5YR7／4	1／3	
1293	072-04	4	G-K21	土師器	台付甕	SH342	14.0	－	－	外：ハケ－ヨコナデ 内：オサエ－工具ナデ－ヨコナデ	粗	並	浅黄橙 7.5YR8／3	1／4	
1294	072-03	4	G-K21	土師器	台付甕	SH342	14.2	－	－	外：ハケ－ヨコナデ 内：工具ナデ－ヨコナデ	やや密	並	にぶい橙 7.5YR7／3	1／3	
1295	495-01	4	G-K21	土師器	台付甕	SH342	14.4	－	－	外：ハケ－ヨコナデ 内：オサエ・ナデ　ヨコナデ	やや粗	良	にぶい黄橙 10YR7／4	1／4	二次的被熱痕あり
1296	072-02	4	G-K21	土師器	台付甕	SH342	14.4	－	－	外：ハケ－ヨコナデ 内：オサエ・ナデ－工具ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	にぶい黄褐 10YR5／3	1／4	
1297	131-01	4	G-K21	土師器	台付甕	SH342	14.5	－		外：ハケ　ヨコナデ 内：ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	灰白 2.5Y8／2	1／6	体部に煤が付着
1298	062-01	4	G-K21	土師器	台付甕	SH342	14.2	－		外：ハケ　ヨコナデ 内：ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	浅黄橙 7.5YR8／3	口縁部 1／2　他は完形	
1299	102-01	4	G-K21	土師器	台付甕	SH342	13.9	24.3	底部径 8.5	外：ハケ－ヨコナデ－ケズリ 内：ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	にぶい橙 5YR7／3	ほぼ完形	
1300	102-02	4	G-K21	土師器	台付甕	SH342	14.8	－	－	外：ハケ－ヨコナデ 内：ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	浅黄橙 10YR8／3	1／3	
1301	093-02	4	G-J20	土師器	台付甕	SH342	14.6	－	－	外：ハケ－ヨコナデ 内：オサエ・ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	灰白 2.5Y8／2	1／3	
1302	080-04	4	G-K21	土師器	台付甕	SH342	14.8	－	－	外：ハケ－ヨコナデ、ヘラ記号 内：ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	淡黄 2.5Y8／3	1／3	
1303	081-02	4	G-J20	土師器	台付甕	SH342	15.6	－	－	外：ハケ－ヨコナデ 内：ナデ？－ヨコナデ	やや密	並	浅黄橙 10YR8／3	1／8	磨滅著しい
1304	156-03	4	G-J21	土師器	台付甕	SH342	15.2	－	－	外：ハケ－ヨコナデ、ヘラ記号 内：ナデ　ヨコナデ	やや粗	並	にぶい黄橙 10YR7／4	1／6	
1305	089-02	4	G-K21	土師器	台付甕	SH342	14.8	－		外：ハケ　ヨコナデ　ケズリ 内：オサエ・ナデ－ヨコナデ	やや粗	良	にぶい黄橙 10YR7／4	1／4	
1306	106-03	4	G-K21	土師器	台付甕	SH342	16.0			外：ハケ　ヨコナデ 内：ナデ－ヨコナデ	粗	並	浅黄橙 10YR8／3	2／5	
1307	089-01	4	G-J21	土師器	台付甕	SH342	16.2		－	外：ハケ　ヨコナデ 内：ナデ－ヨコナデ	やや粗	良	にぶい黄橙 10YR7／4	1／2	
1308	083-03	4	G-K21	土師器	台付甕	SH342	16.1	－	－	外：ハケ－ヨコナデ、ヘラ描 内：オサエ・ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	浅黄橙 10YR8／3	1／3	
1309	068-02	4	G-K21	土師器	台付甕	SH342	17.0	－	－	外：ハケ－ヨコナデ 内：オサエ・ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	にぶい黄橙 10YR7／4	1／3	
1310	072-02	4	G-K21	土師器	台付甕	SH342	16.3	－	－	外：ハケ－ヨコナデ 内：工具ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	にぶい黄橙 10YR7／3	3／4	
1311	076-02	4	G-K21	土師器	台付甕	SH342	16.2	－	－	外：ハケ－ヨコナデ－ケズリ 内：オサエ・ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	浅黄橙 7.5YR8／4	1／3	二次的被熱痕あり
1312	149-01	4	G-J21	土師器	台付甕	SH342	16.0	－	－	外：ハケ－ヨコナデ 内：オサエ・ナデ　ヨコナデ	やや粗	並	浅黄橙 10YR8／3	1／2	底部外面に黒斑あり
1313	084-01	4	G-K21	土師器	台付甕	SH342	16.2	24.4	底部径 10.0	外：オサエ－ハケ－ヨコナデ　ケズリ 内：オサエ・ナデ－ヨコナデ	粗	並	にぶい橙 7.5YR7／4	1／2	
1314	075-05	4	G-K21	土師器	台付甕	SH342	17.0	－		外：ハケ－ヨコナデ 内：オサエ・ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	浅黄橙 7.5YR8／4	1／4	
1315	081-01	4	G-J20	土師器	台付甕	SH342	15.8		－	外：ハケ　ヨコナデ－ケズリ 内：ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	にぶい黄橙 10YR7／3	1／3	
1316	063-03	4	G-K21	土師器	台付甕	SH342	15.9	33.0	底部径 10.1	外：ハケ－ヨコナデ－ケズリ 内：オサエ・ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	明黄褐 10YR7／6	1／3	
1317	107-01	4	G-K21	土師器	台付甕	SH342	16.4	－	－	外：ハケ－ヨコナデ 内：ナデ－ヨコナデ	やや粗	良	にぶい黄橙 10YR6／4	1／2	
1318	072-01	4	G-K21	土師器	台付甕	SH342	17.4	－	－	外：ハケ－ヨコナデ 内：オサエ・ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	にぶい黄橙 10YR7／3	1／5	
1319	087-01	4	G-J21	土師器	台付甕	SH342	16.6	－	－	外：ハケ－ヨコナデ－ケズリ 内：オサエ・ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	にぶい橙 7.5YR6／4	1／4	
1320	069-03	4	G-K21	土師器	台付甕	SH342	17.0	－	－	外：ハケ－ヨコナデ 内：ナデ－工具ナデ　ヨコナデ	やや粗	並	浅黄橙 7.5YR8／3	1／4	
1321	113-01	4	G-K21	土師器	台付甕	SH342	16.6	21.3	底部径 9.4	外：ハケ－ヨコナデ－ケズリ　ヘラ描 内：ナデ－ヨコナデ	やや粗	良	にぶい黄橙 10YR7／4	3／4	
1322	040-03	4	G-K21	土師器	台付甕	SH342	17.4	－	－	外：ハケ－ヨコナデ 内：オサエ・ナデ－ヨコナデ	やや密	並	にぶい黄橙 10YR7／4	1／2	
1323	108-01	4	G-K21	土師器	台付甕	SH342	16.6			外：ハケ－ヨコナデ 内：オサエ・ナデ－ヨコナデ	やや粗	良	橙 7.5YR6／6	1／4欠損	
1324	064-03	4	G-K21	土師器	台付甕	SH342	16.4		－	外：ハケ　ヨコナデ 内：オサエ・ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	にぶい橙 7.5YR7／4	1／4欠損	
1325	101-02	4	G-J20	土師器	台付甕	SH342	17.8	－	－	外：ハケ－ヨコナデ 内：ナデ－ヨコナデ	やや粗	良	にぶい黄橙 10YR7／4	1／3	
1326	112-01	4	G-K21	土師器	台付甕	SH342	18.0	－	－	外：ハケ－ヨコナデ 内：工具ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	浅黄橙 10YR8／4	1／4	
1327	108-02	4	G-K21	土師器	台付甕	SH342	19.0	－	－	外：ハケ－ヨコナデ 内：調整不明－ヨコナデ	やや粗	良	にぶい黄橙 10YR6／3	口縁部 ほぼ完形	
1328	065-01	4	G-K21	土師器	台付甕	SH342	17.2	31.0 (推定)	底部径 9.0	外：ハケ－ヨコナデ－ケズリ－ヘラ描 内：オサエ・ナデ－工具ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	淡黄 2.5Y8／3	体部下半以外 完形	
1329	132-02	4	G-K21	土師器	台付甕	SH342	－	－	底部径 9.4	外：オサエ・ナデ－ハケ 内：オサエ・ナデ	やや粗	並	灰白 10YR8／2	台部 完形	
1330	158-01	4	G-K21	土師器	台付甕	SH342	－	－	底部径 10.0	外：ハケ－ケズリ 内：オサエ・ナデ	やや粗	良	にぶい黄橙 10YR7／4	体部下～台部 完形	
1331	091-01	4	G-K21	須恵器	壺	SH342	16.0	6.2	つまみ径 3.8	外：回転ナデ　回転ヘラケズリ－つまみ貼付ナデ 内：回転ナデ　一方向ナデ	やや粗	やや不良	灰白 5Y6／1	1／4欠損	降灰の状況から、解結めは正位で行う
1332	126-06	4	G-K21	須恵器	杯蓋	SH342	15.4	4.5	－	外：調整不明－回転ヘラケズリ 内：調整不明	やや粗	不良	淡黄 2.5Y7／3	1／3	磨滅
1333	091-04	4	G-J21	須恵器	杯蓋	SH342	14.8	4.1	－	外：回転ナデ－回転ヘラケズリ 内：回転ナデ－多方向ナデ	やや密	良	灰　N6／	1／8	全体に歪み・ひび割れ。降灰状況から解結めは正位で行う
1334	082-03	4	G-K21	須恵器	杯蓋	SH342	13.1	3.9	－	外：回転ナデ－回転ヘラケズリ 内：回転ナデ－当具痕－一方向ナデ	やや密	良	灰　N6／	1／2	天井部外面、ナデで磨滅 解結めは正位で行う
1335	083-02	4	G-K21	須恵器	杯蓋	SH342	12.2	4.0	－	外：回転ナデ－回転ヘラケズリ 内：回転ナデ	やや密	並	オリーブ灰 2.5GY6／1	3／8	天井部外面、ナデで磨滅 解結めは正位で行う

第24表　出土遺物観察表G区（8）

報告番号	登録番号	調査次数	地区名	種類	器種	出土遺構	口径 (cm)	器高 (cm)	その他 (cm・g)	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考
1336	075-03	4	G-K21	須恵器	杯蓋	SH342	15.0	–	–	外：回転ナデ　回転ヘラケズリ 内：回転ナデ	やや粗	並	暗青灰　5B5／1	1／4	降灰の状況から、輝詰めは正位で行う
1337	128-02	4	G-K21	須恵器	杯蓋	SH342	14.6	–	–	外：回転ナデ－回転ヘラケズリ 内：回転ナデ	やや密	やや不良	灰白　7.5Y7／1	1／4	
1338	104-03	4	G-K21	須恵器	杯蓋	SH342	13.6	4.9	–	外：回転ナデ－調整不明 内：回転ナデ	やや密	不良	灰白　5Y8／1	1／4欠損	磨滅著しい
1339	091-05	4	G-K21	須恵器	杯蓋	SH342	13.0	4.2	–	外：回転ナデ－回転ヘラケズリ 内：回転ナデ－一方向ナデ	やや粗	やや不良	灰白　5Y7／1	1／2	
1340	093-01	4	G-K21	須恵器	杯蓋	SH342	14.2	4.9	–	外：回転ナデ－回転ヘラケズリ 内：回転ナデ－円形仕上げナデ	やや密	並	灰黄　2.5Y7／2	1／3欠損	焼け膨れあり 降灰の状況から、輝詰めは正位で行う
1341	100-03	4	G-J21	須恵器	杯蓋	SH342	14.8	5.6	–	外：回転ナデ－回転ヘラケズリ 内：回転ナデ－多方向ナデ	やや密	良	灰白　2.5Y7／1	1／2	降灰の状況から、輝詰めは正位で行う
1342	079-04	4	G-K21	須恵器	杯身	SH342	11.2	4.6	–	外：回転ナデ－回転ヘラケズリ 内：回転ナデ－当具痕－仕上げナデ	密	良	灰　7.5Y6／1	1／5	輝詰めは蓋をせず正位で行うが、内面中央に降灰なし
1343	069-03	4	G-K21	須恵器	杯身	SH342	12.0		–	外：回転ナデ－回転ヘラケズリ 内：回転ナデ－当具痕	やや粗	やや不良	灰褐　5YR5／2	1／6	同心円文当具痕
1344	068-04	4	G-K21	須恵器	杯身	SH342	12.8	4.3	–	外：回転ナデ－調整不明 内：回転ナデ	やや粗	不良	灰黄　2.5Y7／2	1／4	磨滅著しい
1345	105-03	4	G-K21	須恵器	杯身	SH342	11.0	–	–	外：回転ナデ－回転ヘラケズリ 内：回転ナデ	やや粗	良	灰　N4／	1／4	輝詰めは蓋の有無は不明だが、逆位か
1346	204-02	4	G-K21	須恵器	杯身	SH342	11.8	5.5	–	外：回転ナデ－回転ヘラケズリ 内：回転ナデ－当具痕－仕上げナデ	やや密	良	灰　5Y6／1	1／4欠損	輝詰めは蓋の有無は不明だが、逆位か
1347	094-02	4	G-J20	須恵器	杯身	SH342	11.6	4.7	–	外：回転ナデ－回転ヘラケズリ 内：回転ナデ－一方向ナデ	やや密	やや不良	灰白　5Y7／1	1／4	
1348	079-03	4	G-K21	須恵器	杯身	SH342	12.2	–	–	外：回転ナデ－回転ヘラケズリ 内：回転ナデ	やや密	やや不良	灰黄　2.5Y7／2	1／3	
1349	101-02	4	G-K21	須恵器	杯身	SH342	12.2	5.1	–	外：回転ナデ－回転ヘラケズリ 内：回転ナデ－当具痕	やや粗	良	灰白　N7／	1／3	輝詰めは蓋の有無は不明だが、逆位か
1350	092-05	4	G-K20	須恵器	杯身	SH342	11.6	5.0	–	外：回転ナデ－回転ヘラケズリ 内：回転ナデ－当具痕－多方向ナデ	やや粗	並	オリーブ灰　2.5GY5／1	1／3	同心円文当具 輝詰めは蓋の有無は不明
1351	082-04	4	G-K21	須恵器	杯身	SH342	12.2	4.5	–	外：回転ナデ－回転ヘラケズリ 内：回転ナデ－当具痕－多方向ナデ	やや密	並	灰白　N7／	1／3	輝詰めは蓋の有無は不明逆位か 全体的に焼膨れ
1352	094-01	4	G-K21	須恵器	杯身	SH342	11.4			外：回転ナデ－回転ヘラケズリ 内：回転ナデ	やや粗	並	灰黄　2.5Y6／2	1／3	内・外面に自然釉かかり、細かな調整・降灰状況不明
1353	104-01	4	G-K21	須恵器	杯身	SH342	11.0	5.3		外：回転ナデ－回転ヘラケズリ 内：回転ナデ　当具痕	やや密	良	灰白　N7／	1／3欠損	輝詰めは蓋の有無は不明だが、逆位か
1354	091-03	4	G-K21	須恵器	杯身	SH342	11.3	6.2	–	外：回転ナデ－回転ヘラケズリ 内：回転ナデ－一方向ナデ	やや粗	やや不良	灰オリーブ　5Y6／2	ほぼ完形	
1355	091-02	4	G-K21	須恵器	杯身	SH342	11.4	5.1	–	外：回転ナデ　回転ヘラケズリ 内：回転ナデ－一方向ナデ	密	良	緑灰　10GY6／1	1／4欠損	輝詰めは蓋の有無は不明だが、逆位か
1356	092-01	4	G-K21	須恵器	杯身	SH342	10.4	–	–	外：回転ナデ－回転ヘラケズリ 内：回転ナデ	やや密	良	灰　N6／	1／4	輝詰めは蓋をせず、逆位か
1357	092-03	4	G-J20	須恵器	杯身	SH342	12.4	4.7	–	外：回転ナデ－回転ヘラケズリ 内：回転ナデ－当具痕	やや密	やや不良	にぶい黄橙　10YR7／2	1／4欠損	輝詰めは正位で行う 天井部外面、こすれにより滑らか
1358	070-04	4	G-K20	須恵器	甕	SH342	14.2	–	–	外：回転ナデ－波状文・沈線 内：回転ナデ	やや密	並	灰黄　2.5Y6／2	1／6	若干風化する
1359	068-04	4	G-J21	須恵器	壺	SH342	9.0	–	–	外：回転ナデ 内：回転ナデ	やや密	良	灰　N6／	1／6	
1360	092-02	4	G-K21	須恵器	高杯	SH342	11.8	11.7	底部径 7.8	外：回転ナデ－回転ヘラケズリ－接合－透かし穿孔 内：回転ナデ	やや粗	良	灰白　N7／	口縁部 1／3のみ欠損	杯部大きく歪み、全体的に自然釉 輝詰めは逆位か
1361	097-01	4	G-K21	石製品	砥石	SH342			厚さ 2.5						裏面：両面2面 内1面は、金属製品を砥いだ痕跡あり
1362	149-01	4	G-K21	鉄製品	鉄鏃	SH342	–	–	残存長 5.2					茎部欠損	片刃 柳葉を呈す
1363	149-02	4	G-K21	鉄製品	鉄鏃	SH342	–	–	残存長 13.7					刃先 若干欠損	曲刃鏃 折り返し部に木質残る
1364	149-04	4	G-K21	石製品	抉入石器	SH342	–	–	–						チャート
1365	120-04	4	G-I20	土師器	ミニチュア土器 台付甕	SH345	–	–	底部径 4.4	外：ハケ－ナデ 内：ナデ	やや粗	並	浅黄橙　10YR8／4	1／2	
1366	123-05	4	G-H22	土師器	台状 土製品	SH345	–	–	–	外：ナデ 内：ナデ	粗	並	浅黄橙　10YR8／4	突起部分 完形	
1367	154-01	4	G-I22	須恵器	杯身	SH345	12.0	4.8	–	外：回転ナデ－回転ヘラケズリ 内：回転ナデ－当具痕	やや密	やや不良	暗灰黄　2.5Y5／2	1／4	
1368	154-05	4	G-H22	須恵器	把手付壺	SH345	19.8	12.6	–	外：回転ナデ－タタキ?・回転ヘラケズリ 内：オサエ・回転ナデ－多方向ナデ	やや粗	並	黄灰　2.5Y6／1	口縁部 3／4欠損	韓式系土器の影響か?
1369	131-03	4	G-I20	土師器	杯	SH345 カマド	10.2	–	–	外：ナデ－ヨコナデ 内：ナデ－ヨコナデ	やや粗	良	にぶい橙　7.5YR6／4	1／6	
1370	165-01	4	G-I20	土師器	台付壺	SH345 カマド	17.1	–		外：ハケ－ヨコナデ 内：オサエ・ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	にぶい黄橙　10YR7／4	1／4	
1371	162-06	4	G-I20	土師器	小形壺	SH345 貯蔵穴	8.2	6.4	–	外：オサエ・ナデ－ヨコナデ－工具ナデ 内：工具ナデ　ナデ　ヨコナデ	やや粗	並	灰黄褐　10YR4／2	3／4	
1372	169-05	4	G-I20	土師器	台付壺	SH345 貯蔵穴	12.2	–	–	外：ハケ－ヨコナデ－ケズリ 内：工具ナデ－ヨコナデ	やや密	良	にぶい橙　7.5YR7／4	1／4	
1373	144-01	4	G-I20	土師器	台付壺	SH345 貯蔵穴	13.6	–	–	外：ハケ－ヨコナデ 内：オサエ・ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	浅黄橙　10YR8／3	1／3	黒斑あり
1374	152-02	4	G-H22	土師器	把手?	SH346	–	–	残存長 4.5	オサエ・ナデ	やや密	並	にぶい黄橙　10YR7／2	完形	
1375	118-02	4	G-G22	土師器	高杯	SH346	–	–	底部径 8.0	外：調整不明－ヨコ方向ナデ 内：シボリ－ヨコ方向ナデ	やや密	良	浅黄橙　7.5YR8／4	脚部 完形	磨滅著しい
1376	119-05	4	G-H22	土師器	台付壺	SH346	11.4	–	–	外：ハケ－ヨコナデ 内：調整不明－ヨコナデ	粗	並	橙　7.5YR7／6	1／3	磨滅著しい
1377	118-01	4	G-H22	土師器	台付壺	SH346	11.0	–	–	外：ハケ－ヨコナデ 内：ナデ－ヨコナデ	やや粗	良	にぶい橙　7.5YR6／4	1／4	
1378	119-01	4	G-G22	土師器	台付壺	SH346	14.6	–	–	外：ハケ－ヨコナデ 内：オサエ・ナデ－ヨコナデ	粗	良	浅黄橙　10YR8／3	1／4	
1379	119-03	4	G-H22	土師器	壺	SH346	16.6	–	–	摩滅が著しいため調整不明	やや粗	良	にぶい黄橙　10YR7／2	1／6	
1380	150-01	4	G-G22	土師器	壺	SH346	17.2	–	–	外：ハケ－ヨコナデ 内：ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	浅黄橙　7.5YR8／4	1／4	口縁内面に黒斑あり
1381	178-04	4	G-G22	土師器	高杯	SH346 カマド	14.2	–	–	外：ナデ－ヨコナデ 内：ナデ－ヨコナデ	粗	良	橙　5YR6／6	1／8	
1382	140-04	4	G-H22	土師器	台付椀	SH346 主柱穴	–	–	底部径 8.8	外：ナデ－ヨコ方向ナデ 内：オサエ・ナデ－ヨコ方向ナデ	やや密	並	橙　5YR7／6	脚部 1／4欠損	
1383	161-02	4	G-G22	土師器	台付壺	SH346 貯蔵穴	15.4	–	–	外：ハケ－ヨコナデ－ヘラ記号 内：オサエ・ナデ－工具ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	にぶい橙　7.5YR7／4	1／3	
1384	121-04	4	G-H22	須恵器	杯身	SK351	12.0	–	–	外：回転ナデ－回転ヘラケズリ 内：回転ナデ	やや密	不良	にぶい黄橙　10YR6／3	1／8	
1385	159-01	4	G-I22	須恵器	無蓋高杯	SK351	16.1	11.7	底部径 10.5	外：回転ナデ－回転ヘラケズリ 内：回転ナデ－一方向ナデ	やや密	良	灰　N6／	1／4	
1386	159-04	4	G-I22	土師器	土錘	SK351	–	11.0	孔径　1.5 最大部径　6.2 重さ　461.3	オサエ・ナデ、穿孔は下から上	やや粗	良	にぶい橙　5YR7／4	完形	
1387	G024-04	3	G-F6	土師器	台付椀?	SD269	–	–	底部径 7.4	外：ナデ 内：ナデ	やや粗	並	にぶい橙　7.5YR7／3	1／10欠損	
1388	G110-05	3	G-G9	土製品	丸玉	Pit1	–	3.1	直径　3.2 孔径　1.1	ナデ	やや密	並	橙　7.5YR6／6	1／2	
1389	G107-03	3	G-K7	土師器	杯	Pit12	11.8	4.4	–	外：調整不明－ケズリ－ヨコナデ 内：調整不明－ヨコナデ	粗	並	浅黄橙　10YR8／3	1／4欠損	磨滅著しい
1390	161-01	4	G-K24	須恵器	杯身	Pit1	12.6	4.6	–	外：回転ナデ－回転ヘラケズリ 内：回転ナデ	やや粗	良	灰　N6／	2／5	輝詰めは蓋を重ね正位で行う
1391	139-04	4	G-K24	土師器	台付壺	Pit1	15.8	–	–	外：ハケ－ヨコナデ 内：ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	橙　5YR7／6	1／8	
1392	G115-03	3	G	土製品	土馬	包含層	–		残存長 4.5	オサエ・ナデ	やや粗	並	浅黄橙　7.5YR8／4	片脚 完形	

第25表　出土遺物観察表G区（9）

報告番号	登録番号	調査次数	地区名	種類	器種	出土遺構	口径 (cm)	器高 (cm)	その他 (cm・g)	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考
1393	G108-02	3	G-N6	土製品	獣脚	包含層	－		残存長 4.7	オサエ・ナデ	粗	並	浅黄橙 10YR8／4	片脚完形	
1394	L33-03	4	G	須恵器	杯身	包含層	12.4	4.7	－	外：回転ナデ－同転ヘラケズリ 内：回転ナデ－一方向ナデ	やや密	並	灰 5Y6／1	1／4	全体的に歪む
1395	G054-02	3	G-L3	土師器	杯	SH209	11.4	－	－	摩滅が著しいため調整不明	やや粗	並	にぶい橙 7.5YR7／4	1／8	
1396	G106-01	3	G-L2	土師器	杯	SH209	13.2	4.8	－	摩滅が著しいため調整不明 ナデか	粗	並	黄橙 10YR8／6	完形	
1397	G052-04	3	G-L3	土師器	壺	SH209	20.2	－	－	摩滅が著しいため調整不明	やや粗	良	明赤褐 5YR5／8	1／5	
1398	G103-04	3	G-M3	土師器	高杯	SH209	－	－	底部径 11.0	外：ケズリ－ナデ 内：工具ナデ－ケズリ	やや粗	並	浅黄橙 10YR8／3	脚部ほぼ完形	
1399	G054-04	3	G-M4	土師器	不明	SH209	8.0	4.3	底部径 11.6	摩滅が著しいため調整不明	やや粗	並	浅黄橙 10YR8／4	1／6	
1400	G044-02	3	G-M3	土師器	甕	SH209	20.7	－	－	外：調整不明－ヨコナデ 内：調整不明 ハケ－ヨコナデ	粗	並	浅黄橙 10YR8／4	1／8	磨滅が著しい
1401	G049-01	3	G-M3	土師器	甕	SH209	23.2	－	－	外：ハケ－ヨコナデ 内：ハケ ヨコナデ	粗	並	にぶい褐 7.5YR5／4	1／6	
1402	G055-04	3	G-M3	土師器	管状土製品	SH209	11.0	－		外：ハケ ヨコナデ 内：工具痕－ヨコナデ	やや粗	並	浅黄橙 7.5YR8／4	1／4	
1403	G054-03	3	G-L3	土師器	管状土製品	SH209	12.6		－	外：調整不明－ヨコナデ 内：ハケ－ヨコナデ	やや粗	並	にぶい黄橙 10YR7／4	1／8	
1404	G056-09	3	G-M4	須恵器	壺	SH209		－	－	外：回転ナデ－波状文 内：回転ナデ	密	良	黄灰 2.5Y6／1	細片	
1405	G044-01	3	G-L2	土師器	杯	SH209 カマド	21.2	3.9	－	外：ナデ－ヨコナデ 内：ヘラミガキ－ヨコナデ	やや粗	並	橙 7.5YR7／6	1／4	
1406	G053-01	3	G-L3	土師器	甑	SH209 カマド	26.0	－	－	外：ハケ－ヨコナデ－把手貼り付け－ケズリ 内：ハケ－ヨコナデ	やや密	並	浅黄橙 10YR8／4	1／3	煤みあり 丸底、円形蒸気孔か
1407	G105-03	3	G-M4	土師器	杯	SH209 貯蔵穴	10.4	4.3	－	外：ナデ－ヨコナデ 内：ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	橙 7.5YR7／6	ほぼ完形	
1408	G018-01	3	G-M4	土師器	壺	SH209 貯蔵穴	14.1	16.4	－	外：ハケ－ヨコナデ 内：ナデ－ハケ－ヨコナデ	やや粗	並	にぶい橙 7.5YR6／4	1／4	
1409	G105-04	3	G-M4	須恵器	杯身	SH209 貯蔵穴	9.8	3.3	－	外：回転ナデ－切り離し後不調整 内：回転ナデ	やや粗	並	暗オリーブ 7.5Y4／3	完形	体部外面自然釉 窯詰めは蓋をして正位で行う
1410	G109-02	3	G-M4	土師器	壺	SH209 主柱穴	20.0	－	－	外：ハケ－ヨコナデ 内：ハケ ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	にぶい橙 5YR7／4	1／8	
1411	G101-02	3	G-M4	土師器	壺	SH209 主柱穴	15.6	－		外：ハケ ヨコナデ 内：ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	橙 5YR6／6	1／6	
1412	G049-05	3	G-M3	土師器	不明	SH209 上層 土器群	8.4	－	－	外：ハケ－ヨコナデ 内：ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	橙 7.5YR7／6	1／8	
1413	G049-04	3	G-M4	土師器	壺	SH209 上層 土器群	15.6	－	－	外：ハケ－ヨコナデ 内：ナデ－ハケ－ヨコナデ	やや粗	並	褐 7.5YR4／3	1／8	
1414	G049-02	3	G-M3	土師器	壺	SH209 上層 土器群	20.8	－	－	外：ハケ－ヨコナデ 内：ハケ－ナデ ハケ ヨコナデ	粗	並	にぶい橙 5YR7／4	1／6	
1415	G049-03	3	G-M3	土師器	壺	SH209 上層 土器群	22.4	－	－	外：ハケ ヨコナデ 内：ハケ－ヨコナデ	粗	並	褐灰 7.5YR6／1	1／6	
1416	G050-03	3	G-M3	土師器	壺	SH209 上層 土器群	30.2	－	－	外：ハケ－ナデ－ヨコナデ 内：ハケ－ヨコナデ	粗	並	にぶい黄褐 10YR5／3	1／8	
1417	G107-01	3	G-M4	土師器	壺	SH209 上層 土器群	34.2	－	－	外：ハケ－ヨコナデ 内：オサエ・ナデ－ハケ－ヨコナデ	粗	並	橙 7.5YR7／6	1／6	
1418	G050-02	3	G-M3	土師器	移動式カマド	SH209 上層 土器群	33.6	－	－	外：調整不明－ケズリ 内：工具ナデ－ナデ－ケズリ	粗	並	橙 7.5YR7／6	1／4	外面の磨滅が著しい
1419	G114-01	3	G-M3	須恵器	杯	SH209 上層 土器群	18.2	4.0	高台部径 12.0	外：回転ナデ・回転ヘラケズリ・貼り付けナデ 内：回転ナデ・多方向ナデ	やや密	並	明緑灰 7.5GY7／1	底部完形	
1420	G119-05	3	G-B7	土師器	杯	SH215	7.9	3.5	－	外：ナデ－ヨコナデ 内：ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	灰 5Y4／1	完形	
1421	G018-02	3	G-B7	土師器	壺	SH215	17.1	－	－	外：ハケ－ヨコナデ 内：オサエ－ハケ－ヨコナデ	やや粗	並	淡黄 2.5Y8／3	1／4	
1422	G051-07	3	G-B7	土師器	壺	SH244	－	－	－	外：ハケ－ヨコナデ 内：ヨコナデ	やや粗	並	にぶい黄褐 10YR6／4	細片	
1423	G057-02	3	G-R4	土師器	杯	SH244	22.0	－	－	外：ナデ－ヨコナデ 内：ナデ－ヨコナデ	やや密	並	橙 5YR6／8	1／10	
1424	G038-04	3	G-F5	土製品	有孔円盤	SH230	2.7	－	孔径 0.3	オサエ・ナデ	やや密	良	浅黄橙 10YR8／4	完形	
1425	G038-01	3	G-F5	土師器	杯	SH230	19.8	2.4		外：調整不明－ヨコナデ 内：ヨコナデ	やや密	並	橙 5YR7／6	1／6	磨滅著しい
1426	G057-01	3	G-F5	土師器	杯	SH230	21.2	1.7	－	外：調整不明 ヨコナデ 内：ヘラミガキ？－ヨコナデ	やや粗	並	にぶい黄橙 10YR7／4	1／3	
1427	G115-02	3	G-F5	土師器	杯	SK325	22.0	2.4	－	外：ヘラミガキ－ケズリ－ヨコナデ 内：ナデ－ヨコナデ	やや密	並	橙 7.5YR6／8	1／4	
1428	G038-03	3	G-F5	土師器	壺	SH230	14.0	－	－	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	やや粗	並	にぶい橙 5YR6／4	1／3	
1429	G038-02	3	G-F5	土師器	壺	SH230	19.0	－	－	摩滅が著しいため調整不明	やや粗	並	淡黄 2.5Y8／3	1／6	
1430	G039-04	3	G-I8	土師器	杯	SH241	13.2	3.5	－	外：ナデ－ヨコナデ－切り離し後工具ナデ 内：工具ナデ－ヨコナデ	やや密	並	にぶい黄橙 10YR7／2	1／8	
1431	G039-03	3	G-I8	土師器	杯	SH241	13.5	4.4	－	外：ナデ－ヨコナデ 内：工具ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	浅黄橙 7.5YR8／3	1／6	
1432	G039-05	3	G-I8	土師器	杯	SH241	14.2	－	－	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	密	並	橙 5YR7／6	1／7	
1433	G039-02	3	G-I8	土師器	杯	SH241	13.3	3.2	－	外：ナデ－ヨコナデ－切り離し後工具ナデ 内：工具ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	にぶい黄橙 10YR7／2	1／6欠損	底部外面ヘラ記号あり
1434	G103-07	3	G-I8	土師器	杯	SH241	13.9	3.0	－	外：ナデ ヨコナデ 内：ナデ－ヨコナデ	やや密	並	橙 5YR7／6	1／2	
1435	G040-01	3	G-I8	土師器	杯	SH241	14.7	3.9	－	外：ナデ・ヨコナデ・切り離し後工具ナデ 内：ナデ・ヨコナデ・ヘラミガキ	やや密	並	浅黄橙 10YR8／3	1／4欠損	
1436	G040-02	3	G-I8	土師器	杯	SH241	15.6	3.8	－	外：ナデ・ヨコナデ・切離後工具ナデ・ヘラミガキ 内：ナデ・ヨコナデ・ヘラミガキ	やや密	並	橙 7.5YR7／6	2／5	
1437	G048-03	3	G-I7	土師器	壺	SH241	16.0	－	－	外：ハケ－ヨコナデ 内：ハケ－ヨコナデ	やや密	良	にぶい黄橙 10YR7／4	1／10	
1438	G048-02	3	G-I7	土師器	壺	SH241	16.8	－	－	外：ハケ－ヨコナデ 内：調整不明－ヨコナデ	やや粗	良	浅黄橙 10YR8／4	1／8	
1439	G039-01	3	G-I8	土師器	壺	SH241	23.4	－	－	外：ハケ－ヨコナデ 内：ハケ－ヨコナデ	粗	並	灰白 2.5Y8／2	1／3	
1440	G007-02	3	G-O7	土師器	杯	SH107	14.3	3.4	－	外：オサエ－ヨコナデ 内：ナデ ヨコナデ	粗	並	浅黄橙 10YR8／3	1／3欠損	
1441	G029-04	3	G-K9	土師器	ミニチュア甑	SF254	－			外：調整不明－ナデ 内：調整不明－ナデ	やや粗	並	淡黄 2.5Y8／3	細片	磨滅著しい
1442	127-03	4	G-H14	土師器	皿	SF318	18.0	1.6	－	外：ヨコナデ ケズリ 内：ハケ－工具ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	にぶい橙 7.5YR7／4	1／8	
1443	169-02	4	G-H14	土師器	皿	SF318	18.4	1.8	－	外：ナデ－ヨコナデ 内：ナデ－ヨコナデ	やや粗	良	にぶい橙 7.5YR7／4	1／4	
1444	169-01	4	G-H14	土師器	台付杯	SF318	－	－	高台部径 8.4	外：ナデ－ヨコナデ－貼り付け後ナデ・オサエ 内：ナデ－ヨコナデ	ほぼ密	良	橙 7.5YR6／6	3／8欠損	
1445	127-02	4	G-H14	土師器	壺	SF318	16.0	－	－	外：ハケ－ヨコナデ 内：調整不明－ヨコナデ	やや粗	並	にぶい橙 7.5YR7／3	1／5	内面剥離
1446	168-02	4	G-H14	土師器	壺	SF318	32.2	－	－	外：ハケ－ヨコナデ 内：ハケ－ヨコナデ	やや粗	並	橙 7.5YR7／6	1／8	
1447	G314-05	3	G-P6	土製品	ミニチュア土器	SH242	3.4	－	－	オサエ・ナデ	やや粗	並	橙 5YR6／8	底部若干欠損	
1448	G055-03	3	G-I8	土師器	台付壺	SK246	－	－	－	外：ハケ－ヨコナデ 内：ナデ ヨコナデ	やや粗	並	浅黄橙 10YR8／4	細片	

第26表　出土遺物観察表G区（10）

報告番号	登録番号	調査次数	地区名	種類	器種	出土遺構	口径 (cm)	器高 (cm)	その他 (cm・g)	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考
1449	G052-05	3	G-F6	土師器	高杯	SH242	14.8	–	–	外：ナデ－ヨコナデ 内：ナデ－ヨコナデ	やや粗	良	橙 5YR6／6	1／6	
1450	G104-01	3	G-F7	土師器	甕	SH242	–	–	頸部径 14.2	外：ハケ－ヨコナデ 内：ナデ ヨコナデ	やや粗	並	褐灰 7.5YR4／1	1／6	
1451	G108-01	3	G-F7	土師器	長胴甕	SH242	24.8	–	–	外：ハケ－ヨコナデ 内：調整不明－ヨコナデ	粗	並	にぶい黄橙 10YR7／3	1／4	体部外面下半被熱のため赤変
1452	G112-01	3	G-F7	土師器	長胴甕	SH242	22.2	–	–	外：ハケ ヨコナデ 内：工具ナデ－ヨコナデ	粗	良	にぶい黄橙 10YR6／4	1／2	
1453	G055-02	3	G-F7	土師器	移動式カマド	SH242	–	–	–	外：ハケ－貼り付け後ナデ 内：ナデ	やや粗	並	浅黄橙 10YR8／3	細片	
1454	G111-01	3	G-F7	石製品	砥石	SH242	–	–	–	磨面4面				完形	
1455	G112-02	3	G-F7	土師器	長胴甕	SH242 カマド	21.6	–	–	外：ハケ－ヨコナデ 内：ハケ－ヨコナデ	粗	良	にぶい黄橙 10YR7／4	1／2	
1456	G055-01	3	G-F7	土師器	長胴甕	SH242 カマド	24.0		–	外：ハケ－ヨコナデ 内：オサエ・ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	にぶい黄橙 10YR7／4	1／5	
1457	G054-01	3	G-F7	土師器	長胴甕	SH242 カマド	28.6	–		外：ハケ－ヨコナデ 内：調整不明－ヨコナデ	やや粗	並	浅黄橙 10YR8／4	1／4	磨滅著しい
1458	G113-01	3	G-F7	土師器	長胴甕	SH242 カマド 煙道	22.0	–	–	外：ハケ－ヨコナデ 内：オサエ ハケ ヨコナデ	粗	良	にぶい黄褐 10YR5／3	1／2	
1459	G062-02	3	G-F9	土師器	杯	SH247 カマド	18.8	4.0	–	外：ナデ ヨコナデ 内：ナデ－ヨコナデ	やや密	並	明赤褐 5YR5／8	1／4	
1460	G035-01	3	G-E8	土師器	壺	SH247 カマド	17.2	–	–	外：ハケ－ヨコナデ 内：調整不明－ヨコナデ	やや粗	並	浅黄橙 10YR8／3	1／8	磨滅
1461	G035-02	3	G-F9	土師器	甕	SH247 カマド	21.4	–	–	外：ハケ－ヨコナデ 内：オサエ・ハケ－ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	にぶい黄橙 10YR7／3	1／8	
1462	G043-02	3	G-L8	土師器	甕	Pit11	21.0	–	–	外：ハケ－ヨコナデ 内：ハケ－ヨコナデ	やや粗	並	にぶい黄橙 10YR6／4	1／8	
1463	G059-04	3	G-L11	土師器	甕	Pit1	25.0		–	外：ヨコナデ 内：ハケ－ヨコナデ	やや粗	並	灰黄褐 10YR4／2	1／6	
1464	163-02	4	G-E12	土師器	甕	Pit4	22.0	–	–	外：ナデ－ヨコナデ 内：ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	にぶい黄橙 10YR7／4	1／4	被熱のため磨滅
1465	136-02	4	G-H24	土師器	甕	Pit1	14.0	–	–	外：ハケ－ヨコナデ 内：調整不明－ヨコナデ	粗	並	浅黄橙 10YR8／3	1／8	磨滅著しい
1466	146-01	4	G	土師器	鍋	SH359	33.6	–	–	外：ハケ－ヨコナデ－ケズリ－把手貼り付けナデ 内：工具ナデ ヨコナデ	粗	並	にぶい橙 5YR7／4	1／3	体部外面に被熱痕あり 工事立会
1467	148-02	4	G	土師器	杯	SH359内 土坑	14.1	4.2	–	外：ヨコナデ－ケズリ 内：ナデ－ヨコナデ	やや密	並	にぶい橙 7.5YR7／4	1／4欠損	工事立会
1468	147-02	4	G	土師器	甕	SH359内 土坑	17.0	–	–	外：ハケ ヨコナデ 内：ハケ－ヨコナデ	やや粗	並	にぶい黄橙 10YR7／4	1／2	工事立会
1469	148-01	4	G	土師器	甕	SH359内 土坑	16.2	16.6	–	外：ハケ－ヨコナデ ケズリ 内：ハケ－ヨコナデ－ケズリ	やや粗	並	浅黄橙 7.5YR8／4	ほぼ完形	工事立会
1470	147-01	4	G	土師器	甕	SH359内 土坑	18.9	16.0	–	外：ハケ－ヨコナデ－ケズリ 内：工具ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	浅黄橙 10YR8／3	1／3	工事立会
1471	145-01	4	G	土師器	長胴甕	SH359内 土坑	25.0	40.5	–	外：ハケ－ヨコナデ 内：ハケ－ヨコナデ－工具ナデ	粗	並	にぶい橙 5YR7／3	ほぼ完形	工事立会
1472	149-05	4	G	須恵器	杯身	SF368	10.8		–	外：回転ナデ－回転ヘラケズリ 内：回転ナデ	やや密	やや不良	黄灰 2.5Y6／1	1／8	工事立会
1473	149-03	4	G	鉄製品	刀子	SF368	–	–	残存長 15.4					完形	木質あり 工事立会
1474	130-01	4	G	土師器	皿	包含層	24.0	2.8		外：オサエ・ナデ－ヨコナデ 内：ナデ－ヨコナデ	密	良	橙 7.5YR7／6	1／8	
1475	G105-01	3	G-F7	陶器	陶器椀	SB276 (Pit3)	17.0	6.0	高台部径 9.8	外：ロクロナデ－糸切り－高台貼り付けナデ 内：ロクロナデ	密	並	灰白 10YR8／1	1／4	
1476	G051-05	3	G-C8	磁器	白磁器	SB275 (Pit1)	–	–	–	ロクロナデ－施釉	密	良	灰白 10YR8／1	細片	
1477	G059-06	3	G-H7	陶器	陶器椀	SB275 (Pit16)	16.0	–	–	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	やや粗	並	灰白 10YR8／1	1／6	
1478	G059-05	3	G-H7	陶器	陶器椀	SB275 (Pit10)	16.2	–	–	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	やや粗	並	灰黄 2.5Y7／2	1／5	
1479	G103-01	3	G-H7	土師器	鍋	SB275 (Pit5)	21.4	–	–	外：オサエ・ナデ－ヨコナデ 内：ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	灰白 2.5Y8／2	1／6	
1480	G047-04	3	G-F8	土師器	小皿	SB275内 SK243	8.0	1.3	–	摩滅が著しいため調整不明	やや粗	良	浅黄橙 10YR8／4	1／6	
1481	G042-02	3	G-F8	土師器	小皿	SB275内 SK243	8.6	1.5	–	外：オサエ・ナデ 内：オサエ・ナデ	やや粗	並	黄橙 7.5YR7／8	完形	
1482	G047-01	3	G-F8	土師器	皿	SB275内 SK243	19.0	–		摩滅が著しいため調整不明	やや粗	良	にぶい黄橙 10YR7／4	1／10	
1483	G047-35	3	G-F10	土師器	甕	SK271	19.4	–	–	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	粗	並	浅黄橙 10YR8／4	1／8	
1484	G047-02	3	G-F8	土師器	鍋	SB275内 SK243	19.2	–	–	外：オサエ・ナデ－ヨコナデ 内：ナデ－ヨコナデ	やや粗	良	橙 7.5YR7／6	1／10	
1485	G041-02	3	G-F8	土師器	鍋	SB275内 SK243	30.0	–	–	外：ハケ－ヨコナデ 内：ハケ－ヨコナデ	やや粗	並	浅黄橙 10YR8／3	1／10	
1486	G041-01	3	G-F8	陶器	山皿	SB275内 SK243	9.6	2.7	底部径 4.4	外：ロクロナデ－糸切り後ナデ 内：ロクロナデ	やや粗	並	灰白 10YR8／1	1／6	
1487	G047-03	3	G-F8	陶器	陶器椀	SB275内 SK243		–	高台部径 8.0	外：ロクロナデ－糸切り 高台貼り付けナデ 内：ロクロナデ	やや密	良	灰白 10YR7／1	底部完形	
1488	G105-02	3	G-G7	陶器	陶器椀	SB282 (Pit1)	17.6	5.0	高台部径 9.0	外：ロクロナデ－糸切り・高台貼り付けナデ 内：ロクロナデ	やや粗	並	灰黄褐 10YR6／2	1／2	
1489	G044-03	3	G-H8	陶器	山皿	SB282内 SK261 SK262	9.2	2.5	底径 4.1	外：ロクロナデ－糸切り 内：ロクロナデ	やや粗	並	灰白 10YR7／1	1／3欠損	
1490	G107-02	3	G-H8	陶器	片口鉢	SB282内 SK261 SK262	20.8	7.6	高台部径 9.4	外：ロクロナデ－ケズリ－高台貼り付けナデ 内：ロクロナデ	粗	良	にぶい黄橙 10YR7／3	1／3	
1491	G104-07	3	G-G8	鉄製品	不明	SB282内 SK261	–	–	残存長 7.5						小刀か
1492	G110-02	3	G-L6	土師器	鍋	SB278 (Pit5)	29.0	–	–	外：オサエ・ナデ ヨコナデ 内：ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	にぶい黄橙 10YR7／4	1／6	
1493	G051-04	3	G-K7	陶器	陶器椀	SB278 (Pit1)	18.0	–	–	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	密	良	灰白 10YR7／1	1／6	
1494	G060-01	3	G-K9	土師器	鍋	SB278内 SK253	19.0	–	–	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	粗	並	にぶい橙 7.5YR7／3	1／12	外面に煤が付着
1495	G032-01	3	G-K9	土師器	鍋	SB278内 SK253	29.0		–	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	粗	並	にぶい褐 7.5YR6／3	1／8	
1496	G032-06	3	G-K9	陶器	加工円盤	SB278内 SK253	2.1	–	厚さ 1.5	陶器椀を加工	やや密	良	灰白 2.5YR8／2	完形	
1497	G032-04	3	G-K9	陶器	加工円盤	SB278内 SK253	2.5	–	厚さ 1.6	陶器椀を加工	やや密	良	灰白 2.5YR8／2	完形	
1498	G032-05	3	G-K9	陶器	山皿	SB278内 SK253	7.6	2.6	3.7	外：ロクロナデ－糸切り 内：ロクロナデ	やや密	良	灰白 10YR8／1	完形	
1499	G032-02	3	G-K9	陶器	陶器椀	SB278内 SK253	17.6	–	–	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	密	良	灰白 2.5YR8／1	1／5	
1500	G032-03	3	G-K9	陶器	陶器椀	SB278内 SK253	17.4	–	–	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	密	良	灰白 2.5YR8／1	3／8	
1501	G022-07	3	G-K9	陶器	陶器椀	SB278内 SK253	–	–	高台部径 7.4	外：ロクロナデ－糸切り 高台貼り付けナデ 内：ロクロナデ	やや密	良	灰白 10YR8／1	底部完形	
1502	G102-02	3	G-K4	土師器	丸玉	SD202	–	3.8	直径 2.8 孔径 5.0 重さ 16.3	ナデ	やや密	良	明黄褐 10YR7／6	完形	混入か
1503	G007-01	3	G-K4	弥生土器	甕	SD202	–	–	底部径 7.6	外：オサエ・ナデ 内：ハケ	粗	並	黄橙 7.5YR8／8	底部完形	混入か
1504	G027-03	3	G-I7	土師器	小皿	SD232	9.4	–	–	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	やや密	並	にぶい橙 7.5YR7／3	1／6	
1505	G057-04	3	G-I6	陶器	陶器椀	SK239	17.7	5.5	高台部径 9.4	外：ロクロナデ－糸切り－高台貼り付けナデ 内：ロクロナデ	やや粗	良	灰白 10YR7／1	1／3	籾殻痕あり

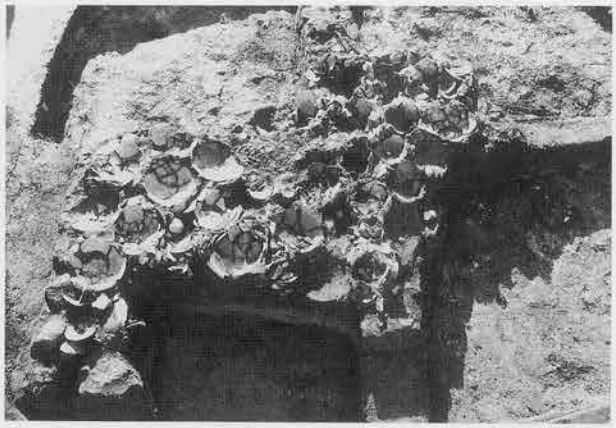
第27表　出土遺物観察表G区（11）

報告番号	登録番号	調査次数	地区名	種類	器種	出土遺構	口径 (cm)	器高 (cm)	その他 (cm・g)	調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考
1506	G115-04	3	G-I6	鉄製品	釘?	SK239	－		残存長 3.2						
1507	132-05	4	G-M13	陶器	陶器椀	SD301		－	高台部径 8.8	外：ロクロナデ－糸切り－高台貼り付けナデ 内：ロクロナデ	密	良	灰白 10YR7／1	底部 1／4	
1508	131-06	4	G-J12	陶器	陶器椀	SD302	－	－	高台部径 9.6	外：ロクロナデ－糸切り－高台貼り付けナデ 内：ロクロナデ	やや密	良	にぶい黄橙 10YR7／2	底部 1／4	
1509	164-04	4	G-J12	陶器	陶器椀	SD303	－	－	高台部径 8.4	外：ロクロナデ－糸切り－高台貼り付けナデ 内：ロクロナデ－一方向ナデ	やや密	並	灰白 10YR8／1	底部 1／2	
1510	G040-02	3	G-N6	瓦器	椀	SE205	15.0	－	－	外：オサエ・ナデ－ヨコナデ－ヘラミガキ 内：ナデ ヨコナデ－ヘラミガキ	密	良	灰白 N7／	1／8	暗文あり
1511	G014-03	3	G-O7	土師器	小皿	SE206	9.0	－	－	外：オサエ－ヨコナデ 内：ヨコナデ	やや粗	並	淡黄 2.5Y8／3	1／4	
1512	G013-02	3	G-O6	陶器	山皿	SE206	8.8	1.4	底部径 5.7	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	やや密	並	浅黄橙 10YR8／4	3／8	
1513	G013-01	3	G-O6	陶器	山皿	SE206	10.0	2.7	底部径 4.1	外：ロクロナデ－糸切り 内：ロクロナデ	やや密	並	灰白 10YR8／1	1／4	
1514	G014-01	3	G-O7	陶器	陶器椀	SE206	17.2	5.5	高台部径 9.8	外：ロクロナデ－ロクロケズリ－高台貼り付けナデ 内：ロクロナデ	やや密	良	灰白 10YR7／1	1／3	剥離痕あり
1515	G164-05	3	G-M7	陶器	陶器椀	SE206	－		高台部径 9.8	外：ロクロナデ－糸切り－高台貼り付けナデ 内：ロクロナデ	やや粗	並	灰白 2.5YR8／1	1／3	
1516	G057-03	3	G-M7	土師器	椀	SK205	14.4	3.7	底部径 4.7	外：ヨコナデ－糸切り 内：ヨコナデ	やや密	並	にぶい橙 7.5YR5／4	1／5	
1517	G048-05	3	G-M7	土師器	椀	SK205	18.2	－	－	外：ナデ?－ヨコナデ 内：ナデ?－ヨコナデ	やや密	良	橙 7.5YR6／6	1／6	
1518	G194-03	3	G-M7	陶器	陶器椀	SK205	17.8	－	－	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	密	良	灰白 2.5YR8／1	1／8	
1519	G013-03	3	G-O7	土師器	小皿	SK208	9.1	1.6	－	外：オサエ・ナデ－ヨコナデ 内：ナデ ヨコナデ	やや粗	並	浅黄橙 10YR8／3	1／4	
1520	G013-04	3	G-O7	土師器	小皿	SK208	9.1	1.8	－	外：ナデ－ヨコナデ 内：ナデ ヨコナデ	やや粗	並	橙 5YR6／6	1／2	
1521	G021-04	3	G-O5	陶器	陶器椀	SK231	15.2	－	－	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	やや密	良	灰白 2.5Y7／1	1／5	
1522	G037-07	3	G-I5	弥生土器	壺?	SK235	－	－		ナデ	粗	良	明赤褐 5YR5／6	細片	
1523	G048-01	3	G-I5	陶器	陶器椀	SK235	－	－	高台部径 6.8	外：ロクロナデ－糸きり－高台貼り付けナデ 内：ロクロナデ	やや密	良	灰黄 2.5Y7／2	底部 完形	
1524	G164-04	3	G-I5	陶器	陶器椀	SK235	－		高台部径 8.0	外：ロクロナデ－糸きり－高台貼り付けナデ 内：ロクロナデ	やや粗	良	灰白 2.5Y8／1	底部 完形	
1525	G104-02	3	G-J8	瓦器	小皿	SK238	10.0	1.9	－	外：ヨコナデ－糸切り 内：ヨコナデ	やや密	並	浅黄橙 7.5YR8／3	1／6	
1526	G110-04	3	G-J8	瓦器	小皿	SK238	9.2	－	－	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	やや密	並	灰白 N7／	1／4	
1527	G044-05	3	G-J8	土師器	皿	SK238	15.2	1.6	－	外：ナデ? 内：ナデ?	やや粗	並	にぶい橙 5YR7／4	1／8	
1528	G044-04	3	G-J8	陶器	山皿	SK238	10.0	1.7	底部径 5.0	外：ロクロナデ－糸きり 内：ロクロナデ	やや密	並	淡赤橙 2.5YR7／3	1／4	
1529	G109-04	3	G-J8	土師器	鍋	SK238	25.0	－	－	外：ヨコナデ 内：ヨコナデ	やや粗	並	明褐灰 5YR7／2	1／6	
1530	G029-05	3	G-O8	陶器	陶器椀	SK257	－	－	高台径 7.0	外：ロクロナデ 糸きり－高台貼り付けナデ 内：ロクロナデ	密	良	灰白 2.5YR8／1	1／2	降灰の状況から、別個体を重ねて正位で埋葬か
1531	G104-06	3	G-Q8	陶器	加工円盤	SK257	4.4	－	厚さ 0.7	陶器山皿底部の側面を打ち欠く	やや粗	良	灰白 2.5YR8／1	完形	
1532	G029-06	3	G-K7	土師器	皿	SK258	21.0	2.5	－	外：ヨコナデ－ハケ－ヘラミガキ－ケズリ 内：ナデ－ヨコナデ	やや密	並	橙 5YR6／6	1／10	
1533	G029-01	3	G-K7	土師器	鍋	SK258	21.4	－	－	外：調整不明 内：オサエ－調整不明	やや粗	並	灰白 10YR8／2	1／6	磨滅著しい
1534	G024-05	3	G-I9	陶器	陶器椀	SK266	16.0	－	－	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	やや密	並	灰白 10YR7／2	1／8	
1535	162-08	4	G-L14	土師器	小皿	SK302	9.0	1.8	－	外：ナデ? 内：ナデ?	やや粗	並	灰白 10YR8／1	1／2	磨滅著しい
1536	G051-06	3	G-O7	陶器	陶器椀	Pit10	15.2	－	－	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	密	並	灰白 10YR7／1	1／4	
1537	G051-01	3	G-O7	陶器	陶器椀	Pit10	17.8	5.2	底部径 9.8	外：ロクロナデ－糸きり－高台貼り付けナデ 内：ロクロナデ	やや粗	良	にぶい黄橙 10YR7／2	1／3欠損	
1538	G043-01	3	G-H5	土師器	鍋	Pit1	24.4	－	－	外：オサエ－ヨコナデ 内：ナデ ヨコナデ	やや粗	並	にぶい橙 7.5YR7／3	1／8	
1539	G314-02	3	G-I10	陶器	山皿	Pit2	9.0	2.5	底部径 4.8	外：ロクロナデ 糸きり 内：ロクロナデ	やや密	並	灰黄 2.5Y7／2	1／3	
1540	G051-02	3	G-N5	陶器	陶器椀	Pit2	－	－	高台部径 9.6	外：ロクロナデ－糸きり－高台貼り付けナデ 内：ロクロナデ	やや密	良	灰白 5Y7／1	底部 1／3	
1541	140-03	4	G-I12	陶器	陶器椀	Pit9		－	高台部径 9.1	外：ロクロナデ－糸きり－高台貼り付けナデ 内：ロクロナデ	やや密	良	灰白 2.5Y8／1	底部 1／8	剥離痕あり
1542	141-01	4	G-K18	土師器	鍋	Pit2	24.0	－	－	外：オサエ・ナデ－ヨコナデ 内：オサエ・ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	淡黄 2.5Y8／3	1／8	体部外面に煤が付着
1543	137-06	4	G-K21	陶器	灰釉陶器	Pit4	－	－	高台部径 4.0	外：ロクロナデ－糸きり－高台貼り付けナデ－施釉 内：ロクロナデ	やや密	良	灰黄 2.5Y7／2	底部 1／3	
1544	141-02	4	G-K22	土師器	鍋	Pit4	－	－	－	外：ナデ－ヨコナデ 内：ナデ－ヨコナデ	やや粗	並	灰白 10YR8／2	細片	
1545	140-02	4	G-L14	陶器	陶器椀	Pit1	18.0	－	－	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	やや密	良	灰白 2.5Y8／1	1／6	
1546	140-01	4	G-L14	陶器	陶器椀	Pit2	18.0	－	－	外：ロクロナデ 内：ロクロナデ	やや密	良	明褐灰 7.5YR7／2	1／6	
1547	G045-06	3	G-F8	土師器	小皿	包含層	10.4	1.0	－	外：オサエ－ナデ 内：ナデ	やや粗	並	橙 5YR6／6	1／8	
1548	G045-05	3	G-N9	施釉陶器	小皿	包含層	－	－	底部径 3.0	外：ロクロナデ 糸きり－施釉 内：ロクロナデ	やや粗	並	灰白 N8／	底部 1／2	
1549	G107-04	3	G-H8	陶器	山皿	包含層	9.0	2.3	底部径 3.8	外：ロクロナデ－糸きり－施釉 内：ロクロナデ－ナデ	やや密	良	灰白 2.5Y7／1	ほぼ完形	
1550	G042-04	3	G-I5	陶器	山皿	包含層	9.7	3.1	高台部径 4.9	外：ロクロナデ－糸きり－高台貼り付けナデ 内：ロクロナデ	やや粗	並	灰白 2.5Y8／1	1／4欠損	
1551	G045-01	3	G-G8	陶器	陶器椀	包含層	－	－	高台部径 7.8	外：ロクロナデ－糸きり－高台貼り付けナデ 内：ロクロナデ	やや密	良	灰白 2.5Y8／1	底部 完形	体部外側の一部が赤変している
1552	G024-04	3	G-G8	陶器	陶器椀	包含層	14.4	5.3	高台部径 8.6	外：ロクロナデ－糸きり－高台貼り付けナデ 内：ロクロナデ	やや粗	良	灰白 2.5Y7／1	1／3	降灰の状況から、別個体を重ねて正位で埋葬か
1553	127-05	4	G-G14	土師器	椀	包含層	－	－	高台部径 5.0	高台貼り付けナデ	やや密	並	橙 5YR6／6	1／4	
1554	138-02	4	G-L22	陶器	陶器椀	包含層	－	－	高台部径 8.4	外：ロクロナデ－糸きり－高台貼り付けナデ 内：ロクロナデ	やや密	良	灰黄 2.5Y7／2	底部 完形	
1555	137-01	4	G-K13	陶器	陶器椀	包含層	－	－	高台部径 7.4	外：ロクロナデ 糸きり 高台貼り付けナデ 内：ロクロナデ	やや密	良	灰白 10YR7／1	底部 完形	内面の底部は摩耗している
1556	132-04	4	G-K13	陶器	卸皿	包含層	－	－	底部径 5.6	外：ロクロナデ－糸きり 内：ロクロナデ－ヘラによる卸目－施釉	密	良	にぶい黄橙 10YR7／3	底部 1／6	

第28表　出土遺物観察表Ｇ区（12）

遺跡全景（南上空から）

ＳＨ８（北から）



ＳＨ６出土状況（東から）

ＳＢ46・ＳＨ40・ＳＤ38・50（北東から）

ＳＨ41（西から）

ＳＨ 49（北から）

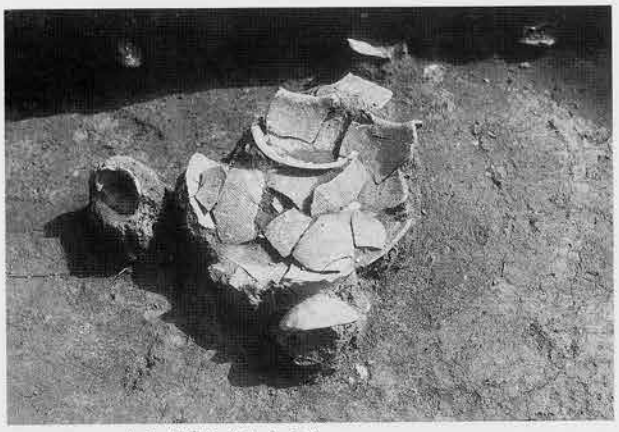
ＳＨ 52（北から）

ＳＨ 52　出土状況（東から　中央に土馬（170））

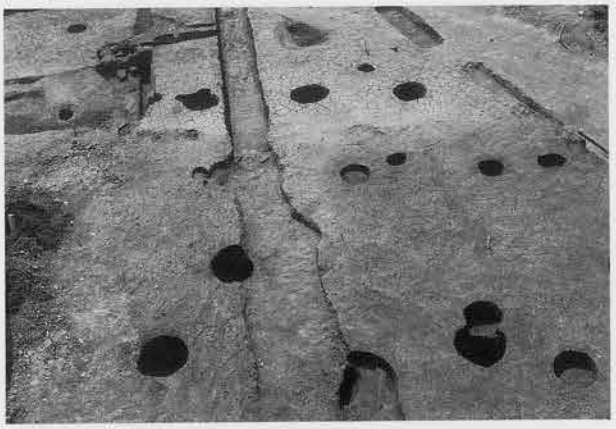
ＳＨ 52　粘土塊断面（東から）

ＳＨ 53・54（左上）（東から）

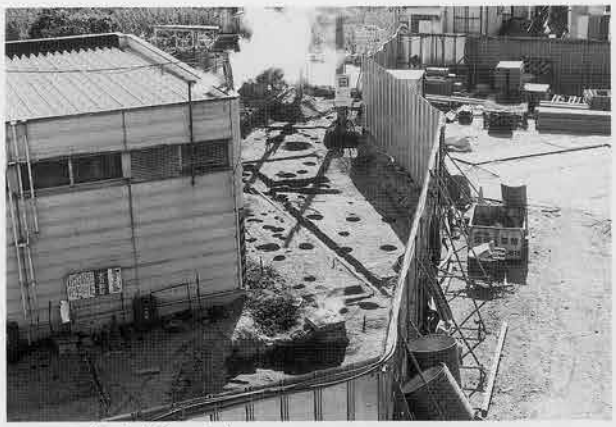
ＳＨ 53　カマド（南から）



ＳＨ 54　出土状況（北から）



ＳＢ 131（東から）



Ｉｂ区全景（北から）

ＳＨ 161（北東から）

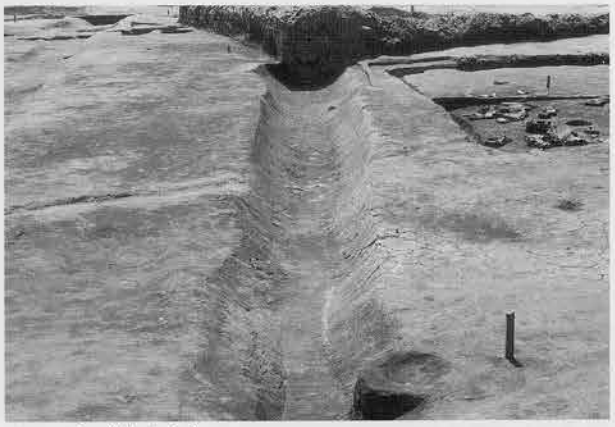
ＳＨ 152（東から）

ＳＨ 152 北東土坑　出土状況（東から）

ＳＢ 153（北から）

Ｊ区全景・ＳＫ 141（東から）

ＳＤ 165・ＳＨ 168・ＳＦ 166（北から）

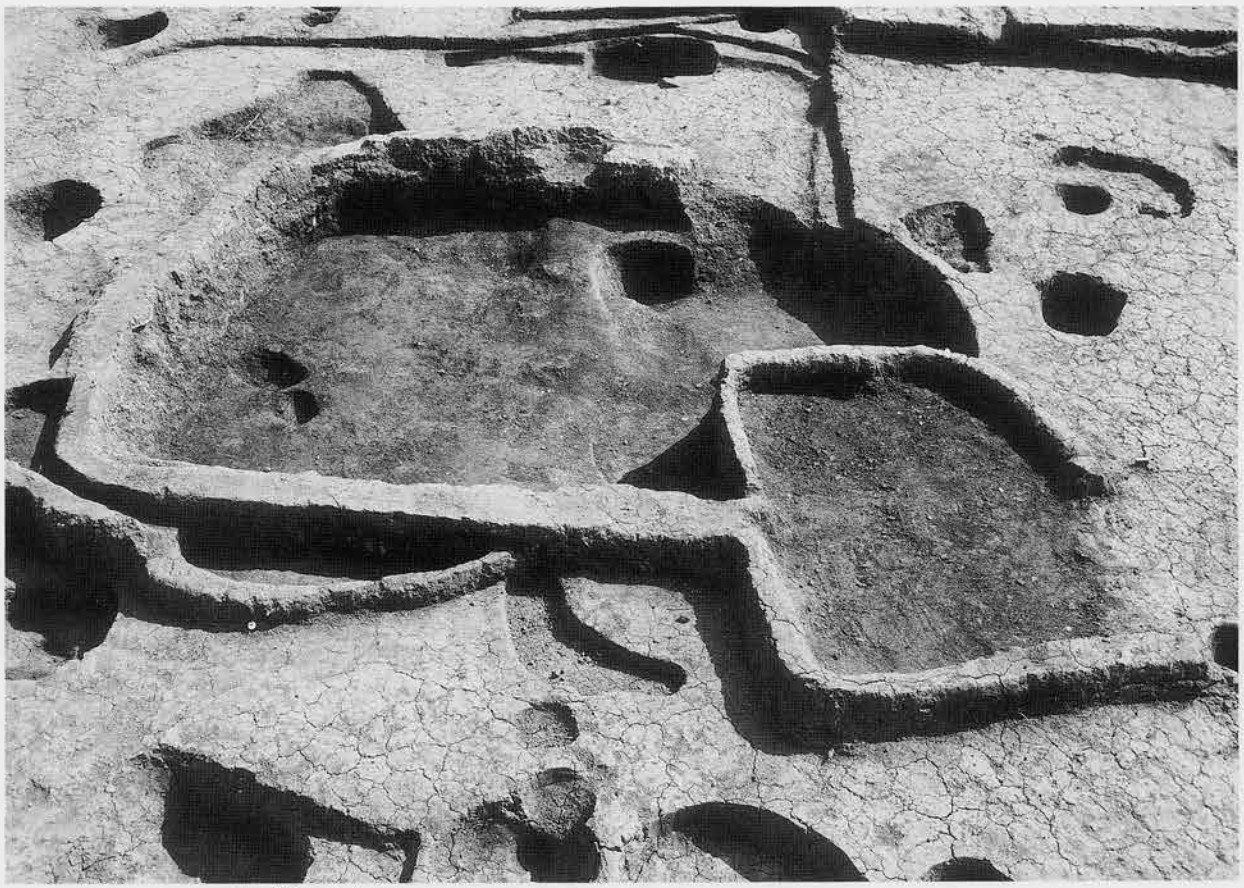


ＳＤ 10（北から）

図版4

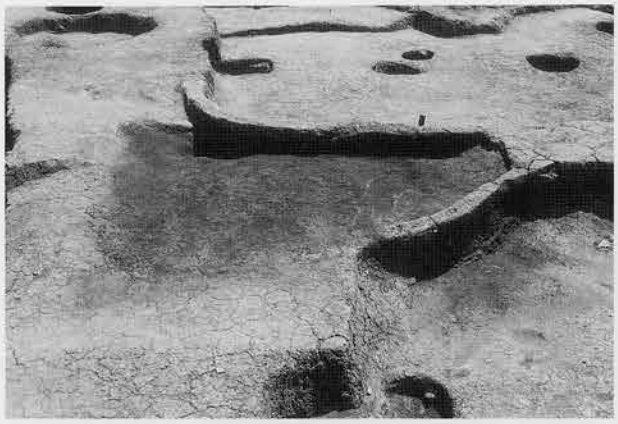
F区全景（東から）

ＳＦ64（西から）

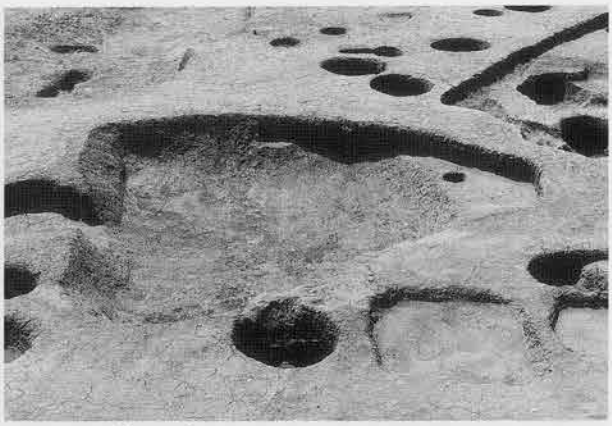


ＳＦ 100・104・120（北から）

ＳＦ 112・114・ＳＫ 119（東から）



ＳＦ 73（西から）



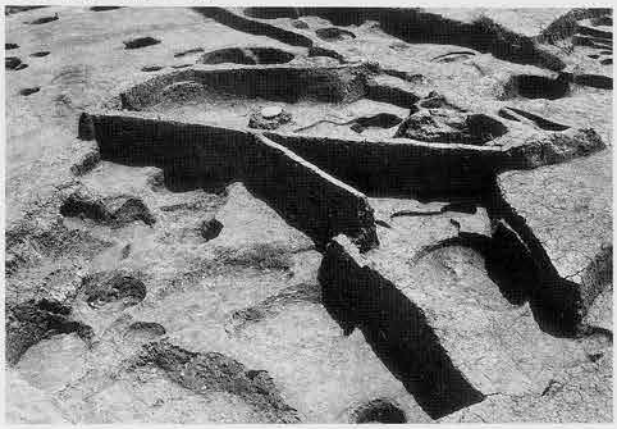
ＳＦ 92（東から）

ＳＢ 134（東から）

ＳＨ 116（東から）

ＳＢ 133（東から）

ＳＢ 132（西から）



ＳＫ 81（北西から）

ＳＢ 135（南東から）

F区東半部・SH 65・127（北から）

SH 90（北から）

SH 123（北から）

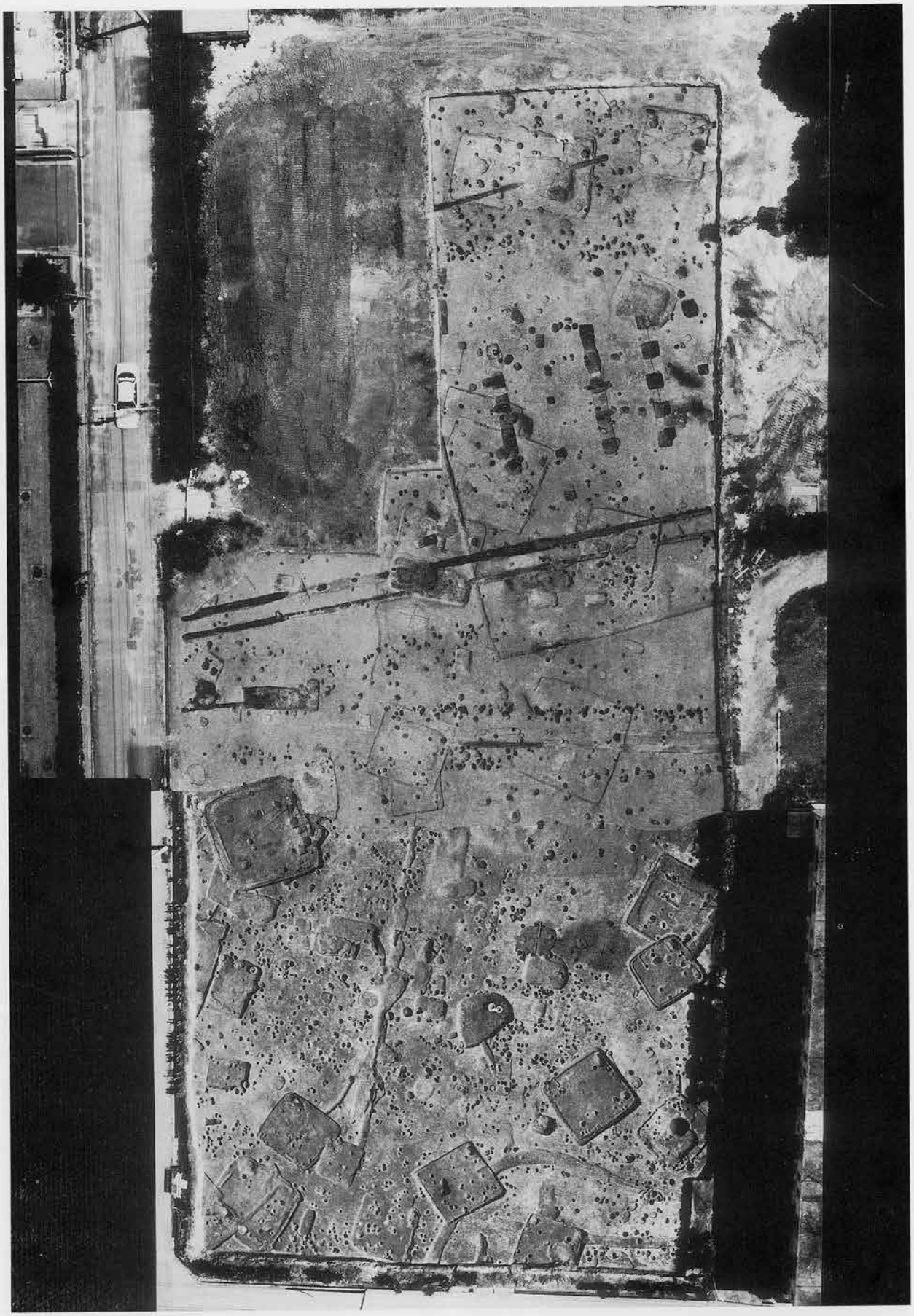
SH 91（北から）

SH 99（西から）

F区北西部・SH 101・117・SF 104（東から）

SK 77出土状況（東から）

SH 71　（北から）



G区全景（真上から）

ＳＢ 361・362（東から）

ＳＢ 363（東から）

ＳＡ 309・314（南から）

ＳＡ 314 土層（北から）

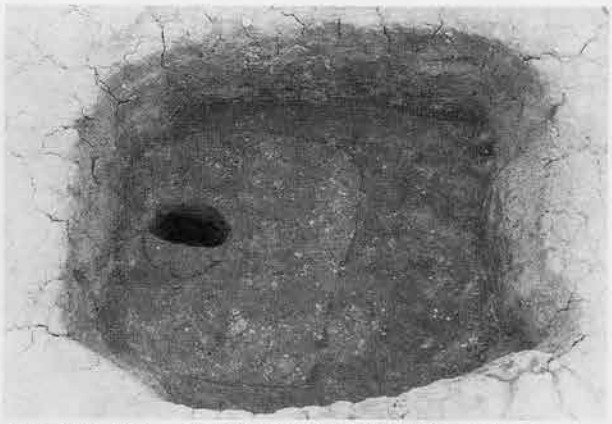
ＳＡ 309・314（北から）

ＳＡ 314 底の竪板塀の痕跡（西から）

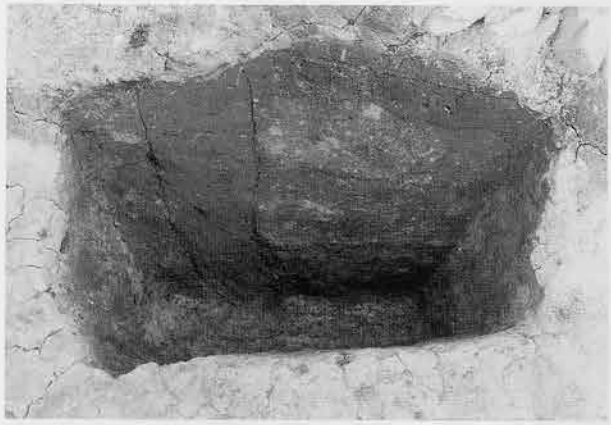
ＳＡ 305（北から）

ＳＡ 305 と出入口部分（北西から）

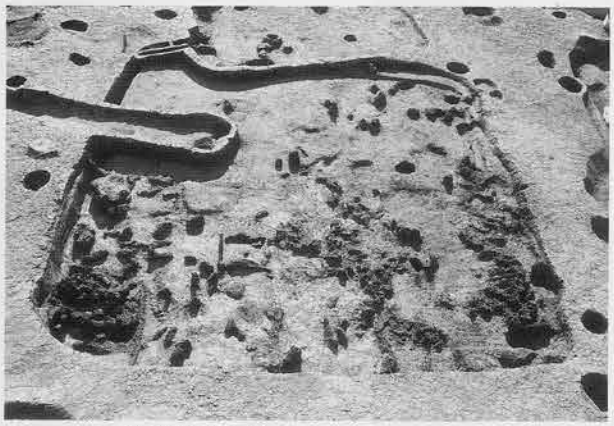
ＳＢ 364 （東から）



ＳＢ 361･362　東束柱掘形検出状況（南から）

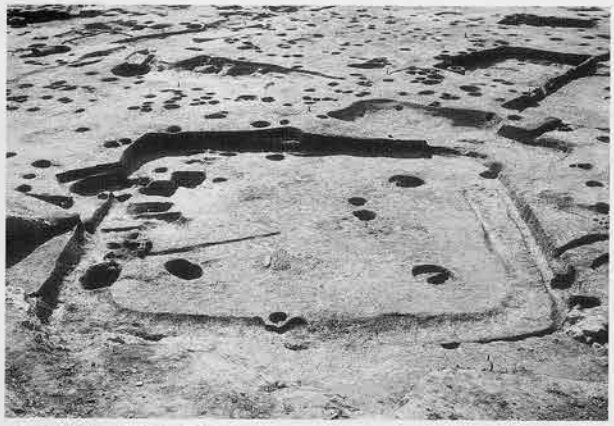


ＳＢ 361 ・ 362 西束柱土層断面（北から）



ＳＨ 228　炭化材検出状況

ＳＨ 249 東壁部柱（北から）



ＳＨ 249 （東から）

ＳＨ 306 貯蔵穴

図版12

2

10

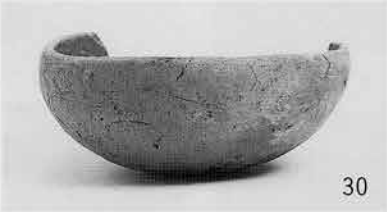
31

110

109

134

23


30

53

59

69

148

5

36

75

145

161

164

193

350

402

410

383

167

171

192

355

413

385

176

372

419

391

379